



鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (155)

南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 XXX

存
城

跡

第2分冊

かこい
存
城
跡

じょう
(いちき串木野市)
足
跡
第2分冊

二〇一〇年三月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

2010年3月

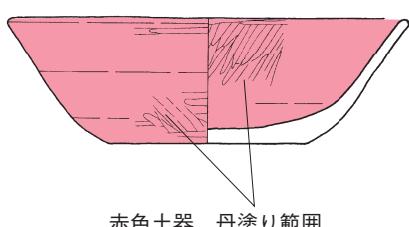
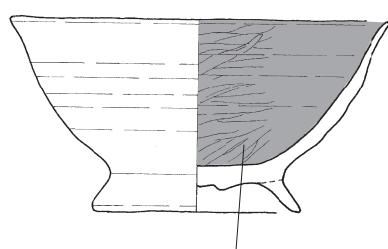
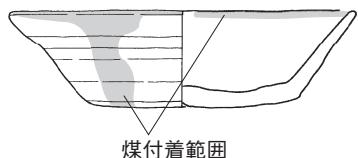
鹿児島県立埋蔵文化財センター

凡

- 1 基準方位は磁北であり、レベルは海拔絶対高である。
- 2 使用した土色は『新版標準土色帖 2004年版』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)に基づく。ただし、陶磁器の胎土の色調や釉調については、『標準土色帖』を基準としながら、一般的な色調感も加味して表現した。
- 3 遺構・遺物実測図の縮尺は、挿図中に記した。
- 4 本書で用いる炉状遺構の表現については、次のとおりである。

 焼土  炭化物

- 5 本書で用いる土器の表現については、次のとおりである。



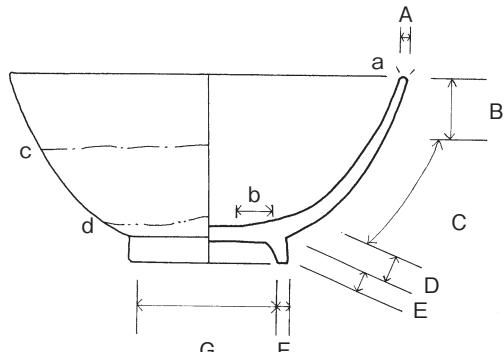
例

- 6 本書の土師器観察表における「胎土」の項目について、肉眼観察を行い、特に多く含まれる 鉱物に「○」をつけた。その他については詳細を備考に記した。

- 7 本書で用いる近世以降の陶磁器についての基本的な名称、及び表現方法は以下のとおりである。

【名称】 A 口唇部
B 口縁部
C 体部
D 腰部
E 高台脇
F 斜付
G 高台内面

【表現】 a 口唇部、斜付の釉剥ぎ位置
b 見込み蛇の目釉剥ぎ部
c 一次施釉ライン
d 二次施釉ライン



目 次

第VI章 低地部の調査

第1節 調査の概要

1 低地部の範囲と概要.....	1
2 層序.....	4

第2節 R・S・P調査区の調査

1 縄文時代～弥生時代の調査.....	4
2 古代の調査.....	26
3 中世の調査.....	131
4 近世以降の調査.....	166

第3節 Q調査区の調査

1 中世の調査.....	205
--------------	-----

第4節 G調査区の調査

1 中世の調査.....	213
2 近世以降の調査.....	217

第VII章 まとめ..... 337

付論..... 355

挿 図 目 次

第 1 図	低地部位置図	1	第 73 図	土師器27	甕	85
第 2 図	土層断面図1	2	第 74 図	土師器28	甕	86
第 3 図	土層断面図2	3	第 75 図	土師器29	甕	87
第 4 図	基本土層図	4	第 76 図	土師器30	甕	88
第 5 図	石斧デボ及び出土遺物	5	第 77 図	土師器31	甕	89
第 6 図	縄文土器1 I・II類	6	第 78 図	土師器32	甕	90
第 7 図	縄文土器2 III類	7	第 79 図	土師器33	甕	91
第 8 図	縄文土器3 IV・V類	8	第 80 図	土師器34	鉢・焼塙壺他	92
第 9 図	縄文土器4 VI～IX類	9	第 81 図	土師器35	その他	93
第 10 図	縄文土器5 X～XIII類	10	第 82 図	土師器36	紡錘車	94
第 11 図	縄文土器6 X III～XIV類	11	第 83 図		土鉢	95
第 12 図	縄文土器7 X IV類	12	第 84 図	須恵器1	蓋	99
第 13 図	縄文土器8 X IV類	13	第 85 図	須恵器2	坏	100
第 14 図	縄文土器9 X V類及び出土状況	14	第 86 図	須恵器3	椀	101
第 15 図	縄文土器10 X V類	15	第 87 図	須恵器4	壺	102
第 16 図	縄文土器11 X VI・X VII類	16	第 88 図	須恵器5	壺	103
第 17 図	縄文土器12 X VIII類	17	第 89 図	須恵器6	壺	104
第 18 図	縄文土器13 X VIII類	18	第 90 図	須恵器7	甕	105
第 19 図	縄文土器14 X IX類	19	第 91 図	須恵器8	甕	106
第 20 図	弥生～古墳時代の土器1	20	第 92 図	須恵器9	甕	107
第 21 図	弥生～古墳時代の土器2	21	第 93 図	須恵器10	甕	108
第 22 図	土器集中遺構1号及び出土遺物	26	第 94 図	須恵器11	甕	109
第 23 図	P・R・S調査区Ⅲ層上面コンタ図及び遺構配置図(古代～近世以降)	27	第 95 図	須恵器12	甕	110
第 24 図	土器集中遺構2	29	第 96 図	須恵器13	甕	111
第 25 図	土器集中遺構3	30	第 97 図	須恵器14	甕	112
第 26 図	土器集中遺構2・3 出土遺物	31	第 98 図	須恵器15	甕	113
第 27 図	土器集中遺構4	32	第 99 図	須恵器16	甕	114
第 28 図	土器集中遺構4 出土遺物1	33	第 100 図	須恵器17	甕	115
第 29 図	土器集中遺構4 出土遺物2	34	第 101 図	須恵器18	横瓶	116
第 30 図	土器集中遺構5	35	第 102 図	須恵器19	硯・鉄鉢	117
第 31 図	土器集中遺構5 出土遺物1	36	第 103 図	木製品1		121
第 32 図	土器集中遺構5 出土遺物2	37	第 104 図	木製品2		122
第 33 図	土器集中遺構6	38	第 105 図	木製品3		123
第 34 図	土器集中遺構6 断面図及び出土遺物1	39	第 106 図	木製品4		124
第 35 図	土器集中遺構6 出土遺物2	40	第 107 図	木製品5		125
第 36 図	土器集中遺構7	41	第 108 図	木製品6		126
第 37 図	土器集中遺構7 出土遺物	42	第 109 図	木製品7		127
第 38 図	土器集中遺構8	43	第 110 図	木製品8		128
第 39 図	土器集中遺構8 出土遺物	44	第 111 図	木製品9		129
第 40 図	自然木による護岸状況(S調査区)	47	第 112 図	木製品10		130
第 41 図	杭列分布状況	48	第 113 図	中世墓配置図		131
第 42 図	杭列1・2	49	第 114 図	中世墓1～3及び出土遺物		132
第 43 図	杭1	50	第 115 図	中世墓4～6		133
第 44 図	杭2	51	第 116 図	中世墓7～8及び出土遺物		134
第 45 図	杭3	52	第 117 図	中世墓9及び出土遺物		135
第 46 図	古代・中世出土遺物及び木製品出土分布図	54	第 118 図	中世墓10及び出土遺物		136
第 47 図	土師器1 蓋・皿	55	第 119 図	中世墓11～13及び出土遺物		137
第 48 図	土師器2 坏	56	第 120 図	溝1～3及び出土遺物		141・142
第 49 図	土師器3 坏	57	第 121 図	大中公供養塔		143
第 50 図	土師器4 坏	58	第 122 図	土師器1 皿		144
第 51 図	土師器5 坏	59	第 123 図	土師器2 坏		145
第 52 図	土師器6 坏	60	第 124 図	白磁1		146
第 53 図	土師器7 梗	62	第 125 図	白磁2		147
第 54 図	土師器8 高台付坏	63	第 126 図	青磁1		148
第 55 図	土師器9 口縁部	64	第 127 図	青磁2		149
第 56 図	土師器10 黒色土器A類 坏・梗	65	第 128 図	青磁3・青白磁		150
第 57 図	土師器11 黒色土器A類 梗	66	第 129 図	粉青沙器		151
第 58 図	土師器12 黒色土器A類 口縁部	67	第 130 図	青花		152
第 59 図	土師器13 黒色土器A類 底部	68	第 131 図	中世須恵器 権万丈		153
第 60 図	土師器14 黒色土器A類 その他	69	第 132 図	中世須恵器 カムイヤキ		154
第 61 図	土師器15 黒色土器B類	70	第 133 図	東播系須恵器・瓦質土器1		155
第 62 図	土師器16 赤色土器	71	第 134 図	瓦質土器2		156
第 63 図	土師器17 墨書き土器	73	第 135 図	瓦質土器出土状況及び瓦質土器3		157
第 64 図	土師器18 ヘラ書き土器	74	第 136 図	その他1		158
第 65 図	土師器19 ヘラ書き土器	75	第 137 図	その他2		159
第 66 図	土師器20 刻印土器	76	第 138 図	古銭1		160
第 67 図	土師器21 刻書土器	77	第 139 図	古銭2		161
第 68 図	土師器22 刻書土器	78	第 140 図	柱穴1～13		166
第 69 図	土師器23 刻書土器	79	第 141 図	溝1～3		167・168
第 70 図	土師器24 甕	82	第 142 図	石臼廃棄土坑		169
第 71 図	土師器25 甕	83	第 143 図	良福寺和尚墓検出状況		170
第 72 図	土師器26 甕	84	第 144 図	磁器1		171

第145図	磁器2	172	第216図	磁器21	色絵	262
第146図	陶器1	173	第217図	磁器22	色絵	263
第147図	陶器2	174	第218図	磁器23	水注類	264
第148図	陶器3	175	第219図	磁器24	瓶類他	265
第149図	陶器4	176	第220図	磁器25	その他	267
第150図	P・R・S調査区の石器1	178	第221図	陶器1	碗類	269
第151図	P・R・S調査区の石器2	179	第222図	陶器2	碗類	270
第152図	P・R・S調査区の石器3	180	第223図	陶器3	碗類	271
第153図	P・R・S調査区の石器4	181	第224図	陶器4	碗類	272
第154図	P・R・S調査区の石器5	182	第225図	陶器5	皿類	274
第155図	P・R・S調査区の石器6	183	第226図	陶器6	皿類	275
第156図	P・R・S調査区の石器7	184	第227図	陶器7	鉢類	276
第157図	P・R・S調査区の石器8	185	第228図	陶器8	瓶類	277
第158図	P・R・S調査区の石器9	186	第229図	陶器9	瓶類	278
第159図	P・R・S調査区の石器10	187	第230図	陶器10	土瓶	280
第160図	P・R・S調査区の石器11	188	第231図	陶器11	土瓶	281
第161図	P・R・S調査区の石器12	189	第232図	陶器12	土瓶	282
第162図	P・R・S調査区の石器13	190	第233図	陶器13	土瓶	283
第163図	P・R・S調査区の石器14	191	第234図	陶器14	土瓶	284
第164図	P・R・S調査区の石器15	192	第235図	陶器15	水注類 土瓶・急須他	285
第165図	P・R・S調査区の石器16	193	第236図	陶器16	蓋類	287
第166図	P・R・S調査区の石器17	194	第237図	陶器17	蓋・鍋類	288
第167図	P・R・S調査区の石器18	195	第238図	陶器18	鍋・釜類	289
第168図	P・R・S調査区の石器19	196	第239図	陶器19	片口	290
第169図	P・R・S調査区の石器20	197	第240図	陶器20	鉢	291
第170図	P・R・S調査区の石器21	198	第241図	陶器21	鉢	292
第171図	P・R・S調査区の石器22	199	第242図	陶器22	鉢	293
第172図	P・R・S調査区の石器23	200	第243図	陶器23	擂鉢	295
第173図	炉状遺構配置図	205	第244図	陶器24	擂鉢	296
第174図	炉状遺構1~3	206	第245図	陶器25	擂鉢	297
第175図	炉状遺構4~5	208	第246図	陶器26	擂鉢	298
第176図	炉状遺構6~7	209	第247図	陶器27	擂鉢	299
第177図	炉状遺構8~10	210	第248図	陶器28	蓋類	300
第178図	炉状遺構11~13	211	第249図	陶器29	蓋類	301
第179図	青花1	213	第250図	陶器30	甕類	303
第180図	青花2	214	第251図	陶器31	甕類	304
第181図	青花3及び瓦質土器	215	第252図	陶器32	甕類	305
第182図	石垣1~2	218	第253図	陶器33	甕類	306
第183図	石垣2~4及び石組み遺構1~2	219	第254図	陶器34	甕類	307
第184図	G調査区遺構配置図1	221~222	第255図	陶器35	甕類	308
第185図	G調査区遺構配置図2	223~224	第256図	陶器36	甕類	309
第186図	石垣5	226	第257図	陶器37	壺類	310
第187図	石垣6	227	第258図	陶器38	壺類	311
第188図	石垣6断面拡大図及び石垣7~8	228	第259図	陶器39	壺類	312
第189図	建物跡1	229~230	第260図	陶器40	壺類	313
第190図	建物跡2	232	第261図	陶器41	仏具	314
第191図	柱穴1	233	第262図	陶器42	灯明具	315
第192図	柱穴2及び出土遺物	234	第263図	陶器43	植木鉢	317
第193図	柱穴3	235	第264図	陶器44	植木鉢	318
第194図	礫集中遺構1~2	237	第265図	陶器45	植木鉢	319
第195図	不明遺構	238	第266図	陶器46	植木鉢	320
第196図	磁器1 碗類	240	第267図	陶器47	植木鉢	321
第197図	磁器2 碗類	241	第268図	陶器48	植木鉢	322
第198図	磁器3 碗類	242	第269図	陶器49	植木鉢	323
第199図	磁器4 碗類	243	第270図	瓦質土器1	火鉢	324
第200図	磁器5 碗類	244	第271図	瓦質土器2	七厘他	325
第201図	磁器6 碗類	245	第272図	土製品1		326
第202図	磁器7 皿類	246	第273図	土製品2		327
第203図	磁器8 皿類	247	第274図	土製品3		328
第204図	磁器9 皿類	248	第275図	土製品4		329
第205図	磁器10 皿類	249	第276図	その他1		330
第206図	磁器11 皿類	250	第277図	その他2		331
第207図	磁器12 皿類	251	第278図	その他3		332
第208図	磁器13 皿類	252	第279図	その他4		333
第209図	磁器14 皿類	253	第280図	鞴の羽口		334
第210図	磁器15 皿類	254	第281図	土管・錫製品・石臼		335
第211図	磁器16 皿・鉢類	256				
第212図	磁器17 鉢類	257				
第213図	磁器18 鉢類	258				
第214図	磁器19 蓋類	259				
第215図	磁器20 蓋類	260				

第VI章 低地部の調査

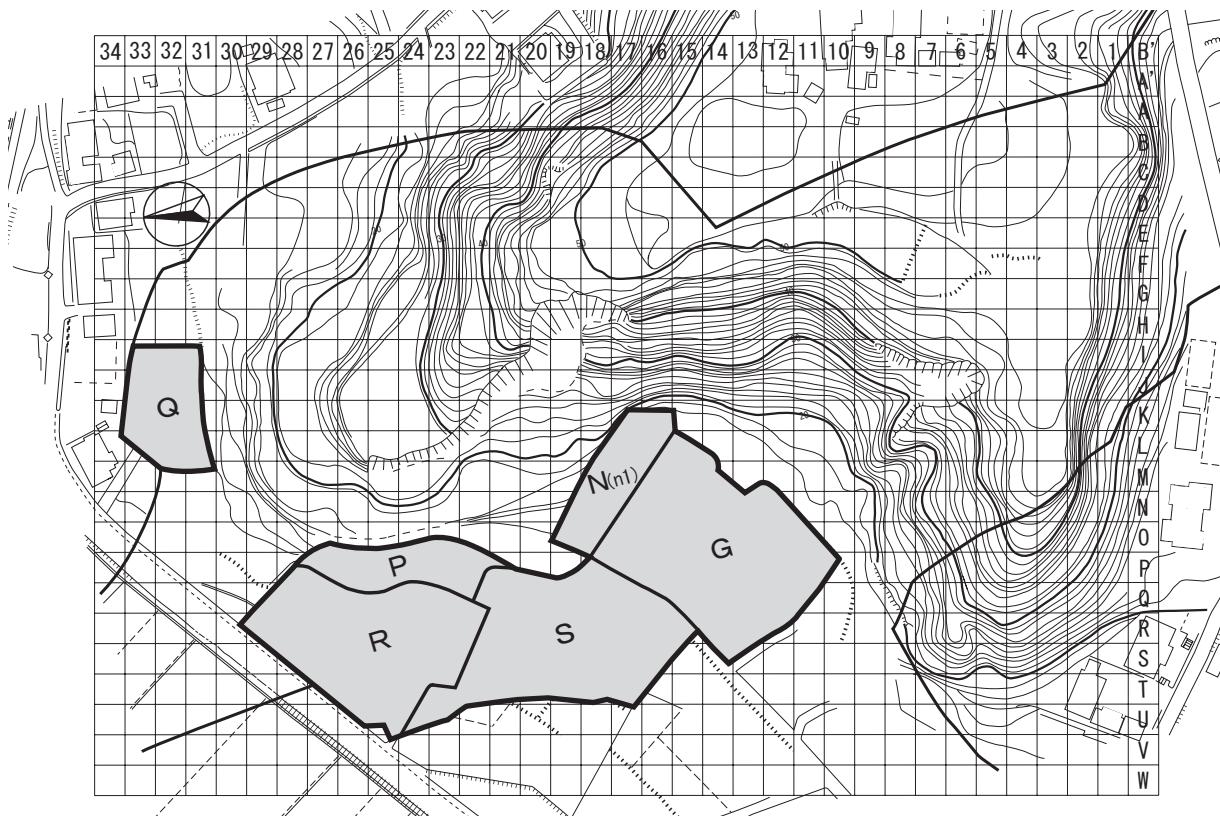
第1節 調査の概要

1 低地部の範囲と概要

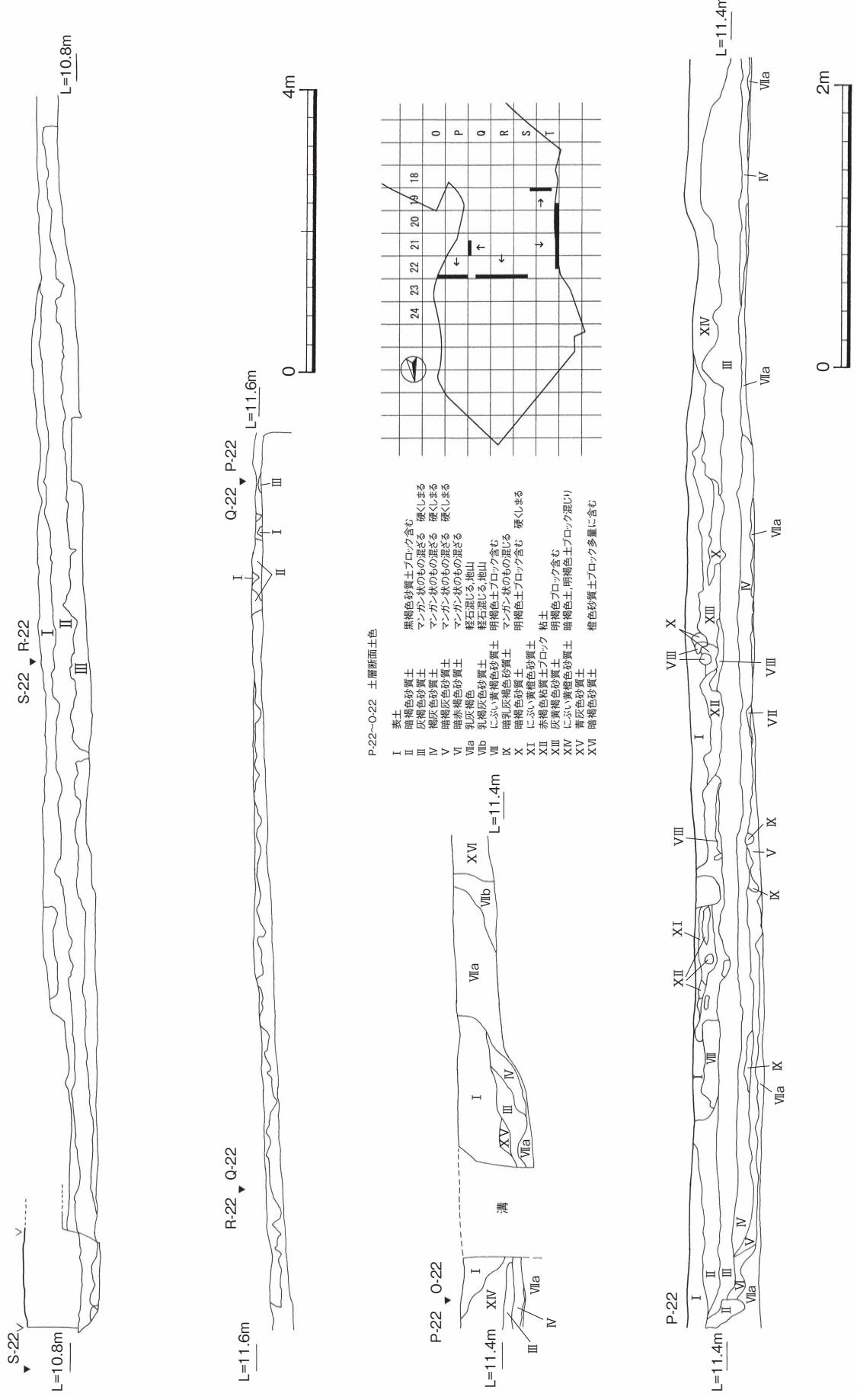
本遺跡の低地部は、調査区の北側から西側にあたり、標高約10メートル前後の低地部分である。相当する調査区はG・R・S調査区とP・Q調査区の一部である。各調査区の遺構検出状況や性格などから、R・S・P調査区、Q調査区、そしてG調査区の3つに分けて報告する。

低地部の調査の概要としては、R調査区から縄文時代晚期の石斧が埋納された土坑や古代の土器が集中して出土した土坑が検出された。また、中世の墓壙も検出された。S調査区は低地部の中でも最も標高の低い場所で、杭列が多数検出された。P調査区では、近世の墓壙・廃棄された良福寺和尚の墓石、溝等が検出されたが、近世墓は山腹部の中で取り扱った。Q調査区からは、中世のものと思われる掘立柱建物跡・製鉄炉跡・炉状遺構等が検出されたが、周辺遺構との関連から、炉状遺構以外の遺構は山腹部で取り扱った。G調査区では近世の地方郷土年寄の屋敷跡とそれに付帯する施設、石垣、池跡等が検出された。

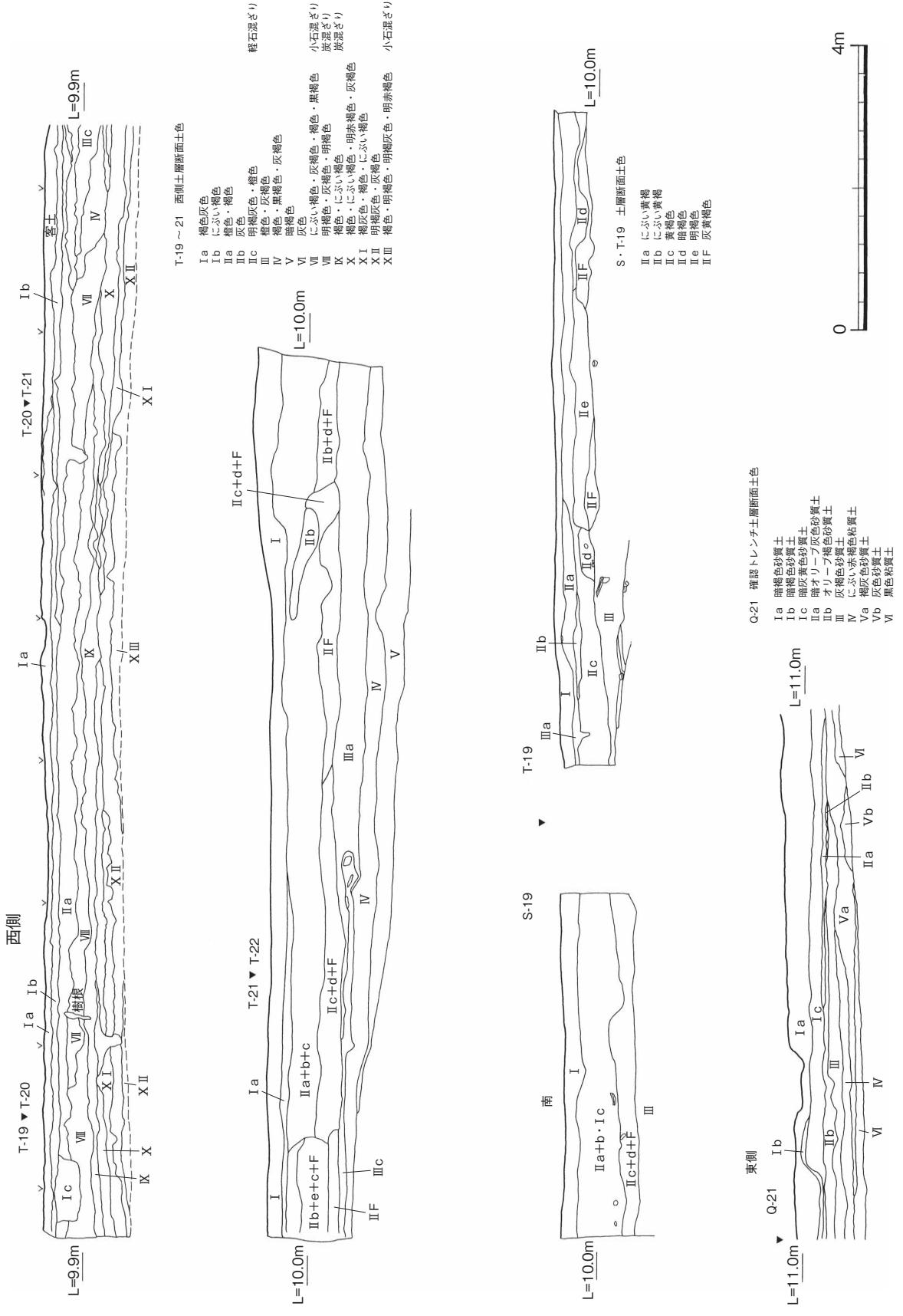
出土遺物としては、R・S調査区で古代から中世にかけての遺物が良好な状態で多量に出土した。R調査区では縄文時代早期の土器、縄文時代晚期の土器や石器等も出土している。またS調査区では、県内初の出土である古代の食膳具と思われる木製品や未製品が出土している。G調査区で薩摩焼をはじめとする近世陶磁器が大量に出土した。Q調査区では主に中世の遺物が出土した。



第1図 低地部位置図



第2図 土層断面図



第3図 土層断面図2

2 層序

低地部における各調査区の基本層序及び遺物包含層・年代等は次のとおりである。

なお、G調査区は近世から現代にかけての造成が見られ、またQ調査区でも後世の削平のため包含層はなく、基本層序は見当たらなかった。

S調査区		R調査区	
I	淡褐色土	I a	淡褐色土
II	黄褐色土	I b	灰褐色粘質土 近世包含層
III	淡褐色土暗褐色混入		
IV	黒褐色粘質土	II	灰黒褐色土 古代～中世包含層
V	褐色粘質土	III a	暗黃橙色土 縄文～古代包含層
		III b	黃橙色火山灰 アカホヤ火山灰
		IV	淡黒褐色土 縄文時代早期包含層
		V	淡茶褐色粘質土
		VI	黒茶褐色粘質土
VI	灰色砂礫層	VII	砂礫層
VII	灰色砂質土	VIII	黄色砂質土

第4図 基本土層図

第2節 R・S・P調査区

ここではR・S調査区と隣接するP調査区の一部から検出された遺構・遺物について報告する。低地部内での位置関係は第1図を参照にされたい。

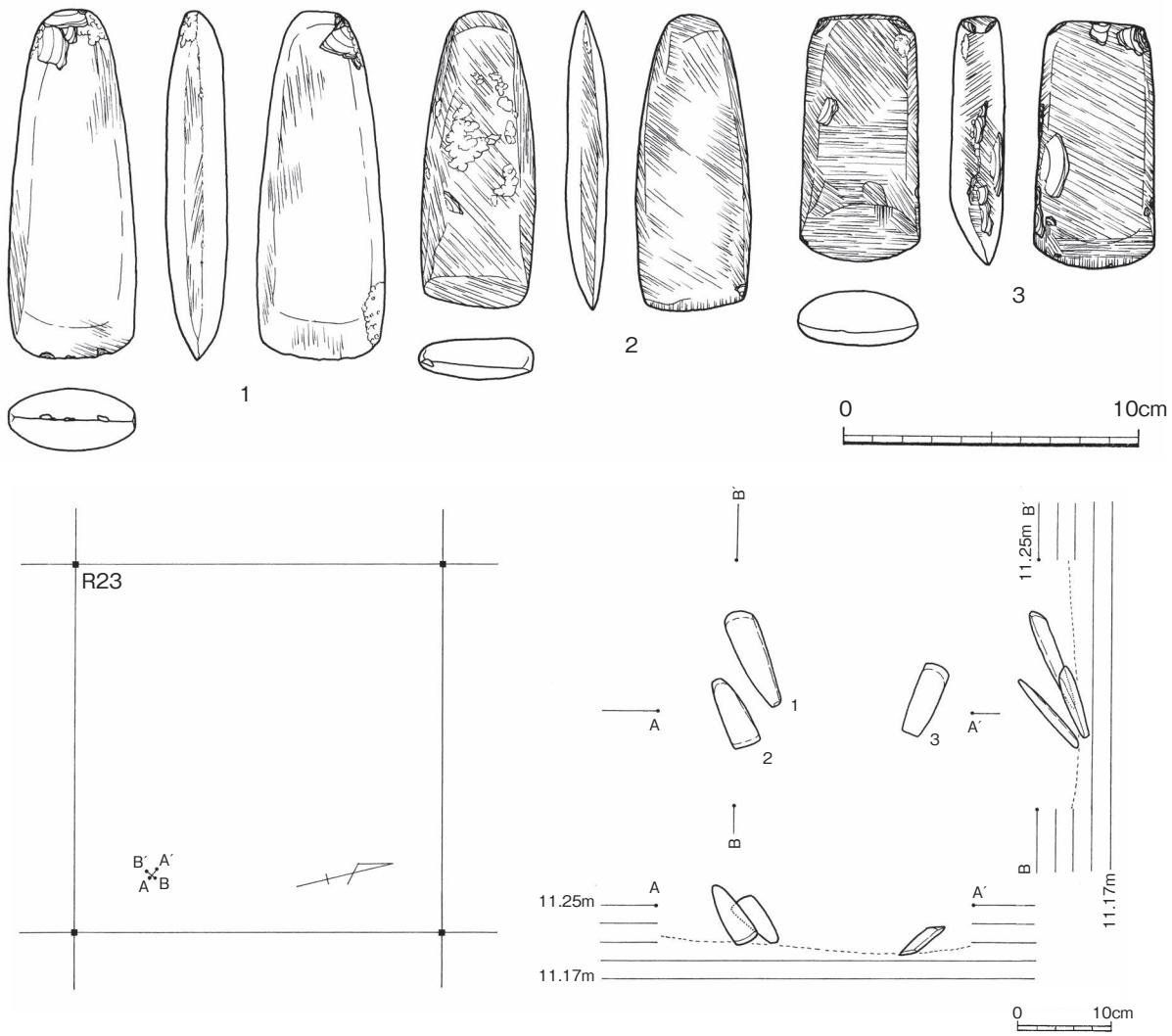
1 縄文時代の調査

(1) 遺構

低地部では、R23区Ⅱ層において石斧埋納遺構が検出された。遺構について記述する前に、まず個々の石斧について観察しよう。

1は頁岩製であり、整形剥離、敲打、研磨の手順を踏んで作られたことが、頭部の剥離痕や胴部の敲打痕、刃部や側面の研磨痕から分かる。通常の石斧と同じである。側面は面取りの研磨が施され、特に丁寧な加工が施されている。長さ11.8cm、最大幅4.3cm、重量164gであり、中型の範疇に入るものである。なお、表面の風化が激しく、胴部等の敲打痕は明瞭に観察できない。また、頭部の整形剥離痕は敲打、研磨によって切られており、研磨後の加工ではない。全体的に丁寧な作りの石斧であり、刃部の面と胴部の中心面は見事に一致しており、どこから見てもシンメトリカルなバランスのとれた斧身である。刃部には3個の細かな刃こぼれが観察できるものの、研ぎ直された形跡はない。

2は石英脈のはいる硬砂岩製である。1と同じく整形剥離、敲打、研磨の手順で作られている。ただ、1と異なり全面がよく研磨されている。特に胴部や側面の研磨は丁寧である。胴部では整形剥離による浅い凹みの中まで研磨されているし、側面では面取りの研磨が複数回繰り返されて曲面となるように仕上げてあり、特徴的である。さらに、この石斧のもう一つの特徴は頭部にも刃部が形成されていることである。長さ9.9cm、最大幅3.8cm、重量86gであり、これも中型の範疇に入るものである。なお、刃部には刃こぼれはないものの、その形状を見ると、研ぎ直しが施されたことが分かる。刃部が左上がりになっていること。裏面刃部右上に剥離痕があり、この剥離は、通常で



第5図 石斧デポ及び出土遺物

は、整形剥離ではあり得ない位置にあり、大きな刃こぼれによるものであろうことが推定できること、の2点から刃部の研ぎ直しが推定できる。

3は蛇紋岩製であり、製作の手順は1, 2と同じであるが、表面右上に若干敲打痕が残り、蛇紋岩製石斧では珍しい例である。また、頭部の形成の仕方も特徴的である。それは、断ち切るような研磨で形成していることである。擦り切り技法による形成でないのは、研磨痕がこの面を斜めに走ることで分かる。あたかも、頭部を下にして握り、砥石に擦りつけたような擦痕である。長さ8.4cm、最大幅4.0cm、重さ123gであり、小型の範疇にはいる。

さて、以上の三点が図のような出土状況であった。1と2が互い違いに向き、3はやや離れている。このことは様々な解釈が可能であるが、私たちは、3点が一括埋納されていたものが、古代、中世の搅乱によって、3が移動したものであろうと見なしている。この埋納遺構の時期であるが、その手がかりは2に求めたい。2のような石斧は、上野原遺跡第10地点の石斧埋納遺構中に2点発見されており、双刃石斧と呼称されている。上野原遺跡例は縄文時代早期後葉の塞之神式、平柄式土器に伴うものであり、本遺跡例もそれに近いかと思うが、ここでは塞之神式、平柄式土器は出土していない。出土土器の中で、時期的に近いのは苦浜式、手向山式土器であり、この埋納遺構の時期はこれらの土器形式の時期と見なすのが妥当であるように思う。ただ、頭部を擦りきるような蛇紋岩製石斧がこの時期にもあるかどうかは今後類例の検証が必要である。

縄文時代の土器

低地部からは縄文時代早期から晩期にかけての土器が出土している。これらの遺物を器形や文様、器面調整を基にして I 類～X VIII 類に分類した。

I 類 (第6図)

1・2は、横方向の条痕と、ロッキング状の貝殻刺突文が施されている。

II 類 (第6図)

3・4は、山形押形文土器で、縦方向・横方向に施文されている。

III 類 (第7図)

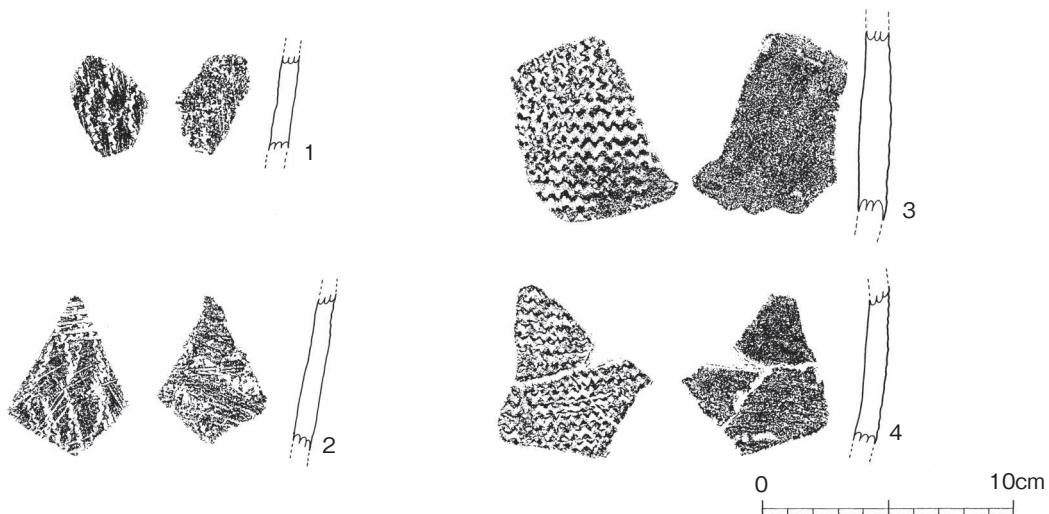
5～18は、やや間延びした山形押型文である。横位または縦位、斜め方向など様々なバリエーションが見られる。全体的に丁寧なつくりで、内面はナデ調整してある。5～8の口唇部にも山形押型文が施文してある。7は補修孔部分で欠損している。19～22は、菱形の押型文である。23は、撫糸文土器の口縁部である。撫った一本の糸を横方向に転がして施文してある。24～26は、同一個体であると思われる。8の字タイプの変形撫糸文土器である。大きく外反する口縁部から胴部で屈曲し、底部にかけてややすぼまっていく器形である。

IV 類 (第8図)

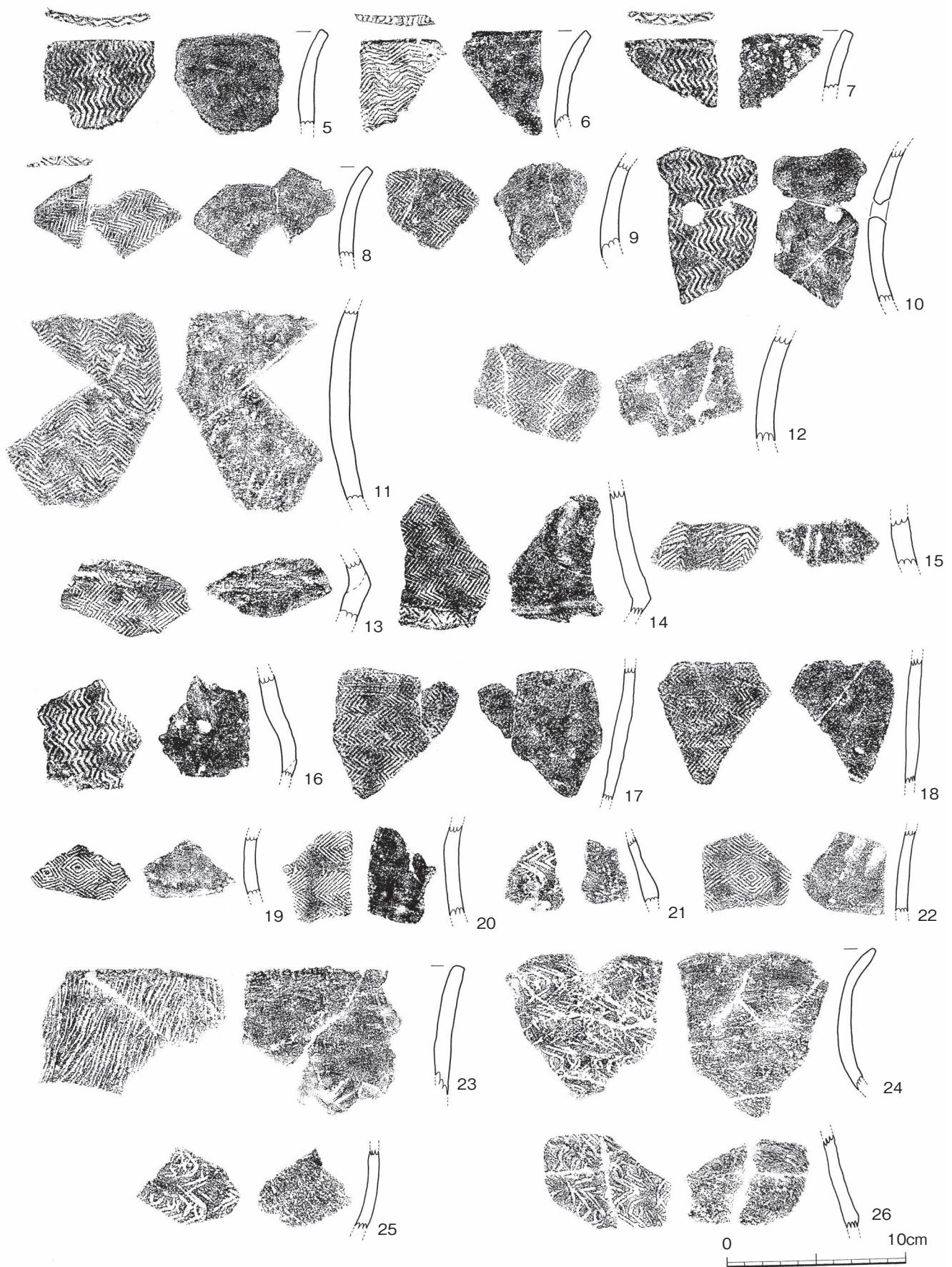
27～29は波状の口縁部をもち、胴部には波形の条痕が全面に施され、貝殻刺突による刻みを施した突帯が部分的に廻る。口唇端部にも刻みが施されているが、口唇部は平坦に仕上げられている。

V 類 (第8図)

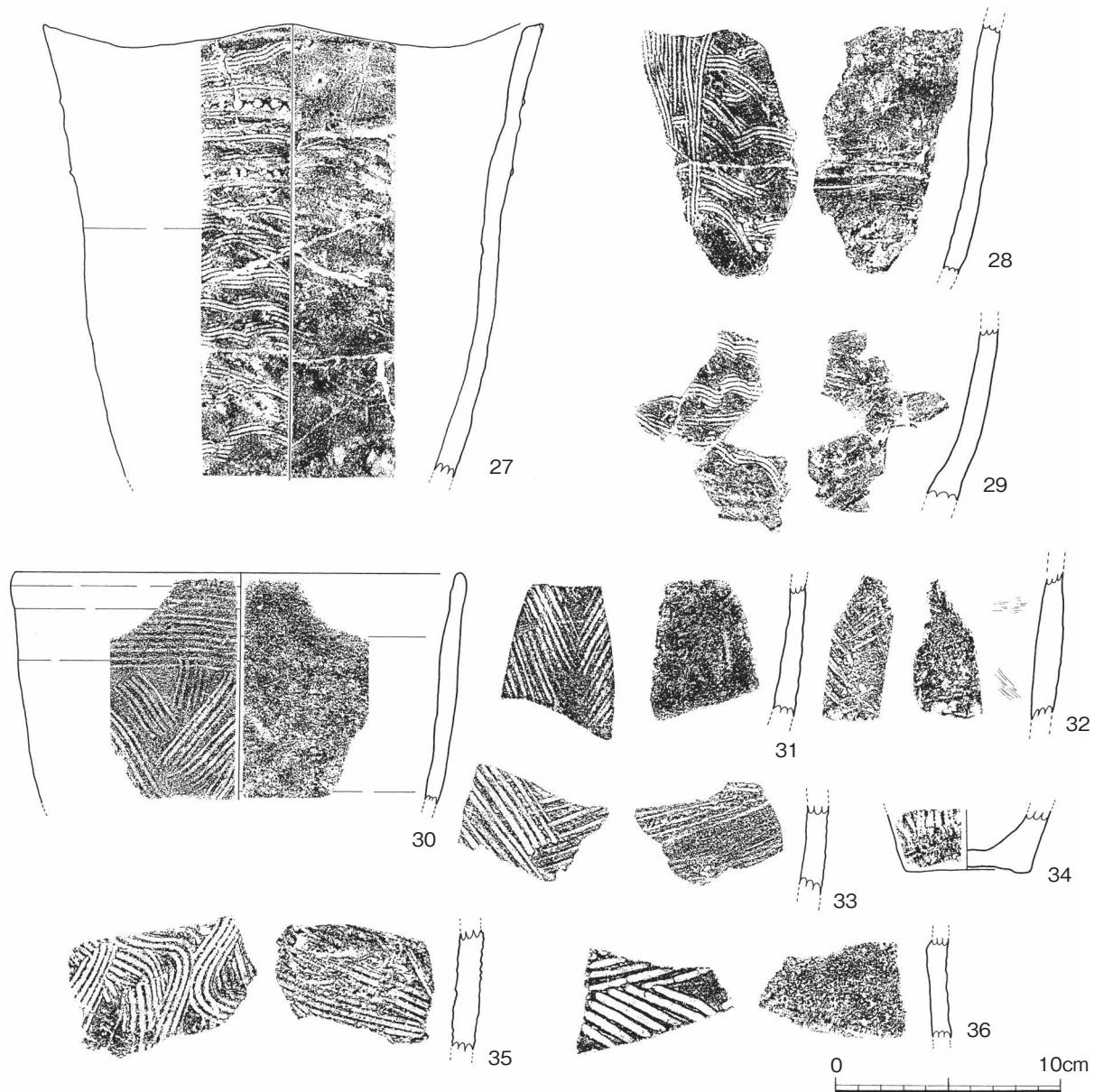
30の口唇部付近には縦の刻み目が施され、口縁部には横位の、胴部には綾杉状の条痕が施文してある。内面は部分的に口唇部付近まで煤が付着している。31～33は、胴部に綾杉状の条痕が施文されている。34の円形の底部は、やや上げ底気味である。外面には一部縦方向の条痕のような調整が見られるが、摩耗が激しくはっきりしない。35の外面には流水状に施文され、内面は貝殻条痕が見られる。36は31～33と比べて条痕が太い。



第6図 縄文土器1 I・II類



第7図 繩文土器2 III類



第8図 繩文土器3 N・V類

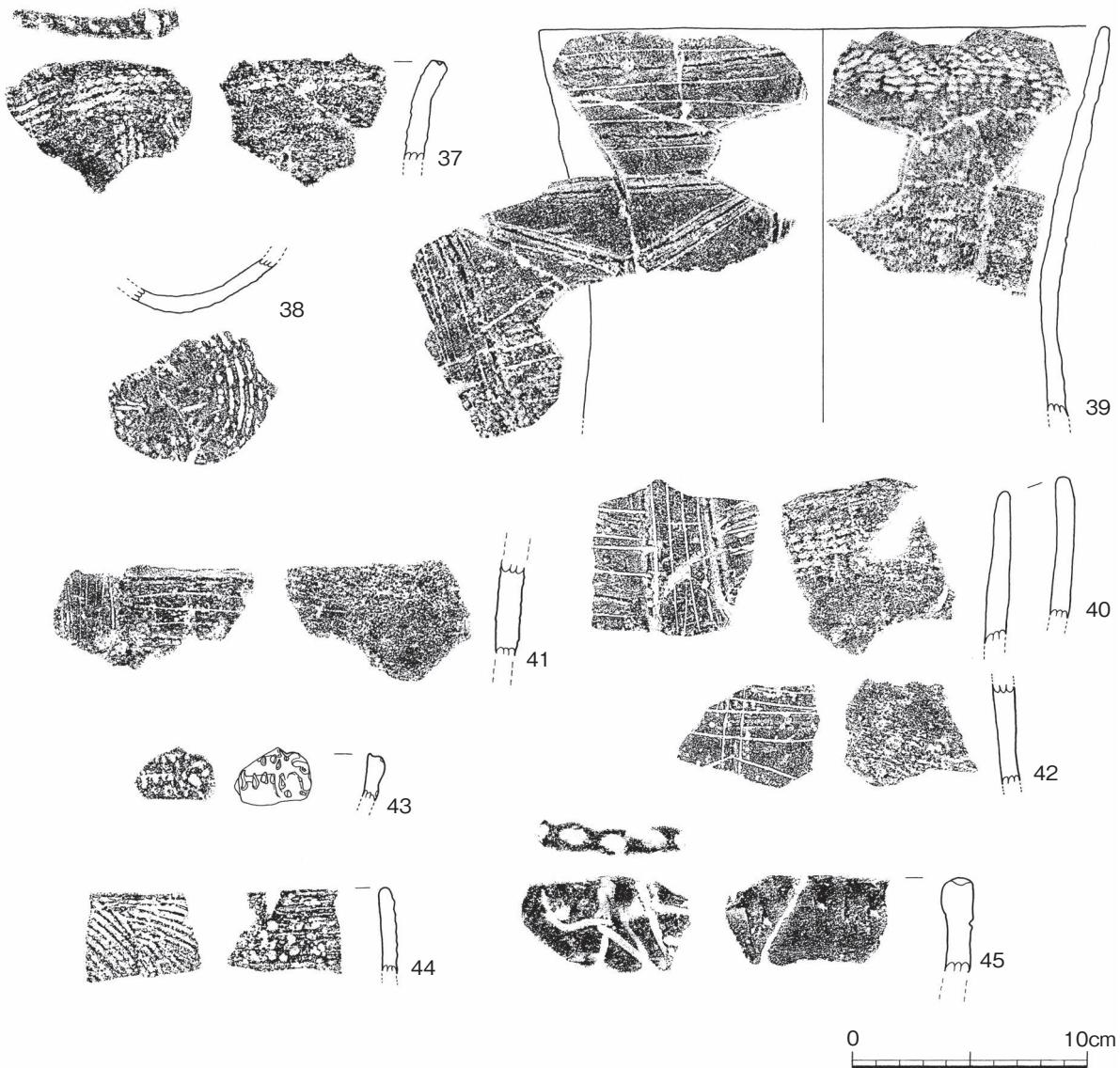
VI類（第9図）

VI類-1

37・38は同一個体であると思われる。37の口唇部には刺突文が見られ、外面の連点文に近い押引文は、縦→横の順番で施されている。38のやや丸みを帯びた尖り気味の底部には、横方向に口縁部と同じく連点文に近い押引文が施されている。

VI類-2

39～42は同一個体であると思われる。口縁部は直行もしくはやや外斜し、胴部中位でくびれる。口縁部の断面は丸みを帯びる。胴部外面には縦位・横位・斜位の微隆突帯を施し、それに沿うように数条の細い沈線を施している。口縁部内面には相交弧文が施される。



第9図 縄文土器4 VI~IX類

VII類（第9図）

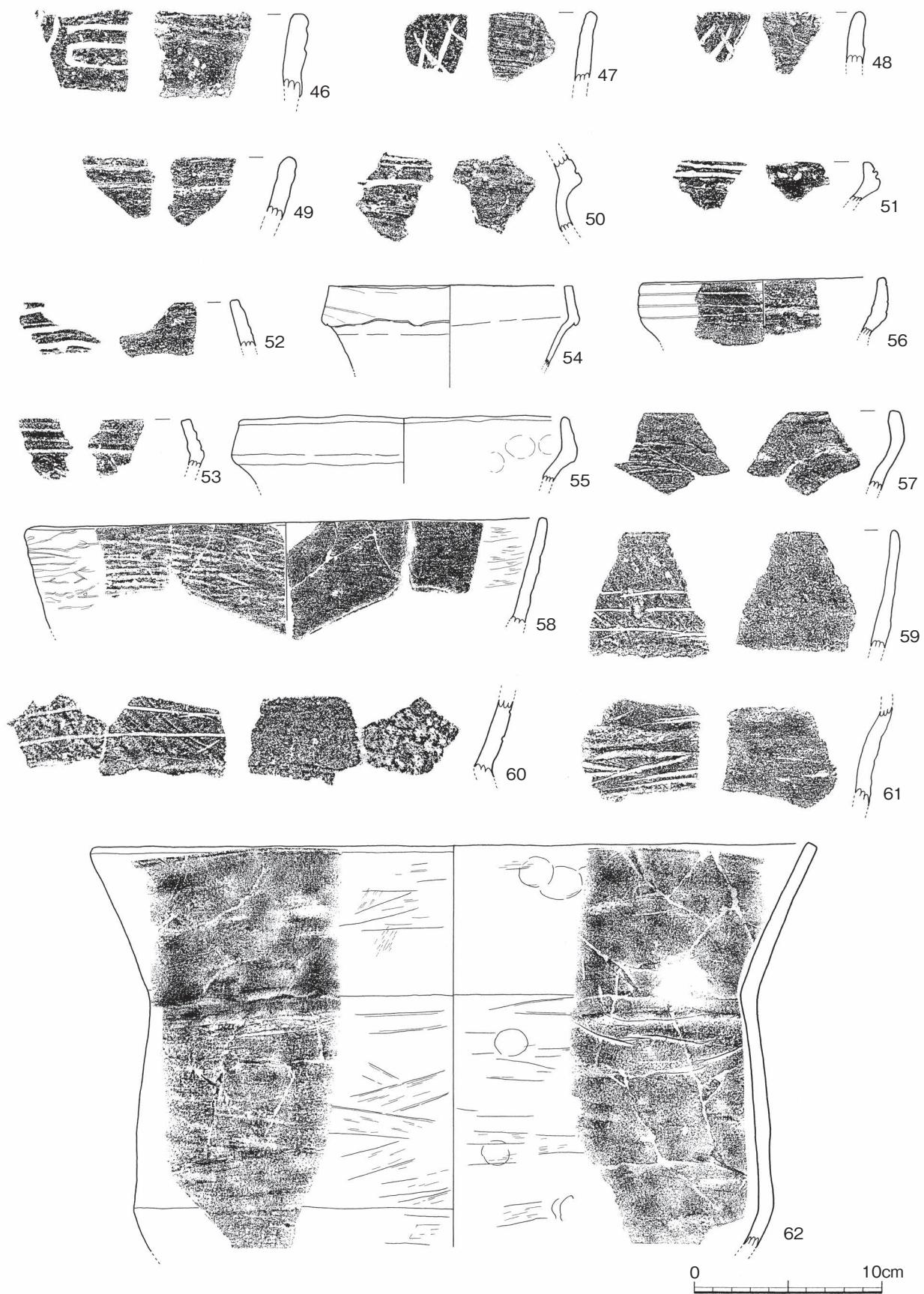
43は、深鉢の口縁部付近の一部である。微隆突帯を横・縦・斜位方向に廻らし、その周りに深い刺突が施文されている。

VIII類（第9図）

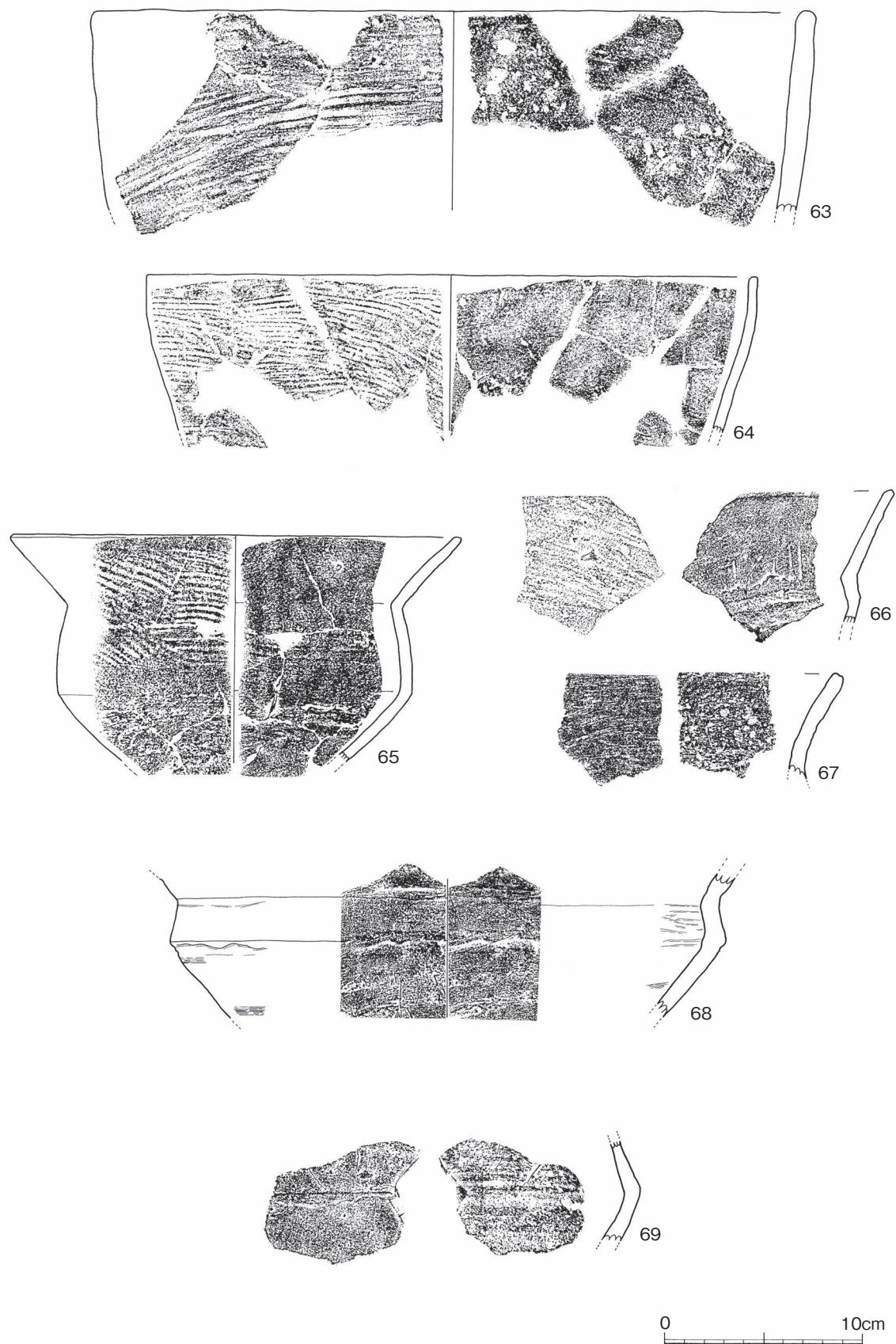
44は、条痕文土器である。外面には横位または斜位方向に条痕が施されている。内面は、横位の調整が見られるが、摩耗が激しくはっきりしない。口唇部断面は丸い。

IX類（第9図）

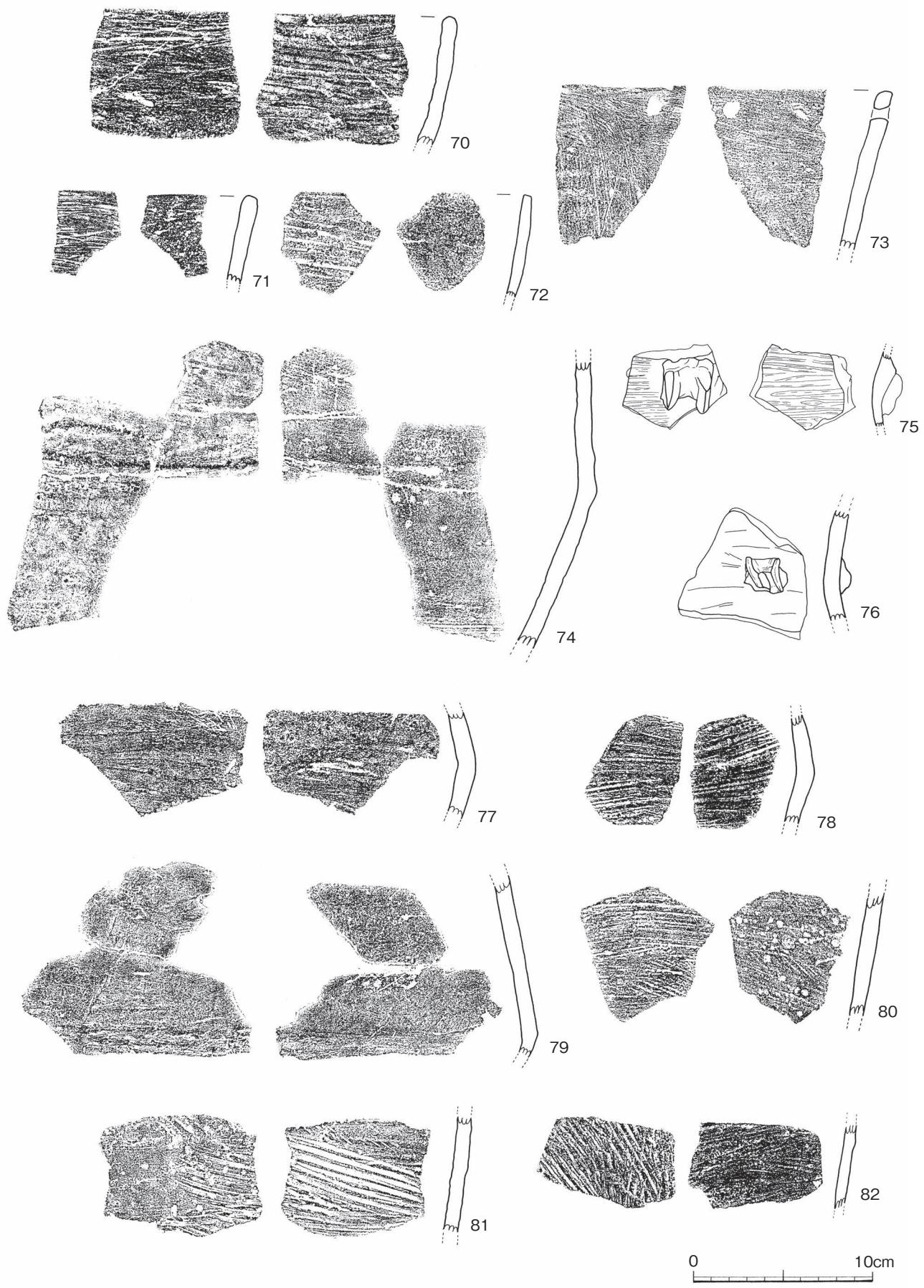
45は、深鉢形土器の口縁部突起部分である。太く浅い沈線で不規則な文様が施され、口唇部には深い刻みを施す。



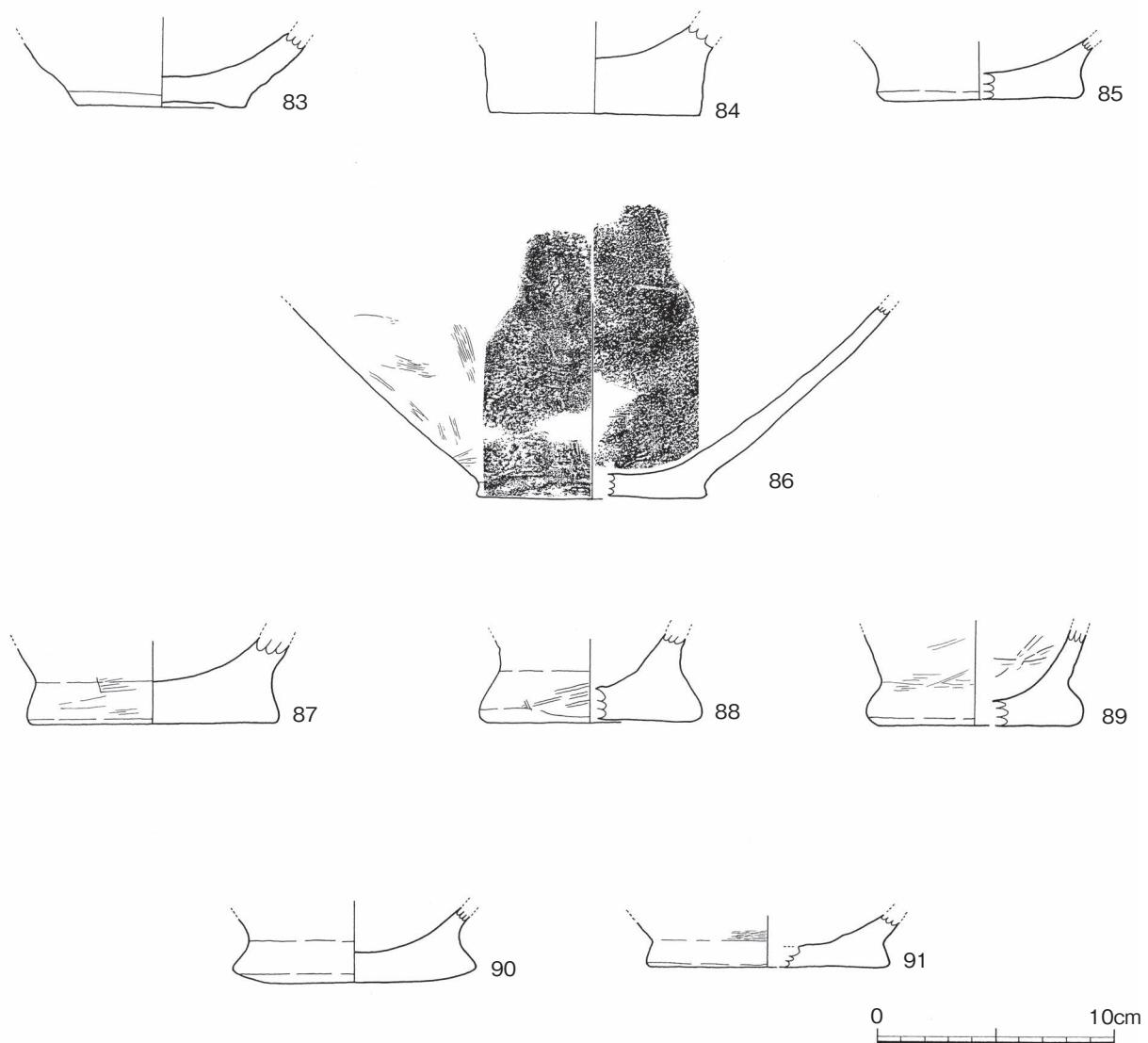
第10図 縄文土器5 X～XⅢ類



第11図 繩文土器6 XⅢ・XⅣ類



第12図 縄文土器7 X IV類



第13図 縄文土器8 X IV類

X類（第10図）

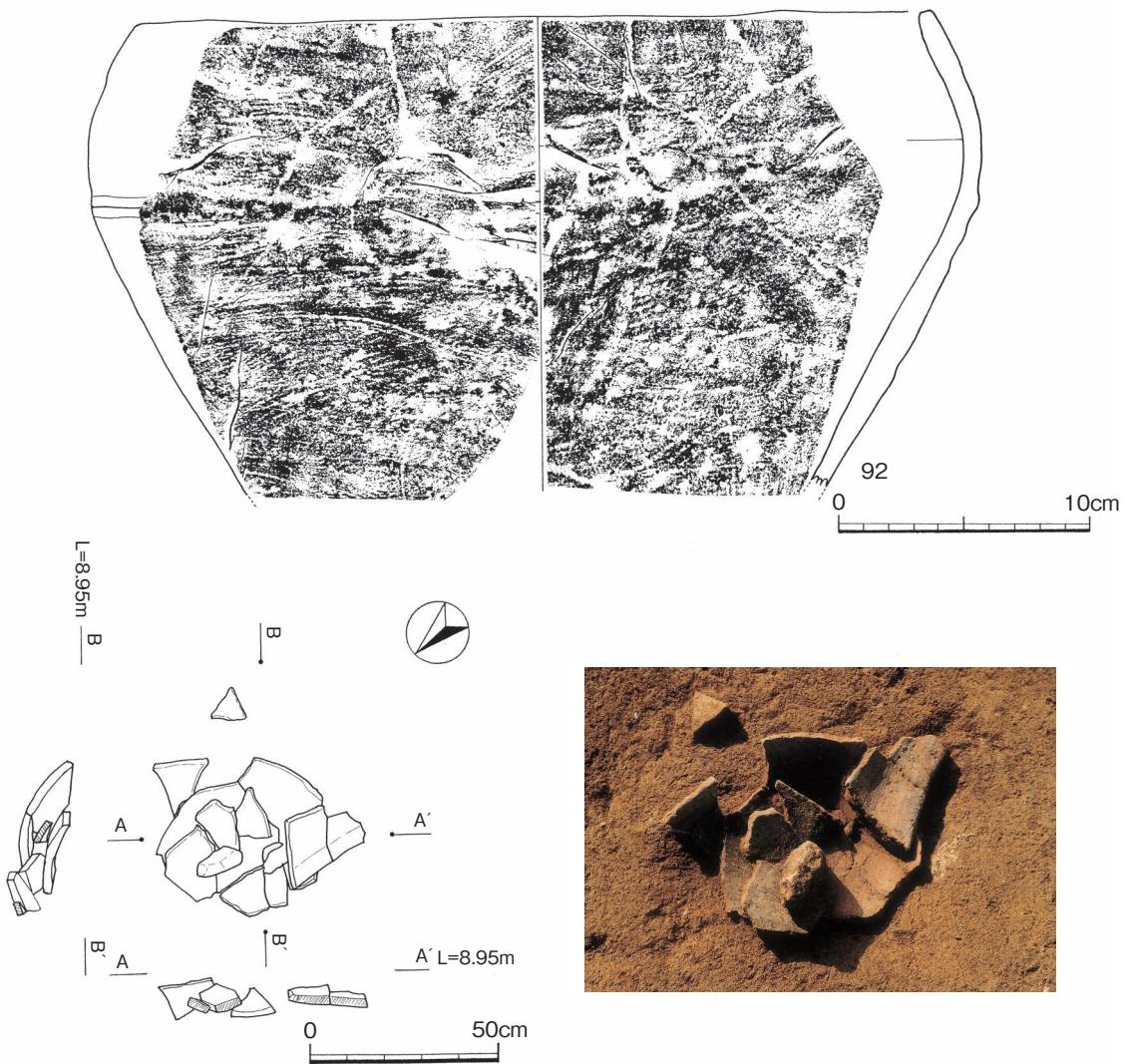
46は口縁突起部であると思われる。「コ」字形文と曲線文を施す。内外面は丁寧なナデ調整である。

X I類（第10図）

47・48は、深鉢の口縁部であると思われる。格子状に文様を施文している。

X II類（第10図）

49～57は、後期後半に該当すると思われる深鉢形土器を一括した。50は口縁部を折り曲げてやや肥厚気味につくり、口縁部から胴部にかけてややすぼまる形状を呈している。口縁部には、太い沈線を施すもの、細い沈線を施すもの、沈線を意識したと思われるがほとんどケズリのようになっているもの、沈線を施さずナデているものがある。



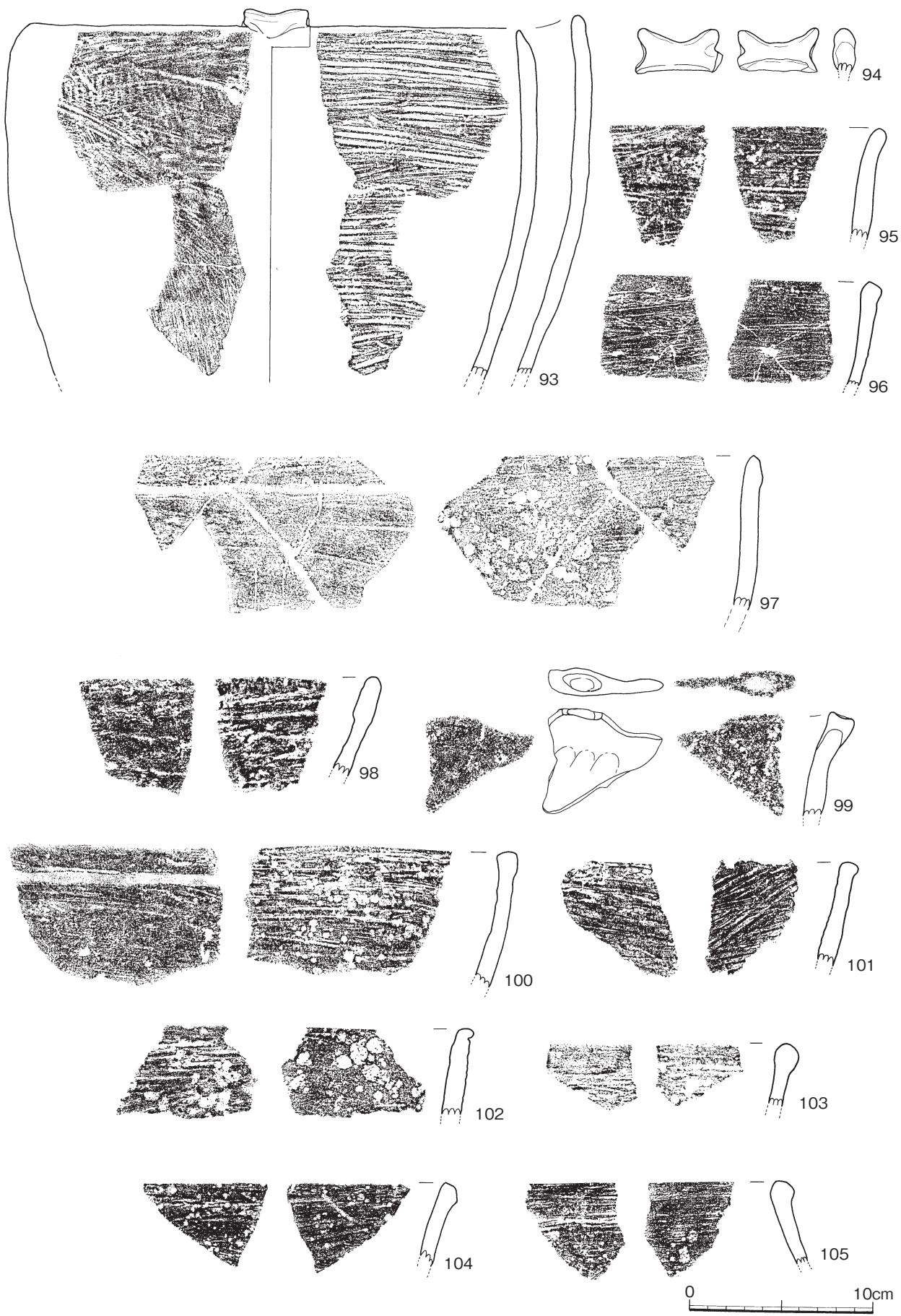
第14図 繩文土器9 X V類及び出土状況

X III類 (第10・11図)

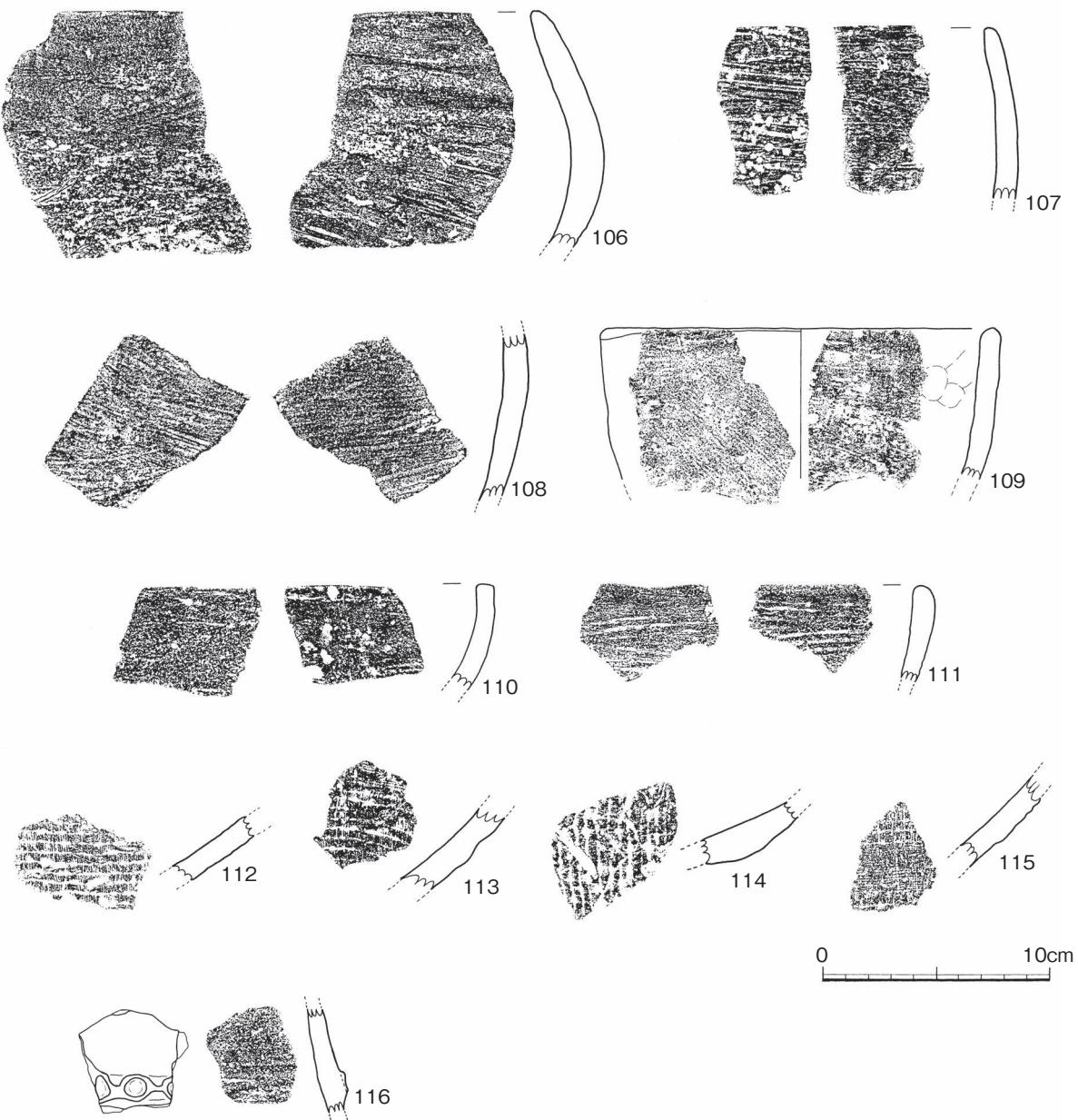
X III類は縄文時代晩期の粗製深鉢形土器を一括した。58~61の口縁部外面には、横位の貝殻条痕が見られる。内面および口唇部は、ケズリの後にナデで調整している。62は、口唇部は平坦につくられ、内外面ともケズリの後に丁寧にナデで調整している。口縁部に条痕などは見られない。「く」の字状に外反する長い口縁部をもち、胴部半ばで内側に屈曲する。63・64の口縁部には、条痕が施されている。

X IV類 (第11~13図)

65は、小型の深鉢形土器である。口縁部は大きく外反し、胴部の屈曲も強い。口縁部から胴部の屈曲よりやや上部まで条痕が施され、それより下はナデによる調整である。内面は、丁寧なナデ調整である。外面の胴部屈曲から上には煤が付着している。66・67は、胴部の屈曲がやや強く、口縁



第15図 繩文土器10 XV類

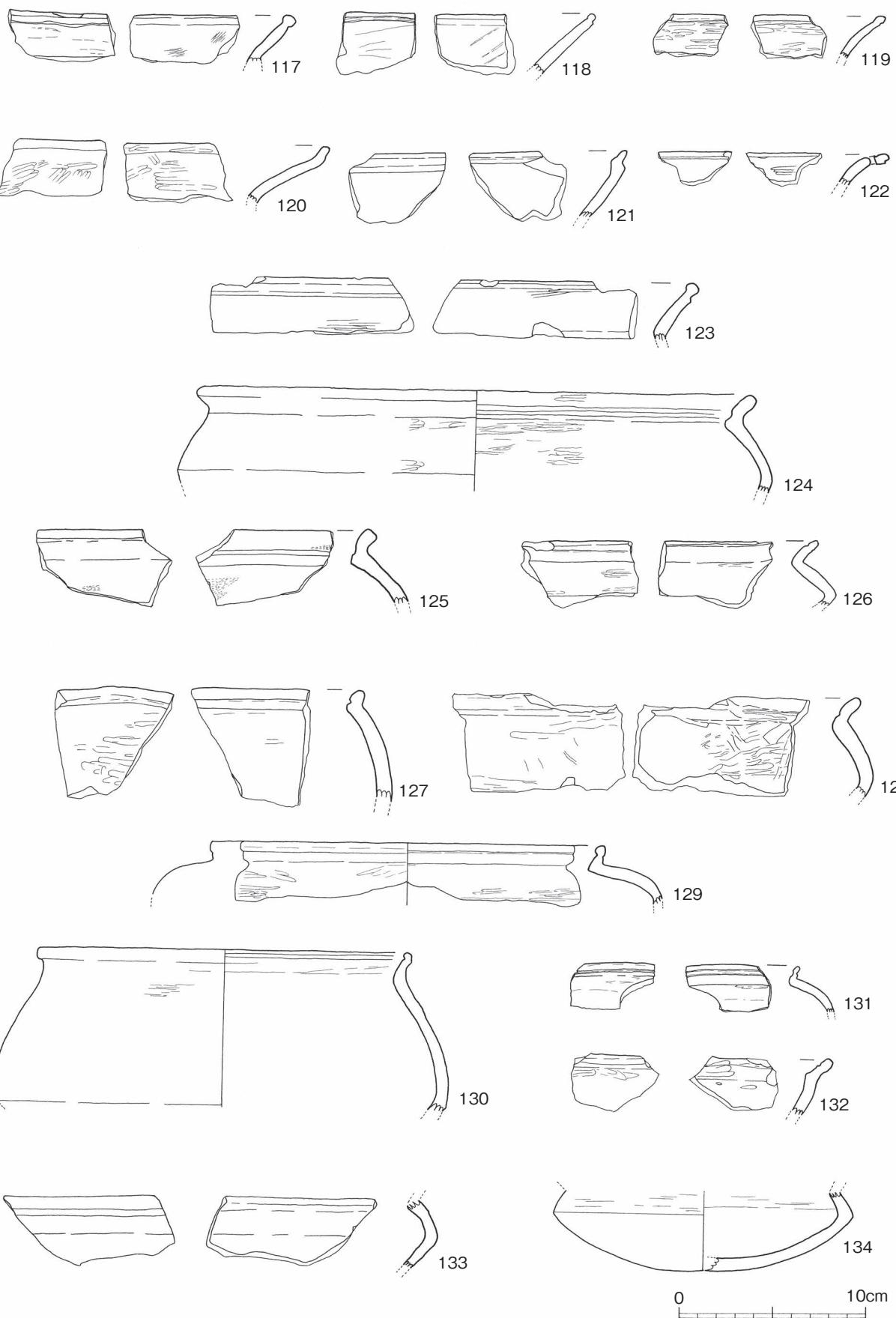


第16図 縄文土器11 XVI・XVII類

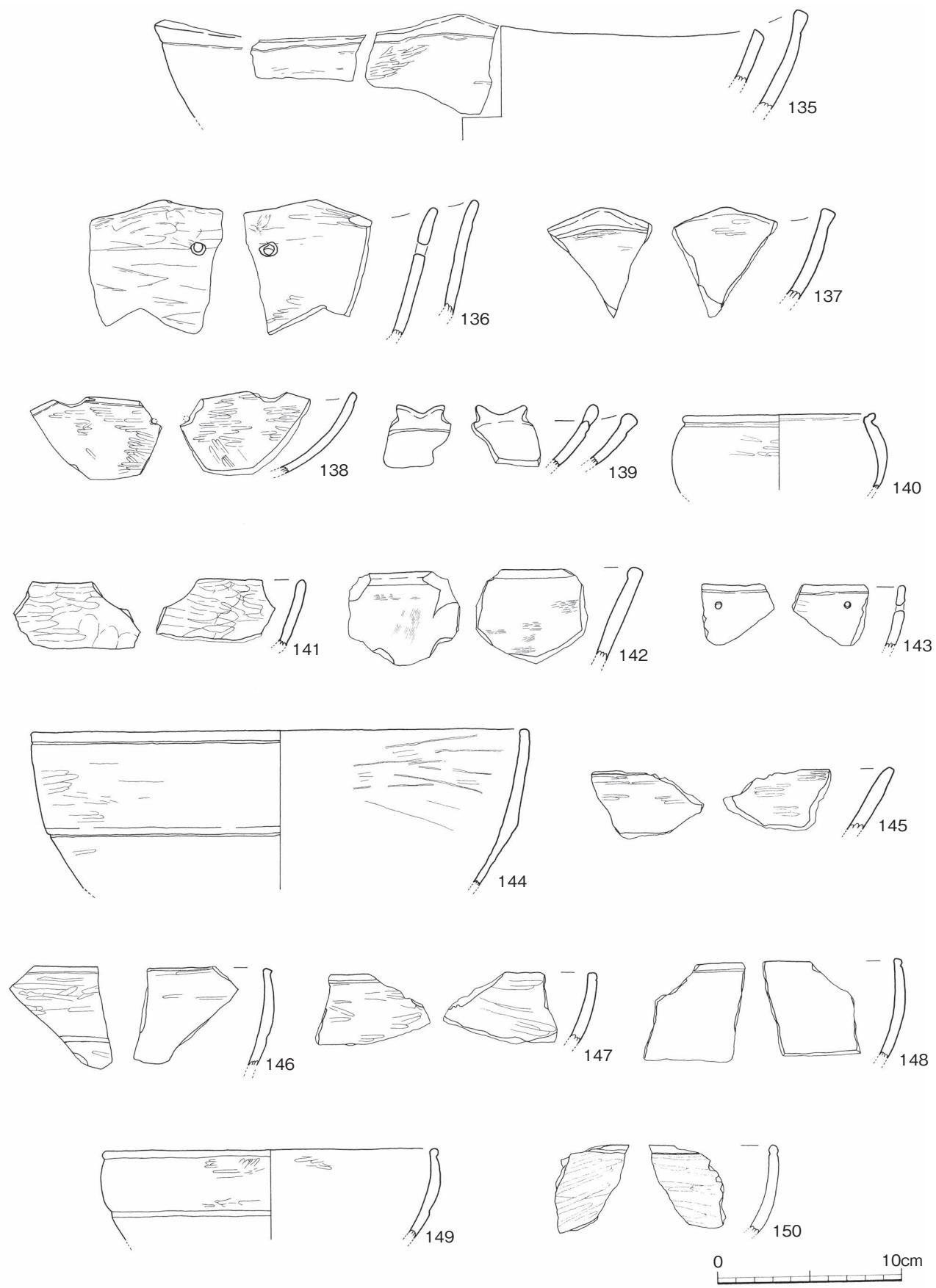
部も外反する器形であると思われる。68・69は、肩部がやや張る器形である。

70～82は深鉢の口縁部から胴部である。口縁部は、直立またはやや内湾気味に立ち上がり、胴部の屈曲は緩やかである。74の緩やかに屈曲する胴部にはつこ状になると思われる突帯が見られる。75・76は、胴部の屈曲部に突起をもつものである。

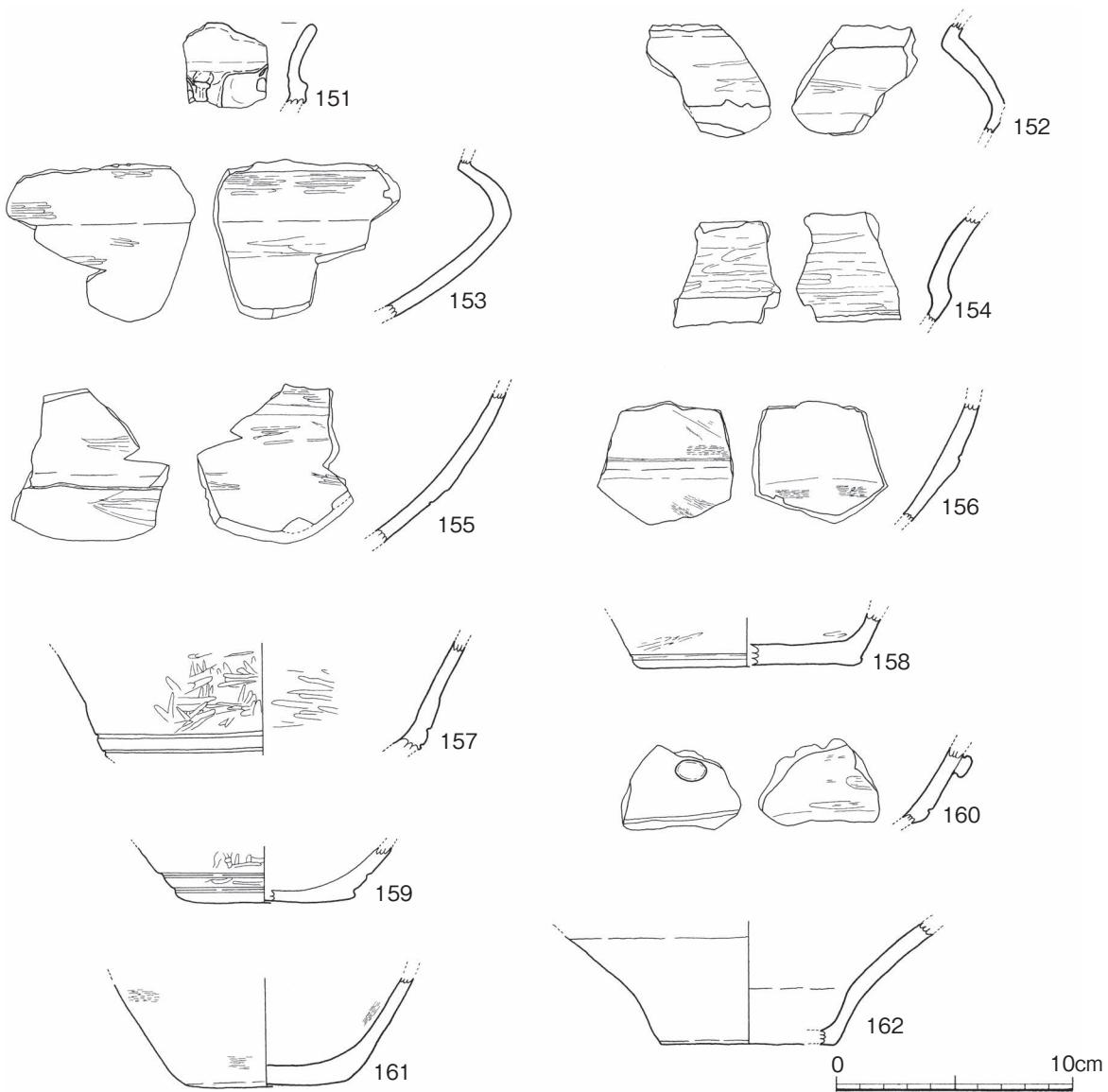
83～91は、縄文時代後期から晩期にかけての深鉢形土器の底部であると思われる。a類～c類に分類した。a類（83）は、胴下半部からやや内湾しながらすぼまる底部である。やや上げ底である。b類（84～86）は、胴下半部と底部の境がやや明瞭で、境部分と接地部分の直径の差が少ないもの



第17図 繩文土器12 XVII類



第18図 繩文土器13 XVII類



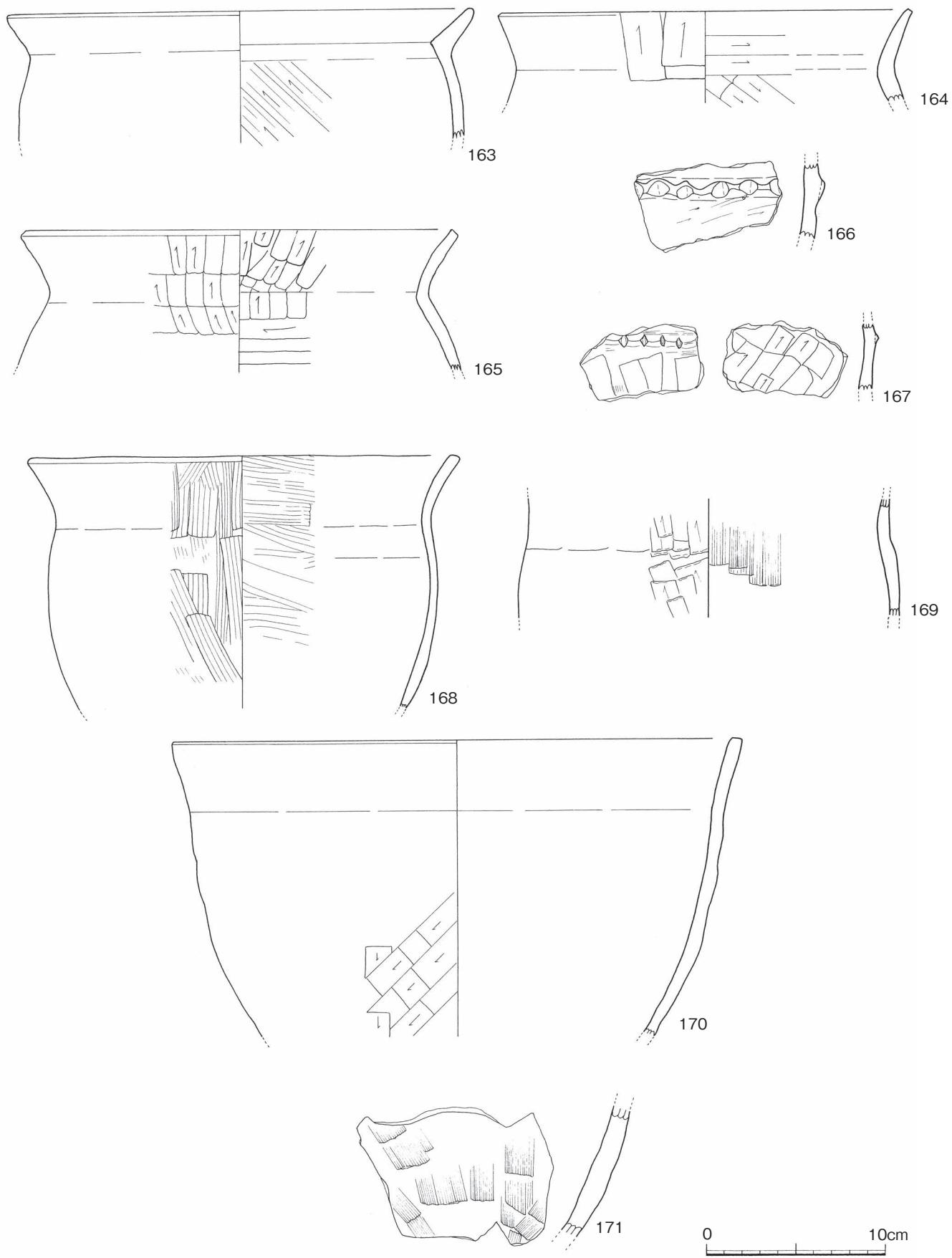
第19図 縄文土器14 XIX類

である。c類(87~91)は、胴部下半部との境がやや明瞭で、台形状に大きく張り出し厚みのある底部である。

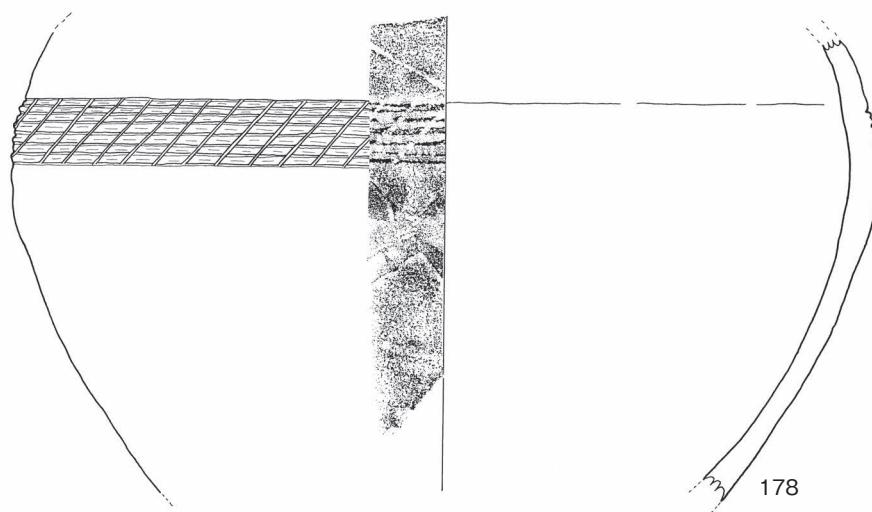
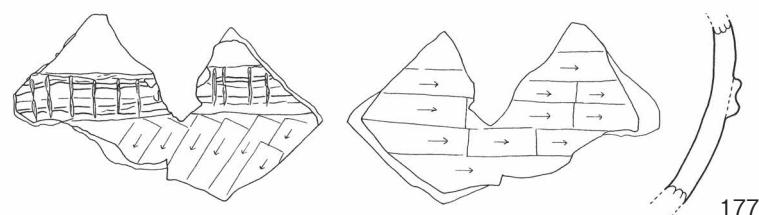
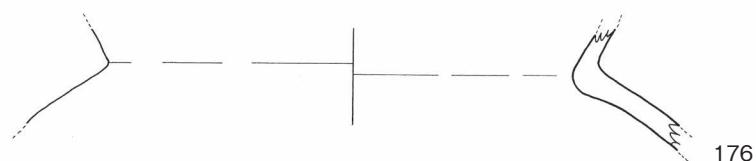
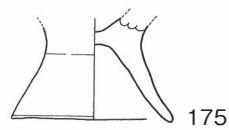
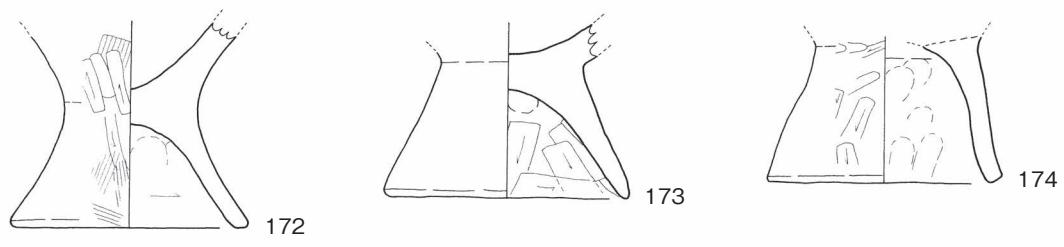
XV類(第14・15図)

92は、胴部の屈曲部に突帯をもつ器形である。胴部から大きく内湾し、胴部から底部にかけてすぼまる。すべての破片は図のように同じ場所から出土したが、掘り込みは確認されなかった。

93・94は、口縁部にリボン状の突起をもつ深鉢形土器である。口縁はやや内湾する。95の口縁部は、一度内側にすぼまったのちにやや外反する器形である。96~105の口縁部はやや肥厚する。口縁部上端を突帯のように肥厚させるもの、丸く肥厚させるもの、幅広く肥厚させるものがある。内外面の調整は条痕・ナデである。99の口縁部の一部は突起になっており、口唇部には深い凹みをつける。



第20図 弥生～古墳時代の土器 1



0 10cm

第21図 弥生～古墳時代の土器2

XVI類（第16図）

106～111は、中華鍋形あるいは寸胴鍋形土器とよばれるものである。丸みのある胴部から内湾またはまっすぐに立ち上がる口縁部をもつ。内外面の調整は、丁寧なナデあるいはミガキであると思われるが、摩耗が激しくはっきりしない。112～115は、編み布の組織痕土器である。いずれも縦糸(4.5～5mm)に細い横糸(1cm幅に約10～12本)を編んだものである。112の一部には、1×1mmの同じ太さの糸で編んだ格子状の編み布痕も見て取れる。

XVII類（第16図）

116は刻目突帯文土器である。幅1cmほどの突帯に指で刻み目を施している。

XVIII類（第17・18図）

117～150は、精製浅鉢である。117～123は長めの口縁部が外反し、肩部が「く」の字状に屈曲するものである。124～134は頸部が短くなるもので、胴部の屈曲が強いものもある。133・134は、屈曲部の粘土の継ぎ目で破損しており、擬似口縁状を呈している。135～150は、口縁部が直行あるいは内湾するものである。口縁部にリボン状の突起がつくものや波状を呈したりするものもある。

XIX類（第19図）

151～162は、XV類の深鉢形土器と同時期に相当すると思われる精製浅鉢である。155～160は、底部や胴部に1～2条の沈線を施す小型の浅鉢である。159・161はやや丸みを帯びた平底をしている。160には、ボタン状の突起がついている。

弥生時代～古墳時代の土器（第20・21図）

椿城跡の低地部からは、点数は少ないものの弥生時代～古墳時代にかけての土器も出土している。多くは摩耗が激しかったが、それらの中でも、状態の良いものを図化した。

163～174は、甕形土器である。163は、「く」の字形に屈曲した口縁部の内面には、はっきりとした稜をもち、胴部はやや丸みを帯びる。外面には一部赤色顔料が付着している。165・168・170の口唇部の先端は平坦である。164は、口唇部の厚さは先端に向かって薄くなり、内面の稜は明確でない。口縁部外面をハケ目状の工具でカキアゲているが、胴部と境の段は、はっきりしない。165の口縁部の立ち上がりは緩やかである。稜はやや残る。166・167は刻目を入れた三角突帯をもつ。168の口縁部は長く緩やかに外反しながら立ち上がり、稜は曖昧である。外面と内面の口縁部はハケ目調整で、内面の胴部はケズリで仕上げてある。169は胴部から口縁部の屈曲は曖昧であるが、カキアゲによる段をもつ。170は、胴部からほぼ直線的に外反しながら立ち上がる形状である。内外面とも粗い作りで、ケズリ調整である。171の底部は、外面全面はハケ目調整してあり、内面はナデで仕上げている。172～174は、甕形土器の脚部である。172はやや裾広がりに外反する脚部である。173はやや内湾気味であり、174は直線的に開くものである。175は、小型の甕形土器または鉢形土器の脚部である。脚部はやや裾広がりに外反する。脚台内面の天井部は丸くつくる。

176～178は、壺形土器である。176は、つよく外反する口縁部である。内外面ともケズリによる調整である。177は、M字状の貼り付け突帯に細い工具で縦線の刻みを入れている。178は、胴部に、先端の細い工具で7条の横線を廻らし突帯を作り出し、その上に左下がりのナナメの刻みを入れている。

縄文土器・弥生～古墳時代の土器観察表

挿図番号	掲載番号	出土区	取上番号	層	器種	部位	分類	法量(cm)			調整		色調		備考
								口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面	
第6図	1	—	—	—	深鉢	胴部	I	—	—	—	ナデ ⁺	条痕・ナデ ⁺	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貝殻刺突
	2	R24	21190	III	深鉢	胴部	I	—	—	—	ナデ ⁺	条痕・ナデ ⁺	橙	橙	貝殻刺突
	3	3T	259	II	円筒形	胴部	II	—	—	—	押型文	ナデ ⁺	橙	黄橙	山形押型文
	4	S22	20519	III	深鉢	胴部	II	—	—	—	押型文	ナデ ⁺	明黄褐	にぶい黄褐	山形押型文
第7図	5	S22	20397	III	深鉢	口縁部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい橙	橙	山形押型文
	6	S23	1062	III	深鉢	口縁部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄橙	にぶい黄橙	山形押型文
	7	S23	21117	III	深鉢	口縁部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい橙	にぶい橙	山形押型文
	8	S23	21913, 21914	II	深鉢	口縁部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	灰褐	にぶい赤褐	山形押型文
	9	R23	21127	III	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄橙	浅黄	山形押型文
	10	S22	20563	III	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい橙	にぶい橙	山形押型文
	11	S22	21659, 21658	III	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	灰黄	浅黄	山形押型文
	12	R21	5649	III	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	明赤褐	明赤褐	山形押型文
	13	S23	21963	II	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	橙	橙	山形押型文
	14	S23	20399	III	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい橙	山形押型文	
	15	S22	21657	III	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄	淡黄	山形押型文
	16	S22	20580	III	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄橙	にぶい黄橙	山形押型文
	17	T23	21962	II	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい褐	にぶい黄褐	山形押型文
	18	S22	21709	III	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい橙	にぶい橙	山形押型文
	19	S23	21899	II	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい橙	にぶい橙	菱形押型文
	20	S22	20419, 20437	III	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい橙	にぶい橙	菱形押型文
	21	S22	21665	III	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄橙	にぶい黄橙	菱形押型文
	22	S22	21841	III	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい橙	にぶい橙	菱形押型文
	23	—	—	—	深鉢	口縁部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	浅黄橙	にぶい黄橙	燃糸文
	24	S22	21664	III	深鉢	口縁部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄橙	にぶい黄橙	变形燃糸文
	25	S22	21662	III	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	灰黄褐	灰黄褐	变形燃糸文
	26	S22	21690	III	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	灰黄褐	にぶい黄橙	变形燃糸文
第8図	27	R23・24	10152, 21246, 21223, 21185, 20060, 21192, 21220, 7177, 21221, 21184, 21244, 21201, 11662, 11661, 21191	III	深鉢	口縁部～胴部	IV	22.4	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄橙	にぶい黄橙	波形条痕文
	28	R24・25	21211, 21206, 21202, 21108, 21203, 21210, 21209, 19681, 21207, 21196, 21247	III	深鉢	口縁部～胴部	IV	22.4	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄橙	にぶい黄橙	波形条痕文
	29	R23・24	21216, 21195, 11660	III	深鉢	胴部	IV	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい橙	にぶい黄橙	波形条痕文
	30	S	—	—	深鉢	口縁部～胴部	V	20.4	—	—	条痕	ケズリ	黄橙	黒	貝殻条痕文
	31	S	一括	—	深鉢	胴部	V	—	—	—	条痕	ケズリ	橙	暗灰黄	綾杉状条痕文
	32	T22	21580, 21515	II	深鉢	胴部	V	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄橙	にぶい黄橙	綾杉状条痕文
	33	S23	20417	III	深鉢	胴部	V	—	—	—	条痕	ケズリ・ナデ ⁺	にぶい黄橙	灰黄褐	綾杉状条痕文
	34	T21	5740	III	深鉢	底部	V	—	5.6	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	橙	橙	条痕文
	35	R19	6471	V	深鉢	胴部	V	—	—	—	条痕	貝殻条痕	褐灰	黑褐	流水状条痕文
	36	—	20514	III	深鉢	胴部	V	—	—	—	条痕	ナデ ⁺	にぶい黄褐	褐	綾杉状押線文?
第9図	37	S22	8680	II	深鉢	口縁部	VI	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	黒褐	にぶい黄褐	
	38	S22	20534	II	深鉢	底部	VI	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄褐	灰黄褐	
	39	S22	2778, 4513, 4512, 4683, 10039, 4488	II	深鉢	口縁部～胴部	VI	24.4	—	—	ナデ ⁺	ケズリ・ナデ ⁺	にぶい橙	黄橙	
	40	S23	5815	II	深鉢	口縁部	VI	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	黄褐	黒褐	
	41	S22	4478	II	深鉢	胴部	VI	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
	42	S23	5236	II	深鉢	胴部	VI	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄橙	暗褐	
	43	—	—	—	深鉢	口縁部	VII	—	—	—	刺突文	ナデ ⁺	にぶい褐	灰褐	
	44	S26	15528	II	深鉢	口縁部	VIII	—	—	—	条痕	ケズリ	黑褐	黑褐	条痕文
	45	T26	19717	III	深鉢	口縁部	IX	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	明褐	明褐	
	46	—	18257	III	深鉢	口縁部	X	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい赤褐	にぶい橙	
第10図	47	S25	13033	II	深鉢	口縁部	X I	—	—	—	ナデ ⁺	ケズリ・ナデ ⁺	褐	暗褐	
	48	S26	16035	II	深鉢	口縁部	X I	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	明赤褐	赤	
	49	R23	6521	II	深鉢	口縁部	X II	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	暗灰黄	暗灰黄	
	50	R23	20334	III	深鉢	口縁部	X II	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄橙	にぶい黄	
	51	S22	16894	II	深鉢	口縁部	X II	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	52	S22	7999	II	深鉢	口縁部	X II	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄橙	明黄橙	
	53	S23	5238	II	深鉢	口縁部	X II	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄橙	灰黄褐	
	54	1T	720	II	深鉢	口縁部	X II	13.2	—	—	ナデ ⁺ ・ミガキ	ナデ ⁺	黄褐	灰黄	
	55	S22	21649	III	深鉢	口縁部	X II	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい褐	にぶい黄橙	
	56	R21	19971	II	深鉢	口縁部	X II	13.2	—	—	ナデ ⁺	ケズリ	明赤褐	橙	
	57	R23	7741	II	深鉢	口縁部	X II	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄橙	にぶい黄橙	

縄文土器・弥生～古墳時代の土器観察表

捕団 番号	掲載 番号	出土区	取上番号	層	器種	部位	分類	法量(cm)			調整		色調		備考
								口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面	
								ナデ	ケズリ・ナデ	ナデ	オーラー	ナデ	オーラー	ナデ	
第10図	58	S22	10355	III	深鉢	口縁部	X III	27.9	—	—	ナデ	ケズリ・ナデ	橙	橙	
	59	T24	13009	II	深鉢	口縁部	X III	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	
	60	T24	1271	II	深鉢	胴部	X III	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	明褐	
	61	S23	4915	II	深鉢	胴部	X III	—	—	—	条痕	ナデ	褐灰	にぶい褐	
			10,234,10238, 9746,1551, 9749,9170, 277,9746, 9748,9747, 1551												
	62	R23		II	深鉢	口縁部～胴部	X III	39.0	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
第11図	63	S23	4904,4899, 4905,4900	II	深鉢	口縁部～胴部	X III	—	—	—	ナデ	ナデ	暗灰黄	黄褐	
	64	R22	20094,20093	III	深鉢	口縁部	X III	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	
	65	S26	19452	III	深鉢	口縁部～胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	黒褐	にぶい黄橙	
	66	T23	21486	II	深鉢	口縁部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	
	67	R23	4960	II	深鉢	口縁部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	黒褐	オリーブ褐	外面に炭化物
	68	R23	3755	II	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	暗褐	黒褐	
	69	R23	6366	II	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	黒褐	暗灰黄	
第12図	70	S22	7087	II	深鉢	口縁部	X IV	—	—	—	ナデ	ケズリ	オリーブ褐	黄灰	
	71	S22	6256	II	深鉢	口縁部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい褐	
	72	S26	19294	III	深鉢	口縁部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	
	73	Q23	1881	II	深鉢	口縁部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい橙	
	74	R22・23, S23	7165,3619, 5022,5897	II	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄	黒褐	
	75	S24	9231	II	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	条痕	条痕	橙	にぶい橙	
	76	S23	7458	II	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	橙	にぶい黄橙	
第13図	77	T22	21574	II	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	褐灰	灰褐	
	78	R23	3769	II	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	
	79	3T	1552,1550	III	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	黄褐	灰黄	
	80	S26	19514	III	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	
	81	S23	—	II	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ・条痕	条痕	暗褐	橙	
	82	R23	10216	II	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	条痕	ナデ	黄灰	にぶい黄橙	
第14図	83	S22	8082,2822, 6611	II	深鉢	底部	X IV	—	6.8	—	ナデ	ナデ	明黄褐	黒	
	84	S23	5021	II	深鉢	底部	X IV	—	9.0	—	ナデ	ナデ	橙	橙	
	85	T25	14842	II	深鉢	底部	X IV	—	8.8	—	ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	
	86	S26, T23・26	16715,19471	II・III	深鉢	底部	X IV	—	9.8	—	ナデ	ナデ	橙	灰白	
	87	R23	9751,6721	I・II	深鉢	底部	X IV	—	10.4	—	ナデ	ナデ	黄褐	にぶい橙	
	88	Q22	—括	—	深鉢	底部	X IV	—	9.4	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	黒褐	
	89	—	—	—	深鉢	底部	X IV	—	9.2	—	ナデ	ナデ	にぶい橙	黒褐	
第15図	90	R23	4930,5205	II	深鉢	底部	X IV	—	10.2	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	91	—	—	—	深鉢	底部	X IV	—	9.9	—	ナデ	ナデ	橙	黒褐	
	92	T26	13,11,52,4,9, 5,8,2,—括	—	深鉢	口縁部～胴部	X V	31.8	—	—	ナデ	ケズリ	黒褐	橙	
	93	R23・24	1929,4996, 1930	II	深鉢	口縁部～胴部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙	黒褐	
	94	T25	19765	III	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	暗オリーブ灰	暗オリーブ灰	
	95	S26	1666	II	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	
	96	T26	19720	III	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	黒褐	黒褐	
第16図	97	S22・R23	7113,7112, 7109,5647	II	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄	
	98	T24	12299	—	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ケズリ	にぶい黄橙	暗灰黄	
	99	—	—	III	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	明褐	橙	外面に指圧痕
	100	3T	1051	II	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	101	R22	5603	II	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ヘラナデ	灰黄褐	暗灰黄	
	102	Q23	9245	II	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	
	103	—	—	—	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
第17図	104	Q22	9354	III	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	オリーブ褐	暗灰黄	
	105	—	—	—	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
	106	S22	4697	II	深鉢	口縁部	X VI	—	—	—	ケズリ・ナデ	ナデ	オリーブ褐	にぶい黄橙	
	107	T22	20965	II	深鉢	口縁部	X VI	—	—	—	ケズリ	ケズリ	にぶい褐	褐	
	108	S26	18264	III	深鉢	胴部	X VI	—	—	—	条痕	ナデ	オリーブ褐	黄褐	
	109	R22	5977	II	深鉢	口縁部	X VI	—	—	—	ナデ	ナデ	黒褐	橙	
	110	S22	7086	II	深鉢	口縁部	X VI	—	—	—	ナデ	ナデ	明黄褐	黒褐	
第18図	111	T25	19559	III	深鉢	口縁部	X VI	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	
	112	5T	—括	表土	縦織痕土器	胴部	X VI	—	—	—	編布痕	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	113	—	—	—	縦織痕土器	胴部	X VI	—	—	—	編布痕	ナデ	ナデ	ナデ	
	114	Q18	—括	—	縦織痕土器	胴部	X VI	—	—	—	編布痕	ナデ	浅黄橙	黒	
	115	S26	8327	II	縦織痕土器	胴部	X VI	—	—	—	編布痕	ナデ	ナデ	黒	
	116	Q19	—	IV	甕	胴部	X VII	—	—	—	ナデ	ナデ	黒	黒	
	117	S22	16897	II	浅鉢	口縁部	X VIII	—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄	黄灰	
第19図	118	T25	12869	II	浅鉢	口縁部	X VIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	明褐	橙	
	119	3T	1304	III	浅鉢	口縁部	X VIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	黒褐	

縄文土器・弥生～古墳時代の土器観察表

挿図番号	掲載番号	出土区	取上番号	層	器種	部位	分類	法量(cm)			調整		色調		備考
								口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面	
第17図	120	R23	4954	II	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	暗灰黄	暗灰黄	
	121	T26	18577	III	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄褐	黒褐	
	122	R27	16307	II	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	黄灰	黒褐	
	123	R23	6446	II	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	124	T25・T26	13675, 19563	II・III	浅鉢	口縁部	XVIII	29.4	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	オリーブ黒	
	125	R21	5439	III	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄橙	褐灰	
	126	R22	6684	II	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	灰黄褐	
	127	3T	1226	II	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	黄灰	
	128	T25	13410	II	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	灰黄	黒	
	129	S23	3169	II	浅鉢	口縁部	XVIII	21.0	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	黒褐	
	130	T25	14581	II	浅鉢	口縁部～胴部	XVIII	19.6	—	—	ミガキ	ミガキ	灰黄褐	黒褐	
	131	Q22	7526	II	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐	灰黄褐	
	132	S23	3107	II	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	にぶい褐	にぶい褐	
	133	T25	7425	II	浅鉢	底部～胴部	XVIII	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい橙	灰白	
	134	R22	20016	II	浅鉢	底部～胴部	XVIII	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	明黄褐	明黄褐	外外面に赤色有り
第18図	135	S22	5517	II	浅鉢	口縁部	XVIII	31.6	—	—	ミガキ	ミガキ	褐	褐	
	136	S22	55, 282, 779	II	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ・ナデ ⁺	ミガキ	褐灰	黒褐	
	137	3T	387	II	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	黄灰	
	138	R22	9424	III	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	褐灰	黒	
	139	T25	19542	III	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	暗灰黄	暗灰黄	
	140	R23	8990	II	浅鉢	口縁部	XVIII	10.4	—	—	ミガキ	ミガキ	褐灰	黄灰	
	141	R24	21169	IV	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	灰黄褐	褐灰	指押さえ
	142	R25	7199	II	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	灰黄褐	褐灰	
	143	3T	1065	III	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	黒褐	黒褐	補修孔あり
	144	S22	55, 185, 166	II	浅鉢	口縁部～胴部	XVIII	27.0	—	—	ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
	145	R23	9146	II	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	黒褐	
	146	S22	7989	II	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	黄灰	
	147	T25	12737	II	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	暗灰黄	黄灰	
第19図	148	S25	18569	III	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	灰褐	灰褐	
	149	3T	1339	III	浅鉢	口縁部	XVIII	18.0	—	—	ミガキ	ナデ ⁺	黄灰	黄灰	
	150	Q24	20224	III	浅鉢	口縁部	XVIII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	黒褐	
	151	Q21	2055	III	浅鉢	口縁部	XIX	9.2	—	—	ナデ ⁺	—	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	153	S22	8086, 8528	II	浅鉢	胴部	XIX	—	—	—	ミガキ	ミガキ	灰黄褐	褐灰	
	152	S23	3101	II	浅鉢	胴部	XIX	—	—	—	ミガキ	ミガキ	黄褐	にぶい黄橙	
	154	R22	20034	III	浅鉢	胴部	XIX	—	—	—	ミガキ	ミガキ	灰	灰	
	155	S22	55, 194, 495	II	浅鉢	胴部	XIX	—	—	—	ミガキ	ミガキ	褐灰	にぶい黄褐	
	156	U24	19152	III	浅鉢	胴部	XIX	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄	灰黄	
	157	R24	1904	II	浅鉢	底部～胴部	XIX	—	—	—	ミガキ	ミガキ	褐灰	にぶい黄橙	
	158	S22	7046	II	浅鉢	底部	XIX	—	9.4	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	暗褐	
	159	S22	20742	II	浅鉢	底部	XIX	—	7.8	—	ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐	暗灰黄	
	160	Q23	7406	II	浅鉢	胴部	XIX	—	—	—	ミガキ	ナデ ⁺	明黄褐	明黄褐	
	161	R23	33, 831, 961	II	浅鉢	底部	XIX	—	6.6	—	ミガキ	ミガキ?	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	162	T26	19042	III	浅鉢	胴部～底部	XIX	—	7.6	—	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
第20図	163	S23	5747	III	甕	口縁部～胴部	—	26.0	—	—	ナデ ⁺	ヘラナデ ⁺	にぶい黄橙	にぶい黄橙	外外面に赤色顔料
	164	S25	19850	III	甕	口縁部	—	22.7	—	—	ヘラナデ ⁺	ヘラナデ ⁺	明黄褐	明黄褐	
	165	R23	9019	II	甕	口縁部～胴部	—	21.0	—	—	ヘラナデ ⁺	ヘラナデ ⁺	にぶい黄褐	にぶい黄橙	
	166	R22	6037	II	甕	胴部	—	—	—	—	ケズリ・ナデ ⁺	ケズリ・ナデ ⁺	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	167	S24	12481	II	甕	胴部	—	—	—	—	ヘラナデ ⁺	ヘラナデ ⁺	にぶい黄橙	浅黄橙	
	168	R23	6384, 4973, 4991, 4965, 10259	II・III	甕	口縁部～胴部	—	23.4	—	—	ハケ目	ハケ目	浅黄橙	黄橙	
	169	R23	11412	II	甕	胴部	—	—	—	—	ケズリ	ハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄	
	170	S25	12699, 12700, 13098, 12884	II	甕	口縁部～胴部	—	32.0	—	—	ケズリ・ナデ ⁺	ヘラナデ ⁺	灰褐	にぶい黄褐	
	171	R23	4405, 4959	II	甕	胴部	—	—	—	—	ハケ目	ナデ ⁺	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	172	—	一括	表土	甕	脚部	—	—	9.6	—	工具ナデ・ケズリ	ナデ ⁺	にぶい橙	にぶい橙	
第21図	173	T25	16744	III	甕	脚部	—	—	10.0	—	—	ケズリ・ナデ ⁺	橙	にぶい橙	
	174	S25	8391	II	甕	脚部	—	—	9.5	—	工具ナデ ⁺	指圧痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	175	S26・T26	15730	II	鉢	脚部	—	—	6.5	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	浅黄	浅黄	
	176	T25	14065	II	壺	頸部	—	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	177	S26	17690, 15454	II	壺	胴部	—	—	—	—	ヘラナデ ⁺	ヘラナデ ⁺	にぶい黄橙	灰黄橙	
	178	S26・T26	16002, 15870, 18236, 15273, 15862, 17099, 15865, 15458, 15611, 15045, 15276	II・III	壺	胴部	—	—	—	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	黄橙	浅黄橙	

2 古代の調査

(1) 遺構

古代の遺構については、R調査区から土器集中遺構が8基検出された。掘り込みを伴い、土坑内に多数の土師器や須恵器が集中して出土したものと、掘り込みを伴わず平面的に遺物が散在するものが見られた。また、R・S調査区からは、多数の杭列が検出されたが、時期等詳細不明なものがほとんどであった。

土器集中遺構（第22～39図）

R調査区

土器集中遺構1（第22図）

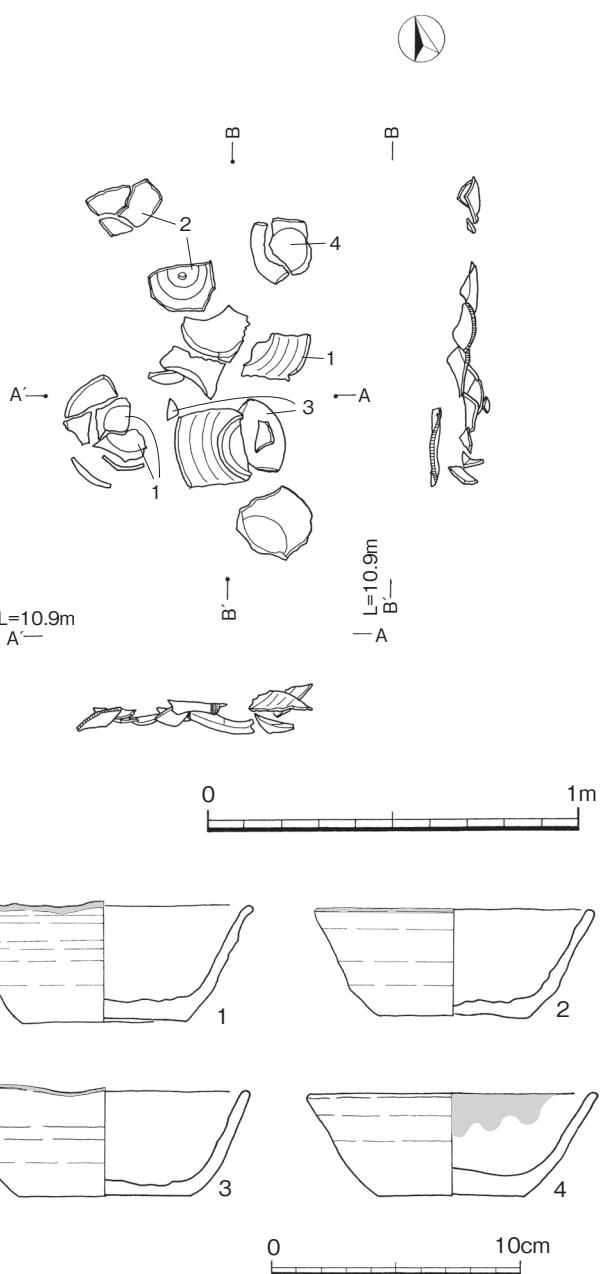
S-22区、II層で検出された。掘り込みは確認されなかった。遺物は20点出土し、4点を図化した。

1～4は土師器の壊である。4点とも外面体部下位に回転ヘラケズリが施され、そのため体部は丸みを帯びて立ち上がるようみえる。口縁部はやや外反するもの、直線的に伸びるものがある。

土器集中遺構2（第23・26図）

R-22区、II層で検出された。掘り込みは確認されなかった。遺物は土師器の壊を中心に34点出土し、そのうち11点を図化することができた。

1～8は土師器の壊である。1は体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。内外面とも丁寧なナデ調整が施される。2は体部と底部の境に回転ヘラケズリが施されるため、体部は丸く立ち上がる。口縁部は直線的に伸びる。3・4は体部が直線的に立ち上がり、口縁部が外反する。体部外面と内面は丁寧なナデ調整が施される。5は壊の口縁部である。体部は丸みをもって立ち上がる。外面体部下位に回転ヘラケズリが認められる。6～8は壊の底部である。3点とも外面体部下位に回転ヘラケズリが施される。9は壊と思われるが、体部の器壁がやや厚く、他器種の可能性も考えられる。10は赤色土器B類の胴部である。内外面ともミガキ調整されるが、摩耗のため明瞭でない。11は小形の鉢である。外面は回転ヘラケズリのあと、ナデ調整が施される。

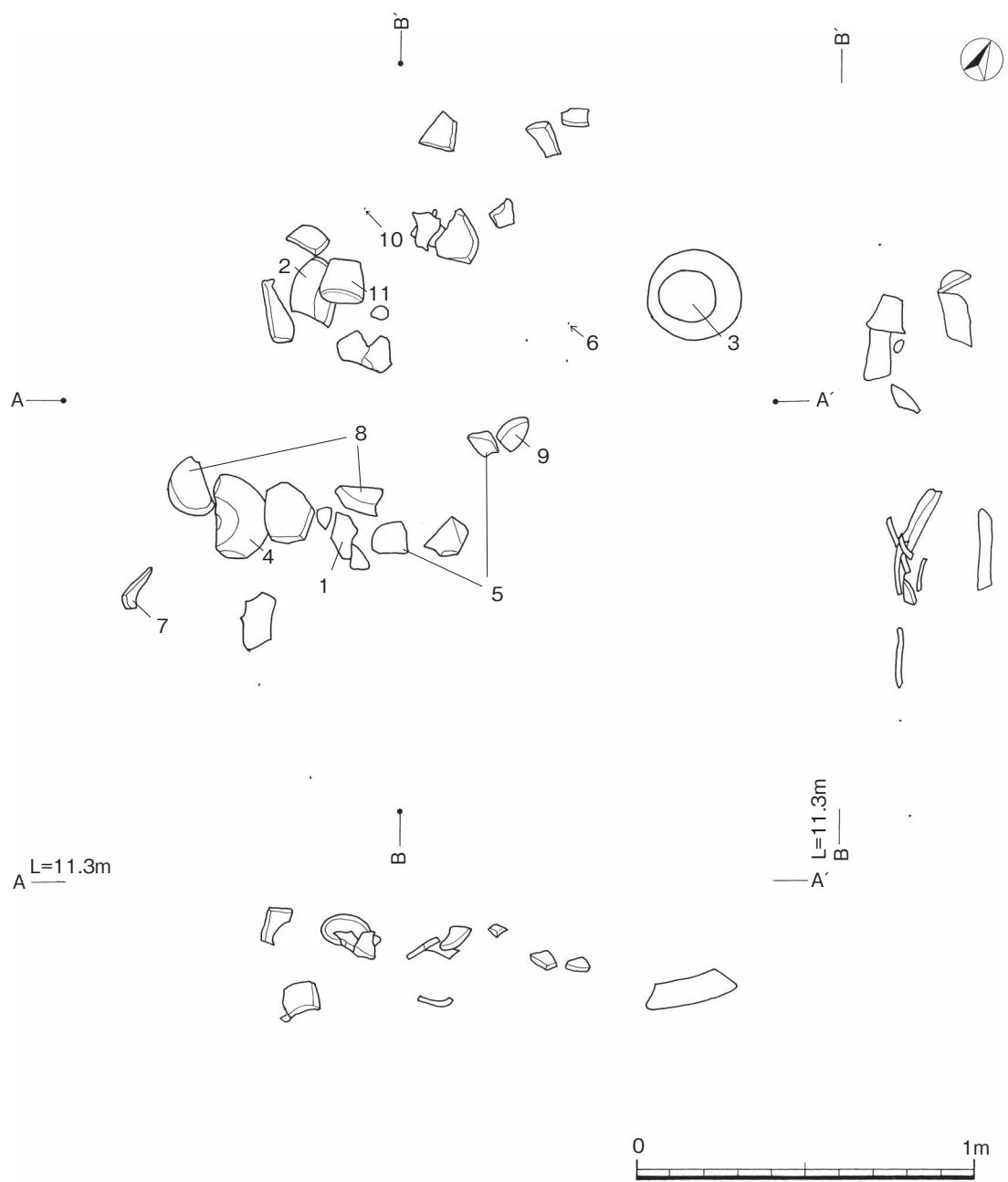


第22図 土器集中遺構1号及び出土遺物

土器集中遺構3（第25・26図）

Q-21区、Ⅱ層で検出された。一部は畠境で削平を受けており、全体の形状等は不明であるが、深さ約10cmの掘り込みが確認され、30点の土師器が出土したが、小片が多く、図化できたのは5点であった。

1・2は、口径約9cm、器高2cm弱の小皿である。底部の切り離しは雑で、器形もやや歪である。3は体部から口縁部が直線的にのびる。体部外面と内面は丁寧なナデが施される。4は椀の口縁部である。「逆ハ」の字状の器形を呈し、大振りである。内面には明瞭ではないが煤の付着が観察さ

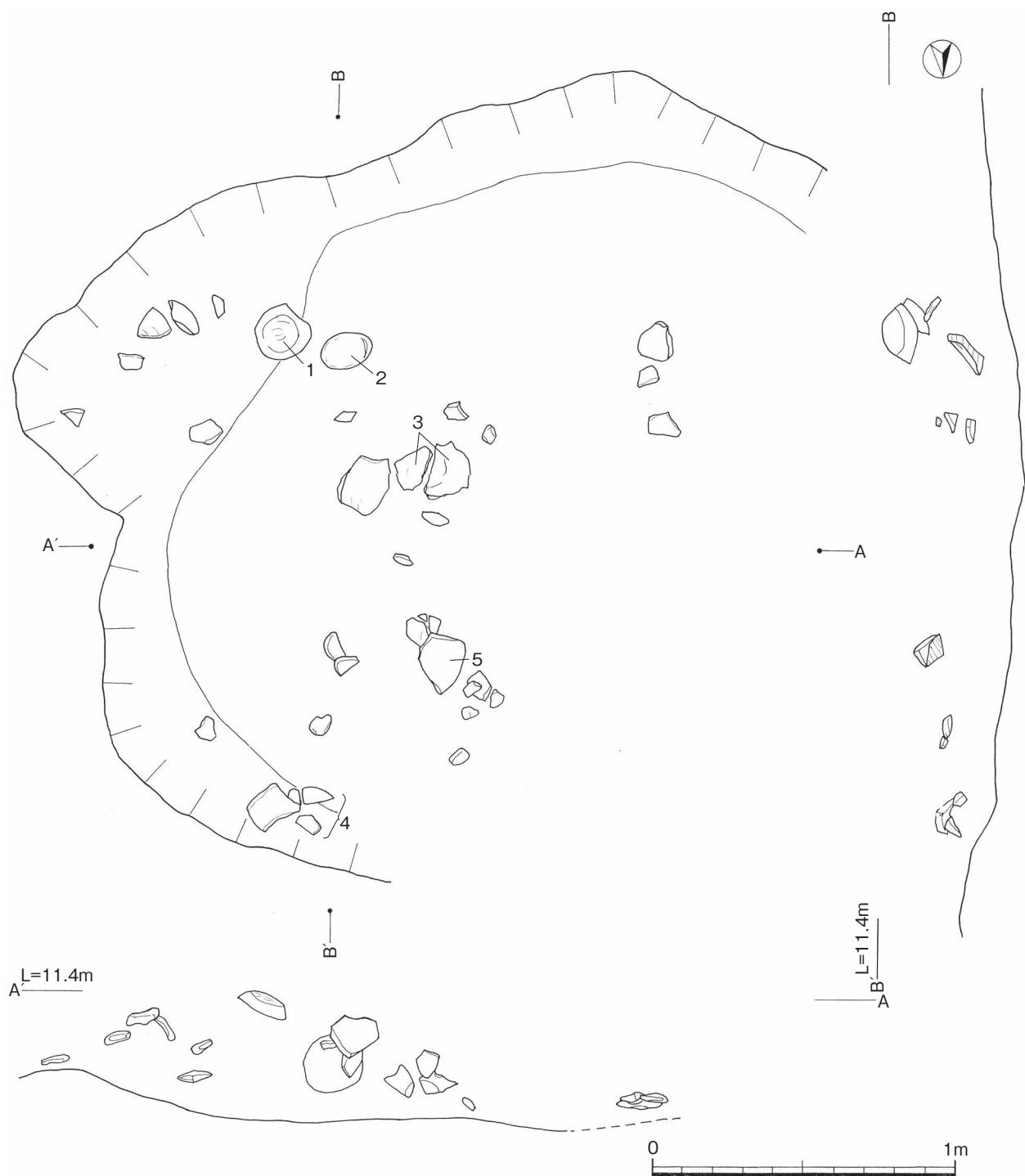


第24図 土器集中遺構2

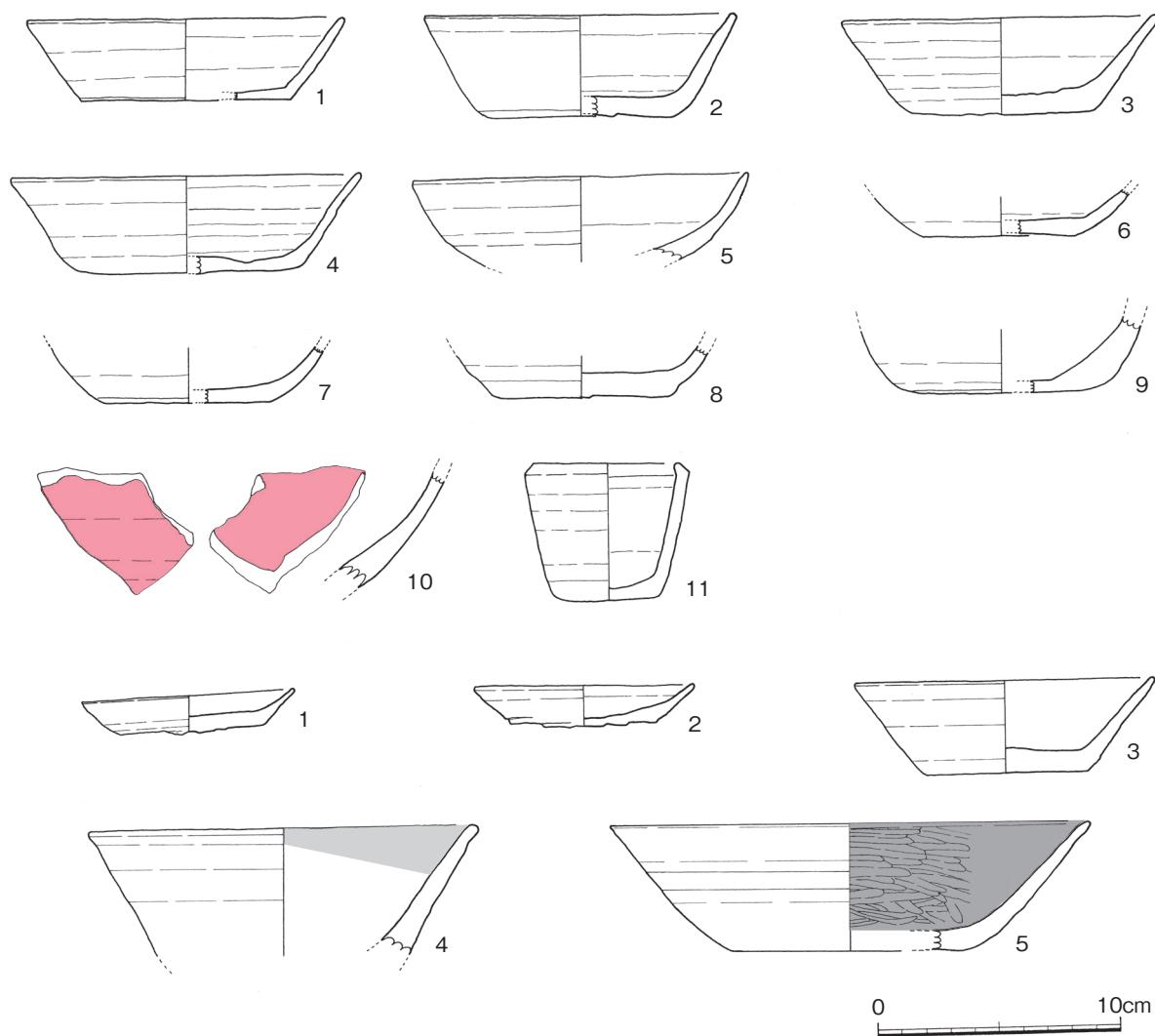
れる。5は黒色土器A類の坏である。内面は横方向のミガキが、体部内面下位には回転ヘラケズリが施される。

土器集中遺構4（第27～29図）

R-21・22区、II層で検出された。掘り込みは確認されなかったが、129点という多量の土師器や須恵器が3m×2mの範囲に平面的に出土した。そのうち29点を図化した。



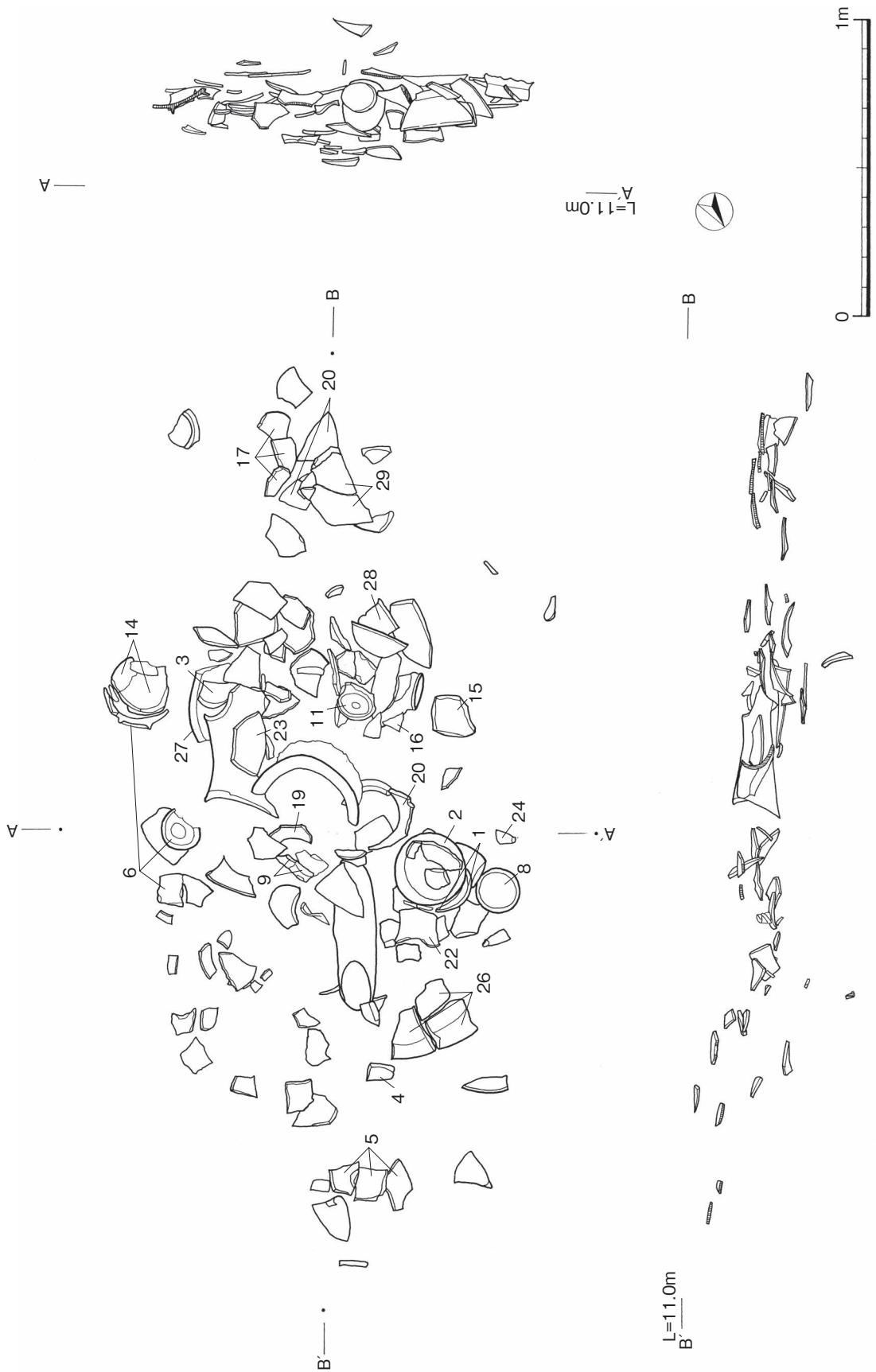
第25図 土器集中遺構3

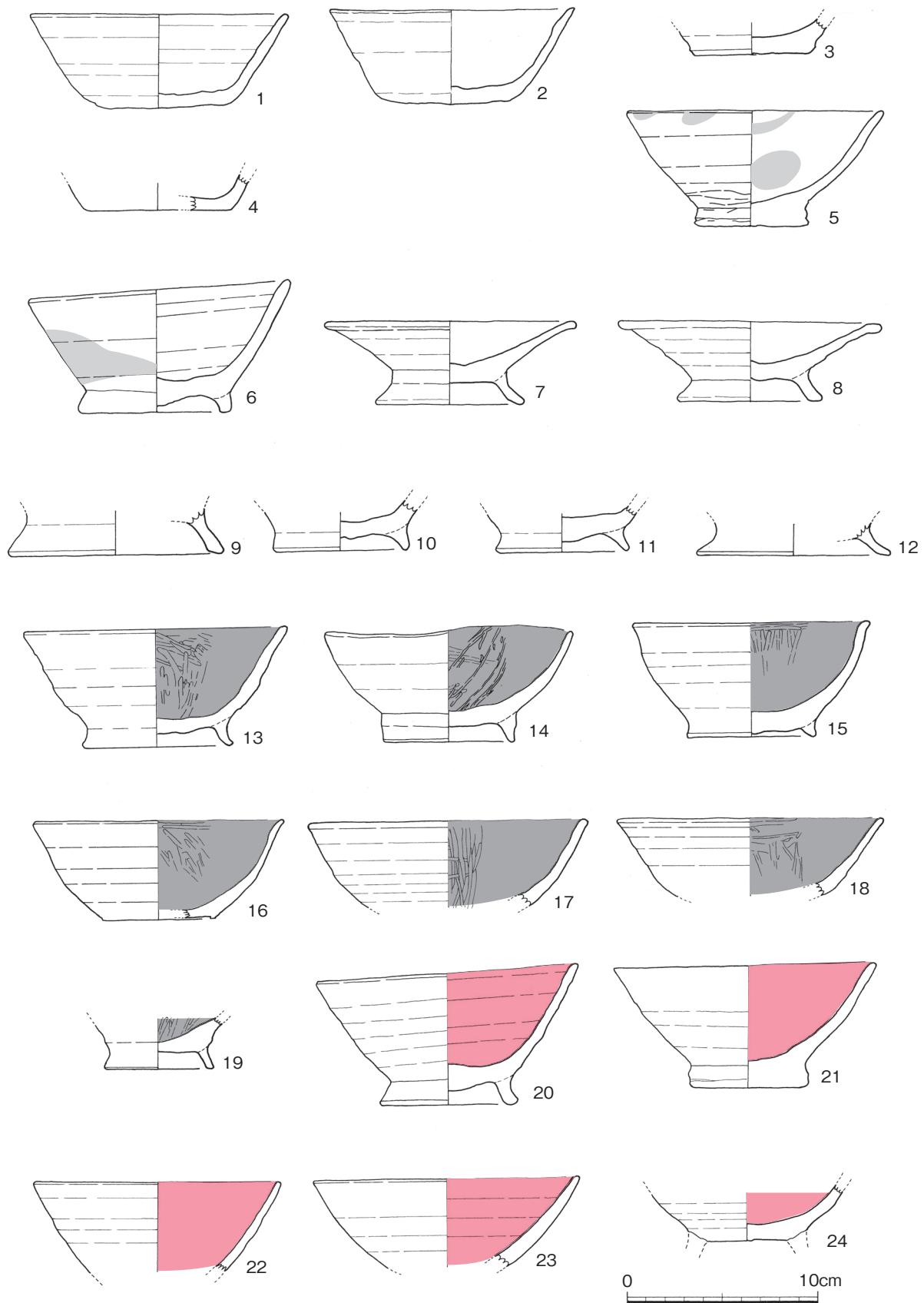


第26図 土器集中遺構2・3 出土遺物

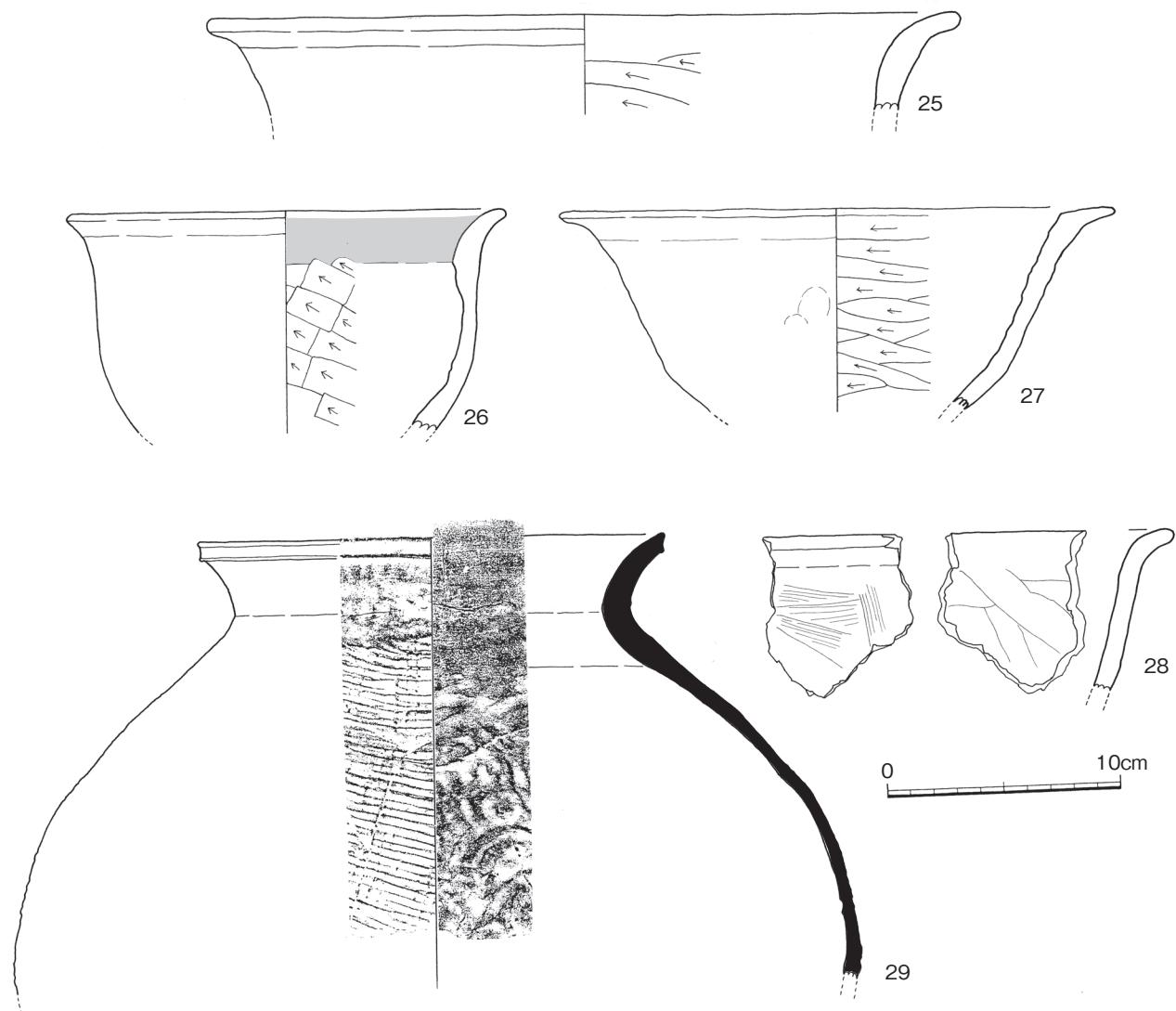
1~28は土師器である。1~4は坏で、体部から口縁部は直線的に伸び、体部と底部の境は回転ヘラケズリが施される。5は高台が充実高台をなす椀である。体部はやや丸みをもって立ち上がり、口縁部は直線的に伸びる。内外面ともナデ調整であるが、一部に不定型なナデが見られる。6は椀である。高台は低く、口径に対して高台径が大きい。また、高台内面は兜巾状に盛り上がる。口縁内面に輪状に煤が付着する。7・8は高台付坏である。内外面とも丁寧なナデが施されるが、体部と高台の接合部の成形がやや雑である。9~12は椀の底部である。13~19は黒色土器A類の椀である。15は高台が短く、底部中央が接地するほどである。16は高台部分が外れ、その後を調整して使用している。17・18は口縁部である。また、16~18は内面中央から口縁部に向けて、細かい放射状のミガキが施され、体部は曲線的に立ち上がる。19は底部である。20~24は赤色土器A類である。内面はミガキが施されるが、摩耗のため不明瞭で、赤色顔料も明瞭でない部分が見られる。20は碗で、体部から口縁部にかけて「逆ハ」の字状に開く。21は「薩摩タイプ」と称される底部が円盤状

第27図 土器器集中遺構4





第28図 土器集中遺構4 出土遺物1



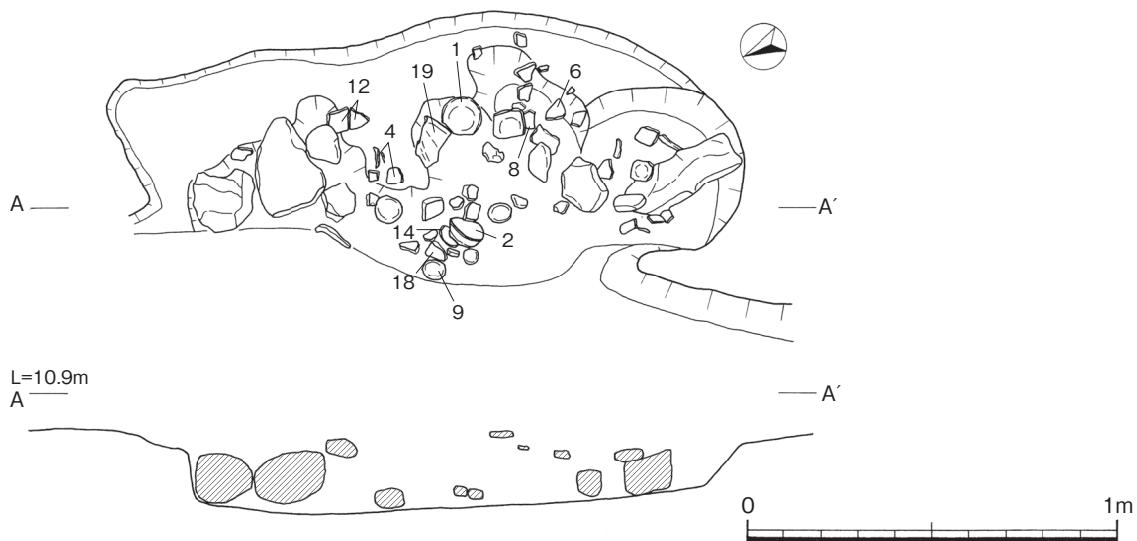
第29図 土器集中遺構4 出土遺物2

を呈する壊である。22・23は口縁部である。24は底部で、高台部分が外れている。25～28は甕である。26は小形のもので、口縁部内面はヘラケズリのため明瞭な稜が残る。27は浅い鍋形を呈するものである。内面は横方向のヘラケズリが施される。29は須恵器の甕である。淡黄色のもので、外面には横位の平行タタキが施され、内面は同心円タタキが施される。

土器集中遺構5（第30～32図）

R-21区、II層上面で検出された。一部削平を受けており、全体の平面プラン等は不明である。遺物は土師器を中心に126点出土した。そのうち23点を図化した。

1～14・16～23は土師器で、15は須恵器である。1は壊である。体部は曲線的に立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。2～10は碗である。2～4は体部から口縁部にかけての器形が逆「ハ」の字状になるものである。6・7は口縁部である。8～10は底部である。11～14は黒色土器A類の碗である。11～13は口縁部である。体部が曲線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。14は底部である。高台は外れており、その部分を整えて使用している。15は須恵器の壺の底部である。16～23は土師器の甕で、胴部が張らないタイプのものである。19は外面に下から上方向のハケ目が



第30図 土器集中遺構5

観察される。22・23は小形のタイプである。

土器集中遺構6（第33～35図）

R-23区、Ⅲ層（アカホヤ上面）で検出された。掘り込みの埋土はⅡ層であることから、実際の掘り込み面はⅡ層であると思われる。掘り込みはⅣ層まで掘られている。遺物は土師器を中心に89点出土している。そのうち20点を図化した。すべて土師器である。

1は小皿である。底部の切り離しは雑で、平坦になっていない。口唇部の一部に煤が付着していることから灯明皿として使用されたものと思われる。2～11は壊である。2・3は体部が直線的に立ち上がり、口縁部で外反するものである。4～6は口縁部である。5は赤色顔料が内外面の一部に塗布された痕跡が残る。7～11は底部である。8は底部の切り離しが雑であるが、その他は切り離し後ナデ調整が施され、丁寧なつくりとなっている。12は黒色土器A類の高台付の壊である。13～20は甕である。18は器壁が厚手で、口縁部が短い。19は、外面に凹凸の強いヘラ状工具を使用したと思われる痕跡がシャープなハケ目として残る。20は小形のものである。

土器集中遺構7（第36・37図）

R-23区、Ⅱ層で検出された。ひょうたん型の不定型な平面プランで、深さ約10～30cmの掘り込みが確認された。遺物は36点出土し、8点を図化した。すべて土師器である。

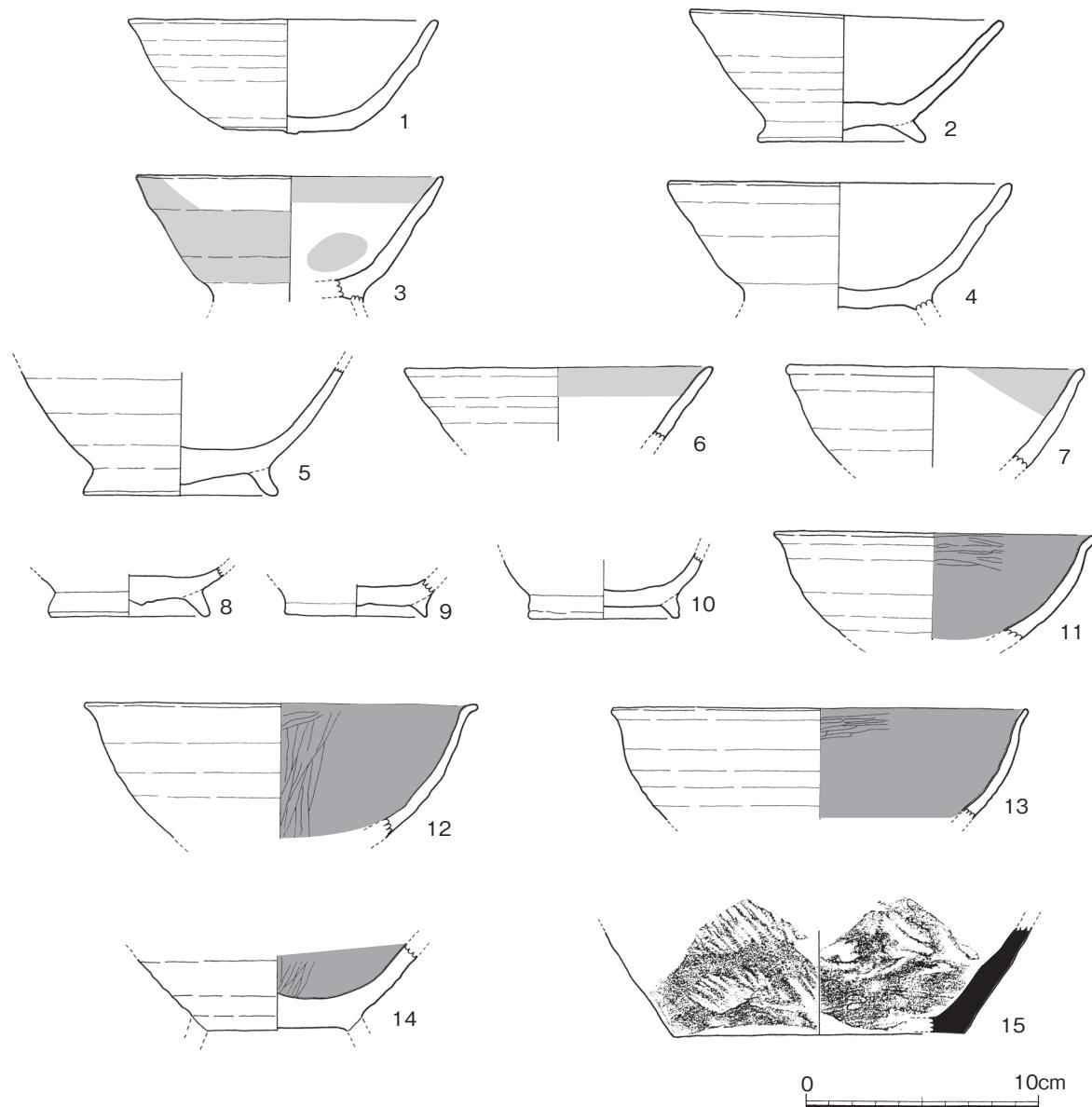
1～5は壊である。体部から口縁部が直線的にのびるものである。1の外面には煤が付着しており、灯明皿として使用された可能性が考えられる。5は底部である。6～8は甕である。6は胴部がやや膨らむものである。7は小形のものである。

土器集中遺構8（第38・39図）

R-23区、Ⅲ層で検出された。掘り込みが確認されていたが、埋土はⅡ層で出土する遺物は古代

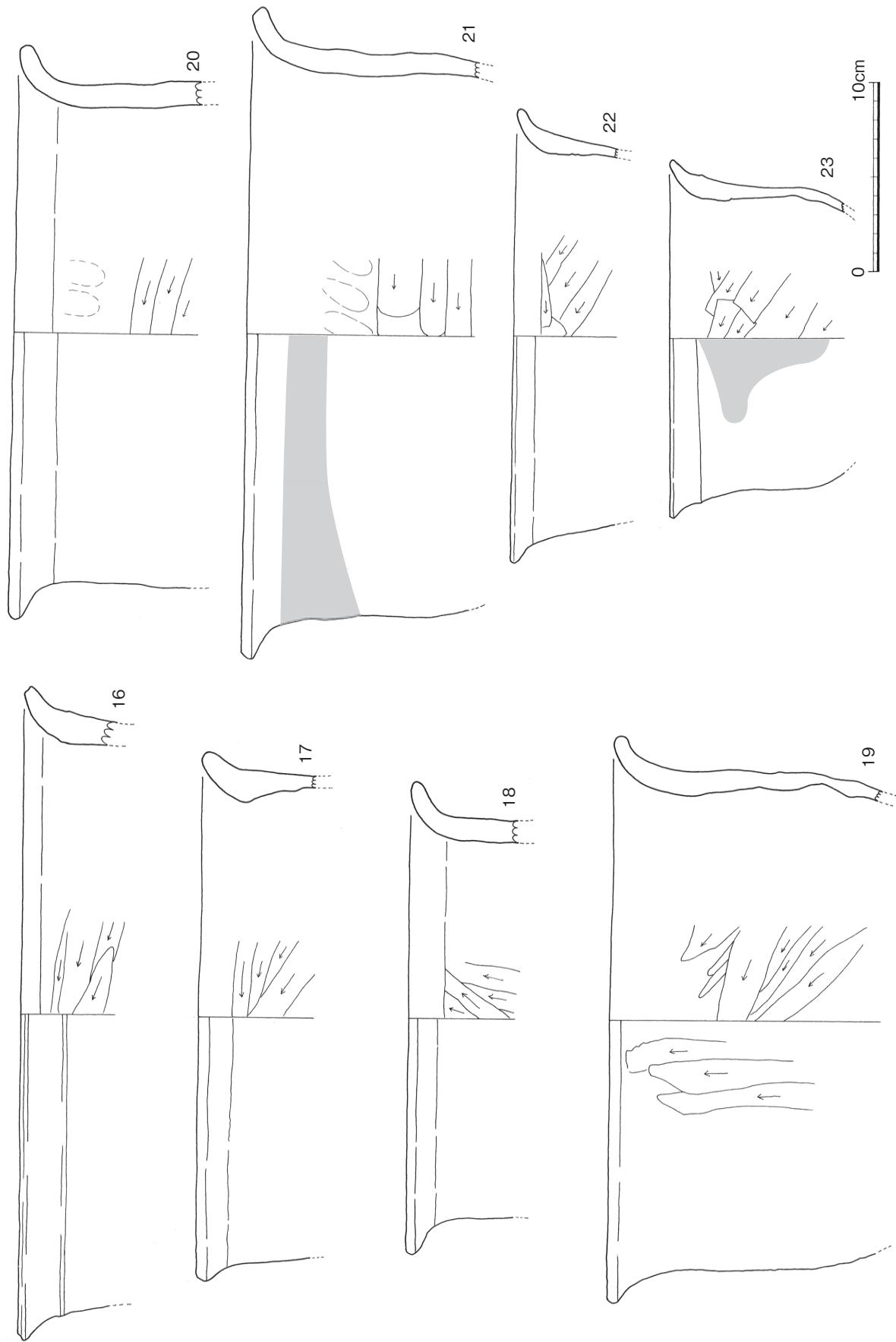
の土師器及び須恵器であることから、実際はⅡ層から掘り込んでいたものと思われる。掘り込みの一部には、赤く焼けた焼土と思われる箇所があったが、床着の古代の遺物は出土しなかった。焼土域の周辺はⅣ層（アカホヤ火山灰）が見られることから、土器集中遺構と焼土域が同一時期のものであるとは断定できず、焼土域の一部にかぶるように、土器集中遺構が形成された可能性が考えられる。遺物は土師器・須恵器が34点出土した。そのうち7点を図化した。

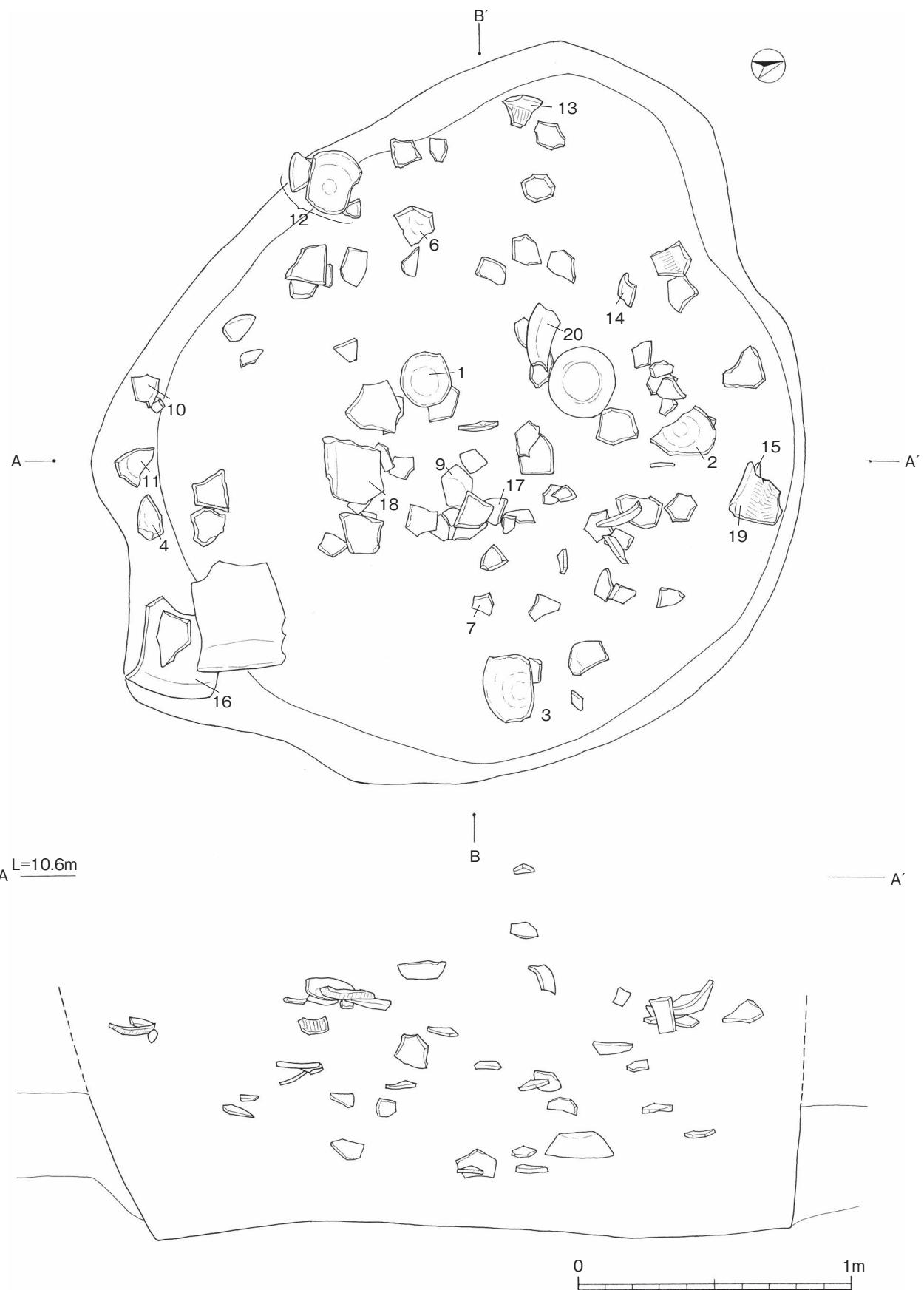
1・2・4は須恵器である。1は蓋である。2は壺である。内面には火櫻が観察される。3は土師器で、赤色土器A類の椀である。高台径が大きく、体部から口縁部にかけての器形が、直線的に延びるものである。4は口縁部で、体部はやや丸みを帯びる。5・6は土師器の甕である。6は体部がやや膨らむものである。7は須恵器の甕の胴部である。他にも同一個体と思われる破片が多数出土している。



第31図 土器集中遺構5 出土遺物1

第32図 土器集中遺構5 出土遺物2

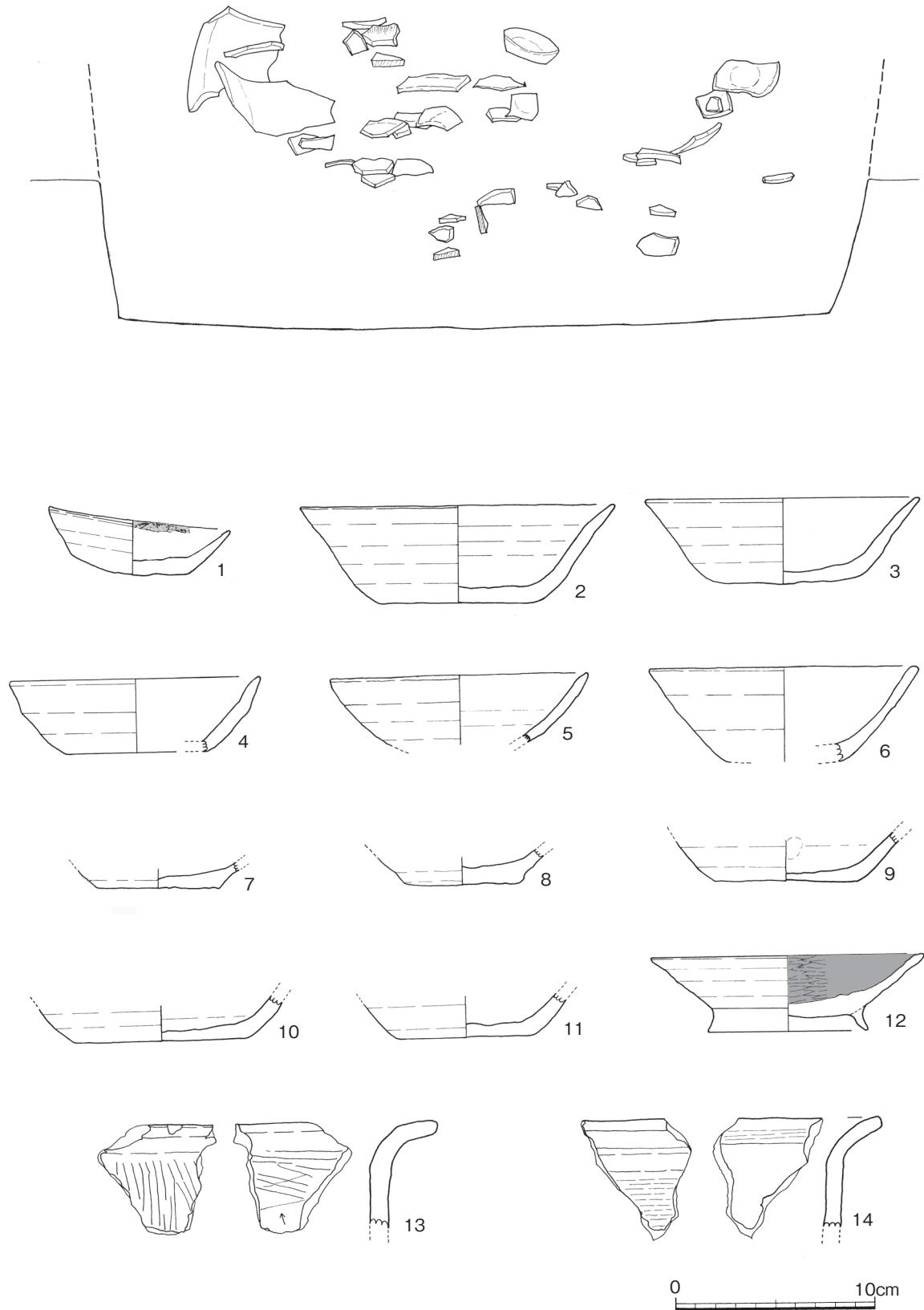




第33図 土器集中遺構 6

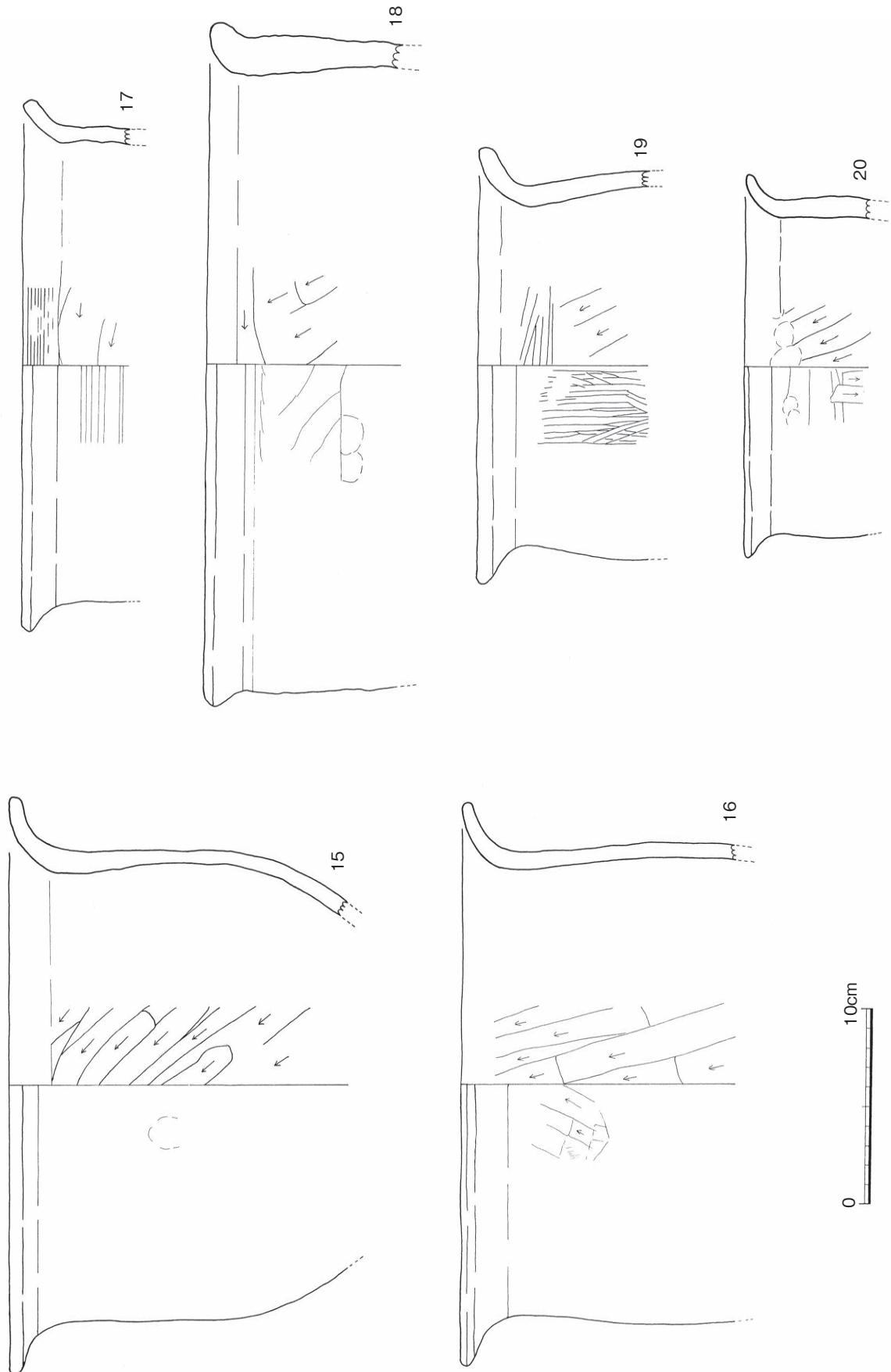
B ————— L=10.6m

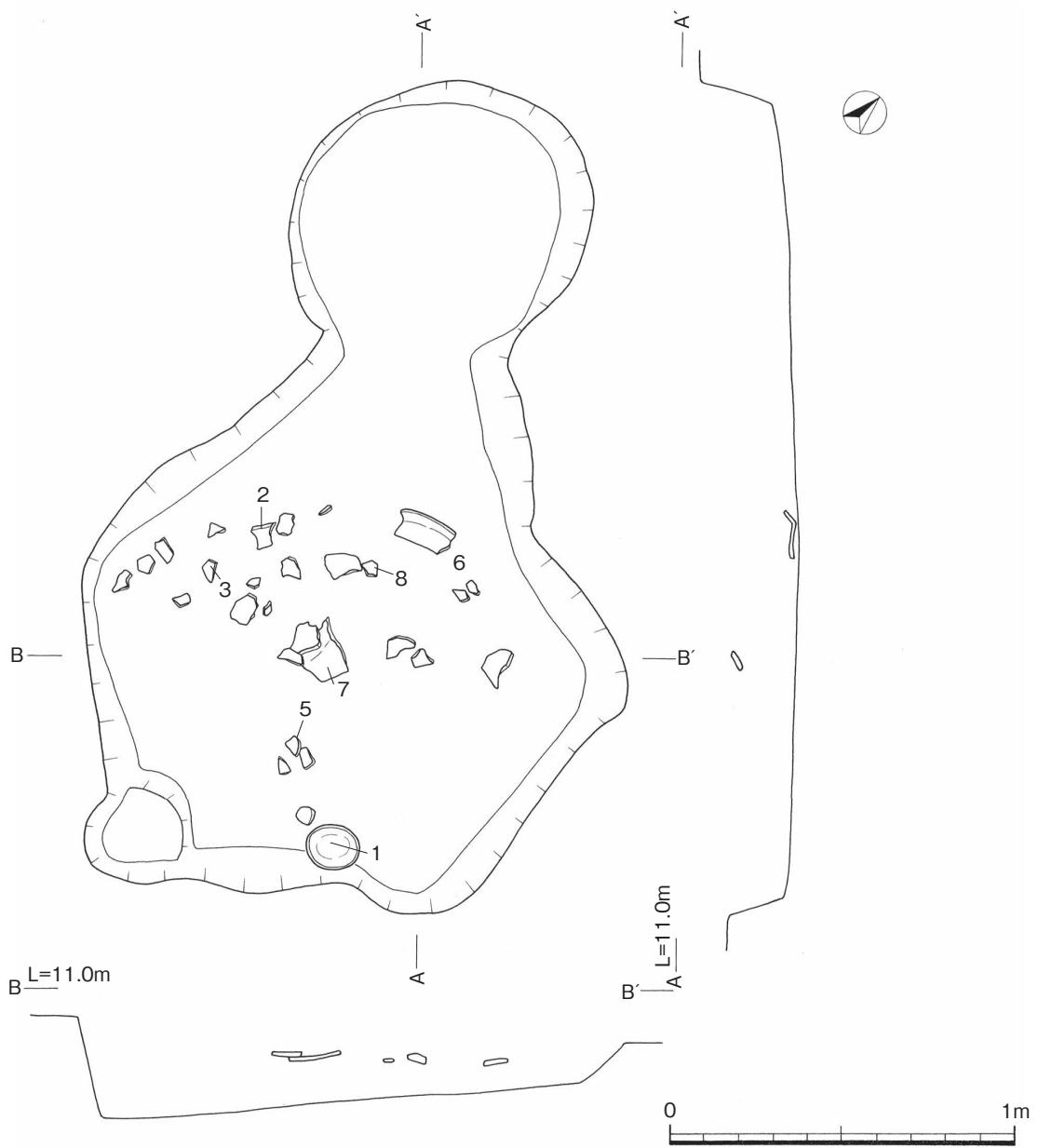
————— B'



第34図 土器集中遺構6断面図及び出土遺物1

第35図 土器集中遺構6 出土遺物2

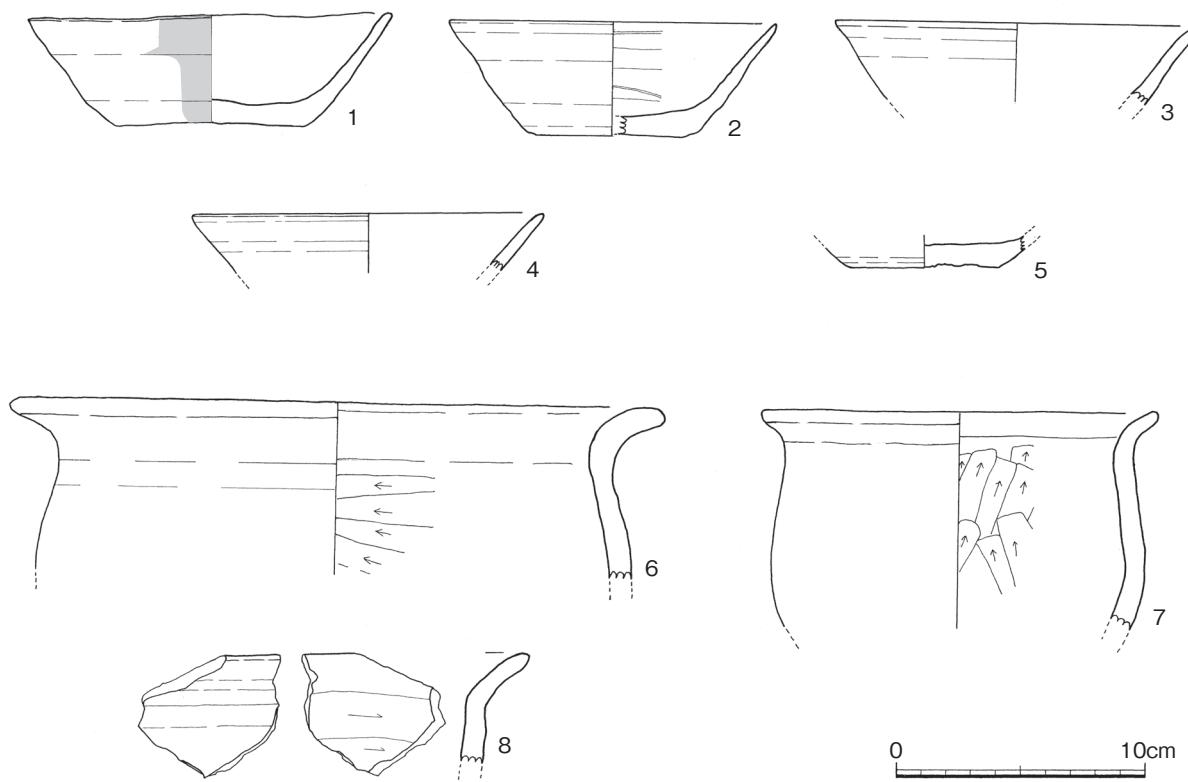




第36図 土器集中遺構 7

土器集中遺構観察表 1

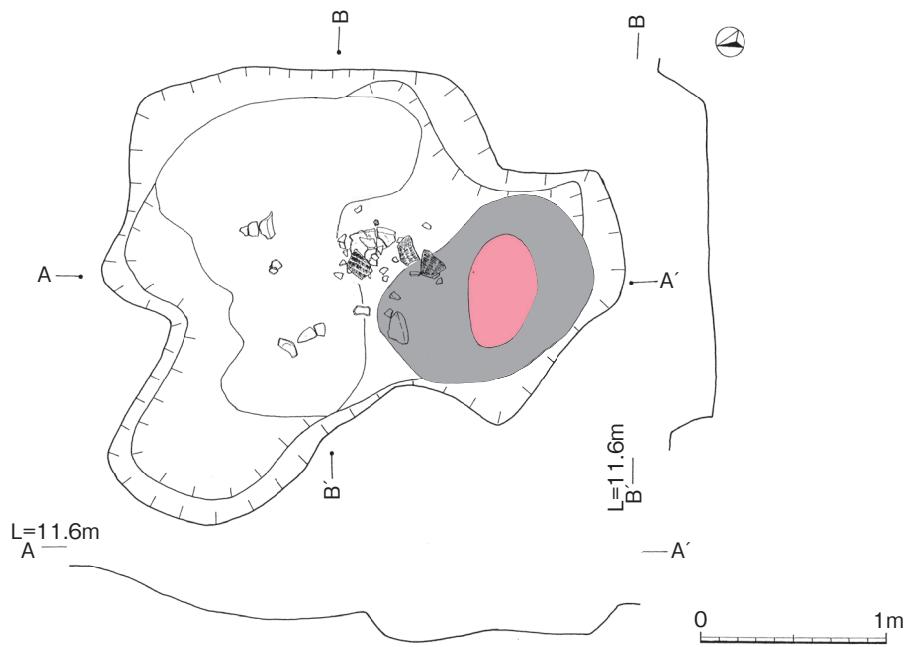
掲載番号	出土区	取上番号	遺構名	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			胎土			焼成	調整		備考		
								口径	底径	器高	石英	長石	角閃石		外面	内面			
第22図	1	S-22	3	土集1	土師器	坏	口縁~底部	にぶい黄橙色	14.0	6.6	4.8				良	ナデ	回転 ヘラケズリ	ナデ	ヘラ切り、小石粒含む
	2	S-22	16, 18, 7, 17	土集1	土師器	坏	口縁~底部	(外)にぶい黄色 (内)にぶい黄橙色	11.4	6.0	4.3				良	ナデ	回転 ヘラケズリ	ナデ	ヘラ切り、小石粒含む
	3	S-22	21, 8	土集1	土師器	坏	口縁~底部	黄褐色	11.8	7.0	4.3				良	ナデ	回転 ヘラケズリ	ナデ	ヘラ切り、小石粒含む
	4	S-22	4, 19	土集1	土師器	坏	口縁~底部	明褐色	11.6	6.0	4.1				良	ナデ	回転 ヘラケズリ	ナデ	ヘラ切り、小石粒含む
第26図	1	R-22	17	土集2	土師器	坏	口縁~底部	黄橙色	13.0	8.6	3.3				良	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 赤色の石粒含む 9世紀代
	2	R-22	32	土集2	土師器	坏	口縁~底部	橙色	12.5	7.8	3.4				良	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 赤色の石粒含む 9世紀代
	3	R-22	30	土集2	土師器	坏	完形	にぶい黄橙色	13.2	7.8	4.0				良	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 赤色の石粒含む 小石粒含む



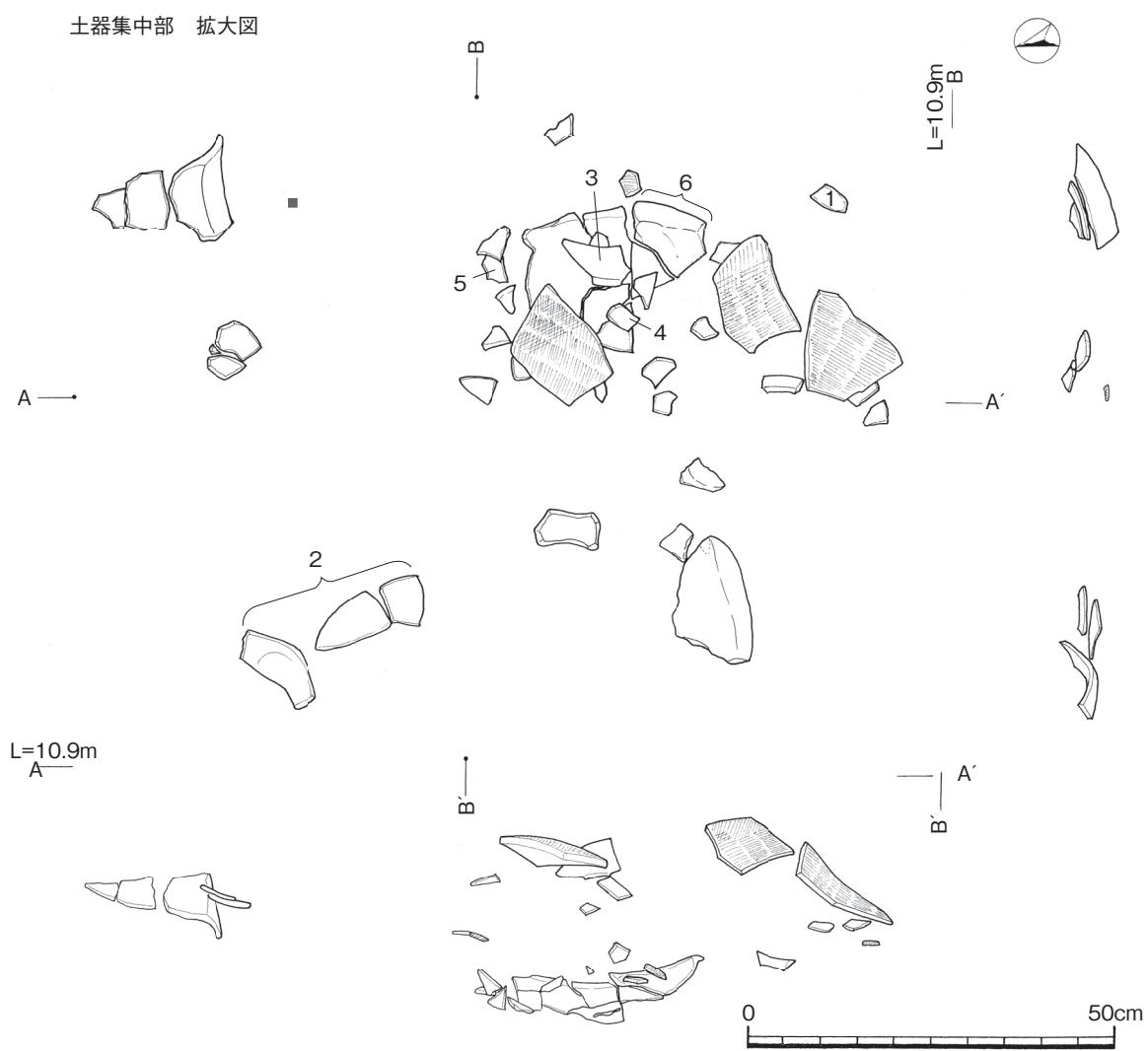
第37図 土器集中遺構7 出土遺物

土器集中遺構観察表2

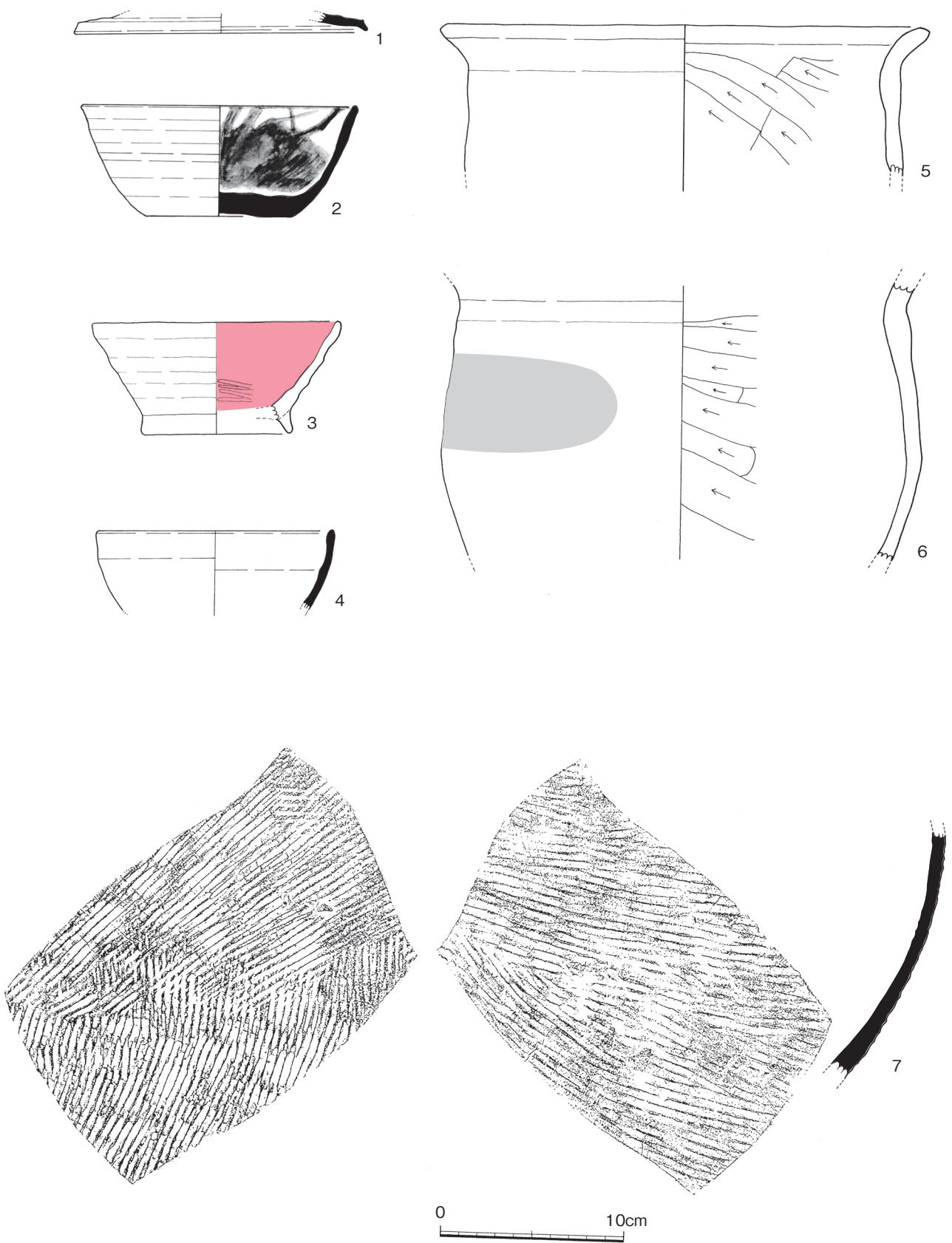
插図番号	掲載番号	出土区	取上番号	遺構名	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			胎土			焼成	調整		備考	
									口径	底径	器高	石英	長石	角閃石		外側	内面		
第26図	4	R-22	31	土集2	土師器	坏	口縁～底部	(外) 黄橙色 (内) にぶい黄橙色	14.3	7.5	4.0					良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 小石粒含む
	5	R-22	20	土集2	土師器	坏	口縁～胴部	淡橙色	13.7	—	—					良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 赤色の石粒含む
	6	R-22	4	土集2	土師器	坏	底部	黄褐色	—	6.2	—					良	ナデ	ナデ	ヘラ切り
	7	R-22	29	土集2	土師器	坏	底部	橙色	—	6.6	—					良	ナデ	ナデ	ヘラ切り
	8	R-22	15, 27	土集2	土師器	坏	底部	(外) 橙色 (内) 浅黄橙色	—	7.0	—					良	ナデ	ナデ	ヘラ切り
	9	R-22	9	土集2	土師器	坏?	底部	橙色	—	6.6	—					良	ナデ	ナデ	ヘラ切り
	10	R-22	1	土集2	赤色土器B類	椀	胴部	橙色	—	—	—					良			ヘラ切り 小石粒含む
	11	R-22	11	土集2	土師器	鉢	完形	(外) にぶい橙色 (内) 浅黄橙色	7.6	3.8	5.7					良	ナデ	ナデ	ヘラ切り 小石粒含む
	1	R-22	19	土集3	土師器	皿	完形	浅黄橙色	8.9	6.0	1.5					良	ナデ	ナデ	ヘラ切り 10世紀中葉
	2	R-22	18	土集3	土師器	皿	完形	浅黄橙色	9.2	6.1	1.7					良	ナデ	ナデ	ヘラ切り
第28図	3	R-22	13	土集3	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙色	12.4	6.6	3.8					良	ナデ	ナデ	ヘラ切り
	4	R-22	1	土集3	土師器	椀	口縁～底部	(外) にぶい黄橙色 (内) 橙色	7.5	—	—					良	ナデ	ナデ	
	5	R-22	10, 22, 23	土集3	黒色土器A類	坏	口縁～底部	(外) 明黄褐色 (内) 黒色	19.8	9.8	5.2					良	ナデ	ミガキ	ヘラ切り後ナデ
	1	R-21	8, 9, 10, 101, 102	土集4	土師器	坏	口縁～底部	(外) にぶい黄橙色 (内) 浅黄橙色	13.4	5.9	4.8					良	ナデ	回転ヘラケズリ	ナデ
	2	R-21	11	土集4	土師器	坏	完形	(外) にぶい橙色 (内) 橙色	12.6	4.0	4.9					良	ナデ	回転ヘラケズリ	ナデ
	3	R-21	88	土集4	土師器	坏	底部	にぶい黄橙色	—	5.8	—					良	ナデ	ナデ	ヘラ切り 小石粒含む
	4	R-21	23	土集4	土師器	坏	底部	橙色	—	7.4	—					良	ナデ	ナデ	ヘラ切り 赤色の石粒含む
	5	R-21	19, 24, 25, 26	土集4	土師器	坏	完形	(外) 灰白色 (内) 浅黄橙色	13.3	5.9	6.0					良	ナデ	ナデ	ヘラ切り 充実高台
	6	R-21	95, 47, 105, 44	土集4	土師器	椀	完形	にぶい黄橙色	13.6	8.0	6.8					良	ナデ	ナデ	小石粒含む
	7	R-21	103	土集4	土師器	高台付坏	口縁～底部	浅黄橙色	13.0	7.6	4.3					良	ナデ	ナデ	小石粒含む
	8	R-21	129, 6	土集4	土師器	高台付坏	口縁～底部	浅黄橙色	13.6	7.6	4.0					良	ナデ	ナデ	
	9	R-21	51	土集4	土師器	椀	底部	にぶい黄橙色	—	11.0	—					良	ナデ	ナデ	小石粒含む
	10	R-21	79	土集4	土師器	椀	底部	(外) にぶい黄橙色 (内) 浅黄橙色	—	7.0	—					良	ナデ	ナデ	小石粒含む



土器集中部 拡大図



第38図 土器集中遺構8



第39図 土器集中遺構8 出土遺物

土器集中遺構観察表3

捕団番号	掲載番号	出土区	取上番号	遺構名	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			胎土			焼成	調整		備考	
									口径	底径	器高	石英	長石	角閃石	その他	外面	内面		
第28図	11	R-21 ・22	60	土集4	土師器	椀	底部	浅黄橙色	—	6.6	—					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	赤色の石粒含む
	12	R-21 ・22	126	土集4	土師器	椀	底部	(外) 淡黄色 (内) 灰白色	—	9.8	—					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	
	13	R-21 ・22	93	土集4	黒色土器A類	椀	口縁～底部	(外) 浅黄橙色 (内) 黒色	13.8	7.6	6.1					良	ナデ ^イ	ミガキ	小石粒含む 赤色の石粒含む
	14	R-21 ・22	93, 94	土集4	黒色土器A類	椀	口縁～底部	(外) 灰白色 (内) 鍋灰色	13.0	6.8	5.7					良	ナデ ^イ	ミガキ	
	15	R-21 ・22	57, 14	土集4	黒色土器A類	椀	口縁～底部	(外) にぶい黄橙色 (内) 黒褐色	12.2	6.6	5.9					良	ナデ ^イ	ミガキ	
	16	R-21 ・22	108, 109, 58	土集4	黒色土器A類	椀	口縁～底部	(外) 浅黄橙色 (内) 黒色	12.8	6.0	5.2					良	ナデ ^イ	ミガキ	
	17	R-21 ・22	73, 74, 75	土集4	黒色土器A類	椀	口縁～胴部	(外) にぶい黄橙色 (内) 黒褐色	14.4	—	—					良	ナデ ^イ	ミガキ	
	18	R-21 ・22	80	土集4	黒色土器A類	椀	口縁～胴部	(外) にぶい黄橙色 (内) 黒褐色	14.0	—	—					良	ナデ ^イ	ミガキ	
	19	R-21 ・22	49	土集4	黒色土器A類	椀	底部	(外) にぶい黄橙色 (内) 黒褐色	—	5.6	—					良	ナデ ^イ	ミガキ	赤色の石粒含む
	20	R-21 ・22	72, 76, 54	土集4	赤色土器A類	椀	口縁～底部	(外) 浅黄橙色 (内) 橙色	13.8	7.2	7.3					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	
	21	R-21 ・22	114, 115, 116, 117, 124, 67	土集4	赤色土器A類	椀	ほぼ完形	(外) 灰白色 (内) 淡橙色	13.8	5.4	6.5					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	ヘラ切り小石粒含む
	22	R-21 ・22	15	土集4	赤色土器A類	椀	口縁～胴部	(外) 浅黄橙色 (内) 橙色	12.8	—	—					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	赤色の石粒含む
	23	R-21 ・22	91	土集4	赤色土器A類	椀	口縁～胴部	(外) にぶい橙色 (内) 橙色	13.8	—	—					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	
	24	R-21 ・22	7	土集4	赤色土器A類	椀	底部	橙色	—	5.0	—					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	高台欠損
第29図	25	R-21 ・22	66	土集4	土師器	甕	口縁部	(外) にぶい褐色 (内) にぶい橙色	32.0	—	—	○				良	ナデ ^イ	ヘラケズリ、 ナデ ^イ	小石粒含む 赤色の石粒含む
	26	R-21 ・22	2, 3, 4, 5	土集4	土師器	甕	口縁～胴部	明赤褐色	19.0	—	—					良	ナデ ^イ	ヘラケズリ、 ナデ ^イ	
	27	R-21 ・22	113	土集4	土師器	甕	口縁～胴部	橙色	24.0	—	—					良	ナデ ^イ	ヘラケズリ、 ナデ ^イ	
	28	R-21 ・22	65	土集4	土師器	甕	口縁部	(外) 橙色 (内) にぶい黄橙色	—	—	—		○		良	ナデ ^イ	ヘラケズリ、 ナデ ^イ	小石粒含む	
第31図	29	R-21 ・22	46, 48, 55, 67, 69, 70, 71, 82, 83, 86, 87, 89, 90, 110, 118	土集4	須恵器	甕	口縁～胴部	淡黄色	20.0	—	—	○				良	格子目タキ	同心目タキ	小石粒含む
	1	R-21	65	土集5	土師器	壺	口縁～底部	にぶい黄橙色	13.0	5.0	4.9					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	ヘラ切り小石粒含む 赤色の石粒含む
	2	R-21	22	土集5	土師器	椀	口縁～底部	浅黄橙色	13.4	7.2	5.7					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	赤色の石粒含む
	3	R-21 13, 70, 4	10,	土集5	土師器	椀	口縁～底部	(外) 暗褐色 (内) にぶい褐色	13.4	6.4	5.4					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	小石粒含む
	4	R-21	5, 6	土集5	土師器	椀	口縁～底部	橙色	15.0	—	—					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	小石粒含む 赤色の石粒含む
	5	R-21	63	土集5	土師器	椀	胴部～底部	(外) 浅黄橙色 (内) 明黄褐色	—	4.2	—					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	赤色の石粒含む
	6	R-21	47	土集5	土師器	椀	口縁～胴部	にぶい黄橙色	13.2	—	—					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	
	7	R-21	24, 32	土集5	土師器	椀	口縁～胴部	にぶい黄橙色	12.4	—	—					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	
	8	R-21	48	土集5	土師器	椀	底部	浅黄橙色	—	6.6	—					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	赤色の石粒含む
	9	R-21	17	土集5	土師器	椀	底部	(外) にぶい橙色 (内) にぶい黄橙色	—	6.2	—					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	赤色の石粒含む
	10	R-21	30	土集5	土師器	椀	底部	橙色	—	6.3	—					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ	小石粒含む
	11	R-21	46	土集5	黒色土器A類	椀	口縁～胴部	(外) にぶい黄橙色 (内) 黒褐色	14.0	—	—					良	ナデ ^イ	ミガキ	小石粒含む
	12	R-21	3, 69	土集5	黒色土器A類	椀	口縁～胴部	(外) 浅黄橙色 (内) 黒褐色	17.0	—	—					良	ナデ ^イ	ミガキ	
	13	R-21	137	土集5	黒色土器A類	椀	口縁部	(外) にぶい黄橙色 (内) 黒色	18.0	—	—					良	ナデ ^イ	ミガキ	
	14	R-21	20	土集5	黒色土器A類	椀	胴部～底部	(外) 浅黄橙色 (内) 黑褐色	—	—	—					良	ナデ ^イ	ミガキ	
	15	S-19 R-21 Q-18 T-20	18, 25, 529	土集5	須恵器	壺	底部	灰色	—	12.6	—					良	平行タキ	ナデ ^イ タキ	10世紀後半
第32図	16	R-21	102, 98	土集5	土師器	甕	口縁部	(外) 暗褐色 (内) 明褐色	34.4	—	—		○			良	ナデ ^イ	ナデ ^イ ヘラケズリ	
	17	R-21	45	土集5	土師器	甕	口縁部	(外) 橙色 (内) 明黃褐色	26.8	—	—		○			良	ナデ ^イ	ナデ ^イ 指頭痕	赤色の石粒含む小石粒含む
	18	R-21	51, 54, 55, 56	土集5	土師器	甕	口縁部	(外) 明赤褐色 (内) 橙色	25.0	—	—		○			良	ナデ ^イ	ナデ ^イ ヘラケズリ	
	19	R-21	68	土集5	土師器	甕	口縁～胴部	橙色	29.6	—	—		○			良	ヘラケズリ リ後ナデ ^イ	ナデ ^イ ヘラケズリ	小石粒含む
	20	R-21	58, 59, 60	土集5	土師器	甕	口縁部	(外) 明黄褐色 (内) にぶい黄橙色	29.8	—	—		○			良	ナデ ^イ	ナデ ^イ ヘラケズリ	
	21	R-21	10	土集5	土師器	甕	口縁部	(外) にぶい褐色 (内) にぶい黄橙色	34.0	—	—					良	ナデ ^イ	ナデ ^イ ケズリ後ナデ ^イ	小石粒含む
	22	R-21	114, 83	土集5	土師器	甕	口縁部	(外) にぶい褐色 (内) 灰黃褐色	23.8	—	—			○		良	ナデ ^イ	ナデ ^イ ヘラケズリ	小石粒含む
	23	R-21	117, 118, 120, 125, 126	土集5	土師器	甕	口縁～胴部	(外) にぶい橙色 (内) 灰黃褐色	19.0	—	—		○			良	ナデ ^イ	ナデ ^イ ヘラケズリ	小石粒含む

土器集中遺構観察表4

備考番号	出土区	取上番号	遺構名	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			胎土			焼成	調整		備考	
								口径	底径	器高	石英	長石	角閃石	その他	外面	内面		
第34図	1	R-22	32	土集6	土師器	皿	ほぼ完形	橙色	9.4	1.3	2.7				良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り 灯明皿小石粒含む
	2	R-23	8	土集6	土師器	皿	口縁～底部	橙色	15.6	7.6	4.9				良	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²	ヘラ切り 小石粒含む
	3	R-23	1	土集6	土師器	皿	口縁～底部	橙色	13.8	6.8	4.3				良	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²	ヘラ切り
	4	R-22	39	土集6	土師器	皿	口縁～胴部	浅黄橙色	12.2	6.9	3.7				良	ナデ ²	ナデ ²	
	5	R-23	47	土集6	土師器	皿	口縁～胴部	(外) 橙色 (内) にぶい橙色	12.8	—	—				良	ナデ ²	ナデ ²	
	6	R-22	33	土集6	土師器	皿	口縁～底部	にぶい黄橙色	13.2	—	—				良	ナデ ²	ナデ ²	赤色の石粒含む
	7	R-23	65	土集6	土師器	皿	底部	にぶい黄橙色	—	6.0	—				良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後 赤色の石粒含む
	8	—	83	土集6	土師器	皿	底部	(外) 灰白色 (内) 明褐色	—	5.6	—				良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り
	9	R-23	51	土集6	土師器	皿	底部	(外) にぶい黄橙色 (内) 浅黄橙色	—	7.0	—				良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
	10	R-22	41	土集6	土師器	皿	胴部～底部	(外) にぶい赤褐色 (内) 明赤褐色	—	8.6	—				良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ² 小石粒含む
	11	R-22	40	土集6	土師器	皿	胴部～底部	明赤褐色	—	6.2	—				良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ² 小石粒含む
	12	R-22	34	土集6	黒色土器A類	高台付坏	口縁～底部	(外) にぶい黄橙色 (内) 黒褐色	13.8	8.0	3.8				良	ナデ ²	ミガキ	9～10世紀代
	13	R-22	35	土集6	土師器	甕	口縁部	(外) にぶい橙色 (内) 橙色	19.8	—	—	○			良	ナデ ²	ハケ目 ナデ ² 、 ヘラケズリ	
	14	R-23	26	土集6	土師器	甕	口縁部	(外) にぶい橙色 (内) 橙色	28.6	—	—	○			良	ヘラナデ ²	ハケ目 ヘラケズリ	小石粒含む
第35図	15	R-23	19	土集6	土師器	甕	口縁～胴部	橙色	29.4	—	—				良	ナデ ²	ナデ ² ヘラケズリ	小石粒含む
	16	R-23	18	土集6	土師器	甕	口縁～胴部	(外) 橙色 (内) 明赤褐色	28.0	—	—	○			良	ナデ ²	ナデ ² ヘラケズリ	小石粒含む
	17	R-23	50	土集6	土師器	甕	口縁部	灰白色	27.4	—	—				良	ヘラナデ ²	ハケ目 ヘラケズリ	
	18	R-22	30	土集6	土師器	甕	口縁部	橙色	34.4	—	—	○			良	ハケ目	ナデ ² ヘラケズリ	小石粒含む
	19	R-23	6	土集6	土師器	甕	口縁部	橙色	22.4	—	—	○			良	ナデ ²	ナデ ² ヘラケズリ	小石粒含む
第37図	20	R-23	24	土集6	土師器	甕	口縁部	橙色	19.4	—	—				良	ナデ ²	ナデ ² ヘラケズリ	
	1	R-23	1	土集7	土師器	坏	ほぼ完形	橙色	14.8	7.6	4.5				良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り 小石粒含む
	2	R-23	13	土集7	土師器	坏	口縁～底部	にぶい黄橙色	13.2	6.0	4.6				良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り 赤色の石粒含む
	3	R-23	6, 11	土集7	土師器	坏	口縁部	明黄褐色	14.8	—	—				良	ナデ ²	ナデ ²	
	4	R-23	一括	土集7	土師器	坏	口縁部	(外) 橙色 (内) 灰白色	14.0	—	—				良	ナデ ²	ナデ ²	
	5	R-23	5	土集7	土師器	坏	底部	(外) 明赤褐色 (内) 橙色	—	6.0	—				良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り 小石粒含む
	6	R-23	24	土集7	土師器	甕	口縁部	(外) 橙色 (内) にぶい黄橙色	25.6	—	—	○			良	ナデ ²	ナデ ² ヘラケズリ	赤色の石粒含む 小石粒含む
	7	R-23	34	土集7	土師器	甕	口縁～胴部	(外) 橙色 (内) にぶい黄色	15.8	—	—	○			良	ナデ ²	ナデ ² ヘラケズリ	小石粒含む
	8	R-23	23	土集7	土師器	甕	口縁部	橙色	—	—	—	○			良	ナデ ²	ナデ ² ヘラケズリ	赤色の石粒含む

備考番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			胎土			焼成	調整		備考	
								口径	底径	器高	石英	長石	角閃石	その他	外面	内面		
第39図	1	R-23	24	土集8	須恵器	蓋	口縁部	灰色	16.0	—					良			

備考番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			胎土			焼成	調整		備考	
								口径	底径	器高	石英	長石	角閃石	その他	外面	内面		
第39図	2	R-23	3, 45	土集8	須恵器	杯	口縁～底部	(外) 褐色灰 (内) にぶい黄橙色	14.8	8.2	6.0				良	ナデ ²	ナデ ²	内面に火襷 小石粒含む
	3	R-23	10	土集8	土師器	高台付椀	口縁～底部	(外) 明黄褐色 (内) 橙色	13.6	8.0	6.1				良	ナデ ²	ナデ ²	小石粒含む
	4	R-23		土集8	須恵器	椀	口縁～胴部	黄褐色	13.0	—	—				良			
	5	R-23	34	土集8	土師器	甕	口縁～胴部	橙色	26.0	—	—	○			良	ナデ ²	ナデ ² ヘラケズリ	小石粒含む
	6	R-23	32, 18	土集8	土師器	甕	胴部	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい褐色	—	—	—	○	○	良	ヘラケズリ	ヘラケズリ、 ナデ ²	金雪母含む 小石粒含む	
	7	R-23	106	土集8	須恵器	甕	胴部	(外) 白灰色 (内) 黄褐色	—	—	—				良	格子目タタキ	平行タタキ	

自然木による護岸状況（第40図 S調査区）

S調査区、P～R-18～20区で検出された。S調査区は北東に向かって開く谷の一部に該当し、その谷頭は良福寺井戸あたりからその先の郷土屋形の方へ延びていると見られる。検出された複数の自然木は、この低湿地の東～北東部に横に倒して置かれたもので、護岸の役割を果たすものと考えられる。

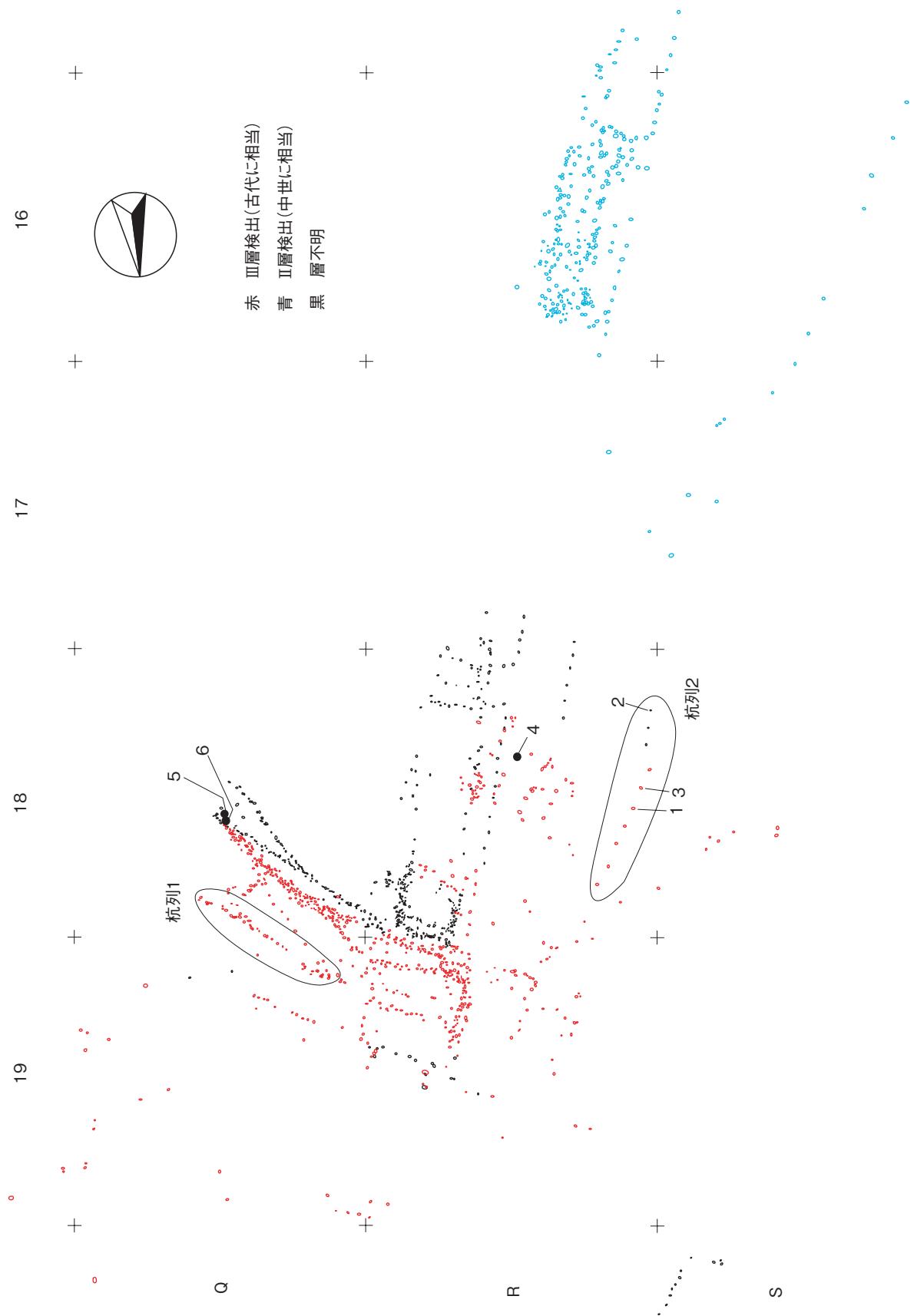
杭列（第41～45図 S調査区）

S調査区のR-15～19区、Q-18・19付近からは、杭列が多数検出された。主にⅡ層（中世）及びⅢ層で検出されているが、層位がはっきりしないものもある。第41図の杭列分布状況では、中世に相当すると思われるⅡ層検出杭列を青色で、古代に相当すると思われるⅢ層検出杭列を赤色で掲載し、層位不明で時期判断がつかない杭列については黒色で掲載した。なお、ここでは古代に相当するⅢ層検出の杭列（第41図、赤色で掲載）について述べておく。

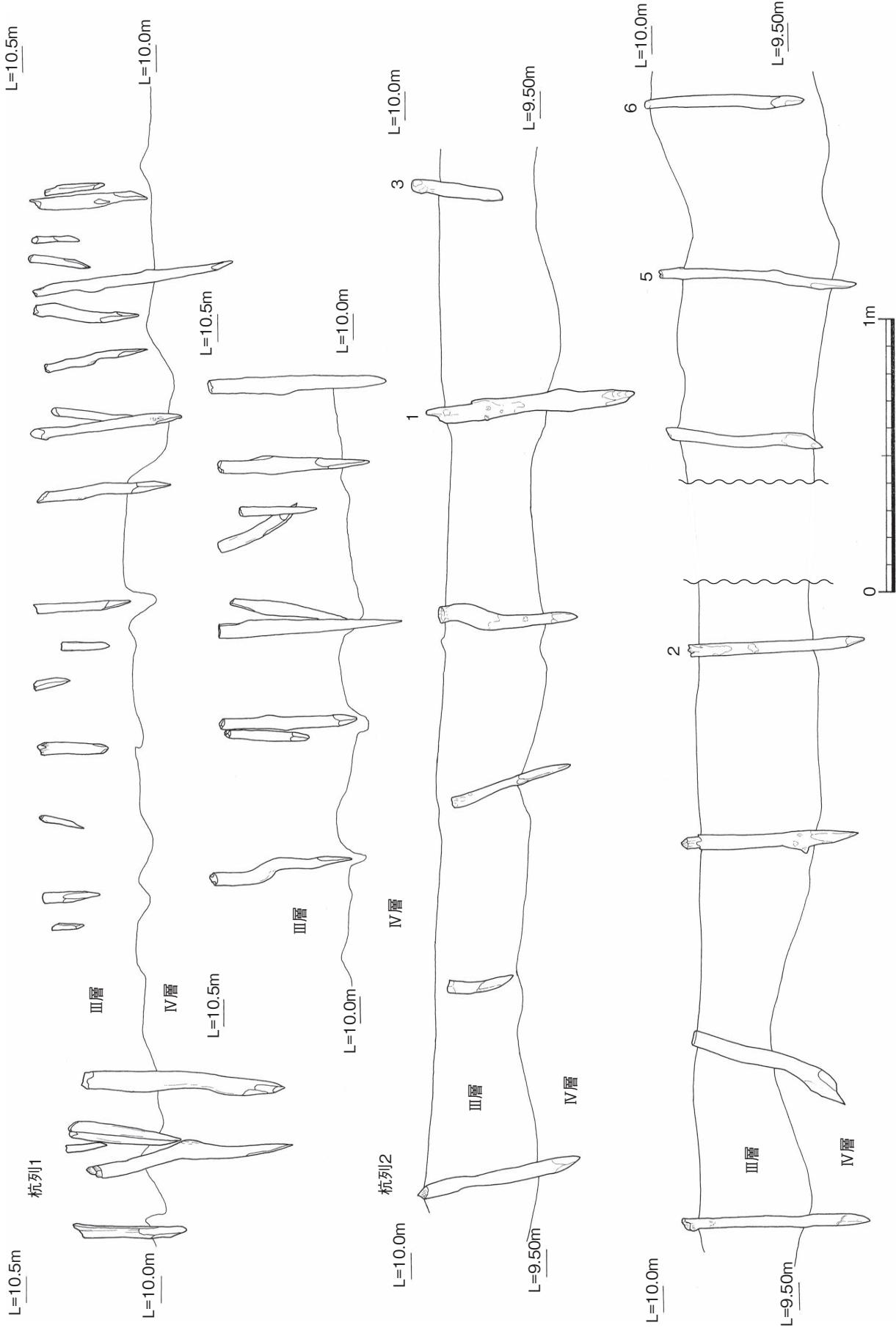


第40図 自然木による護岸状況（S 調査区）

第41図 桁列分布状況 (S=1/200)



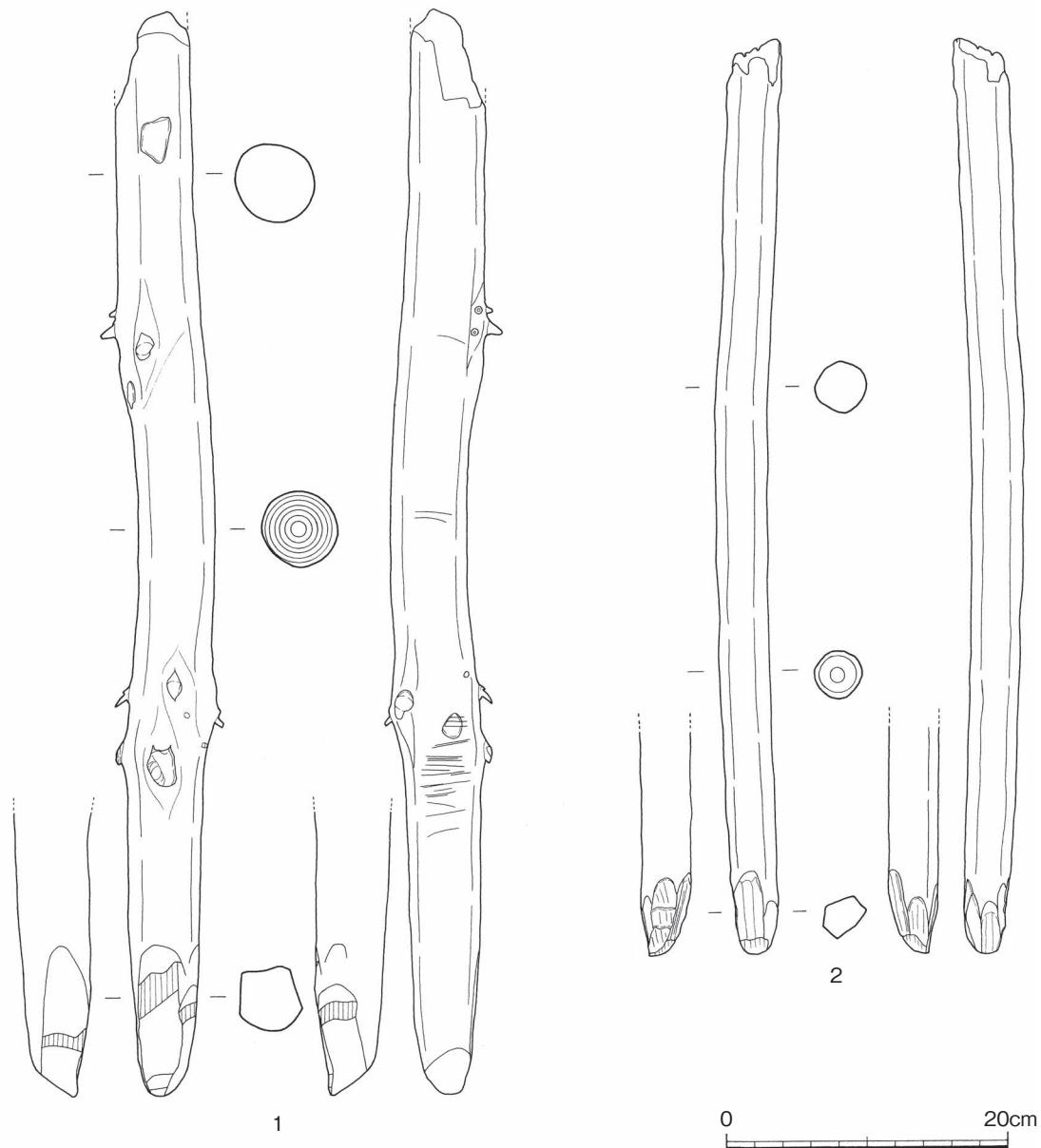
第42図 桁列1・2



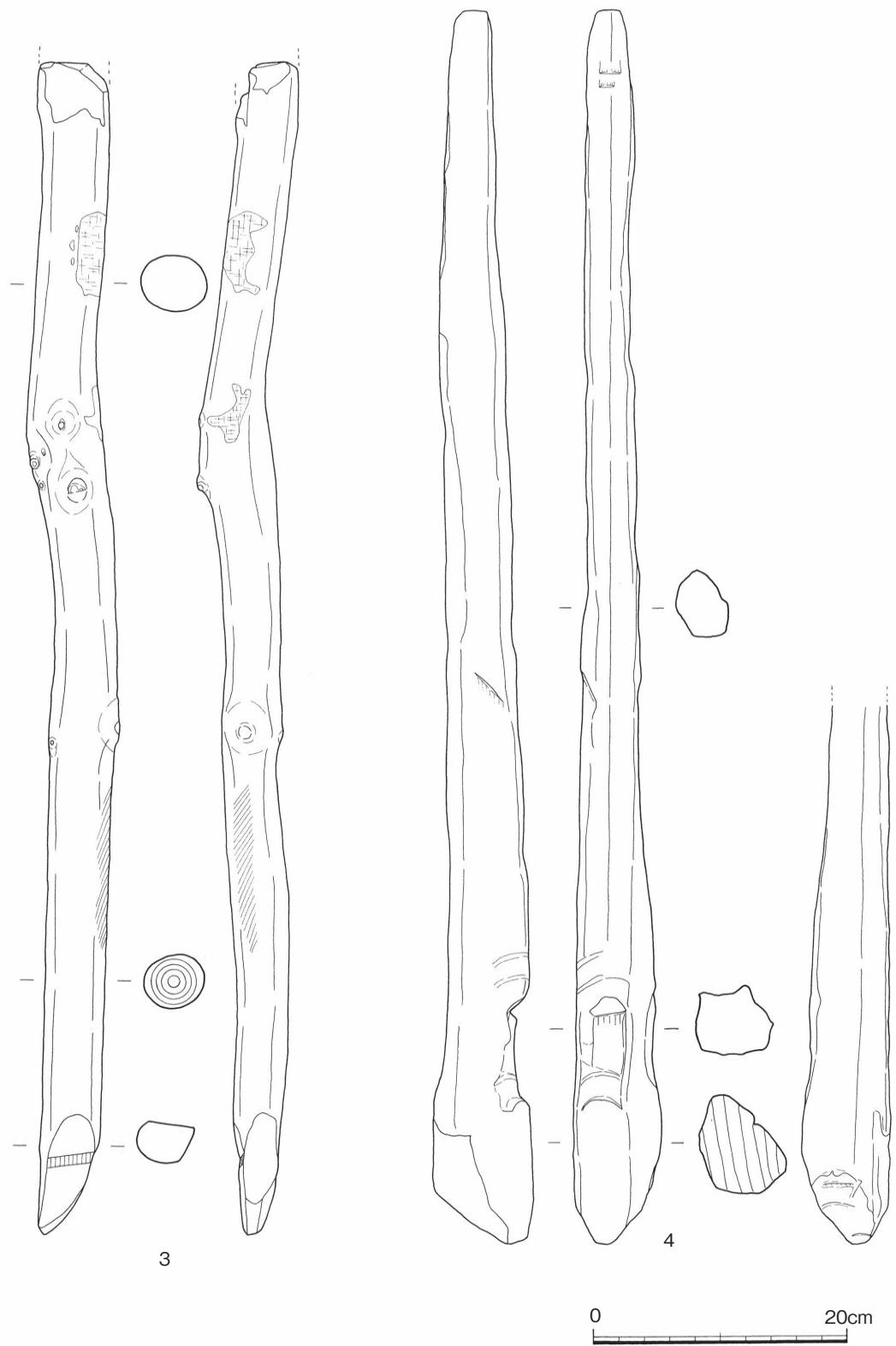
Ⅲ層検出の杭列は、Ⅱ層検出の杭列が主にR-16区に集中するのに対して、主にQ・R-18・19区に集中している。軸は南東-北西方向で、層位不明の杭列の中に見られる南東-北西方向を軸にした杭列は、古代に相当する可能性が考えられる。S調査区は、低地部のなかでも標高が最も低い低湿地で、中腹部にある良福寺井戸付近からの湧き水も流れ込むため、これらの杭列は土留め等の役割を果たしていたのではないかと思われる。本報告では、杭列全体の平面図と一部（杭列1・2）の杭列の断面図を掲載し、杭6本を図化した。

杭列1（第42図）

Q-18・19区、Ⅲ層で確認された。南東-北西方向にほぼ直線的にのびる。杭の上部は欠損しているが、自然木の先端を加工して鋭く尖らせ杭としたものである。杭列2に対して杭間が密に打ち込まれている。



第43図 杭1



第44図 杭2

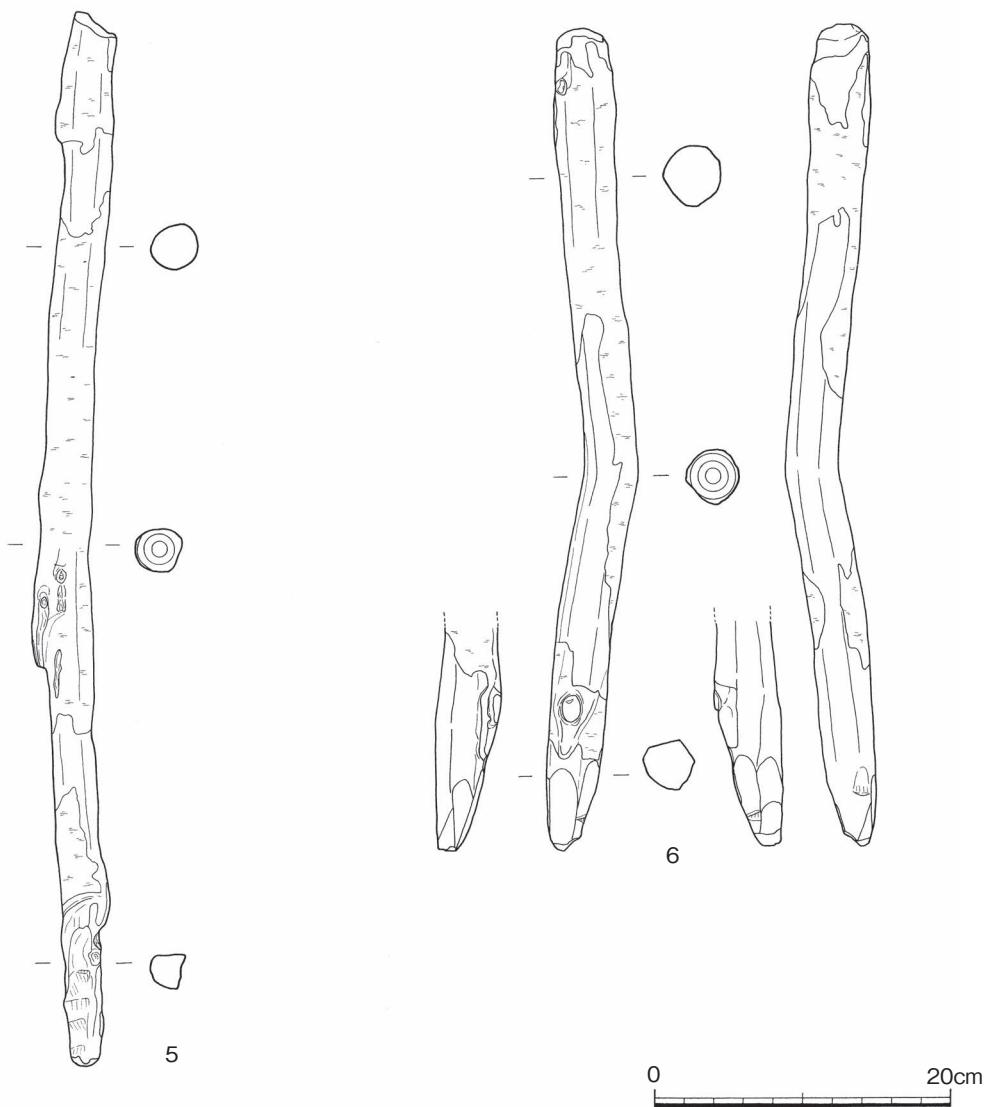
杭列2 (第42~44図)

R - 18・19区～S - 18区、Ⅲ層で検出された。杭間はほぼ均一である。ほとんどの杭がⅣ層まで打ち込まれている。杭は建築材等の転用材ではなく、自然木の枝を落とし、先端を簡単に加工して杭としたものを使用している。杭は13本残存しており、そのうち3本（1～3）を図化した。

1～3は自然木を利用したもので、上部は腐敗して欠損しているものと思われる。先端部分は複数方向から斜めに削られており、そのほかの部分には加工痕は認められない。

その他の杭 (第44・45図)

4～6は杭列1・2以外の場所から出土した杭である。（第41図参照）3本とも自然木を利用したもので、5を除き先端部を複数回斜めに削って加工しているが、5については単面のみ斜めに切り落としている。



第45図 杭3

(2) 遺物

R・S調査区のⅡ層及びⅢa層より、古代（平安時代）に相当する大量の土師器・須恵器が出土した。また、S調査区からは木製品や未製品も出土している。

遺物出土分布状況（第46図参照）によると、土師器と須恵器についてはR・S-21・22区及び、T-24・25区付近に集中域が見られる。木製品については、低湿地で残存状況が良好であったこともあり、S調査区P・Q・R・S-18・19区に集中域が見られる。

土師器（第47～82図）

蓋、皿、壺、椀、黒色土器A・B類、赤色土器A・B類、甕、鉢等が出土した。

蓋（第47図）

1～6は蓋である。壺蓋で、須恵器を模造してつくられたものである。1～4はつまみ部が欠損している。5・6はつまみ部である。上部は平坦気味につくられるが、中央でやや尖る。

皿（第47図）

7～21は皿である。平底で、底部の切り離しがヘラ切りであるもののうち、器高が2cm以内のものを「皿」とした。

7は体部が直線的に短く立ち上がり、口縁部も直線的に延びるものである。8は、体部と底部の境が面取りするようにナデられているものである。体部は直線的に立ち上がり、口縁部も短く直線的に延びる。体部外面の一部に煤が付着しており、灯明皿として使用されたと思われる。9は、体部が曲線的に立ち上がり、口縁部は短く直線的に延びるものである。底部の切り離しが雑である。10～16は、体部が直線的に立ち上がり、口縁部は短く先端で外反するものである。17～21は、体部が曲線的に立ち上がり、口縁部もわずかに内湾するものである。19は口縁部外面の一部に煤が付着しており、灯明皿として使用されたものと思われる。

壺（第48～52図）

22～108は壺である。平底で、底部の切り離しがヘラ切りであるもののうち、器高が2cm以上のものを「壺」とした。形態によりI～VII類に分類した。

I類 口径と底径の比率が小さく、箱形を呈するものである。体部の立ち上がり、口縁部の形状によりさらにa・bに分類した。

- a 体部が直線的に立ち上がり、口縁部も直線的に延びるもの。
- b 体部が曲線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反するもの。

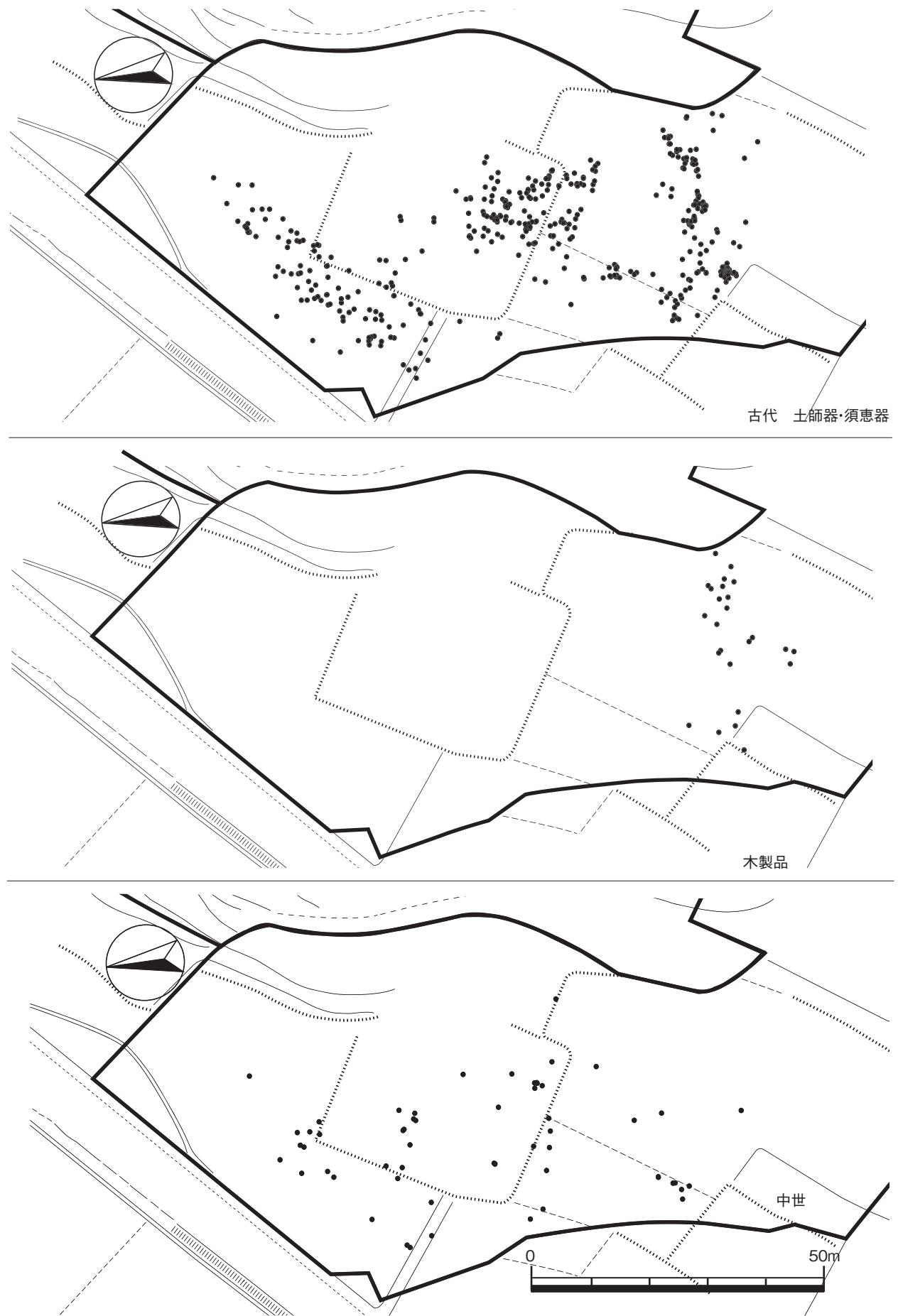
II類 体部から口縁部にかけて緩やかに逆「ハ」の字状に延びるものである。口縁部先端は直線的になるものとやや外反するものが見られる。

III類 やや小形のもので、体部が曲線的に立ち上がるものである。

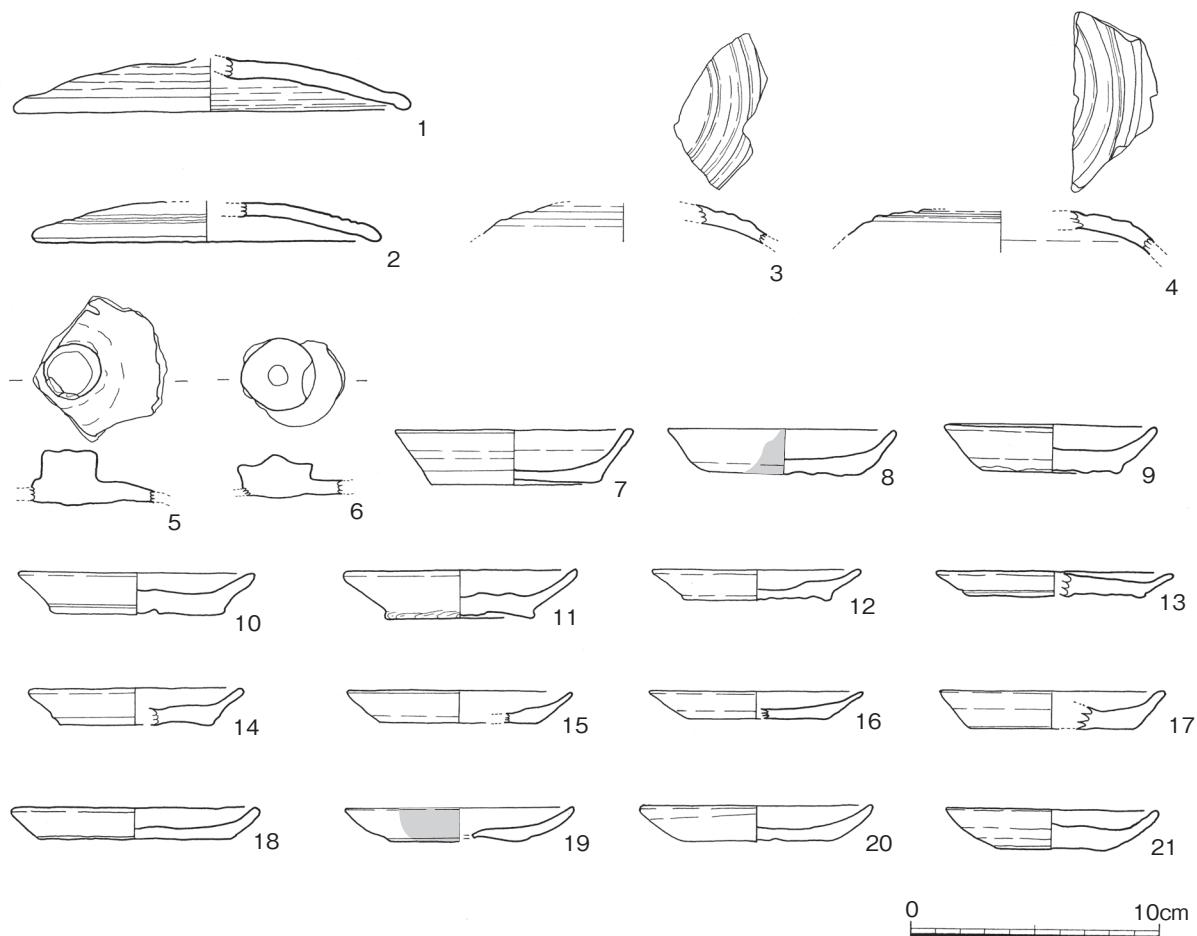
IV類 口径と底径の比率が大きく、体部は曲線的である。

V類 口径と器高の比率が小さく、体部は直線的である。

VII類 いわゆる「充実高台」と呼ばれる高台を有するもので、椀として取り扱う例も見られるが、輪状の高台を持たず平底であるため壺として分類した。



第46図 古代・中世出土遺物及び木製品出土分布図



第47図 土師器1 蓋・皿

VII類 器高が皿よりは大きいが、他の椀に比べて小さいものである。底部はやや厚みがあり、体部は曲線的である。

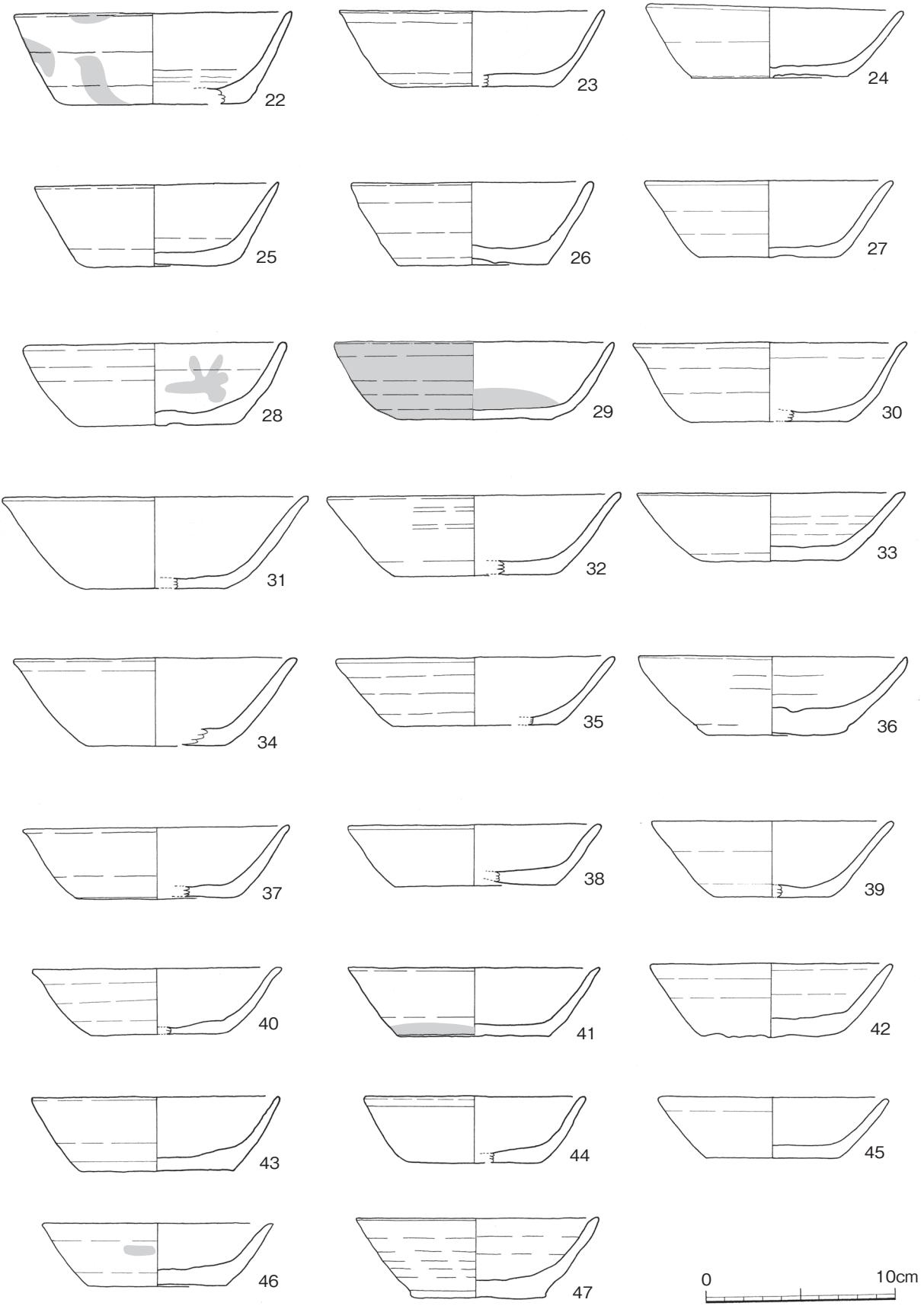
以下各類ごとに特記すべき資料についてのみ述べることとしたい。個々の資料の詳細については、観察表にまとめた。

22~47はI類である。22~27はIa類に相当する。22・23・25・27は内外面とも丁寧なナデ調整が施されるもので、体部と底部の境もナデのため丸みを帯びる。24・26も内外面ともに丁寧なナデ調整が施されるが、体部と底部の境には回転ヘラケズリが施される。28~47はIb類である。30・42・43は体部と底部の境に回転ヘラケズリが施される。47は底部がやや厚く、切り離しも雑なもので、体部には轆轤目が明瞭に観察される。

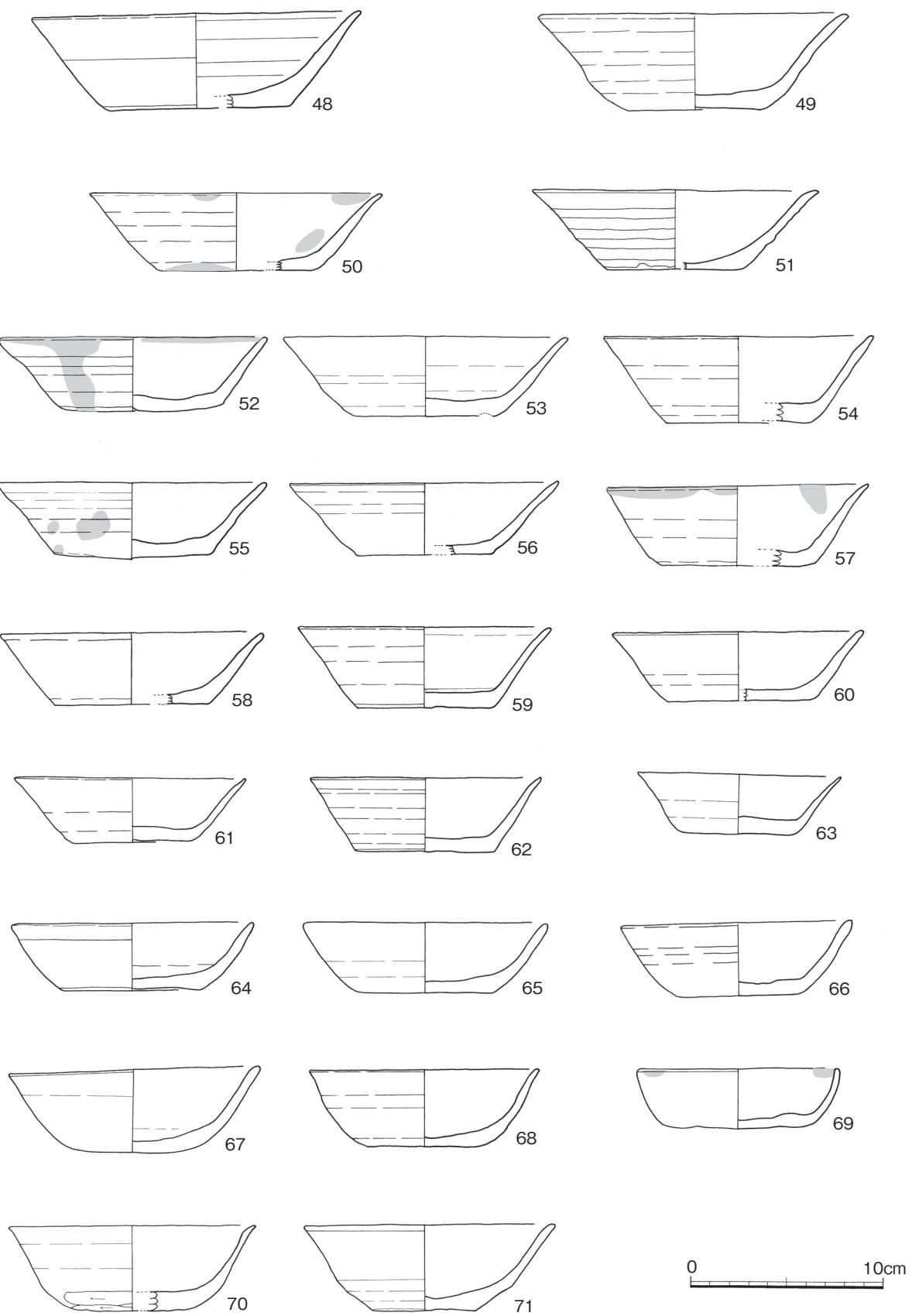
48~63はII類である。轆轤を使用して粘土を水引きした際の痕跡が、胴部外面に明瞭に観察される。器壁は薄く、特に口縁部はさらに薄く引き延ばされ外反する。

64~71はIII類である。68・70・71は底部と体部の境に回転ヘラケズリが施される。

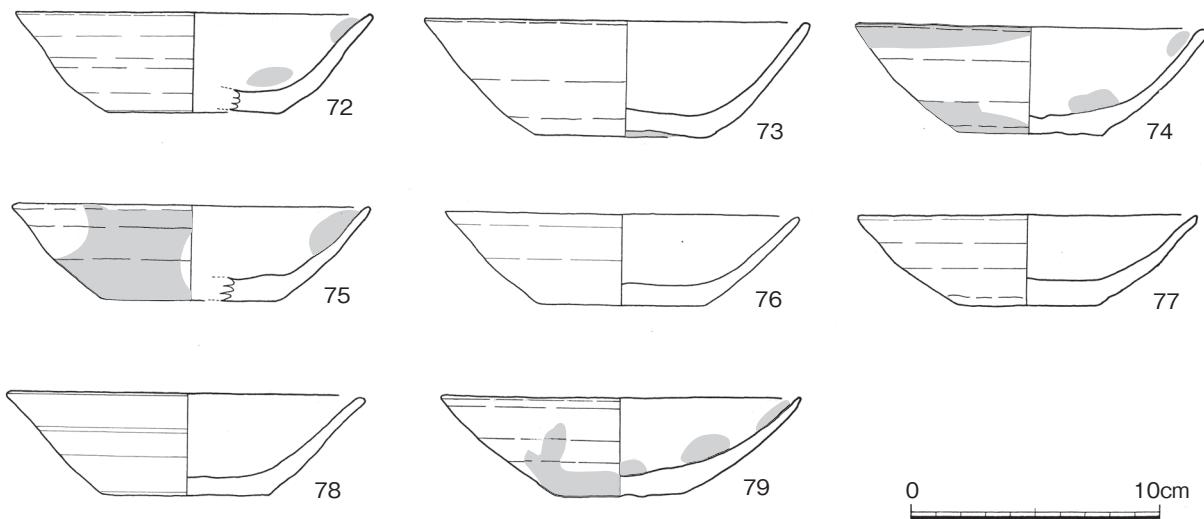
72~79はIV類である。72は体部と底部の境に回転ヘラケズリが施される。73は底部切り離し後、周辺にナデ調整を施す。74は内外ともに煤が付着するが、内底面に輪状に付着している。76・78は、底部切り離し後丁寧なナデ調整が施される。79は底部切り離し後、体部との境にナデを施したため、



第48図 土師器2 壱



第49図 土師器3 坯



第50図 土師器4 坯

底部と体部の境が明瞭でなく、底径も小さい。

80~91はV類である。口縁部は直線的に延びるものも見られるが、わずかに外反するものが多い。81・87・89は底部と体部の境に回転ヘラケズリが観察される。83は蓋として使用したのか、外面の一部と口縁部内面に煤が付着する。82・84は底部切り離し後、丁寧なナデが施される。

92~98はVI類である。体部は円盤で、非常に厚い。いわゆる「薩摩タイプ」と呼ばれるものである。92・93は大形のもので、体部は直線的に延びる。94・95は小形のもので体部は曲線的である。96~98は底部である。

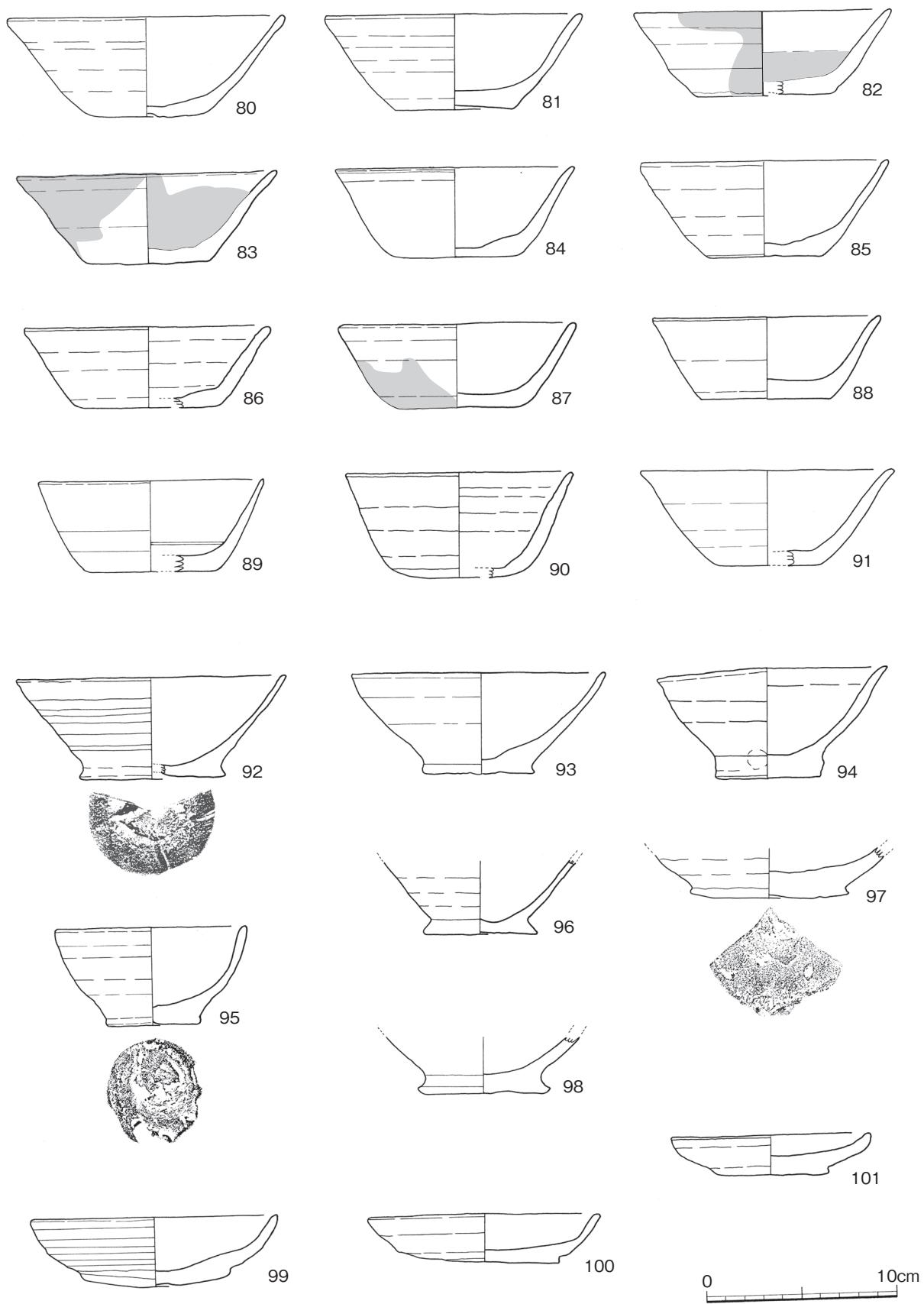
99~101はVII類である。特に101は器高が、2.1cmで皿とほぼ同じであるが、口径が10.5cmで皿に比べて大きいため坏とした。3点ともつくりが粗雑で、器形が歪んでいる。底部はやや厚く、切り離し後の調整も施されない。

102~108は底部である。103は底部切り離し後丁寧なナデ調整が施され、108は底部に簡単なナデ調整が施される。他のものは調整は施されていない。

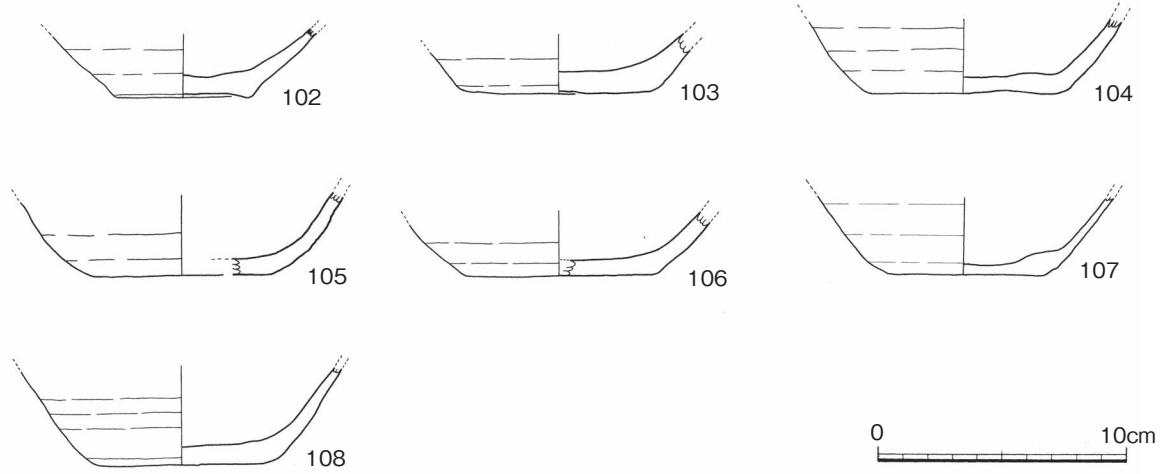
土師器観察表1

掲載番号	出土地	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)		胎土			焼成	調整		備考	
								口径	つまみ径	器高	石英	長石	角閃石	その他	外側	内側	
1	R-23	4992	II	土師器	蓋	天井部	(外) 明黄褐色 (内) にぶい黄橙色	16.0	—	—	○	—	—	—	良	ナデ	ナデ
2	R-23	6725	II	土師器	蓋	天井部	にぶい黄橙色	14.0	—	—	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
3	Q-19	一括	III	土師器	蓋	天井部	にぶい黄橙色	—	—	—	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
4	Q-20	一括	—	土師器	蓋	天井部	にぶい黄橙色	12.2	—	—	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
5	R-23	4343	II	土師器	蓋	つまみ	橙色	—	2.1	—	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
6	R-27	17844	II	土師器	蓋	つまみ	黄橙色	—	2.4	—	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
7	Q-19-20, R-19	6418	IV, V	土師器	皿	口縁~底部	橙色	10.2	7.6	2.1	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
8	—	—	—	土師器	皿	完形	(外) にぶい橙色 (内) にぶい褐色	9.2	6.0	1.8	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
9	—	—	—	土師器	皿	完形	にぶい橙色	8.6	5.6	1.9	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
10	Q-19	一括	—	土師器	皿	口縁~底部	(外) にぶい橙色 (内) にぶい黄橙色	9.4	6.9	1.7	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
11	—	—	—	土師器	皿	完形	にぶい橙色	9.4	6.0	1.9	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
12	—	—	—	土師器	皿	口縁~胴部	にぶい橙色	8.4	—	—	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
13	—	—	—	土師器	皿	口縁~底部	灰黄色	9.6	7.0	1.0	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
14	—	—	—	土師器	皿	口縁~底部	灰白色	8.7	6.2	1.5	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
15	R-20	一括	IV	土師器	皿	口縁~底部	灰白色	9.0	6.4	1.3	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
16	Q-20	一括	IV	土師器	皿	口縁~底部	(外) 灰白色 (内) 浅黄橙色	8.6	5.6	1.1	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
17	—	—	—	土師器	皿	口縁~底部	にぶい黄橙色	9.0	6.7	2.0	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
18	Q-19	一括	II	土師器	皿	完形	(外) 黄灰色 (内) 灰黄色	10.0	7.8	1.3	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
19	Q-20	一括	IV	土師器	皿	口縁~底部	にぶい黄橙色	9.2	5.0	1.3	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
20	—	—	—	土師器	皿	口縁~底部	にぶい黄橙色	9.4	6.0	1.4	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ
21	—	—	—	土師器	皿	完形	灰黄色	8.6	4.4	1.6	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ

第47図



第51図 土師器5 壱



第52図 土師器6 壊

土師器観察表2

番号	出土地	出土番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			胎土			焼成	調整		備考	
								口径	底径	器高	石英	長石	角閃石	その他	外面	内面		
22	—	—	—	土師器	壊	口縁～底部	(外)灰黄褐色 (内)にぶい黄橙色	14.8	9.1	4.8					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
23	—	—	—	土師器	壊	口縁～底部	浅黄橙色	14.0	8.4	4.0					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
24	R-19	6504	V	土師器	壊	完形	(外)赤橙色 (内)橙色	13.7	8.2	3.7					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
25	QR-19	—括	—	土師器	壊	口縁～底部	(外)灰白色 (内)にぶい黄橙色	12.5	8.2	4.2					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
26	Q-19・20	6365	V	土師器	壊	完形	(外)にぶい橙色 (内)橙色	12.8	8.0	4.3					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
27	Q-19, R-19, S-19	—括	IV	土師器	壊	完形	(外)灰白色 (内)浅黄橙色	13.2	7.4	4.1					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
28	Q-28	6613	V	土師器	壊	口縁～底部	にぶい黄橙色	14.0	8.2	4.2					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
29	—	—	—	土師器	壊	口縁～底部	にぶい黄橙色	14.8	8.0	4.1					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
30	—	—	—	土師器	壊	口縁～底部	にぶい黄色	14.5	8.4	4.2					良	ナデ ² 回転ヘラケスリ	ナデ ²	ヘラ切り
31	Q-10	—	—	土師器	壊	完形	にぶい橙色	16.2	7.6	4.8					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
32	Q-19	6375	V	土師器	壊	口縁～底部	にぶい黄橙色	15.6	8.4	4.2					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
33	RS-19	—括	IV	土師器	壊	口縁～底部	浅黄橙色	14.2	7.2	3.5					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
34	—	—	—	土師器	壊	口縁～底部	(外)にぶい橙色 (内)にぶい黄橙色	15.0	7.0	4.6					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
35	R-22	4616	II	土師器	壊	口縁～底部	浅黄橙色	14.8	8.6	3.6					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
36	Q-19	—括	IV	土師器	壊	口縁～底部	にぶい黄橙色	14.2	7.2	4.2					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り 小石粒含む
37	R-23	6480	II	土師器	壊	完形	明黄橙色	14.0	8.4	3.7					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
38	T-26	18581	III	土師器	壊	口縁～底部	橙色	13.4	8.8	3.2					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り
39	1T, S-20	1265, 896	II	土師器	壊	口縁～底部	にぶい黄橙色	12.8	6.2	4.0					良	ナデ ² 回転ヘラケスリ	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
40	R-18・19, QR-19	—括	—	土師器	壊	完形	にぶい橙色	13.2	7.1	3.5					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
41	Q-19・20	—括	III IV	土師器	壊	完形	(外)にぶい黄橙色 (内)にぶい橙色	13.3	8.0	3.6					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
42	S-19	4263	IV層 直上	土師器	壊	完形	浅黄橙色	12.8	7.0	4.9					良	ナデ ² 回転ヘラケスリ	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
43	U-25	19165	III	土師器	壊	完形	黄橙色	13.1	8.2	3.9					良	ナデ ² 回転ヘラケスリ	ナデ ²	ヘラ切り 小石粒含む
44	RS-19	—括	IV	土師器	壊	口縁～底部	にぶい黄橙色	11.8	6.6	3.5					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
45	Q-19	—括	III	土師器	壊	完形	(外)浅黄橙色 (内)にぶい黄橙色	12.2	7.0	3.2					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り
46	Q-19・20	—括	III	土師器	壊	完形	浅黄橙色	12.2	7.2	3.3					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
47	R-19	6500	V	土師器	壊	ほぼ完形	浅黄橙色	12.6	6.4	4.2					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り
48	R-19	—括	IV	土師器	壊	口縁～底部	にぶい黄橙色	17.2	4.8	4.9					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り 9世紀代
49	R-19	6575, 6570	V	土師器	壊	完形	淡黄色	16.0	7.0	5.0					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り
50	QR-18・19	—括	—	土師器	壊	口縁～底部	(外)灰黄褐色 (内)にぶい黄橙色	15.0	7.8	4.0					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
51	R-22	8978, 9369	II, III	土師器	壊	口縁～底部	橙色	14.8	7.0	4.1					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り
52	S-22	6638, 6640, 6641	II	土師器	壊	完形	にぶい黄橙色	14.0	5.0	3.8					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
53	Q-19・20	—括	IV	土師器	壊	口縁～底部	浅黄橙色	14.8	7.2	4.1					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り
54	RS-19, Q-19・20	—括	IV	土師器	壊	完形	浅黄橙色	14.0	7.5	4.5					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
55	S-21	5569	III	土師器	壊	口縁～底部	(外)橙色 (内)にぶい黄橙色	14.0	8.0	3.9					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
56	Q-19・20	—括	IV	土師器	壊	完形	(外)にぶい橙色 (内)浅黄橙色	14.0	7.0	3.7					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り
57	QR-19, R-20	—括	III	土師器	壊	完形	灰白色	13.6	7.0	4.3					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り
58	R-22	6589	II	土師器	壊	完形	淡黄色	13.6	8.0	3.9					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り 赤色の石粒含む
59	Q-19・20	—括	—	土師器	壊	完形	(外)浅黄橙色 (内)にぶい橙色	13.2	6.8	4.1					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
60	S-26	19215, 18613	II, III	土師器	壊	口縁～底部	浅黄橙色	13.0	7.4	3.6					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り 赤色の石粒含む
61	QR-18	—括	IV	土師器	壊	完形	(外)橙色 (内)浅黄橙色	11.9	6.2	3.5					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り 小石粒含む
62	S-26, T-26	15886, 15868	II, III	土師器	壊	完形	黃橙色	12.0	7.2	3.8					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
63	Q-19・20	—括	—	土師器	壊	完形	にぶい黄褐色	10.6	5.8	3.1					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り後ナデ ²
64	R-19, S-19	6494	IV, V	土師器	壊	完形	にぶい黄橙色	12.6	7.2	3.5					良	ナデ ²	ナデ ²	ヘラ切り 赤色の石粒含む

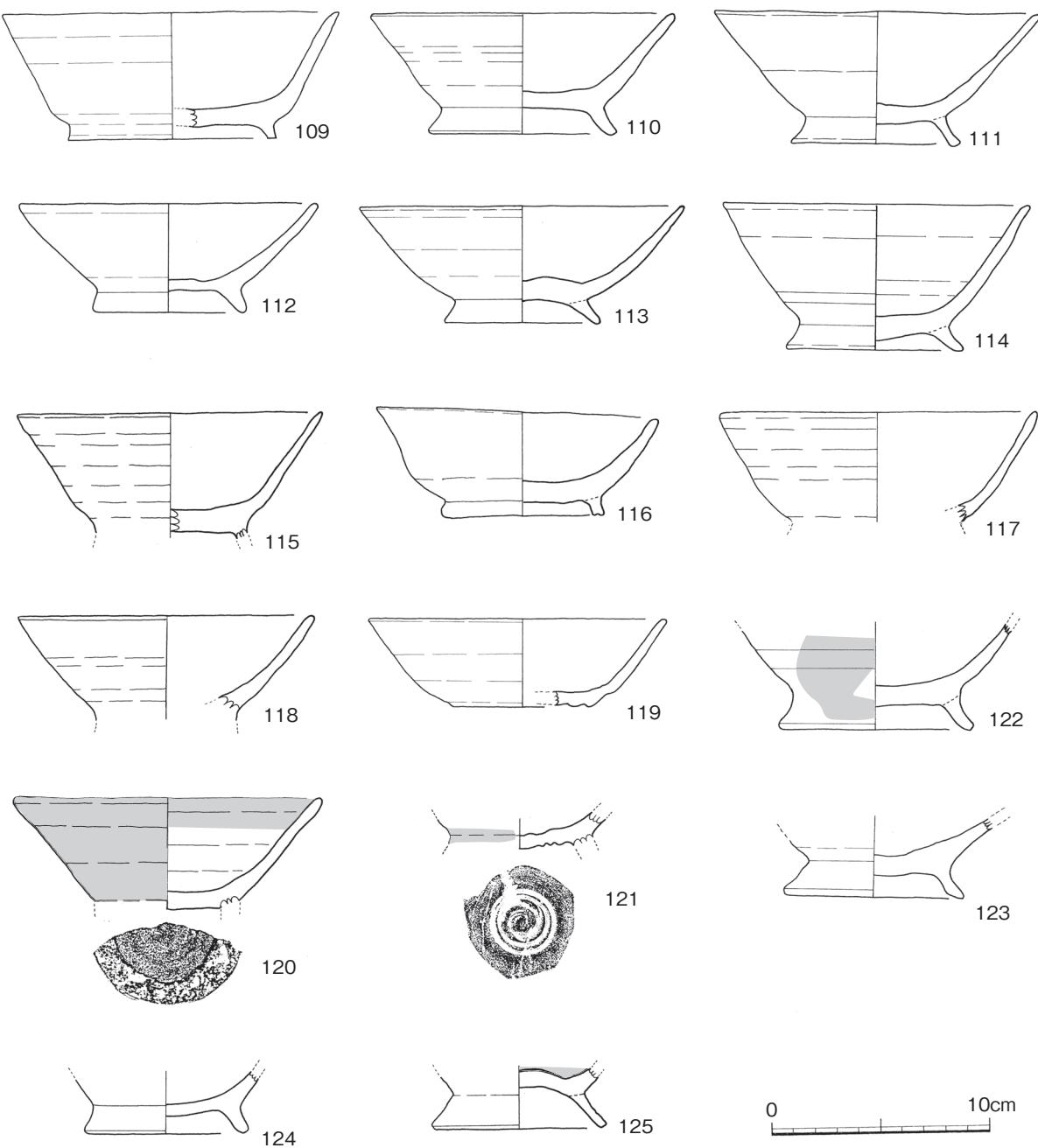
土師器観察表3

捕獲番号	出土地	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			胎土			焼成	調整		備考	
								口径	底径	器高	石英	長石	角閃石	その他	外面	内面		
第49図	65	Q-20	6360	V	土師器	坏	完形	にぶい橙色	12.8	7.0	3.7				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り 赤色の石粒含む
	66	R-22	19, 21	II	土師器	坏	口縁～底部	にぶい橙色	12.0	6.0	3.8				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ 赤色の石粒含む
	67	R-19	6562	V	土師器	坏	完形	にぶい黄橙色	13.0	7.0	4.6				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り 小石粒含む
	68	S-26	—	II	土師器	坏	完形	(外)にぶい黄橙色 (内)浅黄橙色	12.0	6.0	4.0				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ 小石粒含む
	69	R-21	7730	II	土師器	坏	完形	浅黄橙色	8.0	5.3	3.1				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ 小石粒含む 赤色の石粒含む
	70	—	—	—	土師器	坏	完形	橙色	12.8	3.8	4.4				良	ナデ ^ズ 回転ヘラケズリ	ナデ ^ズ	ヘラ切り 赤色の石粒含む
	71	S-19	4276	IV層直上	土師器	坏	完形	灰白色	13.1	5.4	4.5				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り 小石粒含む 赤色の石粒含む
第50図	72	S-19	—括	V	土師器	坏	口縁～底部	にぶい黄橙色	14.4	6.8	4.0				良	ナデ ^ズ 回転ヘラケズリ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ 赤色の石粒含む
	73	S-19, R-19	6574, 6572	V	土師器	坏	口縁～底部	(外)にぶい橙色 (内)浅黄橙色	15.6	6.9	4.6				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り 赤色の石粒含む
	74	Q-19	—括	II	土師器	坏	完形	灰黄褐色	14.4	6.0	4.3				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り
	75	Q-18・19	—括	IV	土師器	坏	口縁～底部	(外)にぶい黄褐色 (内)灰褐色	14.4	7.0	3.8				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ 小石粒含む
	76	—	—	V	土師器	坏	完形	(外)浅黄橙色 (内)灰白色	14.2	6.8	4.0				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ
	77	RS-19	—括	IV	土師器	坏	口縁～底部	(外)にぶい黄褐色 (内)にぶい橙色	15.8	5.4	3.6				良	ナデ ^ズ 回転ヘラケズリ	ナデ ^ズ	ヘラ切り 赤色の石粒含む
	78	Q-18, R-19	—括	—	土師器	坏	完形	浅黄橙色	14.6	6.8	4.1				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ 小石粒含む
	79	Q-19	—括	IV	土師器	坏	口縁～底部	(外)灰黄褐色 (内)灰黄色	14.5	4.9	4.0				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ
	80	—	—	—	土師器	坏	完形	灰黄色	14.6	6.0	5.2				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り
第51図	81	R-19	—括	—	土師器	坏	完形	(外)にぶい橙色 (内)浅黄橙色	13.8	6.0	5.0				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ 小石粒含む 赤色の石粒含む
	82	—	—	—	土師器	坏	完形	にぶい橙色	13.6	7.0	4.4				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り 赤色の石粒含む
	83	S-21	4915	III	土師器	坏	口縁～底部	(外)浅黄橙色 (内)にぶい橙色	13.6	6.2	4.7				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ煤付着
	84	Q-20	6351, 6363	V	土師器	坏	完形	淡橙色	12.6	6.8	4.7				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ 赤色の石粒含む
	85	—	—	—	土師器	坏	完形	(外)浅黄橙色 (内)にぶい橙色	13.0	5.8	5.0				良	ナデ ^ズ 回転ヘラケズリ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ 赤色の石粒含む
	86	R-22	20386	III	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙色	13.0	5.8	4.3				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ
	87	—	—	—	土師器	坏	完形	灰黄褐色	12.6	6.4	4.4				良	ナデ ^ズ 回転ヘラケズリ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ
	88	S-22	2, 6	II	土師器	坏	完形	橙色	12.0	6.8	4.3				良	ナデ ^ズ 回転ヘラケズリ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ
	89	—	—	—	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙色	11.8	6.6	4.8				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ
	90	—	—	—	土師器	坏	完形	にぶい橙色	12.0	4.0	5.5				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ
	91	—	—	—	土師器	坏	口縁～底部	(外)浅黄橙色 (内)にぶい黄橙色	13.4	5.0	5.1				良	ナデ ^ズ 回転ヘラケズリ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ
	92	R-3T	1454	III	土師器	坏	口縁～底部	黄橙色	14.2	8.0	5.3				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り
第52図	93	Q-19	—括	IV	土師器	坏	完形	浅黄橙色	13.4	5.7	5.3				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り
	94	P-19	6651	V	土師器	坏	完形	灰黄色	12.2	5.6	5.8				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り
	95	S	—	—	土師器	坏	完形	にぶい黄橙色	10.2	4.8	5.1				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り
	96	QP-19	—括	—	土師器	坏	胴部～底部	(外)灰黄褐色 (内)黄灰色	—	5.8	—				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り
	97	Q-20	—括	IV	土師器	坏	胴部～底部	にぶい黄橙色	—	8.4	—				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り
	98	RQ-19	—	—	土師器	坏	底部	にぶい黄橙色	—	7.0	—				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り
	99	—	—	—	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙色	13.0	7.6	3.6				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ
	100	S-23	5845	II	土師器	坏	完形	にぶい黄橙色	12.3	7.8	2.6				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ
	101	—	—	—	土師器	坏	完形	にぶい黄橙色	10.5	6.0	2.1				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り 11世紀代
	102	R-22	8041	II	土師器	坏	胴部～底部	(外)橙色 (内)明黄褐色	—	5.6	—				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り
	103	R-23	5743	II	土師器	坏	底部	にぶい赤褐色	—	7.3	—				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ
	104	R-24	10441	II	土師器	坏	胴部～底部	にぶい黄橙色	—	7.6	—				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り
	105	R-19, Q-20	—括	III, IV	土師器	坏	底部	淡赤橙色	—	7.0	—				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り
	106	R-24	3946	II	土師器	坏	底部	橙色	—	7.6	—				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り
	107	QR-19, R-20・21	—括	IV	土師器	坏	胴部～底部	橙色	—	6.3	—				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り後ナデ ^ズ
	108	R-23	9196	II	土師器	坏	底部	(外)にぶい黄橙色 (内)にぶい橙色	—	7.0	—				良	ナデ ^ズ	ナデ ^ズ	ヘラ切り

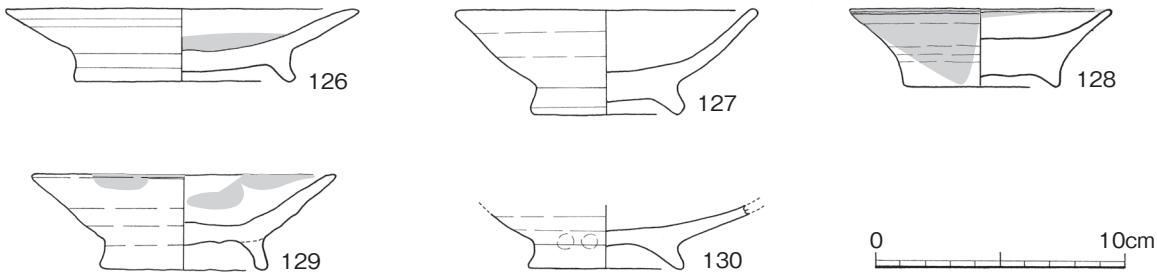
椀（第53・54図）

109～130は椀である。高台を有するものを椀とした。壺に比べて出土量は少ない。そのため特に分類はせず、個別に説明を述べたい。

109は須恵器を模造した箱形を呈する。径の広い高台が底部やや内側に貼り付けられる。110～112は、高台が比較的短く器高も低いもので、体部は直線的に延びる。113は高台が比較的短く、体部が曲線的なものである。114は器高が高く、体部が直線的に延びるものである。高台内面の中央はやや盛り上がる。115は体部が直線的にのびるもので、高台は欠損している。116は高台端部に面を有し、中央がやや凹む。硬質のものであるが、器面は摩滅が激しい。117・118は口縁部である。



第53図 土師器7 椗



第54図 土師器8 高台付坏

119~121は高台が外れており、その部分を調整して使用している。120は外面と口縁内面に煤が付着するため、蓋として使用したものと思われる。121~125は底部である。121は高台内面に削りの痕跡が輪状に残るものである。125は細く高い高台を有する。

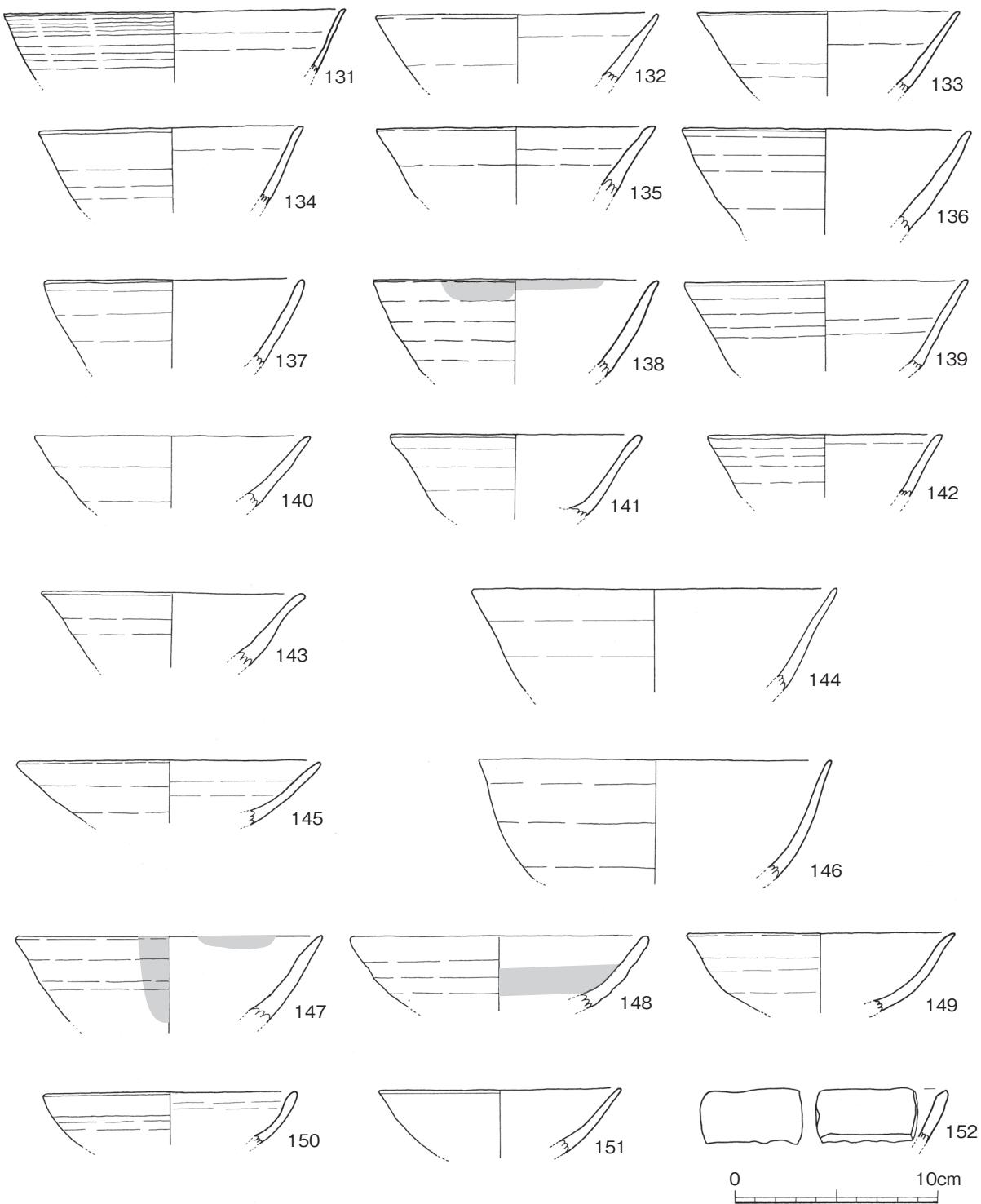
126~130は、高台付坏と呼ばれるものであるが、平底のものを坏、高台を有するものを椀としたため、椀の範疇で取り扱う。比較的短い高台の上に、直線的に短く延びる皿状の体部が付く。126は見込みと高台内面に円形状の煤が付着する。

土師器観察表4

插図番号	摘要番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			胎土				焼成	調整		備考
									口径	底径	器高	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面	
第53図	109	S-19	6374	V	土師器	椀	完形	(外)にぶい黄橙色 (内)にぶい橙色	15.5	9.6	6.7					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	ヘラ切り 8世紀代
	110	S-26	15336, 16021, 16020	II	土師器	椀	完形	(外)浅黄橙色(内)黄橙色	14.0	8.4	5.5					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	ヘラ切り 8世紀後半~9世紀代
	111	T-20	—括	V	土師器	椀	口縁~底部	(外)浅黄橙色(内)灰白色	15.0	6.2	6.0					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	ヘラ切り 9世紀後半~10世紀代
	112	—	—	—	土師器	椀	完形	灰白色	13.8	5.0	5.0					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	ヘラ切り 9世紀後半~10世紀代
	113	—	—	—	土師器	椀	完形	にぶい黄橙色	—	7.2	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	ヘラ切り 10世紀中頃
	114	S-19, T-20	—括	IV, V	土師器	椀	完形	(外)灰白色(内)にぶい橙色	14.2	8.1	6.7					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	ヘラ切り 9世紀代
	115	S-19	—括	IV	土師器	椀	完形	浅黄橙色	14.0	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	ヘラ切り 小石粒含む
	116	R-19	6495	V	土師器	椀	完形	灰白色	13.0	7.5	4.8					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	小石粒含む 9世紀代
	117	—	—	—	土師器	椀	口縁~底部	(外)にぶい黄橙色 (内)明黄褐色	14.6	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	赤色の石粒含む
	118	S-23	2217	II	土師器	椀	口縁部	にぶい黄橙色	13.5	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	小石粒含む
	119	S-19	—括	V	土師器	椀	完形	(外)灰黄色(内)にぶい黄色	13.7	6.4	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	ヘラ切り 赤色の石粒含む
	120	S-22	20750	II	土師器	椀	口縁~胴部	(外)にぶい黄褐色 (内)にぶい黄橙色	14.2	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	赤色の石粒含む 小石粒含む
	121	R-19	6430	V	土師器	椀	底部	灰白色	—	7.0	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	高台内面に煤付着
	122	R-19	—括	—	土師器	椀	胴部~底部	(外)浅黄橙色 (内)にぶい橙色	—	8.6	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	ヘラ切り煤付着
	123	S-19	—括	IV	土師器	椀	胴部~底部	浅黄橙色	—	8.0	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	ヘラ切り
	124	R-21	8697	II	土師器	椀	底部	(外)赤褐色(内)橙色	—	7.6	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	ヘラ切り 赤色の石粒含む 小石粒含む
	125	R-22	8595	II	土師器	椀	底部	(外)橙色(内)にぶい黄橙色	—	8.0	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	ヘラ切り 赤色の石粒含む 小石粒含む
第54図	126	RS-19	—括	III	土師器	高台付坏	完形	淡黄色	14.2	8.8	2.9					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	ヘラ切り
	127	S-19	—括	IV	土師器	高台付坏	完形	にぶい黄橙色	12.2	6.0	4.2					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	ヘラ切り 赤色の石粒含む 9世紀後半~10世紀代
	128	R-27	17854	II	土師器	高台付坏	口縁~底部	(外)灰黄色(内)浅黄橙色	10.4	6.6	3.1					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	煤付着
	129	R-23	6396	II	土師器	高台付坏	口縁~底部	にぶい橙色	12.4	6.8	3.8					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	灯明皿? 煤付着 小石粒含む
	130	S-2T	59	II	土師器	高台付坏	胴部~底部	橙色	—	6.2	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	
	131	S-22	2788	II	土師器	椀	口縁~胴部	橙色	17.0	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	
	132	R-22	6583	II	土師器	椀	口縁~胴部	(外)浅黄橙色 (内)明黄褐色	14.0	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	赤色の石粒を含む
	133	S-22	20803	III	土師器	椀	口縁~胴部	浅黄橙色	13.0	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	赤色の石粒を含む
	134	Q-19	—括	IV	土師器	椀	口縁~胴部	(外)灰褐色(内)明褐灰色	13.0	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	
	135	P-19 Q-19・20	—括	V	土師器	椀	口縁~胴部	(外)灰白色(内)明褐灰色	13.8	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	赤色の石粒を含む
第55図	136	R-22	21141	III	土師器	椀	口縁~胴部	にぶい黄橙色	14.2	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	
	137	S-23	3140, 2147	II	土師器	椀	口縁~胴部	橙色	13.0	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	
	138	S-19	—括	IV	土師器	椀	口縁~胴部	(外)灰褐色 (内)にぶい黄橙色	14.0	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	煤付着
	139	R-22	3563	II	土師器	椀	口縁~胴部	橙色	14.0	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	
	140	S-26	15978	II	土師器	椀	口縁~胴部	(外)灰白色(内)浅黄橙色	13.6	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	赤色の石粒を含む
	141	S-22	6643	II	土師器	椀	口縁~胴部	(外)にぶい黄橙色 (内)にぶい橙色	12.4	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	赤色の石粒を含む 小石粒含む
	142	QR-19	—括	—	土師器	椀	口縁~胴部	にぶい橙色	11.6	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	赤色の石粒を含む 小石粒含む
	143	R-22	20545	III	土師器	椀	口縁~胴部	橙色	13.1	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	小石粒含む
	144	Q-18-19-20 R-19-20-S-20	—括	III, V	土師器	椀	口縁~胴部	にぶい橙色	18.0	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	小石粒含む
	145	Q-18, R-19	—括	—	土師器	椀	口縁~胴部	(外)明赤褐色 (内)にぶい橙色	15.0	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	小石粒含む
	146	R-23	17413	II	土師器	椀	口縁~胴部	(外)橙色(内)浅黄橙色	15.4	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	
	147	Q-19	—括	—	土師器	椀	口縁~胴部	(外)灰褐色(内)にぶい黄橙色	15.0	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	赤色の石粒含む
	148	T-26	14410	II	土師器	椀	口縁~胴部	浅黄橙色	14.8	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	煤付着 赤色の石粒を含む 小石粒含む
	149	R-22	5962	II	土師器	椀	口縁~胴部	にぶい黄橙色	13.4	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	
	150	S-22	7070	II	土師器	椀	口縁~胴部	橙色	12.4	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	
	151	S-22	9933	III	土師器	椀	口縁~胴部	浅黄橙色	12.0	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	赤色の石粒含む
	152	S-27	18206	II	土師器	椀	口縁~胴部	にぶい黄橙色	—	—	—					良	ナデ ⁺	ナデ ⁺	

口縁部（第55図）

131～152は壺もしくは椀の口縁部である。138は口縁内面に煤が廻るように付着することから、煮炊き具の蓋として使用されたと思われる。147は口縁外面の一部に煤が付着していることから、灯明皿として使用されたと思われる。152は口唇部がやや内側に傾斜し、平坦につくられるものである。

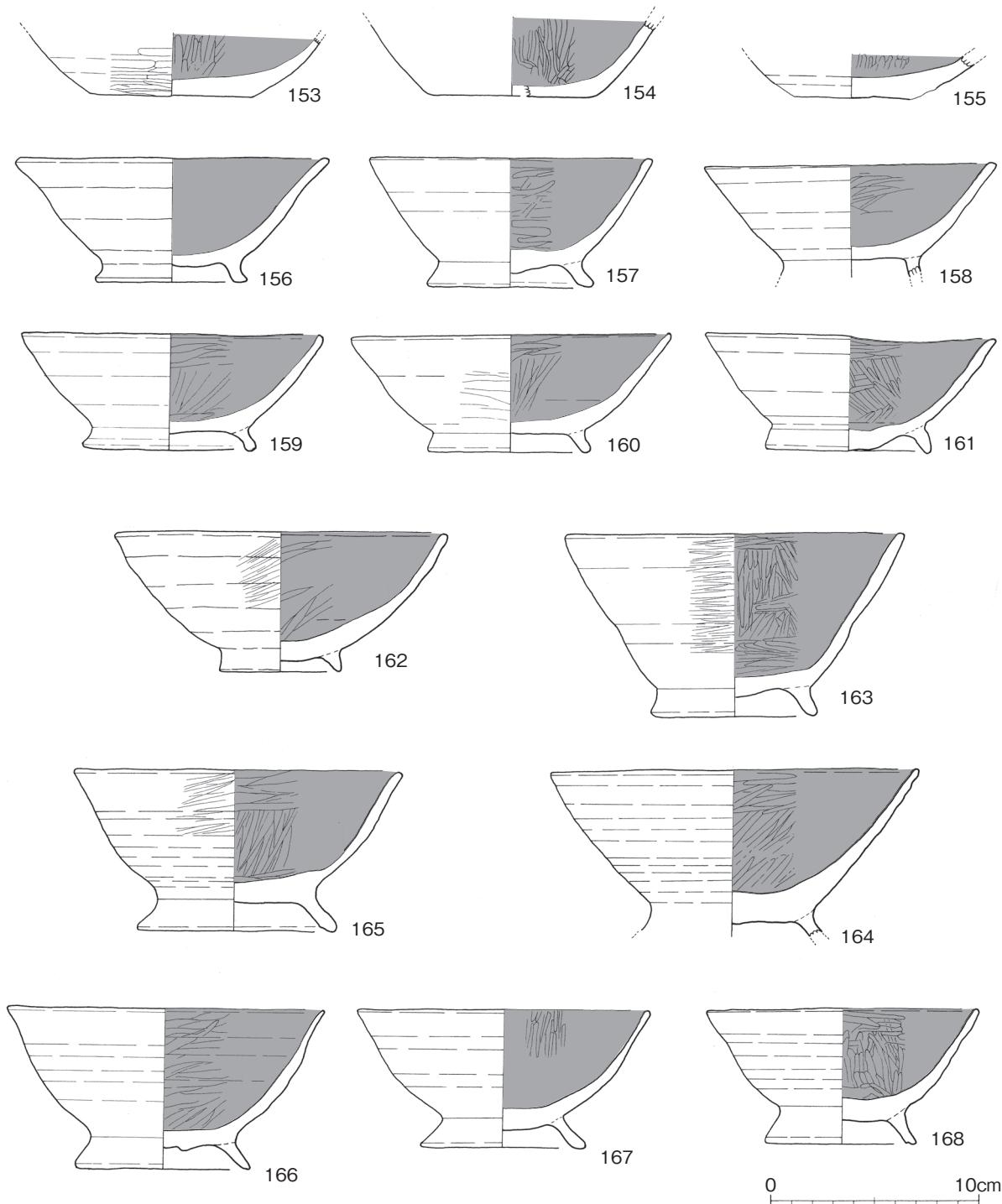


第55図 土師器9 口縁部

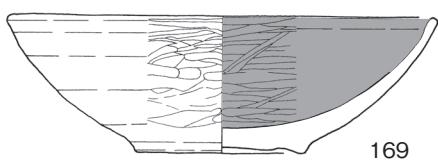
黒色土器 A 類 (第56~60図)

153~216は内面を磨き、黒色に燻した黒色土器 A 類である。内面だけでなく外面も磨くものも見られる。坏・椀を含め、I ~ V 類に分類した。

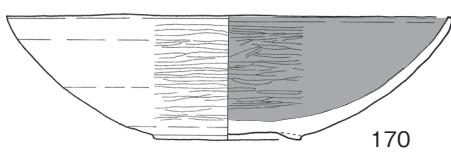
I 類 底部の切り離しがヘラ切りで、平底のものである。いわゆる「坏」である。椀と比較して出土量は少ない。



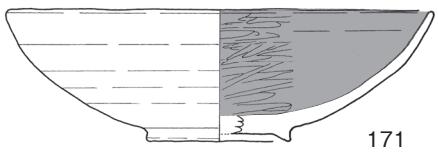
第56図 土師器10 黒色土器 A 類 坏・椀



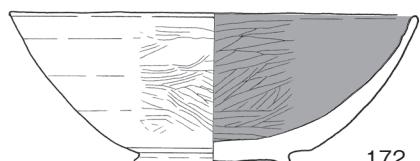
169



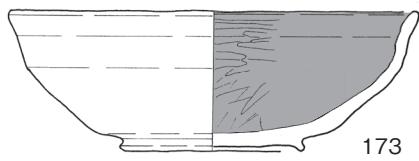
170



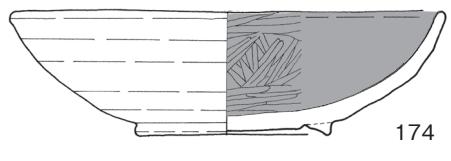
171



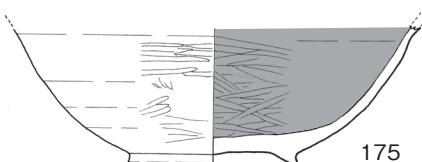
172



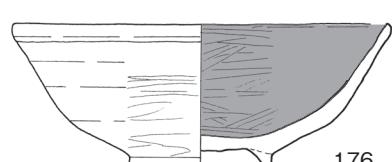
173



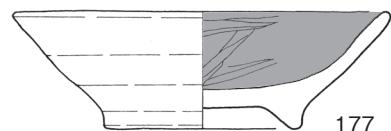
174



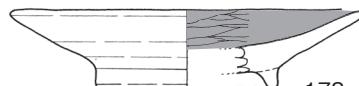
175



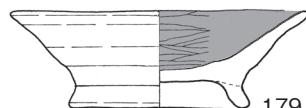
176



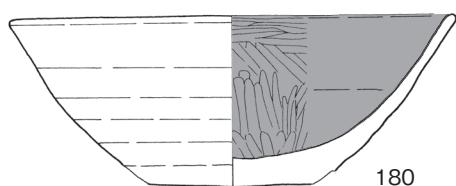
177



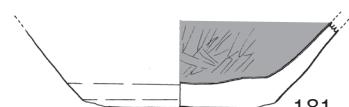
178



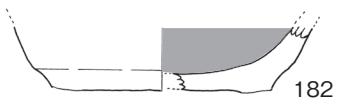
179



180



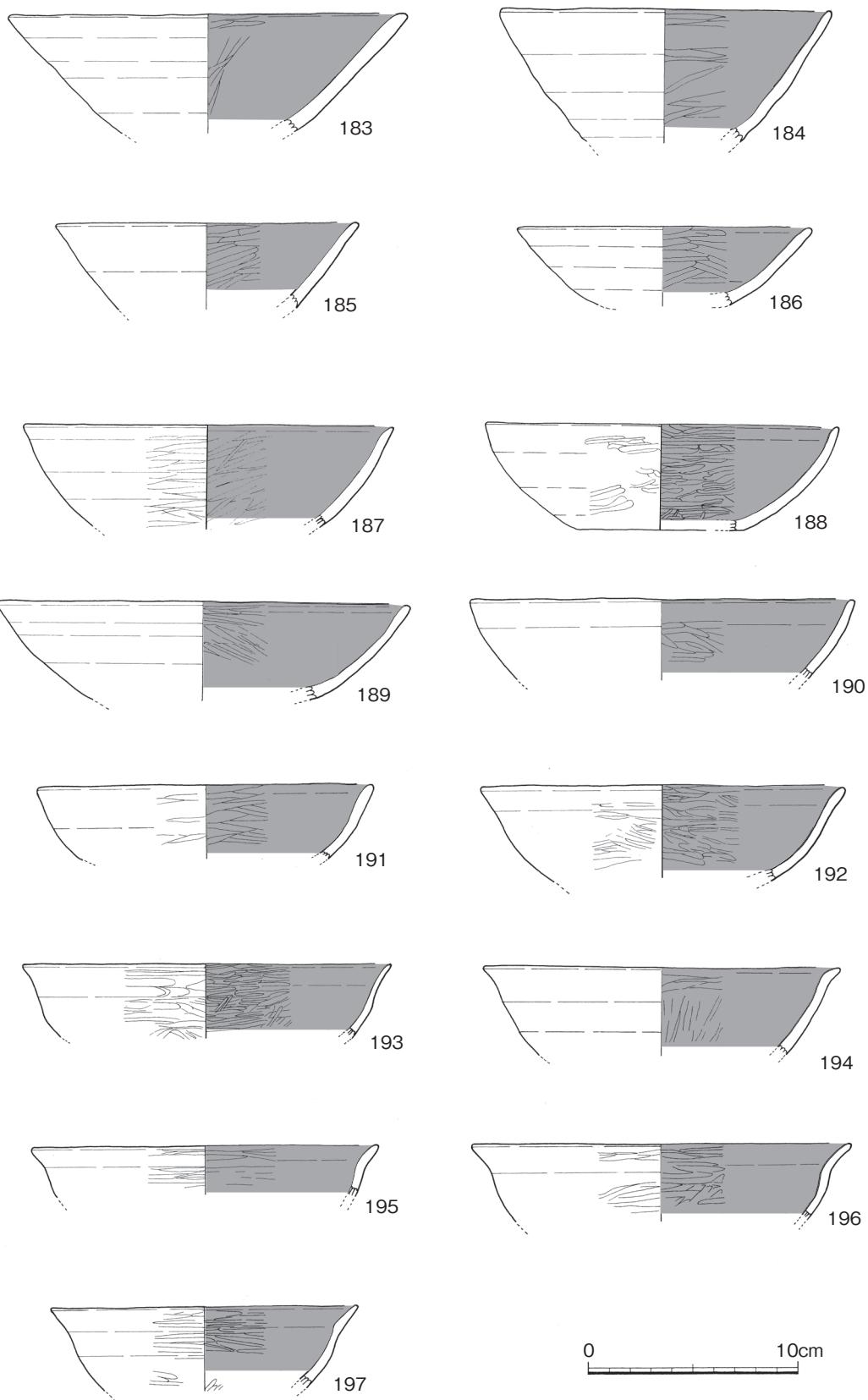
181



182

0 10cm

第57図 土師器11 黒色土器A類 梗



第58図 土師器12 黒色土器A類 口縁部

II類 短い高台を有するもので、器高も低い。体部の形状によりさらにa・bに分類した。

a 体部が直線的なものである。

b 体部が曲線的なものである。

III類 高い高台を有するもので、器高も高い。

a 体部が直線的に立ち上がり、口縁部も直線的に延びる。

b 体部が曲線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。

IV類 高台は細く、長い。体部は曲線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。

V類 非常に短い高台を有し、器高も低い。体部は曲線的で、口縁部は直線的に延びるものとわずかに外反するものが見られる。

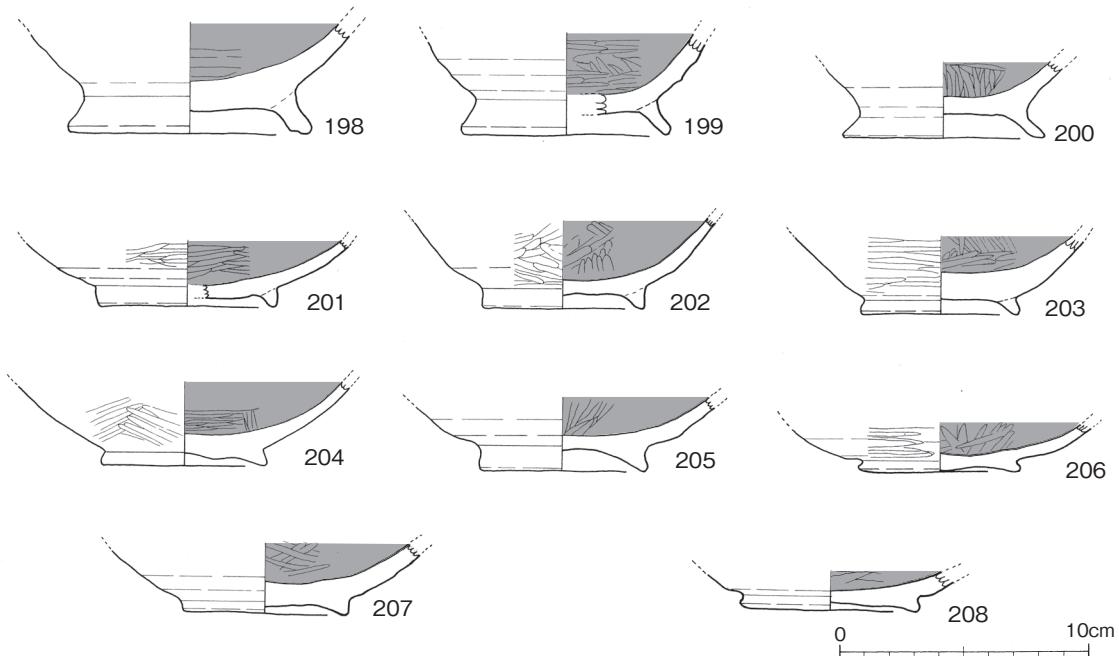
VI類 高台付壺と呼ばれるものである。

153～155はI類である。壺の底部で、内面に縦方向の細かいミガキが施される。

156～162はII類である。内面のミガキは、内底面から体部にかけては斜め方向に、口縁部では横方向に施される。156～158はIIa類に相当するもので、体部が直線的なものである。156は高台先端が平坦につくられる。内面のミガキは摩滅により不明瞭である。159～162はIIb類に相当するもので、体部が曲線なものである。160・162は外面にもミガキが施される。

163～165はIII類である。高台は足高である。内面のミガキは、中心から放射状に施されるが、口縁部では横方向に施される。163・164はIIIa類である。163は外面にもミガキが施される。165はIIIb類である。外面にもミガキが施される。

166～168はIV類に相当するものである。口縁部先端及び高台先端は細くつくられる。



第59図 土師器13 黒色土器A類 底部

169～176はV類である。口径が大きく、体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部でわずかに外反もしくはそのまま丸く収められる。内外面は細く細かい横方向のミガキが施される。170は非常に短い高台が貼り付けられているが、底部断面が碁笥底状を呈する。171・173・174については、外面のミガキが摩耗のため不明瞭である。176は口縁部先端を外側に折り返して、小さな玉縁を呈する。青磁碗を模造したものと思われる。

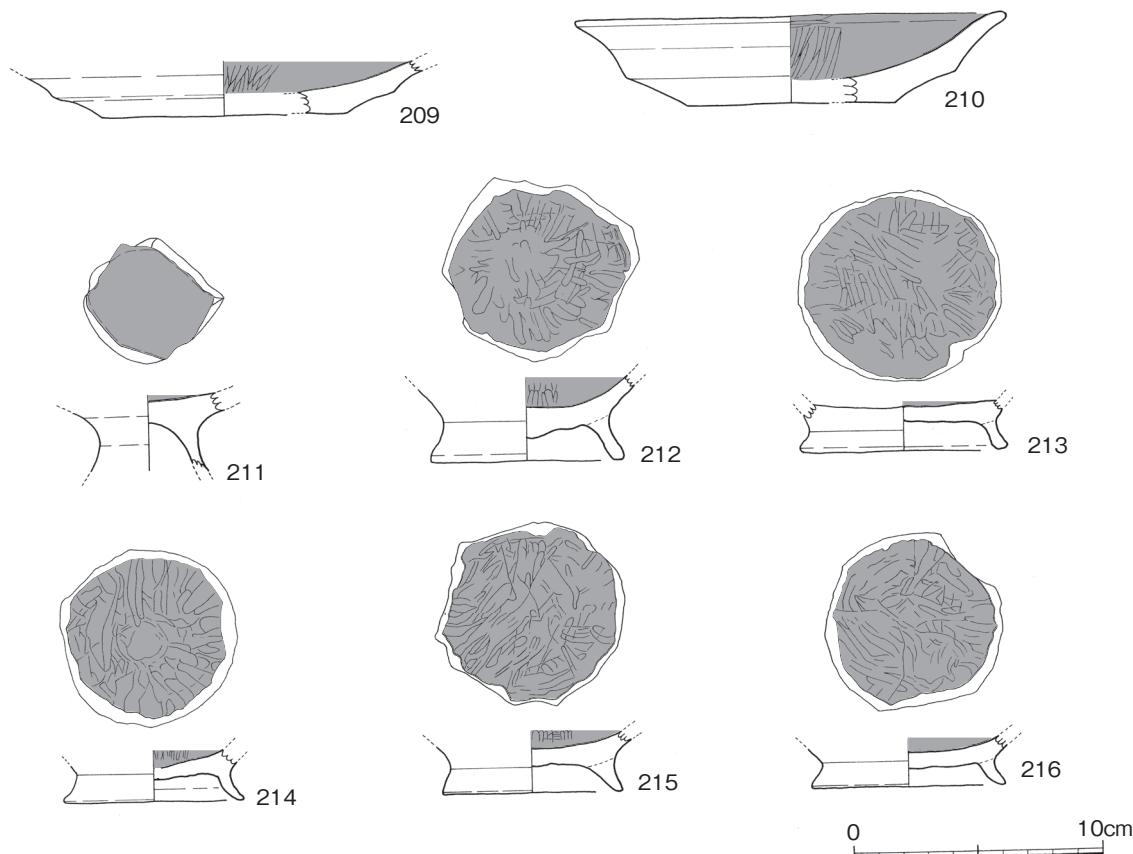
177～179はVI類である。高台付坏で、高台を有するため碗の範疇で取り扱った。

180～216はI～VI類以外のものである。182は高台を有する碗であるが、その部分が外れたものである。外れた面に調整を加え使用している。

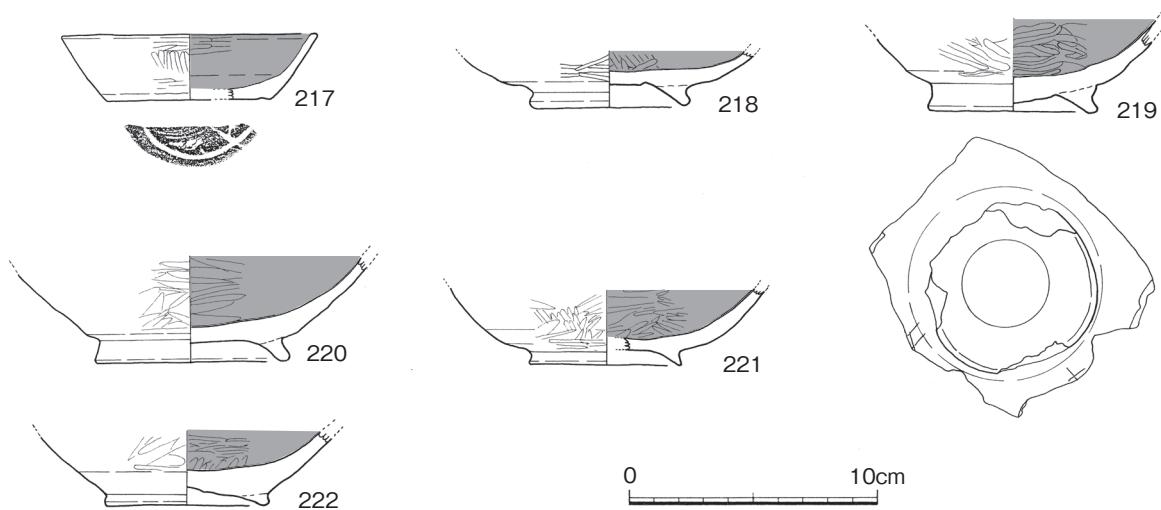
183～197は口縁部である。183～185は体部が直線的に延びるものである。186～197は体部が曲線的に立ち上がり、186～191は口縁部が直線的に延びるもので、192～197はわずかに外反するものである。

198～208は底部である。198は太く高い高台を有するものである。199・200は高台が細く長いもので、先端は丸くつくられる。201～208は高台が非常に低く短いつくりのものである。

209・210は高坏の坏部である。外面にはミガキは施されない。211は高坏の高台部である。メンコ状に坏部の周辺が打ち欠かれている。212～216は碗の底部であるが、121と同様に体部が打ち欠かれてメンコ状に整えられたものである。



第60図 土師器14 黒色土器A類 その他



第61図 土師器15 黒色土器B類

黒色土器B類（第61図）

217～222は、内外面ともミガキが施され、黒色に燻された黒色土器B類である。

217は壊である。内面は横方向、外面は縦方向のミガキが施される。218～222は椀の底部である。高台が短く低いタイプのものである。内外面ともに横方向のミガキが施される。

土師器観察表5

插図番号	掲載番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)		胎土				焼成	調整		備考	
									口径	底径	器高	石英	長石	角閃石	その他	外面	内面		
153	R-23	3480	II	土師器a類	壊	底部	(外)にぶい褐色(内)黒色	—	7.8	—						良	ナデ ⁺ 回転ヘラケズリ	ミガキ	ヘラ切り
154	T-25・26	13407, 15137	II	土師器 黑色土器a類	壊	胴部～底部	(外)にぶい黄橙色(内)黒色	—	8.0	—	○					良	ナデ ⁺ 回転ヘラケズリ	ミガキ	ヘラ切り
155	S-19	一括	IV	土師器 黑色土器a類	椀	底部	(外)にぶい黄橙色(内)黒色	—	5.6	—	○					良	ナデ ⁺	ミガキ	高台欠損 高台内面に煤付着
156	R-22	6016	II	土師器 黑色土器a類	椀	口縁～底部	(外)にぶい黄橙色 (内)灰黄色	15.0	7.0	5.9						良	ナデ ⁺ 回転ヘラケズリ	ミガキ	小石粒含む
157	3T	478, 468	II	土師器 黑色土器a類	椀	口縁～底部	(外)にぶい黄橙色(内)黒色	13.6	8.0	6.2						良	ナデ ⁺	ミガキ	
158	T-19, S-19	3814, 3944	IV, V	土師器 黑色土器a類	椀	口縁～底部	(外)にぶい黄橙色(内)黒色	14.0	—	—	○					良	ナデ ⁺	ミガキ	赤色の石粒含む
159	P-20, QR-18-19 PQ-19-20, RS-19	一括	III, IV	土師器 黑色土器a類	椀	口縁～底部	(外)にぶい橙色(内)黒色	14.4	8.3	5.5	○					良	ナデ ⁺	ミガキ	小石粒含む
160	RS-19	一括	III	土師器 黑色土器a類	椀	口縁～底部	(外)にぶい黄橙色 (内)黒褐色	15.2	7.8	5.7	○					良	ミガキ	ミガキ	小石粒含む
161	Q-18・19	一括	II, IV	土師器 黑色土器a類	椀	口縁～底部	(外)灰白色(内)黒色	14.0	8.0	5.5	○					良	ナデ ⁺	ミガキ	小石粒含む
162	R-21	8625	II	土師器 黑色土器a類	椀	口縁～底部	(外)浅黄橙色(内)黒褐色	16.0	5.8	6.6					○	良	ミガキ	ミガキ	小石粒含む 赤色の石粒含む
163	Q-19・20	一括	III, IV	土師器 黑色土器a類	椀	口縁～底部	(外)灰白色(内)黒色	16.4	8.0	8.7	○					良	ミガキ	ミガキ	小石粒含む
164	QR-18・19	一括	IV	土師器 黑色土器a類	椀	ほぼ完形	(外)灰白色(内)黒色	17.8	—	—	○					良	回転ヘラケズリ ナデ ⁺	ミガキ	小石粒含む
165	T-19	一括	IV, V	土師器 黑色土器a類	椀	ほぼ完形	(外)明黄褐色(内)黒色	15.7	9.4	7.7						良	回転ヘラケズリ ナデ ⁺ ナデ ⁺	ミガキ	小石粒含む
166	S-1T	1061, 1060, 1074	III	土師器 黑色土器a類	椀	口縁～底部	(外)灰褐色(内)黒色	15.2	8.3	7.6	○					良	ナデ ⁺	ミガキ	
167	一括	IV	土師器 黑色土器a類	椀	口縁～底部	(外)灰黄色(内)灰色	14.0	8.0	6.5						良	ナデ ⁺	ミガキ		
168	Q-19, R-19, RS-19	一括	III, IV	土師器 黑色土器a類	椀	完形	(外)灰黄色(内)黒色	13.0	7.3	6.5						良	ナデ ⁺	ミガキ	
169	T-25	11419, 11421	II	土師器 黑色土器a類	椀	完形	(外)にぶい黄橙色(内)黒色	17.4	6.6	5.5						良	ミガキ	ミガキ	
170	S-19, Q-20, T-20, QR-20	2712, 一括	III, IV, V	土師器 黑色土器a類	椀	完形	(外)暗灰黄色(内)黒色	18.0	6.0	5.0						良	ミガキ	ミガキ	
171	S-19, R-19	一括	III, V	土師器 黑色土器a類	椀	口縁～底部	(外)灰白色(内)灰色	17.3	6.9	5.3						良	ミガキ	ミガキ	赤色の石粒含む
172	RS-19	一括	III	土師器 黑色土器a類	椀	口縁～底部	(外)灰黄色(内)黒色	16.4	6.2	6.1						良	ミガキ	ミガキ	赤色の石粒含む
173	Q-19・20, QR-19・20, PQR-19	一括	II, III, IV	土師器 黑色土器a類	椀	口縁～胴部	(外)灰黄色(内)褐灰色	16.6	7.2	5.6						良	ミガキ	ミガキ	
174	Q-19	一括	II	土師器 黑色土器a類	椀	口縁～底部	(外)灰白色(内)黒色	17.8	7.6	5.0						良	ミガキ	ミガキ	
175	Q-20	6618, 6619	IV, V	土師器 黑色土器a類	椀	胴部～底部	(外)にぶい黄橙色(内)黒色	—	6.8	—						良	ミガキ	ミガキ	赤色の石粒含む
176	Q-19・20, PQ-19, RS-18・19	一括	III, IV	土師器 黑色土器a類	椀	口縁～底部	(外)にぶい黄橙色(内)黒色	15.2	5.8	5.6						良	ミガキ	ミガキ	
177	R-22	2377	II	土師器 黑色土器a類	高台付壊	口縁～底部	(外)にぶい黄橙色(内)黒色	15.0	7.8	4.7	○					良	ナデ ⁺	ミガキ	
178	R-22・23	2385, 6347	II	土師器 黑色土器a類	高台付壊	口縁～底部	(外)にぶい黄橙色(内)黒色	14.0	7.2	3.0						良	ナデ ⁺	ミガキ	
179	R-23	3476	II	土師器 黑色土器a類	高台付壊	完形	(外)橙色(内)黒色	12.0	7.2	3.9						良	ナデ ⁺	ミガキ	
180	Q-19, QR-19	一括	IV	土師器 黑色土器a類	椀	口縁～底部	(外)灰白色(内)黒色	17.8	—	—	○					良	ナデ ⁺ 回転ヘラケズリ	ミガキ	高台欠損小石粒含む
181	T-21	4065	II	土師器 黑色土器a類	椀	胴部～底部	(外)浅黄色(内)褐黑色	—	8.0	—	○					良	ナデ ⁺	ミガキ	高台欠損
182	QR-19, RS-19	一括	III	土師器 黑色土器a類	椀	底部	(外)にぶい橙色(内)黒色	—	8.8	—						良	ナデ ⁺	ミガキ	高台欠損

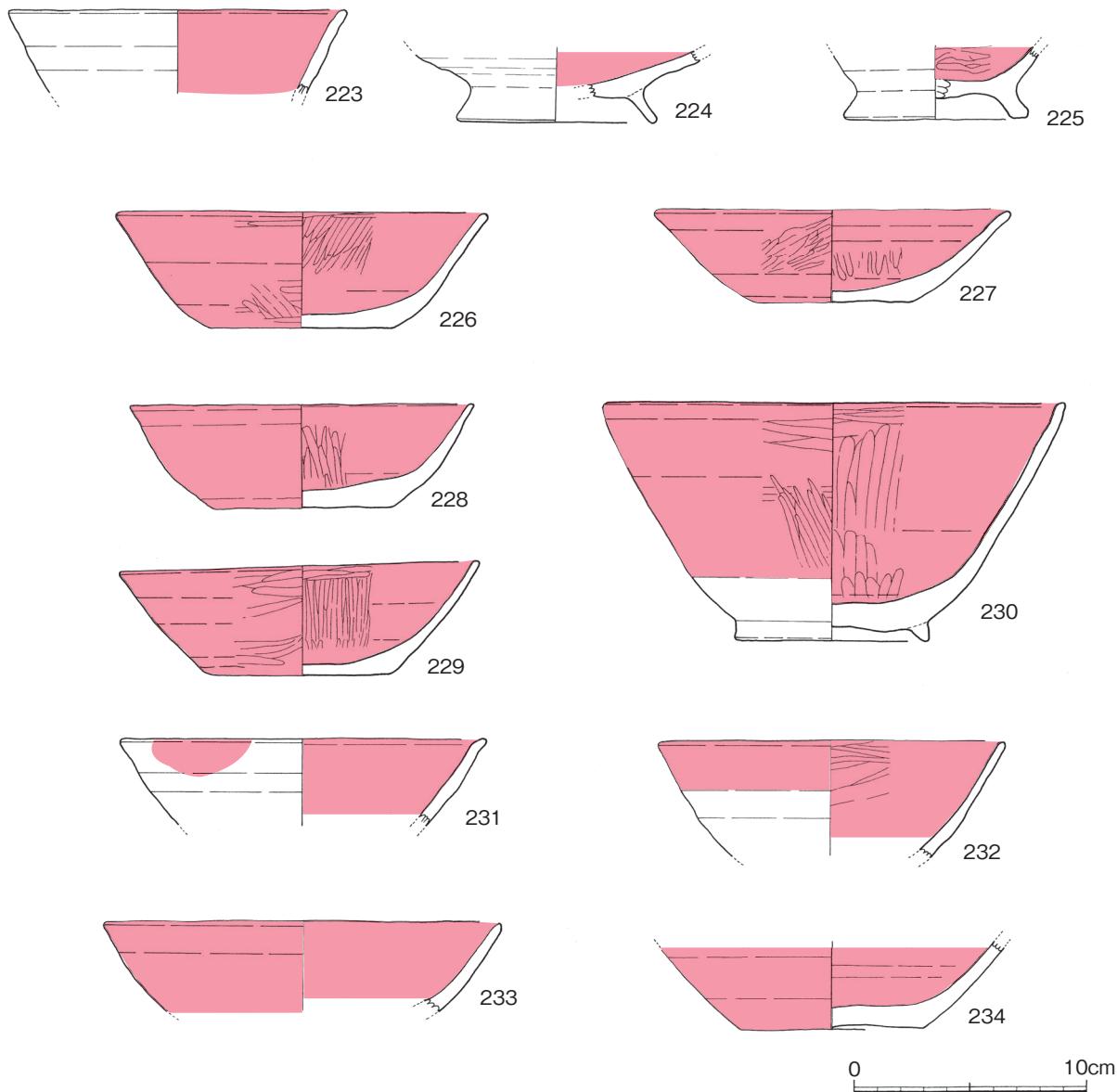
赤色土器（第62図）

223～225は内面にミガキが施され、赤色の顔料が塗布される赤色土器A類である。

223は直線的に延びる口縁部である。ミガキは明瞭でない。224・225は椀の底部である。224のミガキは明瞭でない。225は横方向のミガキが施される。

226～234は内外面ともにミガキが施され、赤色の顔料が塗布される赤色土器B類である。

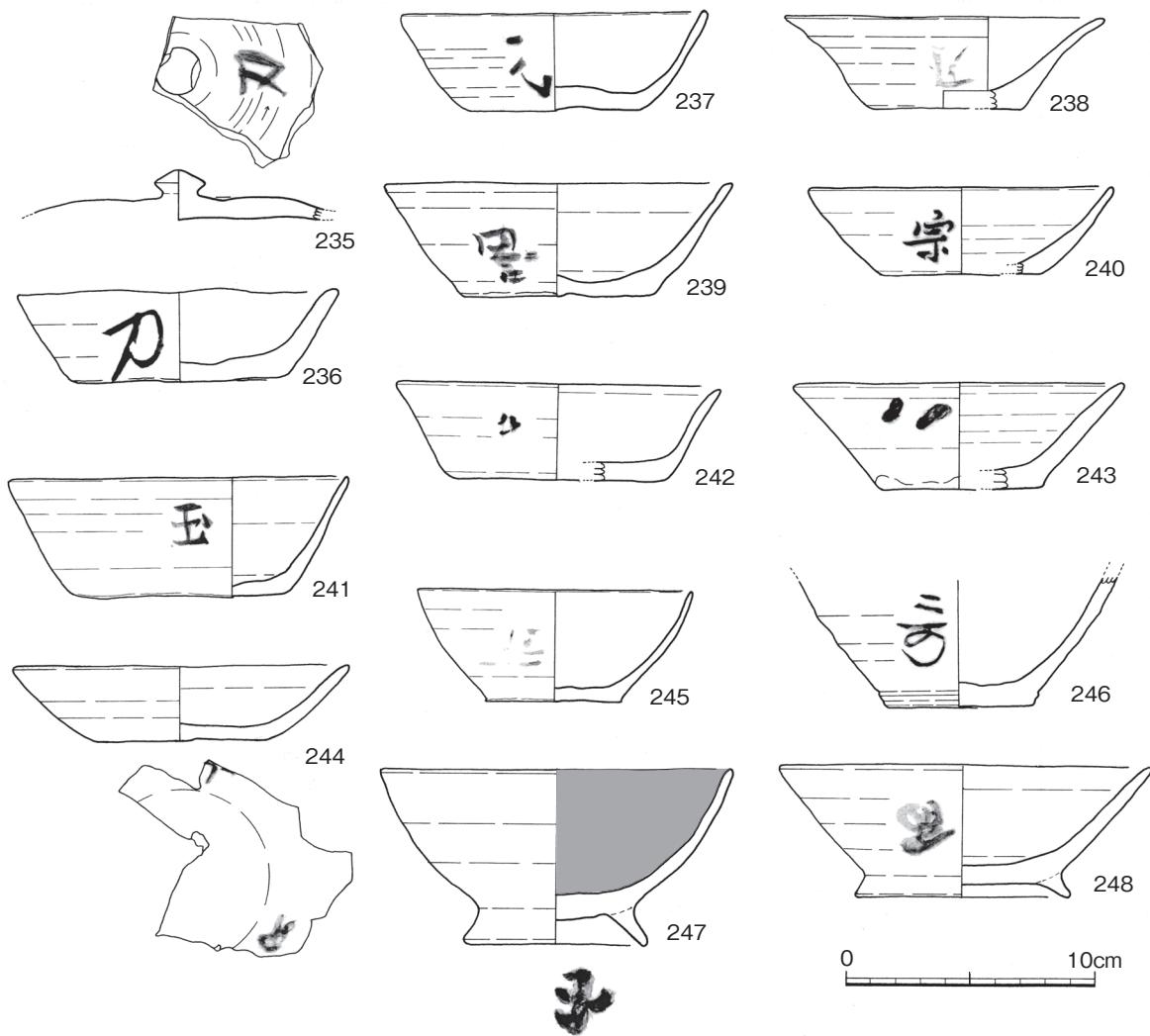
226～229は坏である。内面のミガキは縦及び斜め方向に施され、口縁部で横方向に施される。外面は横及び斜め方向に施されるが、228は不明瞭である。230は椀である。高台は低く短いが、体部は直線的に延び、器高も高い。内外面とも縦及び斜め方向のミガキが施され、口縁部では横方向に施される。231～233は口縁部である。232は外面全体に赤色顔料を塗布するものではなく、口縁部下位のみ塗布する。234は底部が厚く、鉢と思われるものである。内外面ともミガキは明瞭でない。



第62図 土師器16 赤色土器

土師器観察表6

插図番号	揭露番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)		胎土			焼成	調整		備考
									口径	底径	器高	石英	長石	角閃石	外面	内面	
第58図	183	S-20	5022	III	土師器 黒色土器a類	椀	口縁部	(外)灰黄色 (内)黒色	19.0	—	—	○	良	ナデ ^z	ミガキ	小石粒含む	
	184	R-21	7760, 7761	II	土師器 黒色土器a類	椀	口縁~胴部	(外)にぶい黄橙色 (内)黒色	7.9	—	—	○	良	ナデ ^z	ミガキ		
	185	R-21	10076, 19919	III	土師器 黒色土器a類	椀	口縁~胴部	(外)浅黄橙色 (内)黒色	14.4	—	—	○	良	ナデ ^z	ミガキ	小石粒含む	
	186	Q-18・19	一括	—	土師器 黒色土器a類	椀	口縁~胴部	にぶい黄橙色	14.2	—	—	○	良	ナデ ^z	ミガキ	赤色の石粒含む	
	187	S-26	14658	II	土師器 黒色土器a類	椀	口縁~胴部	(外)灰黄色 (内)黒色	17.6	—	—	○	良	ミガキ	ミガキ	赤色の石粒含む	
	188	R-27, S-27	18522, 19319, 19429	II, III	土師器 黒色土器a類	椀	口縁~底部	(外)灰白色 (内)黒色	16.8	8.0	5.0	○	良	ミガキ	ミガキ	赤色の石粒含む	
	189	T-23	21815	III	土師器 黒色土器a類	椀	口縁~胴部	(外)にぶい黄橙色 (内)黒色	19.6	—	—	○	良	ナデ ^z	ミガキ	赤色の石粒含む	
	190	Q-19	一括	II, IV	土師器 黒色土器a類	椀	口縁~胴部	(外)にぶい黄橙色 (内)黒色	18.2	—	—	○	良	ナデ ^z	ミガキ	赤色の石粒含む	
	191	S-24	10425	II	土師器 黒色土器a類	椀	口縁~胴部	(外)浅黃色 (内)黒色	16.0	—	—	○	良	ミガキ	ミガキ	赤色の石粒含む	
	192	Q-19	一括	II, III	土師器 黒色土器a類	椀	口縁~胴部	(外)黄灰色 (内)黒色	17.4	—	—	○	良	ミガキ	ミガキ	赤色の石粒含む	
	193	Q-18, PQR-19	一括	IV	土師器 黒色土器a類	椀	口縁~胴部	(外)にぶい黃色 (内)黒色	17.6	—	—	良	ミガキ	ミガキ			
	194	R-21	10086, 19962	II	土師器 黒色土器a類	椀	口縁~胴部	(外)灰白色 (内)黒色	17.0	—	—	良	ミガキ	ミガキ			
	195	Q-19・20	一括	II, III, V	土師器 黒色土器a類	椀	口縁部	(外)灰黄色 (内)黒色	16.6	—	—	良	ミガキ	ミガキ			
	196	Q-19	一括	III	土師器 黒色土器a類	椀	口縁部	(外)灰黄色 (内)黒色	18.0	—	—	良	ミガキ	ミガキ			
	197	Q-18-19-20	一括	I, II III, IV	土師器 黒色土器a類	椀	口縁~胴部	灰黄色	14.6	—	—	良	ミガキ	ミガキ			
第59図	198	S 地点	—	—	土師器 黒色土器a類	椀	胴部~底部	(外)浅黃色 (内)黒色	—	9.6	—	良	ナデ ^z	ミガキ			
	199	—	539	—	土師器 黒色土器a類	椀	胴部~底部	(外)にぶい黄橙色 (内)黒色	—	8.2	—	○	良	ナデ ^z	ミガキ	小石粒含む	
	200	S-20	一括	IV	土師器 黒色土器a類	椀	底部	(外)灰黄色 (内)黒色	—	8.0	—	○	良	ナデ ^z	ミガキ		
	201	S-27	15216	II	土師器 黒色土器a類	椀	胴部~底部	(外)灰白色 (内)黒色	—	7.2	—	○	良	ミガキ	ミガキ	赤色の石粒含む	
	202	Q-19	一括	II	土師器 黒色土器a類	椀	底部	(外)灰白色 (内)黒色	—	6.6	—	良	ナデ ^z	ミガキ			
	203	R-19	6477	V	土師器 黒色土器a類	椀	底部	(外)褐灰色 (内)黒色	—	6.4	—	良	ナデ ^z	ミガキ			
	204	—	—	—	土師器 黒色土器a類	椀	底部	灰黄褐色	—	6.5	—	良	ミガキ	ミガキ	11世紀～12世紀代 小石粒含む		
	205	Q-18-19-20	一括	IV	土師器 黒色土器a類	椀	底部	(外)灰色 (内)暗灰色	—	6.8	—	良	ミガキ	ミガキ			
	206	Q-19	一括	III	土師器 黒色土器a類	椀	底部	(外)灰白色 (内)黒色	—	6.5	—	良	ナデ ^z	ミガキ			
	207	Q-19	一括	IV	土師器 黒色土器a類	椀	胴部~底部	(外)黄灰色 (内)黒色	—	6.8	—	良	ナデ ^z	ミガキ	赤色の石粒含む		
	208	S 地点	—	—	土師器 黒色土器a類	椀	底部	(外)にぶい黄橙色 (内)黒色	—	7.0	—	良	ナデ ^z	ミガキ			
第60図	209	T-20	4467	IV層 直上	土師器 黒色土器a類	高坏	底部	(外)にぶい黄橙色 (内)黒色	—	10.0	—	○	良	ヘラケズリ ^z , ナデ ^z	ミガキ		
	210	R-23	11612	III	土師器 黒色土器a類	高坏	口縁~底部	(外)にぶい黄橙色 (内)黒褐色	17.4	8.4	3.5	○	良	ヘラケズリ ^z , ナデ ^z	ミガキ	小石粒含む	
	211	Q-20	一括	IV	土師器 黒色土器a類	高坏	底部	(外)にぶい橙色 (内)黒色	—	—	—	良	ナデ ^z	ミガキ	赤色の石粒含む		
	212	S-19	一括	V	土師器 黒色土器a類	椀	底部	(外)にぶい黄橙色 (内)灰色	—	7.6	—	○	良	ナデ ^z	ミガキ		
	213	Q-19	一括	IV	土師器 黒色土器a類	椀	底部	(外)灰白色 (内)黒色	—	8.3	—	良	ナデ ^z	ミガキ			
	214	S	一括	II	土師器 黒色土器a類	椀	底部	(外)にぶい黄橙色 (内)黒色	—	7.2	—	○	良	ナデ ^z	ミガキ	小石粒含む	
	215	S-19	一括	V	土師器 黒色土器a類	椀	底部	(外)灰黄色 (内)黒色	—	7.3	—	○	良	ナデ ^z	ミガキ	小石粒含む	
	216	Q-19	一括	IV	土師器 黒色土器a類	椀	底部	(外)にぶい黄褐色 (内)黒色	—	7.8	—	○	良	ナデ ^z	ミガキ	小石粒含む	
	217	R-27	17273	II	土師器 黒色土器b類	坏	口縁~底部	黑色	10.4	6.6	2.6	—	良	ミガキ	ミガキ		
第61図	218	R-22	5043	II	土師器 黒色土器b類	椀	底部	黃灰色	—	6.6	—	—	良	ミガキ	ミガキ		
	219	QR-19, R-20・21	一括	—	土師器 黒色土器b類	椀	底部	黃灰色	—	6.8	—	—	良	ミガキ	ミガキ		
	220	Q-19・ 20	一括	III	土師器 黒色土器b類	椀	胴部~底部	黑色	—	7.4	—	—	良	ミガキ	ミガキ		
	221	R-20, QR-18-20 PQ-19	一括	IV	土師器 黒色土器b類	椀	胴部~底部	黑色	—	6.2	—	—	良	ミガキ	ミガキ		
	222	RS-19	一括	III	土師器 黒色土器b類	椀	底部	黑色	—	6.4	—	—	良	ミガキ	ミガキ		
	223	R-22	2439	II	土師器 赤色土器a類	椀	口縁部	(外)明黄褐色 (内)橙色	14.6	—	—	—	良	ナデ ^z	ナデ ^z	底部へラ切り 小石粒含む	
	224	Q-20	一括	IV	土師器 赤色土器a類	椀	底部	(外)浅黄橙色 (内)明赤褐色	—	8.6	—	—	良	ナデ ^z	ナデ ^z		
第62図	225	R-22	2443	II	土師器 赤色土器b類	椀	底部	(外)灰白色 (内)橙色	—	8.0	—	—	良	ナデ ^z	ナデ ^z	小石粒含む	
	226	—	—	—	土師器 赤色土器a類	坏	口縁~底部	(外)橙色 (内)明赤褐色	16.0	8.0	5.0	—	良	ナデ ^z	ミガキ		
	227	Q-20	6361	V	土師器 赤色土器a類	坏	口縁~底部	明赤褐色	15.5	7.0	4.0	—	良	ミガキ	ミガキ		
	228	QR-18・19	一括	—	土師器 赤色土器a類	坏	口縁~底部	にぶい赤褐色	14.8	7.6	4.4	—	良	ナデ ^z	ミガキ		
	229	Q-18-19, R-19 RS-19, PQ-18, QR-19	—	IV	土師器 赤色土器a類	坏	完形	(外)にぶい橙色 (内)明褐色	15.6	8.0	4.5	—	良	ミガキ	ミガキ		
	230	R-19, QR-19-20 RS-19, QR-18-19	一括	IV	土師器 赤色土器a類	椀	口縁~底部	(外)明赤褐色 (内)橙色	19.8	8.4	10.2	—	良	ミガキ	ミガキ		
	231	R-23	21790	III	土師器 赤色土器a類	椀	口縁部	(外)灰白色 (内)橙	10.4	—	—	—	良	ナデ ^z	ナデ ^z	ヘラ切り 小石粒含む	
	232	R-22	9813	III	土師器 赤色土器a類	椀	口縁部	(外)にぶい橙色 (内)にぶい赤褐色	15.0	—	—	—	良	ナデ ^z	ミガキ	ヘラ切り	
	233	R-23	12924, 2924	II	土師器 赤色土器a類	椀	口縁部	(外)にぶい橙色 (内)にぶい赤褐色	17.2	—	—	—	良	ナデ ^z	ナデ ^z	ヘラ切り	
	234	RS-19	一括	III	土師器 赤色土器a類	坏	胴部~底部	にぶい橙色	—	8.0	—	—	良	ナデ ^z	ミガキ	ヘラ切り	



第63図 土師器17 墨書土器

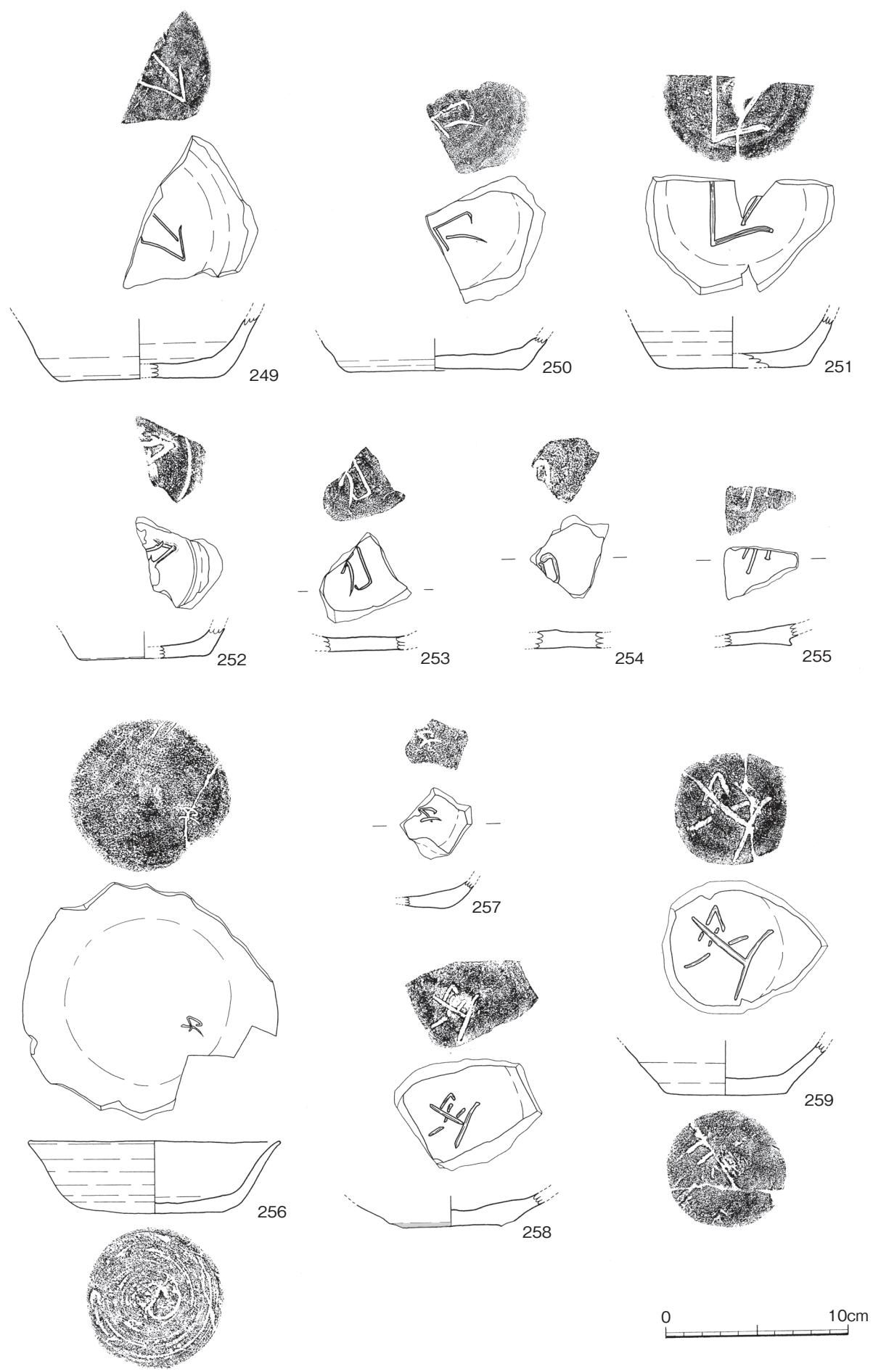
墨書土器（第63図）

235～248は墨書土器である。蓋・壺・椀に書かれている。墨書の位置は壺と椀については13点中1点が高台内面で、他は全て体部側面である。

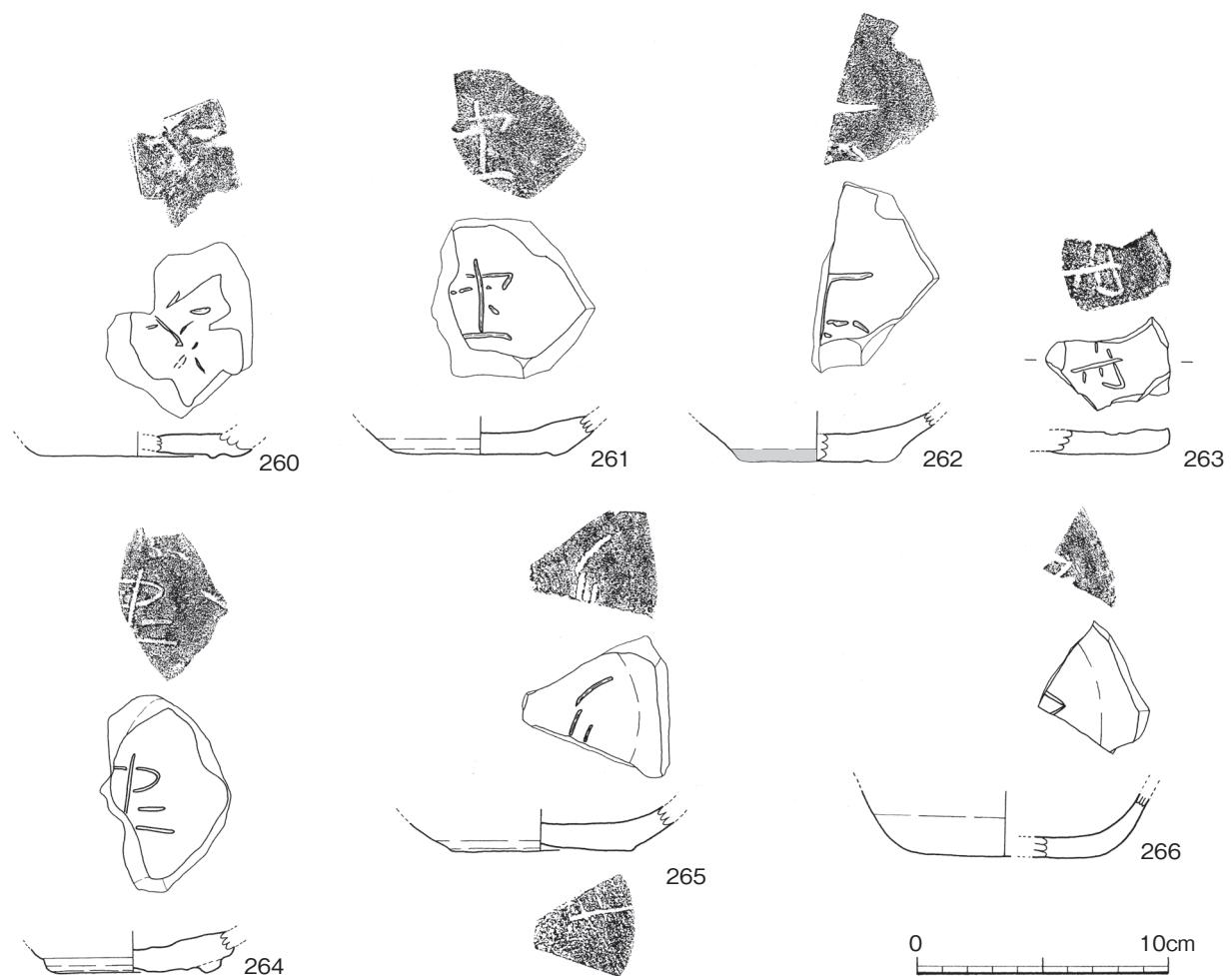
235～238は「刀」の文字が書かれたものである。235は蓋である。天井部に文字が書かれる。236～238は壺である。238は文字が逆位で書かれている。240は「宗」？の文字のように思われるが、判読に苦しい。241は「玉」の文字が書かれたものと思われる。その他242～248については、欠損等で文字の一部分しか残存していないため判読が難しい。247は高台内底に墨書が書かれたものである。

ヘラ書き土器（第64・65図）

249～266はヘラ書き土器である。土器の焼成前に、ヘラ状もしくは棒状の工具で文字を刻んだものを「ヘラ書き土器」として取り扱う。器種は掲載した18点中全てが壺で、文字は内面の見込みに刻まれている。



第64図 土師器18 ヘラ書き土器



第65図 土師器19 ヘラ書き土器

249～255は「刀」の文字が刻まれたものである。見込みに大きく刻まれる。256・257は「力」の文字が刻まれたものである。256は見込みの隅に小さく刻まれるが、257は見込みに小さく刻まれる。258～264は「虫」と思われる文字が刻まれたものである。6画目の「,」がやや離れた位置に刻まれることもあり、ややバランスの悪い形となっているが、すべての文字が見込み中央に大きく刻まれる。265・266については、判読不能である。

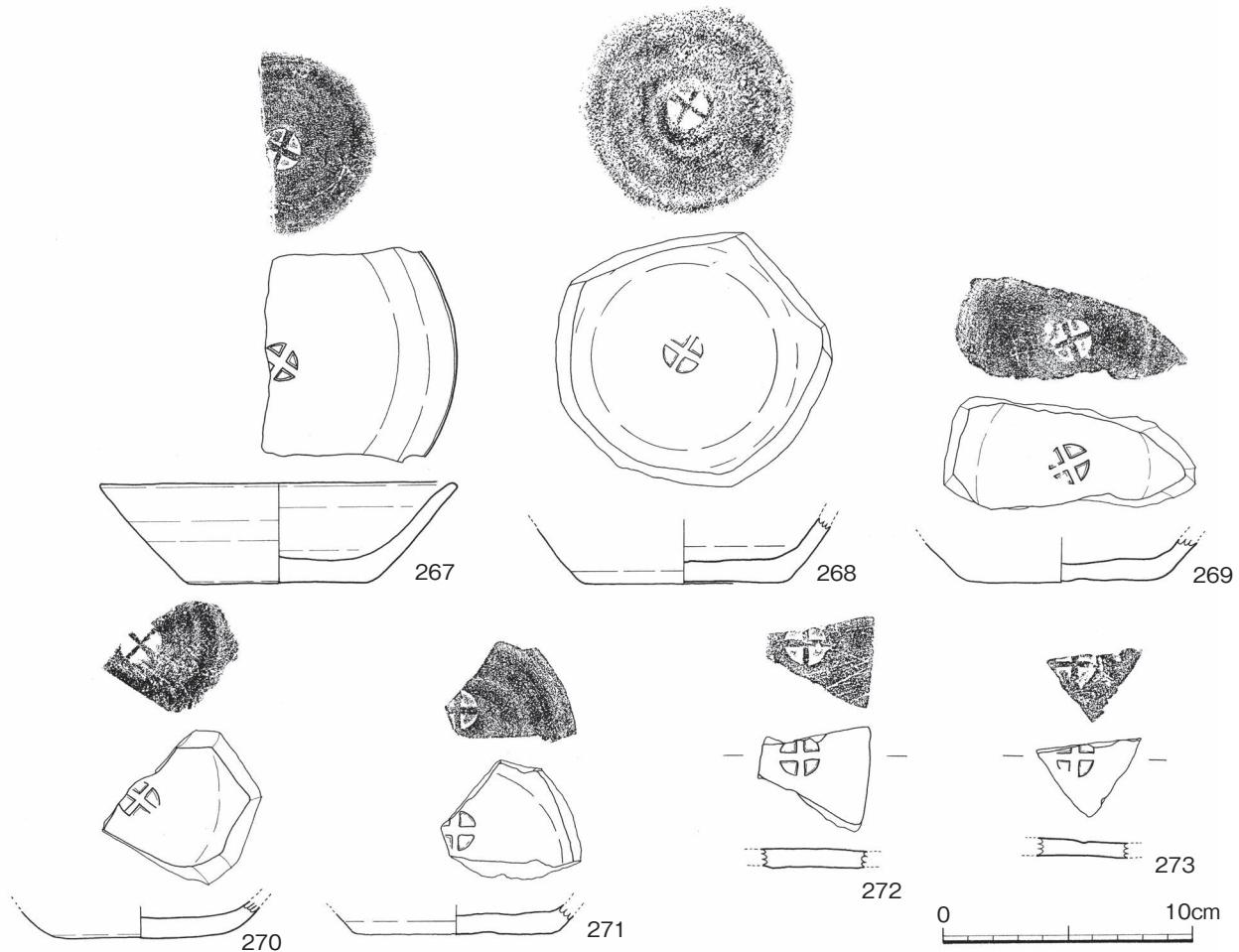
刻印土器（第66図）

267～273は刻印土器である。焼成前に、記号を彫り込んだstamp状の工具を押しつけて印を付けたものである。器種は全て壺で、記号は見込み中央に「○」の中に「十」が入った記号が刻印されている。

刻書土器（第67～69図）

274～311は刻書土器である。

焼成前に刻まれたヘラ書き土器と異なり、焼成後に先端が鋭利な工具により記号が刻まれたものを「刻書土器」とした。ヘラ書きの文字は太く深く刻まれ、粘土がたまた部分が見られるのに対



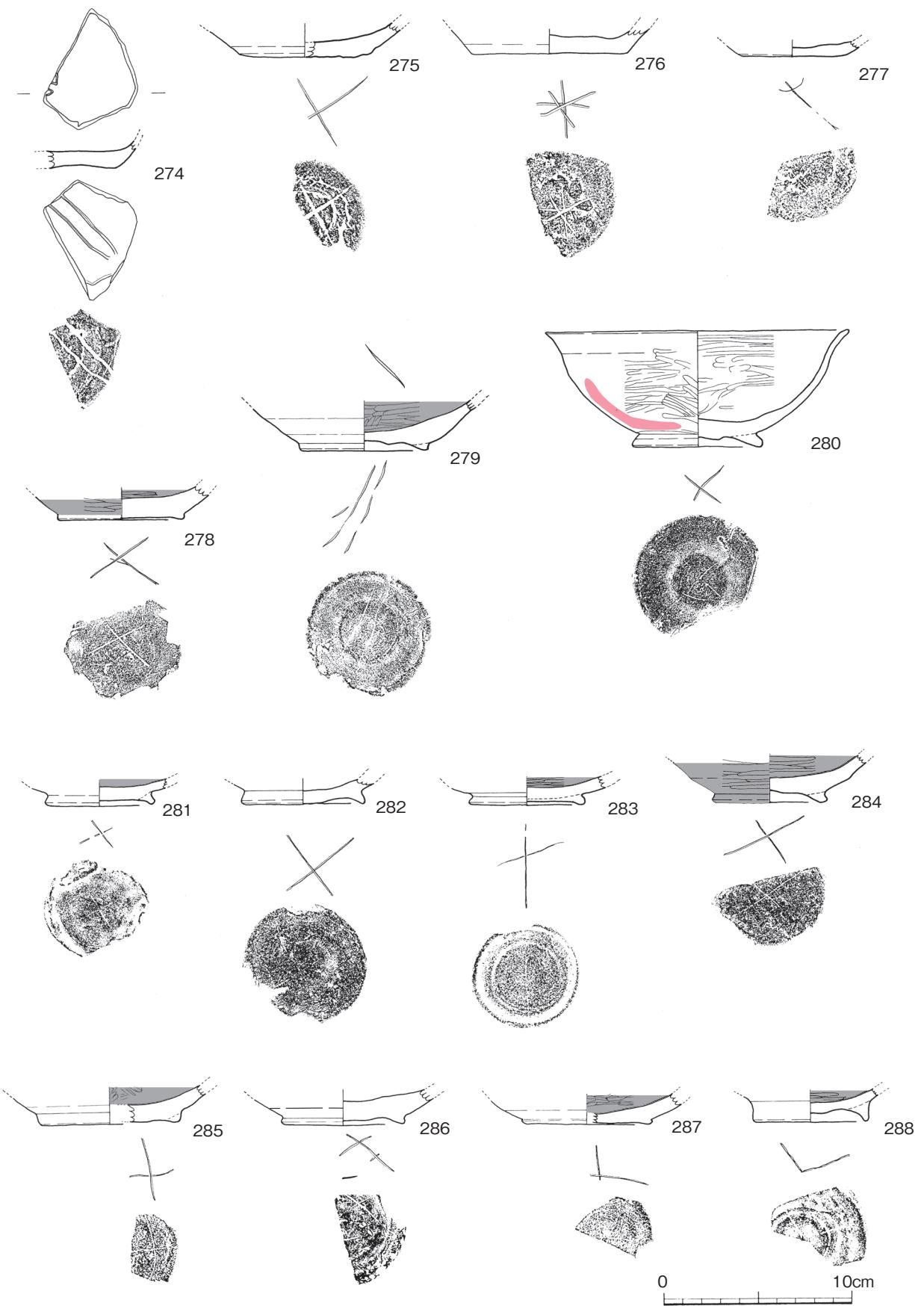
第66図 土師器20 刻印土器

して、刻書の場合は鋭く浅い記号が刻まれる。器種は土師器の壺と黒色土器の椀であるが、掲載した38点中、壺は4点で他は全て黒色土器の椀である。記号の位置は、見込みと高台内面の2か所に刻まれるもののが1点、体部側面が1点の他は、全て高台内面の1か所である。

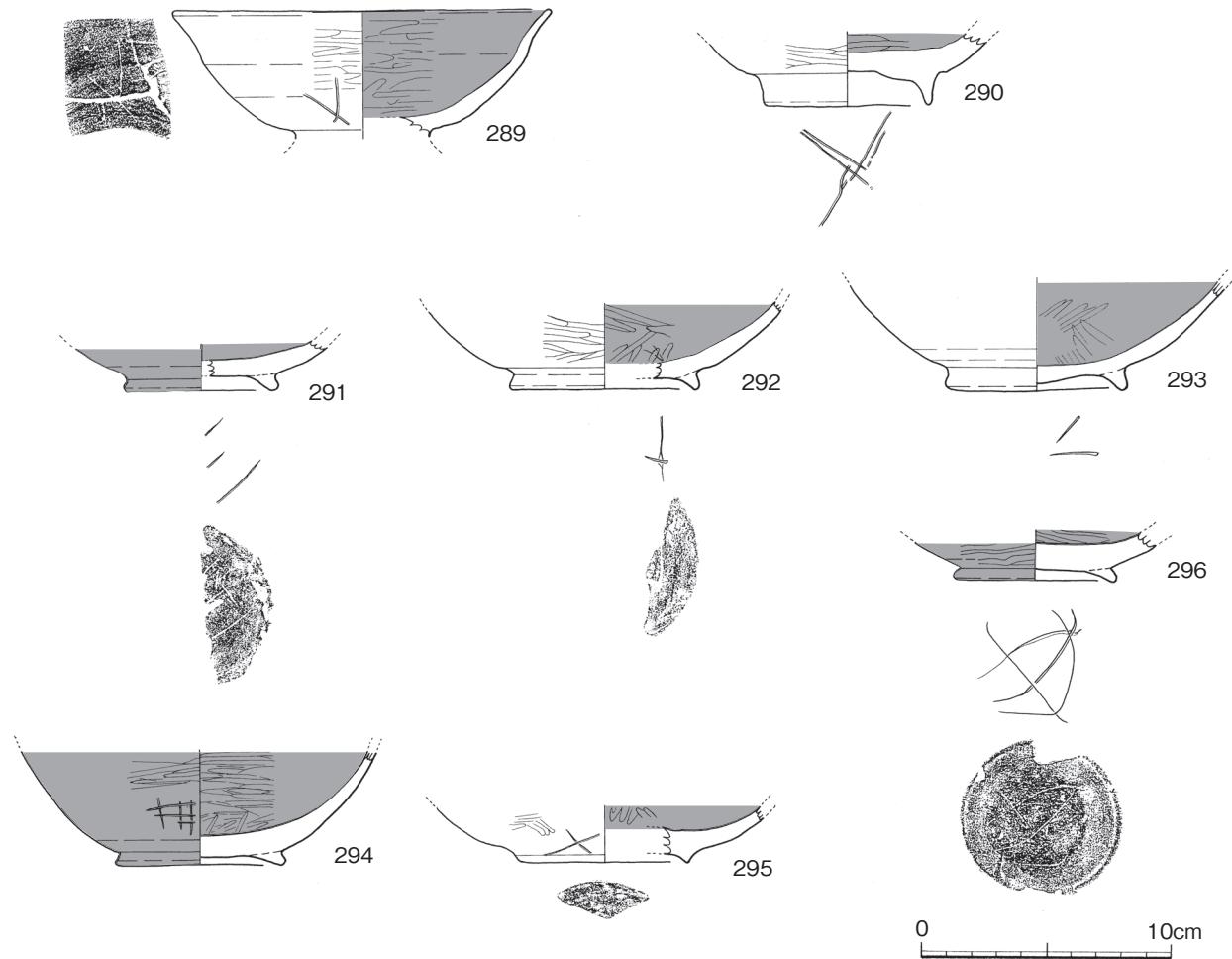
記号の種類については様様で、欠損のため詳細が判読不能なものもある。高台が短く低いもので、体部が曲線的に立ち上がるタイプの黒色土器に多く刻まれている。303～305については、焼成前に刻まれた可能性も考えられ、「田」の文字とも判読できる。

土師器観察表7

掲載番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			胎土			調整		備考		
								口径	底径	器高	石英	長石	角閃石	その他	外側	内面		
235	S	-	-	須恵器 墨書き土器	蓋	つまみ～胴部	灰白色	-	-	-	○				ヘラケズリ	ナデ	墨書き刀	
236	R-19	6682	V	土師器 墨書き土器	壺	口縁～底部	橙色	13.0	8.4	3.6				○	ナデ	ナデ	墨書き刀 赤色の石粒含む ヘラ切り	
237	P-19	6653	V	土師器 墨書き土器	壺	口縁～底部	にぶい黄褐色	12.2	6.7	3.9		○			ナデ ²	ナデ ²	墨書き刀 ヘラ切り	
238	QR-19	-括	-	土師器 墨書き土器	壺	口縁～底部	浅黄橙色	12.8	6.1	3.7			○		ナデ	ナデ	墨書き刀 赤色の石粒含む 底部ヘラ切り	
239	R-18	5987	IV	土師器 墨書き土器	壺	口縁～底部	(外)灰白色 (内)褐色	14.0	7.5	4.6					ナデ	ナデ	墨書き田・?2文字 ヘラ切り	
240	-	-	-	土師器 墨書き土器	壺	口縁～底部	(外)にぶい橙色 (内)淡赤橙色	12.0	6.4	3.5	○				ナデ	ナデ	墨書き宗? ヘラ切り後ナデ	
63 図	241	R-22	19989	II	土師器 墨書き土器	壺	口縁～底部	(外)にぶい黄橙色 (内)浅黄橙色	13.0	8.0	4.7					ナデ	ナデ	墨書き玉 ヘラ切り後ナデ
	242	T-19	4552	IV層 直上	土師器 墨書き土器	壺	口縁～底部	にぶい橙色	13.0	8.3	3.8			○		ナデ	ナデ	赤色の石粒含む ヘラ切り後ナデ
243	S	-	-	土師器 墨書き土器	壺	口縁～底部	(外)にぶい橙色 (内)浅黄橙色	13.4	6.6	4.3					ナデ	ナデ	ヘラ切り	
244	QP-19	-括	IV	土師器 墨書き土器	壺	口縁～底部	橙色	13.2	6.9	3.0				○	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む ヘラ切り	
245	R-22	8819	II	土師器 墨書き土器	壺	口縁～底部	浅黄橙色	12.0	5.4	4.5		○			ナデ	ナデ	小石粒含む ヘラ切り	
246	Q-19・20	-括	IV	土師器 墨書き土器	壺	胴部～底部	にぶい黄橙色	-	5.9	-	○				ナデ	ナデ	墨書き? ヘラ切り	
247	Q-19, S-19, R-19	-括	IV	土師器 墨書き土器	椀	口縁～底部	(外)にぶい黄褐色 (内)黒色	14.0	7.0	7.0					ナデ	ナデ		
248	R-19	6498, 6192	III V	土師器 墨書き土器	椀	完形	淡橙色	15.0	8.2	5.3	○				ナデ	ナデ	小石粒含む	



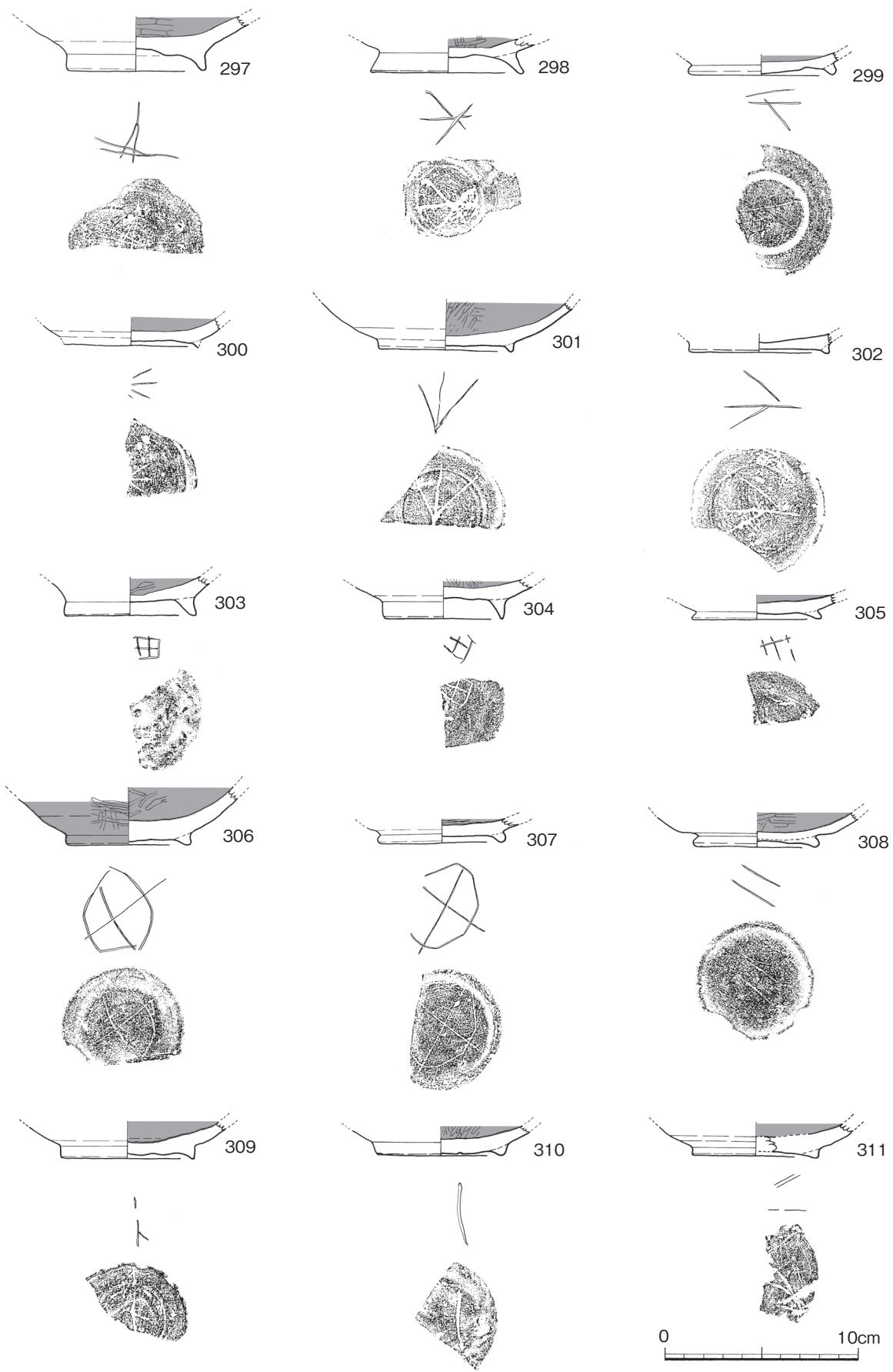
第67図 土師器21 刻書土器



第68図 土師器22 刻書土器

土師器観察表8

番号	出土地	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			胎土			焼成	調整		備考		
								口径	底径	器高	石英	長石	角閃石		外側	内面			
第64図	249	QR-19	一括	III	土師器 ヘラ書き土器	坏	底部～体部	浅黄灰色	—	9.0	—				○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	刀 小石粒含む 赤色の石粒含む ヘラ切り後ナデ ^z
	250	R-24	2075	II	土師器 ヘラ書き土器	坏	底部～体部	浅黄橙色	—	9.3	—				○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	刀 赤色の石粒含む ヘラ切り
	251	S-19	4253, 4537	IV層 直上	土師器 ヘラ書き土器	坏	底部～体部	灰白色	—	8.4	—					良	ナデ ^z	ナデ ^z	刀 ヘラ切り
	252	R-19	一括	IV	土師器 ヘラ書き土器	坏	底部	灰白色	—	7.0	—					良	ナデ ^z	ナデ ^z	刀 ヘラ切り
	253	PQ-19	一括	III	土師器 ヘラ書き土器	坏	底部	灰白色	—	—	—					良	ナデ ^z	ナデ ^z	刀 ヘラ切り
	254	R-3T	1253	II	土師器 ヘラ書き土器	坏	底部	橙色	—	—	—	○				良	ナデ ^z	ナデ ^z	刀 ヘラ切り
	255	S-23	4906	II	土師器 ヘラ書き土器	坏	底部	淡黄色	—	—	—					良	ナデ ^z	ナデ ^z	刀 ヘラ切り
	256	R-19	一括	—	土師器 ヘラ書き土器	坏	口縁～底部	浅黄橙色	13.8	7.8	4.0				○	良	ナデ ^z 回転ヘラギリ	ナデ ^z	カ 一部に朱? ヘラ切り
	257	R-27	19434	II	土師器 ヘラ書き土器	坏	底部～体部	橙色	—	—	—	○				良	ナデ ^z	ナデ ^z	カ 小石粒含む ヘラ切り
	258	Q-19	6642	V	土師器 ヘラ書き土器	椀	底部～体部	灰白色	—	2.8	—					良	ナデ ^z	ナデ ^z	虫 ヘラ切り高台欠損
第65図	259	—	一括	—	土師器 ヘラ書き土器	坏	底部～体部	灰白色	—	6.7	—				○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	虫 ヘラ切り後ナデ ^z
	260	—	—	—	土師器 ヘラ書き土器	椀	底部	浅黄橙色	—	7.3	—				○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	虫 ヘラ切り
	261	U-24	19587	II	土師器 ヘラ書き土器	椀	底部～体部	灰白色	—	6.0	—				○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	虫 ヘラ切り
	262	R-22	6092	II	土師器 ヘラ書き土器	椀	底部～体部	浅黄橙色	—	3.1	—				○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	ヘラ切り
	263	—	—	—	土師器 ヘラ書き土器	椀	底部	浅黄橙色	—	—	—				○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	虫 ヘラ切り
	264	R-22	8819	II	土師器 ヘラ書き土器	椀	底部	浅黄橙色	—	6.0	—				○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	虫 ヘラ切り
	265	Q-19・20	一括	IV	土師器 ヘラ書き土器	坏	底部～体部	灰白色	—	7.2	—				○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	底部にスス ヘラ切り後ナデ ^z
	266	R-3T	1376	III	土師器 ヘラ書き土器	坏	底部～体部	浅黄橙色	—	8.0	—				○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	赤色の石粒含む ヘラ切り後ナデ ^z



第69図 土師器23 刻書土器

土師器観察表9

備考番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			胎土			焼成	調整		備考	
								口径	底径	器高	石英	長石	角閃石	その他	外面	内面		
第66図	267	S-22	9945	III	土師器 刻印土器	坏	口縁~底部	橙色	14.4	7.2	4.0			○	良	ナデ ^z 回転ヘラケズリ	ナデ ^z	○に十 赤色の石粒含む ヘラ切り後ナデ ^z
	268	S-21	5473	III	土師器 刻印土器	坏	底部	(外)灰白色 (内)浅黄橙色	-	8.2	-			○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	○に十 赤色の石粒含む ヘラ切り後ナデ ^z
	269	QR-19	-括	III	土師器 刻印土器	坏	底部	にぶい黄橙色	-	7.8	-			○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	○に十 赤色の石粒含む ヘラ切り後ナデ ^z
	270	R-20	-括	IV	土師器 刻印土器	坏	底部	にぶい黄橙色	-	6.2	-			○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	○に十 赤色の石粒含む ヘラ切り
	271	RS-19	-括	IV	土師器 刻印土器	坏	底部	にぶい黄橙色	-	8.0	-			○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	○に十 赤色の石粒含む ヘラ切り
	272	Q-19・20	-括	IV	土師器 刻印土器	坏	底部	(外)にぶい黄橙色 (内)淡黄橙色	-	-	-			○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	○に十 赤色の石粒含む ヘラ切り
	273	-	-	-	土師器 刻印土器	坏	底部	(外)にぶい黄橙色 (内)にぶい橙色	-	-	-			○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	○に十 赤色の石粒含む ヘラ切り
	274	R-22	2392	II	土師器 刻書土器	坏	底部	にぶい黄橙色	-	-	-			○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	赤色の石粒含む ヘラ切り後ナデ ^z
	275	S	-括	-	土師器 刻書土器	坏	底部	橙色	-	6.8	-			良	ナデ ^z	ナデ ^z	ヘラ切り後ナデ ^z	
	276	S-19	-括	V	土師器 刻書土器	坏	底部~体部	灰白色	-	8.2	-		○	良	ナデ ^z	ナデ ^z	ヘラ切り後ナデ ^z	
第67図	277	R-1T	696	II	土師器 刻書土器	坏	底部	(外)にぶい橙色 (内)明褐灰色	-	6.0	-			良	ナデ ^z	ナデ ^z	小石粒含む ヘラ切り後ナデ ^z	
	278	PQ-20	-括	-	土師器 刻書土器 黒色土器b類	坏	底部	(外)灰色 (内)暗灰色	-	6.6	-			良	ミガキ	ミガキ		
	279	Q-19	-括	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)灰黄色 (内)黑色	-	6.8	-		○	良	ナデ ^z	ミガキ		
	280	QR-19, PQ-19, Q-20	-括	III	土師器 刻書土器 赤色土器b類	椀	口縁~底部	にぶい黄橙色	16.2	7.0	6.2			良	ミガキ	ミガキ	小石粒含む	
	281	T-26	14416	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)浅黄橙色 (内)黑色	-	5.8	-			良	ナデ ^z	ミガキ		
	282	R-22	4199	II	土師器 刻書土器	椀	底部	にぶい黄橙色	-	6.6	-			良	ナデ ^z	ナデ ^z		
	283	R-2T	49	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)浅黄橙色 (内)黑色	-	6.2	-		○	良	ナデ ^z	ミガキ	赤色の石粒含む	
	284	RQ-19	-括	III	土師器 刻書土器 黒色土器b類	椀	底部	(外)灰色 (内)暗灰色	-	6.2	-			良	ミガキ	ミガキ		
	285	T-25	13602	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)浅黄橙色 (内)黑色	-	7.4	-		○	良	ナデ ^z	ミガキ	赤色の石粒含む	
	286	R-519	-括	III	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)浅黄橙色 (内)にぶい黄褐色	-	6.4	-		○	良	ナデ ^z	ミガキ		
第68図	287	S	-	-	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)にぶい黄橙色 (内)黑色	-	7.0	-		○	良	ナデ ^z	ミガキ		
	288	S-23	3166	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)浅黄色 (内)黑色	-	6.4	-			良	ナデ ^z	ミガキ	赤色の石粒含む	
	289	Q-19	-括	II, IV	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)灰黄色 (内)黑色	15.4	-	-			良	ミガキ	ミガキ		
	290	Q-19	-括	III	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)にぶい黄橙色 (内)黑色	-	6.5	-		○	良	ミガキ	ミガキ	赤色の石粒含む	
	291	S-15・16	-括	-	土師器 刻書土器 黒色土器b類	椀	底部	黑色	-	6.2	-			良	ミガキ	ミガキ		
	292	R-22	6581	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	胴部~底部	(外)灰黄色 (内)黑色	-	7.4	-			良	ミガキ	ミガキ		
	293	Q-19	-括	II, III, IV	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	胴部~底部	(外)灰黄褐色 (内)黑色	-	7.3	-		○	良	ナデ ^z	ミガキ	赤色の石粒含む	
	294	Q-18・19	-括	II, III, IV	土師器 刻書土器 黒色土器b類	椀	底部	黑色	-	6.6	-			良	ミガキ	ミガキ		
	295	Q-20	-括	III	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	胴部~底部	(外)灰白色 (内)灰色	-	7.0	-			良	ミガキ	ミガキ		
	296	S-19	-括	IV	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	黑色	6.2					良	ミガキ	ミガキ		
第69図	297	T-26	18384	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)浅黄橙色 (内)黑色	-	7.2	-			○	良	ナデ ^z	ミガキ	赤色の石粒含む
	298	R-27	17894	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)明黄褐色 (内)黑色	-	8.0	-			良	-	ミガキ		
	299	Q-20	-括	III	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)灰白色 (内)黑色	-	7.6	-			良	ナデ ^z	ミガキ		
	300	S-25	18002	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)浅黄橙色 (内)褐灰色	-	7.0	-			良	ナデ ^z	ミガキ		
	301	R-27	11478	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)淡黄色 (内)黑色	-	7.0	-		○	良	ナデ ^z	ミガキ	赤色の石粒含む	
	302	R-27	13908	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)にぶい橙色 (内)暗褐色	-	7.3	-			良	ナデ ^z	ミガキ		
	303	S-23	2265	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	橙色	-	6.8	-			良	ナデ ^z	ミガキ		
	304	S-27	18054	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)淡黄色 (内)黑色	-	6.2	-		○	良	ナデ ^z	ミガキ	赤色の石粒含む	
	305	R-22	2500	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)にぶい黄橙色 (内)浅黄色	-	6.8	-			良	ナデ ^z	ミガキ		
	306	R-21	8700	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	黑色	-	6.6	-			良	ハケ目	ナデ ^z ヘラケズリ		
	307	T-25	11362	II	土師器 刻書土器 黒色土器b類	椀	底部	(外)にぶい黄橙色 (内)黑色	-	6.6	-			良	ハケ目	ナデ ^z ヘラケズリ		
	308	S-27	19320	III	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	胴部~底部	(外)浅黄色 (内)黑色	-	6.7	-		○	良	ハケ目	ナデ ^z ヘラケズリ	赤色の石粒含む	
	309	S-22	6124	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)灰白色 (内)褐灰色	-	7.0	-		○	良	ナデ ^z	ミガキ		
	310	T-26	14825	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	淡黄色	-	6.6	-		○	良	ナデ ^z	ミガキ	赤色の石粒含む	
	311	R-22	4546	II	土師器 刻書土器 黒色土器a類	椀	底部	(外)灰黄色 (内)黑色	-	6.6	-			良	ナデ ^z	ミガキ		

甕（第70～79図）

本遺跡からは多数の土師器の甕が出土した。器形や内外面の調整方法によりVI類に分類した。

I類 口縁部は短く、器壁は厚手のものがほとんどであるが、薄手のものも見られる。

内面調整は内面のケズリ上端を水平にそろえる。そのため口縁部内面に明瞭な稜ができる。器形により、a 胴部が張らないもの、b 胴部が張るものに細分化した。

II類 口縁部が長く、器壁も薄いものが多い。調整は外面に縦方向のハケ目が施される。内面は口縁部に回転ナデを施した後、口縁部と胴部の境に細いハケ目を入れ、胴部は斜め方向のケズリを施す。ケズリの先端は揃えない。器形により、a 胴部が張らないもの、b 胴部が張るものに細分化した。

III類 口縁部が長く、器壁は薄いものの厚いもののどちらも見られる。調整は、外面はヘラ状工具によるナデが縦方向や横方向に施されるものがある。内面は斜め方向のヘラケズリが施され、ケズリの上端は揃えない。器形により、a 胴部が張らないもの、b 胴部が張るものに細分化した。

IV類 口縁が長く、器壁は薄い。調整は、外面がナデ、内面は口縁部から胴部中位まで回転ナデが施される。ヘラケズリは胴部下位から中位までとなる。器形により、a 胴部が張らないもの、b 胴部が張るものに細分化した。

V類 口縁部は長く、器壁は薄い。鍋状の器形を呈するものである。調整は、外面はヘラ状工具によりナデ、内面は横方向のヘラケズリが施される。

VI類 口径が20cm以下の小形の甕である。器壁は薄く、胴部はやや張り気味で、全体的に丸みを帯びる。調整は、外面がナデ、内面は斜め方向のヘラケズリが施される。ケズリの先端は平行に整えられないが、明瞭な稜が残る。

312～316はI a類である。312・313は器壁が薄いが、314～316は厚い。316は頸部の屈曲がほとんどないものである。317～319はI b類である。318は器壁が薄く、内面に横方向のケズリが施される。

320～328はII a類である。328以外は、口縁は細く長く伸びる。329～338はII b類である。胴部が丸く膨らむものである。338は丸い形状を呈する胴部である。

339～345はIII a類である。器壁は薄い。343は、内面調整のヘラナデの痕跡が強く残り、ヘラケズリのように見える。344は口縁部内面に回転ヘラナデの痕跡が強く残る。345は外面にヘラ状工具による横方向のナデが筋状に残るものである。346～353はIII b類である。器壁は厚い。353は口縁部のラインも歪んで、外面には指圧痕が観察される。

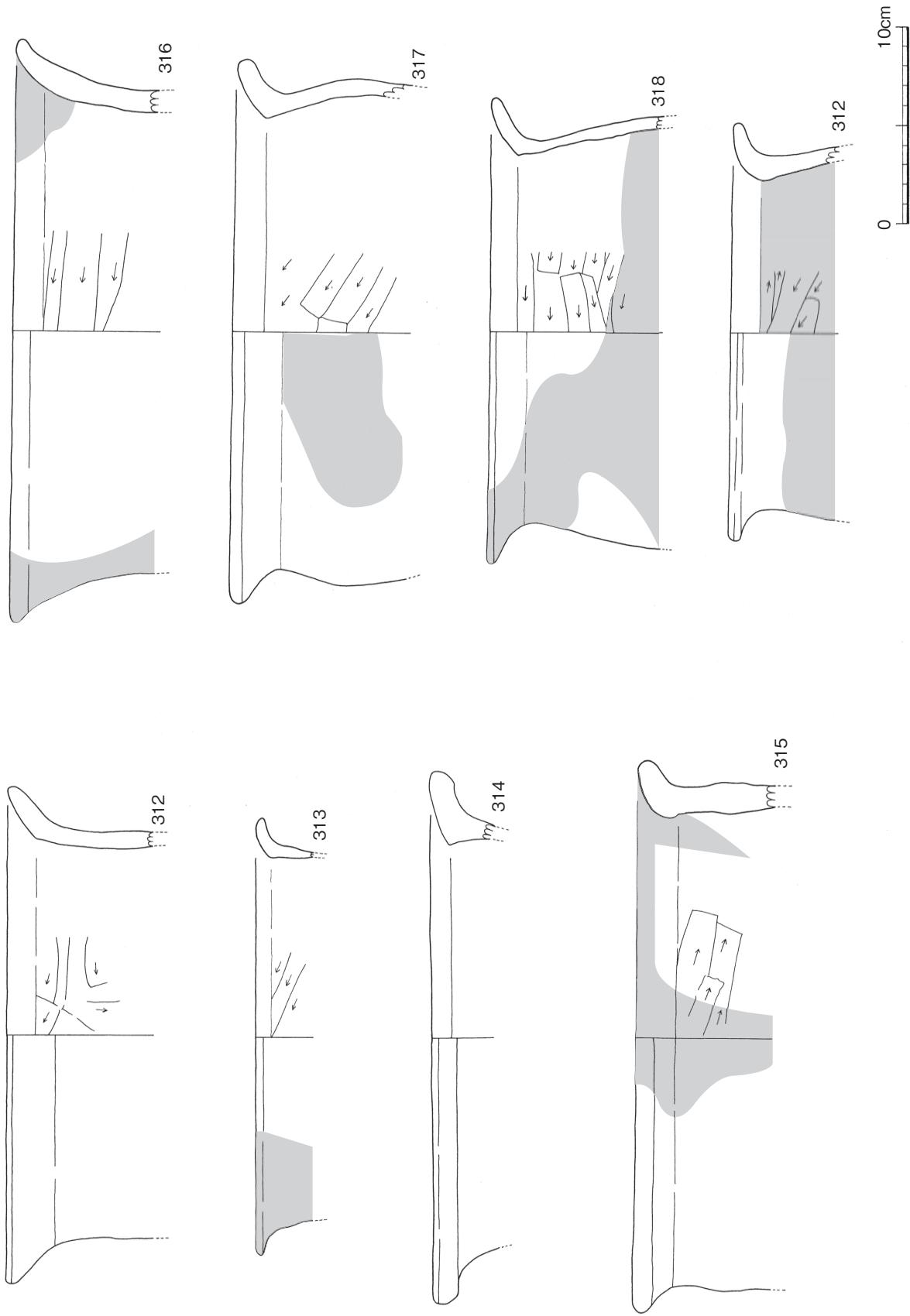
354～363はIV a類である。器壁は薄く、口縁部は長い。363はやや器壁が厚い。364～369はIV b類である。

370・371はV類である。

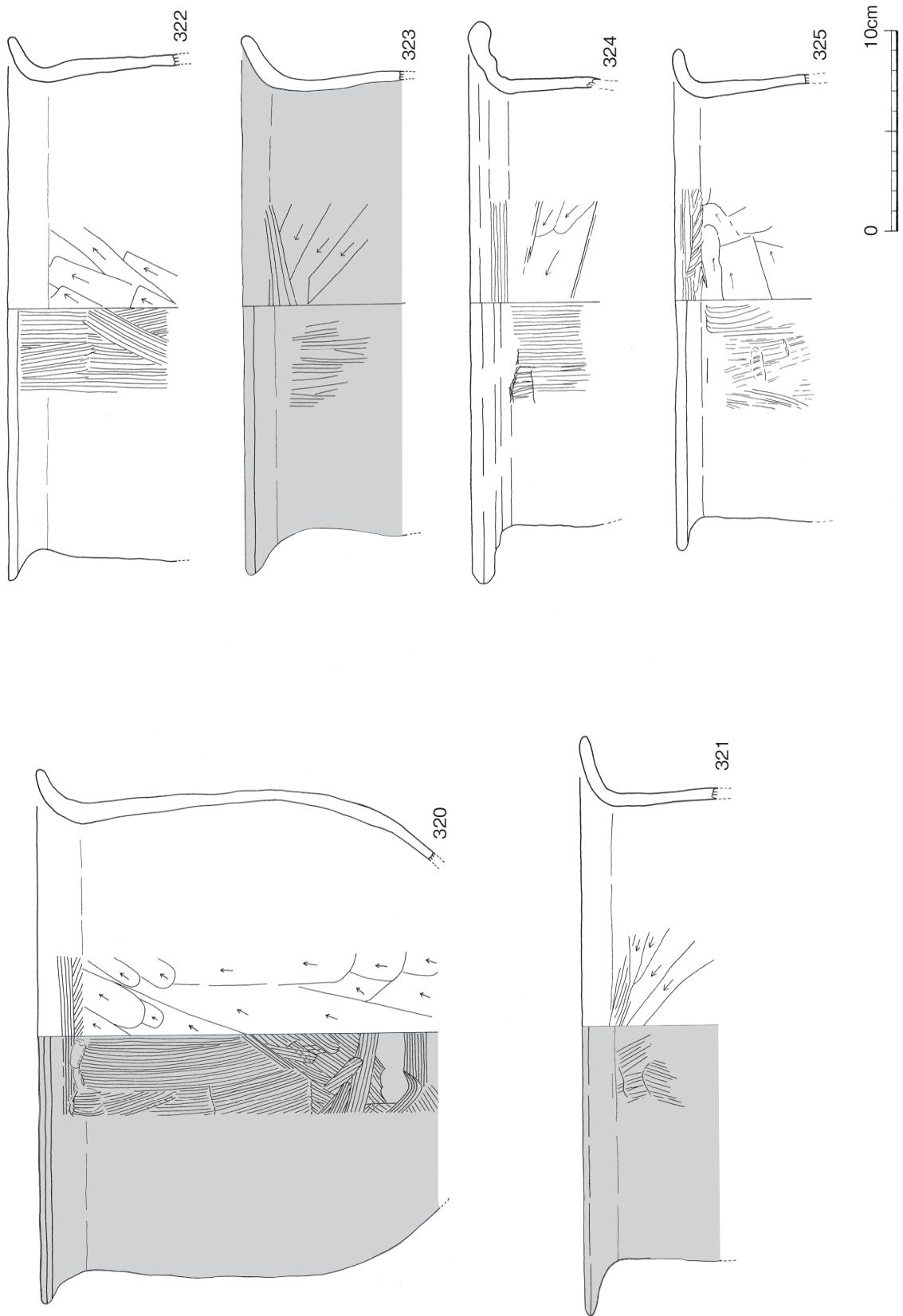
372・373は分類以外のものである。372は外面口縁部下位に把手が付いたものである。内面は口縁部下位までヘラケズリが施される。鉢とも捉えられるが、甕の範疇で取り扱った。373は甕の胴部である。器壁が厚く、外面にはヘラ状工具による細かいナデが施される。内面は横方向のヘラケズリが見られる。

374～381はVI類である。小形で、器壁も薄い。全体的に丸みをもつ形状で、底部も丸底である。

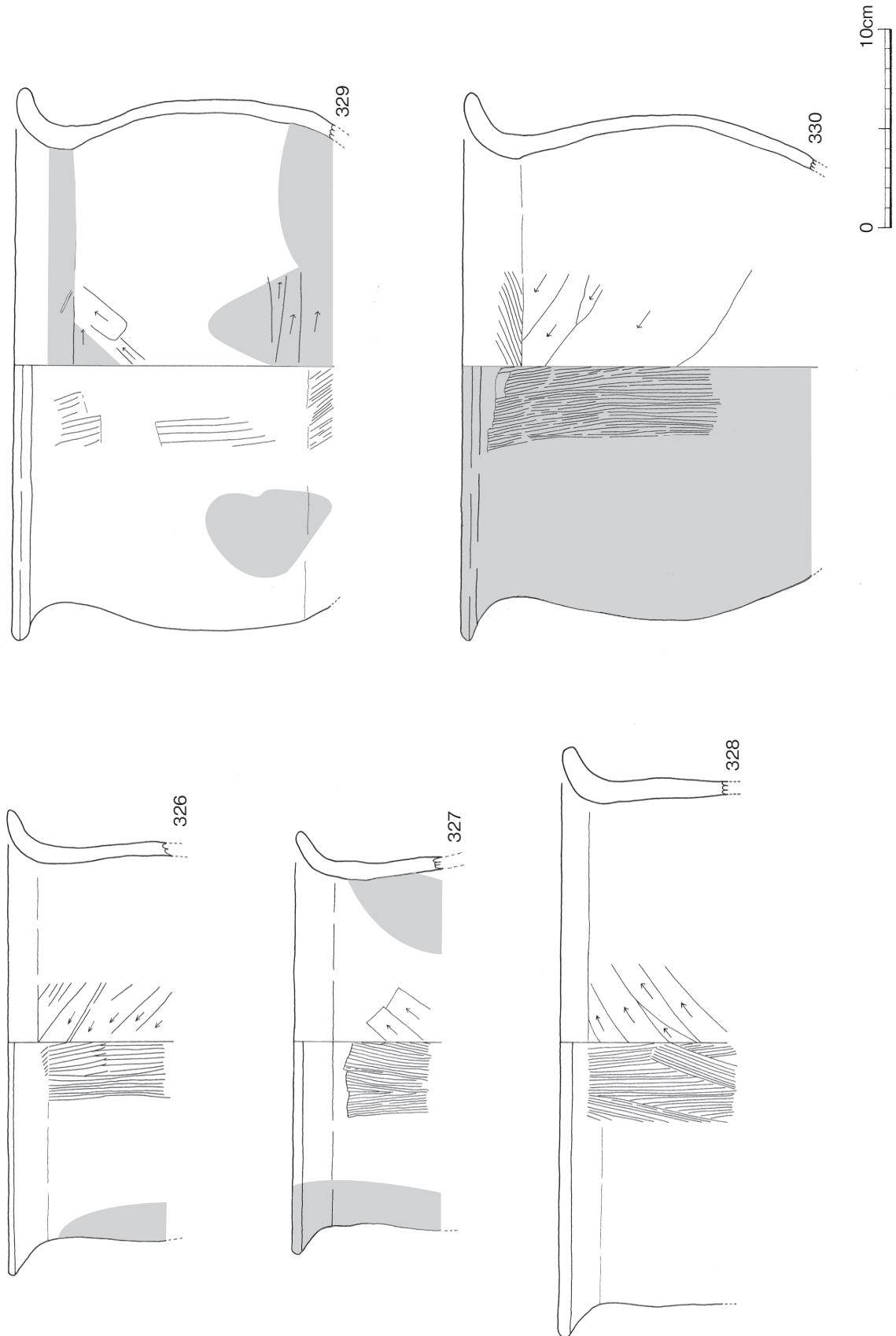
第70図 土師器24 麋



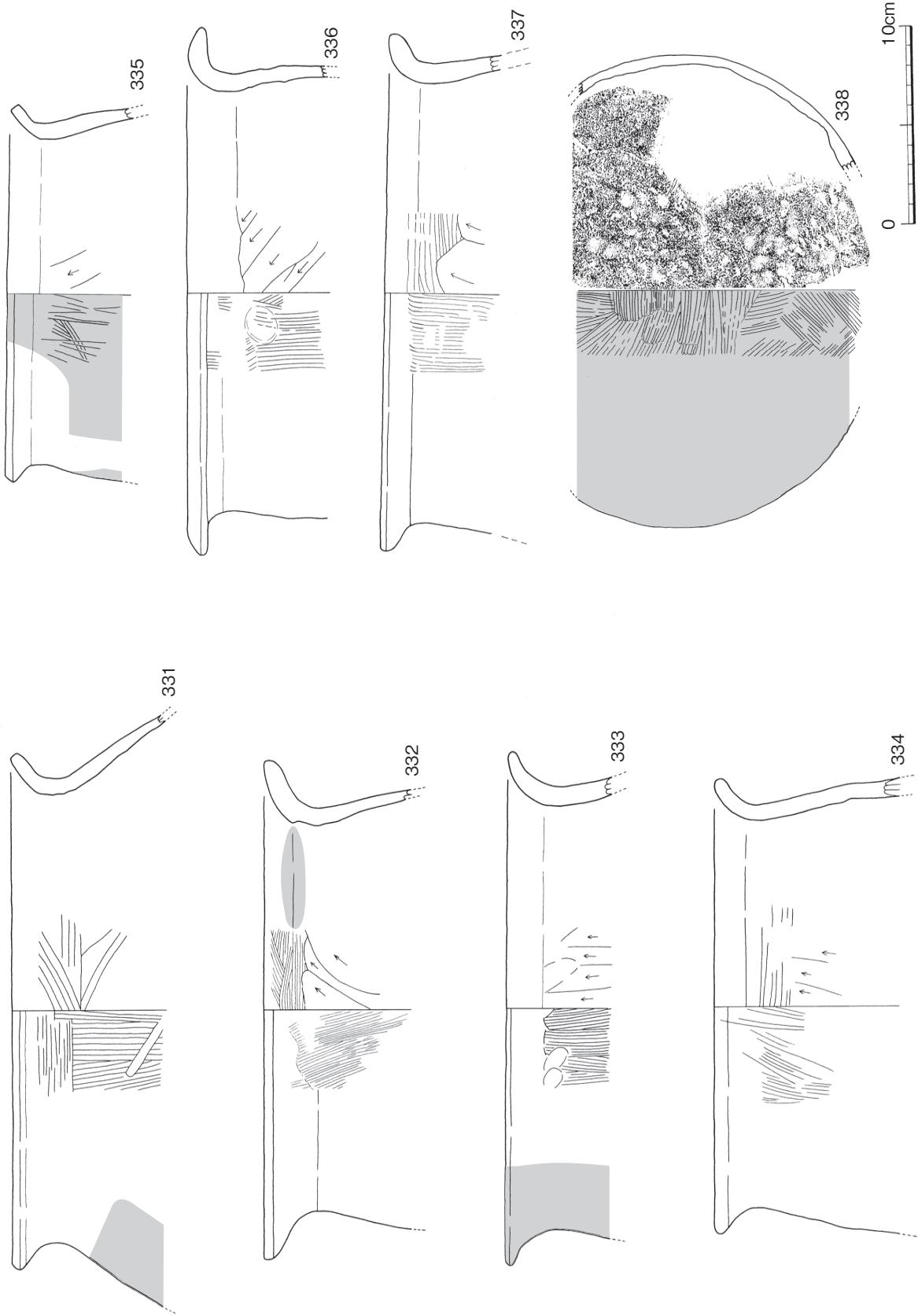
第71図 土師器25
甕



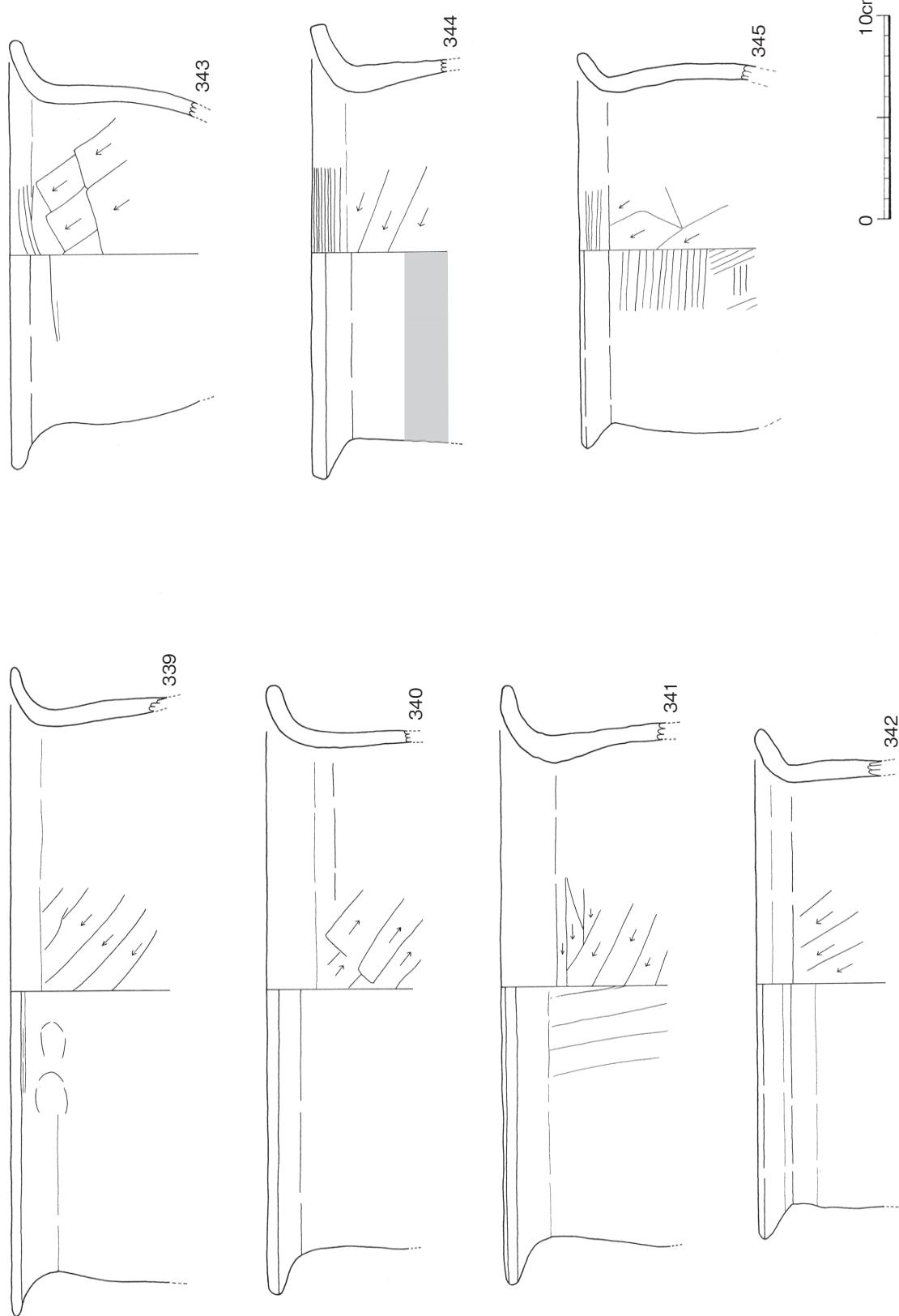
第72図 土師器26 瓢



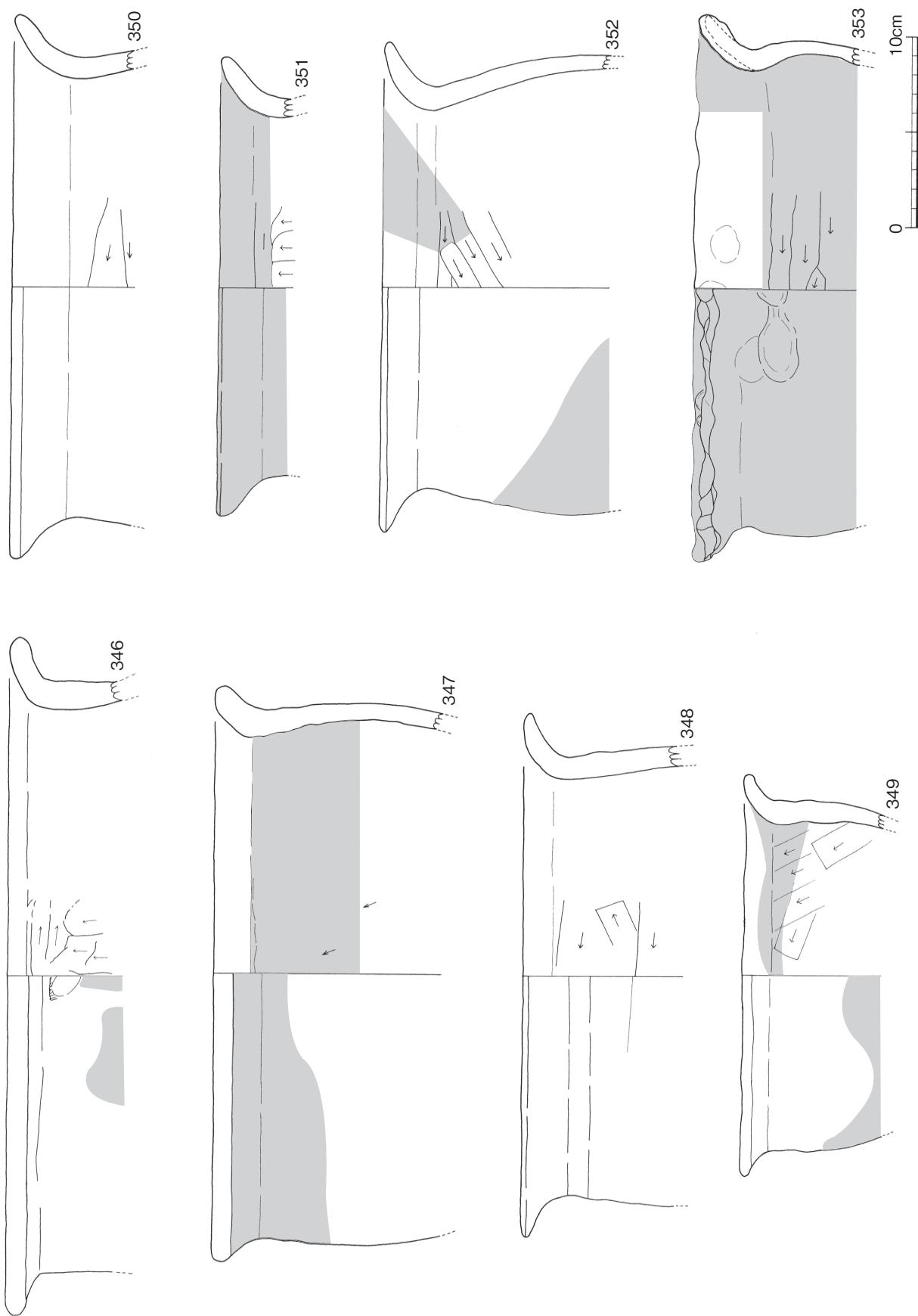
第73図 土師器27
甕



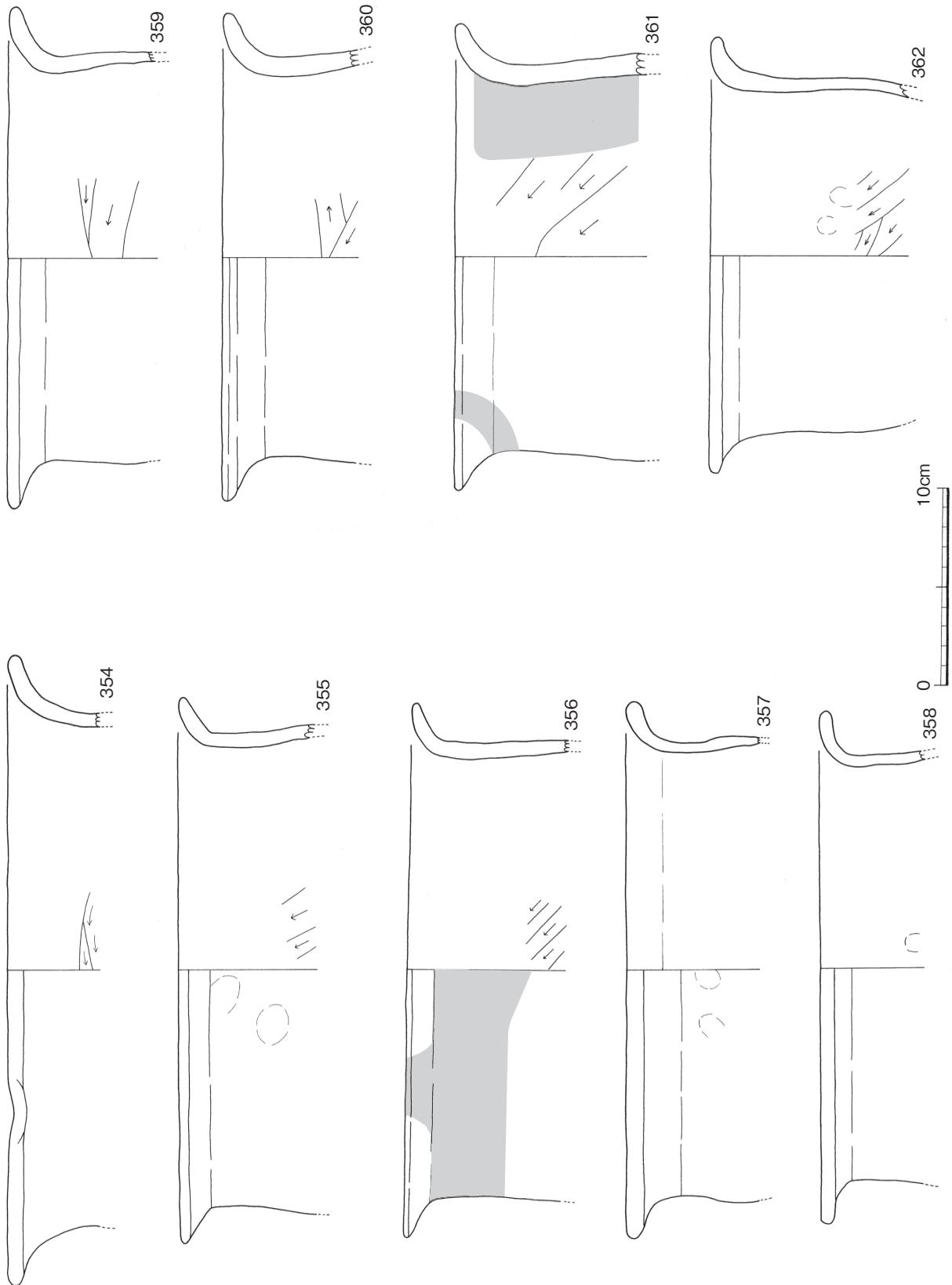
第74図 土師器28
甕



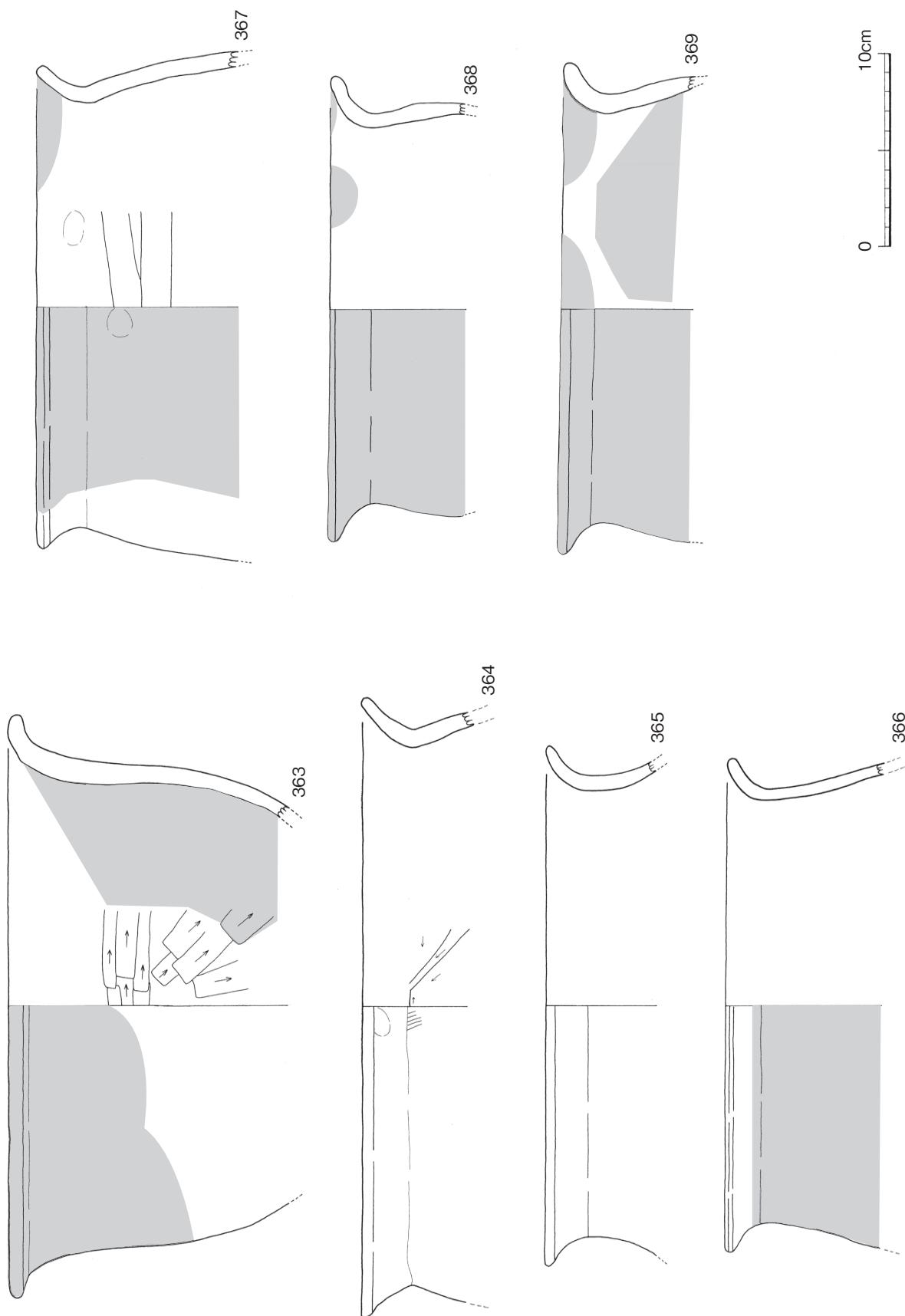
第75図 土師器29 麋

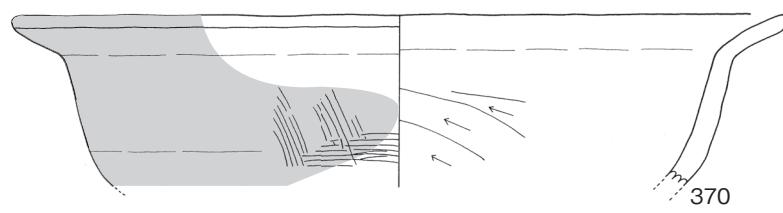


第76図 土師器30 瓢

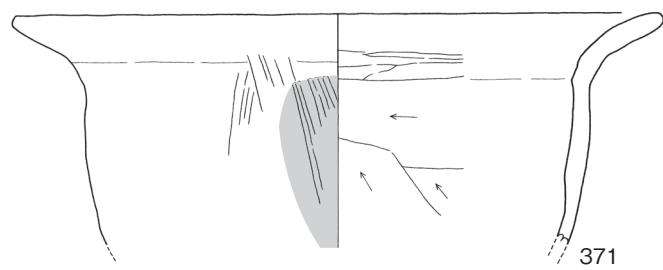


第77図 土師器31
甕

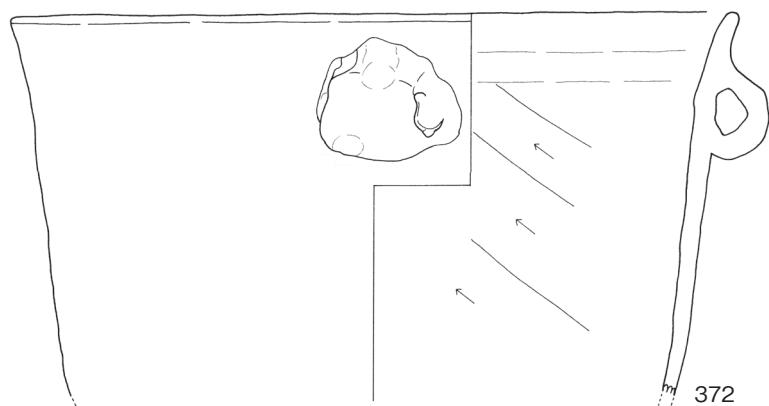




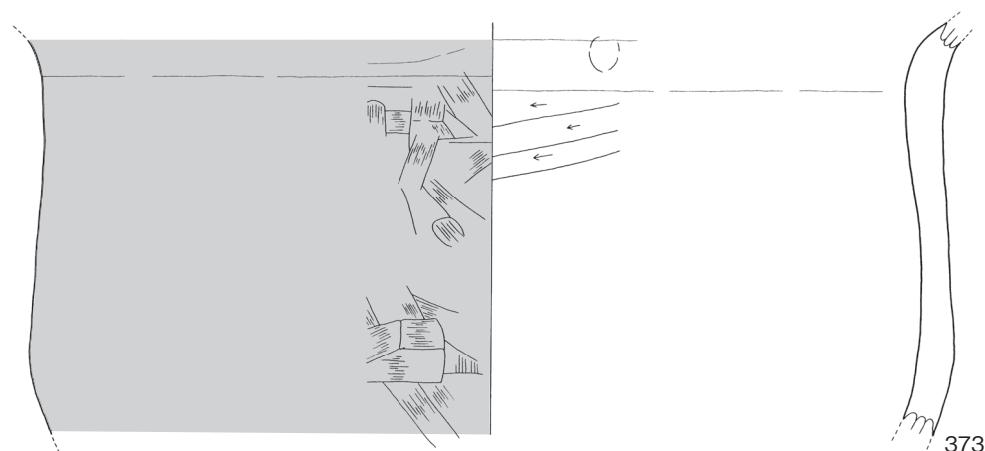
370



371



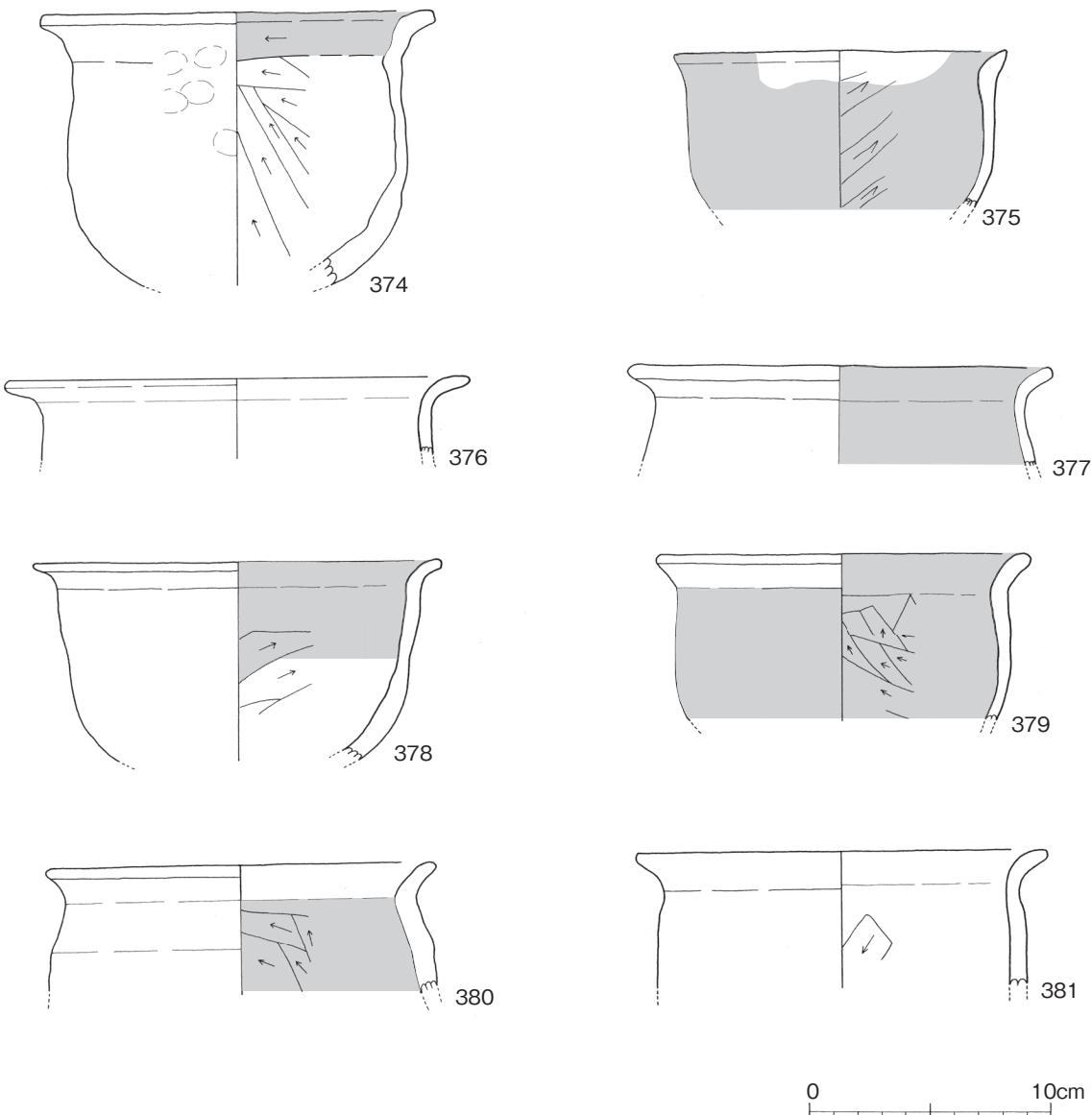
372



373

0 10cm

第78図 土師器32 瓢



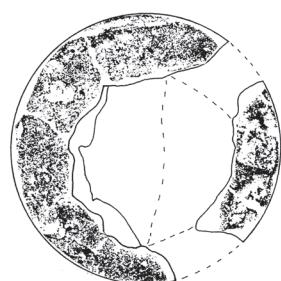
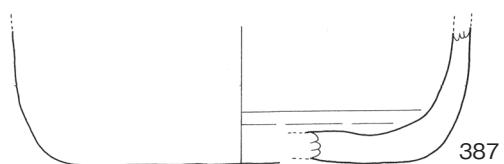
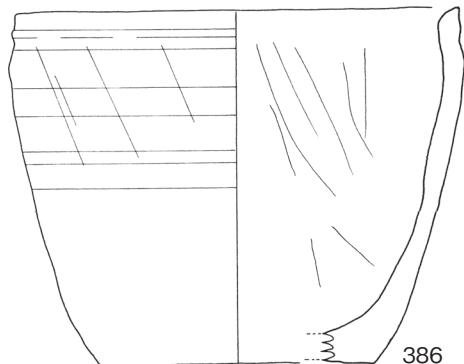
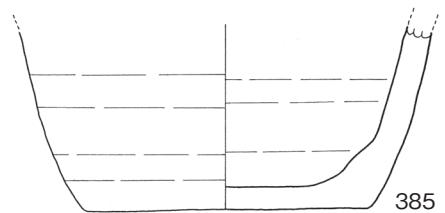
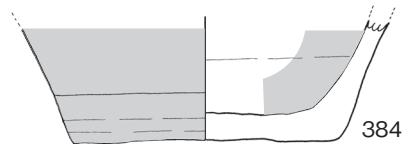
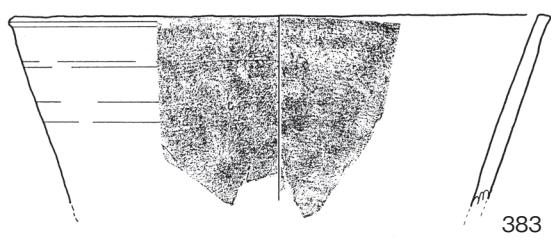
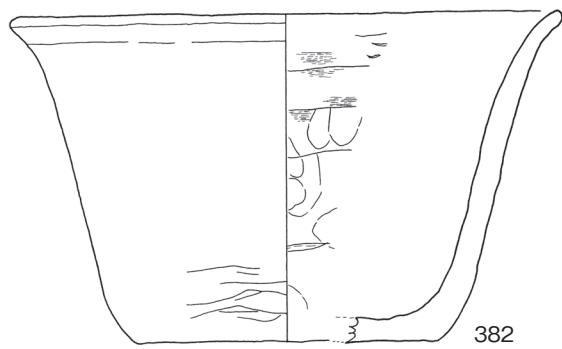
第79図 土師器33 齋

鉢（第80図）

382～388は土師器の鉢である。382～387はバケツ状の器形を呈するものである。382は口縁部がやや外反するもので、外面はヘラ状工具によるナデ調整が、内面はヘラミガキ後ナデ調整が施される。口縁部内面は回転ナデである。383は内外面とも回転ナデが施される。384・385・387は底部である。387は外底面に煤が付着する。386は口縁部がやや内湾するものである。内面は斜め方向のヘラケズリが口縁下位まで施される。388は片口部を有するものである。

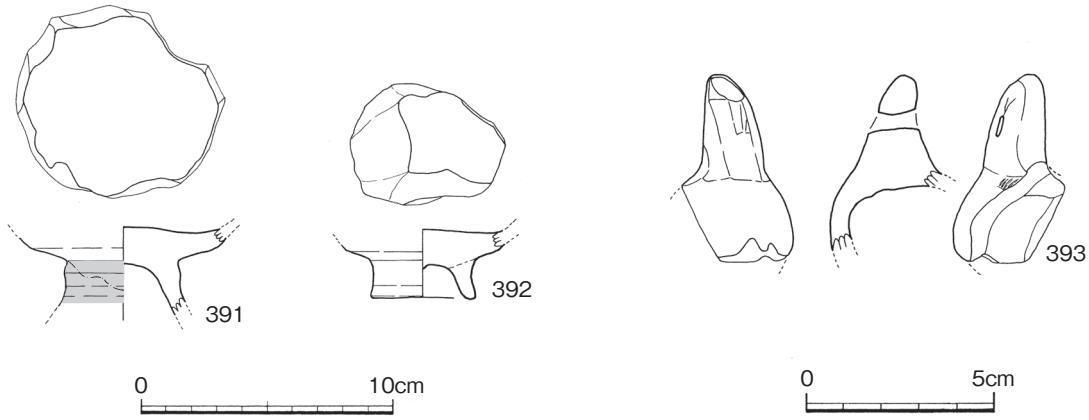
焼塩壺（第80図）

389・390は焼塩壺の胴部である。型作りで、2点とも内面に布目の圧痕が観察される。389の底部は丸底になると思われる。



0 10cm

第80図 土師器34 鉢・焼塩壺他



第81図 土師器35 その他

その他 (第81図)

391は高壺の脚部と思われるものである。392は高壺の脚部を短くしたような形状のものである。393は土製品で土鈴と思われる。

紡錘車 (第82図)

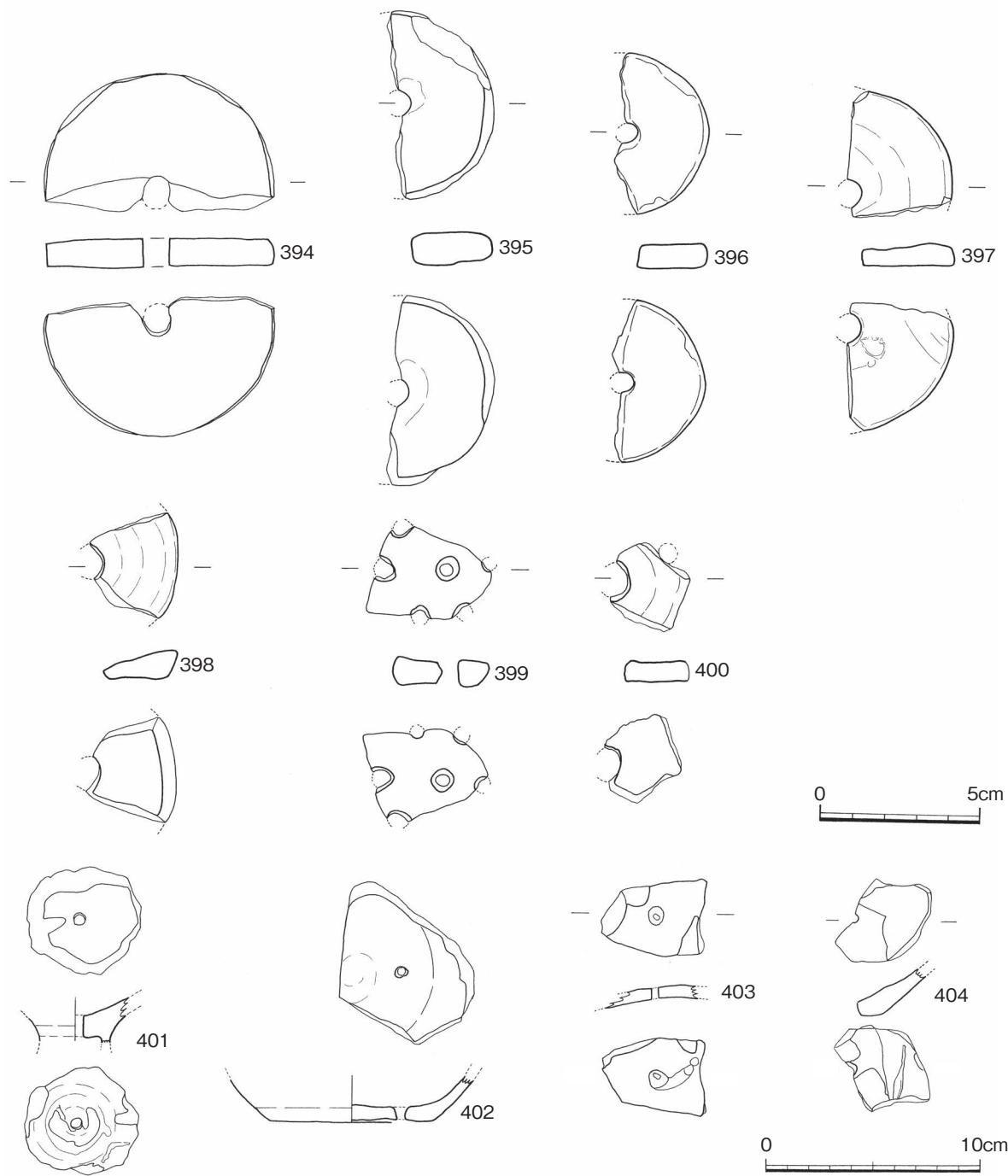
394~404は紡錘車である。394~398は円盤状のもので、中央に穿孔があけられる。394は両面とも丁寧に磨かれている。399・400は2か所以上の穴があけられているもので、紡錘車ではない可能性もある。401~404は椀や壺を紡錘車に転用する製作途中のものである。底部に穿孔を施し、周辺を打ち欠いているが、失敗したものと思われる。

土錐 (第83図)

405~439は土錐である。土錐は大量に出土している。本遺跡の近くにある海や川で漁労を行っていたと考えられる。古代のものと中世のものとの分類が不可能であったため、まとめて掲載しておきたい。土錐の形状は、大・小、長・短、中心部が膨らむものと筒状のもの等様様である。網に通したためか、先端部が破損しているものが目立つ。

土師器観察表10

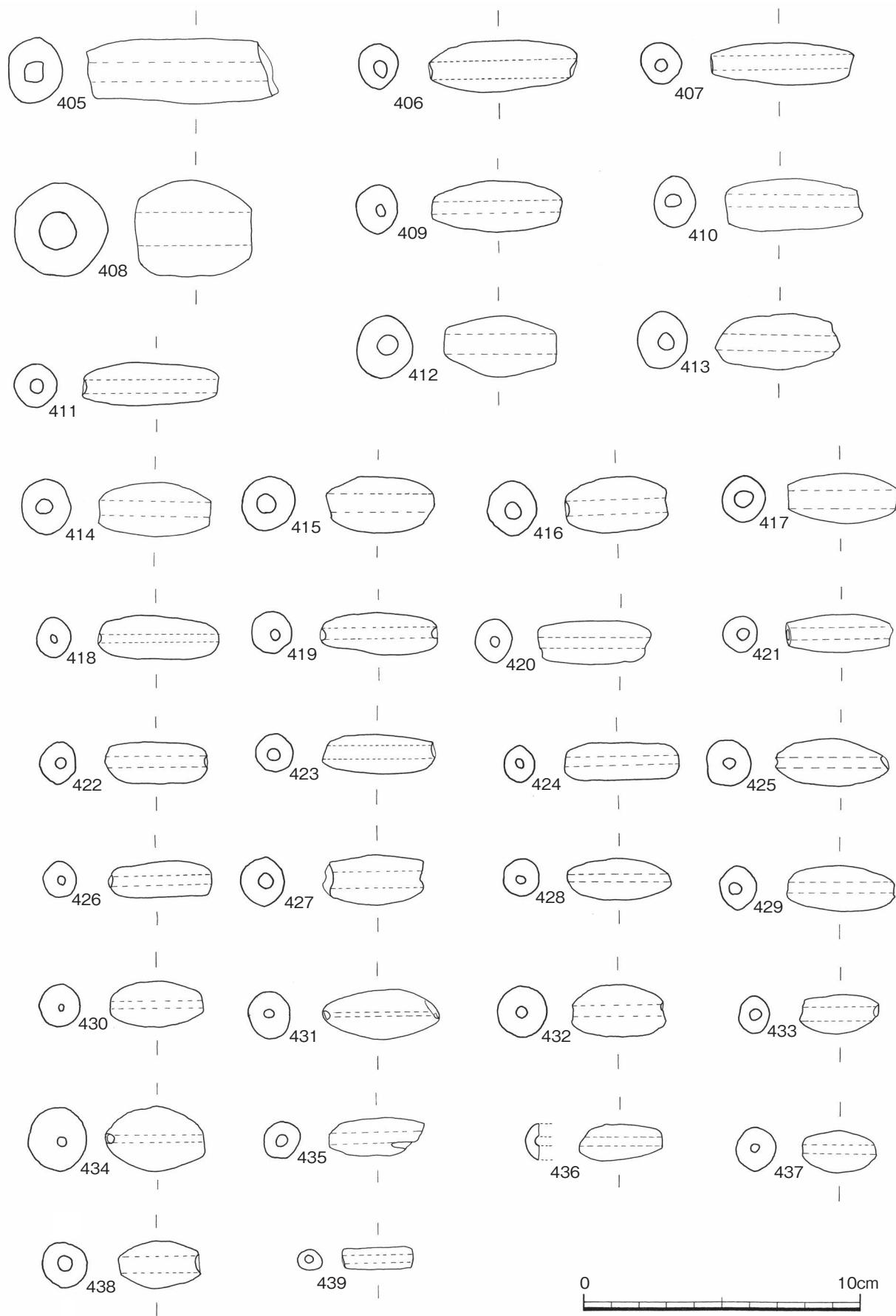
挿図番号	掲載番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量 (cm)		胎土			調整		備考	
									口径	底径	器高	石英	長石	角閃石	その他	外側	内面
第70図	312	T-20	一括	V	土師器	甕	口縁部	にぶい橙色	25.0	—	—	○			良	ナデ ^{ナデ} ハラケズリ	
	313	QR-19	一括	V	土師器	甕	口縁部	(外)灰黄色 (内)にぶい黄褐色	22.2	—	—	○			良	ナデ ^{ナデ} ハラケズリ	
	314	S-19	一括	IV	土師器	甕	口縁部	にぶい褐色	27.0	—	—	○			良	ナデ ^{ナデ} ハラケズリ	
	315	T-25	12861, 12510, 12872	II	土師器	甕	口縁部	(外)褐色(内)明褐色	28.0	—	—	○			良	ナデ ^{ナデ} ハラケズリ	
	316	S-19・20	一括	IV	土師器	甕	口縁部	明赤褐色	29.6	—	—	○			良	ナデ ^{ナデ} ハラケズリ	
	317	Q-19・20	一括	III, IV	土師器	甕	口縁部	にぶい黄褐色	27.6	—	—	○			良	ナデ ^{ナデ} ハラケズリ	
	318	Q-19	6379	V	土師器	甕	口縁部	(外)にぶい橙色 (内)にぶい橙色	23.6	—	—	○			良	ナデ ^{ナデ} ハラケズリ	
	319	QR-19	一括	—	土師器	甕	口縁部	(外)にぶい橙色 (内)にぶい黄褐色	21.2	—	—	○			良	ナデ ^{ナデ} ハラケズリ	小石粒含む
第71図	320	Q-19・20	6369	IV, V	土師器	甕	口縁～胴部	(外)灰黄色(内)灰黃褐色	26.6	—	—	○			良	ハケ目, ナデ ^{ナデ} ハラケズリ	小石粒含む
	321	Q-19	6631	V	土師器	甕	口縁部	(外)灰黃褐色(内)灰黄色	28.8	—	—	○			良	ハケ目, ナデ ^{ナデ} ハラケズリ	
	322	R-23	6731, 6733, 6405	II	土師器	甕	口縁部	(外)にぶい橙色 (内)にぶい黄褐色	27.0	—	—	○			良	ハケ目, ナデ ^{ナデ} ハラケズリ	
	323	R-10	1819	—	土師器	甕	口縁部	褐灰色	28.6	—	—	○			良	ハケ目, ナデ ^{ナデ} ハラケズリ	
	324	—	—	—	土師器	甕	口縁部	灰黃褐色	28.0	—	—	○			良	ハケ目, ナデ ^{ナデ} ハラケズリ	
	325	Q-20	6345	V	土師器	甕	口縁部	にぶい黄褐色	25.0	—	—	○			良	ハケ目, ナデ ^{ナデ} ハラケズリ	
第72図	326	R-23	19809	III	土師器	甕	口縁部	(外)浅黄褐色(内)橙色	23.4	—	—	○			良	ケズリ, ハラケズリ	小石粒含む
	327	S	—	—	土師器	甕	口縁部	(外)浅黄褐色(内)浅黄色	21.2	—	—	○			良	ハケ目, ナデ ^{ナデ} ケズリ	
	328	R-23	10274, 10285	II	土師器	甕	口縁部	(外)浅黄褐色(内)にぶい黄褐色	29.2	—	—	○			良	ハラケズリ, ナデ ^{ナデ} ケズリ	
	329	Q-18・19, R-19	6377	V	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい橙色	27.8	—	—	○			良	ハケ目 ^{ハラケズリ, ナデ}	内面にスス有り
	330	Q-19, R-19	6632	V	土師器	甕	口縁～胴部	(外)黄褐色(内)灰黃褐色	27.6	—	—	○			良	ハケ目 ^{ケズリ}	小石粒含む



第82図 土師器36 紡錘車

土師器観察表11

番号	掲載番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			胎土			焼成	調整		備考	
									口径	底径	器高	石英	長石	角閃石	その他	外側	内面		
第73図	331	Q-20	6339	V	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙色	26.0	—	—	○	—	—	—	良	ナデ ² ハケ目	ナデ ² ハケ目	
	332	Q-20	6355	V	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙色	25.2	—	—	○	—	—	—	良	ナデ ² ハケ目	ナデ ² ハケ目	
	333	Q-19・20	一括	IV	土師器	甕	口縁部	(外)浅黄褐色 (内)浅黄色	26.0	—	—	○	—	—	—	良	ナデ ² ハケ目	ナデ ² ハケ目	小石粒含む
	334	S-20, R-19, T-20	6461, 2609	IV, V	土師器	甕	口縁部	(外)灰白色 (内)明褐色	23.0	—	—	○	—	—	—	良	ナデ ² ハケ目	ナデ ² ハケ目	
	335	QR-18・19, Q-20	—	—	土師器	甕	口縁部	(外)暗褐色 (内)黒褐色	18.6	—	—	○	—	—	—	良	ナデ ² ハケ目	ナデ ² ハケ目	外面に炭化物付着
	336	—	—	—	土師器	甕	口縁部	(外)にぶい橙色 (内)明褐色	26.6	—	—	○	—	—	—	良	ナデ ² ハケ目	ナデ ² ハケ目	
	337	R-23	7204, 4349	II	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙色	25.6	—	—	○	—	—	—	良	ナデ ² ハケ目	ナデ ² ハケ目	
	338	QR-19	—	一括	土師器	甕	胴部	(外)にぶい黄橙色 (内)明黃褐色	—	—	—	—	—	—	—	良	ハケ目	ヘラケズリ	外面にスス有り 小石粒含む
第74図	339	PQ-18・19	—	一括	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙色	31.8	—	—	○	—	—	—	良	ナデ ²	ヘラケズリ ナデ ²	小石粒含む
	340	R-19	6557	V	土師器	甕	口縁部	(外)にぶい黄橙色 (内)にぶい橙色	29.8	—	—	○	—	—	—	良	ナデ ²	ヘラケズリ ナデ ²	小石粒含む



第83図 土錘

土師器観察表12

掲図番号	揭露番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)		胎土			焼成	調整		備考	
									口径	底径	器高	石英	長石	角閃石	外面	内面		
第74図	341	Q-20	6344	V	土師器	甕	口縁部	(外)にぶい橙色 (内)にぶい黄橙色	29.6	-	-	○			良	ヘラナデ ^{ヘラケズリナデ}	ヘラケズリナデ	小石粒含む
	342	-	-	-	土師器	甕	口縁部	にぶい橙色	25.0	-	-				良	ナデ ^{ヘラケズリナデ}	ヘラケズリナデ	小石粒含む
	343	QR-18・19	-括	-	土師器	甕	口縁部	浅黄橙色	21.0	-	-		○		良	ナデ ^{ヘラケズリナデ}	ヘラケズリナデ	
	344	-	-	-	土師器	甕	口縁部	(外)淡黄色 (内)灰白色	22.4	-	-	○			良	ナデ ^{ヘラケズリヘラナデ}	ヘラケズリヘラナデ	小石粒含む
	345	S-22	20722	II	土師器	甕	口縁部	(外)にぶい黄橙色 (内)にぶい橙色	19.4	-	-	○			良	ヘラナデ ^{ヘラケズリヘラナデ}	ヘラケズリヘラナデ	小石粒含む
第75図	346	-	-	-	土師器	甕	口縁部	灰白色	35.6	-	-	○			良	ナデ ^{ヘラケズリヘラナデ}	指頭痕	
	347	T-24・25	12610,12609,12604 12939,12932	II	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい橙色	29.8	-	-			○	良	ナデ ^{ヘラケズリナデ}	ヘラケズリナデ	小石粒含む 胎土金雲母
	348	S-19	-括	IV	土師器	甕	口縁部	(外)明赤褐色 (内)にぶい赤褐色	27.6	-	-				良	ナデ ^{ヘラケズリナデ}	ヘラケズリナデ	小石粒含む
	349	Q-18	6664	V	土師器	甕	口縁部	灰黄色	21.0	-	-			○	良	ナデ ^{ヘラケズリナデ}	ヘラケズリナデ	内面にスヌ付着 胎土金雲母
	350	Q-19・20	-括	-	土師器	甕	口縁部	にぶい黄褐色	28.6	-	-	○			良	ナデ ^{ヘラケズリナデ}	ヘラケズリナデ	小石粒含む
	351	T-19	-括	IV	土師器	甕	口縁部	(外)にぶい橙色 (内)灰黄褐色	24.0	-	-		○		良	ナデ ^{ヘラケズリナデ}	ヘラケズリナデ	
	352	S-19・20, T-19	3055,1393	III, IV	土師器	甕	口縁部	(外)橙色 (内)暗赤褐色	24.8	-	-		○		良	ナデ ^{ヘラケズリナデ}	ヘラケズリナデ	
	353	S-19	3959	V	土師器	甕	口縁部	(外)黒色 (内)褐黑色	28.6	-	-		○		良	ナデ ^{ヘラケズリナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	小石粒含む
第76図	354	R-22	9292,9435	III	土師器	甕	口縁部	にぶい橙色	36.0	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	355	T-20	3508,3504	IV	土師器	甕	口縁部	(外)橙色 (内)淡橙色	27.8	-	-	○			良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	356	T-20	3978	V	土師器	甕	口縁部	(外)にぶい橙色 (内)明褐灰色	27.2	-	-	○			良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	357	R-22	5410	III	土師器	甕	口縁部	(外)浅黄橙色 (内)にぶい橙色	27.2	-	-	○			良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	小石粒含む
	358	R-27	19207	III	土師器	甕	口縁部	浅黄橙色	26.0	-	-	○			良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	359	T-19	-括	V	土師器	甕	口縁部	にぶい橙色	19.0	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	360	Q-19	-括	-	土師器	甕	口縁部	にぶい橙色	24.8	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	361	S-20	-	-	土師器	甕	口縁部	(外)明褐灰色 (内)褐灰色	23.4	-	-		○		良	ヘラケズリ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	小石粒含む
第77図	362	S-19, Q-19, PQ-19	2074	III, IV, V	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい橙色	22.0	-	-			○	良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	胎土金雲母
	363	R-21	21745	II	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい褐色	30.0	-	-	○			良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	小石粒含む
	364	-	-	-	土師器	甕	口縁部	浅黄橙色	32.0	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	365	T-20	3551,3555,873	III, IV	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙色	27.0	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	366	R-19	-括	IV	土師器	甕	口縁部	(外)黒褐色 (内)にぶい黄橙色	25.6	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	外面に炭化物付着
	367	T-19	-括	-	土師器	甕	口縁部	(外)橙色 (内)にぶい黄橙色	25.0	-	-				良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	368	-	-	-	土師器	甕	口縁部	(外)褐黒色 (内)黄灰色	24.0	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	369	PQ-19, RS-19, QR-19	-括	III, IV	土師器	甕	口縁部	(外)明黄褐色 (内)にぶい黄橙色	25.4	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
第78図	370	R-19	6581	V	土師器	甕	口縁部	(外)にぶい橙色 (内)にぶい黄褐色	30.6	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	内、外面スヌ付着 小石粒含む
	371	R-23	6409,9638	II	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい黄褐色	25.6	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラナデ}	ナデ, ヘラケズリ	
	372	RS-19	-括	III	土師器	甕	口縁～胴部	(外)にぶい黄褐色 (内)明黄褐色	29.0	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	373	-	-	-	土師器	甕	胴部	(外)黒色 (内)灰褐色	-	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
第79図	374	R-22	2352,8660, 2513,2356	II	土師器	甕	口縁～胴部	(外)明赤褐色 (内)にぶい黄色	16.2	-	-				良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	375	-	-	-	土師器	甕	口縁～胴部	(外)黄灰色 (内)灰黄色	13.6	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	小石粒含む
	376	F-19	-括	IV	土師器	甕	口縁部	(外)淡赤褐色 (内)灰褐色	19.2	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	377	Q-19, SQ-19	-括	IV	土師器	甕	口縁部	(外)にぶい褐色 (内)にぶい黄褐色	17.6	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	378	R-22	7742,7571, 7570	II	土師器	甕	口縁部	にぶい黄褐色	17.0	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	379	QR-18・19	-括	-	土師器	甕	口縁～胴部	(外)にぶい赤褐色 (内)にぶい褐色	15.4	-	-				良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	380	QR	-括	-	土師器	甕	口縁部	(外)にぶい褐色 (内)褐灰色	16.2	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	
	381	R-22	8103,5980, 6536	II	土師器	甕	口縁部	(外)浅黄橙色 (内)灰黄褐色	17.0	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ナデ, ヘラケズリ	小石粒含む
第80図	382	R-23	10215, 6715, 10194 7635	II	土師器	鉢	口縁～底部	橙色	21.4	12.4	13.0		○		良	ヘラケズリ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ヘラケズリナデ	ヘラケズリナデ 小石粒含む
	383	R-19	6519, 6520	V	土師器	鉢	口縁～胴部	(外)にぶい橙色 (内)明褐灰色	21.6	-	-		○		良	ナデ ^{ナデ}	ナデ	小石粒含む
	384	P-19, Q-19・20	-括	V	土師器	鉢	底部	(外)橙色 (内)灰褐色	-	10.4	-		○		良	ナデ ^{ナデ}	ナデ	ヘラケズリ ^{ナデ} 小石粒含む 内外面スヌ付着
	385	-	-	-	土師器	鉢	底部	灰黄色	-	7.8	-			○	良	ナデ ^{ナデ}	ナデ	ヘラケズリ ^{ナデ} 赤色の石粒含む
	386	T-25	19033,18897, 14472,19034, 19338,19032, 19086	II, III, IV	土師器	鉢	口縁～底部	にぶい橙色	17.6	10.8	-			○	良	ヘラケズリ ^{ナデ, ヘラケズリ}	ヘラケズリ	ヘラケズリ ^{ナデ} 赤色の石粒含む
	387	RS-19	-括	II	土師器	鉢	胴部～底部	(外)灰黄褐色 (内)にぶい黄橙色	-	14.6	-	○			良	ナデ ^{ナデ}	ナデ	小石粒含む
	388	-	-	-	土師器	片口	口縁～胴部	にぶい黄橙色	13.4	-	-	○			良	ナデ ^{ナデ}	ナデ	赤色の石粒含む 口縁部内外面スヌ付着
	389	-	-	-	土師器	焼塙壺	胴部	赤褐色	-	-	-				良	ナデ ^{ナデ}	ナデ	小石粒含む
第81図	390	R-22	5437	II	土師器	焼塙壺	胴部	赤褐色	-	-	-				良	ナデ ^{ナデ}	ナデ	布目痕 小石粒含む
	391	-	-	-	土師器	高坏?	脚～体部	灰白色	-	-	-				良	ナデ ^{ナデ}	ナデ	脚部側面にスヌ付着
	392	T-19	-	IV	土師器	高坏?	底部	にぶい黄橙色	-	4.2	-				良	ナデ ^{ナデ}	ナデ	
	393	R-24	11665	III	土師器	土鈴	-	浅黄橙色	-	-	-				良	ナデ ^{ナデ}	-	土鈴

土師器観察表13

挿図番号	掲載番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	色調	法量(cm)		備考
								径	厚さ	
第82図	394	Q-22	9795	II	土師器	紡錘車	にぶい黄橙色	0.7	0.9	
	395	QR-19	一括	III	土師器	紡錘車	橙色	—	1.0	
	396	T-19	3150	IV	土師器	紡錘車	褐灰色	—	0.8	
	397	Q-19	一括	II	土師器	紡錘車	にぶい黄橙色	—	0.7	
	398	R-22	2564	II	土師器	紡錘車	浅黄橙色	—	0.5	
	399	R-21	7719	II	土師器	紡錘車	にぶい褐色	—	0.9	
	400	QR-18	一括	IV	土師器	紡錘車	にぶい赤褐色	—	0.6	
	401	R-20	一括	—	土師器	紡錘車	灰色	7.6	1.1	赤色の石粒含む
	402	—	—	—	土師器	紡錘車	浅黄橙色	—	0.7	
	403	S21	5211	II	土師器	紡錘車	(外) 黄褐色 (内) 黒色	—	0.5	
	404	S22	2724	II	土師器	紡錘車	明黄褐色	—	0.9	

土師器観察表14

挿図番号	掲載番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	色調	法量(cm)		備考
								長さ	厚さ	
第83図	405	T-24	13341	II	土師器	土錐	灰黄色	6.5	2.2	
	406	S-19	一括	IV	土師器	土錐	淡黄色	5.3	1.4	
	407	S-20	4	IV	土師器	土錐	灰黄褐色	5.1	1.5	
	408	Q-22	7559	II	土師器	土錐	にぶい黄橙色	4.2	3.3	
	409	Q-19	一括	IV	土師器	土錐	灰白色	4.7	1.5	
	410	S-26	18699	III	土師器	土錐	橙色	4.8	1.5	
	411	S-23	一括	III	土師器	土錐	にぶい黄橙色	4.9	1.5	
	412	R-23	—	—	土師器	土錐	明黄褐色	4.1	2.0	
	413	T-26	14035	II	土師器	土錐	浅黄色	4.5	1.7	
	414	S-27	16399	II	土師器	土錐	灰白色	4.0	1.7	
	415	RS-19	一括	III	土師器	土錐	灰白色	3.8	1.9	
	416	S	一括	IV	土師器	土錐	灰白色	3.6	1.8	
	417	SR-21	—	—	土師器	土錐	浅黄色	3.9	1.6	
	418	R-19	一括	IV	土師器	土錐	灰黄色	4.3	1.3	
	419	S-16	一括	I	土師器	土錐	にぶい黄橙色	4.2	1.5	
	420	U-24	18554	III	土師器	土錐	橙色	3.9	1.3	
	421	R-25	—	—	土師器	土錐	灰黄色	3.8	1.3	
	422	QR-19	一括	—	土師器	土錐	にぶい黄橙色	3.6	1.3	
	423	P-19 Q-20	一括	—	土師器	土錐	灰白色	4.0	1.3	
	424	QR-18・19	一括	III	土師器	土錐	にぶい黄橙色	4.1	1.1	
	425	S-1T	1195	II	土師器	土錐	褐黑色	4.0	1.6	
	426	PQ-19	一括	III	土師器	土錐	淡黄色	3.7	1.2	
	427	S-24	20049	III	土師器	土錐	にぶい黄橙色	3.4	1.6	
	428	Q-20	一括	II	土師器	土錐	灰白色	3.7	1.3	
	429	R-20	一括	IV	土師器	土錐	黑色	3.9	1.4	
	430	S-21	4910	III	土師器	土錐	黄褐色	3.3	1.5	
	431	R-22	—	—	土師器	土錐	浅黄色	4.2	1.5	
	432	T-19	7	III	土師器	土錐	にぶい黄橙色	3.3	1.8	
	433	T-25	19082	III	土師器	土錐	橙色	2.7	1.5	
	434	R-18	一括	IV	土師器	土錐	灰黄色	3.5	2.1	
	435	S-25	11978	II	土師器	土錐	にぶい黄橙色	3.3	1.3	
	436	U-25	19021	III	土師器	土錐	にぶい黄橙色	3.0	—	
	437	S-22	6772	II	土師器	土錐	黑色	2.7	1.4	
	438	T-20	一括	V	土師器	土錐	灰白色	2.9	1.6	
	439	Q-23	20212	III	土師器	土錐	浅黄橙色	2.5	0.8	

須恵器（第84～102図）

須恵器は蓋、坏、椀、壺、甕、硯、鉄鉢等が出土している。本遺跡の須恵器の特徴としては、その色調が挙げられる。一般的な須恵器の色調である灰色のものは少なく、褐色もしくは橙色のものが多く見られる。還元焼成ではなく酸化がかかつてしまつたものと思われるが、土師器との区別がつきにくいものもある。そのため、甕では淡黄色のものも見られる。

蓋（第84図）

1～18は蓋である。1～5は、胎土の色調が褐色を呈するもので、黒色の火襷が観察される。つまみは平坦な宝珠状を呈する。6は箱形を呈する蓋である。白色の小石粒が多く混じる。7は輪状のつまみを有するものである。8は天井部が平らで、天井部までの高さが低いものである。9～13は、天井部までの高さが高いものである。つまみは平たい宝珠状のものが付く。14～16は天井部がやや凹む形状を呈するものである。つまみは14が宝珠状を呈し、15・16は平たい宝珠状を呈する。17は天井部がなだらかに傾斜する形状のものである。18は宝珠状のつまみ部である。

坏（第85図）

19～42は坏である。底部は平底で、底部切り離しはヘラ切りである。19～27は口径と底径の差が小さく、器形が箱形を呈するものである。21～24・27は外面体部と底部の境に回転ヘラケズリを施す。28～34は、底径と口径の差がやや大きくなるものである。体部は直線的に延び、口縁部でやや外反する。外面はナデ調整が施される。29は体部と底部の境を回転ヘラケズリする。35は口縁部である。36～42は底部である。

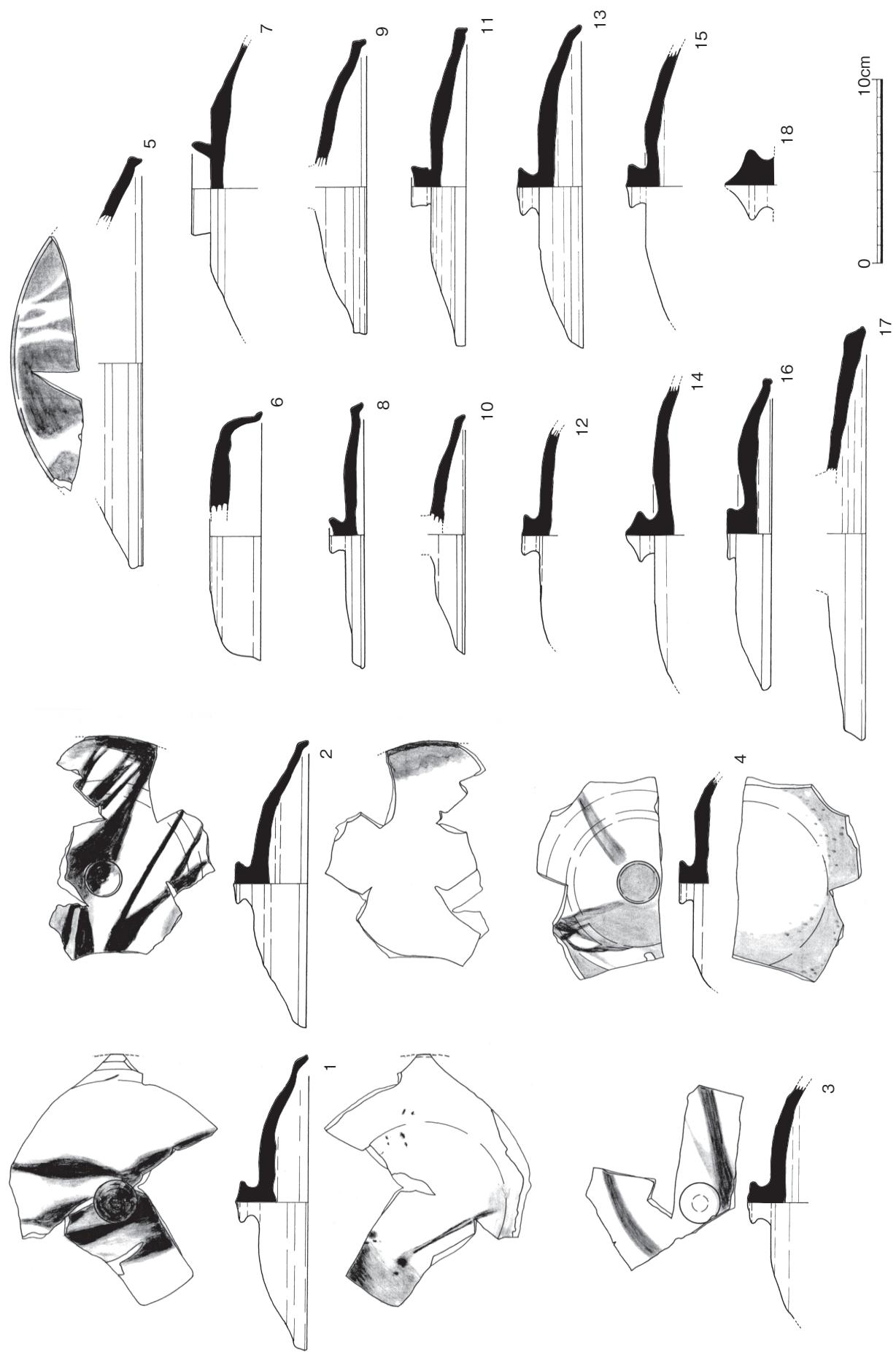
椀（第86図）

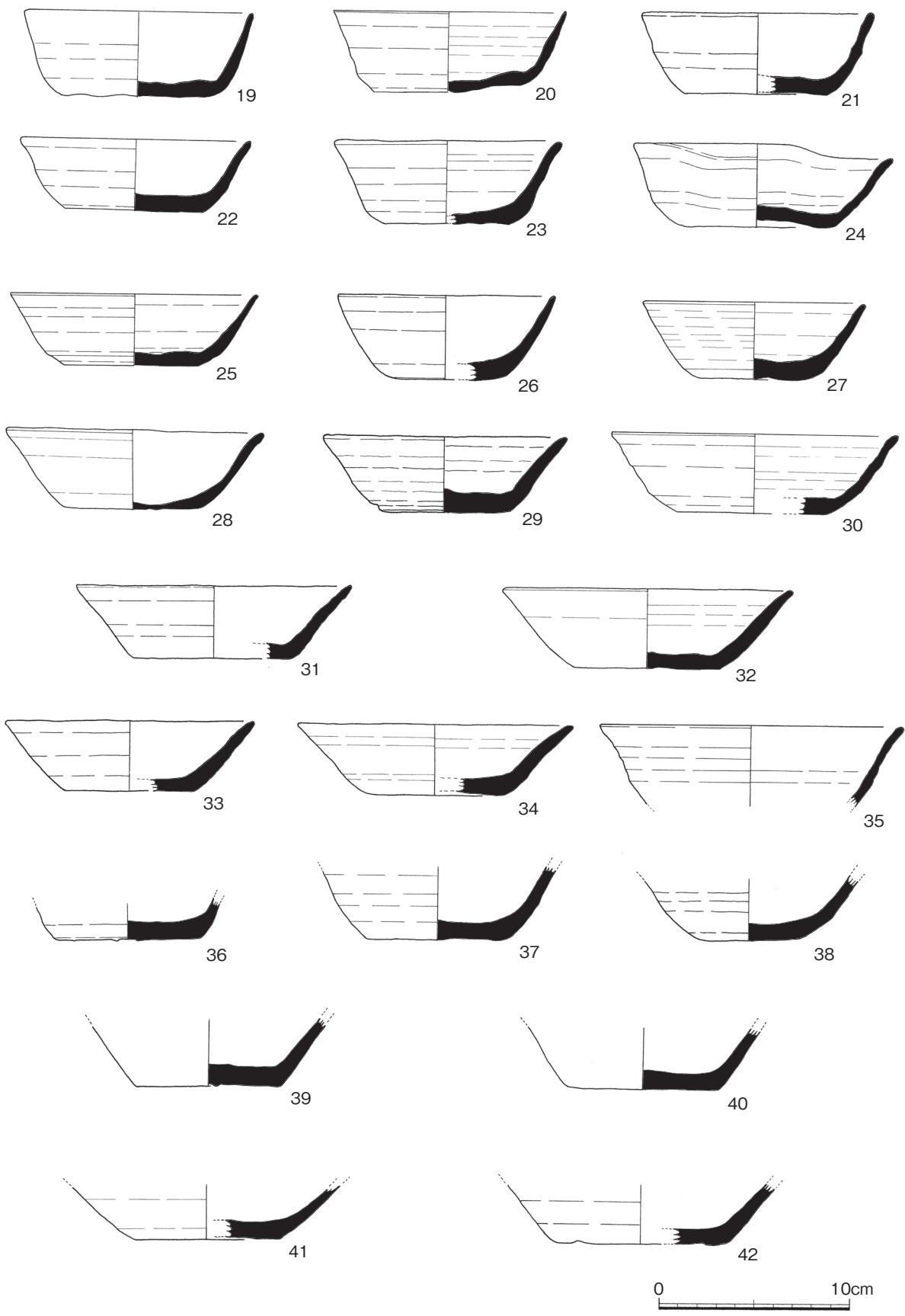
43～53は椀である。坏部の外底面のやや内側に、低い高台が付く。43～46は箱形を呈するものである。外面の腰部には明瞭な稜が入る。46は大形のもので、器高も高い。外面腰部には稜が入る。高台は斜めに削られ、三角形の形状を呈する。47～50は箱形を呈するが、腰部の稜が明瞭でなく丸くなるものである。51は底部から直線的に体部が延びるものである。52・53は底部である。腰部は丸みを帯びる。

須恵器観察表1

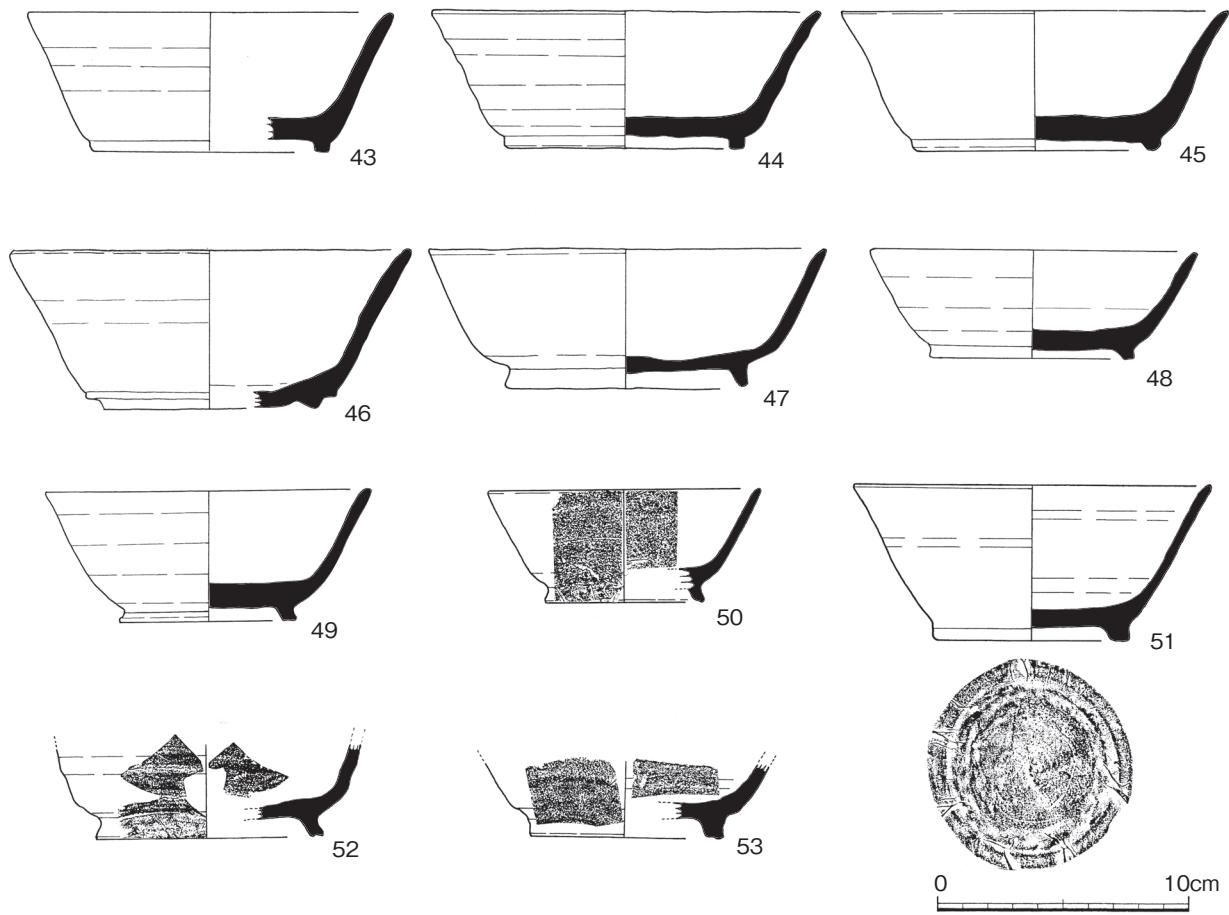
挿図番号	掲載番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			調整		備考
									口径	つまみ径	器高	外面	内面	
第84図	1	T-20	520, 2003	II, IV	須恵器	蓋	つまみ～口縁	(外)にぶい黄褐色 (内)にぶい橙色	16.0	2.3	4.0	回転ヘラケズリ、ナデ	ナデ	火襷
	2	R-19	一括	III, IV	須恵器	蓋	つまみ～口縁	(外)黄褐色 (内)にぶい黄褐色	15.5	2.3	4.0	回転ヘラケズリ、ナデ	ナデ	火襷 小石粒含む
	3	S-19	一括	V	須恵器	蓋	つまみ～体部	にぶい橙色	—	2.2	—	回転ヘラケズリ、ナデ	ナデ	火襷 小石粒含む
	4	SQR-19	一括	—	須恵器	蓋	つまみ～体部	にぶい橙色	—	2.3	—	回転ヘラケズリ、ナデ	ナデ	火襷
	5	S-19, Q-19	1811	II, III	須恵器	蓋	口縁部	(外)灰褐色 (内)灰色	22.4	—	—	回転ヘラケズリ、ナデ	ナデ	火襷
	6	SQR-19	一括	IV	須恵器	蓋	口縁～体部	(外)灰色 (内)灰褐色	13.6	—	—	ナデ	ナデ	
	7	S-21	5564, 5566, 5471	III	須恵器	蓋	つまみ～体部	褐灰色	—	4.8	—	ヘラケズリ ナデ	ナデ	
	8	S-26	15738, 15508, 18136	II	須恵器	蓋	つまみ～口縁	灰黄色	14.4	1.9	1.9	ヘラケズリ ナデ	ナデ	
	9	R-23	9611, 4964	II	須恵器	蓋	口縁～体部	(外)灰色 (内)にぶい黄色	16.0	—	—	ヘラケズリ ナデ	ナデ	小石粒含む
	10	S-19	一括	IV	須恵器	蓋	口縁～体部	灰色	13.0	—	—	ヘラケズリ ナデ	ナデ	小石粒含む
	11	R-23, S-24・26, T-25	14624, 13613, 4300, 5344	II	須恵器	蓋	つまみ～口縁	灰色	17.2	2.2	2.4	ヘラケズリ ナデ	ナデ	
	12	T-19	一括	V	須恵器	蓋	つまみ～体部	灰白色	—	2.2	—	ヘラケズリ ナデ	ナデ	
	13	RS・S-19	2345	IV, V	須恵器	蓋	つまみ～口縁	灰色	17.5	2.5	3.5	ヘラケズリ ナデ	ナデ	

第84図 須恵器 1 蓋





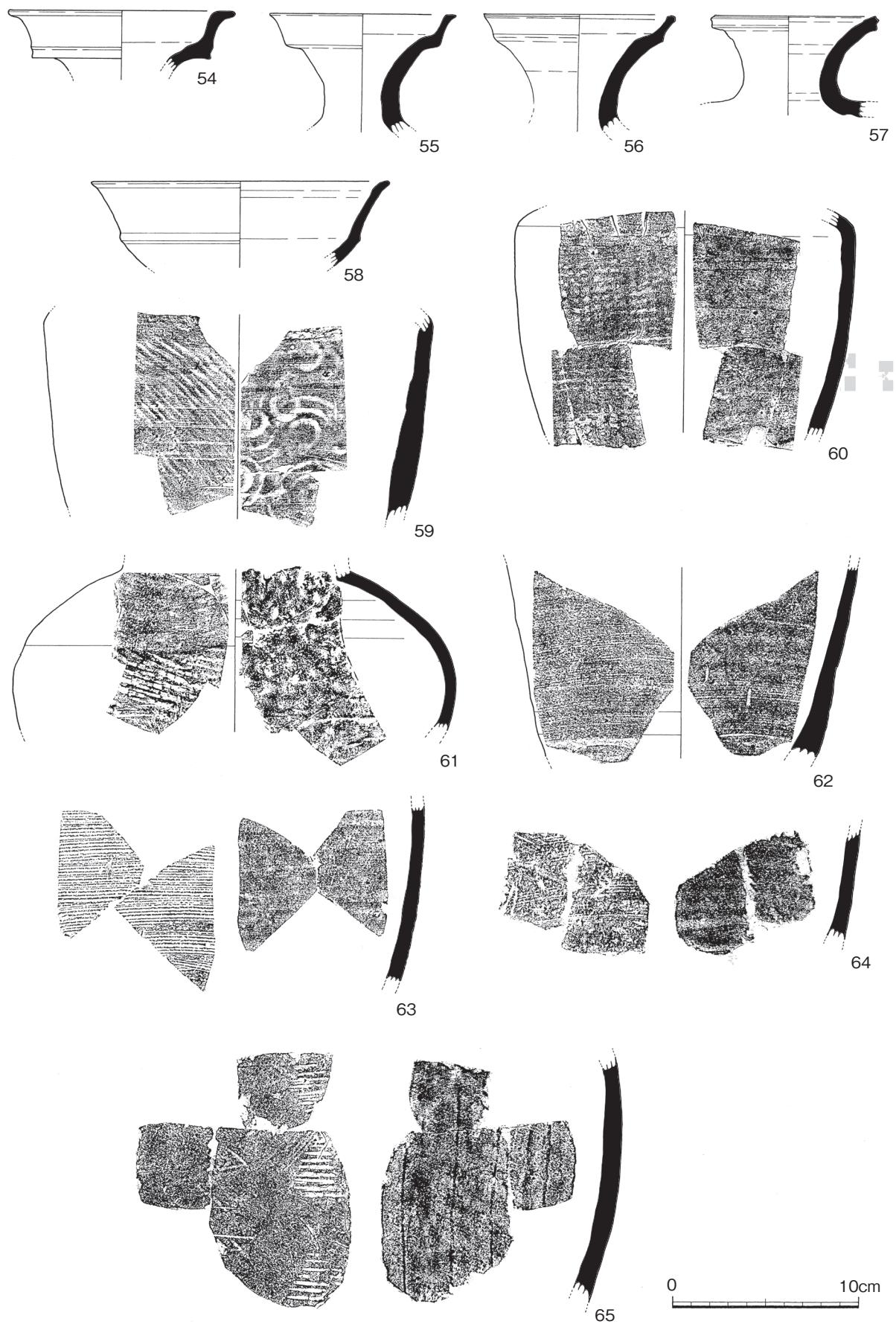
第85図 須恵器2 壁



第86図 須恵器3 梢

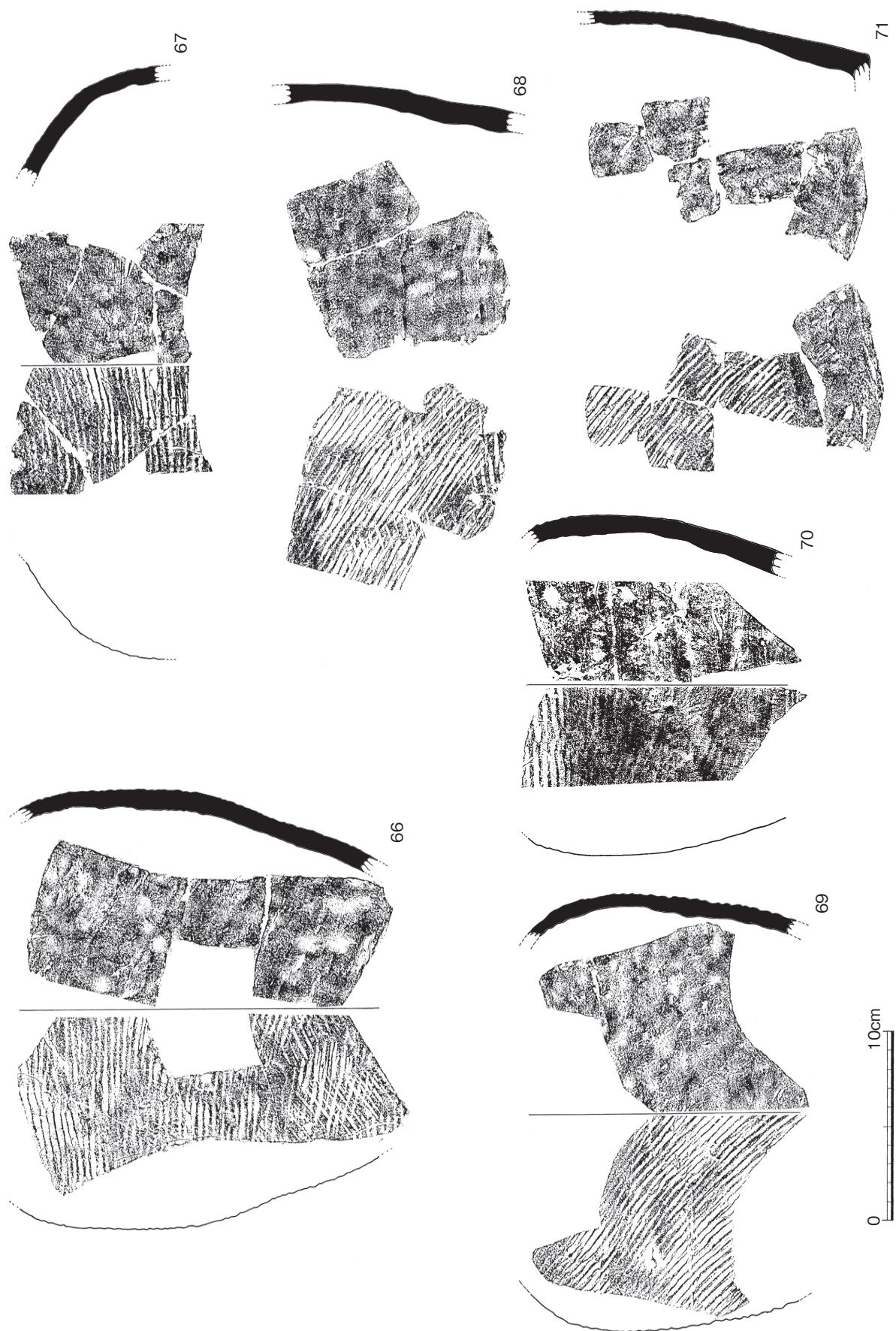
須恵器観察表2

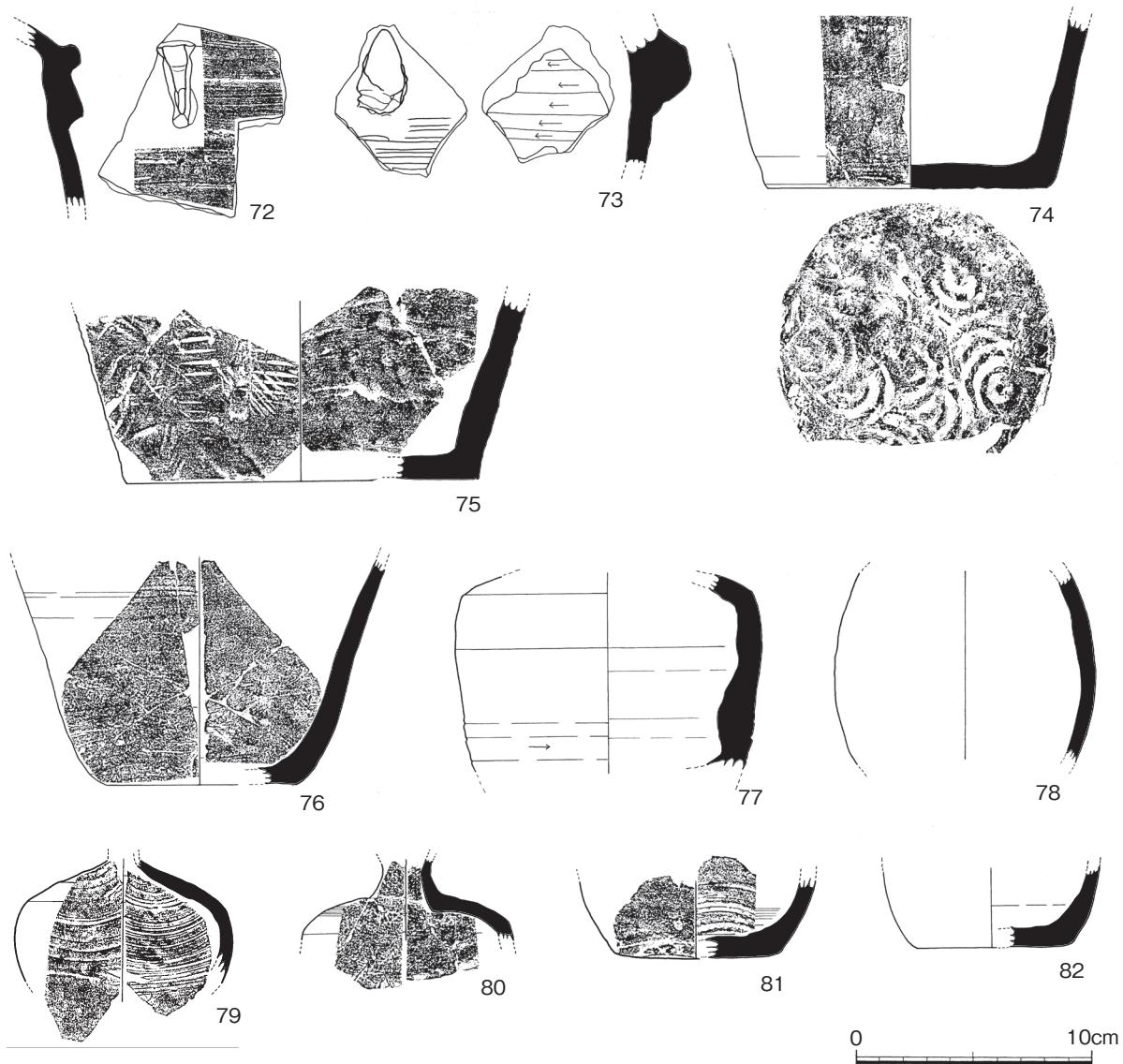
掲回 番号	掲載 番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			調整		備考	
									口径	底径	器高	外面	内面		
第84 図	14	RS・S-19	6523	V	須恵器	蓋	つまみ～体部	灰白色	—	2.7	—	ヘラケズリ ナデ	ナデ	小石粒含む	
	15	RS・Q-19	6378	V	須恵器	蓋	つまみ～体部	灰色	—	2.3	—	ヘラケズリ ナデ	ナデ	小石粒含む	
	16	S-19, RS-19	—	V	須恵器	蓋	つまみ～口縁	灰色	16.5	2.3	2.4	ヘラケズリ ナデ	ナデ	小石粒含む	
	17	—	—	—	須恵器	蓋	体部～口縁	灰色	22.6	—	—	ヘラケズリ ナデ	ナデ	—	
	18	RS・R-20	—	一括	須恵器	蓋	つまみ	灰色	—	3.3	—	ナデ	—	—	
第85 図	19	Q-20, PQ-18・19	6343, 6350	V	須恵器	坏	口縁～底部	(外)灰白色 (内)灰色	11.9	7.5	4.4	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
	20	R-10・19, PQR-19	—	一括	III, IV	須恵器	坏	ほぼ完形	褐灰色	12.4	7.7	4.1	ナデ	ナデ	ヘラ切り
	21	Q-19, PQR-19	—	一括	IV	須恵器	坏	口縁～底部	灰色	12.2	7.4	4.2	ナデ 回転ヘラケズリ	ナデ	小石粒含む
	22	S-19	—	一括	IV	須恵器	坏	口縁～底部	(外)灰褐色 (内)明灰黄色	12.0	7.1	3.7	ナデ 回転ヘラケズリ	ナデ	ヘラ切り 小石粒含む
	23	Q-19	—	一括	IV	須恵器	坏	口縁～底部	(外)灰褐色 (内)灰黄褐色	12.0	7.0	4.4	ナデ 回転ヘラケズリ	ナデ	ヘラ切り 小石粒含む
	24	S-21	4961, 4959	III	須恵器	坏	口縁～底部	(外)灰黄色 (内)にぶい黄色	13.6	7.8	4.3	ナデ 回転ヘラケズリ	ナデ	ヘラ切り	
	25	R-19, RS-19	6387	III, V	須恵器	坏	口縁～底部	灰白色	12.9	7.0	3.7	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
	26	T-24	7832	V	須恵器	坏	完形	(外)にぶい褐色 (内)灰褐色	11.4	6.4	4.3	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
	27	RQ-19	—	III	須恵器	坏	完形	褐灰色	10.9	5.8	4.0	ナデ 回転ヘラケズリ	ナデ	9世紀代ヘラ切り 小石粒含む	
	28	R-19	—	一括	—	須恵器	坏	完形	にぶい橙色	13.8	7.2	4.1	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 小石粒含む
	29	QS-19	—	一括	IV	須恵器	坏	口縁～底部	にぶい黄橙色	12.7	6.9	3.9	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 小石粒含む
	30	QR-18・19	—	一括	—	須恵器	坏	口縁～底部	灰黄色	15.0	7.1	4.1	ナデ 回転ヘラケズリ	ナデ	ヘラ切り 小石粒含む
	31	S-19	—	一括	IV	須恵器	坏	口縁～底部	灰黄褐色	14.4	8.2	3.8	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ
	32	R-19	6578	V	須恵器	坏	完形	橙色	15.2	7.6	4.1	ナデ 回転ヘラケズリ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 小石粒含む	
	33	R-22・23	17353, 17337	II	須恵器	坏	口縁～底部	赤褐色	13.0	6.6	3.7	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 小石粒含む	
	34	S-19	4245	IV, V	須恵器	坏	完形	にぶい黄橙色	14.4	6.6	3.6	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
	35	R-24	3978	II	須恵器	坏	口縁～胴部	灰色	16.0	—	—	ナデ	ナデ	小石粒含む	
	36	S-21	4937	III	須恵器	坏	底部	(外)にぶい黄橙色 (内)明黄褐色	—	7.6	—	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
	37	RS-19	—	一括	II	須恵器	坏	底部	褐灰色	—	7.4	—	ナデ	ナデ	ヘラ切り



第87図 須恵器4 壺

第88図 須恵器5 壺

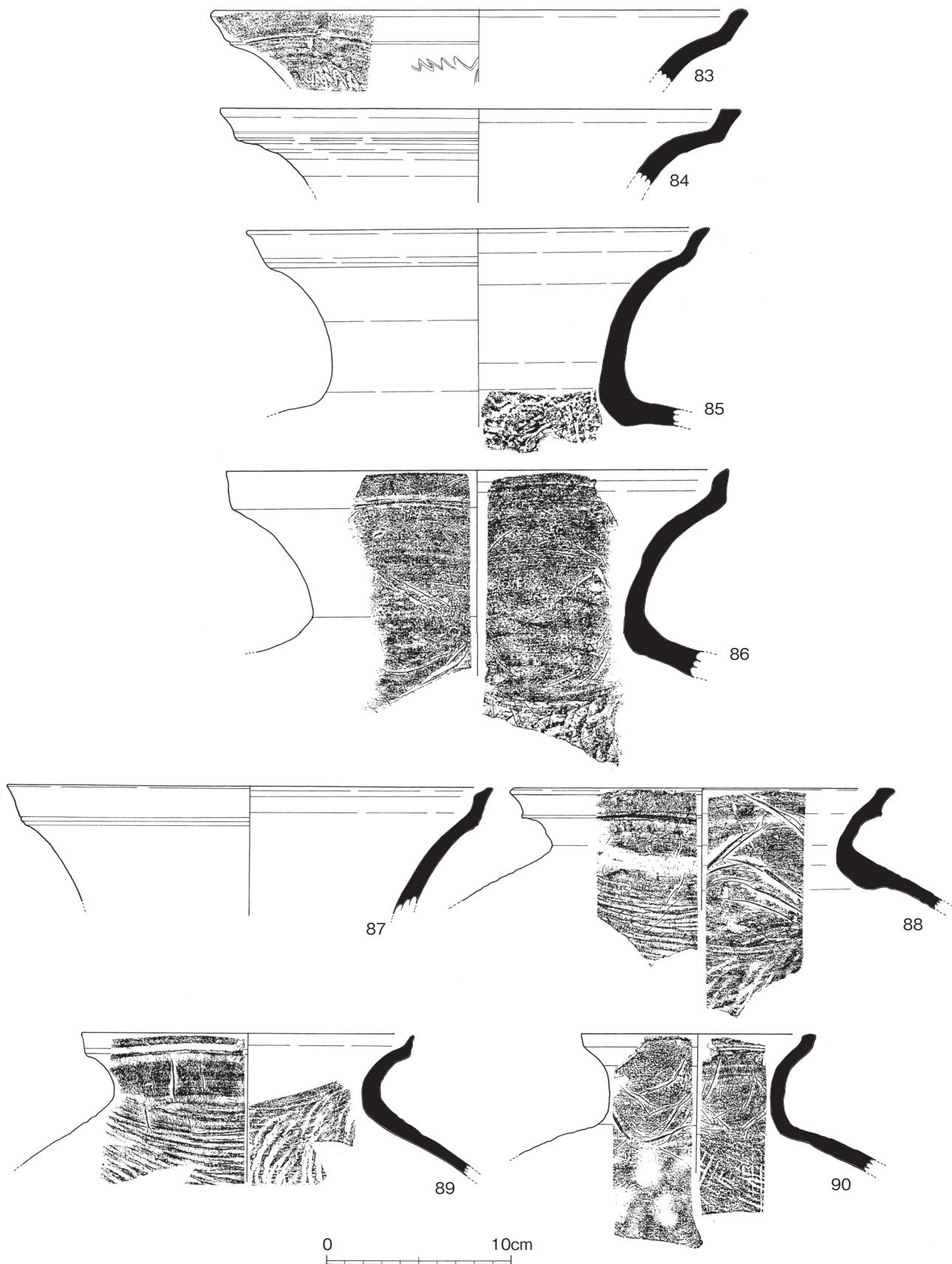




第89図 須恵器6 壺

壺 (第87~89図)

54~82は壺である。54~58は口縁部である。二重口縁を呈するが、57は先端部が短くなりほとんど屈曲しないものである。59~71は肩部から胴部である。肩部が張って屈曲するものとなめらかに屈曲するものがある。59は内面に同心円状のタタキが観察される。60は外面は格子目タタキの後ナデ、内面はナデ調整が施される。61は外面胴部は平行タタキ、肩部はナデが施され、内面はナデ調整である。62は内外面ともに横方向のハケ目が施される。63・64は外面は横方向のハケ目、内面はナデ調整が施される。65は外面に格子目タタキ、内面にナデが施される。72・73は肩部に貼り付けられた耳である。74~76は底部である。3点とも平底であるが、76は胴部と底部の境がやや丸みを帯びる。74は外底面に同心円状のタタキが見られ、荒尾窯のものと思われる。77~82は小形の壺である。77~80は肩部から胴部で、77以外は肩が丸みを帶び、78は肩が張らないものである。81・82は底部である。

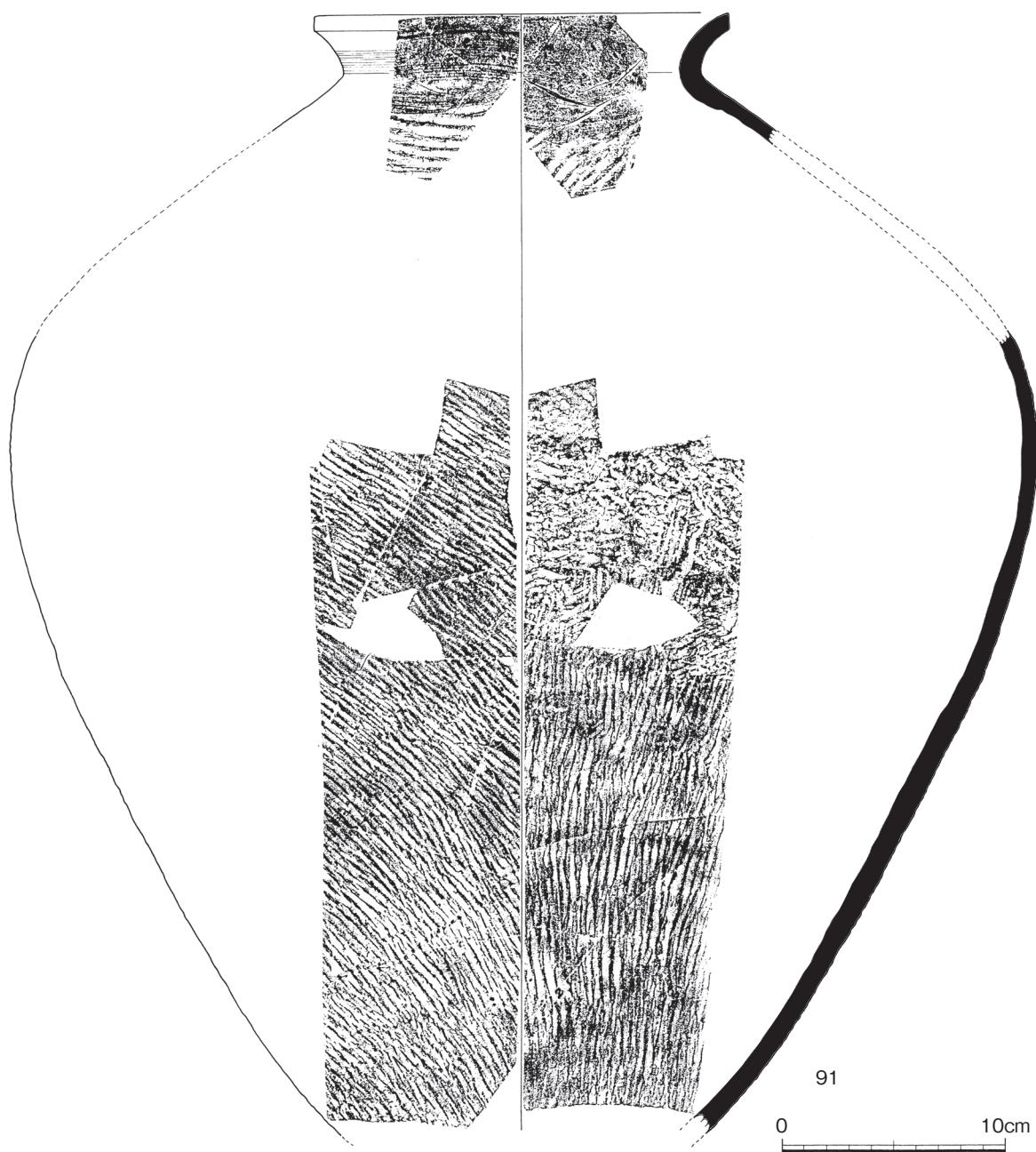


第90図 須恵器 7 甕

甕（第90～100図）

須恵器の甕は出土量は、土師器の甕と同量程度出土している。口縁部は比較的短いものがほとんどである。底部は丸底で胴部が張り、丸みを帯びるものがほとんどであるが、一部底部がわずかに平底になるものも見られる。調整方法は、外面は平行ないし格子目タタキで、内面は胴部上位から肩部にかけて同心円状の当て具痕が残り、以下は平行タタキが残る。頸部から口縁部にかけては回転ナデが施されている。

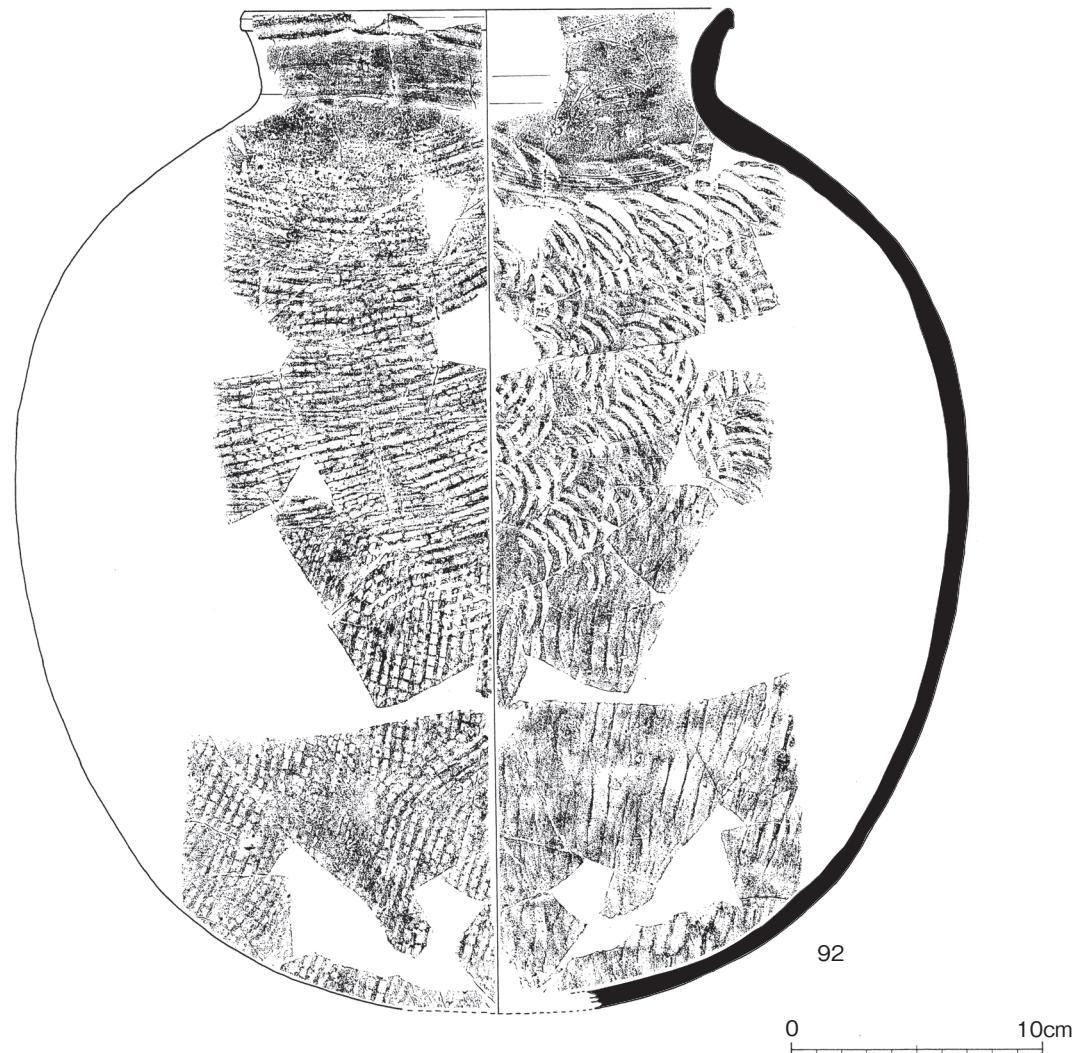
83～90は二重口縁を呈する口縁部である。83～88は口縁部先端に明瞭な段を有し、二重口縁を呈するものである。89・90は口縁部先端の立ち上がりが短く、二重口縁がはっきりしない。



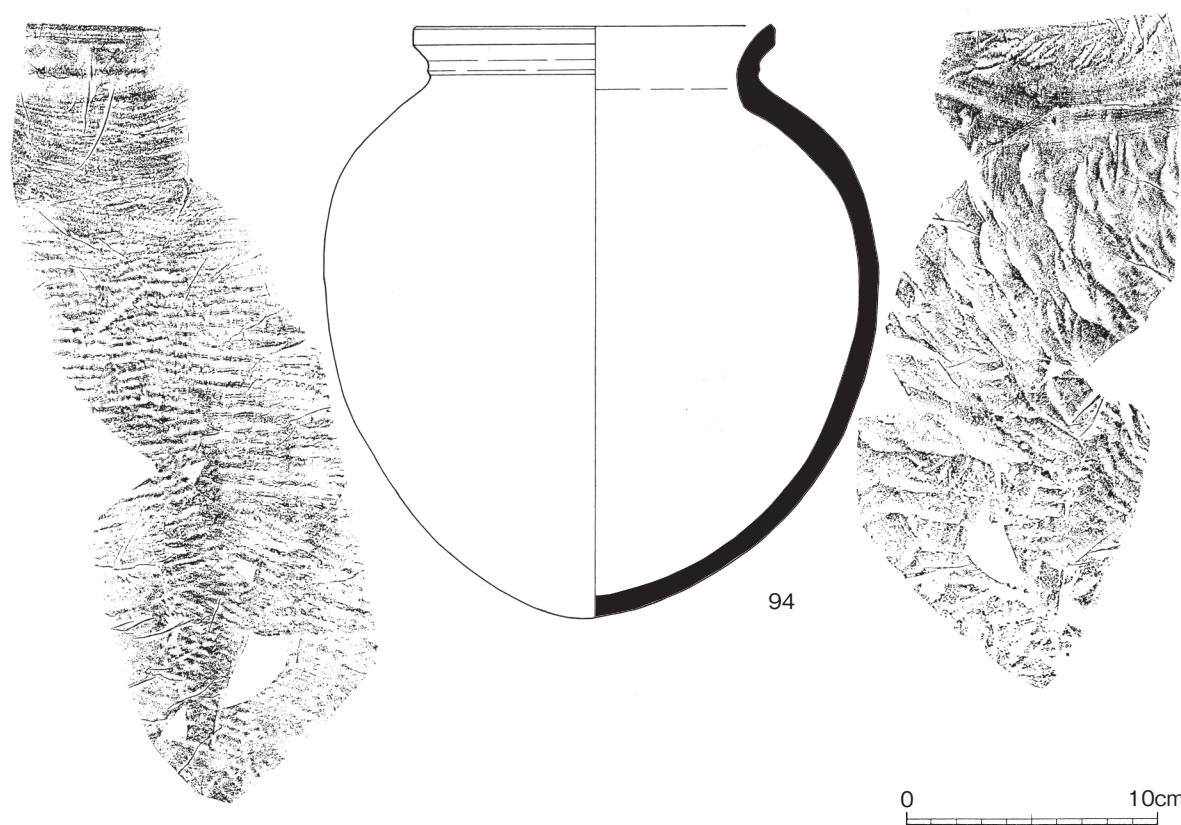
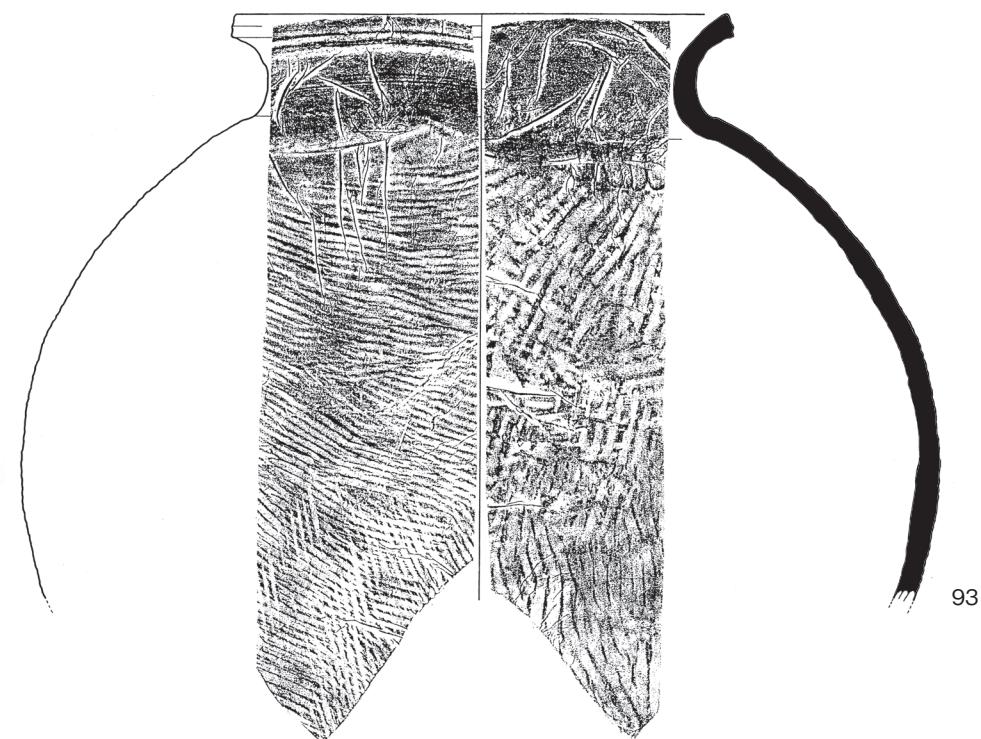
第91図 須恵器8 甕

91は図上復元ができたものである。器形は肩部が張り、底部は丸底になるものと思われる。92・93は大形の甕である。口縁部はやや開きながら立ち上がり、肩部から胴部にかけては丸みを帯びる。底部の形状は、92は丸底、93も丸底になるものと思われる。94は小形のものである。底部はやや先端が尖り気味になる丸底である。95～108は口縁部から肩部である。外側に開いた口縁端部にわずかに溝を有するものである。109～116は口縁部先端が下に垂れる形状を呈するものである。111は、外面に細い縦方向の平行タタキが観察できる。

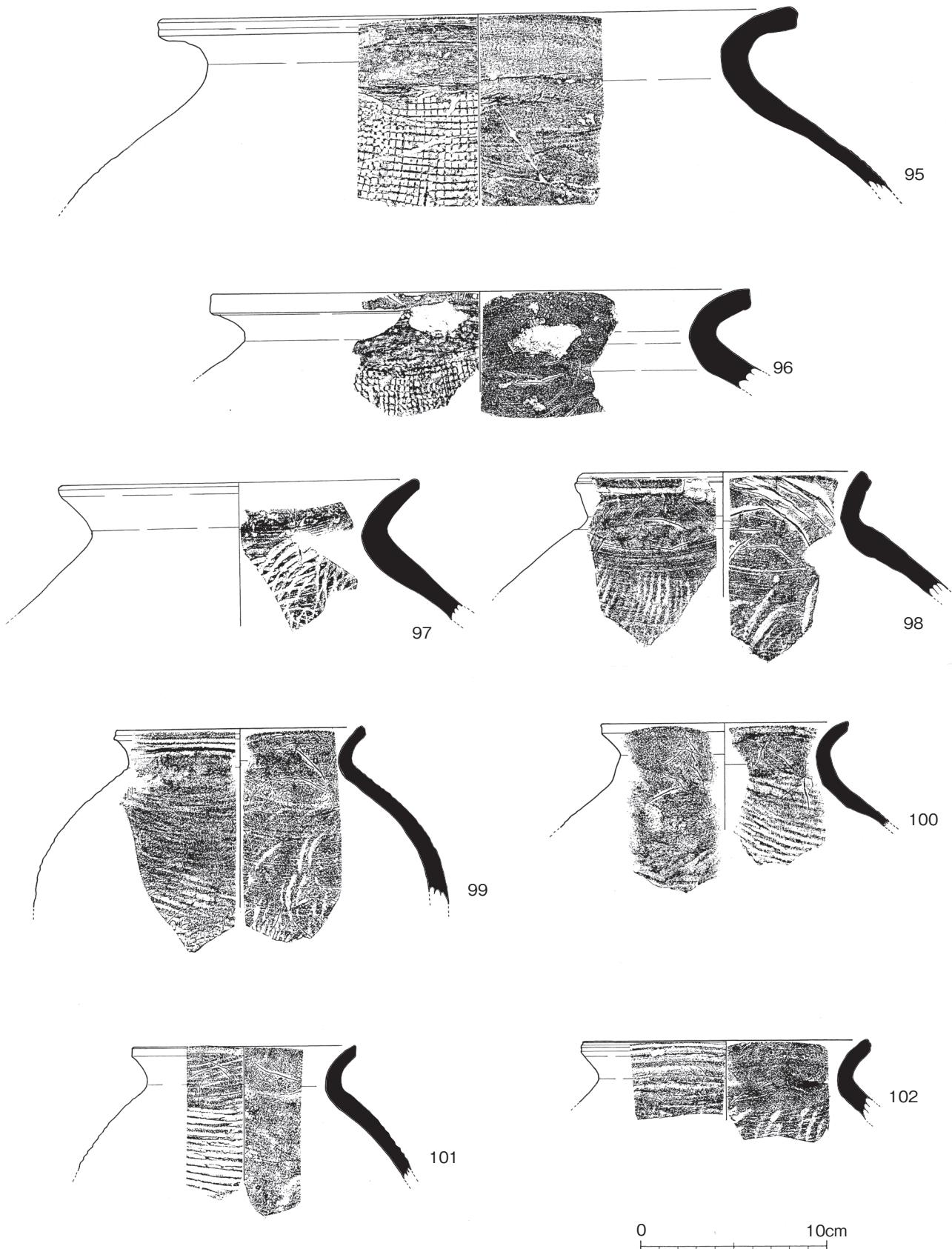
117～127は外面が格子目タタキの肩部及び胴部である。117・118の内面は同心円状タタキである。119・120は、内面に同心円状のタタキと平行タタキが混在する。タタキの道具が変化する部位である。121～127は内面に平行タタキが観察される。128～136は外面が平行タタキの肩部及び胴部である。128～132は内面に同心円状タタキが見られる。133～136は平行タタキである。137～146は底部である。137～139はやや先が尖る形状の丸底である。137・139の底部内面は放射状に平行タタキに入る。140は丸形の底部である。141・142は丸底になると思われる。143～146は底部にわずかな平坦面を有するものである。



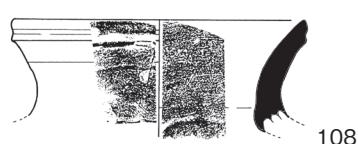
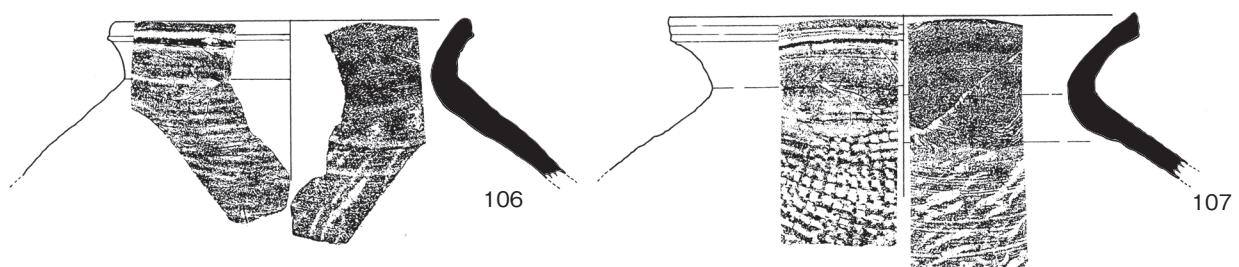
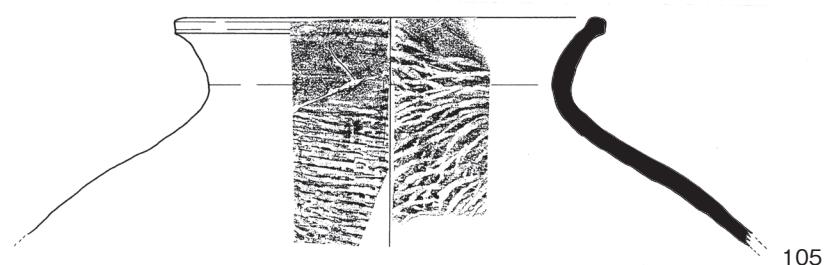
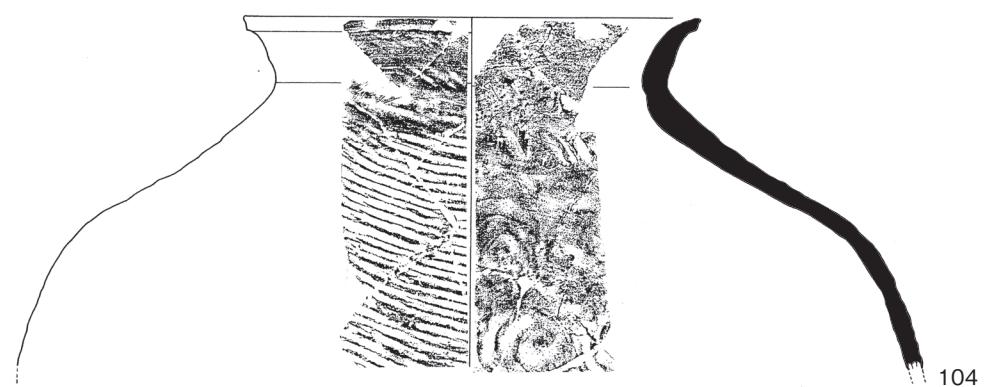
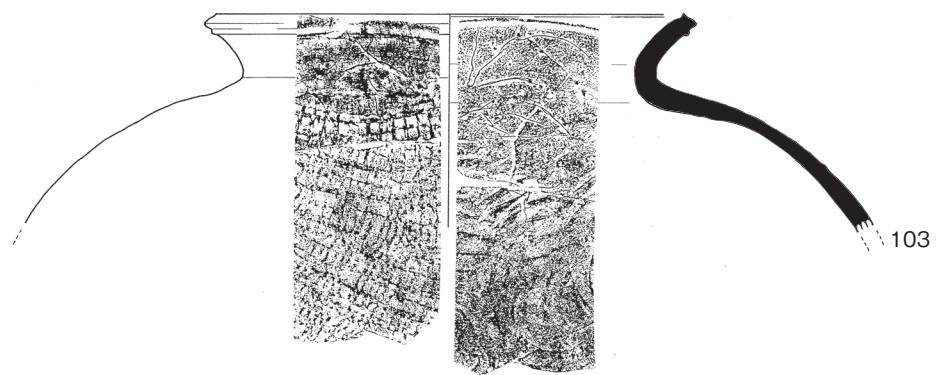
第92図 須恵器9 甕



第93図 須恵器10 甕

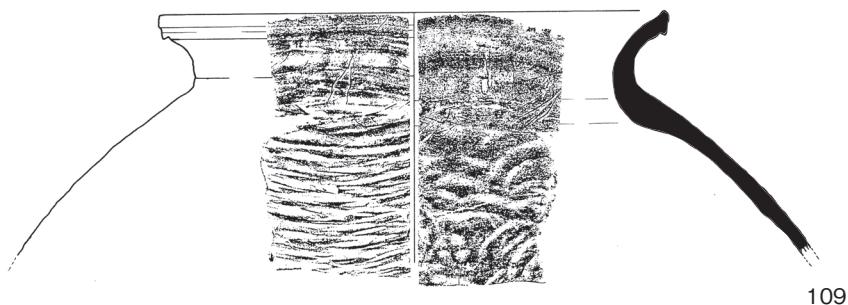


第94図 須恵器11 甕

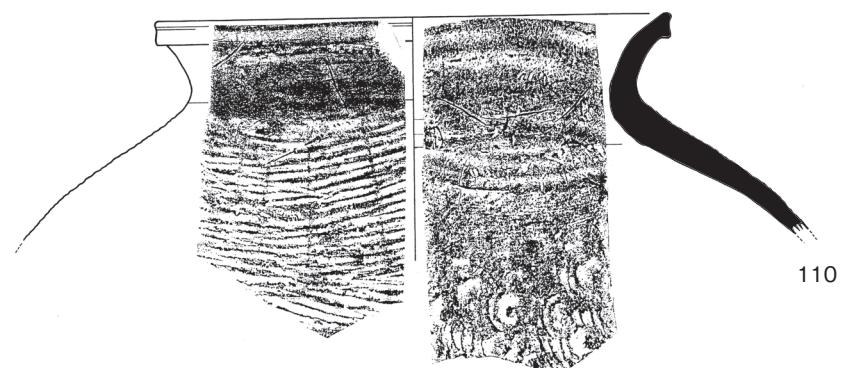


0 10cm

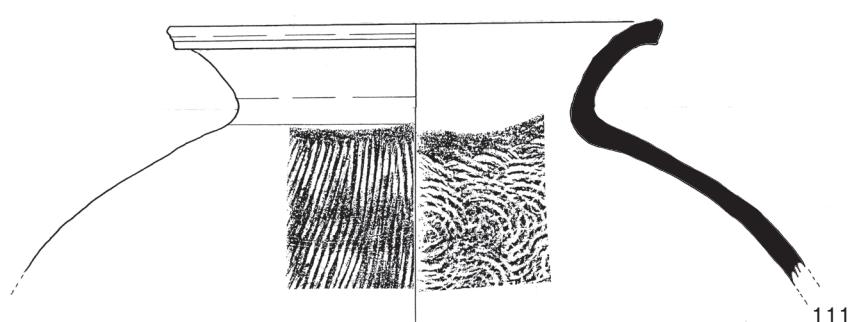
第95図 須恵器12 甕



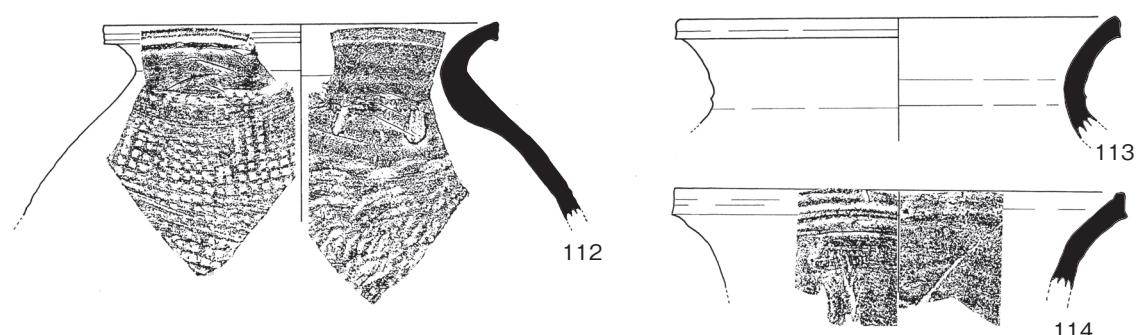
109



110



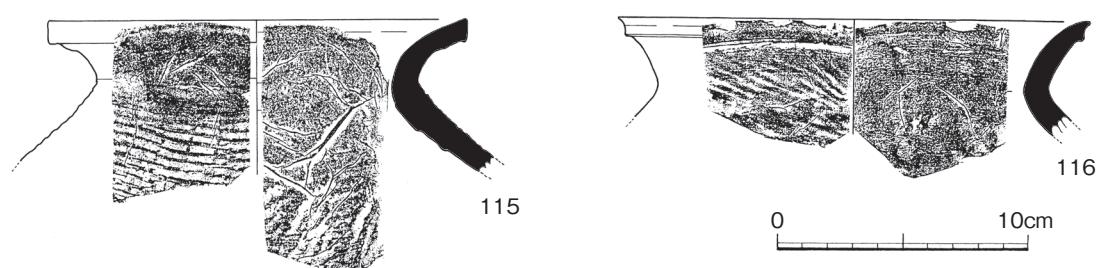
111



112

113

114



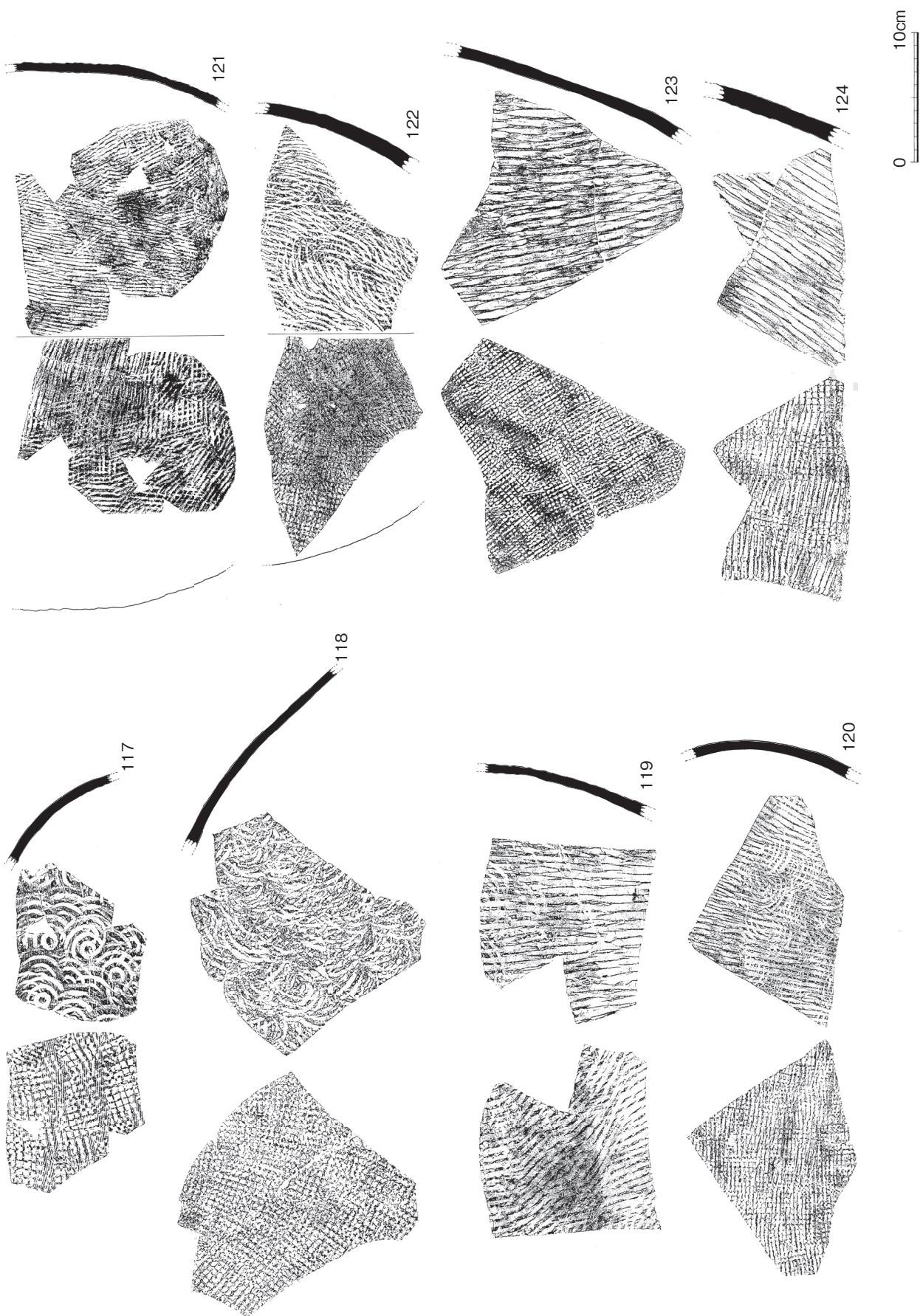
115

116

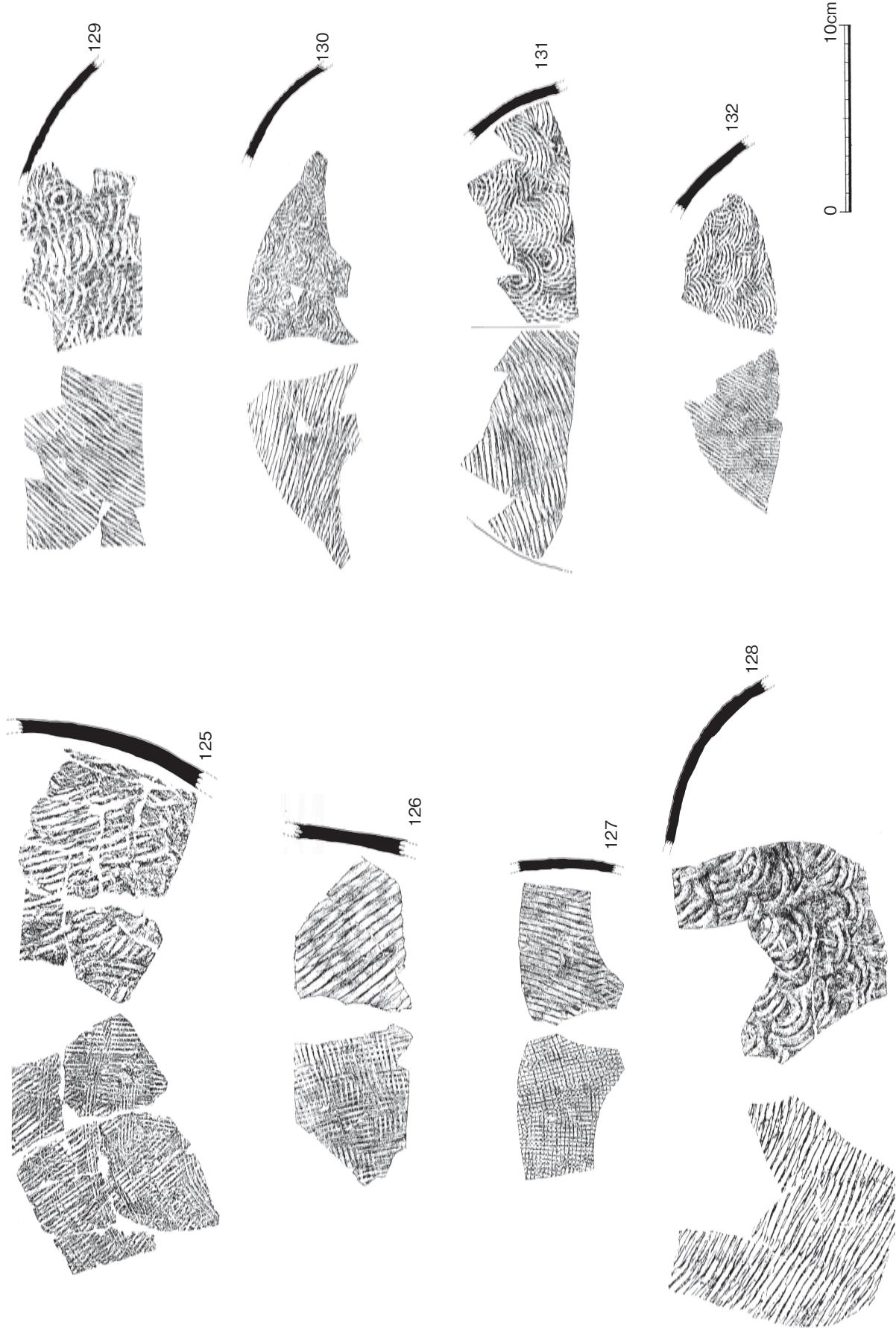
0 10cm

第96図 須恵器13 甕

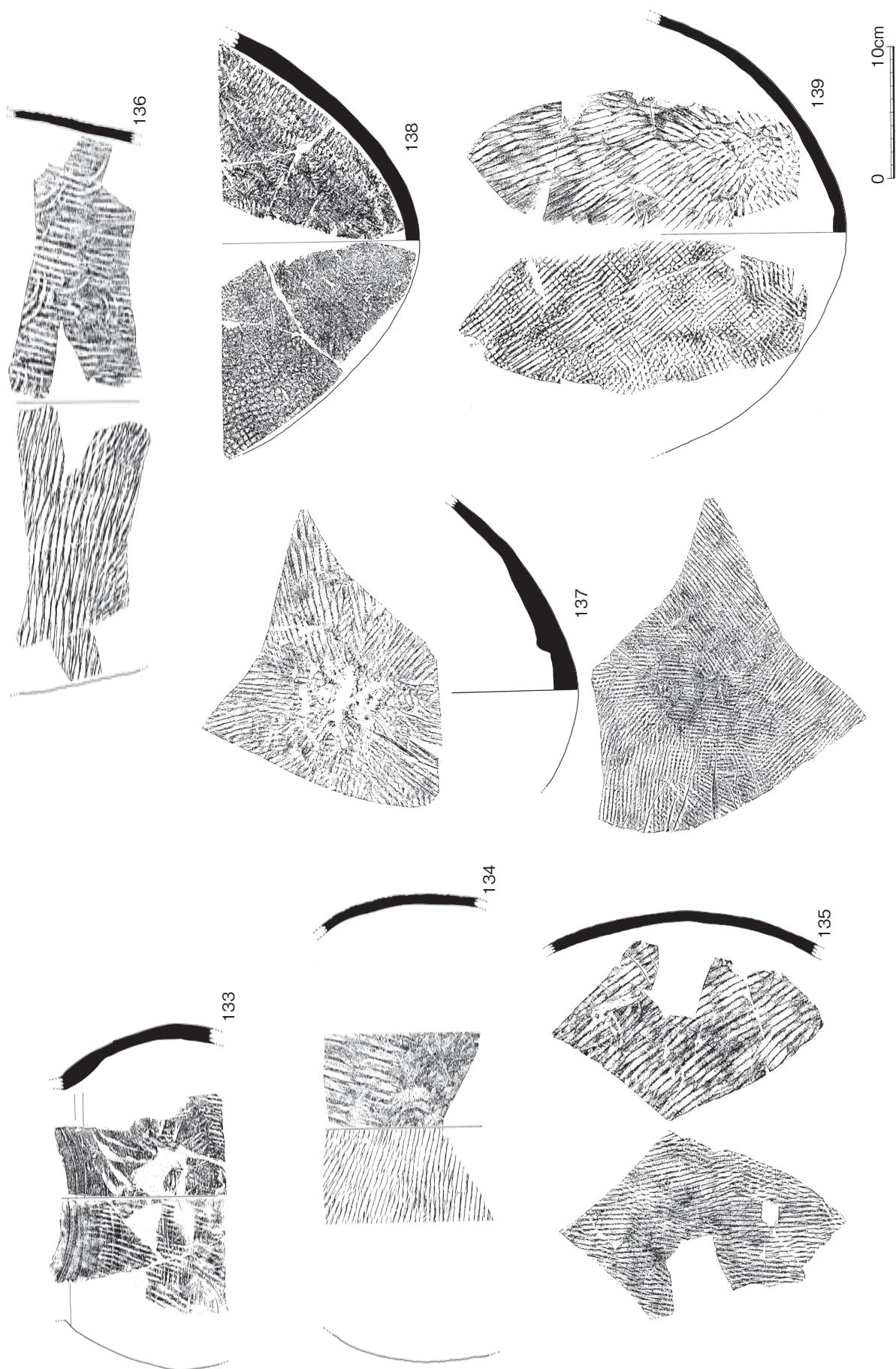
第97図 須恵器14 瓢



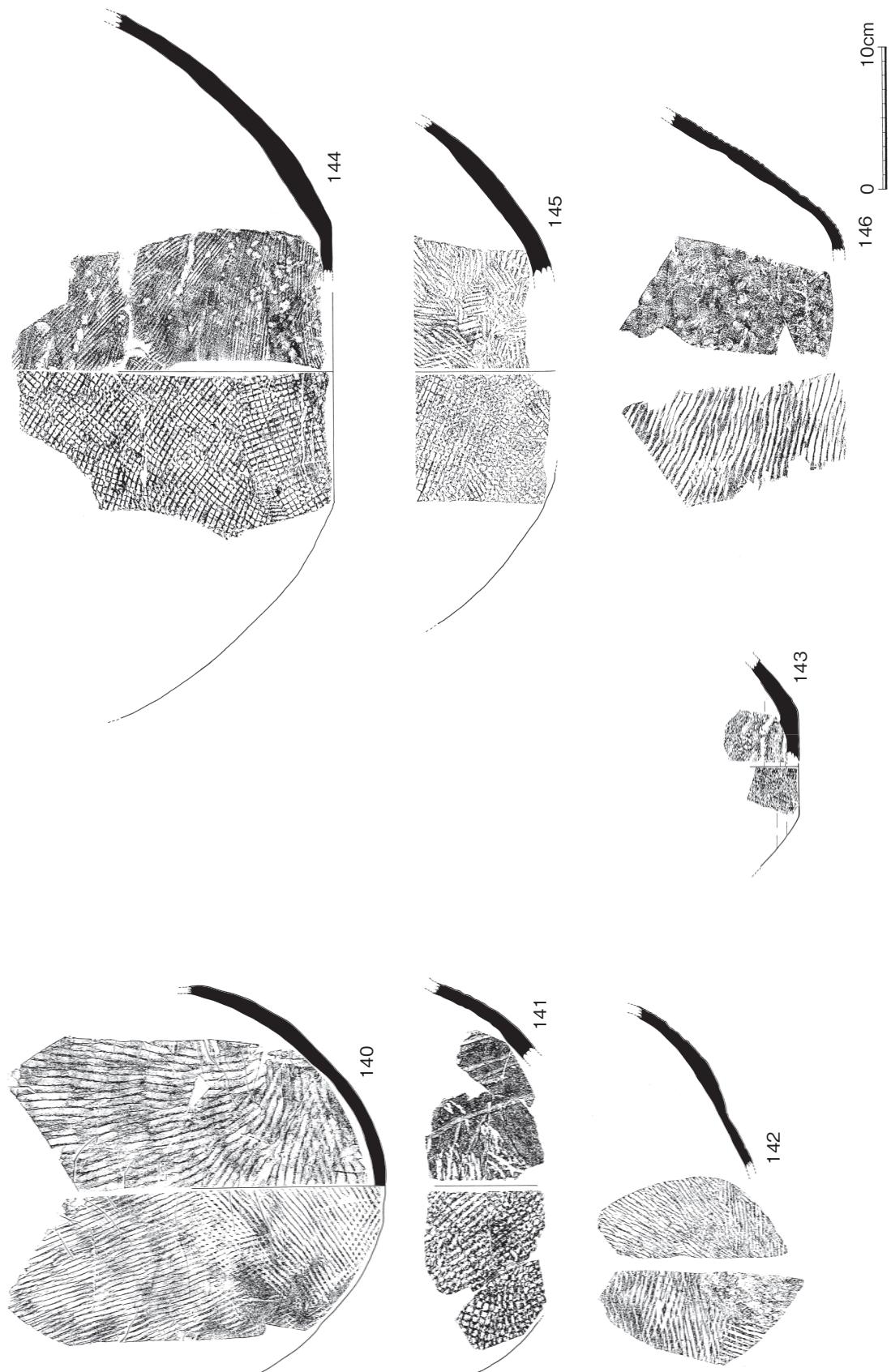
第98図 須恵器15 麒



第99図 須恵器16 瓢



第100図 須恵器17 蓋





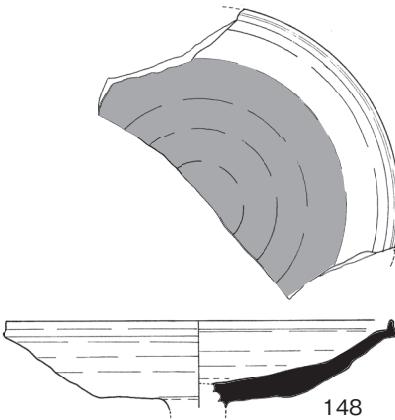
第101図 須恵器18 横瓶

横瓶（第101図）

147は横瓶である。底部は丸底で、横長で俵形の胴部をもつ。中央上部に短頸の小さい口縁部がつく。色調は、一般的な須恵器の色調である灰色ではなく、灰白色を呈する。

硯・鉄鉢他（第102図）

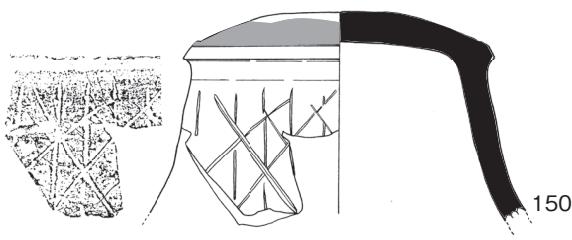
148～150は硯である。148・149は須恵器の蓋を硯に転用したものである。使用された部分は磨かれたようになっている。150は円面硯である。側面にはヘラ書きにより幾何学文状の文様が刻まれる。151～153は鉄鉢である。托鉢僧が乞食のために持ち歩く鉢である。器形は広口の平たいつくりで、口縁部は内湾しながら窄まる。底部は151のみ同一個体と思われるものを図上復元したが、やや先の尖る形状を呈する。154は鉢である。内外面とも回転ナデ調整である。155は用途不明のものである。鉢としたが器種も不明である。156は須恵器の壺もしくは鉢と思われるものである。第85図で掲載したものに比べ器壁が厚く、鉢の範疇に入るものと考えここに掲載した。口縁部外面から体部下位まで自然釉がかかり、明瞭な釉ラインが確認されることから、重ね焼きで焼かれていたことが窺える。



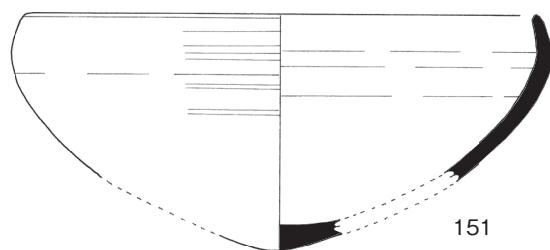
148



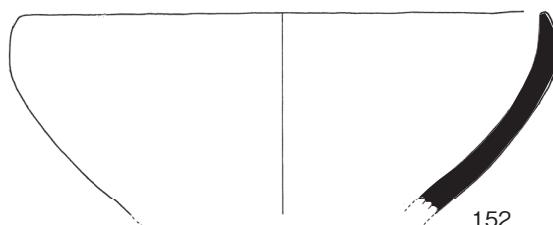
149



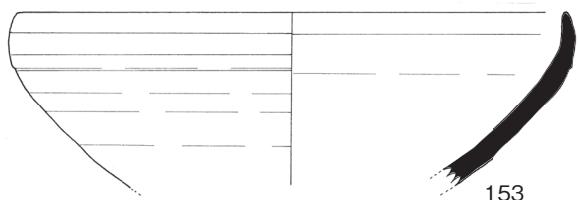
150



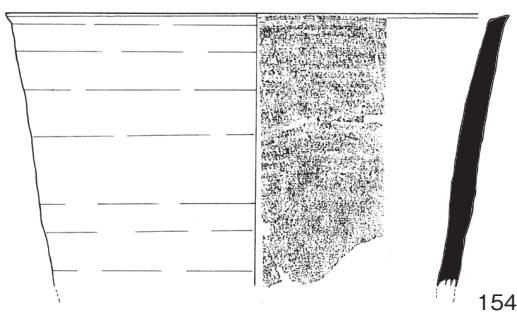
151



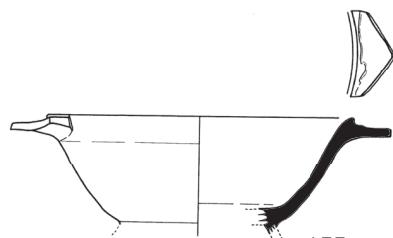
152



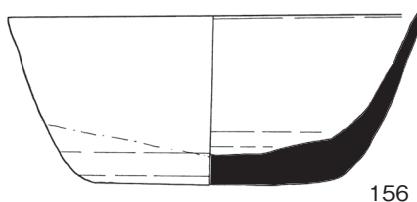
153



154



155



156

0 10cm

第102図 須恵器19 砥・鉄鉢他

須恵器観察表3

掲図番号	掲載番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			調整		備考
									口径	底径	器高	外面	内面	
第85図	38	S-19	2699	IV, V	須恵器	壺	胴部～底部	(外)褐灰色 (内)にぶい赤褐色	—	5.2	—	ナデ'	ナデ'	ヘラ切り後ナデ' 赤色の石粒含む 小石粒含む
	39	S-19	4225	V	須恵器	壺	胴部～底部	(外)にぶい黄橙色 (内)灰黃褐色	—	7.6	—	ナデ'	ナデ'	ヘラ切り
	40	RQ-19	—括	III	須恵器	壺	底部	(外)灰黃褐色 (内)にぶい黄橙色	—	7.6	—	ナデ'	ナデ'	ヘラ切り後ナデ' 小石粒含む
	41	—	—	—	須恵器	壺	底部	にぶい褐色	—	7.6	—	ナデ'	ナデ'	ヘラ切り後ナデ' 小石粒含む
	42	S-20	—括	IV	須恵器	壺	胴部～底部	(外)にぶい黄 (内)にぶい黄橙色	—	8.8	—	ナデ'	ナデ'	ヘラ切り
第86図	43	Q-20	6368	V	須恵器	椀	口縁～底部	灰白色	14.6	9.4	5.5	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	44	QR-18・19	—括	—	須恵器	椀	口縁～底部	(外)褐灰色(内)灰白色	15.6	9.2	5.4	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	45	QR-18・19	—括	—	須恵器	椀	口縁～底部	灰色	15.4	9.6	5.5	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	46	P-20, Q-10	—括	IV	須恵器	椀	完形	(外)暗灰色(内)灰白色	16.0	8.4	6.3	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	47	Q-20	6335	III	須恵器	椀	完形	灰白色	15.8	9.4	5.5	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	48	S-25・26	15068, 12539	II	須恵器	椀	口縁～底部	(外)灰白色(内)灰色	12.8	8.0	4.3	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	49	—	—	—	須恵器	椀	口縁～底部	灰白色	13.0	6.8	5.2	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	50	T-26	14424, 15826	II	須恵器	椀	口縁～底部	灰白色	10.8	6.2	4.5	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	51	—	—	—	須恵器	椀	完形	(外)灰褐色(内)灰色	14.2	7.8	6.2	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	52	R-26・27・28	15701, 16538, 18673	II, III上	須恵器	椀	胴部～底部	(外)暗赤褐色(内)灰黃褐色	—	9.0	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	53	U-24	13884	II	須恵器	椀	胴部～底部	(外)黄灰色(内)橙色	—	7.8	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
第87図	54	RQ-19, T-20, Q-20, T-19	2592	III, IV, V	須恵器	壺	口縁～胴部	(外)にぶい赤褐色 (内)にぶい赤褐色	12.2	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	55	T-24	13154, 19741	II	須恵器	壺	口縁部	(外)にぶい赤褐色 (内)褐灰色	10.0	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	56	S-21	4912, 4914, 5010	III	須恵器	壺	口縁部	(外)にぶい褐色 (内)黄灰色	10.2	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	57	R-19	6573	V	須恵器	壺	口縁部	褐灰色	8.4	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	58	S-19	—括	—	須恵器	壺	口縁部	(外)黒色(内)灰黃褐色	16.0	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	59	T-24	12470, 11861	II	須恵器	壺	胴部	(外)赤褐色 (内)にぶい赤褐色	—	—	—	平行タタキ	同心円タタキ	小石粒含む
	60	R-22, T-19	2433, 3416	II, IV	須恵器	壺	胴部	(外)にぶい赤褐色 (内)灰褐色	—	—	—	格子目タタキ	ナデ'	小石粒含む
	61	Q-18・19・20, T-20	—括	II, III, IV, V	須恵器	壺	胴部	(外)褐灰色(内)灰色	—	—	—	ナデ'	平行タタキ	小石粒含む
	62	S-26	1829	III	須恵器	壺	胴部～底部	浅黃橙色	—	—	—	ハケ目	ナデ'	小石粒含む
	63	—	—	—	須恵器	壺	胴部	灰色	—	—	—	ハケ目	ナデ'	小石粒含む
	64	TR-20, S-19	1778	III, IV	須恵器	壺	胴部	灰色	—	—	—	ヘラナデ'	ナデ'	小石粒含む
	65	PQ-19, S-19	15675	III, IV	須恵器	壺	胴部	(外)灰褐色(内)灰色	—	—	—	平行タタキ	ヘラケズリ	小石粒含む
第88図	66	S-19・22	20632	II	須恵器	壺	胴部	灰色	—	—	—	—	—	当て具痕
	67	S-22・23・27, R-20	444, 5422, 5622, 11020, 17200	II	須恵器	壺	胴部	(外)灰褐色(内)黄褐色	—	—	—	平行タタキ	当て具痕	小石粒含む
	68	Q-18・19, S-19	—括	IV	須恵器	壺	胴部	(外)暗黃灰色(内)灰黃色	—	—	—	平行タタキ	ヘラケズリ	当て具痕
	69	R-21	8693, 20892	III	須恵器	壺	胴部	(外)灰色(内)にぶい褐色	—	—	—	平行タタキ	当て具痕	小石粒含む
	70	R-21, S-19, T-25	20527, 5947, 13681	III, IV	須恵器	壺	胴部	(外)灰褐色(内)灰色	—	—	—	平行タタキ	ヘラケズリ	当て具痕
	71	S-20・22・23, SR-20, T-25	7045, 5771, 10865	II, IV	須恵器	壺	胴部～底部	(外)黄灰色(内)褐灰色	—	—	—	平行タタキ	当て具痕	小石粒含む
	72	S-19	—括	IV	須恵器	壺	—	灰色	—	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	73	R-23	5766	III	須恵器	壺	—	灰褐色	—	—	—	平行タタキ	ヘラナデ'	外底面同心円タタキ 小石粒含む
	74	S-21	5067, 5147	III	須恵器	壺	胴部～底部	(外)灰褐色(内)灰色	—	12.0	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	75	R-22	2403	II	須恵器	壺	胴部～底部	(外)にぶい黄褐色	—	15.0	—	格子目タタキ	当て具痕	小石粒含む
第89図	76	Q-19・20	—括	IV	須恵器	壺	胴部～底部	(外)灰色(内)灰白色	—	8.0	—	ナデ'	ヘラケズリ	当て具痕
	77	Q-19, R-19	—括	IV	須恵器	壺	胴部～底部	(外)黄灰色(内)灰白色	—	—	—	ナデ'	ヘラケズリ	当て具痕
	78	—	—	—	須恵器	壺	胴部	(外)灰黃褐色(内)褐灰色	—	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	79	—	—	—	須恵器	壺	胴部	褐灰色	—	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	80	T-25・26	16737, 14017, 7614, 14376, 13684	II	須恵器	壺	口縁部	青灰色	—	—	—	ナデ'	ナデ'	外底面硯として使用か?
	81	T-19	2868	III	須恵器	壺	底部	(外)黄灰色(内)灰色	—	7.2	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	82	Q-20	6359	V	須恵器	壺	底部	黑褐色	—	6.4	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	83	T-26, QR-19	17522	II, IV	須恵器	甕	口縁部	(外)暗灰色(内)灰色	28.2	—	—	ナデ'	ナデ'	波状紋
	84	T-20	3917	V	須恵器	甕	口縁部	(外)暗灰色(内)暗青灰色	28.0	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	85	QR-19	—括	III	須恵器	甕	口縁～頸部	灰色	24.8	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	86	R-20	—括	III	須恵器	甕	口縁～頸部	黒褐色	27.0	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	87	S-19, PS-19	—括	V	須恵器	甕	口縁部	灰色	24.0	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
第90図	88	Q-19, S-19, T-19	13357, 3924	II, IV, VI	須恵器	甕	口縁～肩部	灰色	20.8	—	—	ナデ'	ナデ'	袖蓋灰釉
	89	R-27, S-19, T-20	4241, 18541, 3902, 13368, 2346	III上, V	須恵器	甕	口縁～肩部	灰色	18.0	—	—	ナデ'	ナデ'	平行タタキ
	90	S-26, T-26, U-24	15260, 15077, 15372, 11056	II	須恵器	甕	口縁～肩部	(外)暗灰黄色 (内)にぶい黄色	12.5	—	—	ナデ'	格子目タタキ	当て具痕
	91	Q-19・20, R-19, R-20, R-21, S-19・26, OR-19, RS-18・19, PS-19	6235, 15507, 13598, 6313, 6484, 15651, 6571, 12432, 14144, 6240, 12293, 1888	II, III, IV, V	須恵器	甕	口縁部	(外)黒褐色 (内)にぶい黄褐色	18.4	—	—	ナデ'	ナデ'	同心円タタキ 平行タタキ
	92	Q-19・20, R-18・19, R-19・20, PQ-19, RS-19, RQ-19	6381	II, III, IV, V	須恵器	甕	口縁～胴部	(外)灰褐色 (内)灰色	19.4	—	—	ナデ'	ナデ'	同心円タタキ 平行タタキ
	93	T-25・26	10788, 13394	II	須恵器	甕	口縁～胴部	にぶい黄橙色	20.0	—	—	ナデ'	ナデ'	同心円タタキ 平行タタキ
	94	S-1T, S-19, T-19	1147, 1360, 1338, 1345, 1145, 1325, 1146, 4205, 1321, 1359, 1358, 1361, 1144, 1126, 1140	III, IV, V	須恵器	甕	ほぼ完形	(外)灰色 (内)褐灰色	14.2	—	23.5	ナデ'	ナデ'	同心円タタキ 平行タタキ
	95	R-19・20, RS-19	—括	III, IV	須恵器	甕	口縁部	灰色	33.6	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	96	PS-19	—括	III	須恵器	甕	口縁部	灰白色	29.0	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	97	Q-19, PQ-19, RS-19	—括	III, IV	須恵器	甕	口縁部	灰褐色	19.0	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	98	R-23	2946	II	須恵器	甕	口縁部	橙色	14.8	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
	99	PQ-19	—括	III	須恵器	甕	口縁部	(外)灰色(内)青灰色	13.4	—	—	ナデ'	ナデ'	小石粒含む
第91図	100	Q-19・20, R-20, R-21, T-26, S-15・26	13060, 14018, 6250	II, V	須恵器	甕	口縁部	灰色	13.1	—	—	ナデ'	ナデ'	同心円タタキ 平行タタキ
	101	C-26	325	II	須恵器	甕	口縁部	(外)灰色(内)灰白色	12.0	—	—	ナデ'	ナデ'	同心円タタキ 平行タタキ
	102	Q-19	—括	II	須恵器	甕	口縁部	灰色	15.2	—	—	ナデ'	ナデ'	同心円タタキ

須恵器観察表4

掲回 番号	掲載 番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			調整		備考
									口径	底径	器高	外面	内面	
第95回	103	S-19, R-17-19, S-19, RS-19	1224	III, IV	須恵器	甕	口縁部	(外)暗灰色 (内)灰色	18.7	—	—	ナデ ² 格子目タタキ	ナデ ² 同心円タタキ	
	104	R-19-20, S-19- 22, QR-19	6516, 8118	II, IV, V	須恵器	甕	口縁部	灰褐色	18.2	—	—	ナデ ² 平行タタキ	ナデ ² 同心円タタキ	小石粒含む
	105	S-19, T-23	3945, 21491	II, IV	須恵器	甕	口縁部	(外)灰褐色 (内)褐色	16.4	—	—	ナデ ² 格子目タタキ	ナデ ² 同心円タタキ	小石粒含む
	106	Q-19	—括	IV	須恵器	甕	口縁部	(外)紫灰色 (内)灰色	13.4	—	—	ナデ ² 平行タタキ	ナデ ²	小石粒含む
	107	PQRS-19	—括	III, IV	須恵器	甕	口縁～胴部	紫灰色	18.7	—	—	ナデ ² 格子目タタキ	ナデ ² 同心円タタキ	
	108	S-25-26	12522, 12580	II	須恵器	甕	口縁部	(外)褐灰色 (内)にぶい赤褐色	11.6	—	—	ナデ ²	ナデ ²	
第96回	109	Q-20, PQ-18-19, PQ-19	—括	III, IV	須恵器	甕	口縁部	灰色	20.2	—	—	ナデ ² 平行タタキ	ナデ ² 同心円タタキ	
	110	R-19, S-21	6553, 5470	V	須恵器	甕	口縁～胴部	灰色	20.6	—	—	ナデ ² 平行タタキ	ナデ ² 同心円タタキ	小石粒含む
	111	R-19, RS-19	6443	IV, V	須恵器	甕	口縁部	灰色	19.4	—	—	ナデ ² 平行タタキ	ナデ ² 同心円タタキ	
	112	QR-19	—括	—	須恵器	甕	口縁～胴部	灰色	15.8	—	—	ナデ ² 格子目タタキ	ナデ ² 同心円タタキ	
	113	—	—	—	須恵器	甕	口縁～胴部	にぶい褐色	17.6	—	—	ナデ ²	ナデ ²	
	114	R-22	9410	III	須恵器	甕	口縁部	(外)黄灰色 (内)浅黄色	18.0	—	—	ナデ ²	ナデ ²	
	115	R-27, S-26	19260, 18128, 10575	II	須恵器	甕	口縁～胴部	にぶい黄橙色	16.8	—	—	ナデ ² 格子目タタキ	ナデ ² 同心円タタキ	
第97回	116	R-26, S-23, SQ-20	2204, 311	II, IV	須恵器	甕	口縁～胴部	青灰色	19.0	—	—	ナデ ² 平行タタキ	ナデ ² 同心円タタキ	
	117	S-19	2722	IV	須恵器	甕	胴部	(外)明青灰色 (内)暗褐色	—	—	—	格子目タタキ	同心円タタキ	
	118	S-21	5469, 4948, 4976, 5379, 5633, 4287	II, III	須恵器	甕	胴部	灰色	—	—	—	格子目タタキ	同心円タタキ	
	119	QR-18-19, R-19, Q-19, SQ-19-20, Q-20	—括	II, III, IV	須恵器	甕	胴部	(外)黒褐色 (内)褐灰色	—	—	—	格子目タタキ	同心円タタキ 平行タタキ	釉薬鉄釉
	120	P-19, Q-19-20	—括	III, IV, V	須恵器	甕	胴部	(外)褐色 (内)暗灰黄色	—	—	—	格子目タタキ	同心円タタキ 平行タタキ	
	121	Q-18-19-20	6676	IV, V	須恵器	甕	胴部	黑褐色	—	—	—	格子目タタキ	平行タタキ	
	122	T-24, S-22	13257, 5180	II	須恵器	甕	胴部	灰褐色	—	—	—	格子目タタキ	平行タタキ	小石粒含む
	123	—	1021	II	須恵器	甕	胴部	(外)にぶい黄褐色 (内)灰黄褐色	—	—	—	格子目タタキ	平行タタキ	
第98回	124	Q-19	6684, 18508	II, V	須恵器	甕	胴部	(外)黒褐色 (内)黄灰色	—	—	—	格子目タタキ	平行タタキ	小石粒含む
	125	S-22-23, Q-20	4909, 8088	II, III	須恵器	甕	胴部	灰色	—	—	—	格子目タタキ	平行タタキ	
	126	S-23	365, 5013	II	須恵器	甕	胴部	(外)黒褐色 (内)橙色	—	—	—	格子目タタキ	平行タタキ	小石粒含む
	127	R-21-22	9345, 9297, 8731	II	須恵器	甕	胴部	(外)にぶい黄橙色 (内)にぶい橙色	—	—	—	格子目タタキ	平行タタキ	
	128	Q-19, R-19, PQR-19	—括	II, III	須恵器	甕	胴部	灰色	—	—	—	平行タタキ	同心円タタキ	小石粒含む
	129	R-17-19-20, Q-20, S-20, PS-19	6412, 6435, 1833	III, IV, V	須恵器	甕	胴部	(外)灰色 (内)灰黄色	—	—	—	平行タタキ	同心円タタキ	小石粒含む
	130	Q-18-19	—括	IV	須恵器	甕	胴部	(外)灰色 (内)暗青灰色	—	—	—	平行タタキ	同心円タタキ	小石粒含む
	131	S-20, R-19, RQ-19, QS-19	4991	II, III	須恵器	甕	胴部	(外)暗灰黄色 (内)灰色	—	—	—	平行タタキ	同心円タタキ	
第99回	132	R-22	7673	II	須恵器	甕	胴部	灰色	—	—	—	平行タタキ	同心円タタキ	小石粒含む
	133	R-22-23	4322, 9873, 4925, 9299	II	須恵器	甕	胴部	橙色	—	—	—	平行タタキ	平行タタキ	小石粒含む
	134	S-18-19, RS-19	—括	III, IV, V	須恵器	甕	胴部	(外)黒褐色 (内)灰色	—	—	—	平行タタキ	平行タタキ	小石粒含む
	135	S-19-20	1600	III, IV, V	須恵器	甕	胴部	(外)暗赤褐色 (内)黒褐色	—	—	—	平行タタキ	平行タタキ	小石粒含む
	136	S-19	—括	IV	須恵器	甕	胴部	(外)黒褐色 (内)灰色	—	—	—	平行タタキ	同心円タタキ 平行タタキ	
	137	R-19	6015	II	須恵器	甕	底部	(外)にぶい赤褐色 (内)灰色	—	—	—	格子目タタキ	平行タタキ	小石粒含む
	138	R-19, S-19, RS-19, S-20, Q-20	4474, 6577, 6576	III, IV, V	須恵器	甕	胴部～底部	灰色	—	—	—	格子目タタキ	平行タタキ	小石粒含む
第100回	139	T-20, QR-19, RS-19, Q-19, S-19	6376, 4085, 3970	III, IV, V	須恵器	甕	胴部～底部	(外)明赤褐色 (内)褐灰色	—	—	—	格子目タタキ	平行タタキ	小石粒含む
	140	Q-19, R-19, S-19, Q-20, R-20	6434, 6413, 6391, 6415, 6410	III, IV, V	須恵器	甕	胴部～底部	(外)赤褐色 (内)赤黒色	—	—	—	格子目タタキ	平行タタキ	小石粒含む
	141	S-19	—括	IV	須恵器	甕	胴部	(外)灰色 (内)黄灰色	—	—	—	格子目タタキ	平行タタキ	小石粒含む
	142	SQ-10-20, Q-19-20	—括	IV	須恵器	甕	胴部	(外)灰色 (内)黒色	—	—	—	格子目タタキ	平行タタキ	小石粒含む
	143	R-20	6227	V	須恵器	甕	胴部～底部	灰色	—	7.2	—	ナデ ²	ナデ ²	小石粒含む 釉薬灰釉
	144	Q-20	—括	II, III	須恵器	甕	底部	(外)灰色 (内)灰白色	—	19.2	—	格子目タタキ	ヘラナデ ²	小石粒含む
	145	QR-19	—括	III	須恵器	甕	胴部	(外)青灰色 (内)灰黄色	—	—	—	格子目タタキ	平行タタキ	小石粒含む
第101回	146	PQ-14	—括	—	須恵器	甕	胴部	(外)褐褐色 (内)灰色	—	—	—	平行タタキ	当て具痕	
	147	Q-19, R-19, S-19, QP-19	—括	IV, V	須恵器	横瓶	頸部～底部	灰白色	—	—	—	格子目タタキ 後ナデ ²	ナデ ²	
第102回	148	Q-19-20, QR-19	—括	III	須恵器	硯	口唇～つまみ	(外)褐灰色 (内)灰色	15.8	—	—	ヘラケズリ ナデ ²	ナデ ²	蓋の転用
	149	SRS-19, SRQ-19	—括	III	須恵器	硯	口縁部	灰色	15.0	—	—	ヘラケズリ ナデ ²	ナデ ²	蓋の転用
	150	U-24-25	11061, 13695	II	須恵器	円面硯		灰色	—	—	—	ナデ ²	ヘラケズリ	
	151	S-24	11514, 15623	II	須恵器	鉢	口縁～胴部	にぶい黄橙色	20.4	—	—	ヘラケズリ ナデ ²	ナデ ²	
	152	RS-19, QR-19	—括	III	須恵器	鉢	口縁～胴部	褐灰色	21.0	—	—	ヘラケズリ ナデ ²	ナデ ²	
	153	S-22	7849	II	須恵器	鉢	口縁～胴部	灰褐色	22.0	—	—	ヘラケズリ ナデ ²	ナデ ²	
	154	S-19	—括	IV, V	須恵器	鉢	口縁～胴部	灰色	20.0	—	—	ナデ ²	ヘラケズリ ナデ ²	同心円タタキ ナデ ²
	155	ST-20・21	—括	III	須恵器	坏	口縁部	灰色	12.2	—	—	ヘラケズリ ナデ ²	ナデ ²	
第103回	156	S-19, Q-19, P-109, QR-18- 19, PQ-19	3947	II, III, V	須恵器	坏	口縁～底部	(外)黄灰色 (内)灰白色	12.0	—	—	ヘラケズリ ナデ ²	ナデ ²	

木製品

低地部の湿地部分からは古代～近世のものと思われる多量の木製品が出土した。以下にこれらの遺物について述べる。なお、木製品の分類については以下の文献を参考にした。

『木器集成図録近畿原始編』 1993 奈良国立文化財研究所

『木器集成図録近畿古代編』 1985 奈良国立文化財研究所

挽物皿（第103図）

1は板目取りした木材を使用した皿である。内面には同心円状の溝が残っている。2～5は、高台付の皿である。体部はゆるやかに立ち上がる。内面には炭化物が付着している。3は高さ1.3cmの高台をもつ。見込みの中央はやや窪んでいる。4は、板目取りした木材を使用している。見込みは平坦であるが、体部はやや持ち上がるものと思われる。また、高台と体部の境目には、高台を切り出した時のものと思われる傷のような跡が看取できる。5は、直径約17cmの皿である。高台の高さは5mmと低い。見込み部分には刃物傷が多数見られ、まな板としての代用も考えられる。

未製品（第104図）

6は、挽物皿の未製品である。柾目取りした板の角を削って、体部を製作している途中である。体部には幅2cm～2.5cmの工具痕が全面に残っている。7は、皿などを轆轤で挽いて製作する際に製品から切り離された部分である。底には轆轤の爪跡がある。

曲物（第105・106図）

8～15は底板または蓋であると思われる。8は、幅6mm、厚さ1.5mmの木の板を天板の縁に沿うように曲げて皮紐で綴じてある。9は、厚さ約5mmで結合孔が1か所残っている。10は、径16.2cm、厚さ4.5mmで結合孔が2か所残っており、うち1か所には皮紐が残っている。11は、板の円周を4等分して結合孔を配置する。うち3か所には皮紐が残る。蓋板の径は16.1cm、厚さ6mmである。内面には、側板の位置を決める針書き刻線がめぐる。また、外面には刃物傷が見られる。12は、針書き線が内面に1条、外面には3条刻まれている。また、外面には刃物傷がある。13も内面に針書き刻線があり、結合孔には皮紐が残っている。外面には刃物でつけたような傷が多数あり、まな板として転用されていたようである。14にも結合孔に皮紐が残っている。15には結合孔が見られないが、木針で結合していたものではないかと思われる。16は釘結合曲物の底板である。結合木針は2か所確認できる。

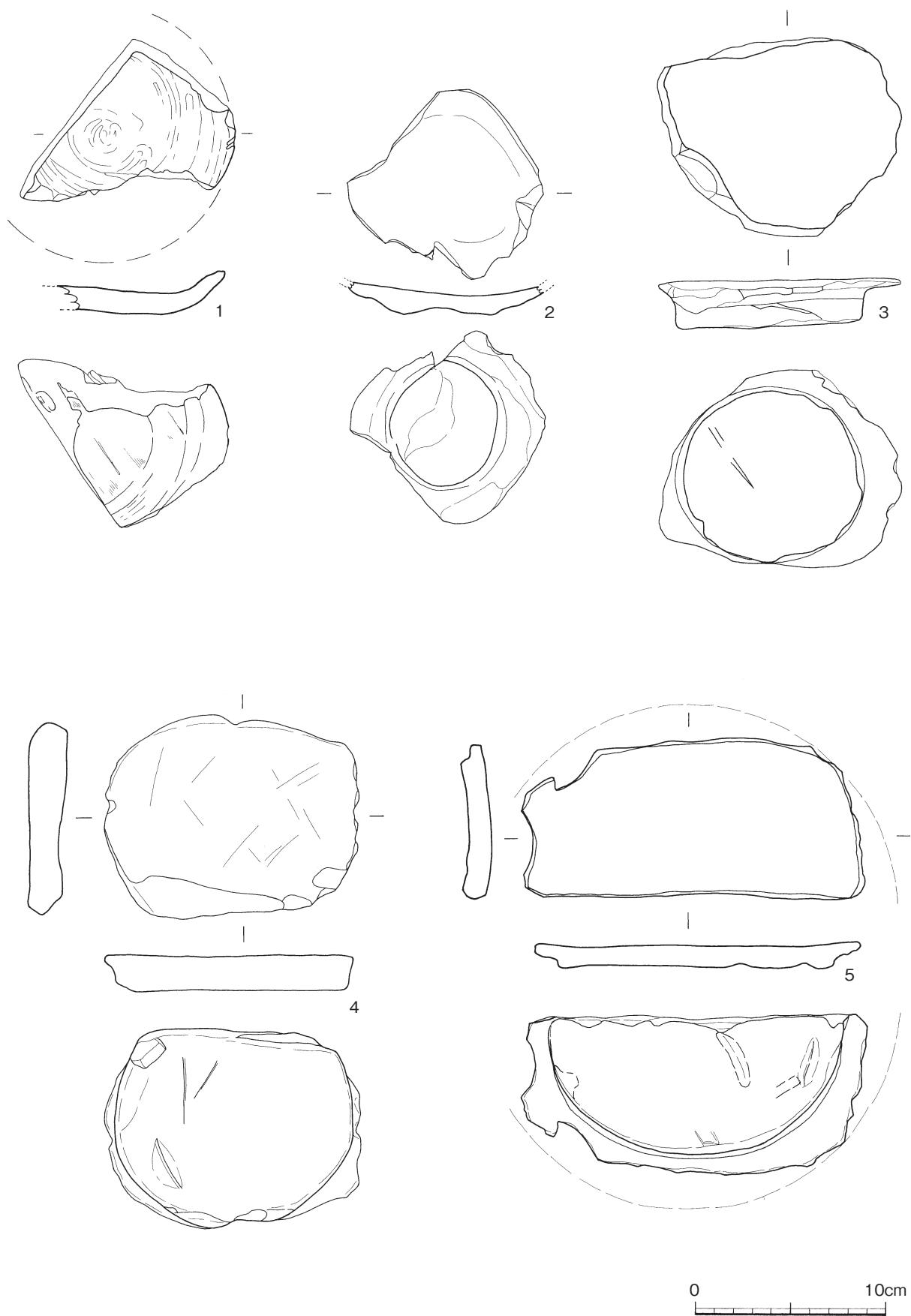
杓子形木製品・まな板（第107図）

17は、側面から見ると柄と身が一直線をなす。柄の長さは10.8cm、身の長さは9cmである。周縁は丸く仕上げている。この遺物はG調査区郷土年寄屋敷の排水溝出土である。18の欠損部分には柄がつくと思われる。17と同様、周縁部は丸く仕上げている。

19は、元は建築部材であると思われるが、表裏に刃物のようなものでつけた傷が多数あることから、まな板として転用されていたものと思われる。板は柾目取りである。炭化した部分や、熱いものを乗せたような、焦げて窪んだ部分もある。

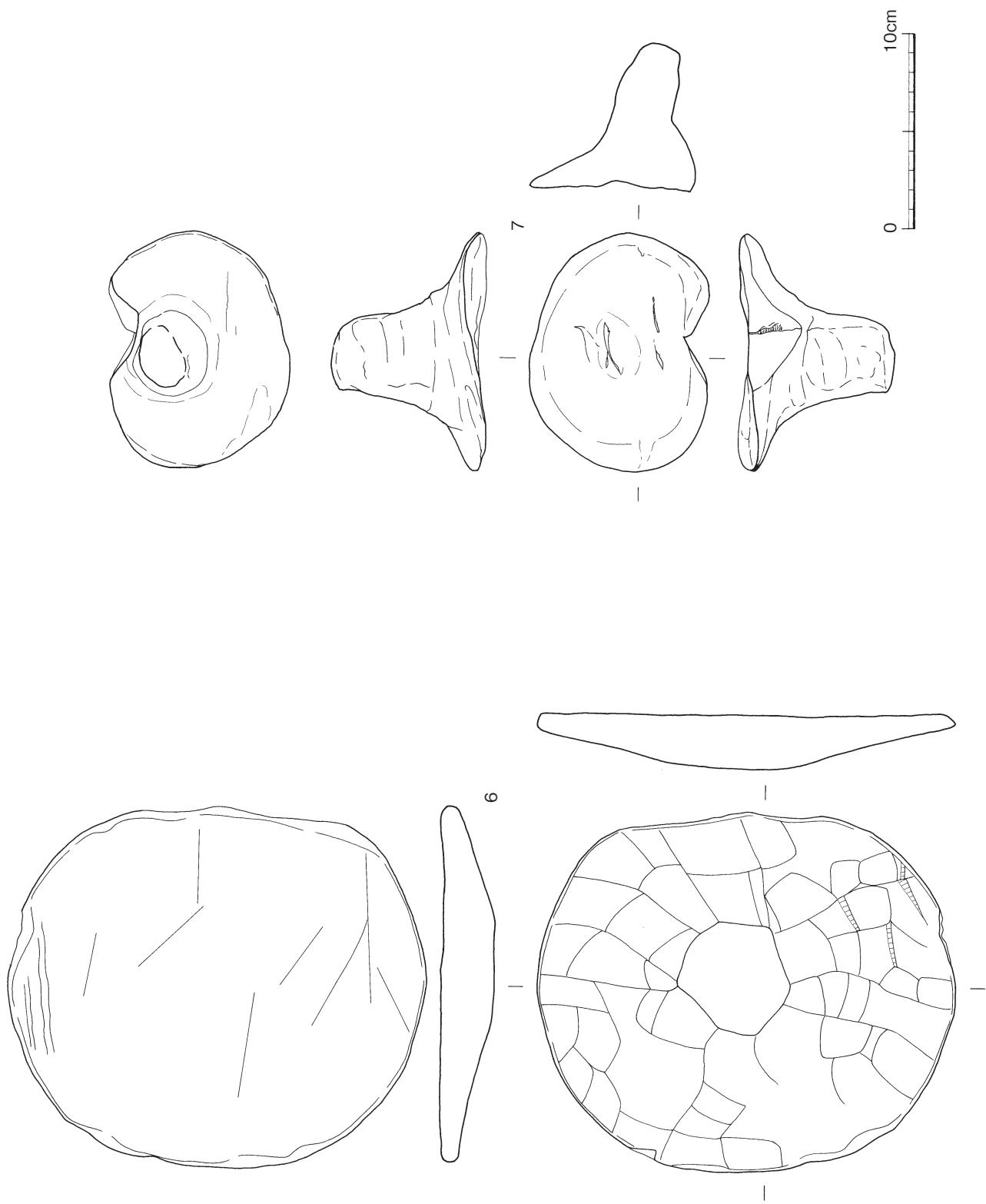
部材（第108図）

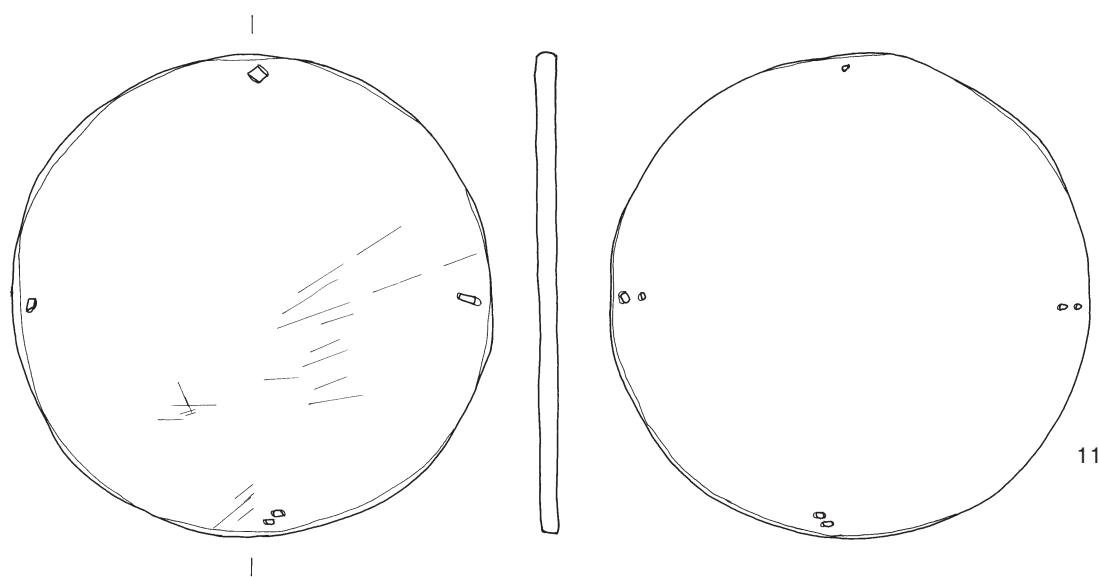
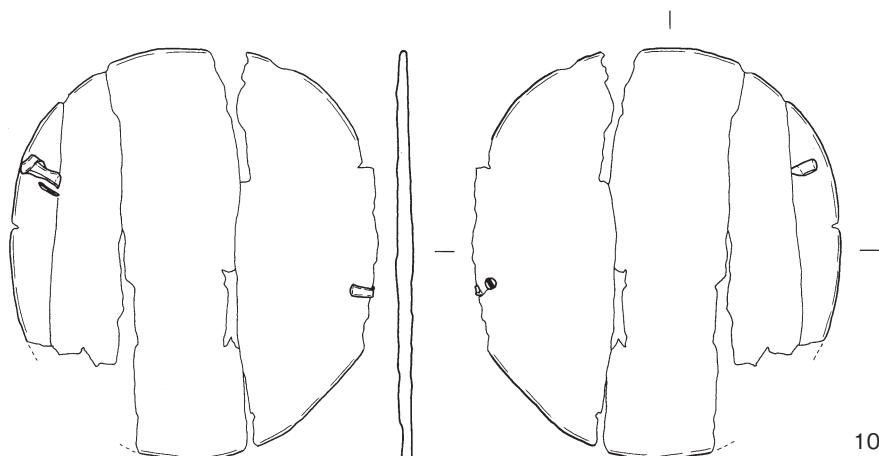
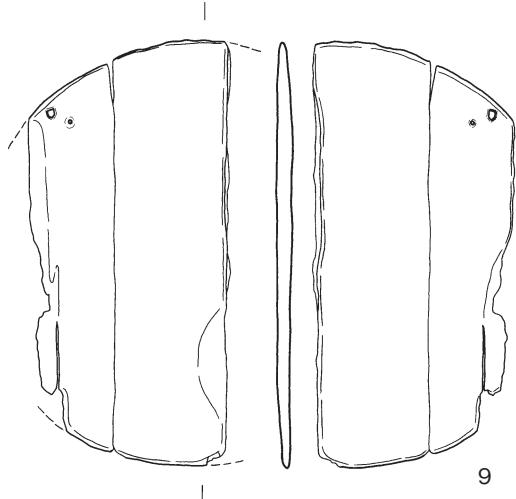
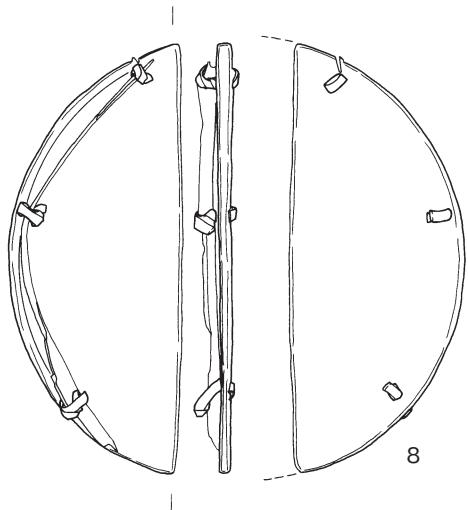
20～24は、建築部材または製品の部材であると思われる。20は全長34.2cmの板材で、3か所孔が



第103図 木製品 1

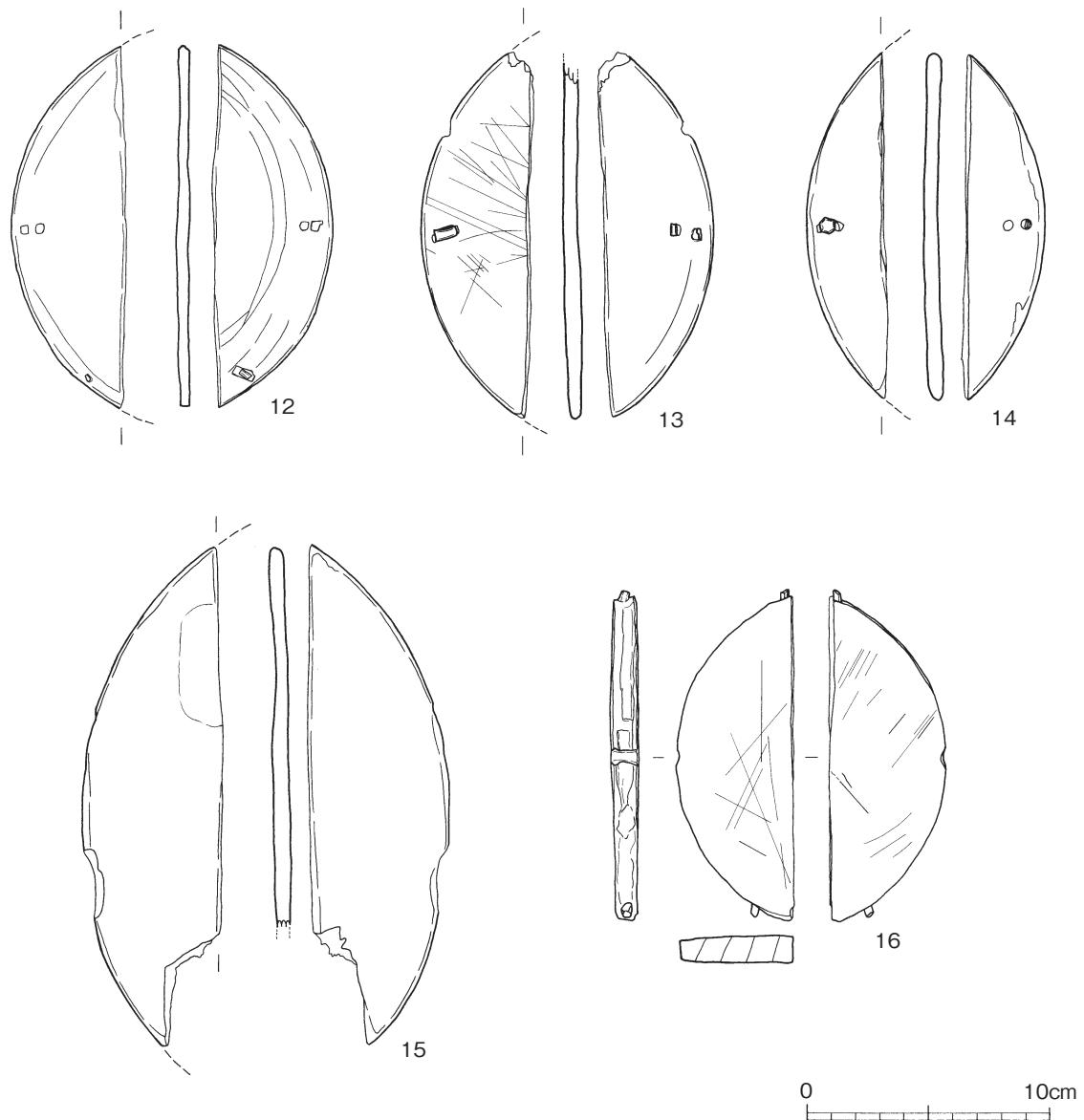
第104図 木製品2





0 10cm

第105図 木製品3

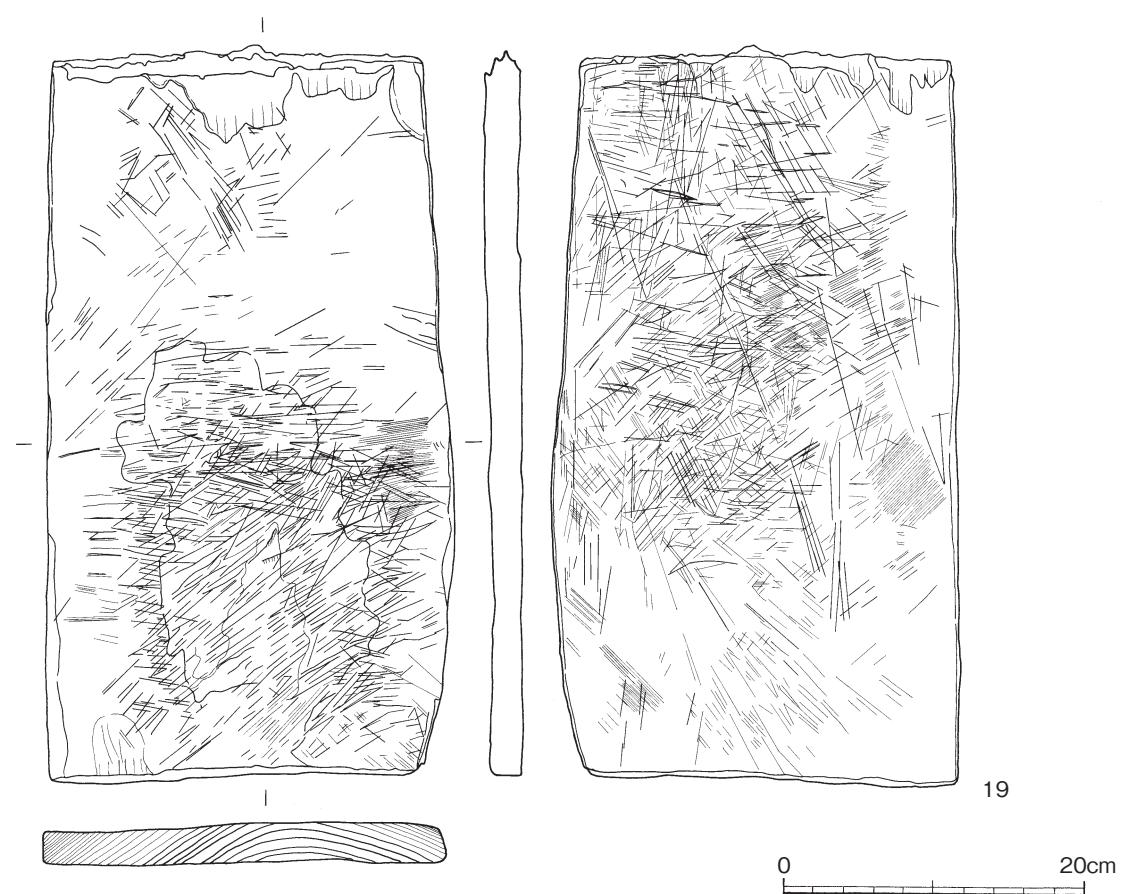
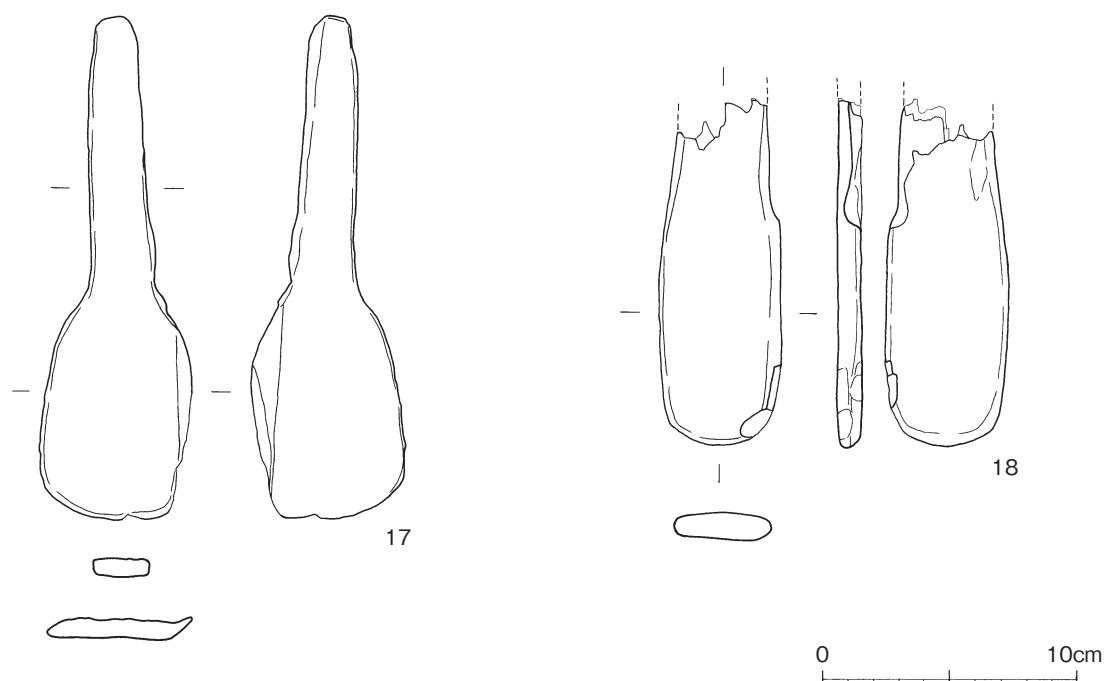


第106図 木製品4

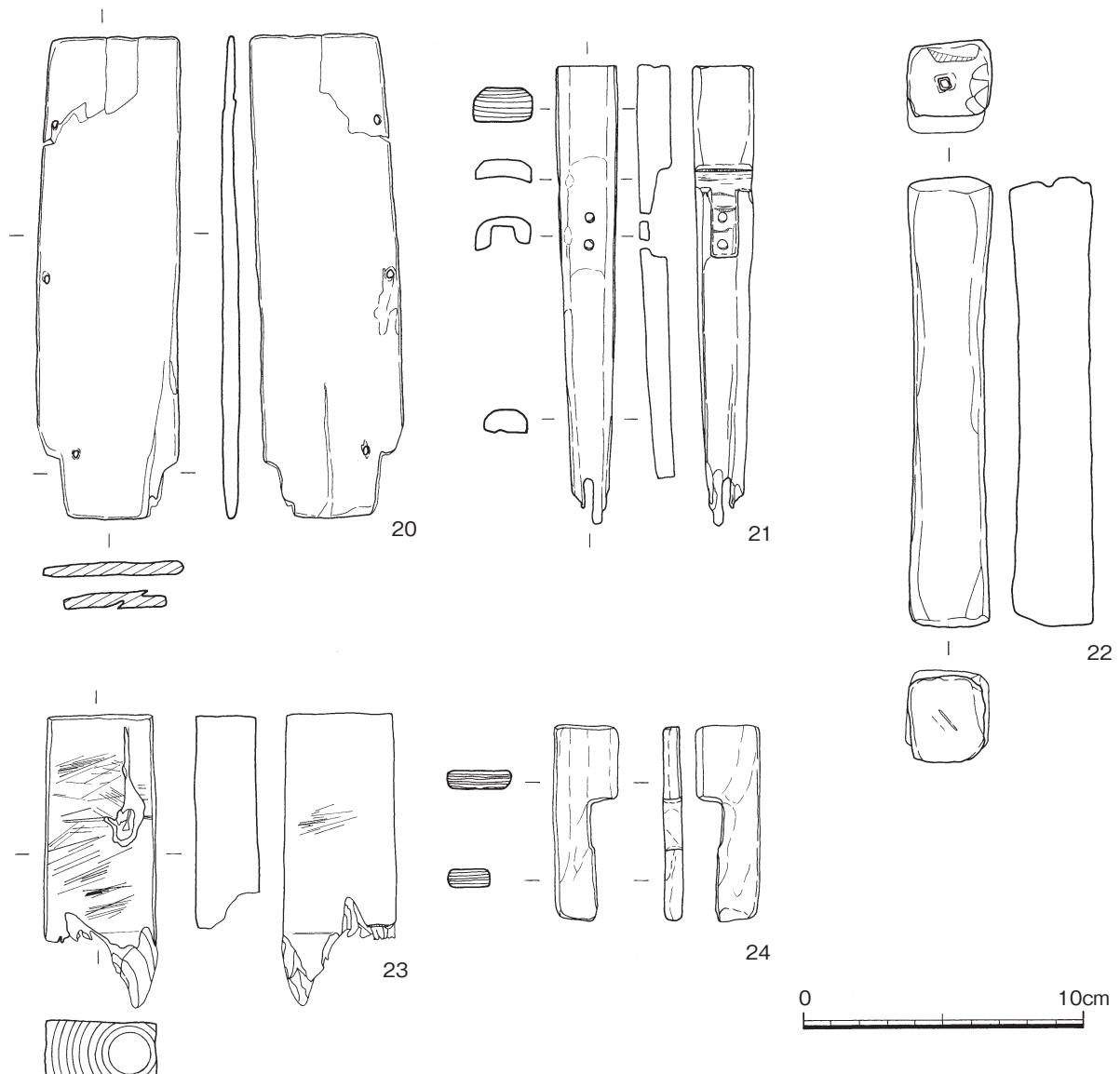
穿たれている。21は、断面六角形の建築部材である。表面は丁寧に磨いてある。中心部に2つの孔を穿っている。欠損部にも細長い孔、もしくは切り込みがあったと思われる。中心の孔の裏側にはT字形の柄があることから、他の部品と組み合わせて使用していたと考えられる。22は、角材である。上面には 1×1 cm、深さ4 mmの四角形の凹みがある。23は芯材を使用している。両面に刃物傷があり、まな板として転用されていた可能性がある。24は、柾目取りした長さ13.8 cmの板の中央に長方形の孔をあけたものである。幅、孔の大きさは欠損しているため不明である。

きのおもし
木錘 (第109図)

25~28は、藁や竹・葦・麻の製品を編む時に使用する縦糸を巻く農具である。輪切りにした芯持材の両端近くから側面中央に向けて斜めに削り込み、側面から見て鼓形に仕上げている。これらの木錘は、中央部の細くなった部分に縦糸を巻いていたと考えられるが、擦痕など糸を巻いていた形



第107図 木製品 5



第108図 木製品6

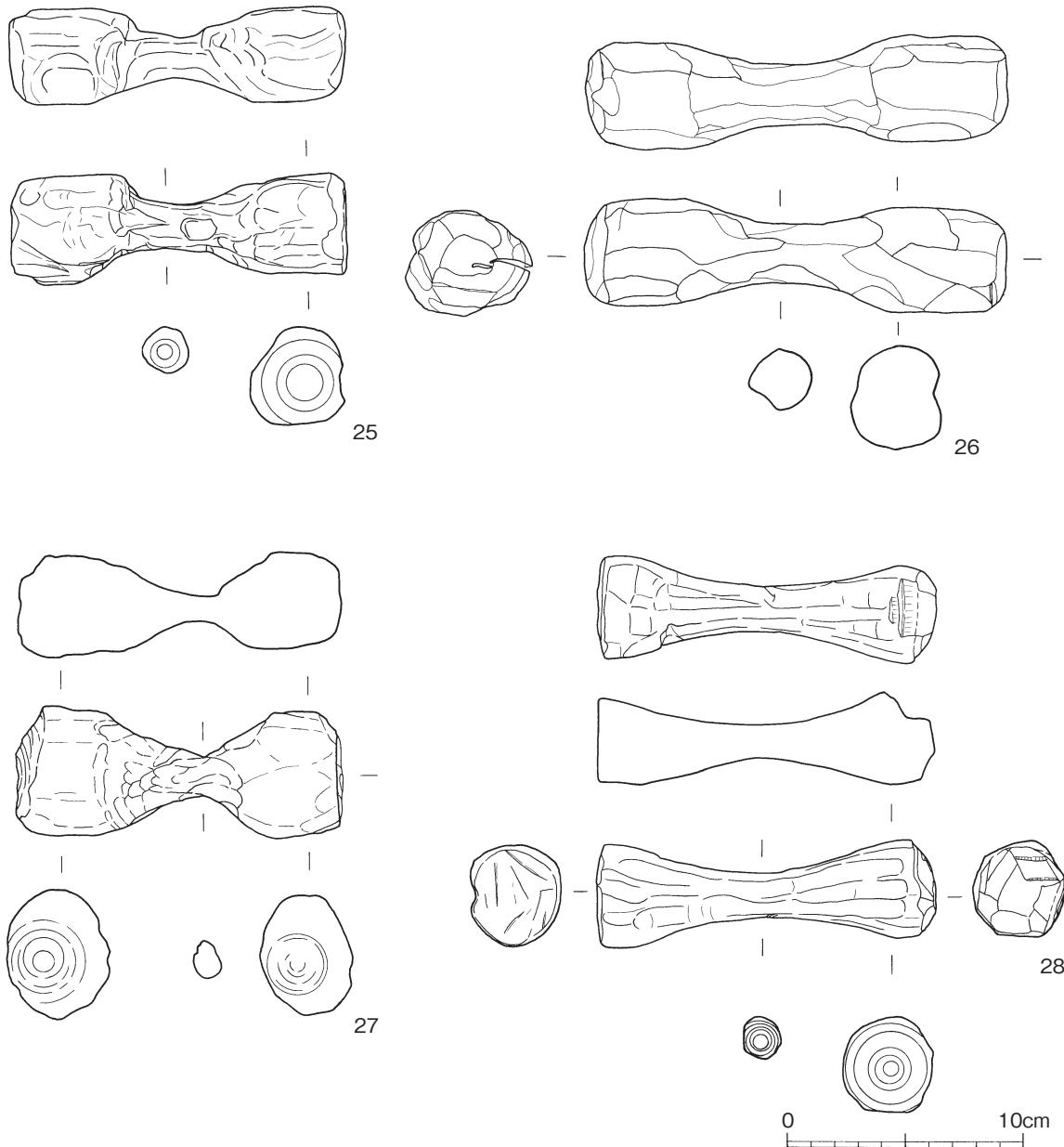
跡がはっきりと残っているものはなかった。28は、他に比べてやや細身で幅7~10mmの工具痕がはっきりと残っている。片方の端部は平坦面に工具痕が残るだけであるが、もう片方は面をとって丸く仕上げようとしている。

横槌（第110図）

29~31は、芯持丸太材を用いた横槌である。29は、身を細く削って柄をつくり、柄の先端は滑り止めのように少し太くしている。身の側面には使用痕は看取できない。30は、柄の部分はほとんど残存しておらず、身の部分も半分は腐食している。残っている身の部分は非常に滑らかである。31は、横槌の一種であると思われるが、29・30に比べて身が小さく柄が細い。

下駄（第111図）

32・33は板目取りの木材を使用した隅丸長方形の連歯下駄である。32の長さは15.6cm。前壺を台

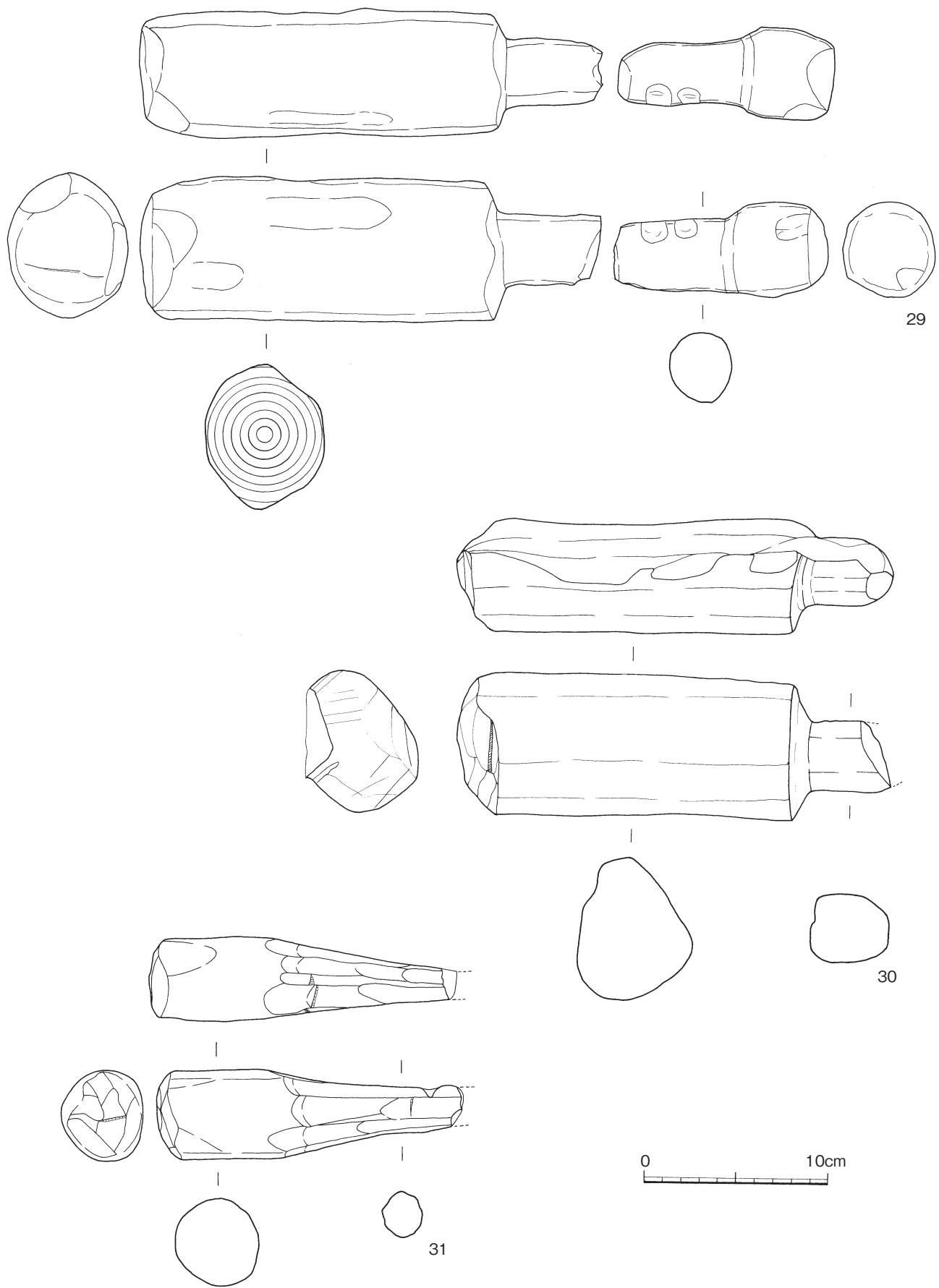


第109図 木製品7

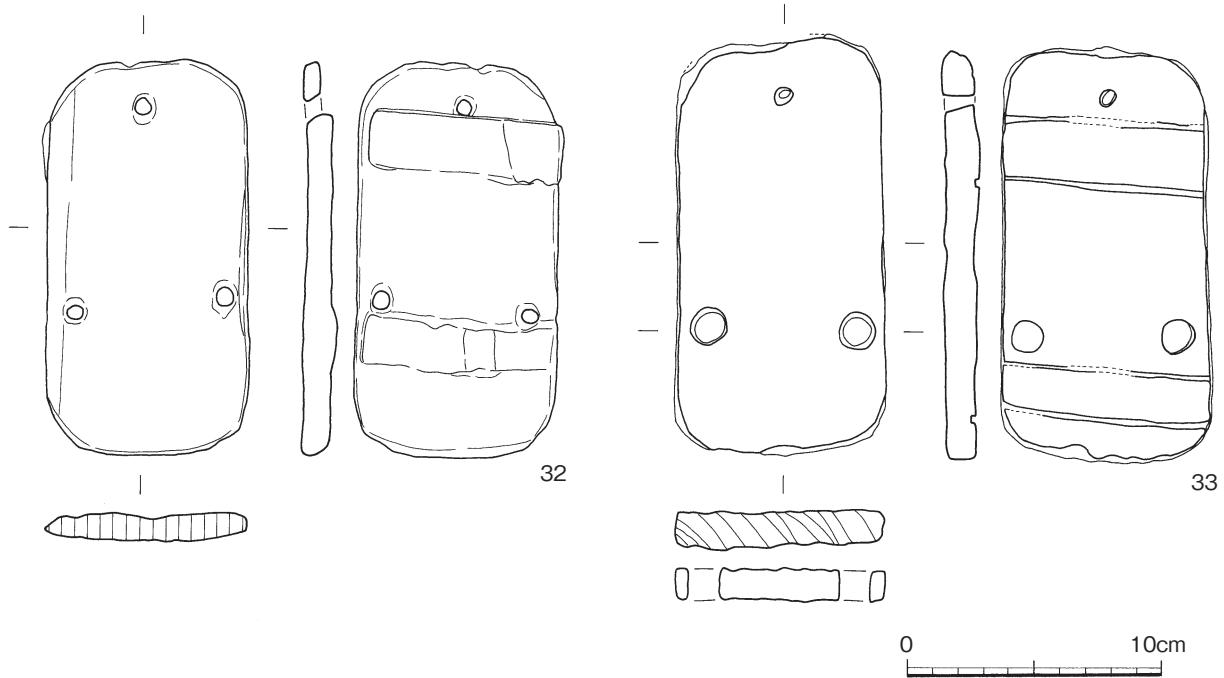
の中央にあけ、後壺を歯の内側にあけている。歯の断面は台形で、歯の下幅辺は台の幅よりも広い。33の長さは16.4cm。鼻緒孔の位置は32と同様であるが、歯は台の幅と同じであったと思われる。歯はほとんど残存していないが、歯を掘り出した溝がある。

その他・用途不明品（第112図）

34・35は、付札状木製品とした。その形状から札として使用された可能性があるが、墨書などが看取できないため実際の用途は不明である。34は、厚さ2.5mmほどの板状の木製品で、先端を細く仕上げている。35は、長方形の板の一部に切り込みを入れている。36は、板目取りの製品である。一部に切り込みを入れてくびれ部をつくっている。また周縁は丸く仕上げている。37は用途不明品



第110図 木製品8

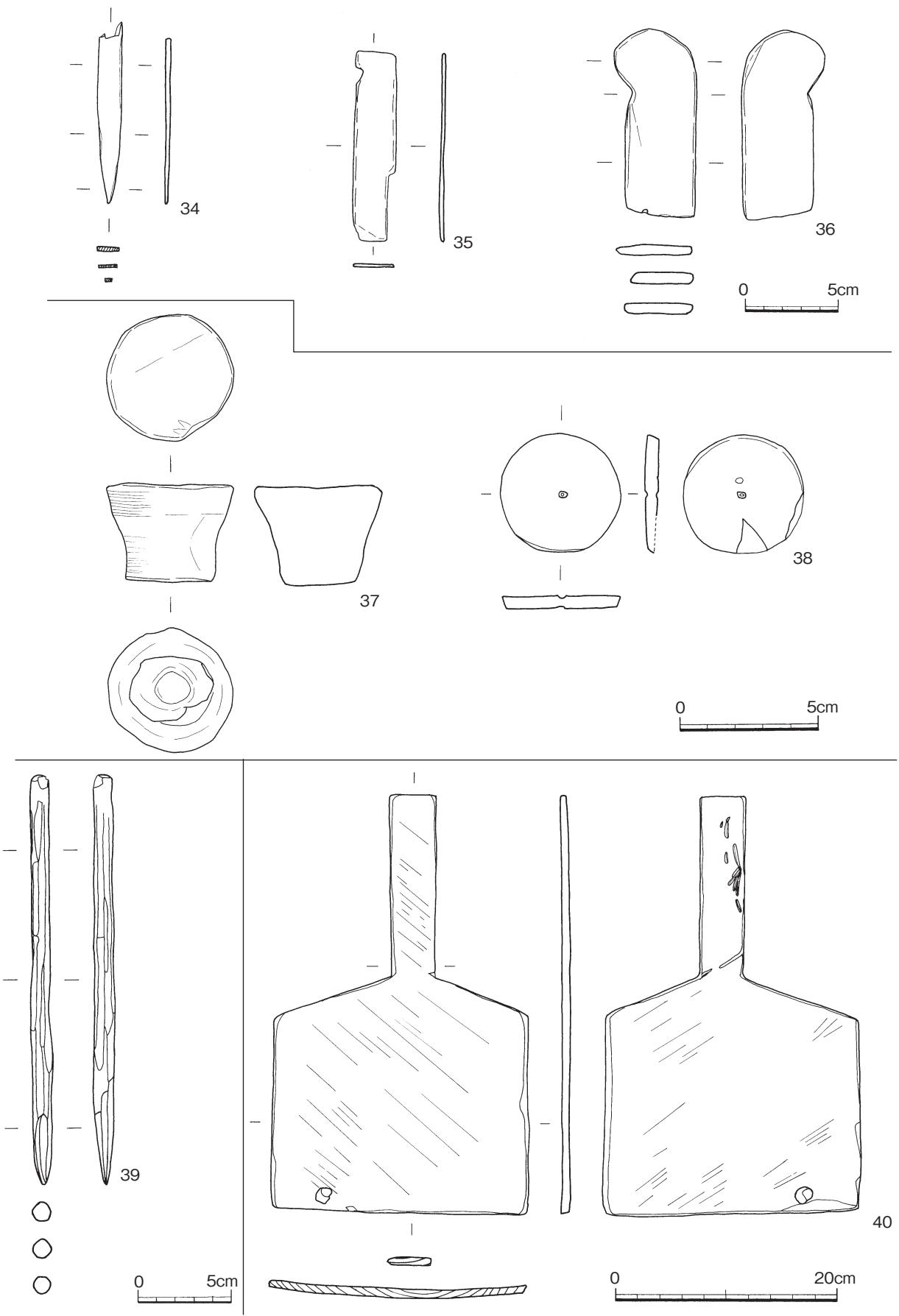


第111図 木製品9

である。何らかの栓の役割をしていた可能性もある。側面、底部とも丁寧に磨かれたようなつくりをしており、上面には円形の溝がある。38は、紡錘車の未製品であると思われる。中心の孔は貫通していない。39は全面を削って、細く丸く仕上げており、先端は細く、鋭い。木針、留針、箸などの可能性が考えられる。40は、板目取り材を鋭い刃物で切り出している。表面には、斜め方向に成形を行った跡が看取できる。1か所ある孔は、孔に沿って木目がゆがんでいることから意図的なものではないと判断した。

低地部木製品観察表

挿図番号	掲載番号	取り上げ番号	出土区	層	種別	器種	法量(cm)			樹種	備考
							最大長	最大幅	最大厚		
第103図	1	5814	R-18	III	挽物	皿	—	—	1.5		
	2	—	—	—	挽物	高台付皿	—	—	1.5		
	3	6006	R-19	IV	挽物	高台付皿	—	—	2.6	クスノキ	
	4	6595	R-19	V	挽物	高台付皿	—	—	2.0		
	5	4265	S-19	V	挽物	高台付皿	—	—	1.4		
第104図	6	6588	R-19	V	挽物未製品	皿	21.5	18.4	2.8		
	7	—	1T	砂礫直上	挽物	こま状木製品	7.5	12.3	12.3		
第105図	8	4860	—	V	曲物	蓋	17.0	—	0.7		
	9	6607	Q-19	V	曲物	底板	16.8	—	0.6		
	10	6602	Q-19	V	曲物	底板	16.2	—	0.6		
	11	6583	R-19	V	曲物	底板	16.1	—	0.9	カヤ	
第106図	12	6589	R-19	V	曲物	底板	—	—	0.6		
	13	4310	T-19	V	曲物	底板	—	—	0.9	カヤ	
	14	4300	—	III	曲物	底板	—	—	0.7		
	15	5981	R-19	IV	曲物	底板	—	—	0.6		
	16	6597	R-19	V	曲物	底板	—	—	1.2	カヤ	
	17	—	—	—	食膳具	杓文字	19.8	6.0	0.9	G調査区出土	
第107図	18	4161	—	IV層直上	食膳具	杓子形木器	—	4.8	0.9		
	19	6599	Q-19	—	食膳具	まな板？建築材？	48.1	27.0	3.0		
第108図	20	4267	—	IV層直上	部材	不明	34.2	10.1	1.3		
	21	6605	Q-19	V	部材	不明	32.7	4.4	2.5		
	22	—	2T	砂層直上	部材	不明	32.0	6.0	6.5	ヤブツバキ 広葉樹	
	23	—	—	—	部材	不明	—	8.0	4.6		
第109図	24	704	1T	—	部材	不明	13.6	4.6	1.6		
	25	6176	R-17	IV	農具	木鍤	14.3	4.1	4.1		
	26	5962	Q-19	IV	農具	木鍤	18.0	4.8	3.9	クスノキ科	
	27	5802	R-18	IV	農具	木鍤	13.9	5.7	4.5		
	28	5990	R-19	IV	農具	木鍤	14.3	4.5	3.9		
第110図	29	—	—	—	農具	横槌	—	7.8	6.6		
	30	6641	Q-19	V	農具	横槌	—	8.1	6.3	サカキ	
	31	4311	S-19	VI層直上	農具	横槌	—	4.9	4.8		
第111図	32	5923	Q-19	III	服飾具	下駄	15.6	8.0	1.3	センダン	
	33	—括	—	III	服飾具	下駄	16.4	8.2	1.2	スギ	
第112図	34	659	Q-19	V	その他	付札状木製品	—	1.4	0.3		
	35	6002	R-19	IV	その他	付札状木製品	10.2	2.4	0.2		
	36	—	—	—	その他	不明	—	4.5	0.6		
	37	—	—	—	その他	栓	5.4	7.8	7.8		
	38	5805	R-18	III	その他	紡錘車	4.3	4.3	0.5		
	39	5929	Q-19	III	その他	不明	22.0	1.0	1.0	クスノキ	
	40	—括	—	III	その他	不明	37.5	13.8	0.6	スギ	



第112図 木製品10

3 中世の調査

(1) 遺構

中世の遺構については、R調査区のT-21～23区、S-23区で中世墓が13基検出された。墓壙内には残りが悪いが人骨も残存しているものもある。副葬品としては土師器、古銭等が出土している。また、同じR調査区から溝3条も検出されている。

中世墓（第113～119図 R調査区）

13基検出された。どの墓壙もⅢ層に掘り込まれており、埋土は褐灰色砂質土である。

なお、墓壙内の出土遺物については、土師器・白磁等を●、古銭を○、釘を▲で表した。

1号墓（第114図）

T-21区で検出された。上面は削平を受けており、実際はまだ深かったと思われる。平面についても、一部はトレーナーによって削平を受けている。遺物等は出土していない。

墓壙の年代は不明である。

2号墓（第114図）

T-21区で検出された。上部がかなり削平されており、深さが8cmしか残存していない。平面もトレーナーにより削平を受けている。

墓壙内からは、古銭・土師器の一部・釘が出
土した。

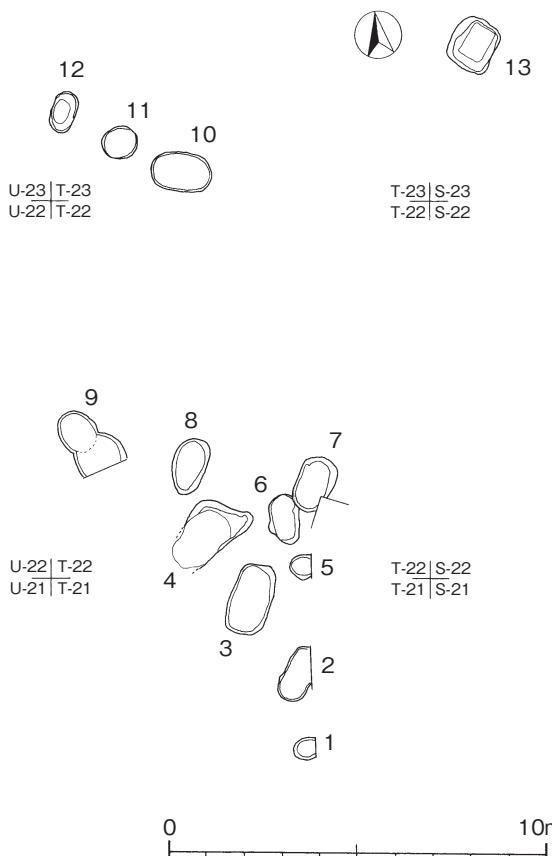
1は古銭である。洪武通宝（1368年～）である。

古銭の鋳造年代から、14世紀後半以降につく
られた墓壙と思われる。

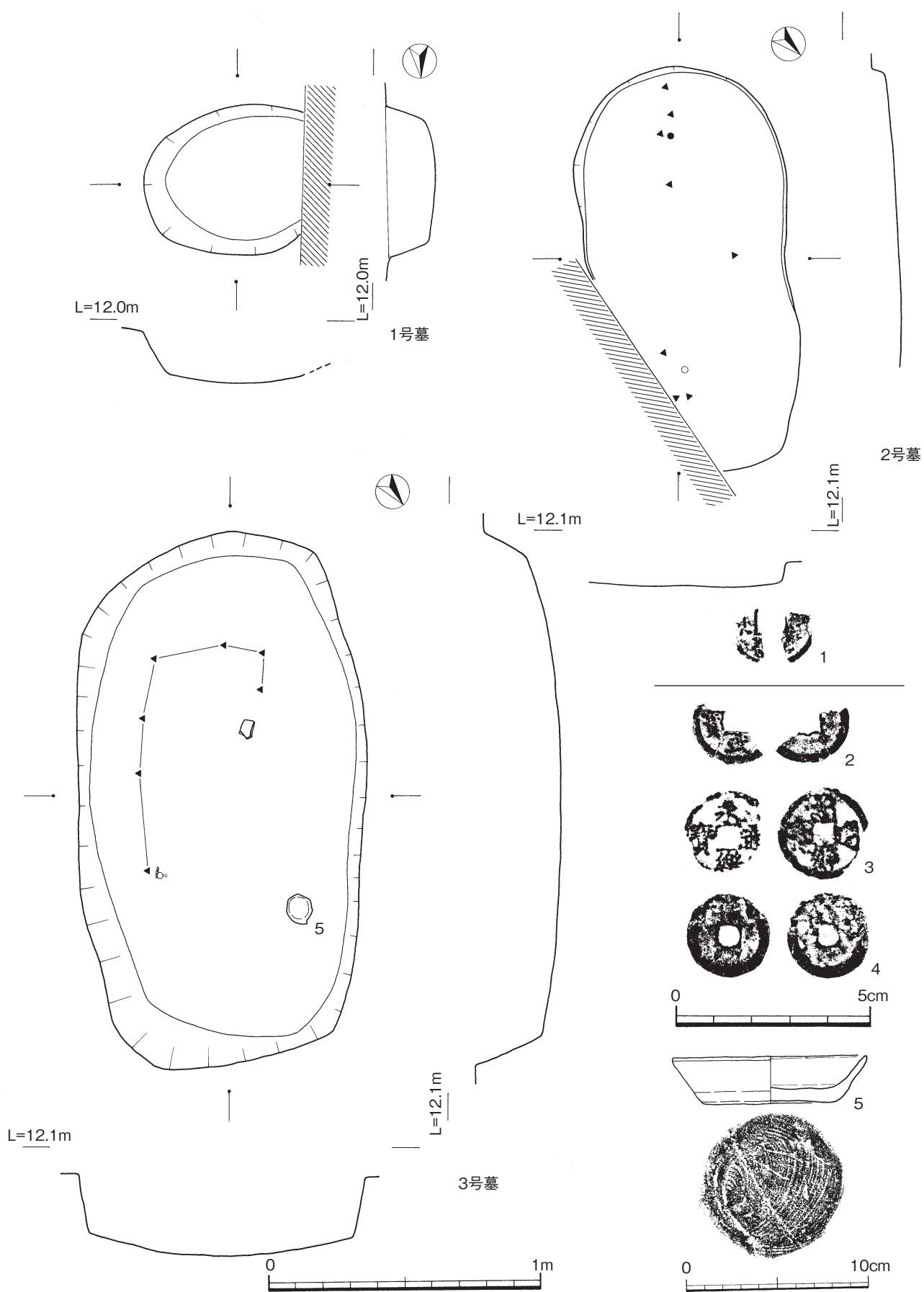
3号墓（第114図）

T-21区で検出された。墓壙内から土師器の
小皿2点と古銭・釘が出土した。釘が確認され
る位置に、棺があったと想定される。

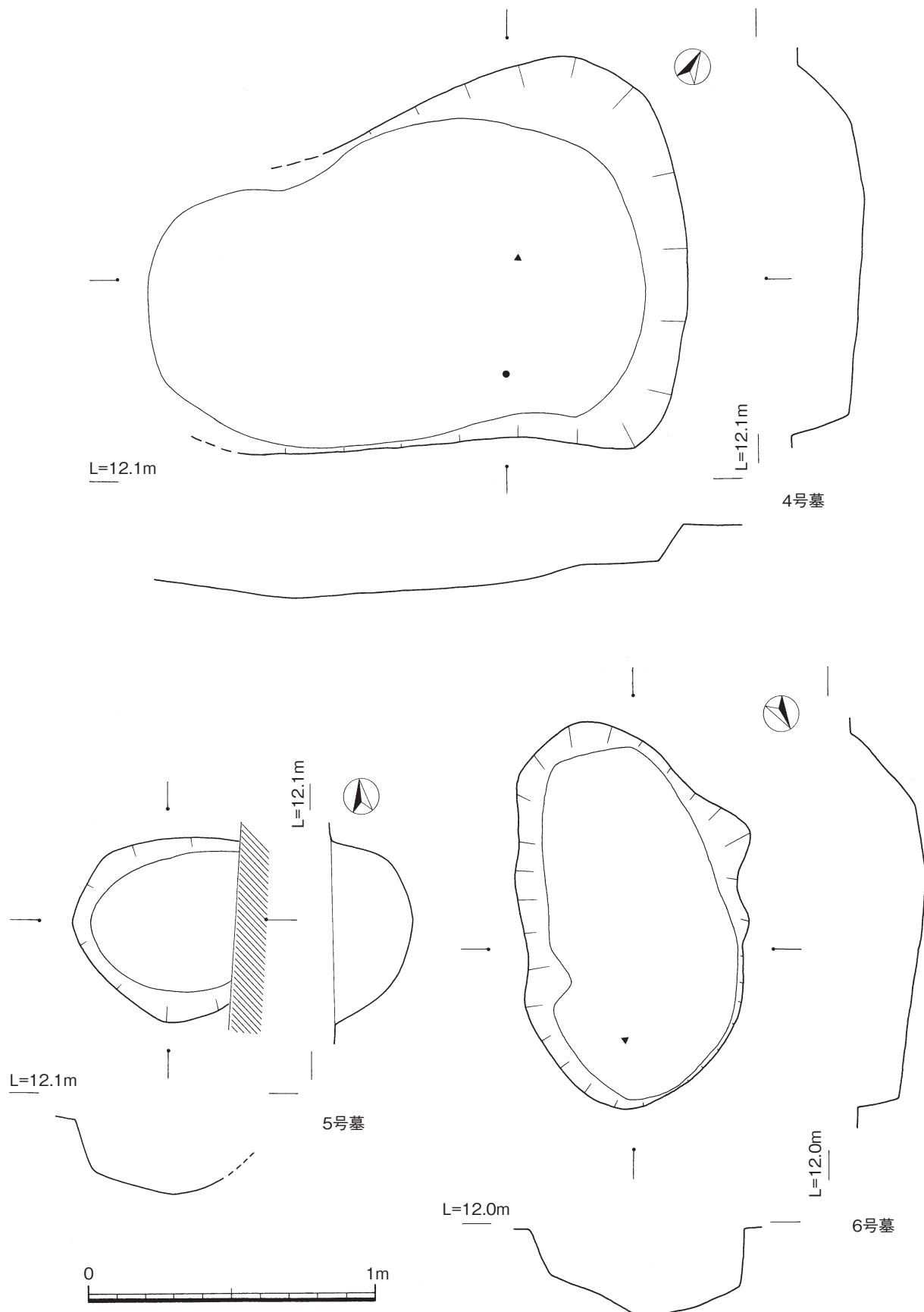
2～4は古銭である。古銭は最低でも6枚確
認できる。2は1枚で、3は2枚で、4は3枚



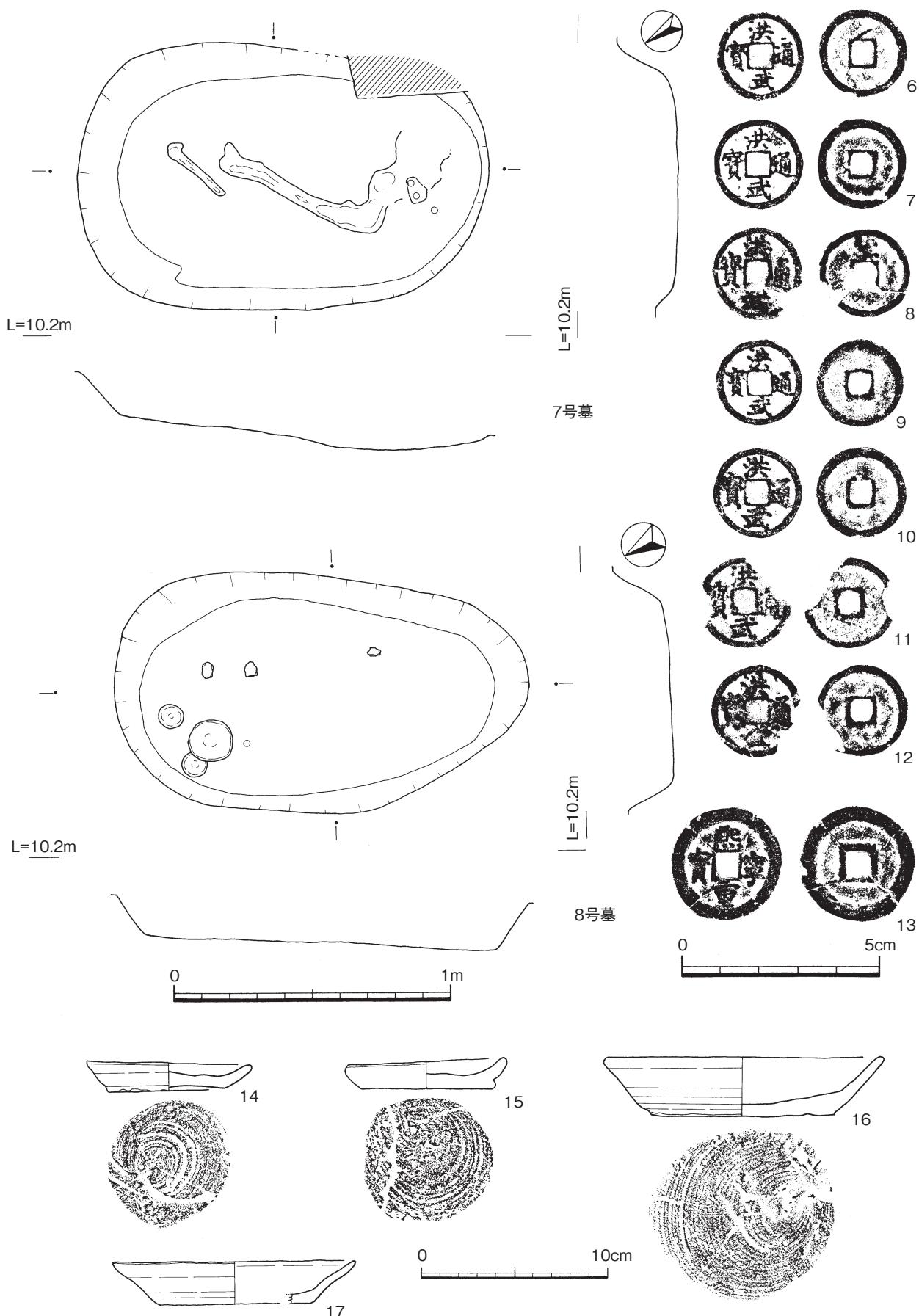
第113図 中世墓配置図



第114図 中世墓1～3及び出土遺物



第115図 中世墓 4～6



第116図 中世墓7・8及び出土遺物

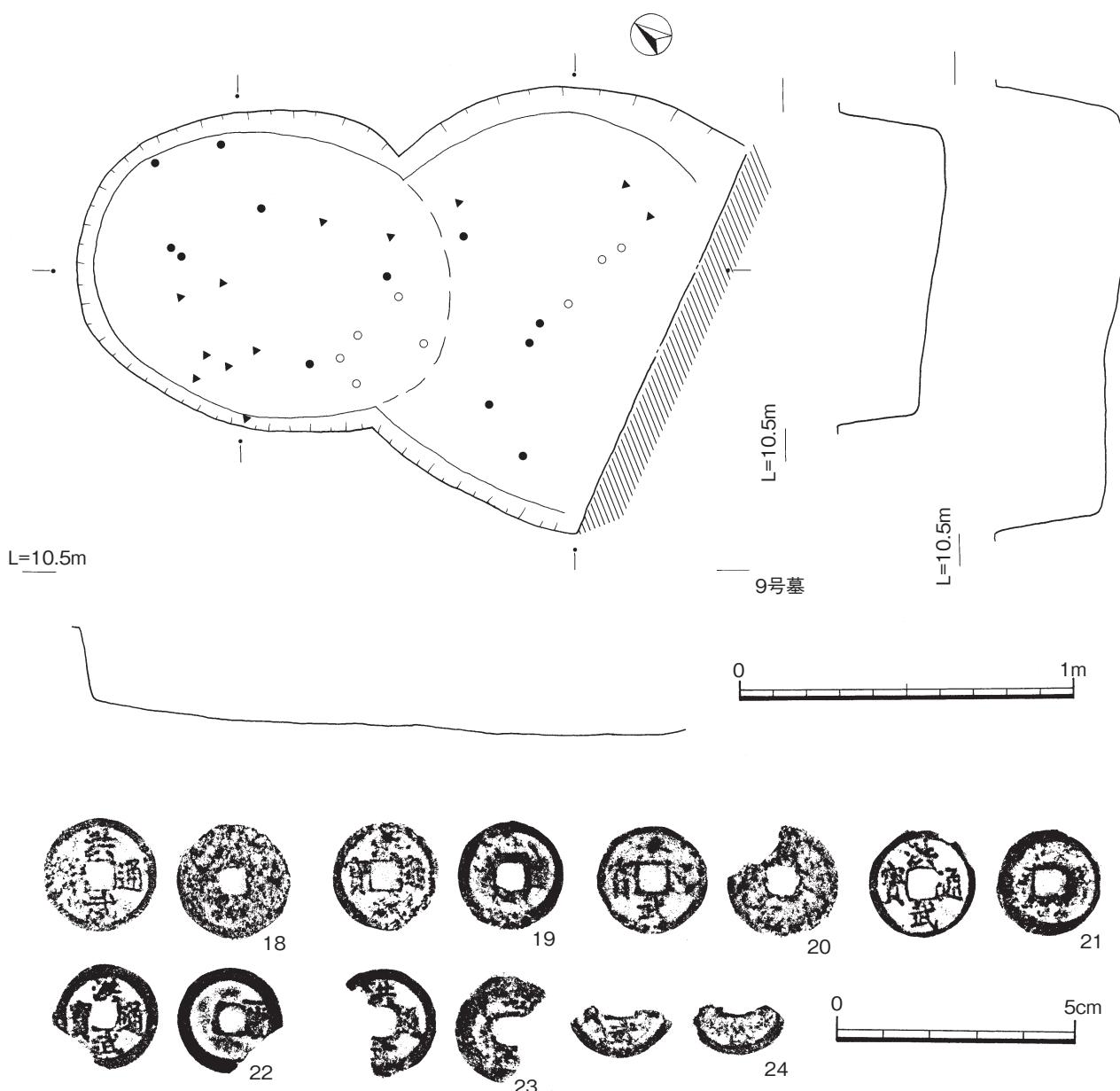
が重なっている。3・4は古銭に密接して布状の依存体が確認できるが、詳細は不明である。3は永樂通宝（1408年～）である。5は土師器の壊である。口径10.6cm、器高2.6cmで、底部は糸切りである。体部と底部の境にナデを施し、内面には指頭ナデは見られない。

古銭の鋳造年代と土師器の形状から、15～16世紀代につくられた墓壙と思われる。

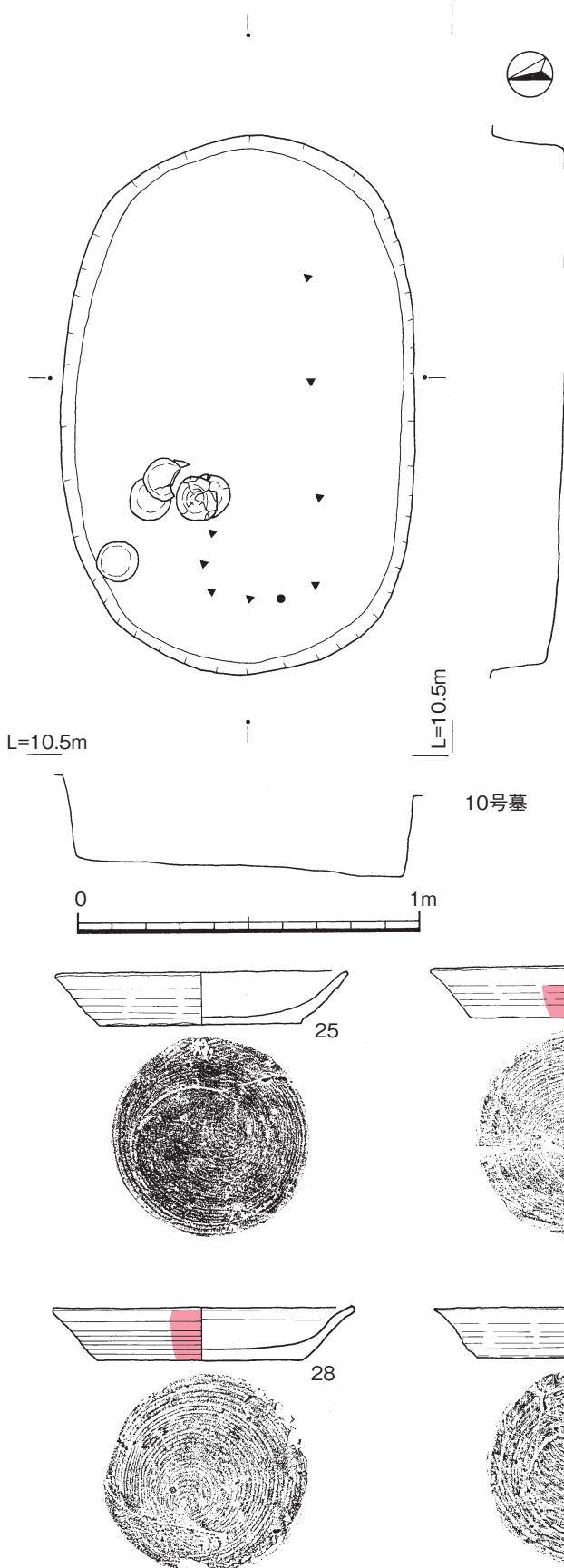
4号墓（第115図）

T-22区で検出された。墓壙西側は削平を受けている。墓壙内からは白磁小片と釘が出土したが、小片のため図化できなかった。

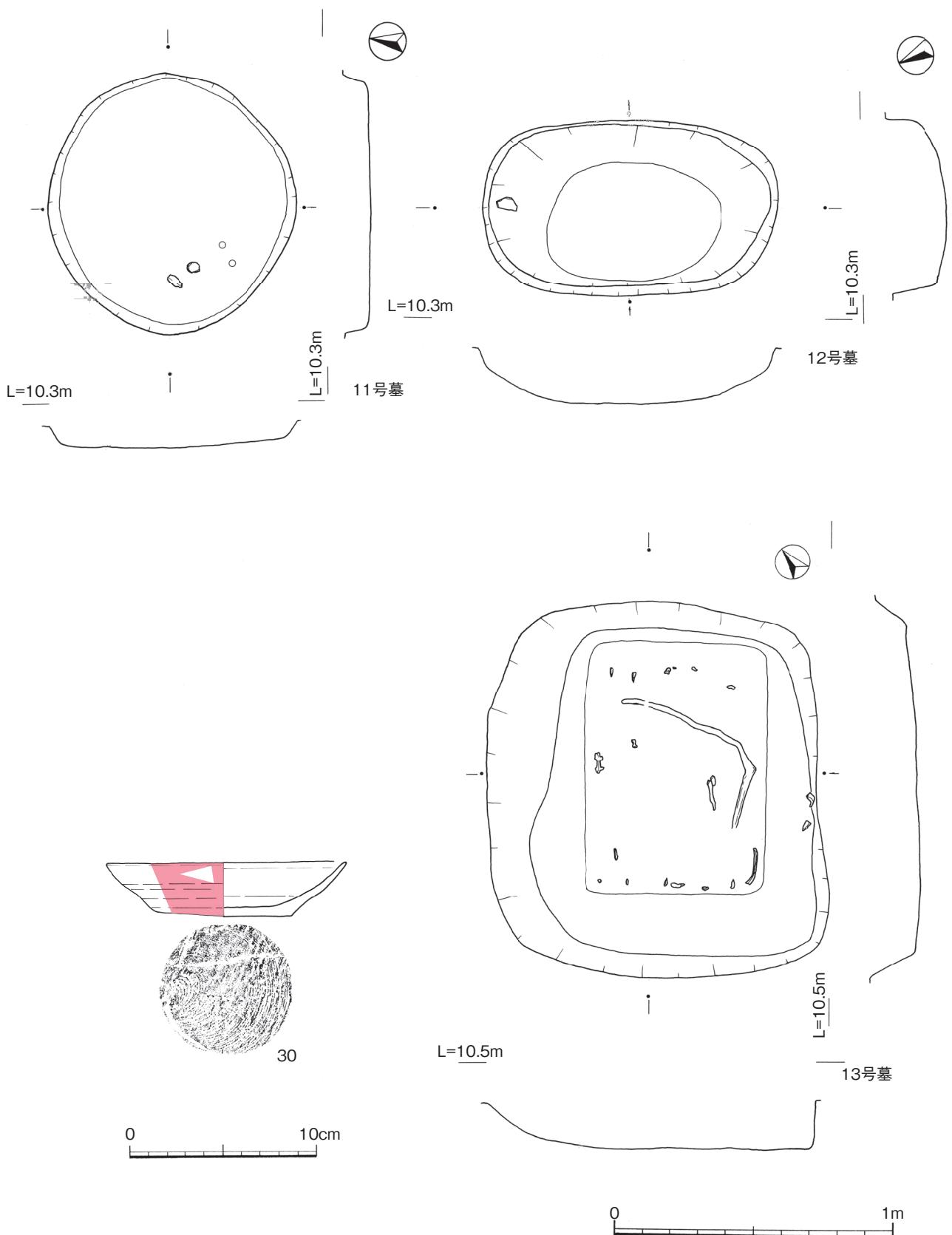
墓壙の年代は不明である。



第117図 中世墓9及び出土遺物



第118図 中世墓10及び出土遺物



第119図 中世墓11~13及び出土遺物

6～12は古銭で、すべて洪武通宝（1368年～）である。通常6枚の古銭が出土することが多いが、7枚出土している。6号墓と切り合っていることから、6号墓のものが混じった可能性も考えられる。

墓壙の年代は、14世紀後半以降のものと思われる。

8号墓（第116図）

T-22区で検出された。土師器5点と古銭が出土し、土師器4点と古銭を図化した。

13は古銭で、熙寧重宝（1071年～）である。14・15は土師器の小皿である。内面は中心がやや盛り上がる。16・17は壺である。16は体部は直線的に立ち上がり、口縁部もまっすぐに開くが、17は口縁部がやや外反する。17については14～16と時期差があると考えられ、混入の可能性も考えられる。

墓壙の年代は、古銭の鋳造年代と土師器の形状から、12世紀後半～13世紀代と思われる。

9号墓（第117図）

T-22区で検出された。墓壙の一部は削平を受けている。形状と古銭の出土状況から2基の墓壙が切り合っている可能性が考えられる。墓壙内からは、釘・土師器・白磁・古銭が出土しているが小片のため、古銭以外は図化できなかった。

18～24は古銭で、洪武通宝（1368年～）である。

墓壙は14世紀後半以降のものと思われる。

10号墓（第118図）

T-23区で検出された。墓壙内からは釘・土師器の壺5点が出土した。

25～29は土師器の壺である。口径約12.4～13.2cm、器高2.1～2.3cm程度のもので、内面に指頭ナデが見られる。26と28は外面底部から口縁部の一部に朱が残存している。

土師器の形状から、15世紀後半～16世紀代と思われる。

11号墓（第119図）

T-23区で検出された。円形のプランである。墓壙内からは土師器片と古銭が出土した。

墓壙の年代は、14世紀後半以降になると思われる。

12号墓（第119図）

T-23区で検出された。墓壙内から土師器が出土した。

30は土師器の壺である。口径13cm、器高2.9cmで、口縁部はわずかに外反し、内面には指頭ナデが見られる。また、外面底部から口縁部の一部には朱が塗布されていたものと思われる。時期は土師器の形状から、12世紀中頃～13世紀代と考えられる。

13号墓（第119図）

S-23区で検出された。墓壙内から人骨が検出されていて、長方形の桶痕が明瞭に残る。この13号墓のみ平面プランが隅丸方形である。

墓壙の年代は不明である。

中世墓出土遺物観察表

挿図番号	掲載番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			焼成	調整		備考
									口径	底径	器高		外面	内面	
第114図	5	T-21	-	3号墓	土師器	壺	口縁～底部	(外) 浅黄橙色 (内) 橙色	10.6	6.9	2.6	良	ナデ ²	ナデ ²	底部 糸切り
第116図	14	T-22	1	8号墓	土師器	小皿	完形	(外) 橙色 (内) にぶい橙色	9.0	6.2	1.7	良	ナデ ²	ナデ ²	底部 糸切り 中世前半12C～13C
	15	T-22	3	8号墓	土師器	小皿	ほぼ完形	浅黄橙色	8.4	7.0	1.7	良	ナデ ²	ナデ ²	底部 糸切り 中世前半12C～13C
第118図	16	T-22	2	8号墓	土師器	壺	完形	浅黄橙色	15.2	10.0	3.3	良	ナデ ²	ナデ ²	底部 糸切り 小石粒含む 中世前半12C～13C
	17	T-22	6	8号墓	土師器	壺	口縁～底部	淡黄色	13.4	8.2	2.3	良	ナデ ²	ナデ ²	底部 糸切り 小石粒含む
第119図	25	T-23	42	10号墓	土師器	壺	ほぼ完形	にぶい黄橙色	13.0	8.8	2.3	良	ナデ ²	指頭ナデ ²	底部 糸切り 小石粒含む 中世後半15C～16C頃
	26	T-23	44	10号墓	土師器	壺	ほぼ完形	にぶい黄橙色	12.4	9.1	2.3	良	ナデ ²	指頭ナデ ²	底部 糸切り 小石粒含む 中世後半15C～16C頃
第119図	27	T-23	43	10号墓	土師器	壺	ほぼ完形	にぶい黄橙色	12.7	8.7	2.2	良	ナデ ²	指頭ナデ ²	底部 糸切り 小石粒含む 中世後半15C～16C頃
	28	T-23	40	10号墓	土師器	壺	完形	にぶい黄橙色	13.2	6.2	2.3	良	ナデ ²	指頭ナデ ²	底部 糸切り 小石粒含む 中世後半15C～16C頃
第119図	29	T-23	41	10号墓	土師器	壺	完形	にぶい黄橙色	12.6	8.6	2.1	良	ナデ ²	指頭ナデ ²	底部 糸切り 小石粒含む 中世後半15C～16C頃
	30	S-23	1,2,3	12号墓	土師器	壺	ほぼ完形	浅黄橙色	13.0	7.2	2.9	良	ナデ ²	指頭ナデ ²	底部 糸切り 小石粒含む 中世後半15C～16C頃

溝状遺構（第120図）

R調査区において、溝3条が検出された。溝1と溝2はほぼ平行に走っており、溝3は溝に垂直に交わるように走っている。3条ともアカホヤ火山灰であるⅢb層上面で検出されており、実際はⅢa層から堀り込まれていたと考えられる。そのため溝の幅や深さについては、まだ大きくなるものと思われる。

溝1（第120図）

R-U-23・24区で検出された。長さ約31.5m、幅約50~60cm、深さ約15~30cmを計る。溝内からは、古代の土師器9点、黒色土器A類3点、須恵器5点、白磁1点、青磁1点の19点の遺物が出土しているが、小片のため図化できなかった。

溝2（第120図）

R-23・24、S-T-U-24区、Ⅲb層で検出された。長さ約18m、幅約20~40cm、深さ約10~20cmを計る。溝内からは土師器1点と白磁が出土している。

1は土師器の甕の口縁部である。内面はヘラケズリが斜めに深く施されるため、口縁部下位に強い稜ができる。2は白磁の椀である。口縁部は玉縁状を呈する。

溝3（第120図）

U-24区で検出された。長さ約4m、幅約50cm、深さ約10cmを計り、非常に浅い溝であるが、検出面がⅢb層であったため、実際はまだ深かったものと思われる。溝内出土遺物はないが、溝1にほぼ垂直に交わるようにつながっており、溝1と同時期のものと考えられる。

大中公供養塔（第121図）

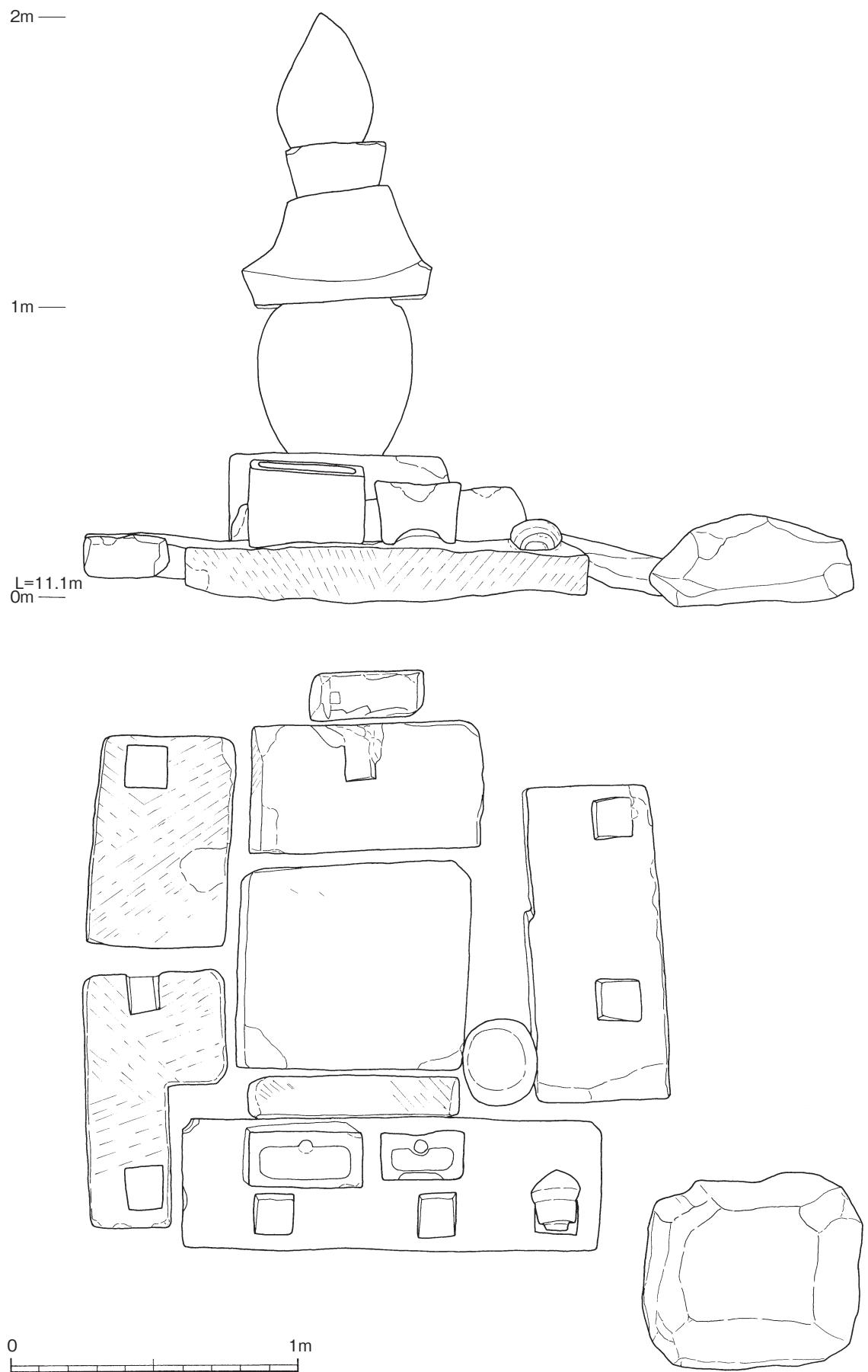
S-T-23区に建てられていた。地面からの高さは約2mを計る。供養塔には銘文が刻まれており、写真によって掲載した。供養塔の脇にある旧串木野市の文化財説明看板版によると「島津家久が元亀元年（1570年）、串木野と隈之城の地頭を兼務したとき、その翌年6月22日、父貴久の御靈をここへ迎えて廟をつくったものである。また、良福寺に御靈を迎え、法要を怠らなかった。藩政時代良福寺は串木野郷の菩提寺として自社方修甫の格式高い寺であった。」と書かれている。貴久の廟はもともと日置田（へった）に建立されたという伝承があり、現在の地へ供養塔が移転されたと思われる。また、大中公供養塔の管理者原口斎吉氏の御子息の話によると、供養塔自体は本来数基あり、うち1基のみが復元建立されて再安置されているという。この話を裏付けるように供養塔の石垣には塔の一部と思われる丸石が確認されている。

（2）遺物

中世土師器の皿・壺、白磁、青磁、青白磁、朝鮮系陶器、青花、中世須恵器（権万丈・カムイイヤキ）、瓦質土器、北宋錢等が出土している。分布域としては古代の遺物が出土する地域と同じであり、古代から中世にかけてR調査区を中心とする地域で、生活が営まれていたと考えられる。

中世土師器（第122・123図）

底部の切り離しが糸切りのものを、中世の土師器として掲載した。皿と壺がある。



第121図 大中公供養塔

皿(第122図)

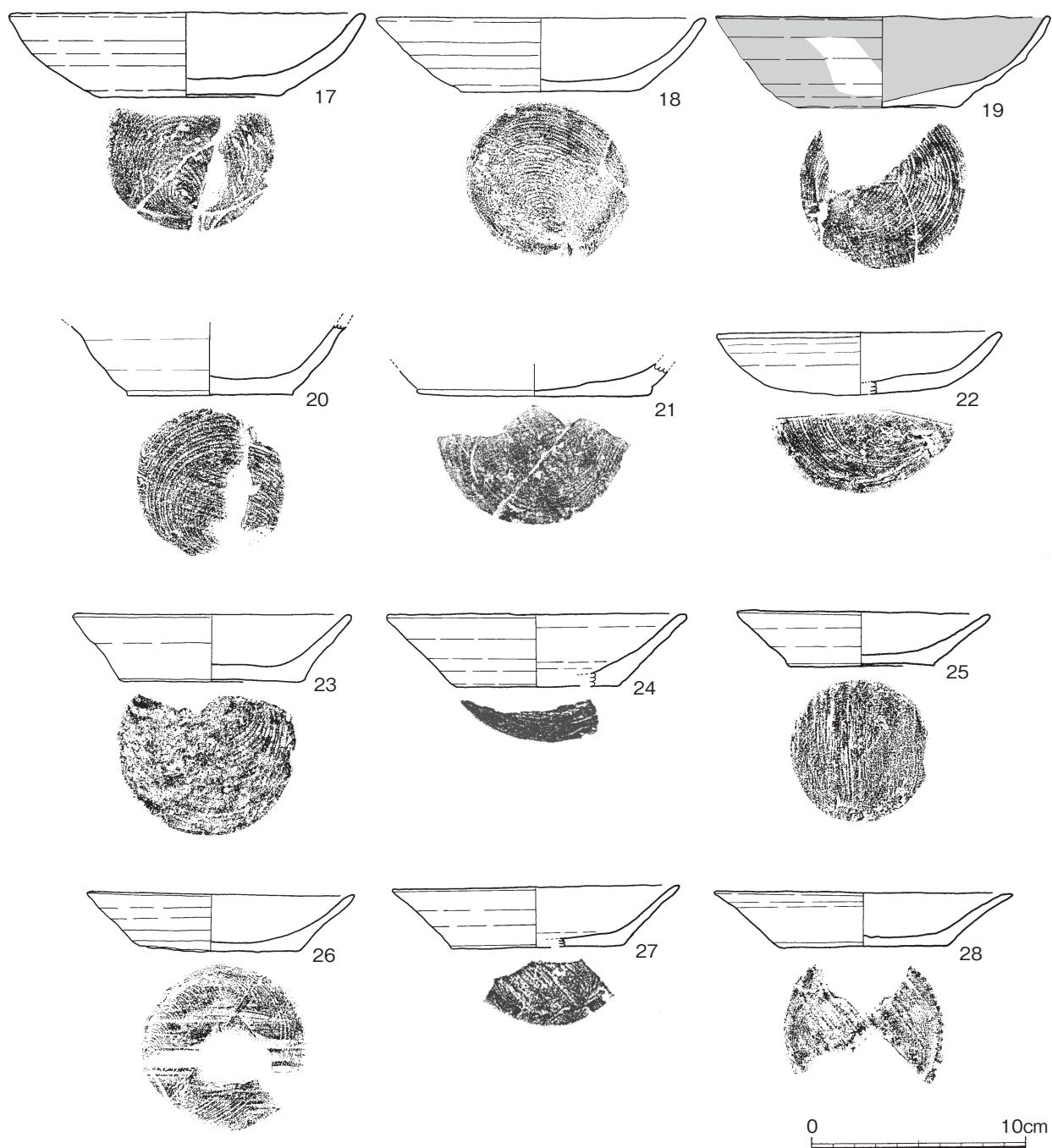
1～16は皿である。器高が2cm未満のものを皿とした。1～3は口径が9.6～9.9cmで、深さが浅いものである。外面は丁寧にナデられている。4～10は口径が7.2～9.0cmのものである。4・6・9は底部切り離し後、体部と底部の境にナデ調整を施す。11・12は口径が8.2cmと8.4cmを測り、底部は切り離し後ナデ調整を施さないものである。深さは1.8cmである。13～15は7.4～8.8cm、16は10.2cmを測る。体部はほぼ上方向に短く立ち上がるもので、そのため口径と底径の差が小さい。16は皿とするにはやや大きく器高2cm未満とする分類に反するものであるが、体部の作りから皿に分類した。



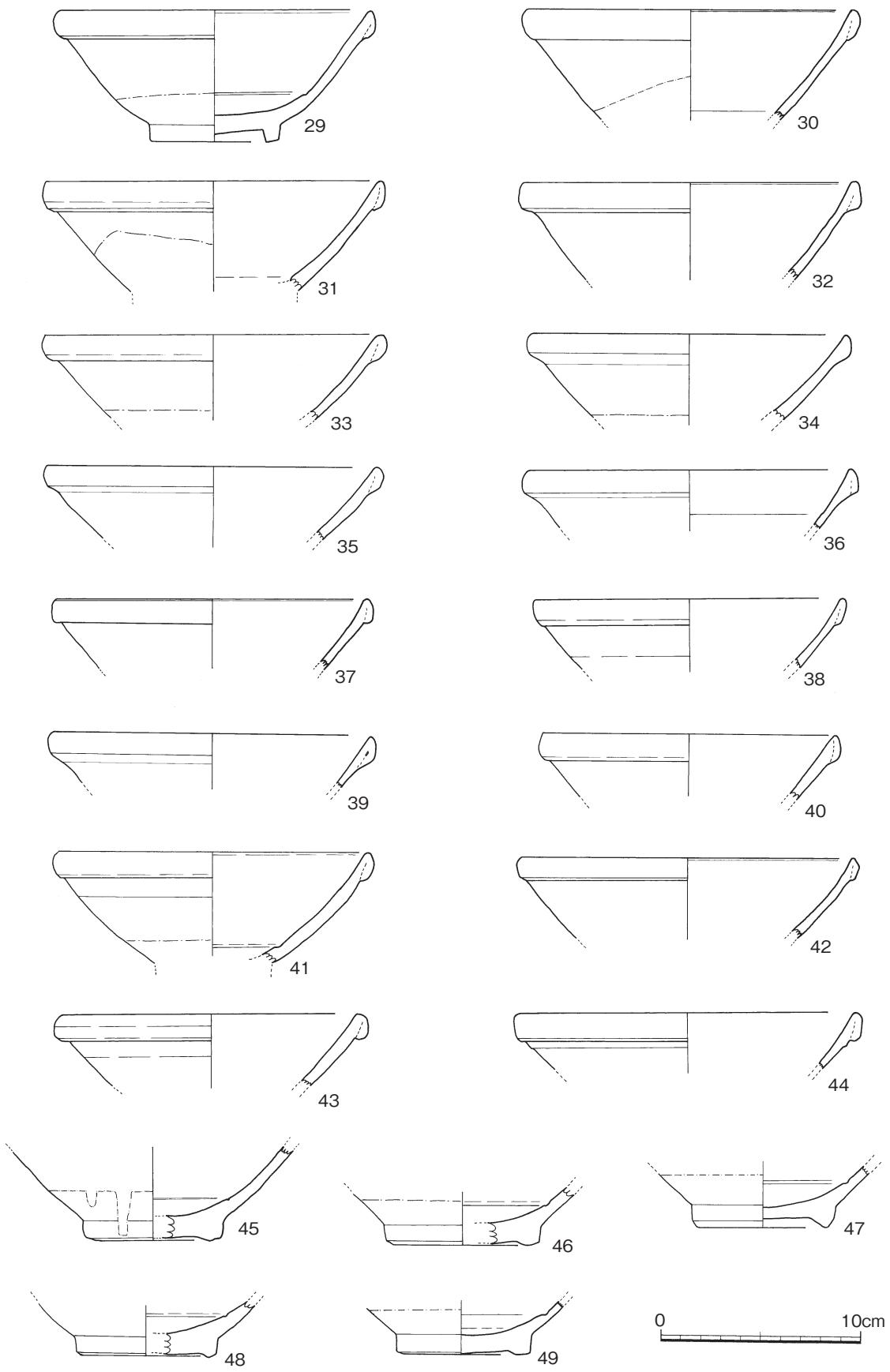
第122図 土師器1 皿

坏 (第123図)

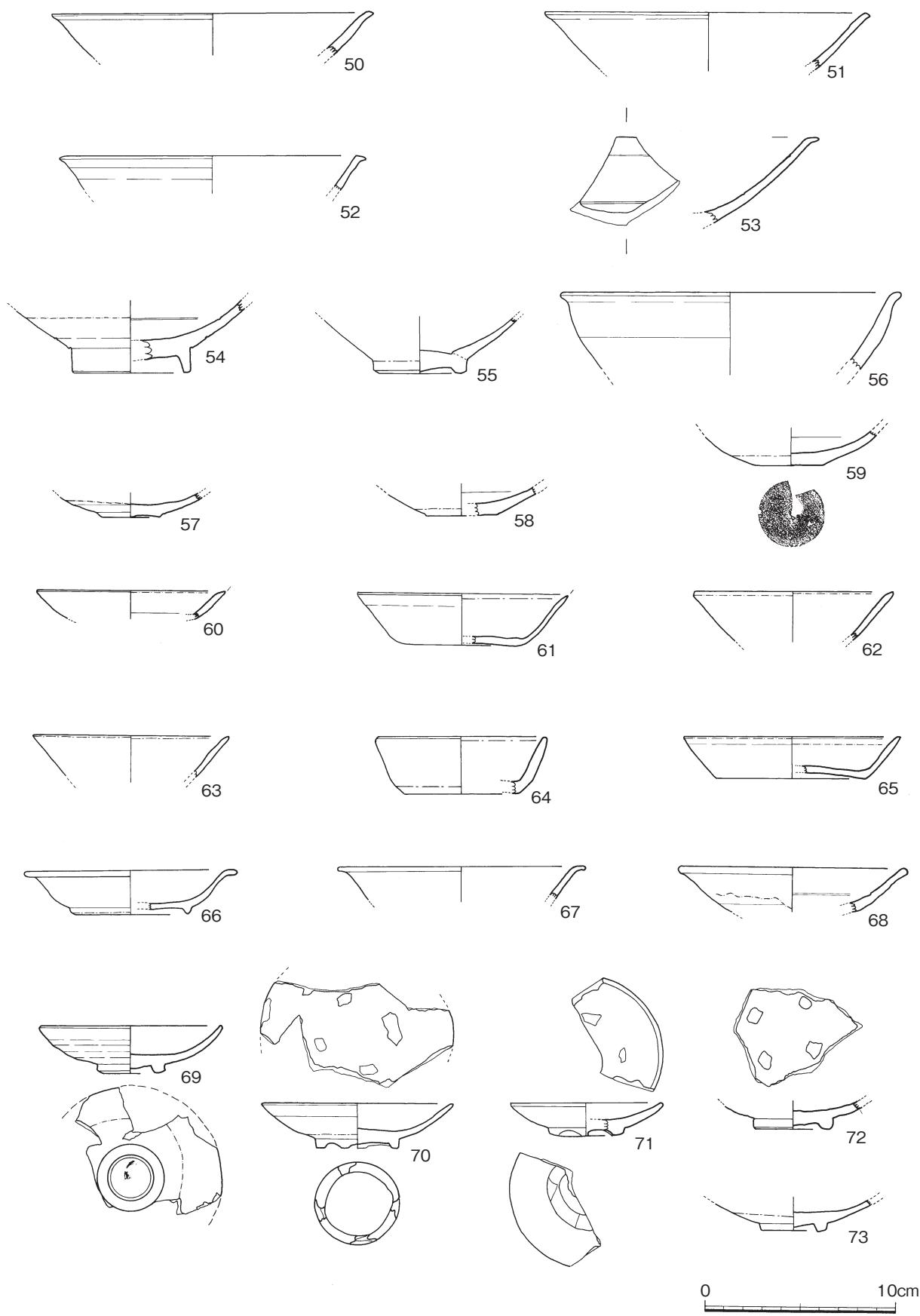
17~28は坏である。17~22は体部が曲線的に立ち上がり、口縁部もやや内湾気味に延びるものである。底部はやや厚みがある。19は内面全体と外面の半分に煤が付着している。23~25は体部の立ち上がりが直線的なものである。底部は厚みが無く、25に見られるように糸切りの後にナデ調整を施すものである。26~28は体部の立ち上がりが外反するタイプのものである。底部糸切り離し後側面をナデて器形調整している。



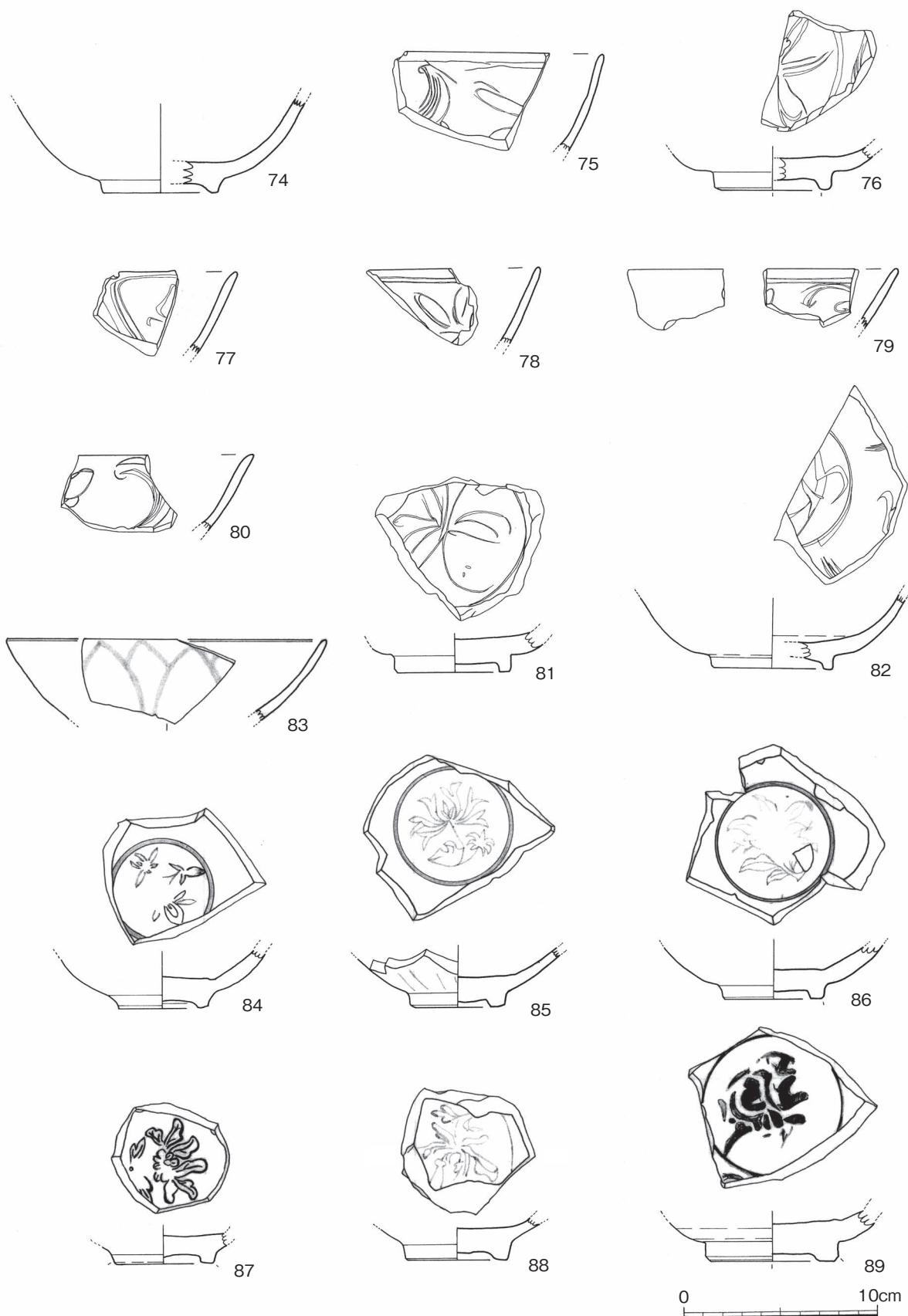
第123図 土師器2 坏



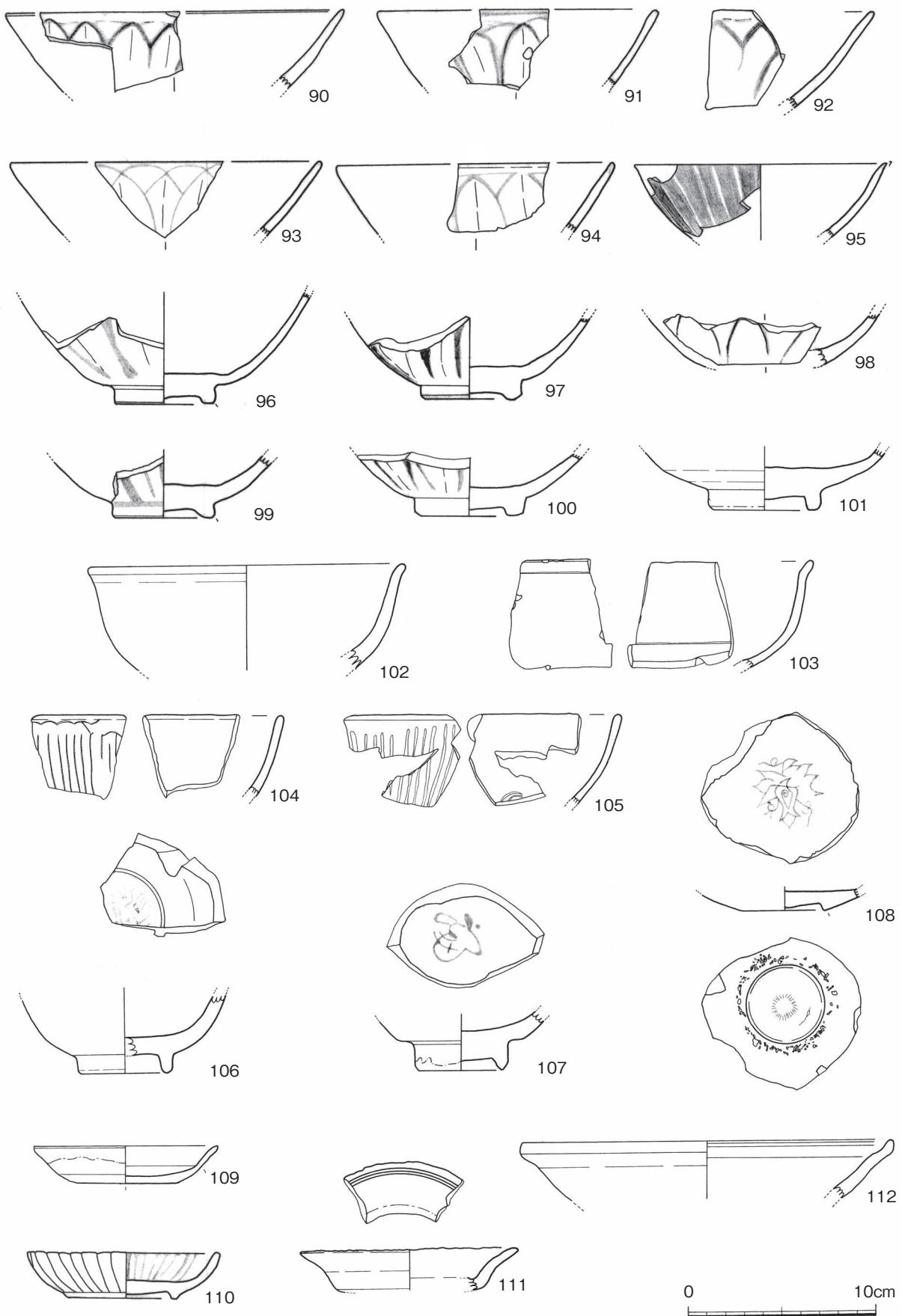
第124図 白磁 1



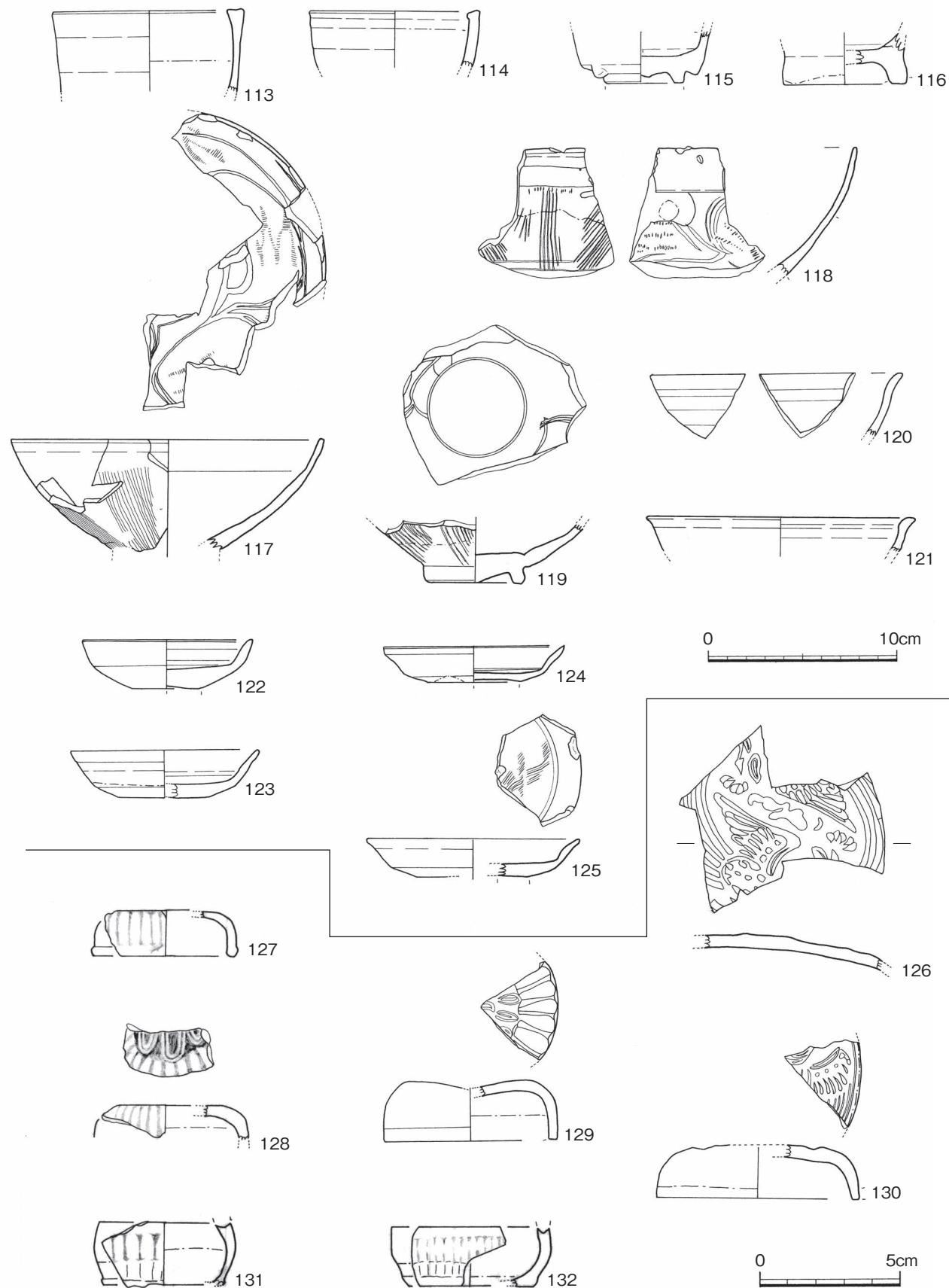
第125図 白磁2



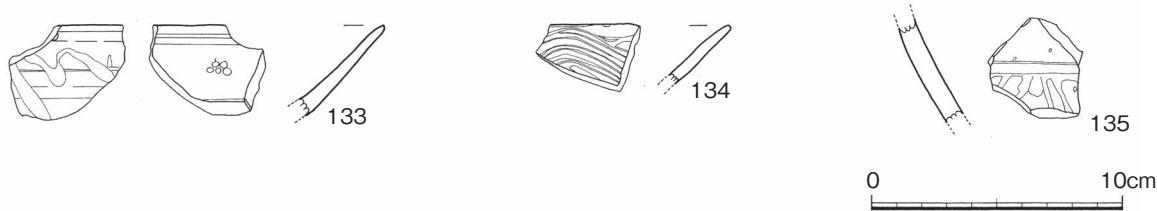
第126図 青磁1



第127図 青磁2



第128図 青磁3・青白磁



第129図 粉青沙器

白磁（第124・125図）

29～73は白磁である。

29～49は口縁部が玉縁を呈する椀である。29～44は口縁部である。玉縁部は肉厚で、体部も厚い。29・41は見込みに1段、段を有する。45～49は底部である。高台の削り出しが浅いため、底部は肉厚となる。釉は内面と外面腰部までかけられる。50～54は口縁部が屈曲し、先端が平坦になる椀である。50～53は口縁部である。54は底部で、高台は細くつくられる。55は口縁部が口禿げとなる椀の底部である。見込みには段を有し、中心は盛り上がる形状を呈する。56は浅形の椀である。

57～73は皿である。57・58は体部が中位でわずかに屈曲し、底部がやや上げ底氣味になるものである。57は無文、58是有文のもので、外面は腰部まで施釉される。59は底部が平底で、体部が内側へ屈曲するものである。外面は腰部まで施釉される。60～65は口縁部先端が口禿げとなる皿である。66・67は口縁部が端反になる皿である。

68～73は器壁が厚い小形の皿である。68は口縁端部が肥厚しやや外反する。69は体部から口縁部にかけてやや内湾するものである。高台内底に墨書が観察される。70・71は抉り高台を呈するもので、見込みに目跡が残る。72・73は抉りのない高台である。72は見込みに目跡が残る。

青磁（第126～128図）

74～125は青磁である。生産地により、龍泉窯系のものと同安窯系のものに大別した。

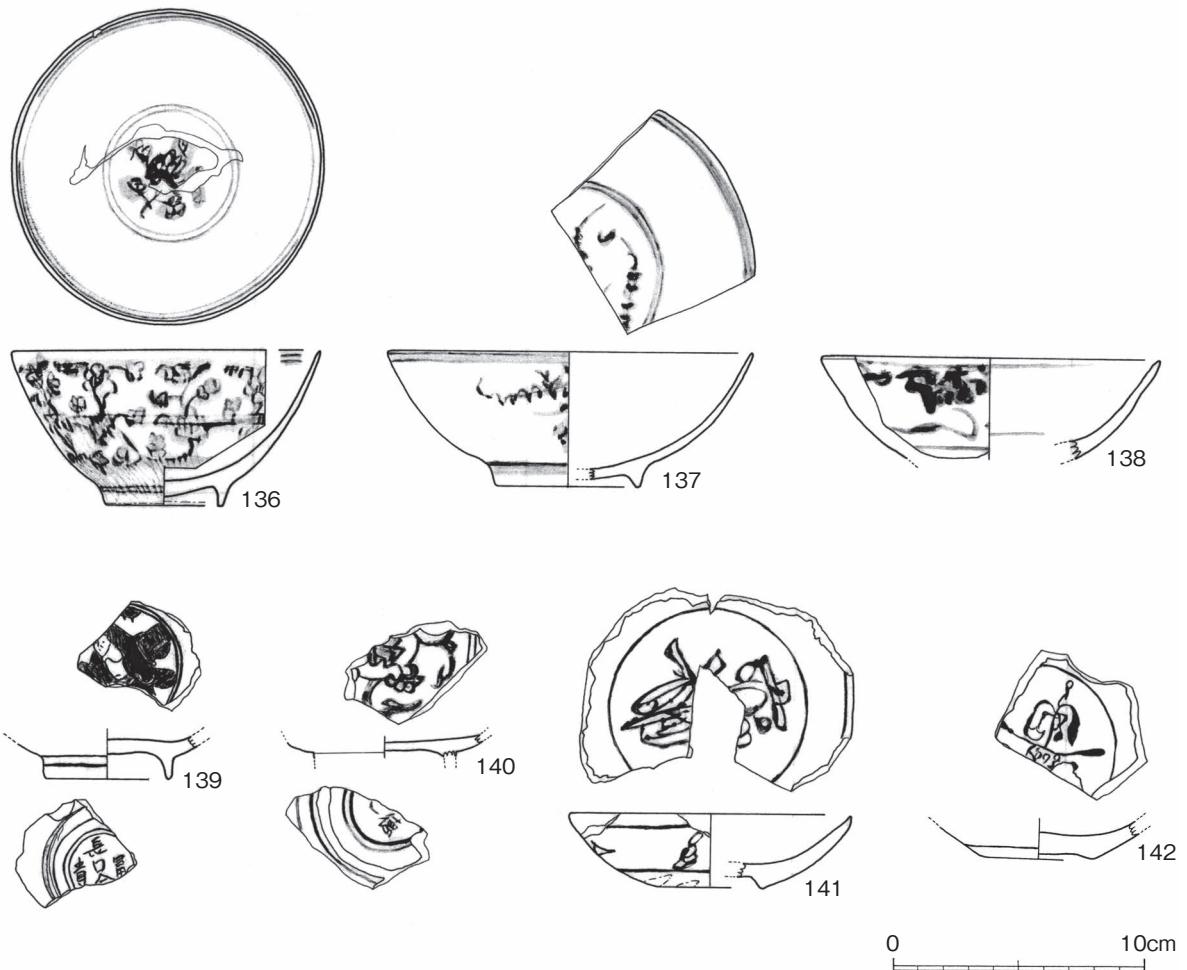
74～116は龍泉窯系青磁である。74～107は椀である。74～82は同タイプのものであるが、74は内面が無文で、75～82は内面に劃花文が描かれるものである。口縁部は直口もしくはやや外反し、底部は肉厚である。83～89は器形等は前述のタイプと同じものであるが、外面に連弁文が施されるものである。83は口縁部である。84～89は底部で、見込みには細い草花文の印刻が見られる。90～101は内面は無紋で、外面に連弁文が見られるものである。高台は低い角高台である。102・103は器壁が肉厚で、腰部が張り、口縁部は外反するものである。104・105は外面に鎬連弁が簡略化された縦筋が入るものである。106・107は器壁が肉厚の底部である。見込みには細い草花文の印刻が入る。

108は坏である。底部は碁笥底をなし、砂が付着している。

109～111は皿である。109は内外面とも無文のものである。110は輪花皿である。111は稜花皿である。

112は盤である。

113～115は香炉である。113・114は口縁部で、内面は無釉である。115は底部で、高台の脇に、形骸化した3足がつく。



第130図 青花

116は瓶類の底部である。

117～125は同安窯系の青磁である。

117～121は椀である。117～119は外面に細かい縦の櫛目文、内面にヘラ状の施文具による簡略化した花文と櫛の先端で押したジグザグ文が施されるものである。121は口縁部が外反するものである。

122～125は皿である。122は体部が中位で屈曲するものである。123～125は口縁部先端が薄く尖り気味になり、わずかに外反するものである。125の見込みには、ジグザグ文が観察される。

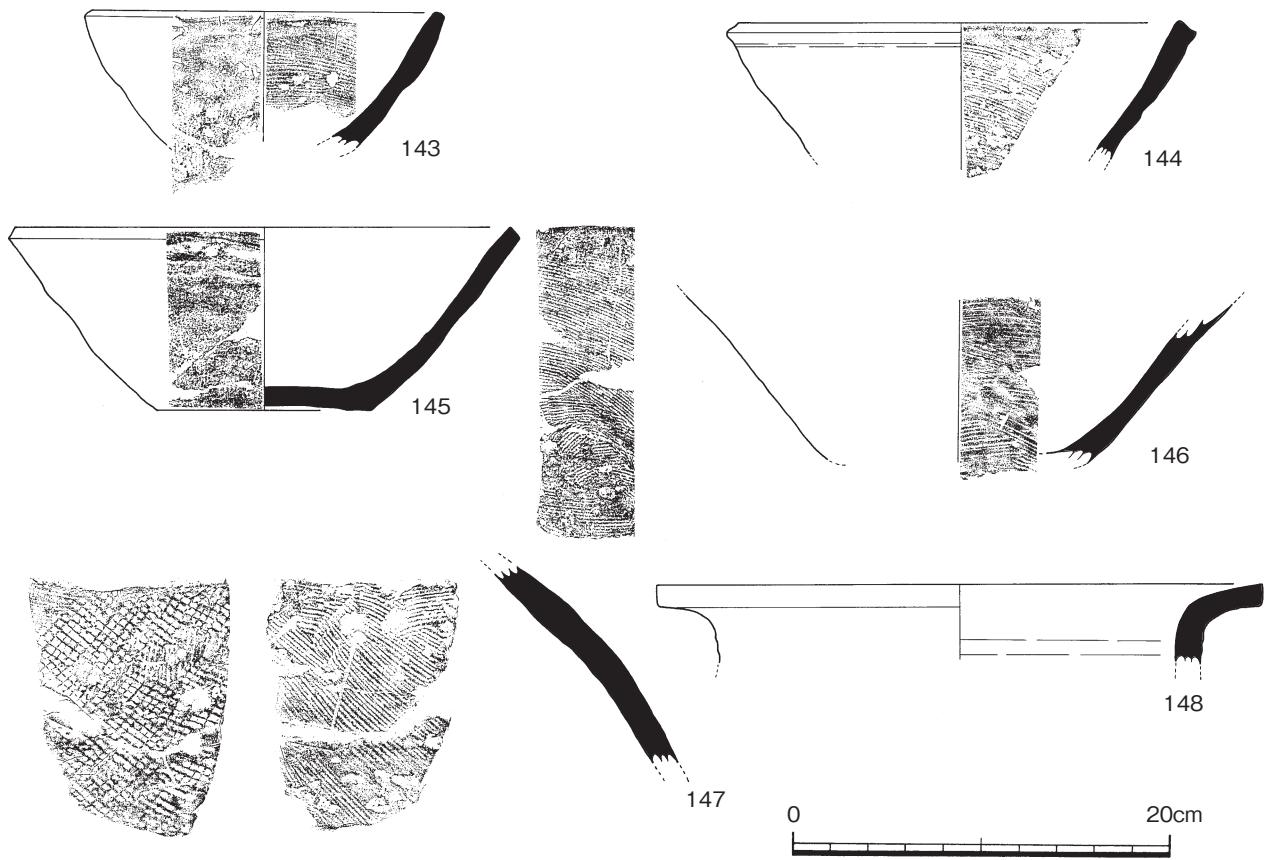
青白磁（第128図）

126～132は青白磁で、合子である。126・130は合子の蓋で、上面の文様が細かいものである。

127～129も蓋部である。131・132は身の部分である。

粉青沙器（第129図）

133～135は、朝鮮王朝時代につくられた白土を特徴とした炻器である。133は碗、134は皿である。内面に白土で象眼が施される。135は瓶類と思われる。外面に白土で象眼が施される。



第131図 中世須恵器 横万丈

青花（第130図）

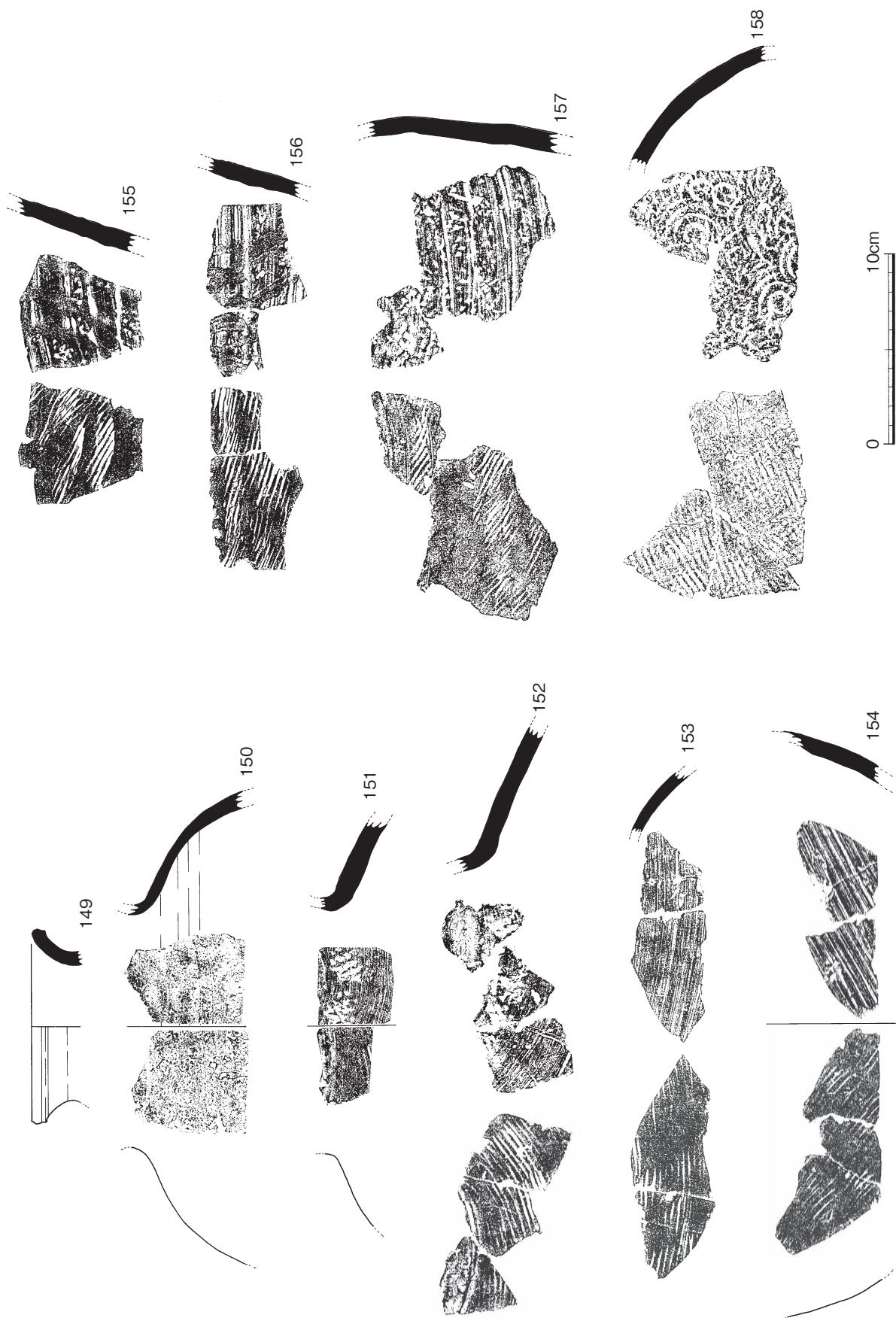
136～142は中国製の染付で青花である。136は景德鎮窯系の蓮子碗である。高台はやや内湾氣味で、畳付は細くなる。見込みは二重圈線の中に花文が描かれ、外面は唐草文が描かれる。釉は畠付を除き全面施釉される。137・138は景德鎮窯系の深さが浅いタイプの蓮子碗である。139は景德鎮窯系のもので、見込みがゆるやかに盛り上がる饅頭心になる碗である。高台内底には「長命富貴」の文字が見られる。140は景德鎮窯系の皿である。141・142は漳洲窯系の皿である。胎土は黄白色で呉須の発色は悪い。底部は碁笥底を呈する。

中世須恵器（第131・132図）

横万丈（第131図）

熊本県荒尾市横に所在する中世須恵器系窯のものである。胎土は灰色もしくは灰黒色で、瓦質土器に似ている。143～146は鉢である。内面には横もしくは斜め方向のハケ目が入れられる。147・148は甕である。147は肩部で、外面は格子目タタキ、内面はハケ目が施される。148は口縁部である。

第132図 中世須恵器 力ムイヤキ

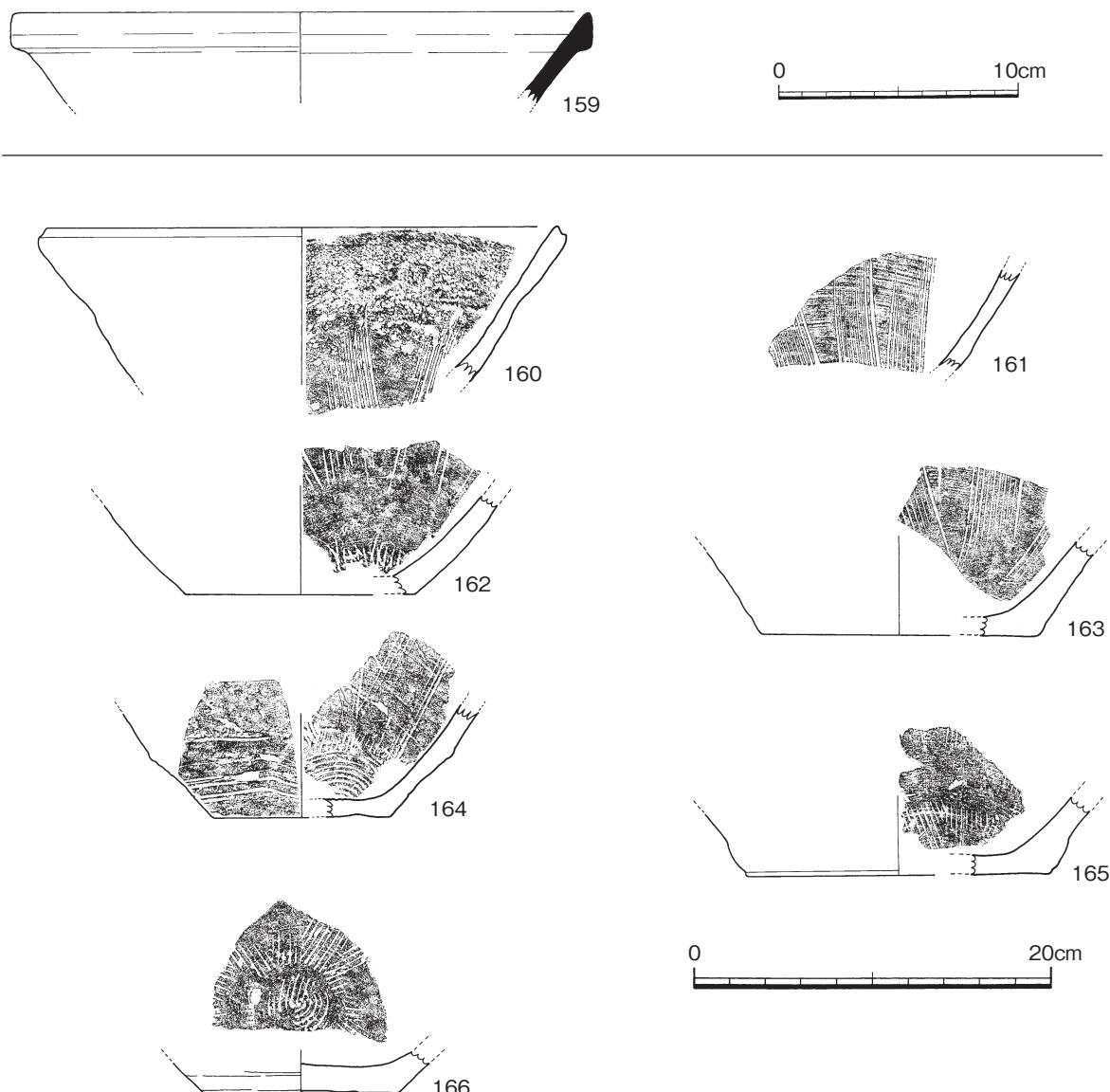


カムイヤキ（第132図）

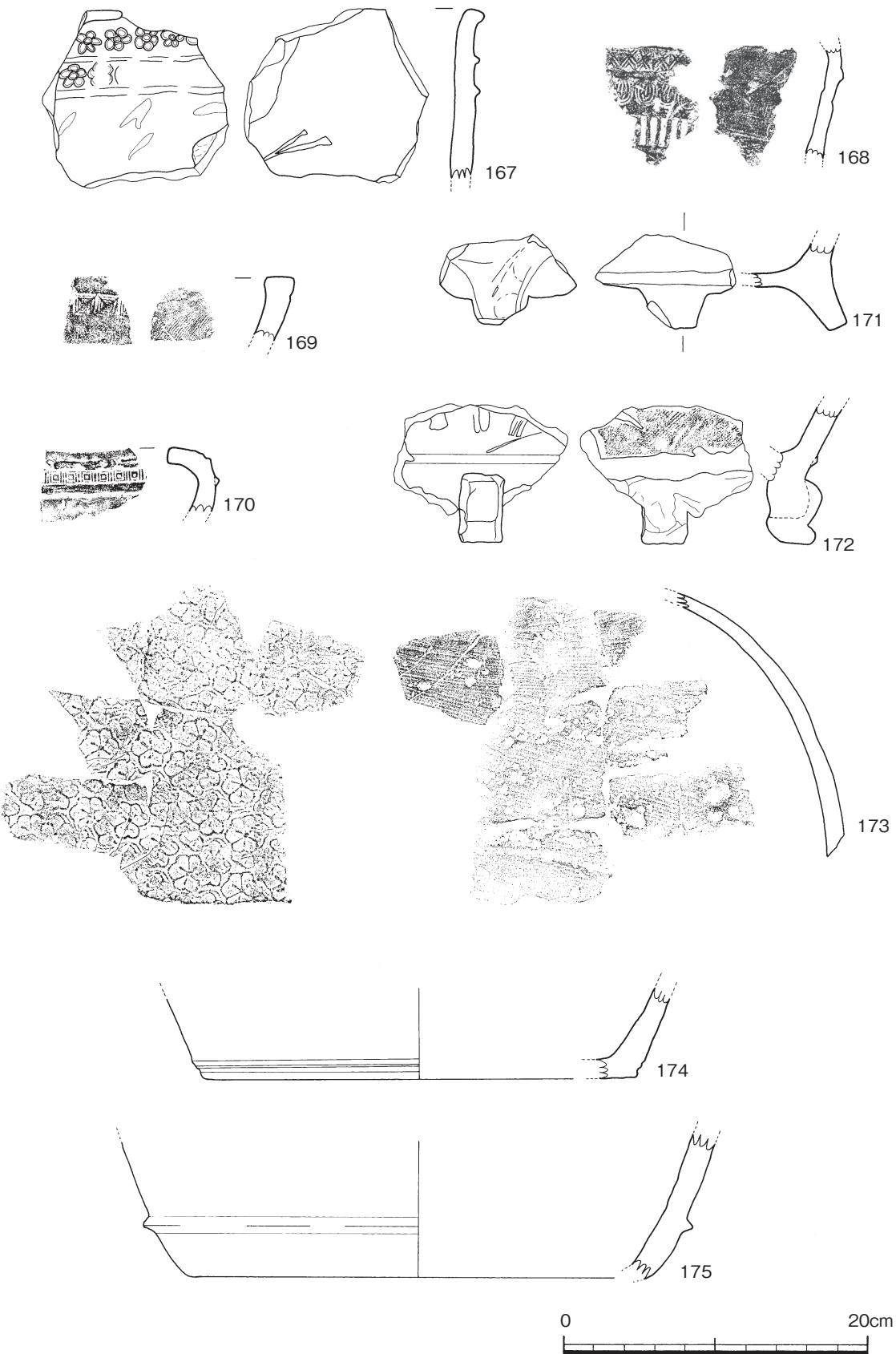
徳之島町に所在する南島系中世須恵器窯のものである。胎土はやや粗く小豆色を呈し、白色の小石粒を含む。149～158は壺である。149は口縁部である。150～152は頸部から肩部である。150は内外面ともにナデ調整で、特に内面は筋状の工具痕が残る。151・152は、外面に平行タタキのあとナデ、内面に横筋の残るナデ調整が施されるものである。153は肩部、154～158は胴部である。すべて外面は平行タタキで、内面はナデ調整で横筋が残る。

東播系須恵器（第133図）

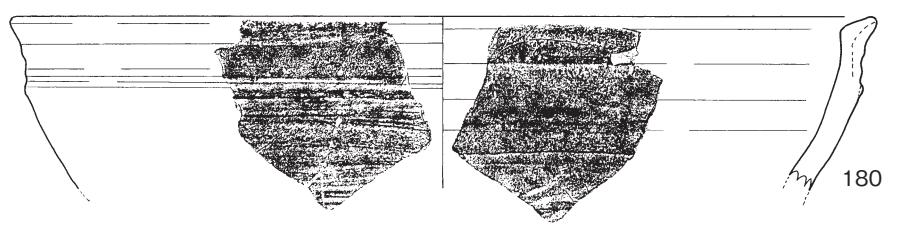
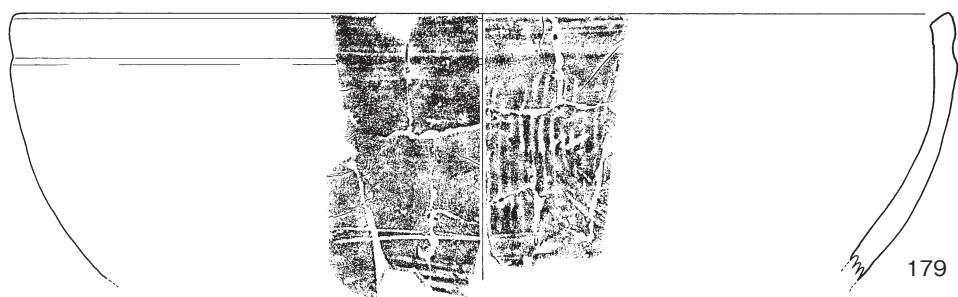
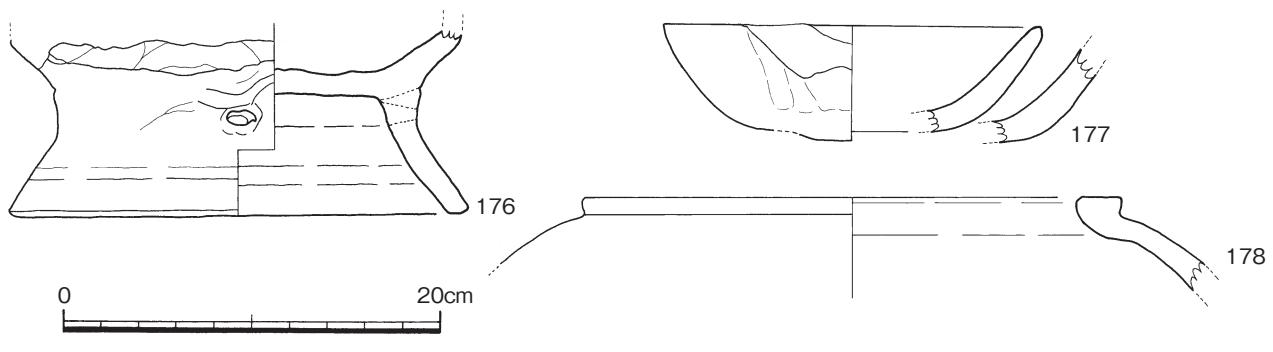
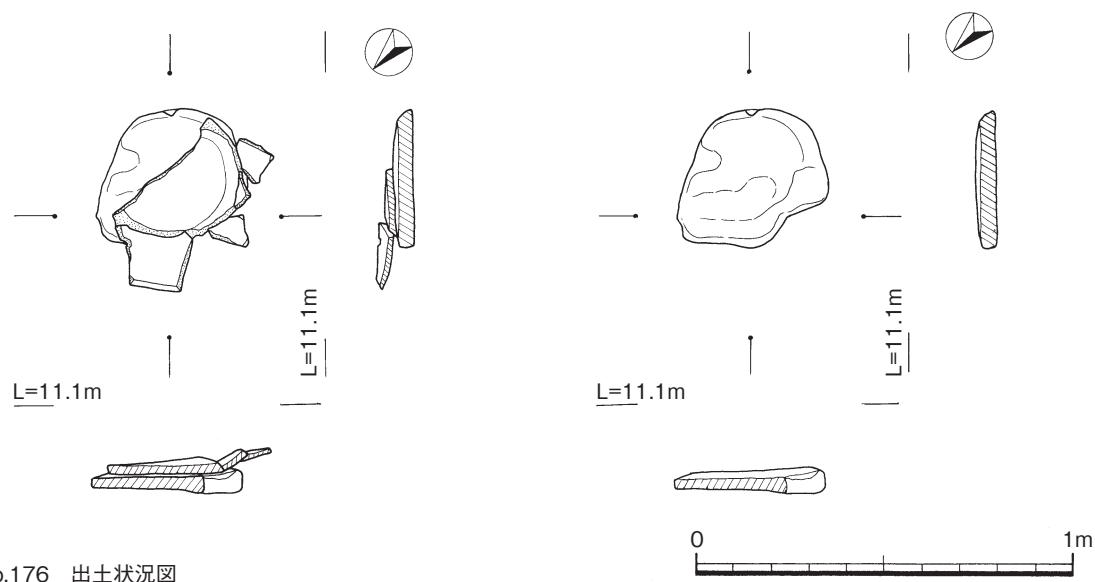
東播系須恵器は、20点ほど出土していたが、小片であったため、1点を図化した。159は鉢の口縁部である。口縁部は玉縁状に肥厚する。



第133図 東播系須恵器・瓦質土器1



第134図 瓦質土器2



0 20cm

第135図 瓦質土器出土状況及び瓦質土器3

瓦質土器（第133～135図）

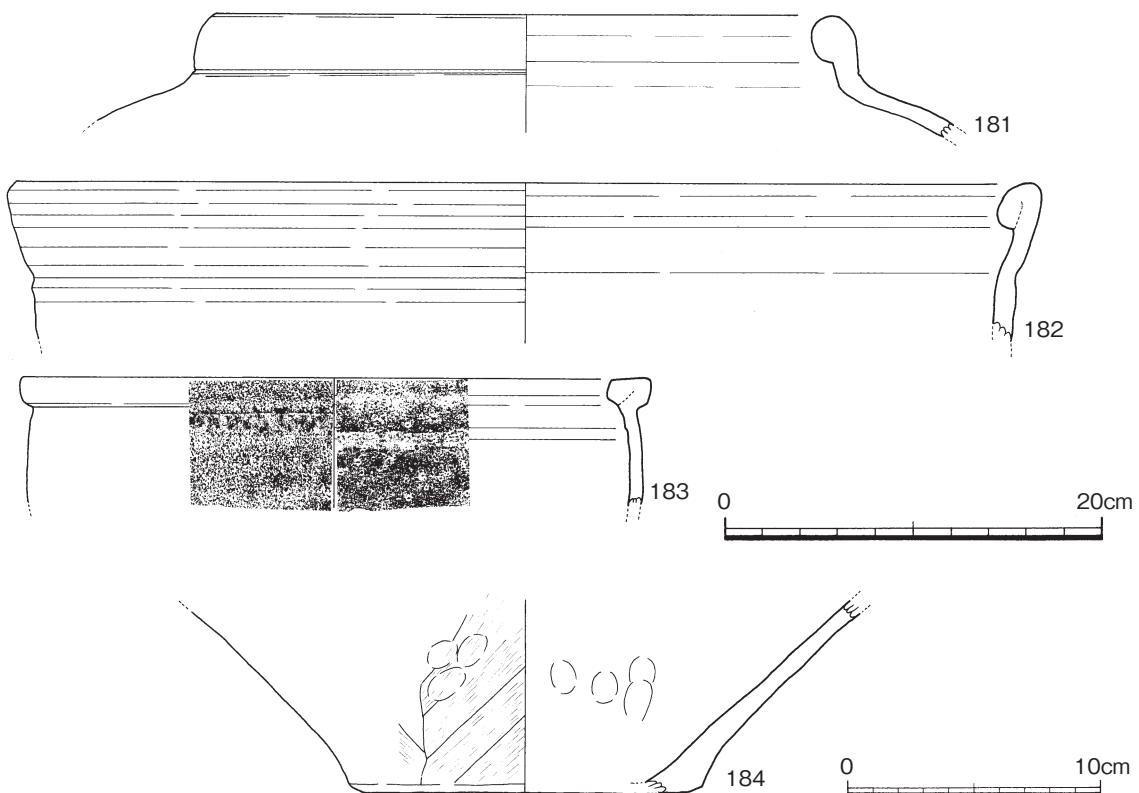
擂鉢（第133図）

160～166は瓦質の擂鉢である。胎土は161以外は橙色系で、161は灰色である。硬質でよく焼き締まっており、擂り目がなくなるほどではないが、使用面の研磨が著しい。器形は「逆ハ」の字形で、口縁部先端は平坦面を有する。擂り目は太く、粗く入れられる。164・166の内面には渦巻き状に入れられた擂り目が見られる。

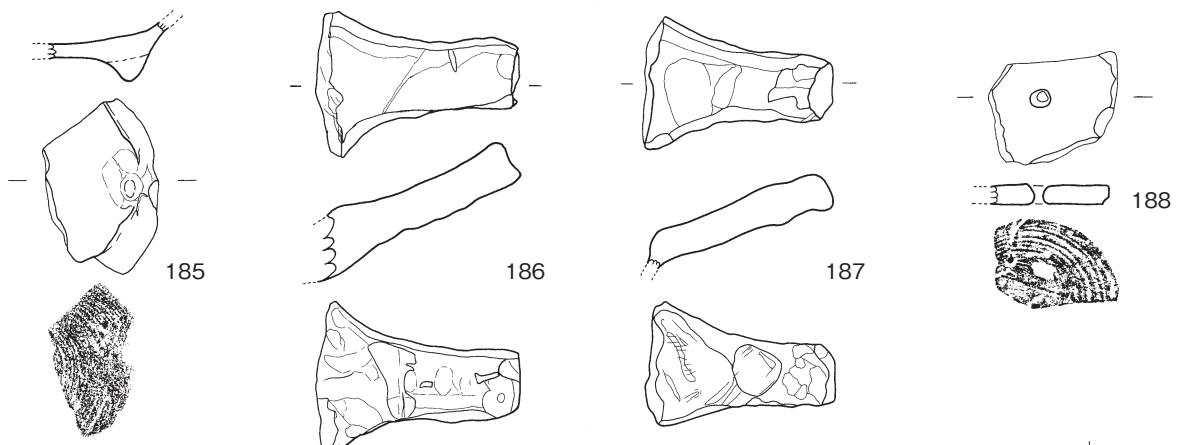
火鉢（第134・135図）

167～176は火鉢である。167・168は外面にスタンプで文様が刻まれる物である。169・170は黒色に燻されたもので、外面口縁部には雷文がスタンプされる。171・172は底部である。足が3足つくと思われる。173は外面に細かい花の文様が施されたもので、内面はヘラ状工具による斜め方向のハケ目が観察される。火鉢以外の用途も考えられる。174・175は底部である。3足の足がつくと考えられる。176は火鉢の底部である。S-23区、長径約45cm×短径約38cmの扁平な石の上で検出された。高い高台を有するもので、高台の一部には穿孔が施される。

177・178は黒色に燻されたものである。177は片口で、口縁部から底部にかけての境が明確でなく、丸い形状を呈する。178は壺である。179・180は用途・器種ともに不明のもので、中世須恵器の可能性も考えられるが、瓦質土器として取り扱った。179の内面は、タタキ成形をナデ消しているが、痕跡が残る。外面は腰部以下タタキ目が見られる。180は焼きがよく、須恵器質のものである。内外面ともナデ調整が施される。



第136図 その他1

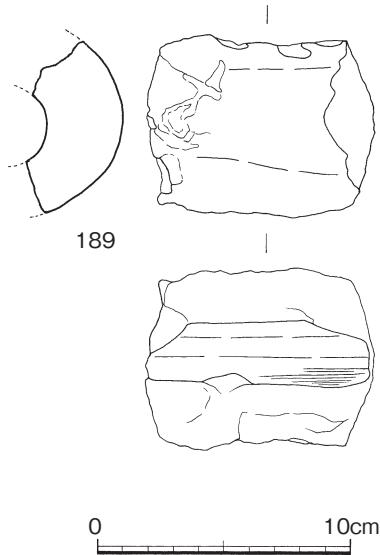


第137図 その他2

その他（第136・137図）

181・184は備前焼の壺である。口縁部は玉縁を呈する。
184は底部である。182は常滑焼である。182は口縁部で、先端は内側に折り込まれ肥厚させる。183は鉢と思われるものであるが、産地も不明である。胎土は淡橙色を呈する。

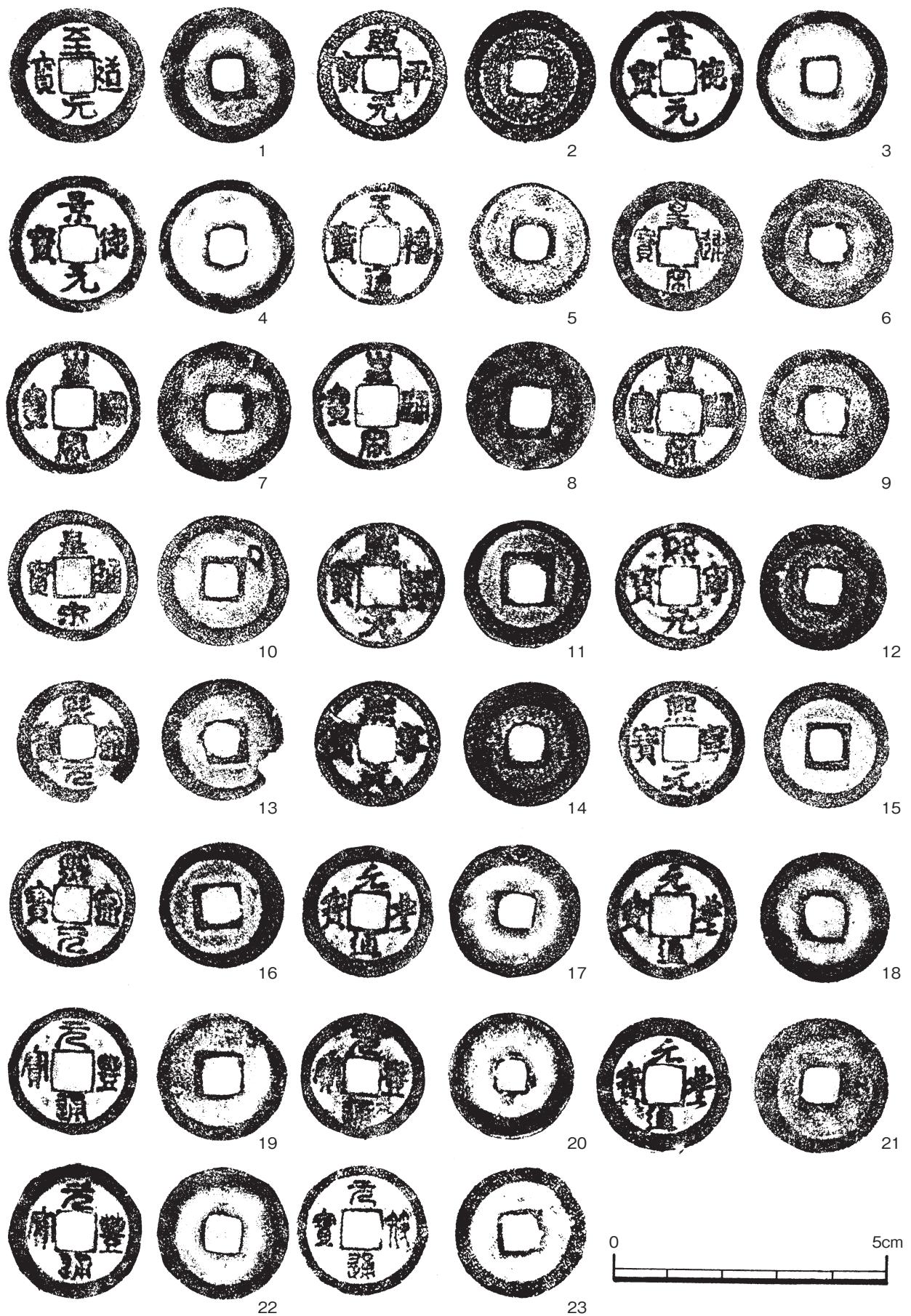
185は土師質のものである。底面に3足の足が付くものと思われる。186・187は焙烙の把手部である。188は土師器の壺の底部である。穿孔が施されており、紡錘車に加工する途中であったと思われる。189は轍の羽口である。



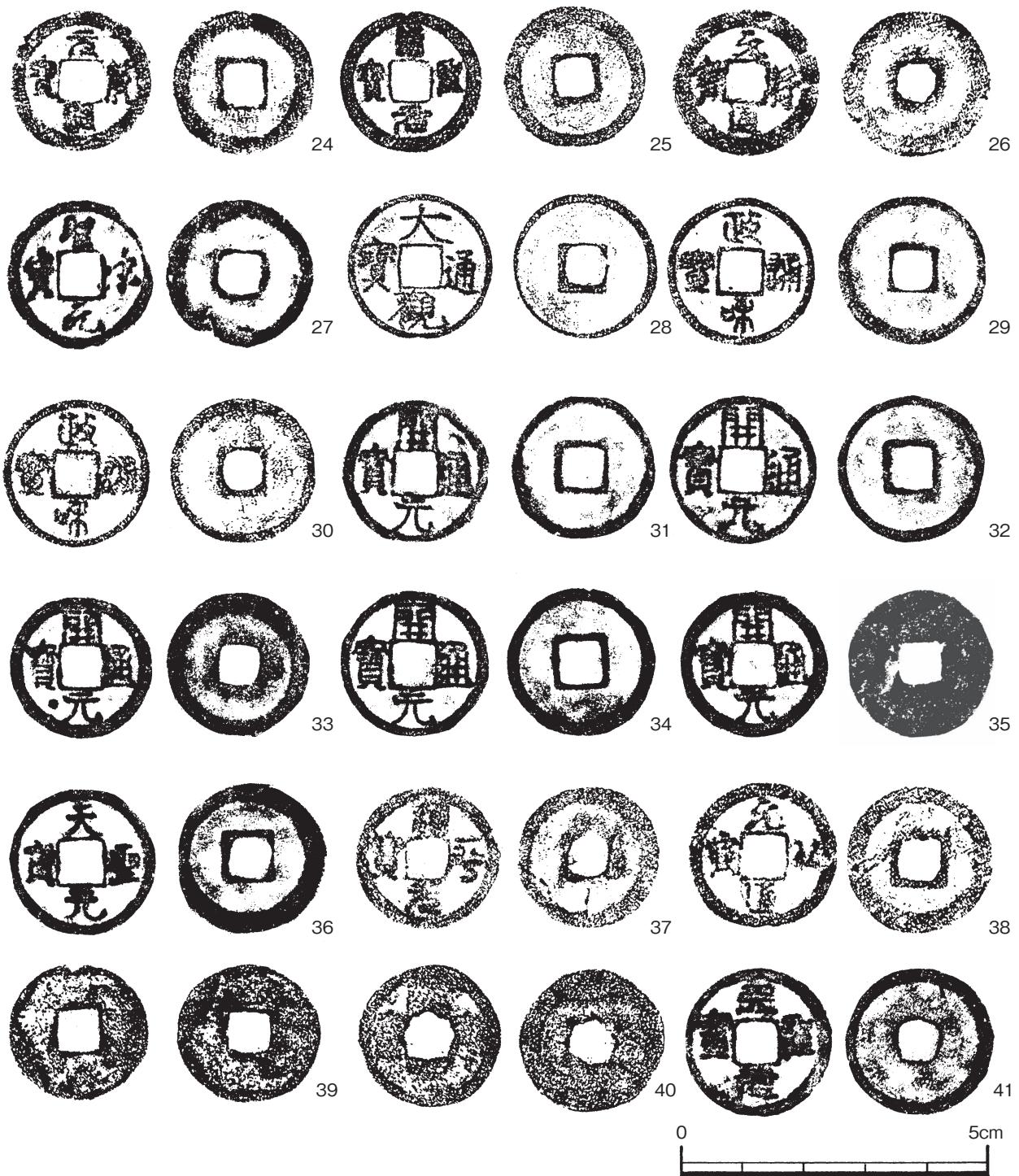
古銭（第138・139図）

1～41は古銭である。R-19区から41枚が重なって出土した。紐状のものに通されひとつにまとめられていたと考えられる。埋納銭とも考えられるが、掘り込み等は見られなかった。

1は至道元寶で铸造年代は995年である。2は咸平元寶で铸造年代は998年である。3・4は景德元寶で铸造年代は1004年である。5は天禧通寶で铸造年代は1017年である。6～10は皇宋通寶で铸造年代は1038年である。11～16は熙寧元寶で铸造年代は1068年である。17～22は元豐通寶で铸造年代は1078年である。23・24は元祐通寶で铸造年代は1086年である。25は紹聖元寶で铸造年代は1094年である。26は元符通寶で铸造年代は1098年である。27は聖宋元寶で铸造年代は1101年である。28は大觀通寶で铸造年代は1107年である。29・30は政和通寶で铸造年代は1111年である。31～35は開元通寶で铸造年代は不明である。36は天聖元寶で铸造年代は不明である。37は模鎔錢（治平通寶）で铸造年代は不明である。38～41は不明である。



第138図 古銭 1



第139図 古銭2

中世土師器観察表

掲番号	掲載番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			調整		備考
									口径	底径	器高	外面	内面	
第122図	1	5T	1630, 1725	II, III	土師器	皿	口縁～底部	(外)灰黄褐色 (内)褐灰色	9.0	7.6	1.4	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 赤色の石粒含む
	2	R-23	9148	II	土師器	皿	口縁～底部	淡黄色	9.2	7.6	1.3	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り
	3	S-22	4497	II	土師器	皿	口縁～底部	にぶい黄橙色	9.6	8.6	1.6	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り
	4	R-19	6611	V	土師器	皿	口縁～底部	にぶい黄橙色	9.0	3.0	1.5	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り
	5	Q-20	一括	III, IV	土師器	皿	完形	にぶい黄橙色	8.8	6.0	1.9	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り
	6	S-22	6665	II	土師器	皿	口縁～底部	橙色	7.8	6.0	1.4	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 赤色の石粒含む
	7	—	—	—	土師器	皿	口縁～底部	灰白色	8.2	5.6	2.0	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 小石粒含む
	8	—	—	—	土師器	皿	口縁～底部	灰白色	8.8	7.0	1.9	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 赤色の石粒含む
	9	R-23	20342	III	土師器	皿	口縁～底部	にぶい黄橙色	9.0	5.8	1.6	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 赤色の石粒含む
	10	Q-19	一括	IV	土師器	皿	口縁～底部	にぶい黄橙色	9.0	6.8	1.7	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 赤色の石粒含む
	11	—	—	—	土師器	皿	口縁～底部	灰白色	8.2	6.1	1.8	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 小石粒含む
	12	RS-18・19	—	—	土師器	皿	口縁～底部	にぶい黄橙色	8.4	6.0	1.8	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り
	13	—	186	II	土師器	皿	口縁～底部	にぶい黄橙色	74.0	5.6	1.3	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 赤色の石粒含む
	14	—	—	—	土師器	皿	口縁～底部	にぶい黄橙色	7.2	7.0	1.2	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 小石粒含む
	15	R-22	4093, 4086	II	土師器	皿	完形	(外)にぶい黄橙色 (内)にぶい橙色	7.6	6.0	2.0	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 赤色の石粒含む
	16	Q-22	17753	V	土師器	皿	口縁～底部	(外)にぶい黄橙色 (内)浅黄橙色	13.2	11.4	2.6	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 小石粒含む
第123図	17	Q-19・20	一括	—	土師器	坏	完形	(外)灰黄褐色 (内)にぶい黄橙色	16.6	8.4	3.9	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 12~13世紀代 赤色の石粒含む
	18	T-22	21538	II	土師器	坏	完形	橙色	15.4	8.0	3.5	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 12~13世紀代 赤色の石粒含む
	19	Q-18・19	一括	II, III	土師器	坏	完形	黒褐色	15.8	7.7	4.2	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 12~13世紀代 赤色の石粒含む 煤付着
	20	S	—	—	土師器	坏	底部	灰白色	—	7.4	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 小石粒含む
	21	S-26	15462, 15554	II	土師器	坏	底部	にぶい黄橙色	—	11.0	—	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 赤色の石粒含む
	22	S-26	15924	II	土師器	坏	完形	にぶい橙色	13.4	8.0	2.9	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 赤色の石粒含む
	23	S-22	2781	III	土師器	坏	口縁～底部	橙色	13.0	7.4	3.2	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 小石粒含む 赤色の石粒含む
	24	R-23	8887	II	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙色	14.0	8.6	3.4	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り
	25	T-22	21518	II	土師器	坏	完形	浅黄橙色	11.8	6.9	2.6	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り 小石粒含む
	26	S-23	21903, 21901, 21902	II	土師器	坏	完形	(外)浅黄橙色 (内)灰白色	12.5	5.4	2.7	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り
	27	R-22	4622	II	土師器	坏	口縁～底部	にぶい黄橙色	13.4	8.0	2.8	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り
	28	R-22	5583, 5584	II	土師器	坏	完形	浅黄橙色	14.0	7.8	2.5	ナデ ⁺	ナデ ⁺	底部 糸切り

白磁・青磁観察表

挿図番号	掲載番号	種別	器種	出土区	取り上げ番号	層位	法量 (cm)			胎土の色調	釉薬	施釉	備考
							口径	底径	器高				
第124図	29	白磁	椀	R-22, 3T	5581, 390, 386	II	15.6	6.4	6.6	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	30	白磁	椀	R-27	17634, 17904	II	16.8	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	31	白磁	椀	R-20	5191, 5307	II, III	16.8	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	32	白磁	椀	S-26	14731	II	14.8	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	33	白磁	椀	Q-19	—括	III	16.8	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	34	白磁	椀	T-26	11344	III	15.8	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	35	白磁	椀	6T	1787, 1779	IV	16.8	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	36	白磁	椀	S-20	5291	III	16.2	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	37	白磁	椀	T-24, 6T, 3T	13435, 1784, 1662	II, III	14.4	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	38	白磁	椀	Q-19	—括	III	15.5	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	39	白磁	椀	R-20	6234	V	16.0	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	40	白磁	椀	RQ-18·19·20	—括	—	14.6	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	41	白磁	椀	S-23·24, T-24, Q-R-19	11796, 7238, 3895	II, III	14.8	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	42	白磁	椀	S-19	18	IV	17.0	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	43	白磁	椀	Q-19	—括	IV	14.9	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	44	白磁	椀	RQ-19	—括	III	17.0	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	45	白磁	椀	S-24, T-25	10426, 7408	II	—	7.0	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	46	白磁	椀	S-23	4464	II	—	7.8	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	47	白磁	椀	R-20·22	6277, 2594, 2412, 6230	II, V	—	6.5	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	48	白磁	椀	Q-22, R-22	4353, 4173	III, II	—	7.0	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	49	白磁	椀	RS-19	—括	III	—	6.0	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	IV I a
第125図	50	白磁	椀	S-23·24	5356	II	16.8	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	51	白磁	椀	S-22·23, T-25	4816, 10166, 2499, 11885	II, 溝III	17.0	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	52	白磁	椀	S-22	6126	II	16.0	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	53	白磁	椀	R-22	4725	II	—	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	V 4
	54	白磁	椀	3T	270	II	—	6.2	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	V 4
	55	白磁	椀	PQ-19	—括	III	—	4.9	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	IX 2
	56	白磁	椀	T-19·20	—括	—	17.8	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	森田C X II
	57	白磁	皿	R-26·27	—	—	—	3.2	—	灰黄色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	VI I a
	58	白磁	皿	Q-20	—	III	—	3.8	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	VI 2
	59	白磁	皿	S-23, QR-20	2157	II, III	—	3.4	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	VIII I a
	60	白磁	皿	Q-20	—括	III	9.8	—	—	灰白色	透明釉	口禿げ	IX a
	61	白磁	皿	Q-20	—括	—	11.0	6.2	2.7	灰白色	透明釉	口禿げ	IX I a
	62	白磁	皿	Q-19	—括	IV	10.4	—	—	灰白色	透明釉	口禿げ	IX b c
	63	白磁	皿	T-19	3333, 3001	IV	10.2	—	—	灰白色	透明釉	口禿げ	IX bac
	64	白磁	皿	T-19	—括	III, IV	8.6	5.0	2.7	灰白色	透明釉	口禿げ 外底面無釉	IX 2b
	65	白磁	皿	2T	1008	III	11.3	7.7	2.2	灰白色	透明釉	口禿げ 外底面無釉	IX 2h
	66	白磁	皿	S-22	4245	II	11.2	6.2	2.3	灰白色	透明釉	全面施釉	森田皿E
	67	白磁	皿	3T	—	—	13.0	—	—	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	森田皿E
	68	白磁	皿	R-24	3782	II	12.0	—	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
	69	白磁	皿	S-16	—括	I	9.6	3.6	2.6	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	底部 墨書
	70	白磁	皿	3T	1183, 876, 1176	II	10.0	4.4	2.4	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	抉り高台 見込みに重ね焼きの目跡有り
	71	白磁	皿	—	—	—	8.0	—	—	灰白色	透明釉	抉り高台 見込みに目跡有り	
	72	白磁	皿	—	—	—	—	4.2	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	森田D 見込みに重ね焼きの目跡有り
	73	白磁	皿	—	—	—	—	3.6	—	灰白色	透明釉	内面と外面腰部まで施釉	
第126図	74	青磁	椀	T-20	13633	II	—	5.8	—	灰色	青磁釉	叠加と高台内面無釉	I I a
	75	青磁	椀	—	—	—	—	—	—	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	I 2 内面劃花文
	76	青磁	椀	—	—	—	—	5.0	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	I 2 内面劃花文
	77	青磁	椀	R-27	18398	I	—	—	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	I 4 内面劃花文
	78	青磁	椀	T-3	879	II	—	—	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	I 2 内面劃花文
	79	青磁	椀	—	—	—	—	—	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	内面劃花文
	80	青磁	椀	S-19	—	III	—	—	—	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	I 4 内面劃花文
	81	青磁	椀	Q-19	—	II	—	5.8	—	灰白色	青磁釉	叠加と高台内面無釉	I 4 内面劃花文
	82	青磁	椀	Q-19	—括	II	—	6.4	—	灰白色	青磁釉	叠加と高台内面無釉	I 4 内面劃花文
	83	青磁	椀	Q-21, R-22	70667, 4123	II	16.4	—	—	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	II a 外面連弁文
	84	青磁	椀	Q-20	—	III	—	4.8	—	灰白色	青磁釉	叠加と高台内面無釉	II c 見込みに花文
	85	青磁	椀	Q-20	—	IV	—	4.9	—	灰色	青磁釉	叠加と高台内面無釉	II c 連弁文 見込みに花文
	86	青磁	椀	Q-19	—	II	—	5.2	—	灰白色	青磁釉	叠加と高台内面無釉	II c 連弁文 見込みに花文
	87	青磁	椀	RQ-16·19·20	—括	—	—	5.0	—	灰白色	青磁釉	叠加と高台内面無釉	見込みに花文
	88	青磁	椀	Q-18	—括	—	—	5.2	—	灰白色	青磁釉	叠加と高台内面無釉	連弁文
	89	青磁	椀	R-20	—括	III	—	6.4	—	灰色	青磁釉	叠加と高台内面無釉	R II c

青磁・粉青沙器・中世須恵器観察表

挿図番号	掲載番号	種別	器種	出土区	取り上げ番号	層位	法量 (cm)			胎土の色調	釉薬	施釉	備考
							口径	底径	器高				
第127図	90	青磁	椀	S	—	—	18.0	—	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	IX 連弁文
	91	青磁	椀	Q-19, R-19	一括	IV	15.2	—	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	連弁文
	92	青磁	椀	Q-19, R-19	—	III, IV	—	—	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	連弁文
	93	青磁	椀	Q-19	一括	IV	16.8	—	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	連弁文
	94	青磁	椀	QR-19, QR-20	—	III	15.0	—	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	連弁文
	95	青磁	椀	S-25	5391	II	13.6	—	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	IV? 連弁文
	96	青磁	椀	Q-19-20, R-19, S-20, T-25	1559, 12237	II, III	—	5.3	—	灰白色	青磁釉	高台脇から高台内面無釉	
	97	青磁	椀	S-19	一括	II	—	4.7	—	灰白色	青磁釉	高台脇から高台内面無釉	
	98	青磁	椀	Q-18, T-19	一括	II, III, IV	—	—	—	灰白色	青磁釉	高台脇から高台内面無釉	IV
	99	青磁	椀	T-20	5717	III	—	5.6	—	灰白色	青磁釉	高台脇から高台内面無釉	
	100	青磁	椀	Q-20	一括	IV	—	5.0	—	灰色	青磁釉	高台脇から高台内面無釉	
	101	青磁	椀	—	—	—	—	6.0	—	灰色	青磁釉	高台脇から高台内面無釉	IV イ
	102	青磁	椀	R	—	—	—	17.0	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	上田 D IV
	103	青磁	椀	R-19	一括	IV	—	—	—	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	上田 D II
	104	青磁	椀	RS-18	一括	II	—	—	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	上田 IV~IV'
	105	青磁	椀	R-20	5360, 5404	II	—	—	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	上田 IV'
	106	青磁	椀	P-18, R-19	一括	II	—	5.0	—	灰白色	青磁釉	高台内面無釉	上田 II 明 花文
	107	青磁	椀	—	—	—	—	4.4	—	灰白色	青磁釉	高台内面無釉	R 明 花文
	108	青磁	坏	—	—	—	—	4.2	—	灰白色	青磁釉	置付から高台無釉	坏 IX~明 花文 茅笥底
	109	青磁	皿	T-26	13519, 11354	II	9.9	5.0	—	灰白色	青磁釉	内面と外面腰部まで施釉	I 1a
	110	青磁	皿	P-22	73	II	10.3	6.0	—	灰白色	青磁釉	置付と高台内面無釉	菊花皿 元~明
	111	青磁	皿	Q-17	一括	—	11.6	—	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	棱花皿 明
	112	青磁	盤	—	—	—	—	19.8	—	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉
第128図	113	青磁	香炉	S-19	2778	III	10.0	—	—	灰白色	青磁釉	内面無釉	
	114	青磁	香炉	RS-19	一括	—	9.0	—	—	灰白色	青磁釉	内面無釉	
	115	青磁	香炉	T-24-25	12493, 12547	II	—	4.1	—	淡赤橙色	青磁釉	内面無釉 高台内面無釉	
	116	青磁	袋物	R-18	一括	IV	—	6.4	—	灰色	青磁釉	置付無釉	I b 外面櫛目文 内面花文 ジグザグ文
	117	青磁	椀	R-19	一括	—	16.6	—	—	灰色	青磁釉	内面と外面腰部まで施釉	外面櫛目文 内面花文 ジグザグ文
	118	青磁	椀	T-25	—	II	—	—	—	灰白色	青磁釉	内面と外面腰部まで施釉	外面櫛目文 内面花文 ジグザグ文
	119	青磁	椀	Q-19	一括	II	—	5.0	—	灰白色	青磁釉	内面と外面腰部まで施釉	外面櫛目文 内面花文 ジグザグ文
	120	青磁	椀	S-27	16225	II	—	—	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	椀 II
	121	青磁	椀	—	—	IV	14.0	—	—	白灰色	青磁釉	残存部全面施釉	IV 1b
	122	青磁	皿	Q-19-20, RS-18-19	一括	III, IV	8.9	3.6	2.6	灰白色	青磁釉	外底面無釉	
	123	青磁	皿	R-19	一括	II	9.9	4.8	2.5	灰白色	青磁釉	外底面無釉	I 1a
	124	青磁	皿	Q-19	—	III	9.6	4.7	1.9	灰白色	青磁釉	外底面無釉	I 1a
	125	青磁	皿	—	—	—	11.2	5.8	2.0	灰白色	青磁釉	腰部から外底面無釉	I 2a
	126	青白磁	合子	—	—	—	—	—	—	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	
	127	青白磁	合子	R-23	9036	—	4.9	—	1.6	灰白色	透明釉	内面口縁部無釉	
	128	青白磁	合子	—	—	—	—	—	—	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	△ D ~
	129	青白磁	合子	Q-19	一括	III	6.0	—	—	灰白色	透明釉	内面口縁部無釉	
	130	青白磁	合子	Q-19	一括	III	7.2	—	—	灰白色	透明釉	内面口縁部無釉	
	131	青白磁	合子	—	—	—	5.6	—	—	灰白色	透明釉	外面腰部以下無釉	
	132	青白磁	合子	T-25	13638	III	—	—	—	灰白色	透明釉	腰部から外底面無釉 蓋受け部無釉	
第129図	133	粉青沙器	碗	N-30	188	II	—	—	—	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	白土象嵌
	134	粉青沙器	皿	—	—	—	—	—	—	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	白土象嵌
	135	粉青沙器	瓶	—	—	—	—	—	—	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	白土象嵌
第130図	136	青花	碗	S-22	21681	II	12.4	4.6	6.2	白色	透明釉	置付以外施釉	外面唐草文 内面花文
	137	青花	碗	—	—	—	14.5	6.0	5.4	白色	透明釉	置付以外施釉	
	138	青花	碗	Q	—	—	14.0	—	—	にぶい黄橙色	透明釉	見込みに蛇の目釉剥ぎ	
	139	青花	碗	—	—	—	—	5.0	—	灰白色	透明釉	置付以外施釉	
	140	青花	皿	2T	278	II	—	—	—	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	
	141	青花	皿	—	—	—	—	4.0	—	灰白色	透明釉	腰部から内底面無釉	墓笥底
	142	青花	皿	—	—	—	—	—	4.4	—	浅黄橙色	透明釉	腰部から内底面無釉
第131図	143	中世須恵器 (樺万丈)	鉢	Q-18, SQ-18	一括	III, IV	18.0	—	—	灰白色	—	—	
	144	中世須恵器 (樺万丈)	鉢	Q-19-20	一括	II, III	23.4	—	—	灰白色	—	—	
	145	中世須恵器 (樺万丈)	鉢	Q-19-20S	一括	II	26.2	11.4	9.7	灰白色	—	—	
	146	中世須恵器 (樺万丈)	鉢	R-20, RS-19	一括	IV	—	—	—	灰色	—	—	
	147	中世須恵器 (樺万丈)	甕	SPQ-19, Q-22	一括	III	—	—	—	灰白色	—	—	
	148	中世須恵器 (樺万丈)	甕	—	—	—	32.0	—	—	灰色	—	—	

中世須恵器・瓦質土器観察表

挿図番号	掲載番号	種別	器種	出土区	取り上げ番号	層位	法量(cm)			胎土の色調	釉薬	施釉	備考
							口径	底径	器高				
第132図	149	中世須恵器 (カムイヤキ)	壺	—	一括	II	10.0	—	—	暗赤褐色	—	—	
	150	中世須恵器 (カムイヤキ)	壺	T-25, S-26	14983, 18627, 16058, 15331	II, III	—	—	—	灰色	—	—	
	151	中世須恵器 (カムイヤキ)	壺	RS-19	一括	III	14.0	—	—	にぶい赤褐色	—	—	
	152	中世須恵器 (カムイヤキ)	壺	S-24, T-24, C-24	4832, 11587, 13442	II	—	—	—	暗赤褐色	—	—	
	153	中世須恵器 (カムイヤキ)	壺	S-25	1170, 1708	II	—	—	—	灰色	—	—	
	154	中世須恵器 (カムイヤキ)	壺	S-24・25	11985, 13122	II	—	—	—	灰褐色	—	—	
	155	中世須恵器 (カムイヤキ)	壺	5T	773	II	—	—	—	暗赤褐色	—	—	
	156	中世須恵器 (カムイヤキ)	壺	S-24	4825	II	—	—	—	暗赤褐色	—	—	
	157	中世須恵器 (カムイヤキ)	壺	R-25	5293	II	—	—	—	褐色	—	—	
	158	中世須恵器 (カムイヤキ)	壺	R-27, S-27, T-26	18434, 17696, 15284	II	—	—	—	灰白色	—	—	
第133図	159	東播系須恵器	鉢	T-24, S-24	14110, 4829	II	24.0	—	—	灰色	—	—	小石粒含む
	160	瓦質土器	擂鉢	Q-20	一括	III	29.6	—	—	灰白色	—	—	小石粒含む
	161	瓦質土器	擂鉢	RS-20	一括	—	—	—	—	灰白色	—	—	
	162	瓦質土器	擂鉢	T-20	2020, 2022	III	—	13.0	—	淡黄色	—	—	小石粒含む
	163	瓦質土器	擂鉢	T-24	12295	II	—	15.4	—	灰白色	—	—	小石粒含む
	164	瓦質土器	擂鉢	S-25	12979	II	—	9.8	—	淡黄色	—	—	小石粒含む
	165	瓦質土器	擂鉢	Q-23	7490	II	—	17.0	—	灰白色	—	—	
第134図	166	瓦質土器	擂鉢	—	—	—	—	11.0	—	浅黄橙色	—	—	
	167	瓦質土器	火鉢	R-18	一括	—	—	—	—	黄灰色	—	—	
	168	瓦質土器	火鉢	T-25	7373	II	—	—	—	灰黄色	—	—	
	169	瓦質土器	火鉢	S-15	一括	—	—	—	—	浅黄色	—	—	
	170	瓦質土器	火鉢	RS-18	一括	II	—	—	—	灰色	—	—	
	171	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	—	—	灰白色	—	—	
	172	瓦質土器	火鉢	T-21	5764	III	—	—	—	淡黄色	—	—	
	173	瓦質土器	茶釜?	SQ-20, QR-19, SPQ-18-19	一括	III	—	—	—	灰白色	—	—	
	174	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	28.6	—	黄灰色	—	—	
	175	瓦質土器	火鉢	S-20	1672	III	—	30.0	—	にぶい黄橙色	—	—	
第135図	176	瓦質土器	火鉢	S-23	—	—	—	23.4	—	浅黄橙色	—	—	
	177	瓦質土器	鉢	—	—	—	20.0	—	6.0	灰白色	—	—	
	178	瓦質土器	壺	Q-18	一括	II	28.4	—	—	灰黄色	—	—	
	179	瓦質土器	鉢	T-19・20, R-21・ 23, P-26, S地点 -2T	9898, 10726, 3451, 2138, 3283, 3682, 06, 633, 525, 5800	II, III, IV	36.6	—	—	灰白色	—	—	赤色の石粒含む
	180	瓦質土器	鉢	R-22	20506	III	34.2	—	—	灰黄色	—	—	小石粒含む
第136図	181	炻器(備前)	壺	—	—	—	33.0	—	—	暗赤色	灰釉	—	
	182	炻器(常滑)	甕	—	—	—	54.0	—	—	極暗赤色	鐵釉	—	
	183	不明	鉢?	—	—	—	33.4	—	—	褐灰色	灰釉	—	
	184	炻器(備前)	壺	R-21, 2T, S-20	5330	II, III	—	15.0	—	にぶい橙色	—	—	小石粒含む
第137図	185	中世土師器	香炉?	R-20	6193	V	—	—	—	橙色	—	—	
	186	土師質土器	焰燈	—	—	—	—	—	—	灰黄色	—	—	
	187	土師質土器	焰燈	T-19	一括	III, IV	—	—	—	浅黄橙色	—	—	
	188	中世土師器	紡錘車	S-26	16114	II	—	—	—	にぶい黄橙色	—	—	
	189	瓦質土器	鞴	Q-19	一括	II	—	—	—	にぶい橙色	—	—	

4 近世以降の調査

(1) 遺構 (第140~143図)

近世以降の時代に相当すると思われる遺構としては、R調査区から杭列、P調査区から石臼が廃棄された土坑、溝、良福寺和尚墓が検出された。

柱穴 (第140図)

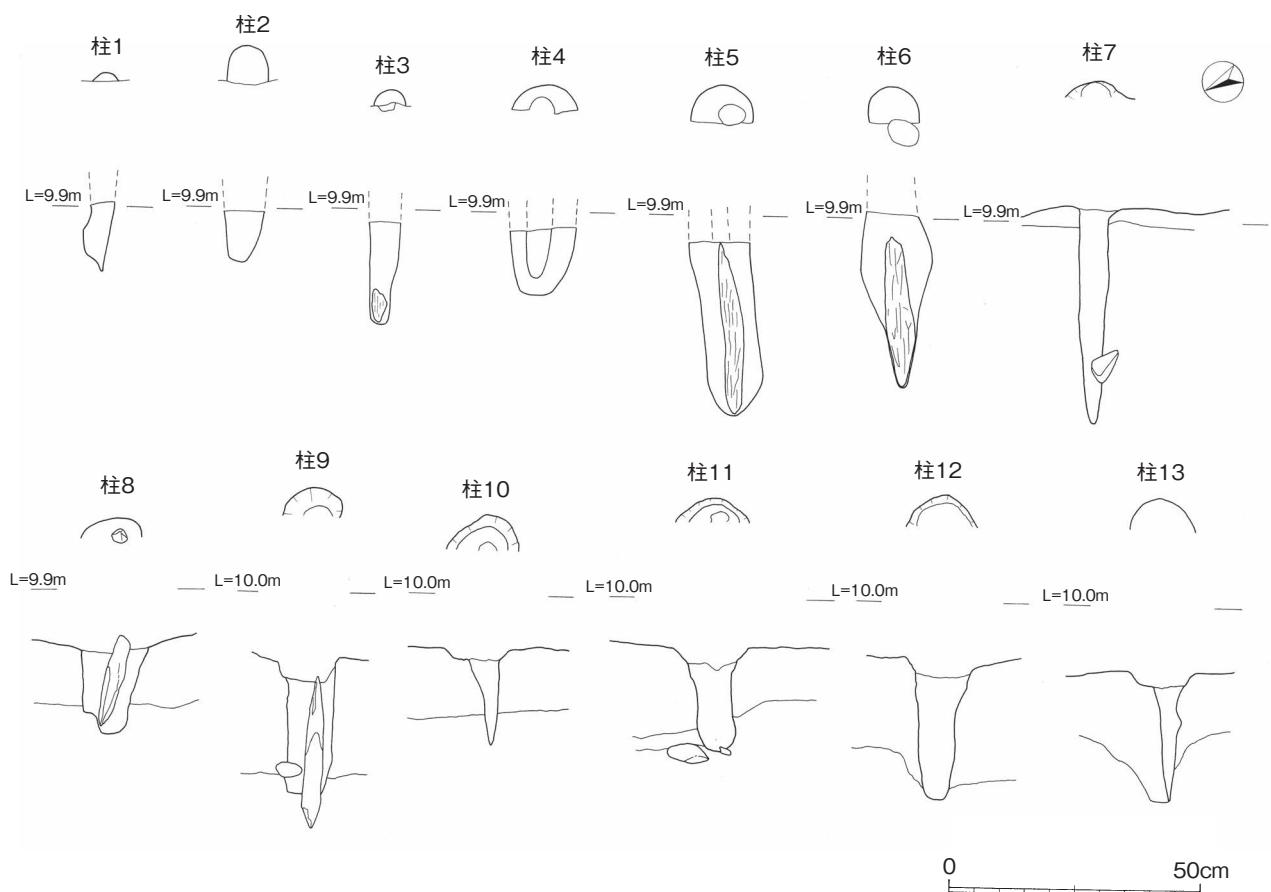
R調査区のT-24, S-24・25区、Ⅲ層で検出された。柱穴は東西方向を軸に13基並ぶ。柱穴3・5・6・8・9については、柱が残存する状況であった。近世以降のものと思われる。

溝 (第141図 P調査区)

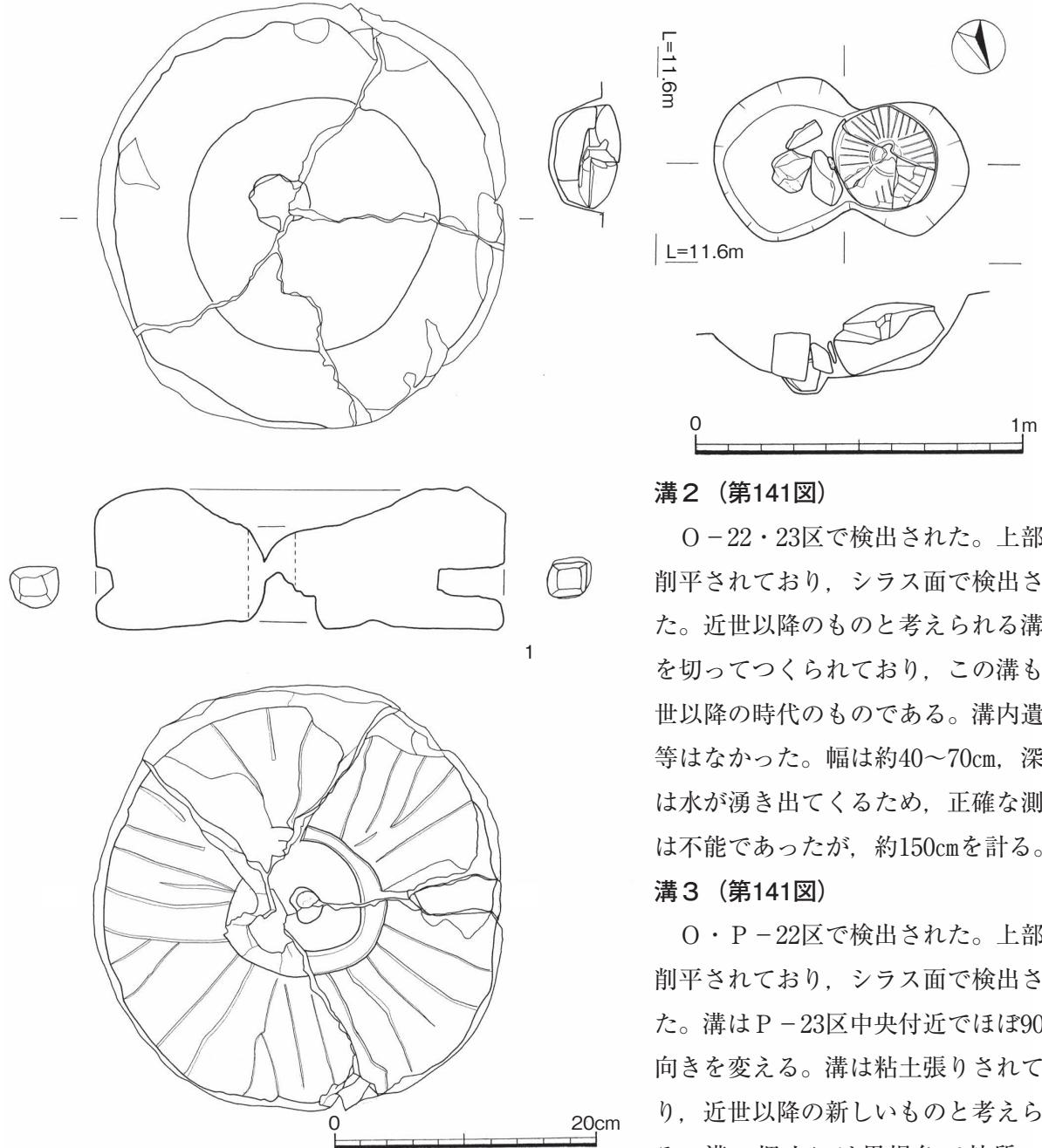
P調査区において、暗渠と思われる溝2条と粘土貼の溝1条が検出された。

溝1 (第141図)

O・P-21~24区で検出された。上部は削平を受けており、シラス面での検出である。近世以降につくられたと考えられる溝3を切っていることから、溝1も近世以降の溝と判断した。溝はO-23区、24区境付近でほぼ直角に曲がり、P-24区で検出不能となったが、その先は近世墓のほうへ延びると思われる。幅は約60~110cm、深さは非常に深く、約150cmであった。水がしみ出してくる状況であったため、溝の断面図は実測不可能であった。溝内からの出土遺物はみられない。



第140図 柱穴 1~13



第142図 石臼廃棄土坑

石臼廃棄土坑（第142図）

P調査区、P-23区のシラス面で検出された。埋土は淡褐色砂質土である。土坑としたが、掘り込みが人為的なものであるか、石臼の重みで凹んだものかははっきりしない。

良福寺和尚墓（第143図）

P-23区で検出された。第十世松山大和尚、第十四世萬春大和尚の墓石である。萬春大和尚に近接して加藤家のものと思われる墓石が存在することから、良福寺の墓石は破壊され現位置に転落もしくは廃棄されたものと思われる。萬春大和尚墓は無縫塔（円柱状）のものであるが、松山和尚墓は角柱状で荒削りなつくりである。萬春大和尚墓にはホゾがあり、また隣接する墓石の一部にはホゾ穴があり、一対のものであった可能性も考えられる。

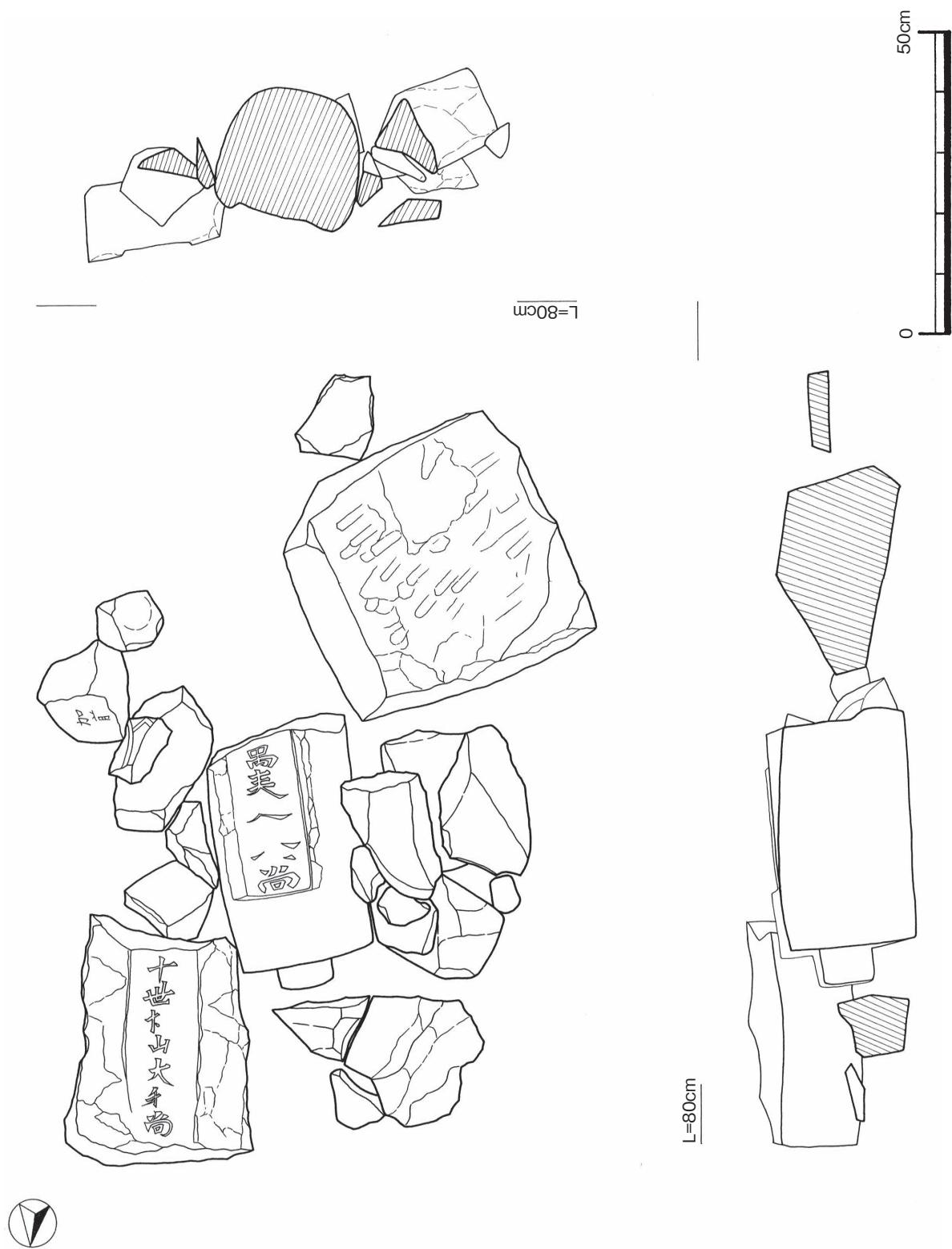
溝2（第141図）

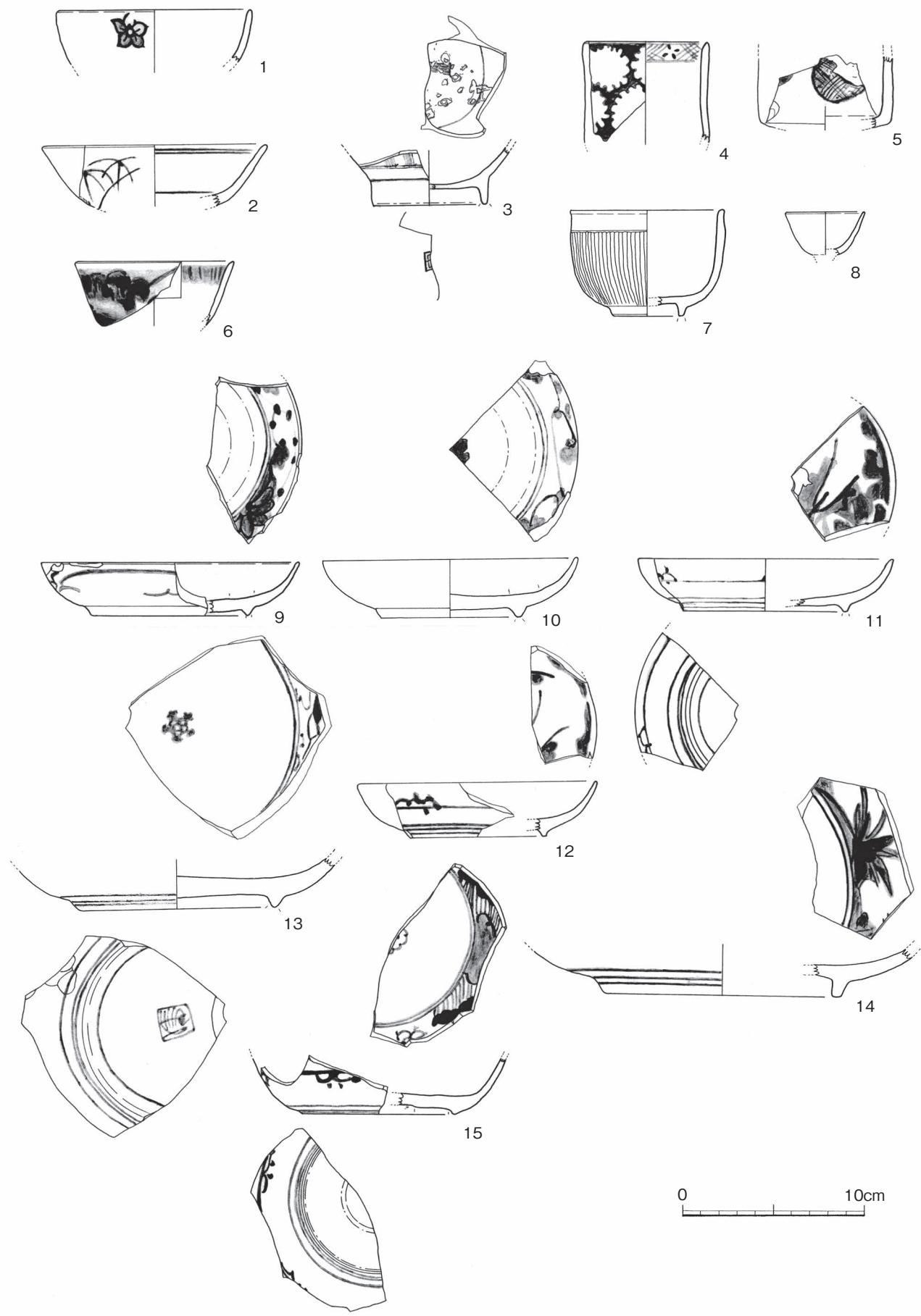
O-22・23区で検出された。上部は削平されており、シラス面で検出された。近世以降のものと考えられる溝3を切ってつくられており、この溝も近世以降の時代のものである。溝内遺物等はなかった。幅は約40~70cm、深さは水が湧き出てくるため、正確な測定は不能であったが、約150cmを計る。

溝3（第141図）

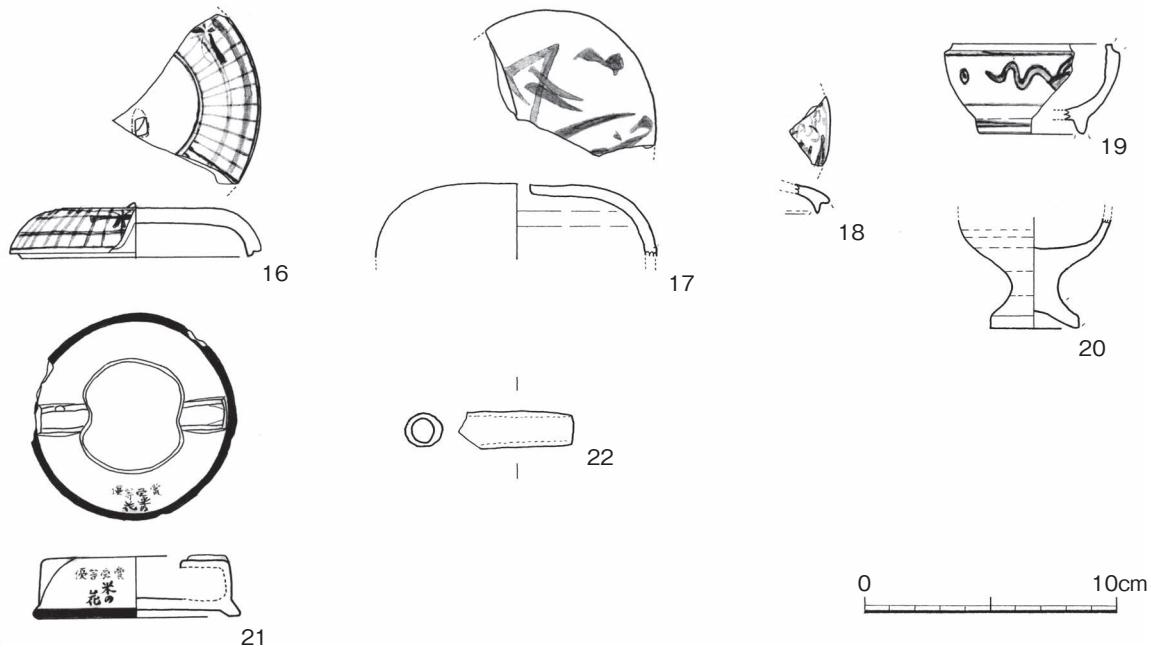
O・P-22区で検出された。上部は削平されており、シラス面で検出された。溝はP-23区中央付近でほぼ90度向きを変える。溝は粘土張りされており、近世以降の新しいものと考えられる。溝の埋土には黒褐色で粘質のブロックと砂質でパミス混じりのブロックが入る。

第143図 良福寺和尚墓検出状況





第144図 磁器 1



第145図 磁器2

(2) 遺物

近世以降の遺物としては、量的には多くないが陶磁器が出土している。G調査区の郷土屋形跡に関連するものの可能性が考えられる。

磁器（第144・145図）

1～8は碗類である。1は丸形碗で、外面にコンニャク印判で花文が描かれる。2は外面に筐文が描かれる碗である。3は廣東碗である。4は茶飲み碗、5は筒形碗である。6は在地系と思われる端反碗である。7は肥前系の湯飲み碗である。外面には細い縦方向の櫛目が型押しで入れられる。8は肥前系の白磁の小壺である。

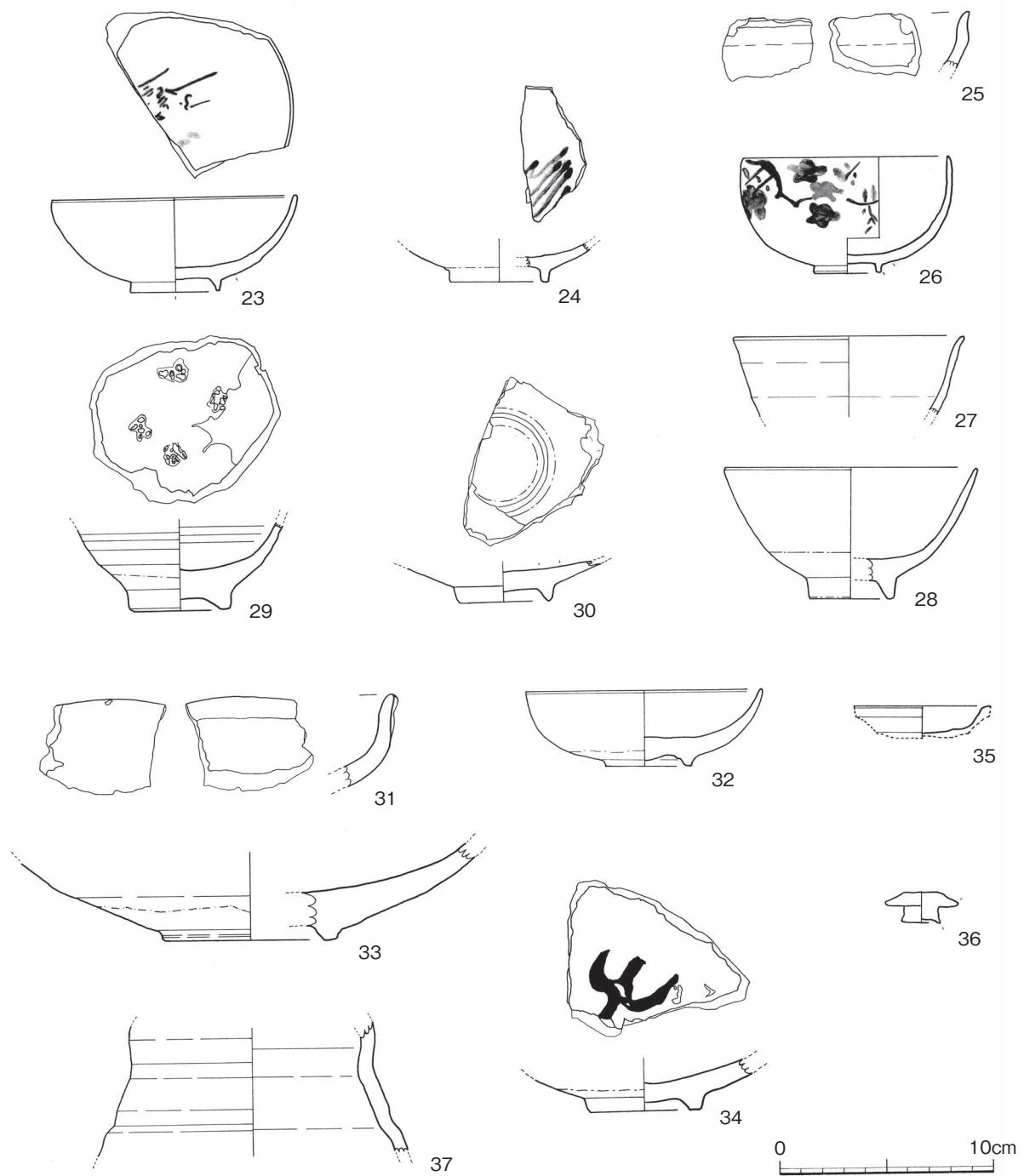
9～15は皿である。9～12・15は中形の皿である。9・10は波佐見焼で、9は見込みに蛇の目釉剥ぎが施され、10は見込み中央にコンニャク印判五弁花が観察される。11は見込みに木の葉文が描かれる。15は高台が蛇の目凹型高台をなすものである。13・14は大皿である。13は見込みにコンニャク印判の五弁花、裏銘に「渦福」が描かれる。14は肥前の大皿である。

16～17は蓋物の蓋である。16は上面にアーチ状のつまみがつく。17は帆掛け船の文様が描かれる。

19は蓋物の身の部分である。20は白磁の仏飯器である。21は灰皿である。近代以降のもので、「米の花」という焼酎が優秀受賞した際の記念品と思われる。22は馬の尻がいである。外面は銅緑色を呈する。

陶器（第146～149図）

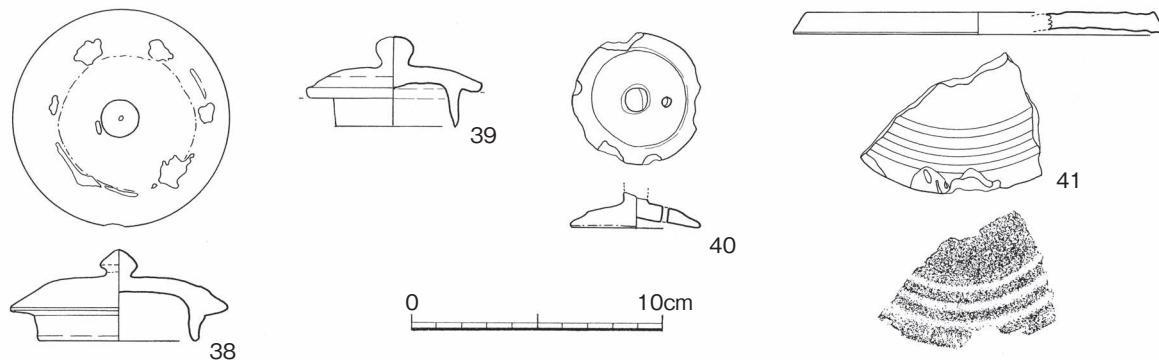
23～29は碗である。23・24は肥前の京焼風陶器である。外面腰部から高台内面は露胎する。25は瀬戸・美濃の天目碗であり。26は京焼である。27～29は薩摩焼龍門司系の碗である。27は内外面黒



第146図 陶器 1

釉がかかる。28は白化粧に透明釉がかかる二彩手である。29は見込みにゴマ目が残るもので、褐釉が内面と外面腰部までかかる。30は畠付以外全面に鉄釉がかかり、見込みは蛇の目釉剥ぎが施される。

30~34は皿である。すべて唐津焼である。31・33は同一個体である可能性がある。33は柱穴内から出土したものである。遺構として取り上げなかったため、出土遺物はここに掲載した。高台径は小さく、外面は腰部まで施釉される。34は鉄絵唐津である。35は、紅皿等の器種と思われるもので、



第147図 陶器2

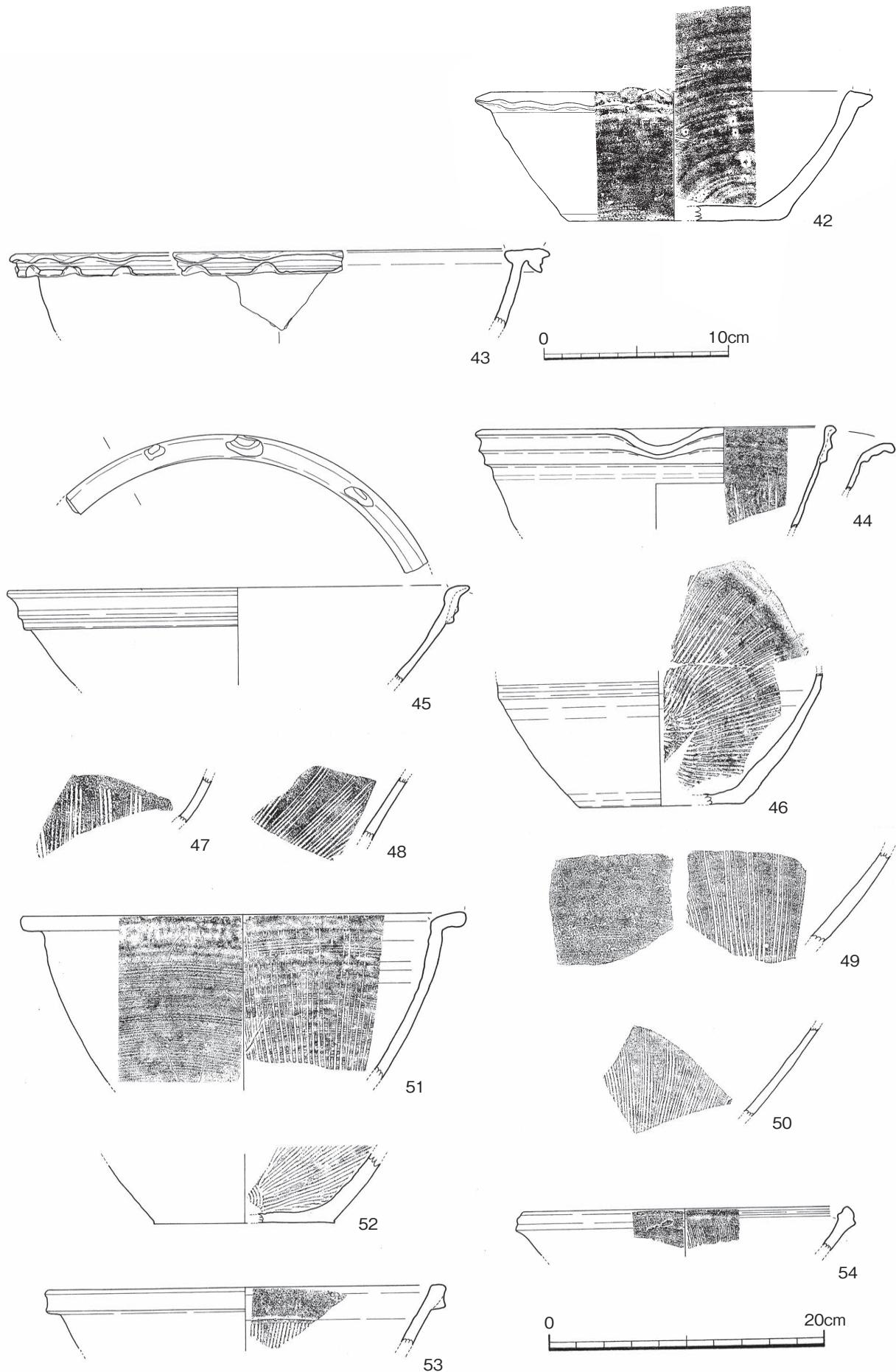
型押し成形のため外側が外れてしまったものである。36は瓶の蓋である。37は一般的に白薩摩と呼ばれる白色陶胎の仏花器である。

38～40は土瓶蓋である。38の上面には重ね焼きの痕跡が残る。40は急須蓋で、龍門司焼の鮫肌である。41は陶製の蓋である。下面に貝目が残る。

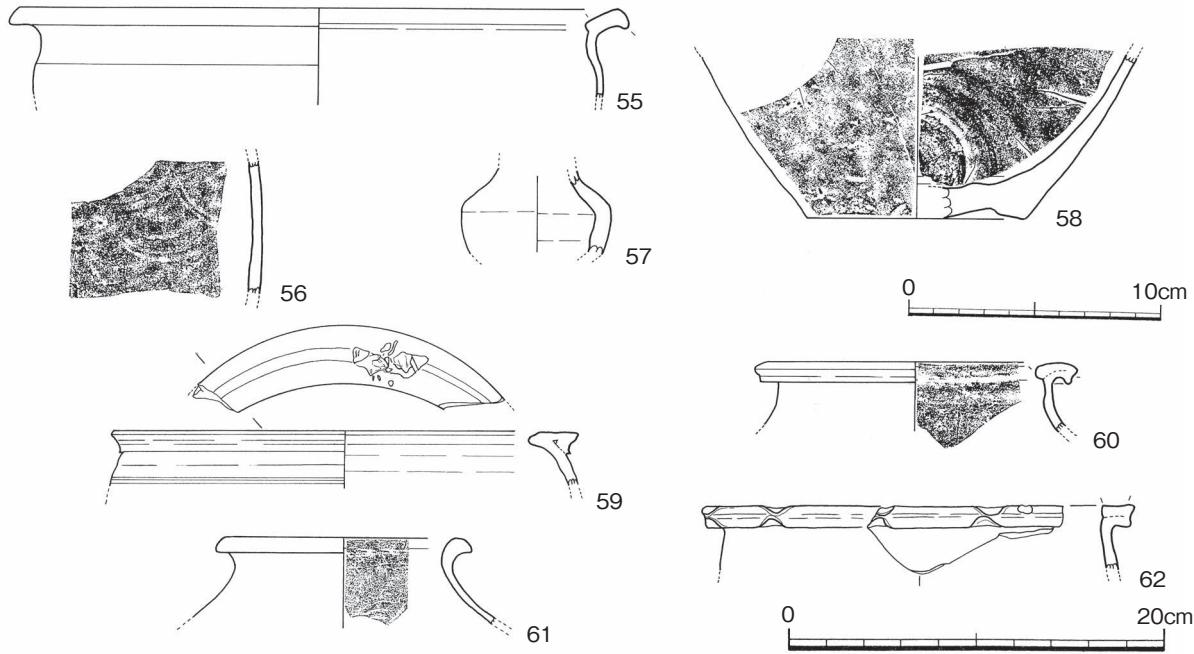
42・43は口縁部に装飾を施したもので、鉢、甕または植木鉢の可能性のあるものである。42は口唇部を除き施釉されるが、43は小片のため内面の施釉状況は不明である。

44～54は擂鉢である。44～50は薩摩焼苗代川系の堂平窯の製品と思われるものである。44は器壁が非常に薄く、胎土は緻密であるが層状にはなっていない。口縁部は外側に折り返して肥厚させ、2段の突帯をつくる。擂り目はほとんど確認できず、擂り目の上端は余白を残す。堂平窯Ⅰ期（17世紀前半）のものと思われる。45～50は堂平窯Ⅱ期（17世紀後半）のものと思われる。51・52は薩摩焼苗代川系のもので、51は口縁部が「L」字状を呈するものである。擂り目の先端は口縁部まで達し、擂り目の下に横方向の調整痕が残る。52は底部である。53・54は産地不明の擂鉢である。53は擂り目の上端をナデ消して余白部をつくるものである。外面に鉄釉がかかる。54は焼き締めである。

55～57は薩摩焼苗代川系のもので、17世紀前半の初期薩摩焼と思われる。55は片口の口縁部である。胎土は層状をなし、串木野窯の製品である可能性も考えられる。56は甕の胴部である。内面に同心円状のタタキ目が残る。57は器種不明のものである。外面は灰釉、内面は透明釉がかかる。58は畳付を除き褐釉がかかるもので、鉢であると思われる。59は苗代川系の甕である。口唇部には貝目が残る。60・61は壺である。60は大形、61は小形のものである。どちらも器壁は非常に薄く、胎土は緻密である。苗代川系の初期薩摩焼である。62は口唇部をつまんで装飾を施すもので、植木鉢または甕と思われる。



第148図 陶器3



第149図 陶器 4

陶磁器観察表

掲図番号	掲載番号	種別	分類	器種	産地	出土区	取り上げ番号	層位	法量(cm)	胎土の色調	釉薬の色調	施釉	時期	備考			
第144図	1	染付	碗	丸碗	肥前	—	—	—	10.0	—	—	透明釉	残存部全面施釉	18世紀前葉から中葉	コンニャク印判花文		
	2	染付	碗	丸碗	肥前系	—	—	—	12.4	—	—	透明釉	残存部全面施釉	1820~1860年代	筆文		
	3	染付	碗	広東碗	肥前	—	—	—	6.2	—	—	透明釉	畠付以外施釉	1780~1810年代			
	4	染付	碗	茶飲み碗?	肥前	—	—	—	6.7	—	—	透明釉	残存部全面施釉	18世紀後半	白抜き雪の輪文		
	5	染付	碗	筒形碗	肥前	P-18	—	井戸	—	—	—	透明釉	残存部全面施釉	18世紀後半	丸文		
	6	染付	碗	碗	肥前	—	—	—	18.8	—	—	透明釉	残存部全面施釉	1820~1860年代			
	7	白磁	碗	湯飲み碗	肥前系	—	—	—	7.4	3.7	5.8	灰白色	畠付以外全面施釉	1820~1860年代			
	8	白磁	小环	中皿	肥前系	—	—	—	4.4	—	—	透明釉	残存部全面施釉	18世紀末から幕末			
	9	染付	皿	中皿	肥前系	—	—	一括	14.2	8.2	2.9	灰白色	高台以外施釉	18世紀後半	蛇の目釉剥ぎ		
	10	染付	皿	中皿	肥前波佐見	—	—	—	14.0	7.6	3.2	灰白色	透明釉	畠付以外全面施釉	18世紀後半	唐草文 コニャク印判五弁花	
	11	染付	皿	中皿	肥前	—	—	—	14.0	9.0	2.9	灰白色	透明釉	畠付以外施釉	1790年代~18世紀第1四半期	木の葉文	
	12	染付	皿	中皿	肥前	2T	818	III	13.0	7.4	3.0	灰白色	透明釉	畠付以外施釉	18世紀後半		
	13	染付	皿	大皿	肥前波佐見	—	—	—	10.6	—	—	透明釉	畠付以外施釉	18世紀第2四半期~第3四半期	裏銘(渦福)		
	14	染付	皿	大皿	肥前	P-18	—	一括	—	—	13.0	—	透明釉	畠付以外施釉	17世紀末~18世紀第1四半期		
	15	染付	皿	中皿	肥前系	—	—	—	8.4	—	—	灰白色	透明釉	蛇の目凹型高台	18世紀第4四半期~19世紀第1四半期		
第145図	16	染付	蓋	蓋	肥前	Q	—	一括	9.2	—	—	灰白色	透明釉	身請け部は無釉	18世紀後半		
	17	染付	蓋	蓋	在地	—	—	—	—	—	—	透明釉	残存部全面施釉	19世紀代			
	18	染付	蓋	蓋	肥前	—	—	—	—	—	—	透明釉	身請け部と畠付無釉	18世紀後半?			
	19	染付	鉢	蓋もの	肥前	Q-19	—	一括	III	6.4	4.2	3.6	灰白色	透明釉	蓋受け部と畠付無釉	18世紀後半?	
	20	白磁	仏具	仏飯器	在地	—	—	—	—	—	—	3.6	透明釉	脚部下位から外底無釉	19世紀代		
	21	陶器	灰皿	薩摩苗代川系	—	—	—	—	—	2.4	8.2	—	透明釉	畠付以外施釉	近代	白薩摩	
第146図	22	磁器	一	尻がい	在地	QR-17-18	—	一括	II	1.5	—	—	灰白色	—	外底のみ施釉	19世紀代	
	23	陶器	碗	丸碗	肥前	—	—	—	11.6	6.2	4.4	灰白色	透明釉	内面と外底腰部まで施釉	1690年代~18世紀初頭	見込みに鉄絵	
	24	陶器	碗	丸碗	肥前	—	—	—	—	4.6	—	淡黄色	透明釉	内面と外底腰部まで施釉	1690年代~19世紀初頭	見込みに鉄絵	
	25	陶器	碗	天目碗	瀬戸物	—	—	—	—	—	—	浅黄褐色	黒釉	残存部全面施釉	16世紀後半~17世紀初頭		
	26	陶器	碗	丸碗	京焼き	—	—	—	9.6	3.2	5.4	灰白色	透明釉	内面と外底腰部まで施釉	18世紀末	外面に上絵	
	27	陶器	碗	碗	薩摩龍門司系	—	—	—	10.8	—	—	灰白色	黒釉	残存部全面施釉	18世紀後半		
	28	陶器	碗	碗	薩摩龍門司系	—	—	—	11.8	4.0	6.1	灰白色	透明釉	白地に鶴紋付から音舌内面無釉 施釉剥離	18世紀後半	三彩手	
	29	陶器	碗	碗	薩摩龍門司系	R-16	—	一括	III	—	4.8	—	褐灰色	透明釉	内面と外底腰部まで施釉	19世紀後半	見込みに目跡有り
	30	陶器	皿	皿	肥前	T-15	—	一括	I	—	4.2	—	灰白色	鉄釉	瓶の目跡有り 畠付以外施釉	18世紀前半	
	31	陶器	皿	大皿	肥前	—	—	—	—	—	—	黒褐色	鉄釉	残存部全面施釉	1590年代~1610年代		
	32	陶器	皿	小皿	肥前	Q-22	21091	II	11.0	4.0	3.5	黄褐色	透明釉	内面と外底腰部まで施釉	1580~1610年代		
	33	陶器	皿	大皿	肥前	—	—	—	—	8.1	—	褐色	灰釉	内面と外底腰部まで施釉	1590年代~1610年代		
	34	陶器	皿	大皿	肥前	—	—	—	—	5.2	—	褐色	灰釉	内面と外底腰部まで施釉	1590~1610年代	見込みに鉄絵	
	35	陶器	皿	紅皿?	在地?	Q-20	—	一括	IV	—	6.4	—	灰白色	透明釉	内面施釉	19世紀代	型押し成形 底部剥離
	36	陶器	蓋	瓶蓋	在地	S-19	—	一括	IV	—	3.4	—	灰色	透明釉	上部のみ施釉	18世紀後半~19世紀	底径はつまみ径
	37	陶器	仏具	仏花器	薩摩堅野系	—	—	—	—	—	—	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀代		
第147図	38	陶器	蓋	土瓶蓋	薩摩苗代川系	—	—	—	6.2	8.7	3.6	暗褐色	鉄釉	上面のみ施釉	18世紀後半~19世紀代	底径は上径	
	39	陶器	蓋	土瓶蓋	薩摩苗代川系	P-18	—	—	4.9	7.0	3.6	にぶい赤褐色	鉄釉	上面のみ施釉	18世紀後半~20世紀代	底径は上径	
	40	陶器	蓋	土瓶蓋	薩摩龍門司系	T-19	—	一括	IV	5.2	—	にぶい黄褐色	鉄釉	上面のみ施釉	19世紀代		
	41	陶器	蓋	蓋	薩摩苗代川系	T-19	232	—	—	14.8	—	赤色	—	—	19世紀代		
	42	陶器	鉢	鉢	薩摩苗代川系	T-18	—	—	21.2	13.0	7.7	暗赤色	鉄釉	口唇部釉剥ぎ	18世紀代	口縁部先端装飾	
第148図	43	陶器	鉢	鉢	薩摩苗代川系	T-19	—	一括	III, N	28.5	—	暗赤褐色	鉄釉	口唇部釉剥ぎ	18世紀後半~19世紀代	口縁部先端装飾	
	44	陶器	鉢	播鉢	薩摩苗代川系	R-22	2332.2454	II	26.2	—	—	黄褐色	灰釉	口唇部釉剥ぎ	17世紀前半		
	45	陶器	鉢	播鉢	薩摩苗代川系	S-18・19	—	一括	—	33.2	—	にぶい赤褐色	灰釉	口唇部釉剥ぎ	17世紀後半	口唇部に貝目	
	46	陶器	鉢	播鉢	薩摩苗代川系	—	—	—	—	11.8	—	褐灰色	鉄釉	残存部全面施釉	17世紀後半		
	47	陶器	鉢	播鉢	薩摩苗代川系	P-18	—	—	—	—	—	暗赤灰色	灰釉	残存部全面施釉	17世紀後半		
	48	陶器	鉢	播鉢	薩摩苗代川系	P-18	—	—	—	—	—	赤褐色	灰釉	残存部全面施釉	17世紀後半		
	49	陶器	鉢	播鉢	薩摩苗代川系	—	—	—	—	—	—	暗赤褐色	鉄釉	残存部全面施釉	18世紀代		
	50	陶器	鉢	播鉢	薩摩苗代川系	—	—	—	—	—	—	橙色	灰釉	残存部全面施釉	17世紀後半		
	51	陶器	鉢	播鉢	薩摩苗代川系	—	—	—	31.8	—	—	にぶい赤褐色	鉄釉	口唇部釉剥ぎ	18世紀代		
	52	陶器	鉢	播鉢	薩摩苗代川系	—	—	—	—	13.0	—	褐灰色	鉄釉	外底面無釉	19世紀代		
	53	陶器	鉢	播鉢	薩摩苗代川系?	—	—	—	29.2	—	—	灰釉	鉄釉	不明	19世紀代?		
	54	陶器	鉢	播鉢	薩摩苗代川系?	T-19	3212	III	23.6	—	—	暗褐色	鉄釉	—	20世紀代?		
第149図	55	陶器	鉢	片口	薩摩苗代川系	—	—	—	24.0	—	—	黄灰色	鉄釉	口唇部釉剥ぎ	17世紀前半		
	56	陶器	蓋?	蓋?	薩摩苗代川系	T-18	—	一括	—	—	—	褐灰色	鉄釉	残存部は全面施釉	17世紀前半		
	57	陶器	不明	不明	薩摩苗代川系	RS-18・19	—	一括	—	—	—	灰色	鉄釉	外底面のみ施釉	17世紀代		
	58	陶器	鉢	薩摩苗代川系?	—	—	—	—	8.6	—	—	灰黃褐色	鉄釉	畠付から高台内面無釉	18世紀代?		
	59	陶器	蓋	蓋	薩摩苗代川系	—	—	—	25.0	—	—	暗褐色	鉄釉	口唇部釉剥ぎ	17世紀後半		
	60	陶器	壺	壺	薩摩苗代川系	—	—	—	17.2	—	—	褐灰色	鉄釉	口唇部釉剥ぎ	17世紀後半		
	61	陶器	壺	壺	薩摩苗代川系	D-18・R-17-18	—	一括	II	9.6	—	褐灰色	鉄釉	口唇部釉剥ぎ	17世紀後半		
	62	陶器	鉢	植木鉢?	薩摩苗代川系	—	—	—	23.0	—	—	にぶい赤褐色	鉄釉	口唇部釉剥ぎ	18世紀後半		

P・R・S区の石器、石製品

ここでは、I～IV層の石器、石製品を一括して扱う。なぜなら、各層にわたって縄文土器が出土しており、本来の包含層による明確な時期区分ができないからである。例えば、縄文晩期の土器はII、III層に多いが、早期の土器もII～V層にわたって出土している。これは、古代～近世に渡る搅乱のためであろうと考えている。

磨製石斧（1～17）

17本のうち完形は1の一本だけである。1は大型であり着柄のためか頭部近くに抉りが作り出されており、このような特徴は早期の大型石斧に多い。対象的なものが2である。これもまた早期からよく見られるものであるが、「鑿」のような使い方を想定させる小型の石斧である。

4は刃部から縦に避けるような破損の後、再度研磨して作り直したものである。11もまた、破損した石斧を作り直したようである。7～10は磨製石斧の未製品である。整形剥離の段階で放棄されたもので、敲打、研磨工程までに至っていない。7はやや図がおかしいが、8や9とともに縦の基軸が直線的であり、例えば、打製石斧の18のように縦の基軸が湾曲しない。

打製石斧（18～30）

18と26は、平面形状が磨製石斧の未製品と同じであるが、磨製石斧の項で書いたように縦の基軸面が湾曲する。湾曲した基軸面を持つと刃先の向きと力のベクトルが一致しない、いわゆる「刃が立つ」状態にならないので、木の伐採等には適さないが、掘棒の先端具としてみれば、土を掻き出すのに湾曲した基軸が適しているから、これは磨製石斧の未製品ではなく、土掘り具としての打製石斧である。ほかはいずれも縄文晩期等に特有な着柄のための抉入部を持つ打製石斧である。30は打製石斧の折損品を転用した敲石である。

石鏃（31～74）

小形三角鏃、鍬形鏃、鋸歯縁鏃、有肩鏃等、有茎鏃を除く縄文時代の石鏃の形がそろっている。一方、石材は黒曜石、黒色安山岩、頁岩、鉄石英であり、よく見られるタンパク石やチャート製が見られないのが特徴である。

削器（75～78、80）

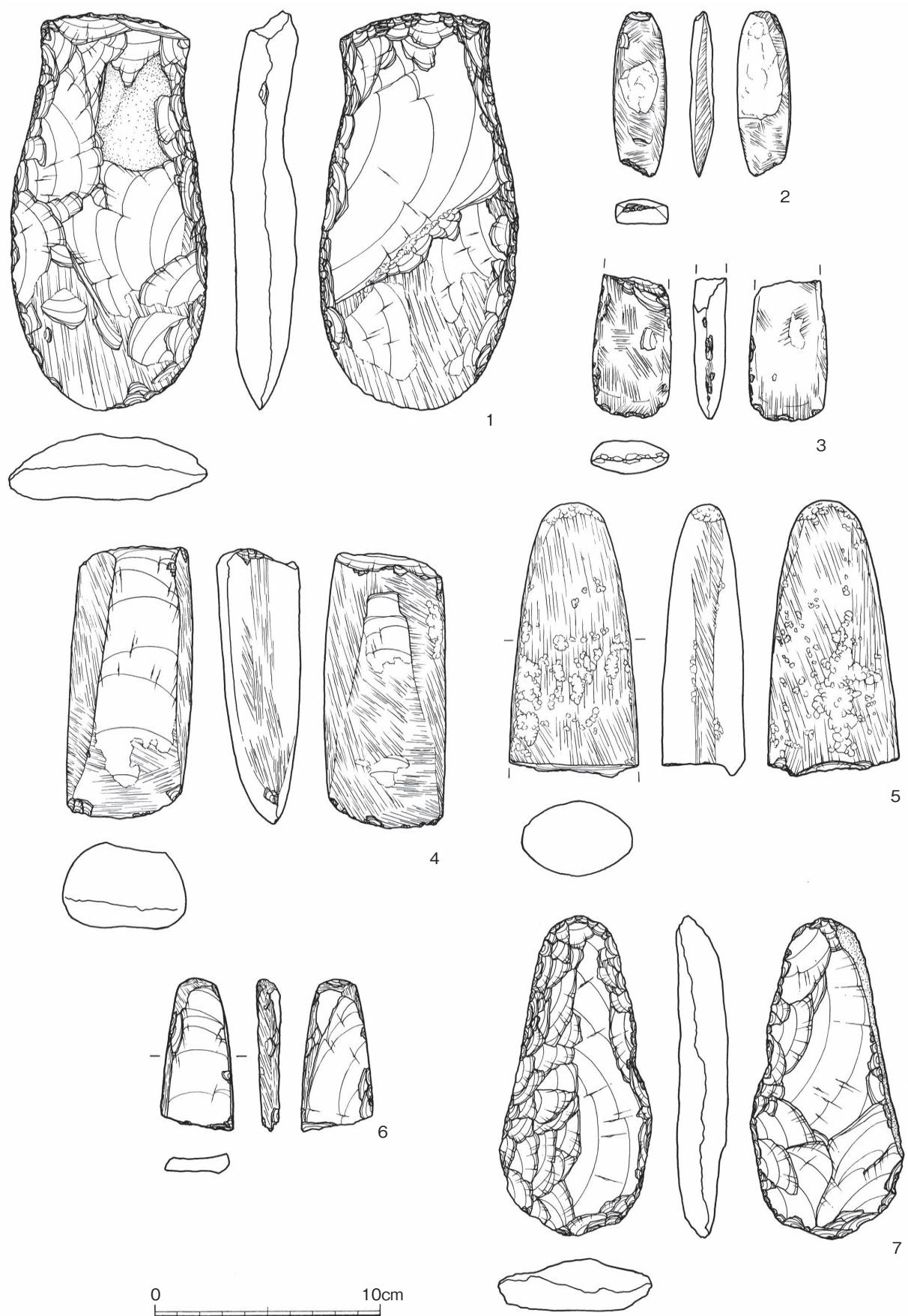
いずれも不定形剥片を素材とするものであり、両刃の刃部が作られている。75は頁岩製でありラフな整形剥離が表面には施されている。また、頭部近くには抉入した刃部が、下端にも刃部が作られている。77も頁岩製であり、曲線の両側縁の刃部が特徴的である。76、80は黒色安山岩製であり、76は下縁の直線的な刃部が、80は左側縁の曲線の刃部が特徴的である。5点とも縄文時代の所産であろう。

異形石器（79、81）

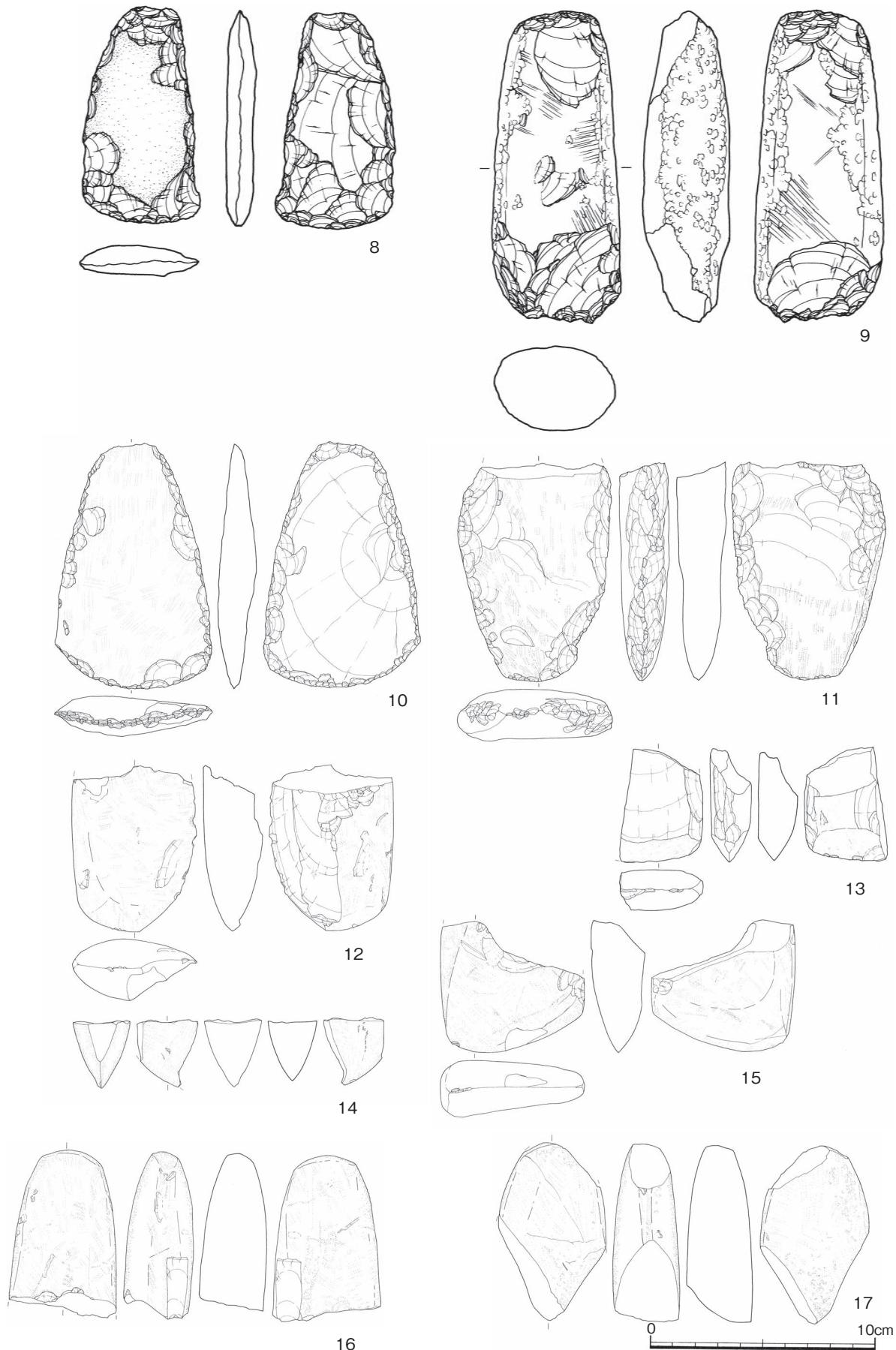
この2点は、黒曜石製であり、同一母岩と思われる。さらに整形剥離の有りようや断面形、平面形を見ると同一個体と思われる。おそらく中間部を欠損したものであろう。断面形はいびつな菱形を呈し、平面形は79、81ともに側縁が蛇行しており、くねる蛇体のような形をしているものと思われる。79の折断面はパティナが新しい。

石匙（82、85）

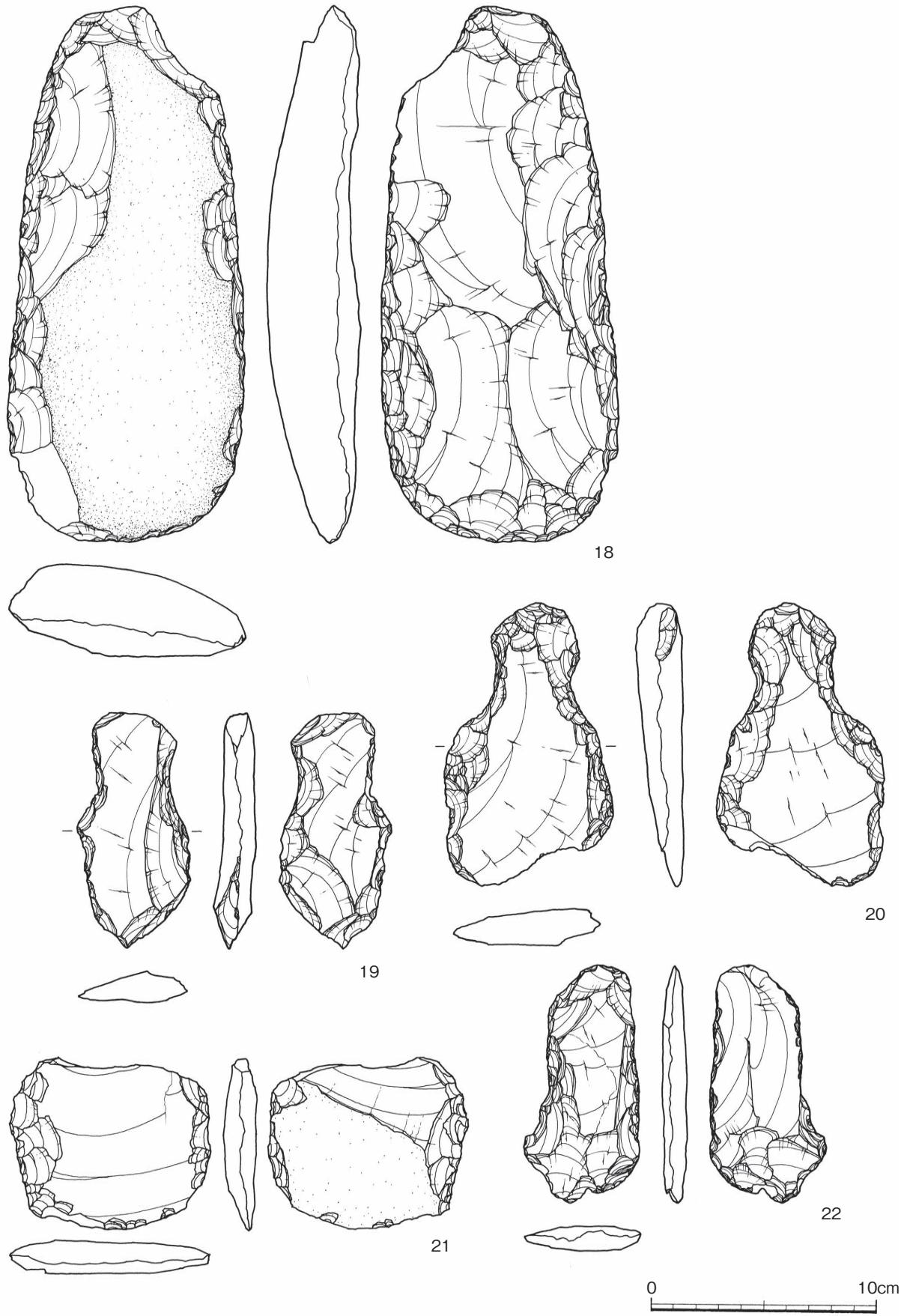
82、85ともに黒曜石製である。82は寸詰まりの縦長剥片を素材とする縦形石匙で、平行する小さ



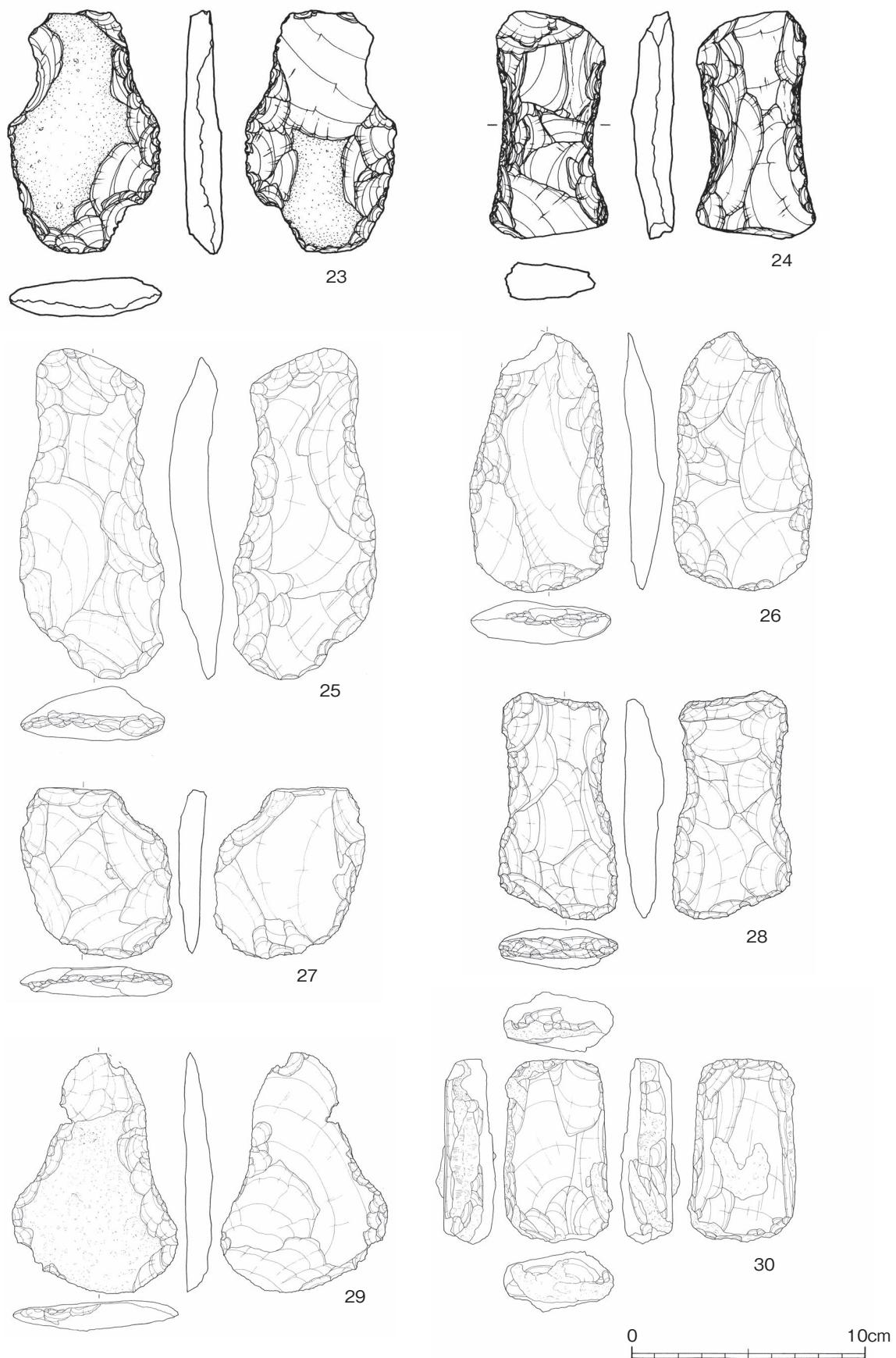
第150図 P·R·S区の石器 1



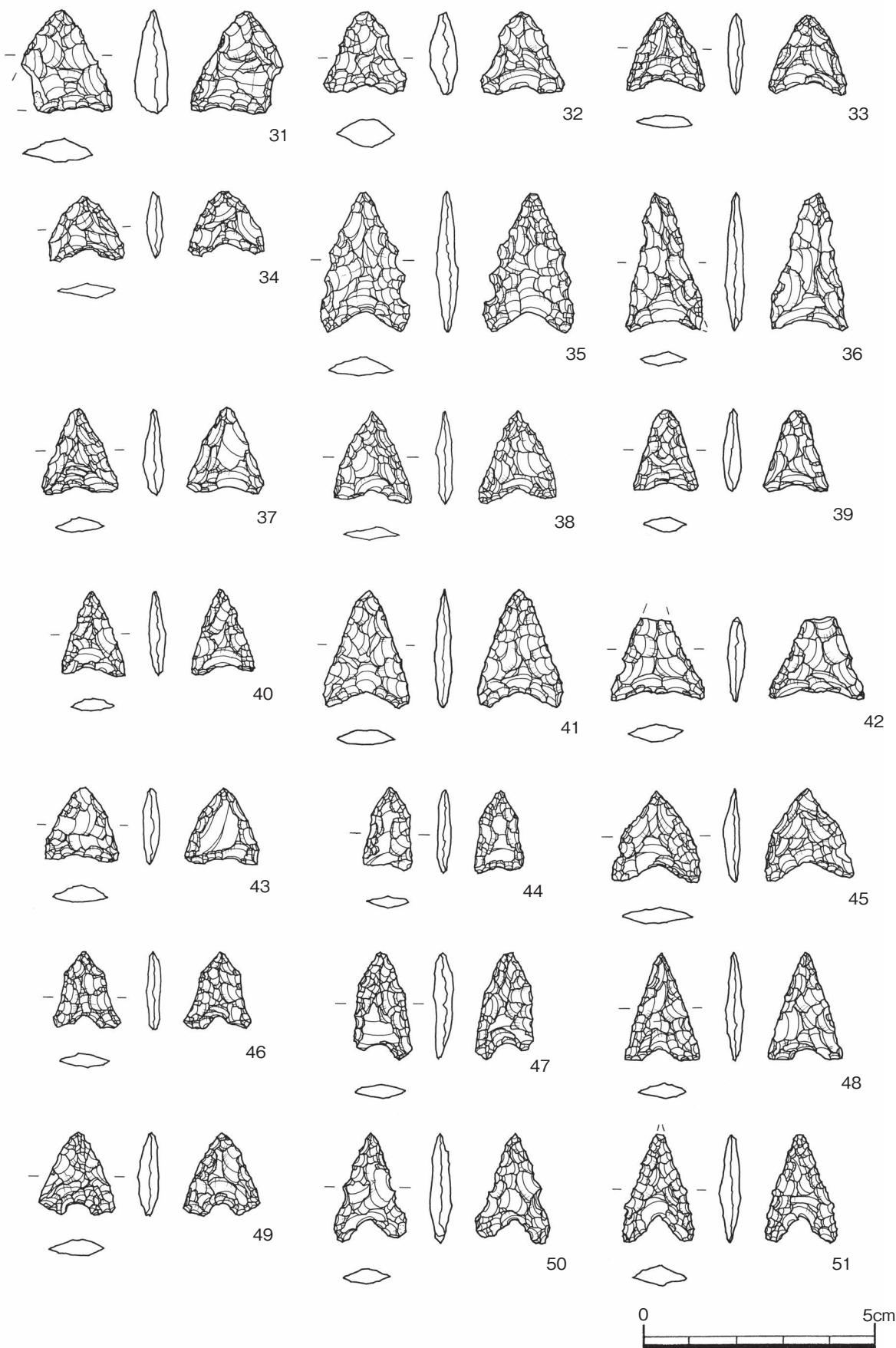
第151図 P·R·S区の石器2



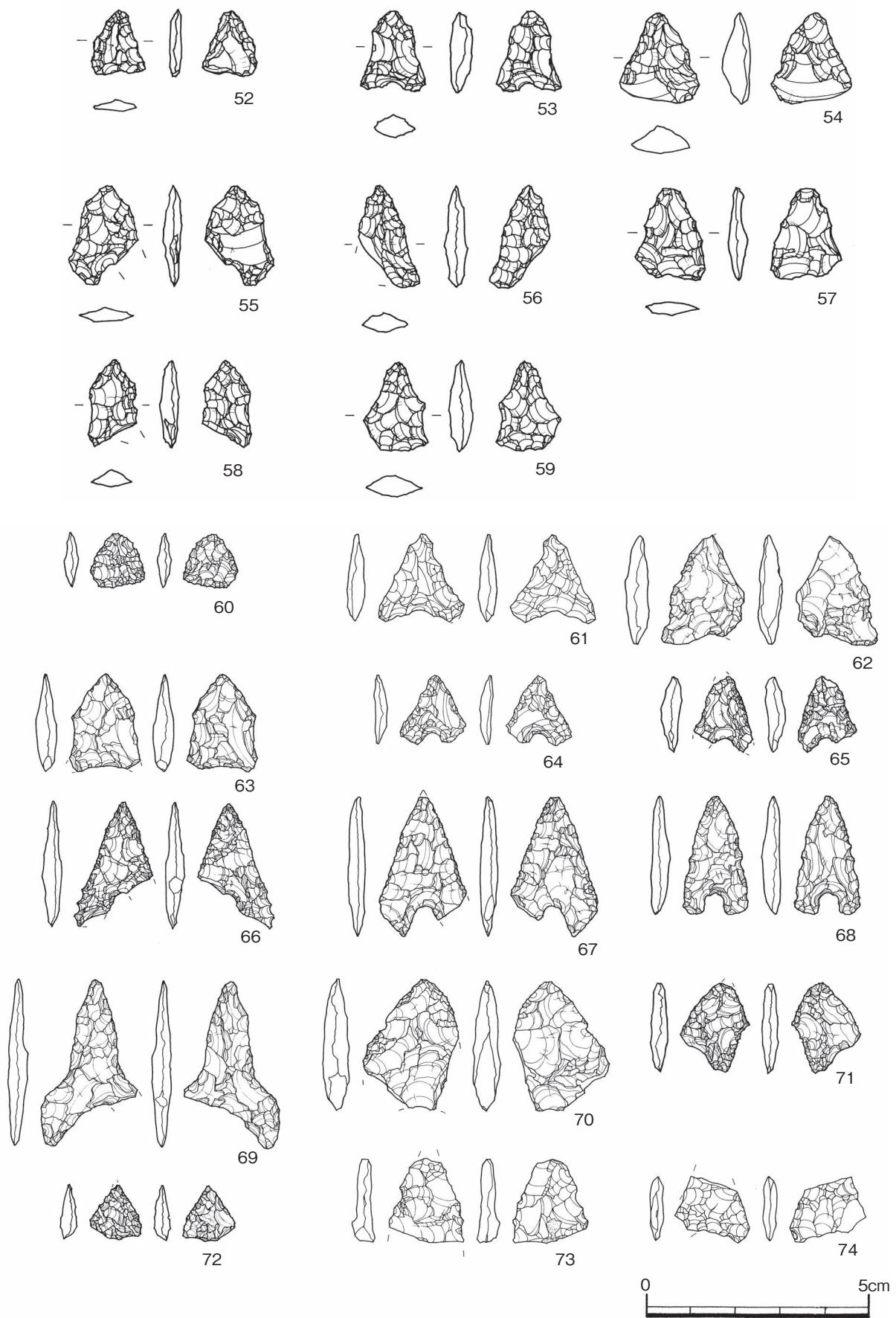
第152図 P・R・S区の石器3



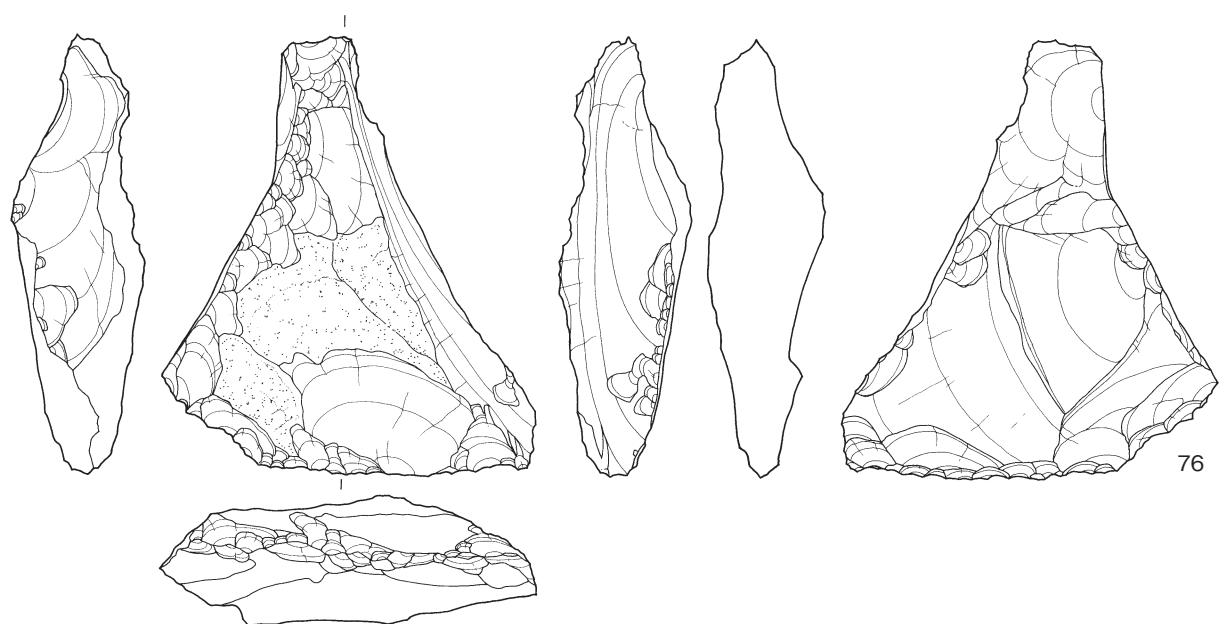
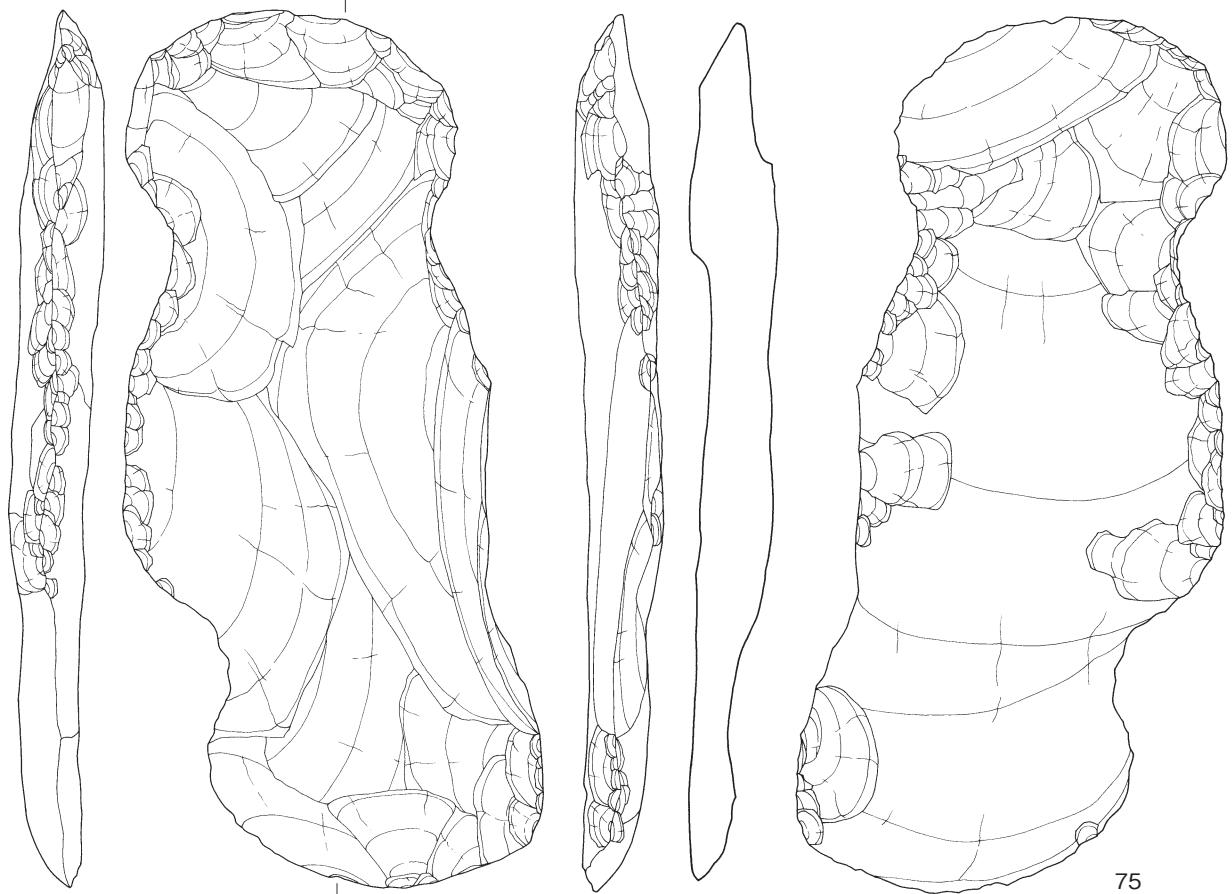
第153図 P・R・S区の石器4



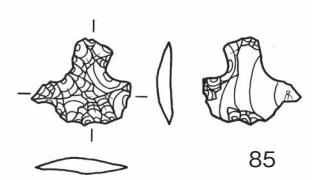
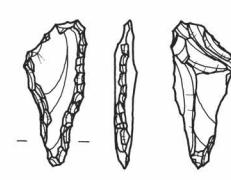
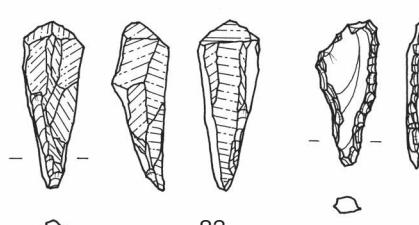
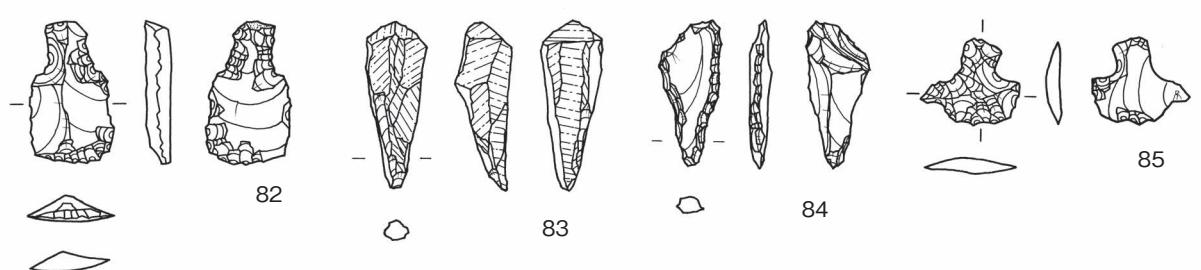
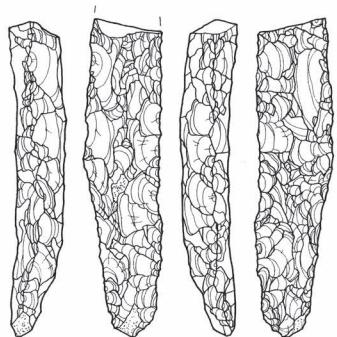
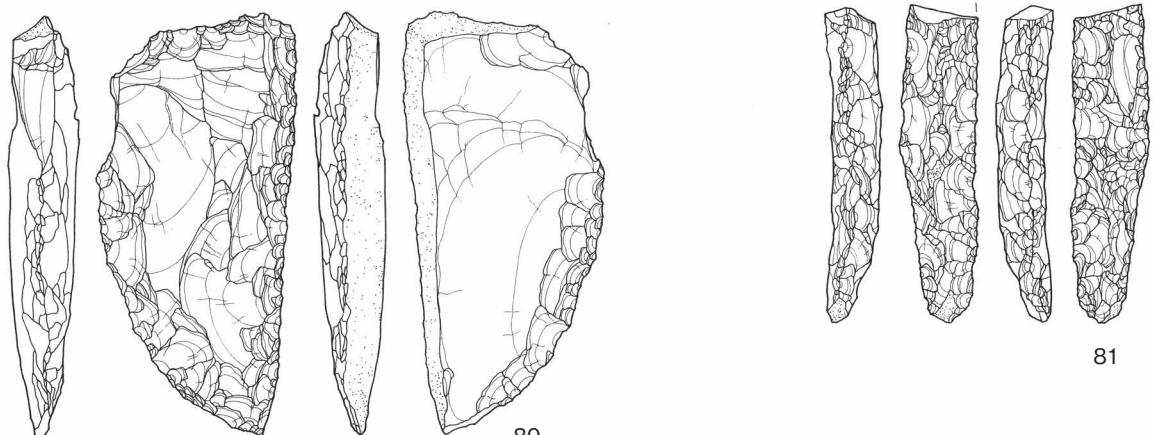
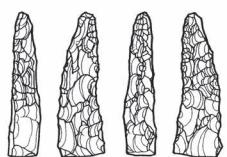
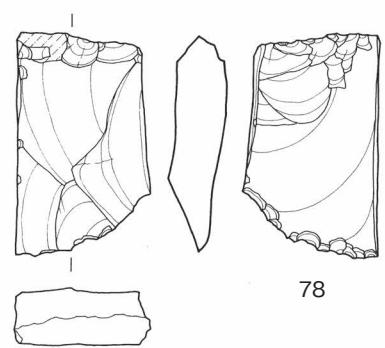
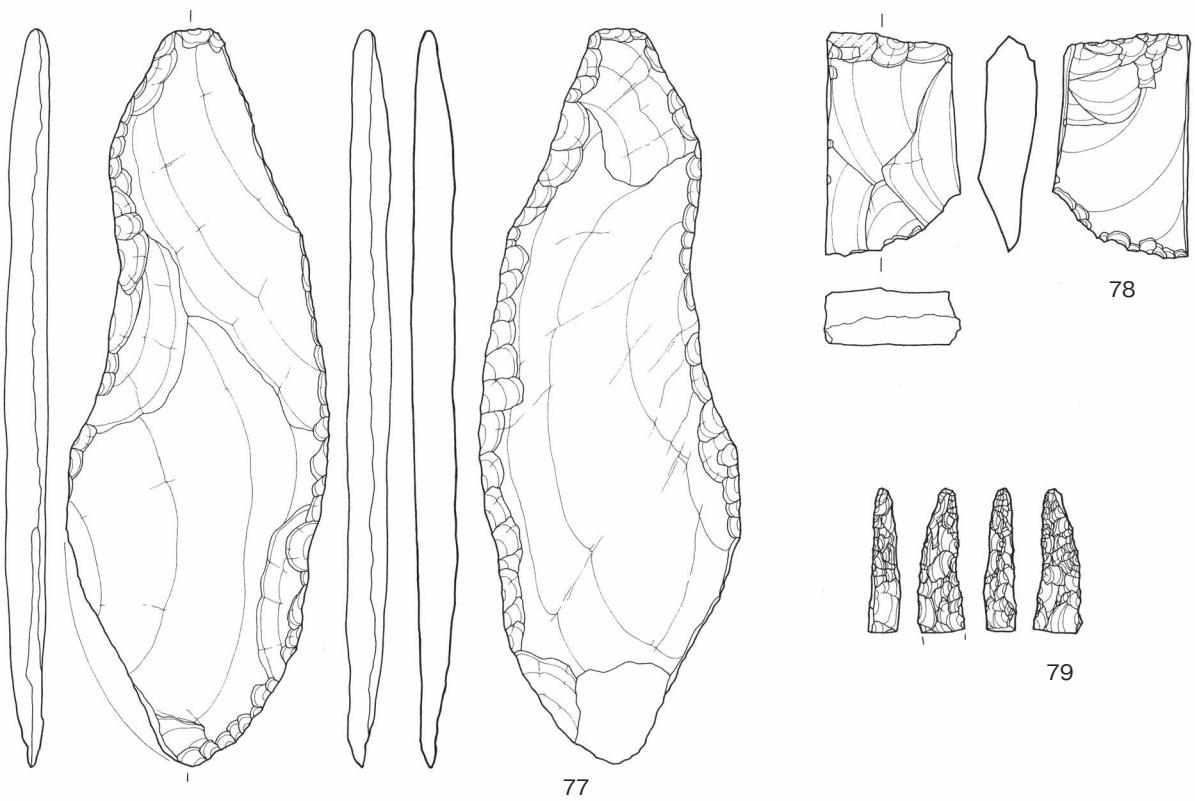
第154図 P・R・S区の石器5



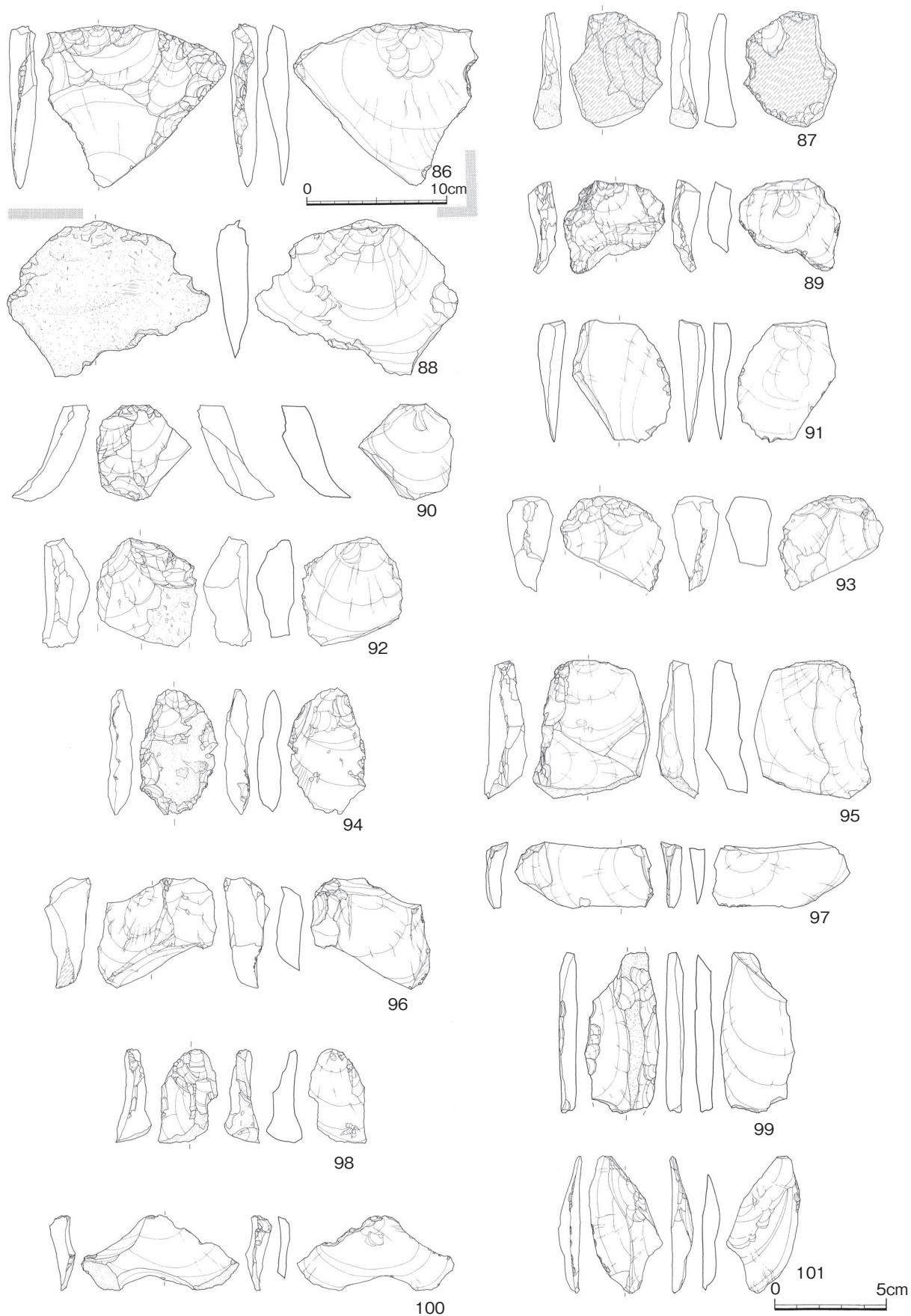
第155図 P・R・S区の石器6



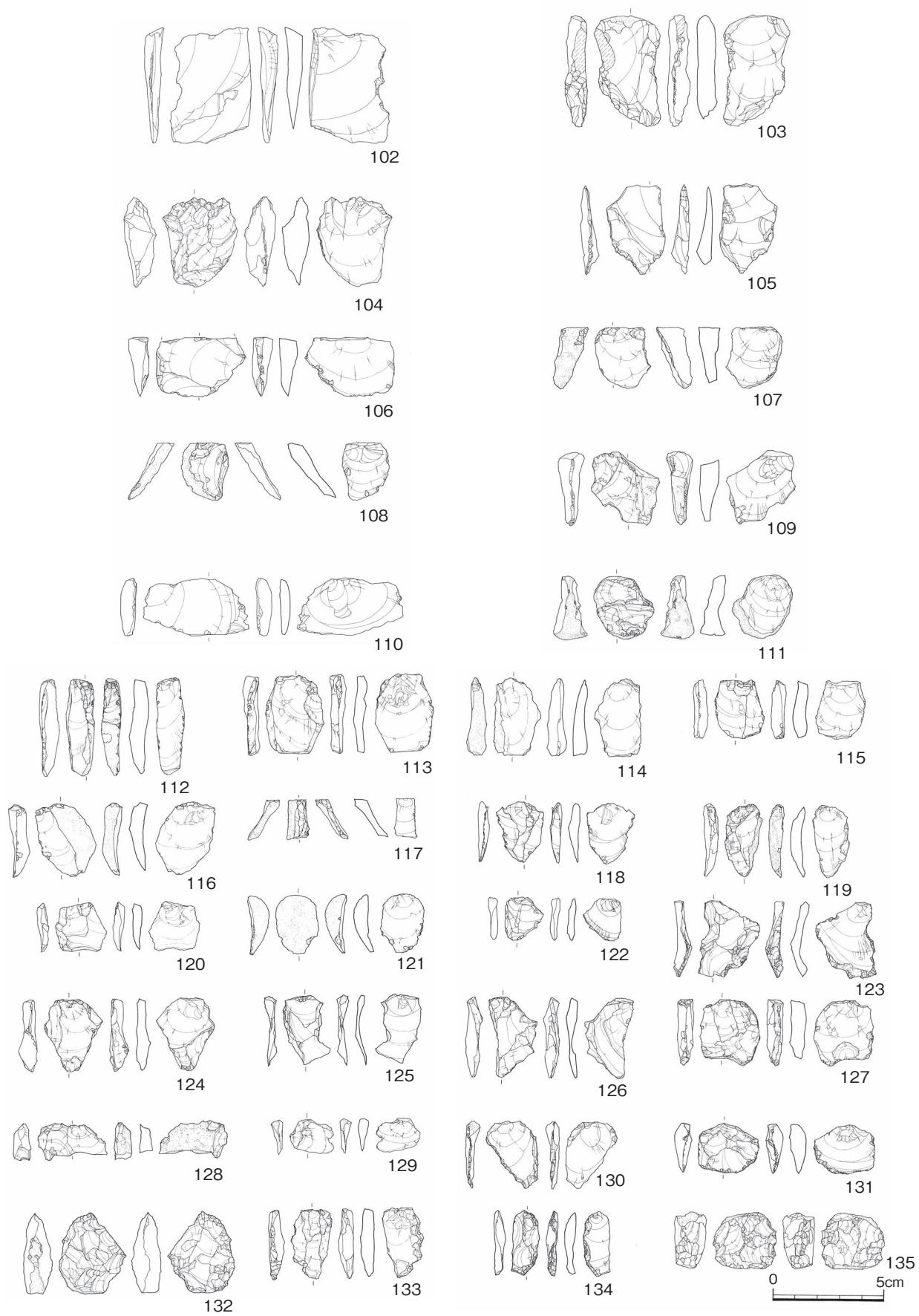
第156図 P・R・S区の石器7



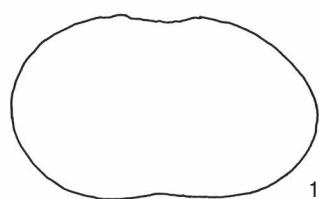
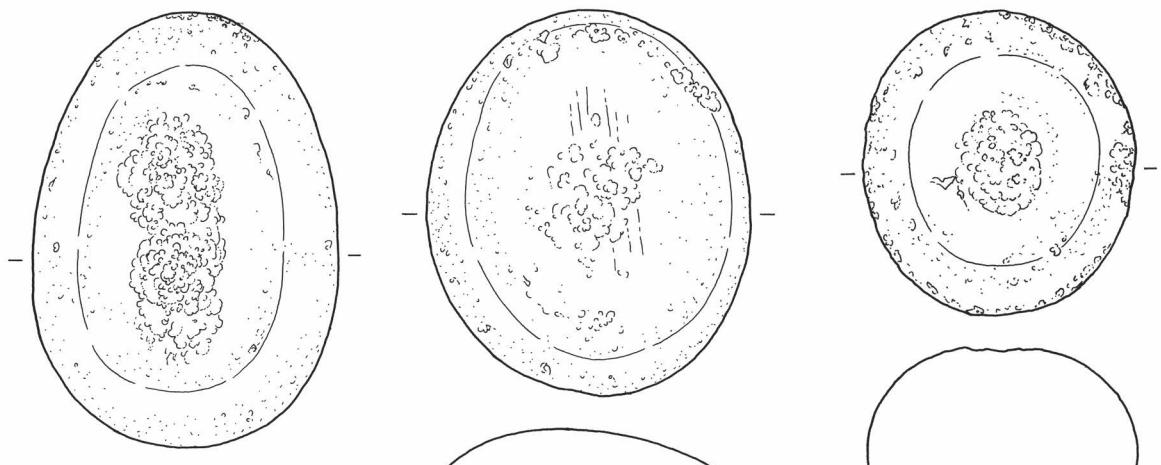
第157図 P・R・S区の石器8



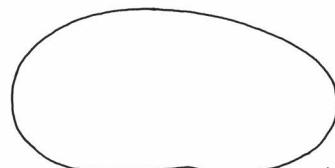
第158図 P・R・S区の石器9



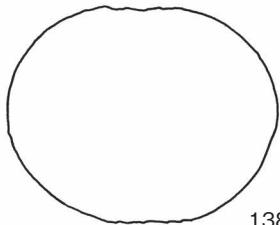
第159図 P・R・S区の石器10



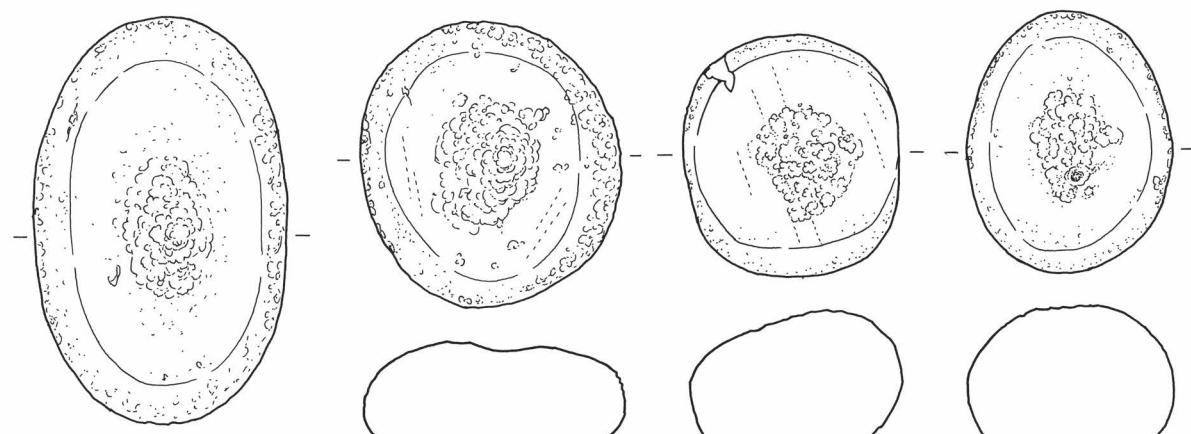
136



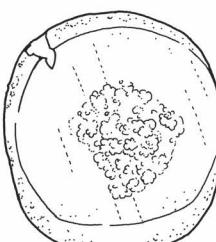
137



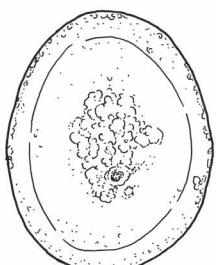
138



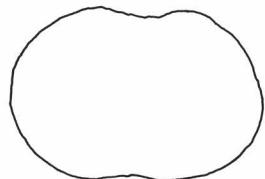
140



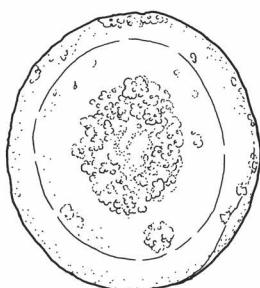
141



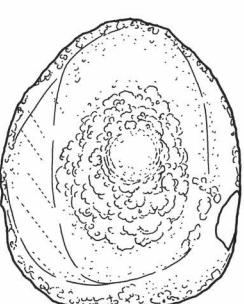
142



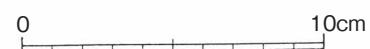
143



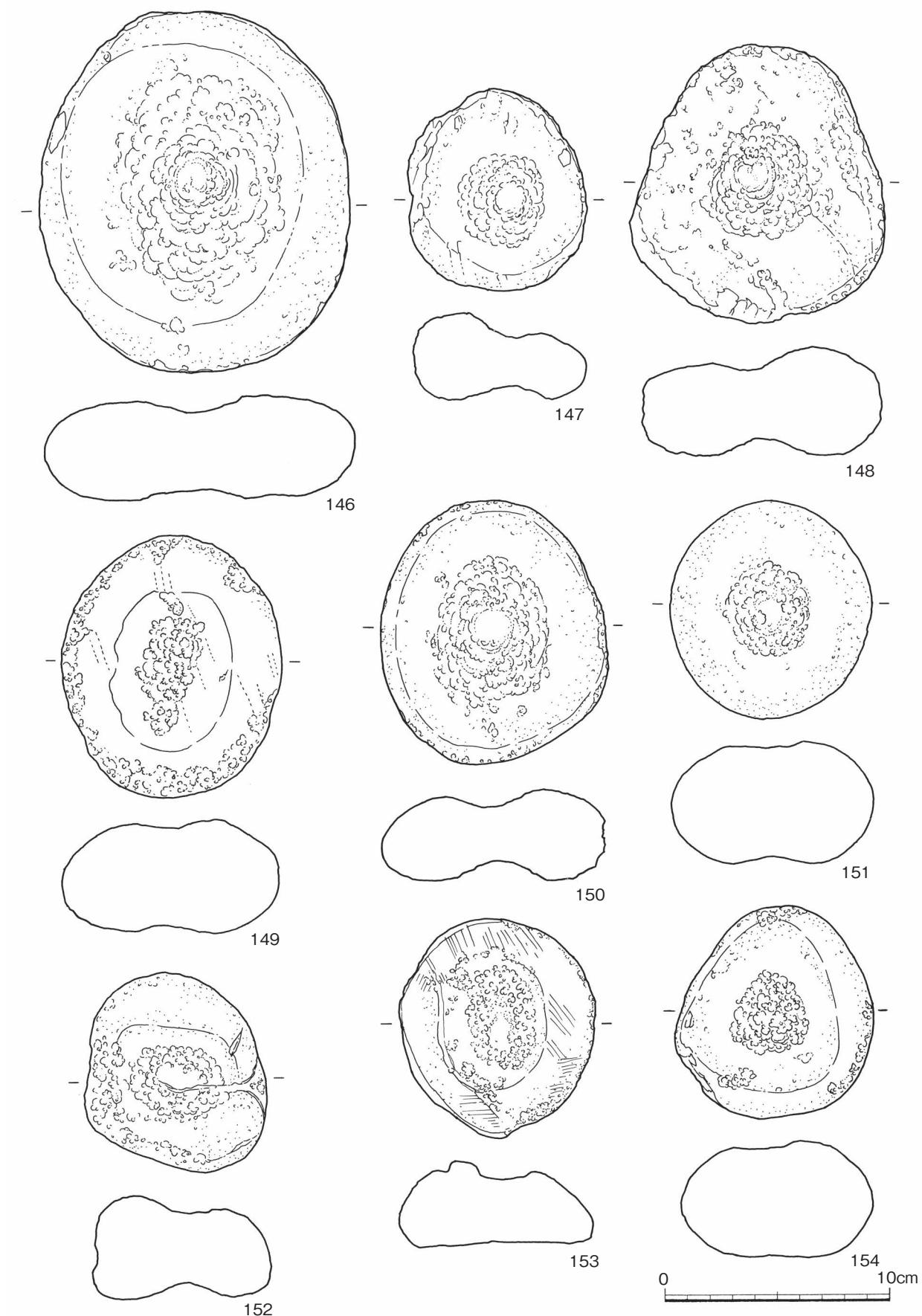
144



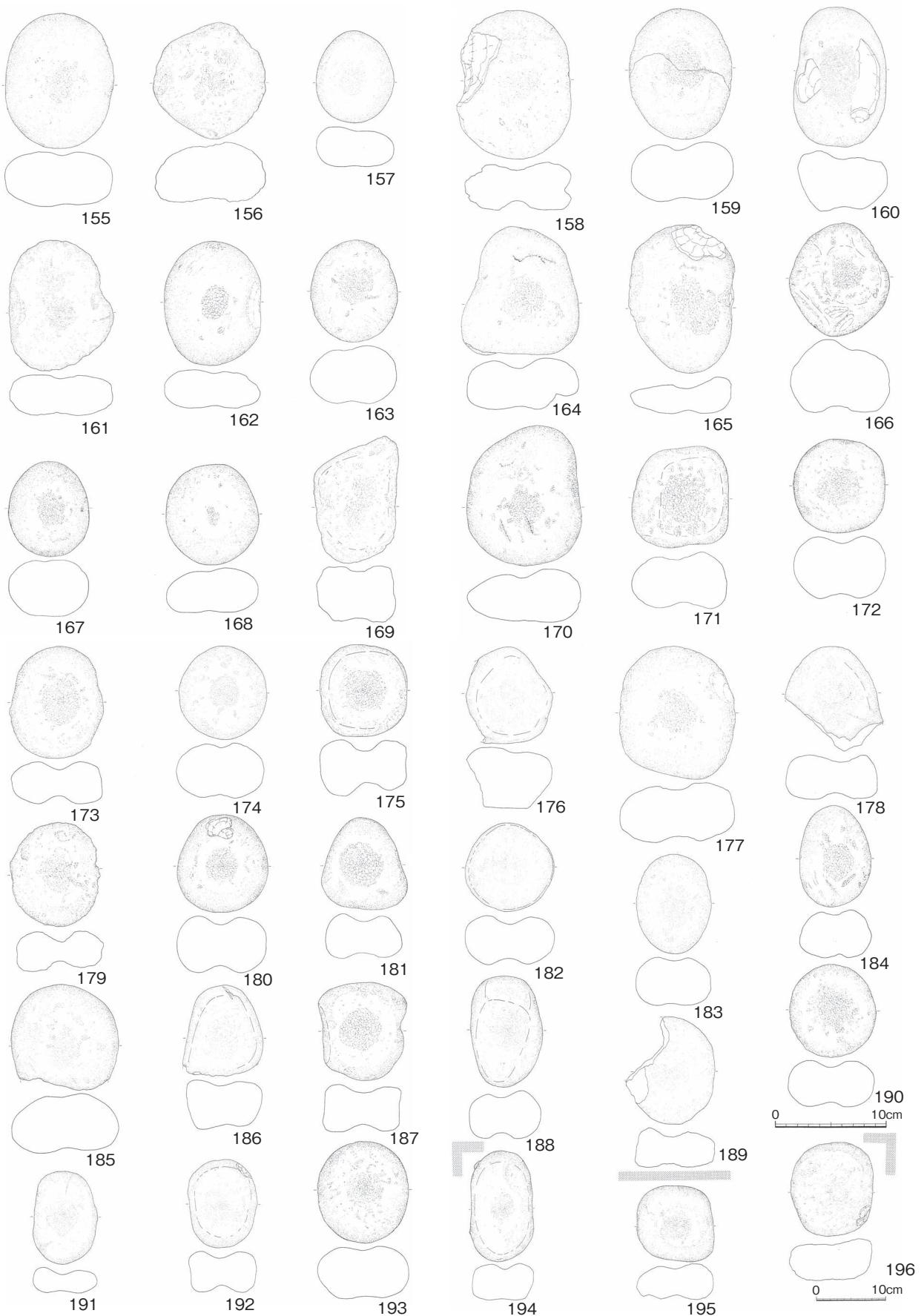
145



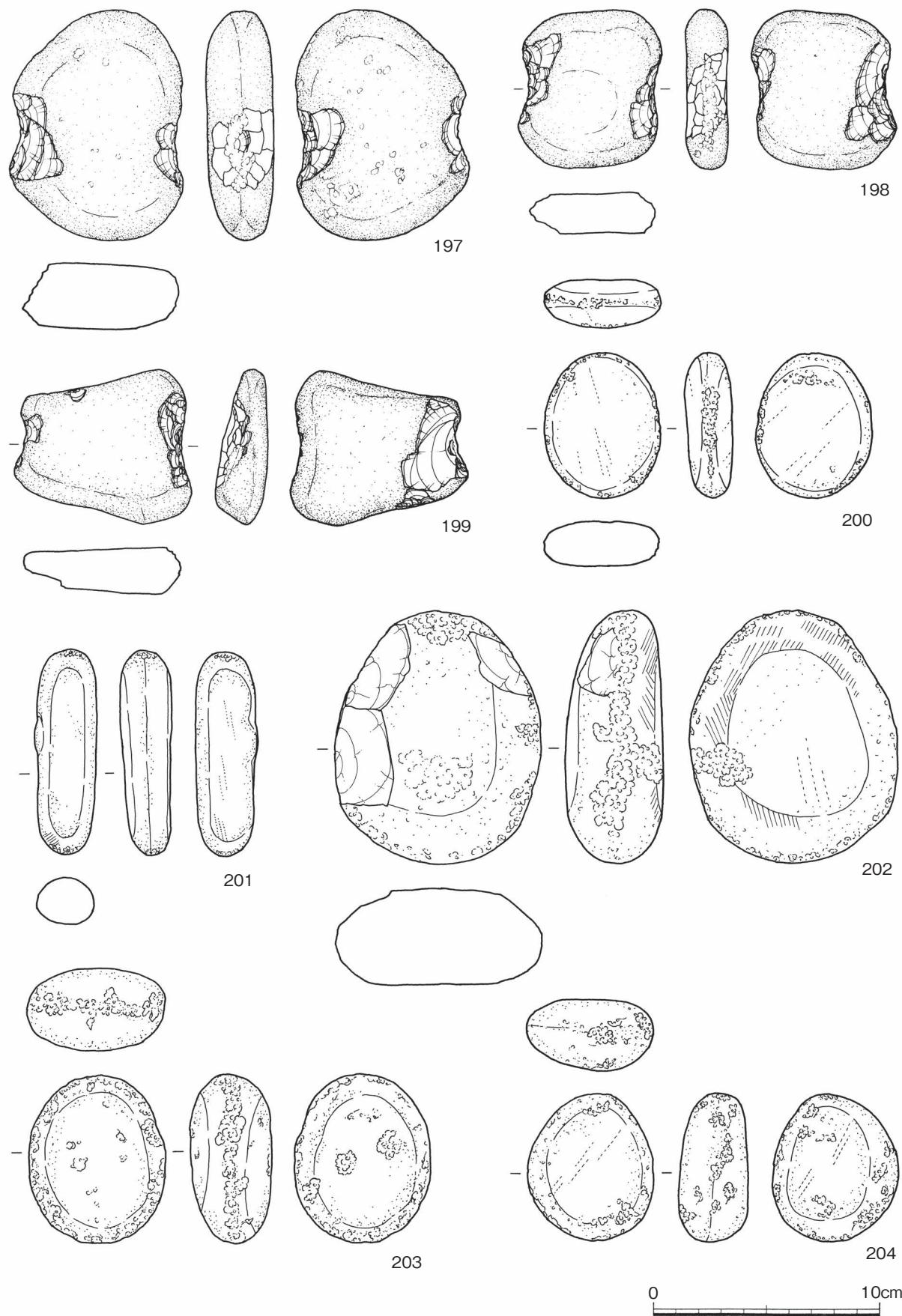
第160図 P・R・S区の石器11



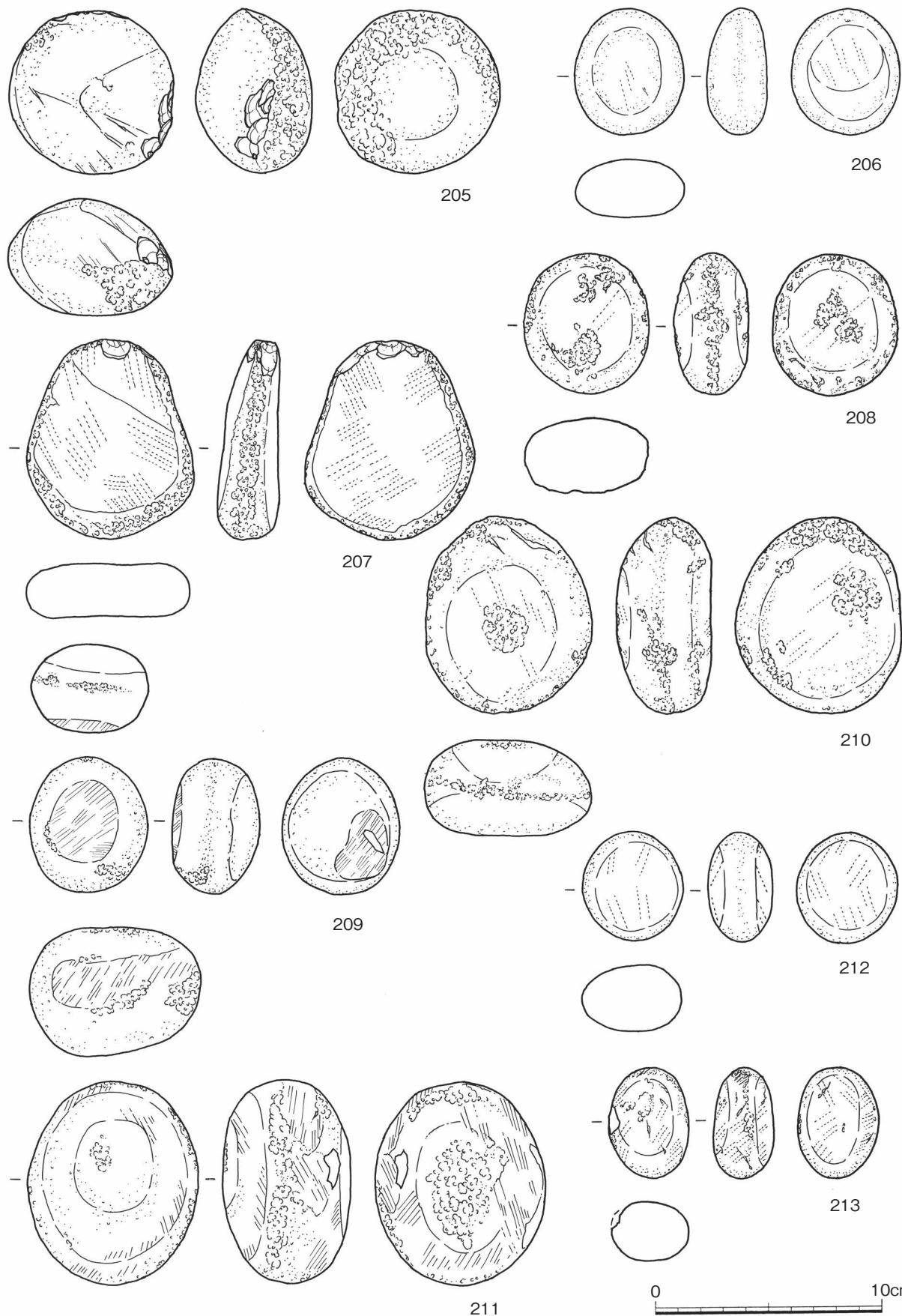
第161図 P·R·S区の石器12



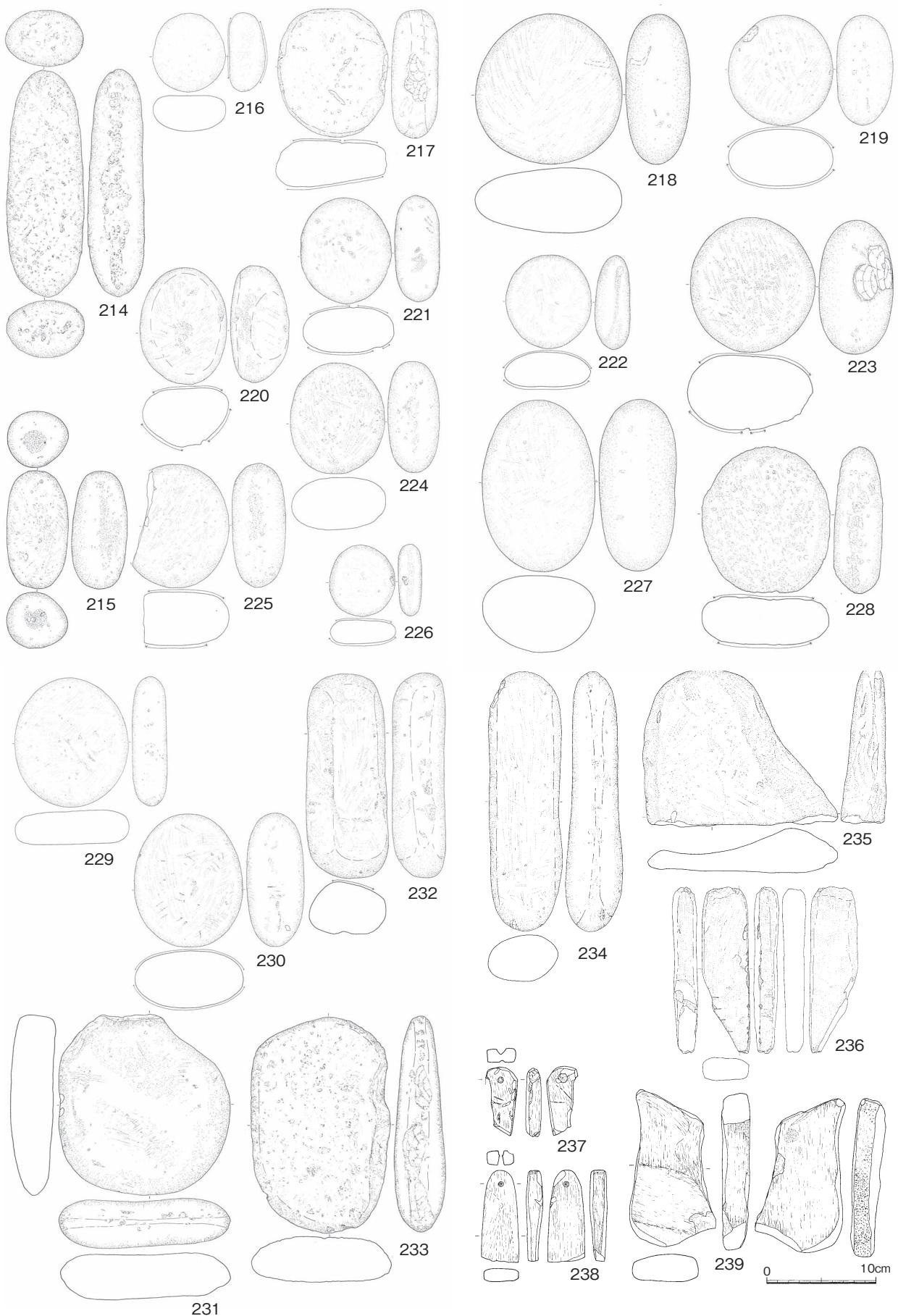
第162図 P·R·S区の石器13



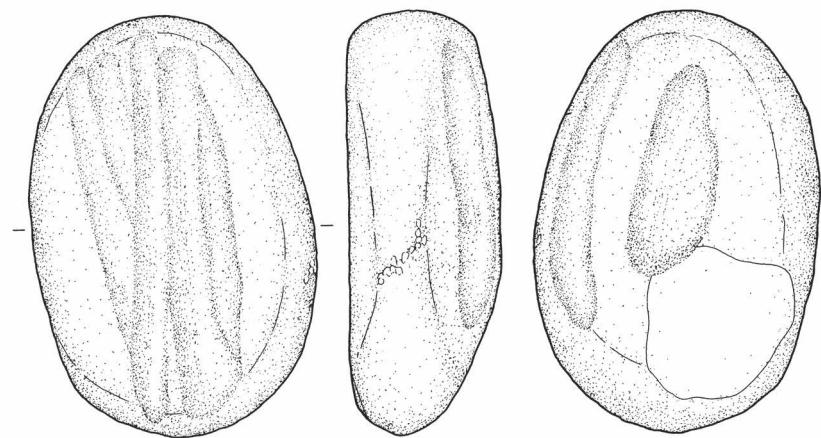
第163図 P・R・S区の石器14



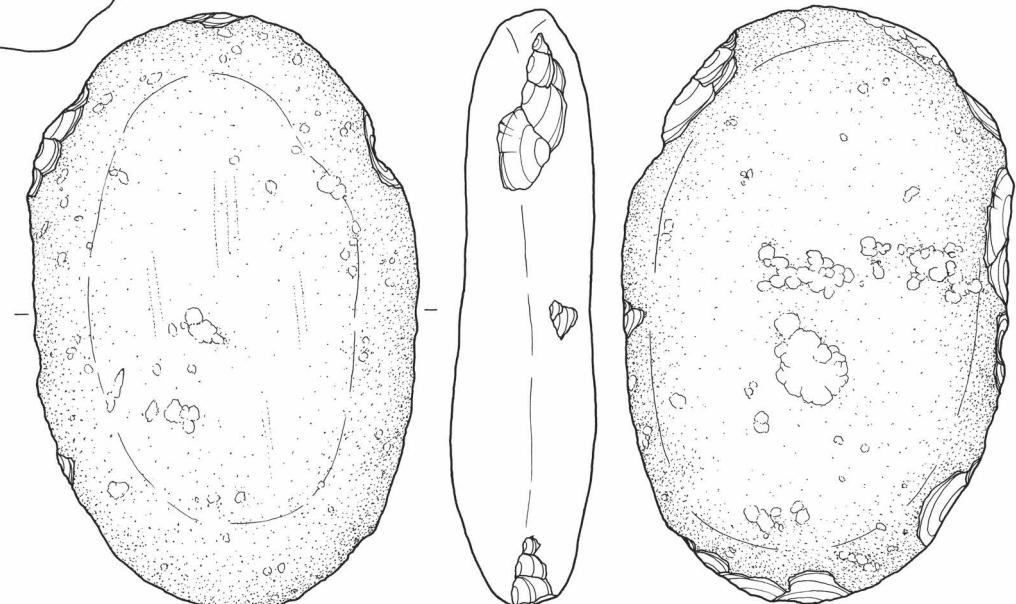
第164図 P・R・S区の石器15



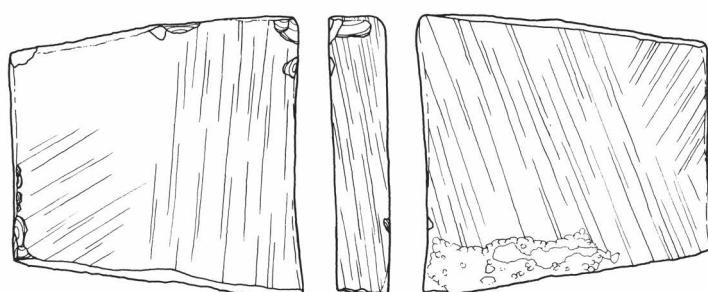
第165図 P·R·S区の石器16



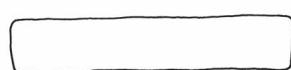
240



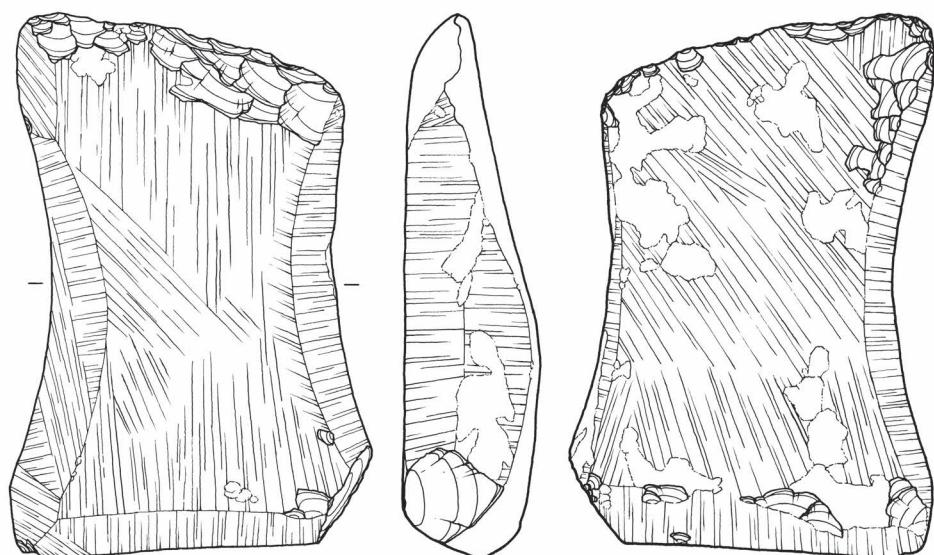
241



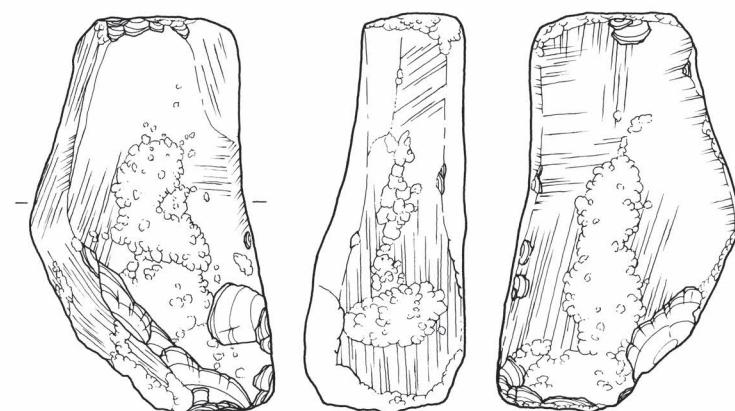
242



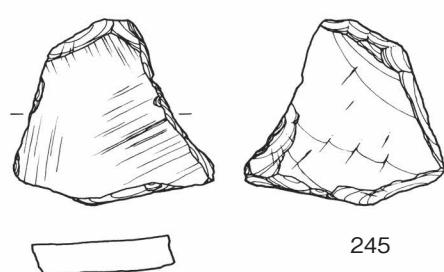
第166図 P・R・S区の石器17



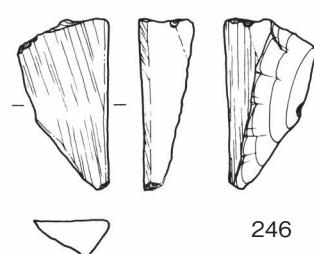
243



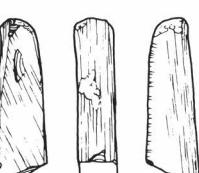
244



245



246

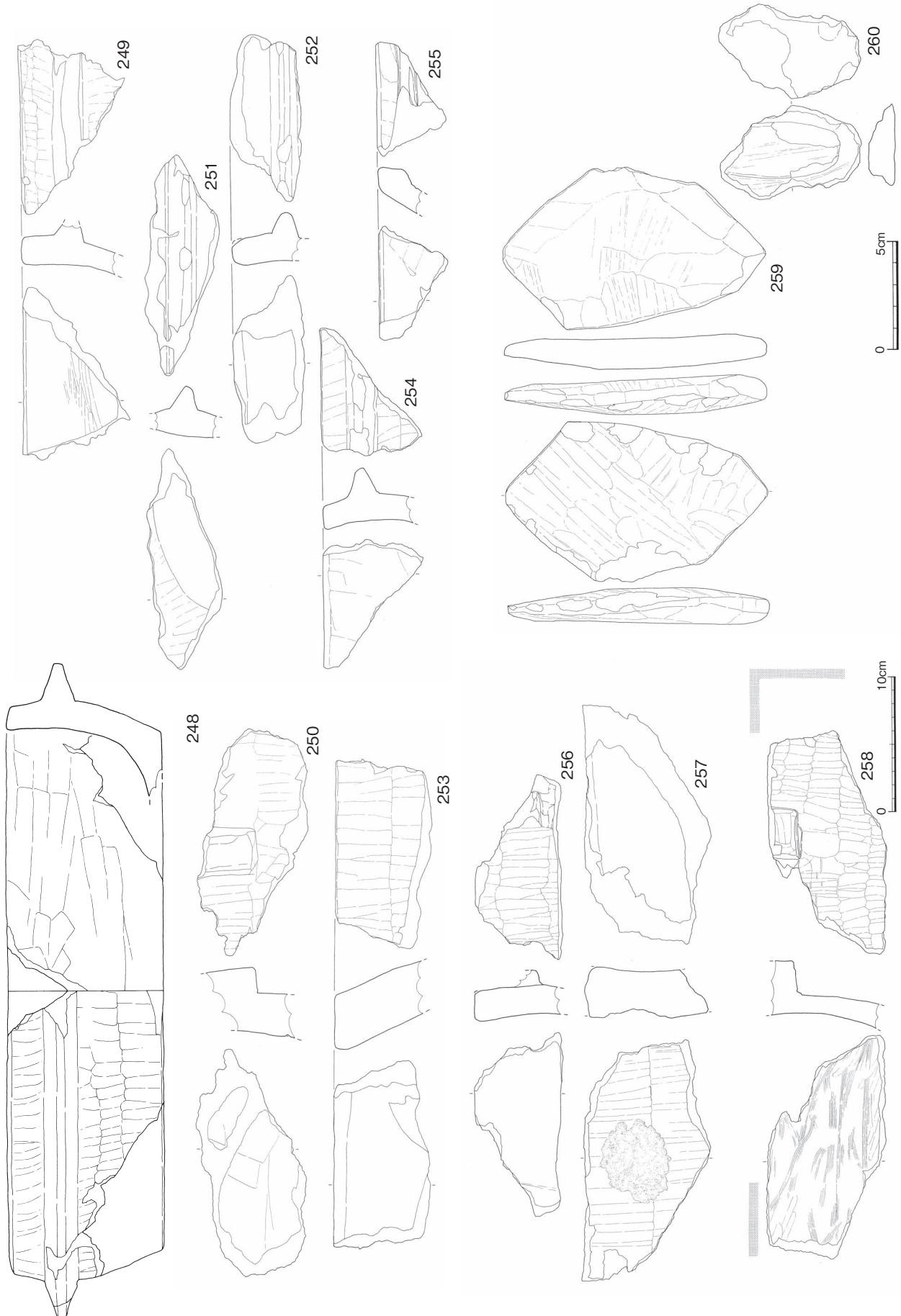


247

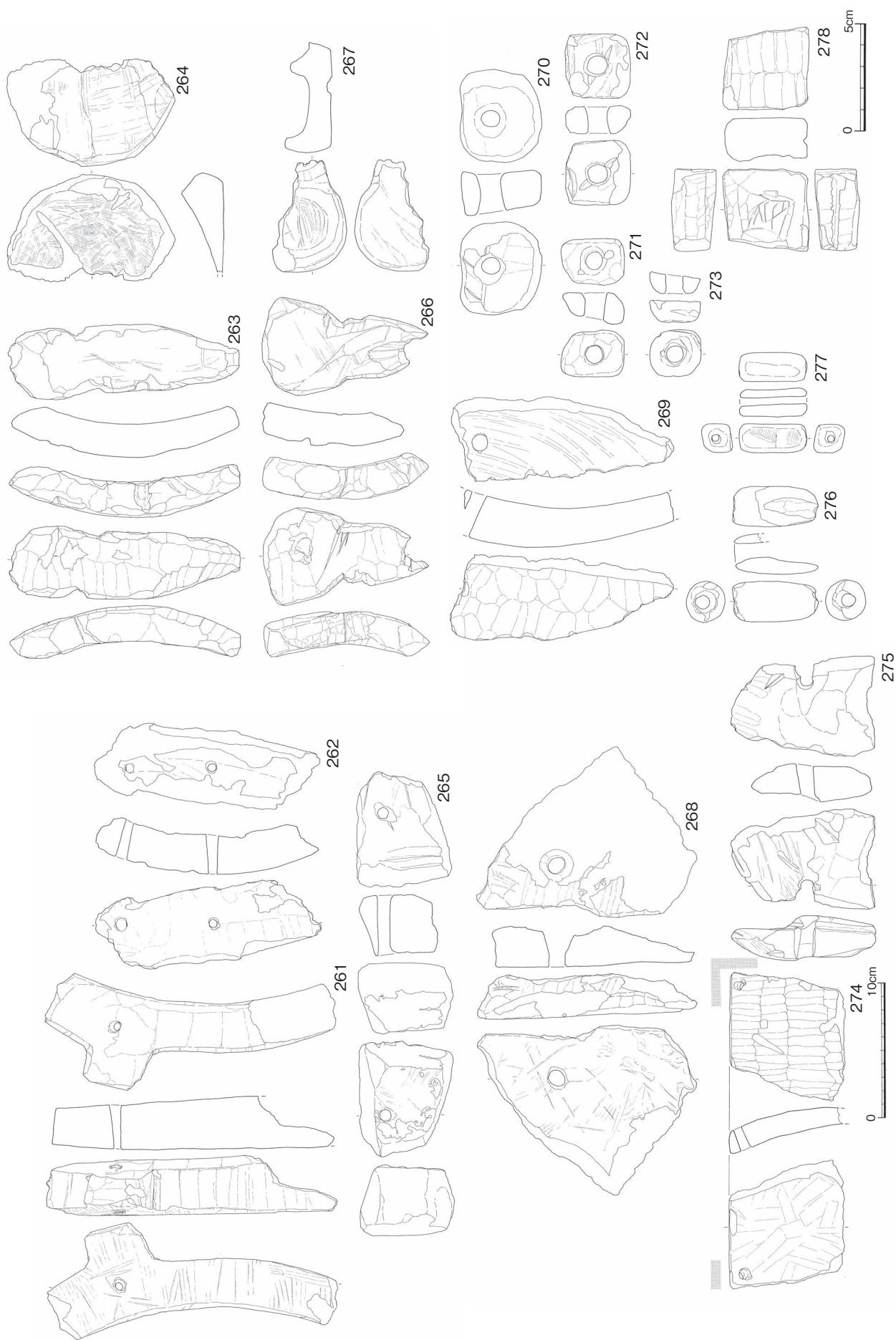
0 10cm

第167図 P・R・S区の石器18

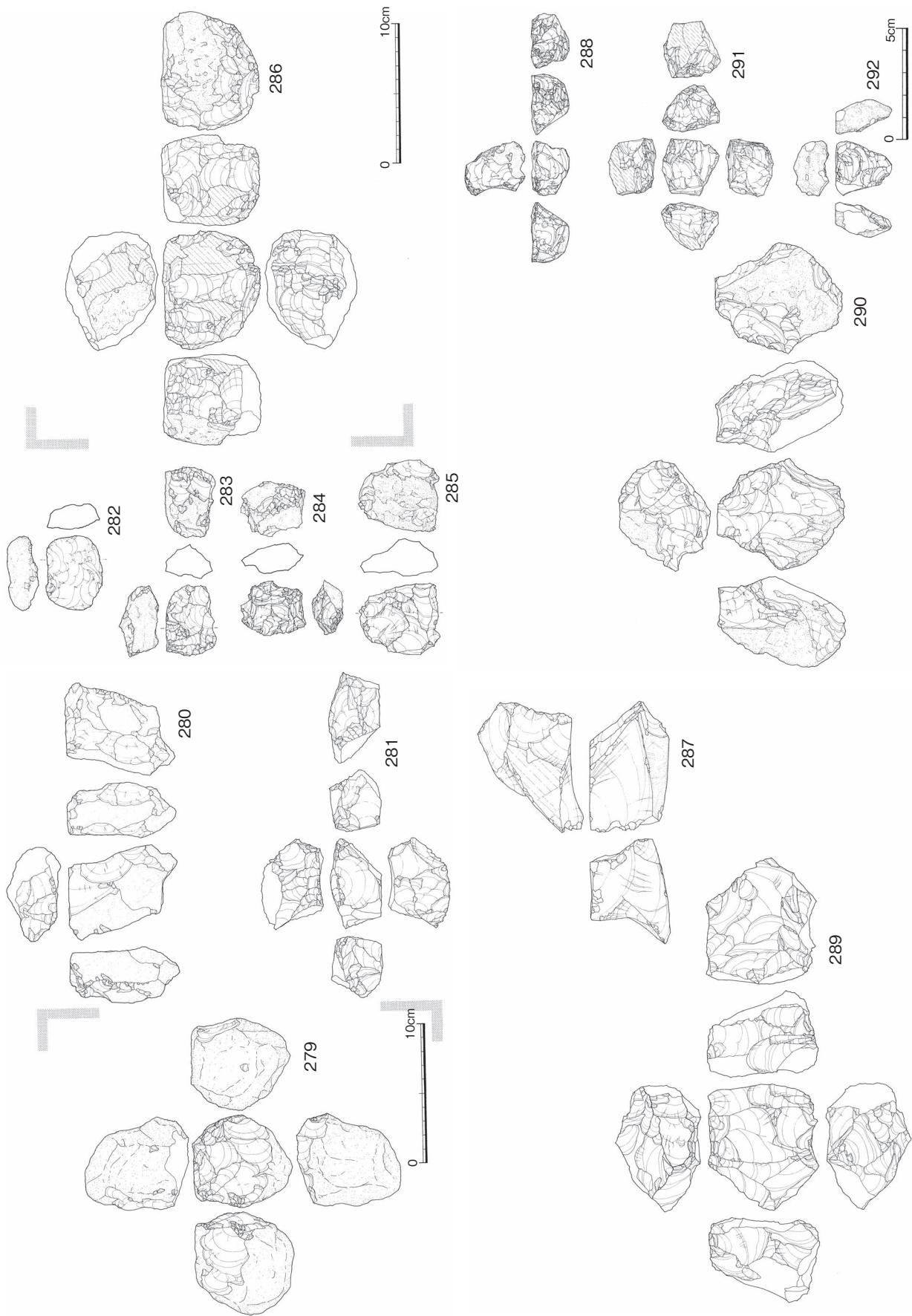
第168図 P・R・S区の石器19

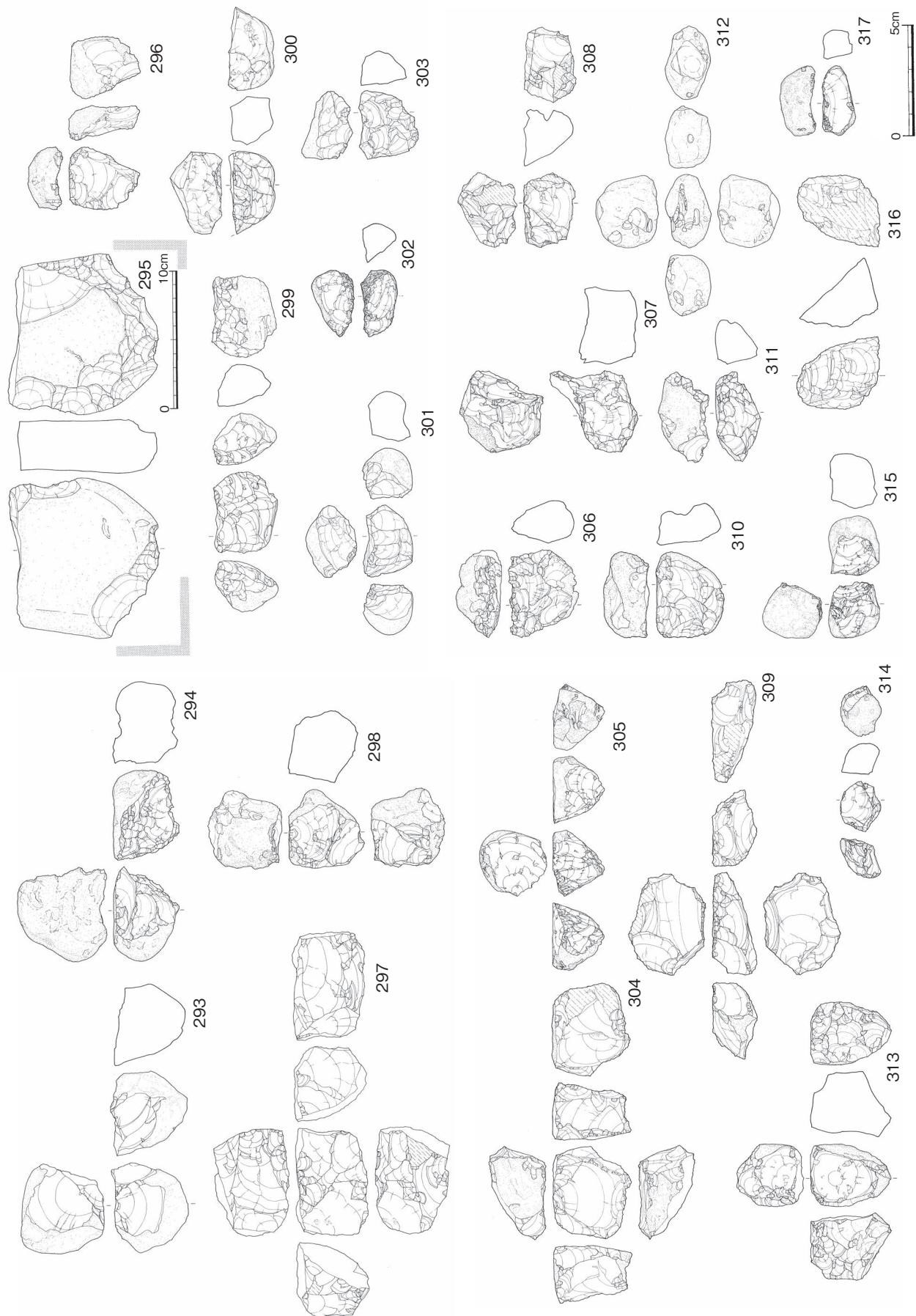


第169図 P・R・S区の石器20



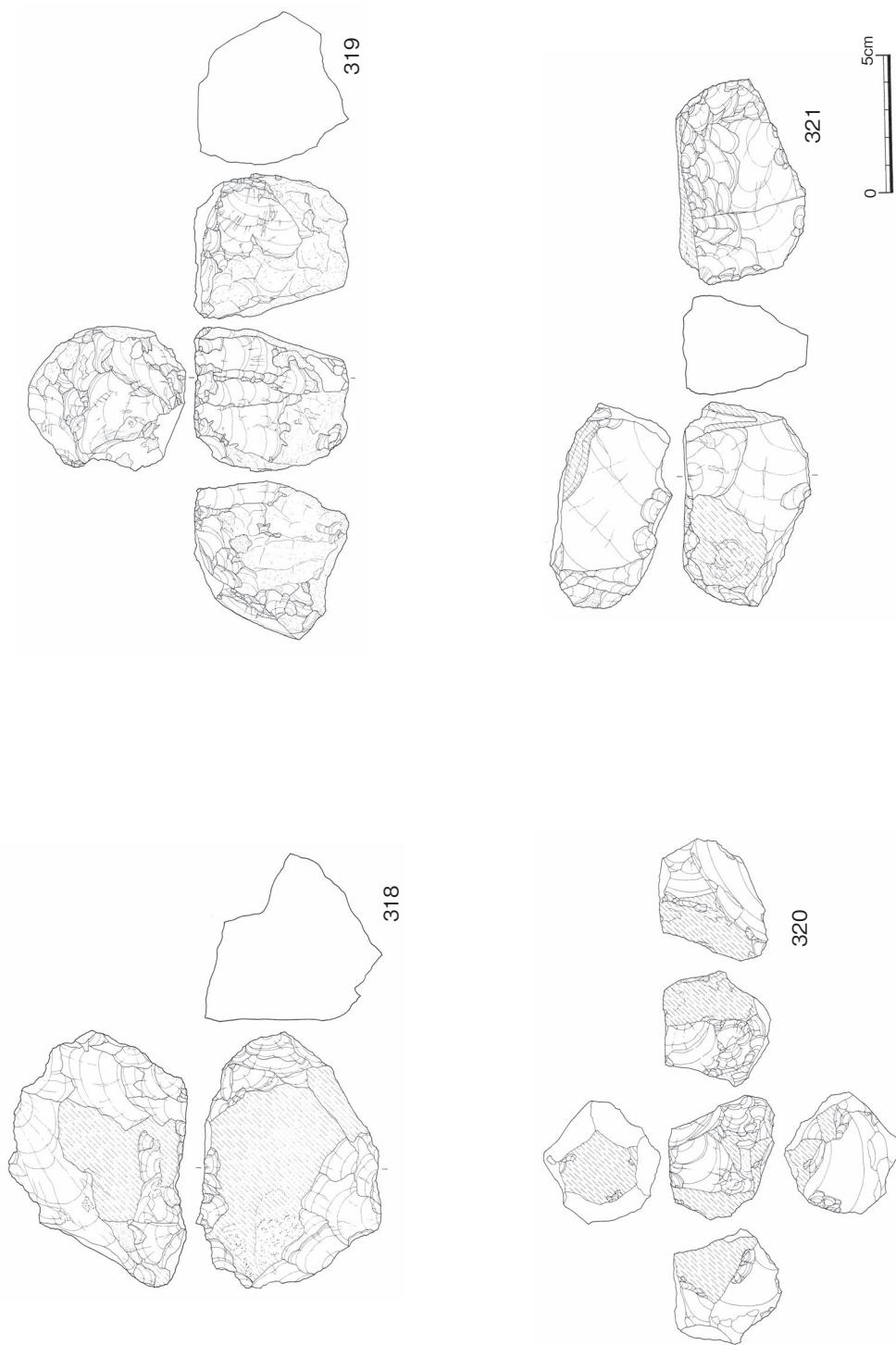
第170図 P・R・S区の石器21





第171図 P・R・S区の石器22

第172図 P・R・S区の石器23



なつまみを作り、左三分の一は欠けているものの、下端に浅い弧状になる刃部を作る。85は非常に小形の横型石匙である。小さななつまみとほぼ直線的な刃部を持つ。

石錐 (83, 84)

83は水晶を用いたもので縦、横の微細な剥離で錐刃を作り出している。84は、黒色安山岩の横長剥片を用いたもので、横からの微細剥離で錐刃を作り出している。

剥片 (86~135)

石材を表に示したが、通常、縄文遺跡ではこの他にチャート、タンパク石等が出土する例が多いが、この遺跡には少ないのが特徴である。形状は通常のものが多く特徴は見いだせない。

凹石 (136~196)

山腹部も含めて、凹石が異常に多いのが、この遺跡の最大の特徴である。また、その平面形状にも特徴がある。通常縄文遺跡の凹石は扁平な円礫が用いられるが、この遺跡の凹石は亜角礫が用いられるものが目立つ。このような凹石は成川式土器を伴う住居跡から検出される例が知られている。

石錘 (197~199)

197, 198は安山岩の縁礫を、199は流紋岩の亜角礫を素材とし、紐掛の抉入部を作っている。

敲石 (200, 201, 214, 215)

201, 215は砂岩の、214は安山岩の棒状礫の両端に敲打痕が集中し、つぶれた面を作っている。

磨石 (202~213, 216~230)

砂岩や安山岩の円礫を用いているが、2点だけ斑糞岩の円礫を用いている。216のように小さなものから218のような大型のものまである。

砥石 (231~247)

石材、形状等を見るに、各時代のものが入り交じっている。231~235は石を対象とする縄文時代のものであろう。236~239, 242~247は、おそらく鉄器を対象とする古代~中世のものであろう。237, 238は穿孔のある提砥である。240は有溝砥石であり、攻玉用であろう。

滑石製石鍋 (248~256, 258)

250, 256, 258は瘤状把手の付くもので、瘤の部分で割れており断面縦長になるのか四角形になるのか判断が付かない。258は特に大型の鉢形を呈するようである。248, 249, 252, 254は、直立する口縁を持ち、やや尖った断面台形の鍔が付く。251は破片が小さいので口縁の立ち上がり等は判断できないが、鍔はやや下垂するようである。255は外に開く口縁を持ち、退化した鍔は肥厚した口縁のようである。

滑石製石鍋再利用製品 (257, 259~278)

21個の再利用製品があるが、7種に大別できる。a : 当具として利用されたと思われるもの、257。b : 板状の製品、259。c : いわゆるバレン状製品、260。d : 浅い皿状の容器、262, 265。e : 10mm径の穿孔を持つもの271~274。f : 土錐状の形状のもの、276, 277。g : 抜入もしくは穿孔によっておもりとして使用することが推定される製品、261, 263, 264, 266~270, 275。

石核 (279~321)

黒曜石、鉄石英の石核が多数出土しているが、鉄石英のものは火打ち石の蓋然性が高い。

P・R・S区の石器類観察表1

図 種 番 号	器種	石材	出土区	層	取上番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
第5 図	磨製石斧	真岩	R-23	II	1	11.8	4.3	2.1	164.0
2	双刃磨製石斧	硬砂岩	R-23	II	2	9.9	3.8	1.4	86.0
3	磨製石斧	蛇紋岩	R-23	II	3	8.4	4.0	1.8	123.0
1	磨製石斧	真岩	R-24	II	8.6	17.4	2.8	549.0	59
2	鑿形磨製石斧	真岩	Q-19	IV	一括	7.3	2.4	1.1	28.0
3	鑿形磨製石斧	真岩	R-27	II	18419	6.2	3.4	1.4	47.0
150 図	磨製石斧	シルト岩	S-23	V	6519	12.0	5.4	3.6	365.0
4	磨製石斧	シルト質砂岩	Q-20	V	6364	12.0	5.7	3.7	358.0
5	磨製石斧	真岩	R-20	-	-	6.4	3.1	1.0	26.0
6	磨製石斧	真岩	S-22	II	8498	14.1	6.6	2.2	239.0
7	磨製石斧未製品	真岩	S-25	II	12958	9.5	5.2	1.3	81.0
8	磨製石斧未製品	石英脈岩	R-21	III	20605	13.8	5.7	3.8	444.0
9	磨製石斧未製品	石英脈岩	Q-19	V	6659	10.9	7.0	1.7	139.0
10	磨製石斧未製品	石英脈岩	R-11	IV	1675	9.7	6.6	2.2	217.0
11	磨製石斧	真岩	-	-	-	7.4	5.6	2.6	129.0
12	磨製石斧	綠泥片岩	U-25	III	19066	5.0	3.5	1.8	51.0
13	磨製石斧	繊粒砂岩	T-26	II	15777	3.0	2.7	2.6	18.0
14	磨製石斧	石英脈岩	-	-	5.9	5.4	2.4	106.0	73
15	磨製石斧	石英脈岩	Q-18	III	一括	7.1	4.8	3.5	152.0
16	磨製石斧	石英脈岩	R-20	V	6258	7.9	4.8	3.0	142.0
17	磨製石斧	石英脈岩	G-32	表土	-	23.3	10.3	4.1	1200.0
18	打製石斧	真岩	Q-22	II	7585	10.3	4.8	1.7	81.0
19	打製石斧	真岩	T-25	III	19712	11.6	7.3	2.1	163.0
152 図	打製石斧	安山岩	R-23	II	4962	7.2	8.7	1.4	106.0
20	打製石斧	安山岩	S-19	V	4226	10.0	5.1	1.1	67.0
21	打製石斧	安山岩	S-26	II	12830	10.2	6.4	1.6	117.0
22	打製石斧	安山岩	S-26	II	19655	9.7	4.9	1.8	94.0
23	打製石斧	シルト質砂岩	R-27	O	18906	13.5	6.2	1.8	183.0
24	打製石斧	シルト質砂岩	Q-19	IV	一括	11.0	6.0	1.4	119.0
25	打製石斧	粘板岩	Q-20	III	19645	10.2	7.0	1.2	74.0
26	打製石斧	粘板岩	T-25	III	10883	7.9	4.6	2.6	114.0
27	打製石斧	粘板岩	S-31	II	359	2.2	1.7	0.7	2.3
28	打製石斧	粘板岩	S-24	II	13132	1.8	1.8	0.6	1.2
29	打製石斧	粘板岩	S-26	II	15580	1.7	1.7	0.4	0.7
30	打製石斧(鐵石に適用)	安山岩	T-25	III	19645	10.2	7.0	1.2	74.0
31	打製石斧	黑曜石	S-25	II	12889	3.0	1.5	0.5	1.8
32	打製石斧	黑色安山岩	S-23	II	4436	3.0	1.6	0.4	1.4
33	打製石斧	黑色安山岩	S-26	II	15884	2.0	1.7	0.3	0.8
34	打製石斧	黑色安山岩	S-26	II	15756	1.4	1.6	0.3	0.5
35	打製石斧	黑曜石	T-20	III	5718	3.0	1.5	0.5	1.8
36	打製石斧	真岩	S-25	II	12889	3.0	1.6	0.4	1.4
37	打製石斧	黑色安山岩	S-23	II	4436	1.8	1.6	0.4	0.9
38	打製石斧	黑色安山岩	S-26	II	15884	2.0	1.7	0.3	0.8
39	打製石斧	黑色安山岩	S-20	III	5196	1.7	1.4	0.4	0.6
40	打製石斧	チヤート	S-25	II	16696	1.8	1.3	0.4	0.6
41	打製石斧	黑色安山岩	Q-23	II	20463	2.5	1.8	0.4	1.2
42	打製石斧	黑色安山岩	S-25	II	7269	1.8	2.0	0.4	0.7
43	打製石斧	黑色安山岩	T-19	IV	-	1.6	1.6	0.4	0.7
44	打製石斧	黑色安山岩	R-31	II	853	1.7	1.1	0.3	0.5
45	打製石斧	黑色安山岩	R-19	V	6490	2.0	1.9	0.4	1.0
46	打製石斧	黑色安山岩	T-26	II	14417	1.7	1.4	0.3	0.5
47	打製石斧	黑曜石	S-26	II	15882	2.3	1.2	0.4	0.9
48	打製石斧	黑曜石	R-23	II	4431	2.3	1.6	0.4	0.8
49	打製石斧	黑曜石	R-22	III	9972	1.8	1.6	0.5	0.8
50	打製石斧	黑曜石	R-23	III	20445	2.4	1.5	0.5	1.1
51	打製石斧	黑曜石	R-23	II	6722	2.3	1.5	0.5	0.9
52	打製石斧	黑曜石	-	-	-	11474	1.5	1.2	0.4
53	打製石斧	黑曜石	S-24	II	9770	1.8	1.5	0.5	0.9
54	打製石斧	黑曜石	S-22	II	10361	2.0	1.8	0.6	1.4
55	打製石斧	黑曜石	S-20	III	5153	2.2	1.3	0.4	0.9
56	打製石斧	黑曜石	S-27	II	17693	2.3	1.1	0.5	0.8

P・R・S区の石器類観察表2

図 種 番 号	器種	石材	出土区	層	取上番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
57	石鎚	黒色安山岩	S-22	III	9938	2.0	1.5	0.4	0.6
58	石鎚	黒曜石	R-23	II	10586	1.9	1.1	0.4	0.6
59	石鎚	黒曜石	S-15・16	-	21575	2.0	1.3	0.5	1.0
60	石鎚	黒曜石	S-24	II	6942	2.0	1.2	0.3	0.3
61	石鎚	黒曜石	-	-	-	-	-	-	1.0
62	石鎚	黒曜石	-	-	-	-	-	-	0.4
63	石鎚	黒曜石	-	-	-	-	-	-	0.5
64	石鎚	黒曜石	S-20	IV	-	-	-	-	1.4
65	石鎚	黒曜石	M	-	-	-	-	-	0.7
66	石鎚	黒曜石	Q	-	-	-	-	-	1.0
67	石鎚	黒曜石	R	-	-	-	-	-	0.4
68	石鎚	鉄石英	-	-	-	-	-	-	0.4
69	石鎚	黒色安山岩	S-26	II	K-25	1.5	1.7	0.5	1.3
70	石鎚	黒曜石	S-23	II	14307	3.0	2.1	0.6	1.8
71	石鎚	黒曜石	Q	-	2235	2.0	1.5	0.4	0.8
72	石鎚	黒曜石	R-23	III	19802	1.9	1.7	0.5	1.1
73	石鎚	黒曜石	K-25	II	152	1.5	1.7	0.5	0.6
74	石鎚	真岩	R-27	III	18820	14.2	6.1	1.5	145.0
75	石鎚	削器	S-25	II	12626	7.2	5.9	2.0	66.0
76	石鎚	真岩	S-23	II	6520	12.3	4.4	0.8	43.1
77	石鎚	削器	U-24	II	11081	3.7	2.3	0.9	10.0
78	石鎚	削器	S-26	II	15532	2.4	0.8	0.5	0.8
79	石鎚	異形石器	R-22	II	8755	7.0	3.3	1.1	26.6
80	石鎚	削器	T-25	III	16748	5.1	1.3	0.8	6.4
81	石鎚	異形石器	R-24	II	334	2.4	1.4	0.4	1.3
82	石鎚	水晶	T-26	II	10790	2.8	1.0	0.9	1.9
83	石鎚	黒色安山岩	S-25	II	12895	2.3	1.0	0.4	0.8
84	石鎚	黒曜石	S-22	-	7838	1.4	1.6	0.3	0.5
85	石鎚	黒色安山岩	S-22	III	21712	11.6	13.0	2.0	245.0
86	石鎚	鉄石英	R-23	II	523	5.1	4.0	1.3	23.2
87	石鎚	鉄石英	S-23	III	20300	6.7	9.1	1.4	56.4
88	石鎚	鉄石英	R-22	III	9975	5.6	3.4	1.1	17.5
89	石鎚	鉄石英	S-26	-	-	3.6	4.5	1.1	27.4
90	石鎚	鉄石英	S-26	-	-	4.3	4.2	1.3	45.0
91	石鎚	黒色安山岩	T-20	III	19407	5.2	4.3	1.2	20.6
92	石鎚	黒色安山岩	T-19	V	-	4.6	4.6	2.0	38.5
93	石鎚	黒色安山岩	R-22	II	3580	3.5	4.5	2.1	33.0
94	石鎚	黒曜石	R-22	III	19407	5.6	3.4	1.1	19.0
95	石鎚	黒色安山岩	S-19	-	-	5.7	4.9	1.7	51.2
96	石鎚	黒曜石	T-20	III	4073	3.9	5.1	1.9	34.4
97	石鎚	黒色安山岩	T-19	V	-	2.8	6.0	1.0	13.6
98	石鎚	黒曜石	R-24	II	19674	4.1	2.5	1.6	11.9
99	石鎚	黒曜石	S-23	-	-	3.3	0.8	22.3	0.8
100	石鎚	黒曜石	T-20	II	5659	3.4	7.1	0.9	10.8
101	剥片	黒曜石	Q-19	-	-	5.1	3.1	1.0	12.3
102	剥片	黒曜石	R-25	II	3086	2.7	2.3	1.2	7.2
103	剥片	黒曜石	T-25	II	3896	4.8	3.0	1.0	15.2
104	剥片	黒曜石	110	II	2088	2.9	3.0	1.2	7.6
105	剥片	黒曜石	110	II	13250	2.6	4.7	0.7	7.4
106	剥片	黒曜石	B-19	-	-	2.5	2.6	1.5	9.0
107	剥片	黒曜石	108	II	5340	4.0	0.9	0.8	8.8
108	剥片	黒曜石	109	II	-	-	-	-	4.4
109	剥片	黒曜石	110	II	2088	2.9	3.0	1.0	15.2
110	剥片	黒曜石	T-24	II	13250	2.6	4.7	0.7	7.4
111	剥片	黒曜石	111	II	-	-	-	-	1.0
112	剥片	黒曜石	R-19	V	-	-	-	-	4.3
113	剥片	黒曜石	S-26	II	17282	3.5	2.6	0.9	6.2
114	剥片	鉄石英	S-26	-	-	3.5	2.0	0.9	4.6
115	剥片	黒曜石	S-3T	II	358	2.6	2.3	0.6	3.4

P・R・S区の石器観察表3

擲載番号	器種	石材	出土区	層	取上番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
116	剥片	黒曜石	S-22	III	2036	3.2	2.4	0.9	5.5
117	剥片	黒曜石	S-26	III	18708	1.8	2.0	0.6	1.0
118	剥片	黒曜石	S-22	II	2812	2.7	0.5	2.1	5.5
119	剥片	黒曜石	Q-19	IV	-	3.2	1.5	0.7	2.8
120	剥片	黒曜石	Q-24	V	21600	2.1	2.2	0.5	2.0
121	剥片	黒曜石	S-27	II	18047	2.7	1.9	0.9	4.1
122	剥片	黒曜石	S-26	II	10556	2.0	1.8	0.4	1.0
123	剥片	黒曜石	QR-19	-	-	3.4	2.3	0.7	3.7
124	剥片	黒曜石	S-21	III	5130	3.0	1.7	0.5	4.8
125	剥片	黒曜石	T-20	VI	4447	2.0	0.6	3.0	1.5
126	剥片	チヤート	S-24	VI	12278	2.9	2.6	0.8	6.6
127	剥片	黒曜石	Q-23	II	7471	1.6	3.1	0.6	3.6
128	剥片	黒曜石	Q-24	II	1850	1.5	2.0	0.5	1.0
129	剥片	黒曜石	R-5T	II	-	2.9	2.2	0.6	2.9
130	剥片	鉄石英	R-5T	II	824	2.2	2.7	0.8	3.7
131	剥片	黒曜石	T-25	II	13845	3.7	2.9	1.3	13.2
132	剥片	黒曜石	R-2T	II	335	3.1	1.7	0.7	3.8
133	剥片	黒曜石	R-23	II	9627	2.9	0.5	1.4	1.4
134	剥片	黒曜石	T	III	5337	2.5	2.9	1.4	11.3
135	剥片	砂岩	R-18	IV	-	14.3	10.2	6.1	1400.0
136	凹石	安山岩	R-23	II	4931	12.6	10.8	5.4	1200.0
137	凹石	安山岩	S-27	II	18208	10.0	9.1	7.0	978.0
138	凹石	安山岩	S-25	II	7627	13.4	8.4	5.7	986.0
139	凹石	安山岩	T-20	VI	4126	9.4	8.6	4.0	467.0
140	凹石	安山岩	R-24	II	10151	8.0	7.2	4.6	410.0
141	凹石	安山岩	S-20	III	1523	8.6	6.8	5.4	459.0
142	凹石	安山岩	R-22	II	5934	9.2	8.4	4.7	546.0
143	凹石	安山岩	S-22	II	-	9.4	7.9	4.0	432.0
144	凹石	安山岩	R-27	II	17981	9.8	7.3	3.9	334.0
145	凹石	安山岩	S-22	II	4509	15.9	13.8	4.7	1200.0
146	凹石	安山岩	R-23	II	3366	9.0	7.8	3.9	331.0
147	凹石	安山岩	R-22	II	7660	12.4	11.3	4.8	686.0
148	凹石	安山岩	T-20	V	4125	11.6	9.8	5.1	712.0
149	凹石	安山岩	S	-	-	11.7	10.0	4.1	689.0
150	凹石	安山岩	S-23	II	5882	9.7	9.0	5.4	675.0
151	凹石	安山岩	T-20	VI	2028	8.6	8.1	4.7	467.0
152	凹石	安山岩	R-19	-	-	9.8	8.8	4.6	453.0
153	凹石	安山岩	R-19	-	-	13.4	10.3	4.5	750.0
154	凹石	安山岩	T-25	II	14351	9.4	8.7	5.1	591.0
155	凹石	安山岩	R-22	II	-	12.2	9.8	4.9	908.0
156	凹石	安山岩	S-19	V	-	-	10.4	10.2	5.6
157	凹石	安山岩	R-3T	II	1275	8.4	7.0	3.5	302.0
158	凹石	安山岩	G-19	-	-	13.4	10.3	4.5	750.0
159	凹石	安山岩	R-18	III	-	11.8	9.2	5.7	870.0
160	凹石	安山岩	S-19	IV	11	12.6	8.3	5.7	920.0
161	凹石	安山岩	T-19	-	-	11.7	9.5	4.0	542.0
162	凹石	安山岩	G	表採	-	11.1	8.7	3.5	550.0
163	凹石	安山岩	-	-	-	9.2	7.9	5.3	532.0
164	凹石	安山岩	SR-18	IV	-	11.5	10.6	4.8	846.0
165	凹石	安山岩	S	II	-	13.4	9.5	3.5	595.0
166	凹石	安山岩	T-19	-	-	10.1	9.0	6.8	824.0
167	凹石	安山岩	-	-	-	8.5	7.4	5.1	465.0
168	凹石	安山岩	溝9.C	III	2606	9.1	8.4	4.0	459.0
169	凹石	安山岩	S-4T	-	-	10.5	7.5	5.2	632.0
170	凹石	安山岩	G	表採	-	12.5	10.3	4.9	846.0
171	凹石	安山岩	S	-	-	8.8	8.8	5.4	631.0
172	凹石	安山岩	M	-	-	8.5	8.3	5.6	654.0
173	凹石	安山岩	R-18	III	-	10.1	8.5	3.9	528.0
174	凹石	安山岩	R-18	IV	-	8.4	8.0	5.0	417.0

P・R・S区の石器観察表4

擲載番号	器種	石材	出土区	層	取上番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
175	凹石	安山岩	R-20	III	-	-	-	8.2	7.8
176	凹石	安山岩	R-20	III	-	-	-	8.7	7.9
177	凹石	安山岩	R-20	III	-	-	-	11.7	10.4
178	凹石	安山岩	Q-18	III	-	-	-	9.4	8.3
179	凹石	安山岩	RS-20	-	-	-	-	9.4	7.9
180	凹石	安山岩	-	-	-	-	-	8.8	8.3
181	凹石	安山岩	-	-	-	-	-	9.3	7.8
182	凹石	安山岩	R-20	IV	-	-	-	8.0	8.1
183	凹石	安山岩	P-19	III	-	-	-	9.0	6.8
184	凹石	安山岩	S-19	IV	-	-	-	9.1	6.4
185	凹石	安山岩	T-25	II	10876	9.4	9.7	5.5	683.0
186	凹石	安山岩	Q-19	III	-	-	-	8.2	7.0
187	凹石	安山岩	S-16	I	-	-	-	8.8	8.0
188	凹石	安山岩	R-19	-	-	-	-	10.0	6.5
189	凹石	安山岩	Q-19	III	-	-	-	9.6	7.9
190	凹石	安山岩	P-19	III	-	-	-	8.3	7.9
191	凹石	安山岩	U-25	炉2	-	-	-	8.4	5.7
192	凹石	安山岩	S-15	I	-	-	-	7.9	6.2
193	凹石	安山岩	S	-	-	-	-	9.2	8.3
194	凹石	安山岩	M	-	-	-	-	16.0	9.2
195	凹石	安山岩	QR-20	III	-	-	-	10.9	11.0
196	凹石	安山岩	-	-	-	-	-	-	11.9
197	石錐	安山岩	R-24	II	4016	10.3	7.6	2.9	301.0
198	石錐	安山岩	S-21	III	5580	6.8	6.2	1.9	143.0
199	石錐	安山岩	R-22	III	20118	6.8	6.6	2.2	144.0
200	敲石	安山岩	S-22	II	4248	6.4	5.2	2.1	104.0
201	敲石	砂岩	P-22	II	248	9.0	2.7	2.8	89.0
202	磨石	砂岩	S-21	III	5109	11.1	9.2	4.2	574.0
203	磨石	安山岩	S-23	III	11673	7.4	6.0	3.5	199.0
204	磨石	安山岩	S-22	II	5506	6.5	5.5	3.1	162.0
205	磨石	石英脈岩	S-20	III	4952	7.2	7.2	5.1	348.0
206	磨石	安山岩	S-23	III	3062	5.5	4.8	2.6	99.7
207	磨石	安山岩	R-23	II	4981	8.8	7.3	2.8	248.0
208	磨石	安山岩	S-25	II	8417	6.3	5.6	3.3	164.0
209	磨石	安山岩	R-22	II	7653	6.0	5.2	3.9	152.0
210	磨石	安山岩	R	-	-	-	-	8.6	7.4
211	磨石	安山岩	S-19	IV	2735	9.0	7.5	5.7	530.0
212	磨石	砂岩	R-22	II	8970	4.8	4.5	2.9	84.3
213	磨石	砂岩	R-22	III	10375	4.9	3.5	2.6	64.8
214	敲石	安山岩	S-22	II	7655	20.8	7.2	5.2	962.0
215	磨石	砂岩	R-18	IV	-	-	-	10.9	5.6
216	磨石	安山岩	R-20	-	-	-	-	7.2	6.7
217	磨石	安山岩	-	-	-	-	-	11.8	10.2
218	磨石	安山岩	S-23	II	-	-	-	13.8	13.6
219	磨石	花崗岩	-	-	-	-	-	10.1	9.7
220	磨石	花崗岩	R	-	-	-	-	10.8	8.1
221	磨石	安山岩	U-22	II	21616	6.6	6.0	2.2	131.0
222	磨石	安山岩	R-23	III	21285	15.7	10.6	7.2	1800.0
223	磨石	安山岩	J-32	II	76	12.3	11.6	6.9	1400.0
224	磨石	花崗岩	-	-	-	-	-	8.7	4.8
225	磨石	花崗岩	R	-	-	-	-	11.5	9.0
226	磨石	安山岩	U-22	II	21616	15.7	10.6	7.2	1800.0
227	磨石	安山岩	21065	III	13.5	11.8	4.5	966.0	-
228	磨石	安山岩	228	III	-	-	-	-	8.0
229	磨石	安山岩	229	-	-	-	-	-	8.0
230	磨石	安山岩	230	-	-	-	-	-	8.0
231	砥石	安山岩	S	-	-	-	-	-	3.3
232	砥石	安山岩	-	-	-	-	-	-	3120
233	砥石	安山岩	-	-	-	-	-	-	-

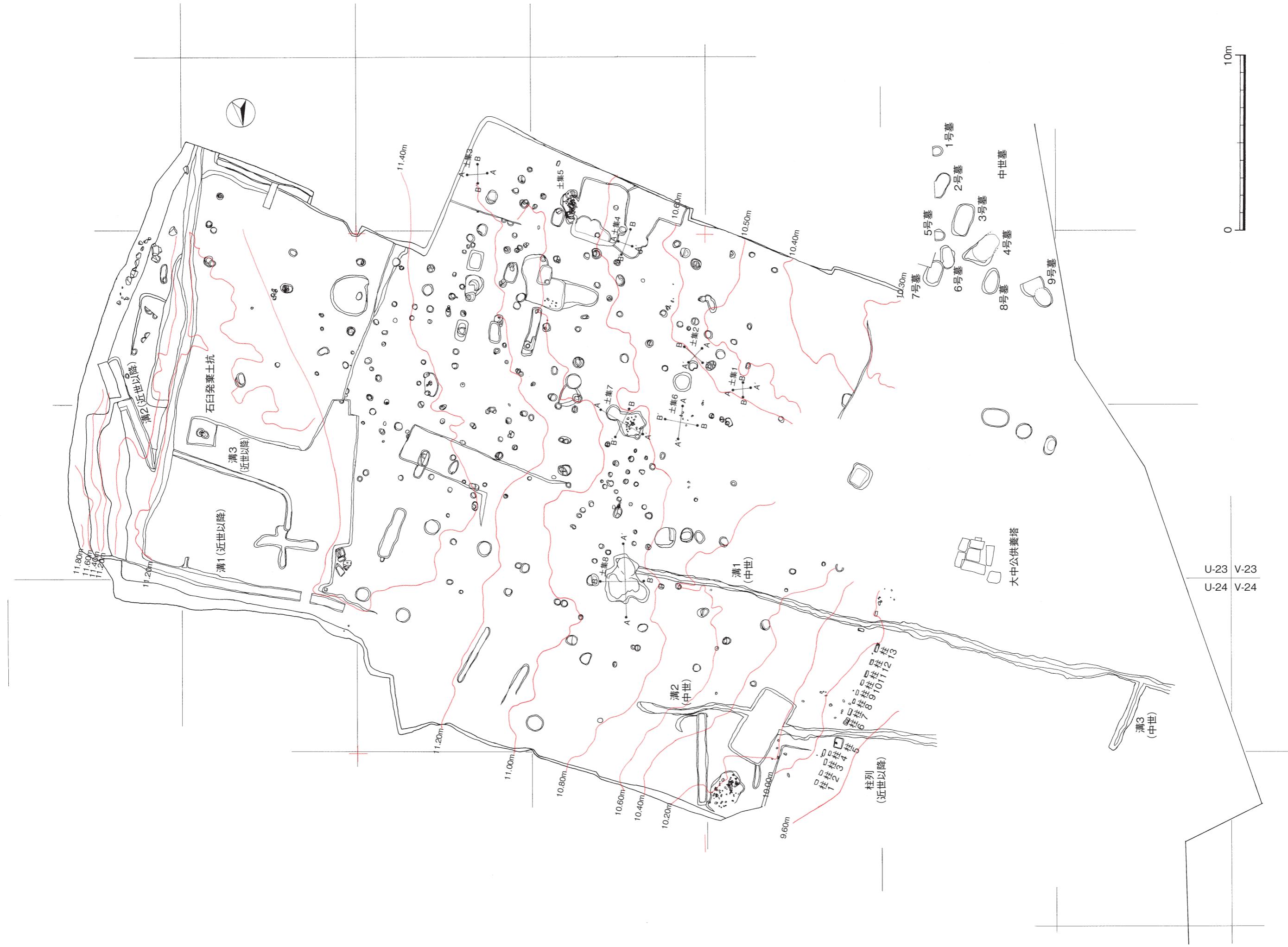
P・R・S区の石器観察表5

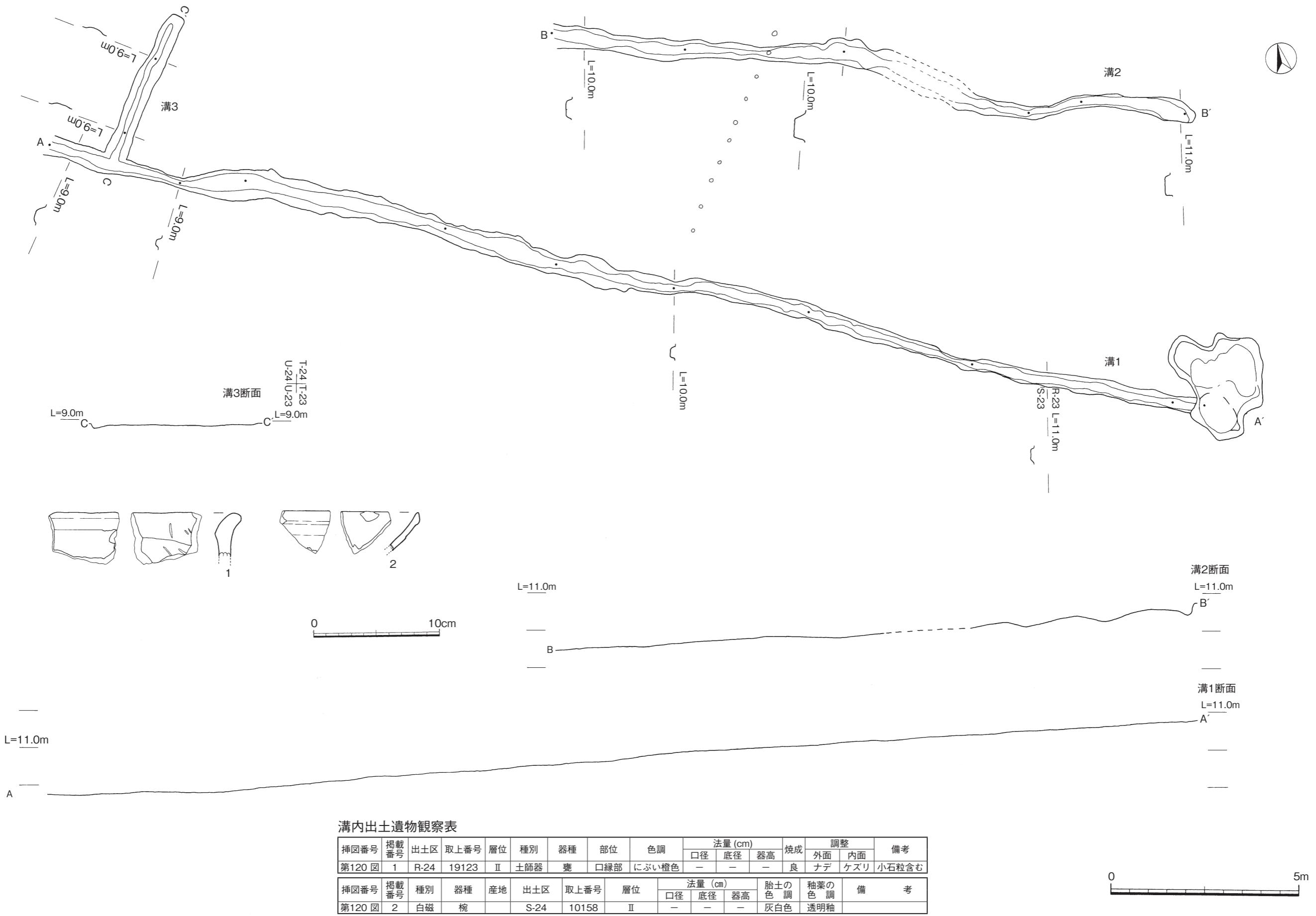
擲出番号	器種	石材	出土区	層	取上番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
234	砥石	安山岩	S-23	II	3112	23.7	6.7	5.2	1200.0
235	砥石	安山岩	S-23	II	3184	14.3	4.0	4.0	604.0
第165 図	砥石	片麻岩	R-20	-	-	15.1	4.4	2.1	239.0
236	砥石	砂岩	D-27	IIIb	296	6.2	3.0	1.4	32.6
237	砥石	砂岩	R-23	II	3773	8.4	3.4	1.6	66.2
238	砥石	砂岩	Q-22	II	7743	14.3	2.9	1.7	387.0
239	砥石	砂岩	P-22	-	-	13.9	9.3	5.1	932.0
第166 図	有溝砥石	安山岩	S-27	II	18051	19.7	12.7	4.8	1400.0
240	砥石	砂岩	S	-	-	9.4	9.6	1.9	345.0
241	砥石	安山岩	R	-	-	18.0	11.6	4.5	948.0
242	砥石	砂岩	S	-	-	13.2	7.3	5.3	646.0
243	砥石	砂岩	T-26	II	10740	6.0	6.7	1.6	59.4
244	砥石	砂岩	R-22	III	20596	5.7	3.0	1.8	24.2
245	砥石	砂岩	S-25	II	-	5.4	1.6	1.3	20.0
246	砥石	砂岩	S-25	II	1226[23]233	7.1	16.1	1.4	382.0
247	砥石	滑石	Q-19	II	-	4.9	7.8	1.4	78.2
248	石鍋	滑石	T-20	III	2018	4.5	9.7	2.0	159.0
249	石鍋	滑石	R-20	I	-	3.2	9.9	1.3	76.2
250	石鍋	滑石	S-16	I	-	3.3	7.3	1.3	62.2
251	石鍋	滑石	PQ-19	III	-	4.5	8.4	2.7	207.0
252	石鍋	滑石	S-25	II	12328	4.6	5.6	1.2	55.1
253	石鍋	滑石	-	-	-	3.2	5.3	1.6	27.6
254	石鍋	滑石	Q-19	-	-	4.0	8.1	1.5	77.0
255	石鍋	滑石	S-19	I	-	11.2	6.0	2.4	235.0
256	石鍋	滑石	S-27	III	19424	8.7	14.7	1.8	432.0
257	石鍋片再利用製品	滑石	T-25	II	13959	12.2	7.4	1.4	179.0
258	石鍋	滑石	S-27	III	446	6.5	3.8	1.2	37.6
259	石鍋片再利用製品	滑石	R-23	II	3477	13.6	5.5	2.4	182.6
260	石鍋片再利用製品	滑石	T-20	IV	1983	10.6	3.4	1.9	107.2
261	石鍋片再利用製品	滑石	Q-20	IV	-	10.7	3.3	1.5	96.4
262	石鍋片再利用製品	滑石	R-22	II	16932	7.9	5.0	1.9	93.4
263	石鍋片再利用製品	滑石	T-26	II	17650	4.4	5.4	2.7	108.1
264	石鍋片再利用製品	滑石	S-19	IV	-	7.7	4.6	1.5	81.1
265	石鍋片再利用製品	滑石	S-23	II	2136	5.1	3.5	1.1	43.3
266	石鍋片再利用製品	滑石	S-26	II	14552	10.3	8.0	1.9	165.0
267	石鍋片再利用製品	滑石	S-19	IV	-	12.0	4.0	2.1	127.4
268	石鍋片再利用製品	滑石	-	-	-	3.8	4.3	2.0	53.1
第169 図	石鍋片再利用製品	滑石	RS-19	III	-	3.0	2.2	1.5	13.0
270	石鍋片再利用製品	滑石	R-24	II	3422	2.1	2.0	1.3	19.6
271	石鍋片再利用製品	滑石	Q-20	III	-	3.2	1.4	1.4	9.6
272	石鍋片再利用製品	滑石	T-26	II	11234	2.4	2.2	0.9	6.7
273	石鍋片再利用製品	滑石	Q-19	-	-	7.2	6.6	6.7	420.0
274	石鍋片再利用製品	滑石	-	-	-	8.6	8.4	1.9	279.0
275	石鍋片再利用製品	滑石	Q-17	II	-	6.7	4.7	1.7	76.0
276	石鍋片再利用製品	滑石	-	-	-	4.0	1.9	1.9	13.5
277	石鍋片再利用製品	滑石	S-23	II	-	-	3.2	1.4	1.4
278	石鍋片再利用製品	滑石	Q-19	-	-	4.0	3.8	2.0	63.2
279	石核	鍛石英	-	-	-	7.2	6.6	6.7	420.0
280	石核	鍛石英	S-1T	III	1331	4.9	3.4	2.4	44.2
281	石核	鍛石英	S-23	II	5642	2.4	4.0	2.8	29.4
282	石核	黒曜石	S-24	II	4747	3.3	1.1	1.4	14.0
283	石核	黒曜石	U-25	II	13596	2.3	3.2	1.4	11.7
284	石核	黒曜石	S-22	III	20436	2.8	2.4	1.2	9.1
285	石核	黒曜石	T-25	II	13972	3.6	3.2	1.7	20.0
286	石核	鍛石英	S	-	-	7.1	8.4	6.5	515.0
287	石核	黒色安山岩	-	-	-	3.6	5.6	4.2	80.2
288	石核	黒曜石	U-25	III	19112	1.7	2.3	2.7	10.6
289	石核	鍛石英	S-22	II	7051	5.0	5.7	3.6	104.7
290	石核	黒曜石	R-22	III	20100	5.7	4.9	3.6	86.0
291	石核	鍛石英	S-27	III	18213	2.4	2.5	2.0	16.7
292	石核	黒曜石	-	-	-	2.5	2.5	1.4	9.0

P・R・S区の石器観察表6

擲出番号	器種	石材	出土区	層	取上番号	層	出土区	層	石材	器種	石材	出土区	層	取上番号	層	出土区	層	石材	器種
293	石核	黒色安山岩	-	-	-	-	R-24	II	3226	3.0	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-
294	石核	黒曜石	S-20	2T	313	10.6	11.5	3.9	313	10.6	11.5	3.9	714.0	-	-	-	-	-	-
295	石核	黒曜石	R-22	II	8580	3.2	2.7	1.4	8580	3.2	2.7	1.4	13.2	-	-	-	-	-	-
296	石核	鉄石英	Q-20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
297	石核	黒曜石	S-21	III	5583	3.4	3.6	3.2	5583	3.4	3.6	3.2	69.5	-	-	-	-	-	-
298	石核	黒曜石	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
299	石核	黒曜石	S-22	II	8531	2.0	3.8	2.2	8531	2.0	3.8	2.2	21.0	-	-	-	-	-	-
300	石核	黒曜石	T-20	II	8529	2.3	3.2	2.2	8529	2.3	3.2	2.2	17.9	-	-	-	-	-	-
301	石核	黒曜石	R-21	II	7694	1.6	3.1	1.6	7694	1.6	3.1	1.6	9.0	-	-	-	-	-	-
302	石核	黒曜石	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
303	石核	黒曜石	T-25	II	14180	2.4	3.2	2.6	14180	2.4	3.2	2.6	17.5	-	-	-	-	-	-
304	石核	鉄石英	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第171 図	石核	黒曜石	S-19	V	3955	3.1	3.9	1.7	3955	3.1	3.9	1.7	20.1	-	-	-	-	-	-
310	石核	黒曜石	U-25	II	11117	2.0	4.1	1.9	11117	2.0	4.1	1.9	17.6	-	-	-	-	-	-
311	石核	黒曜石	R-22	II	17425	2.0	3.3	2.8	17425	2.0	3.3	2.8	22.1	-	-	-	-	-	-
312	石核	黒曜石	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
313	石核	黒曜石	S-25	II	12407	1.9	2.2	1.4	12407	1.9	2.2	1.4	6.8	-	-	-	-	-	-
314	石核	黒曜石	Q-22	II	2503	2.3	2.5	2.4	2503	2.3	2.5	2.4	18.9	-	-	-	-	-	-
315	石核	黒曜石	チャート	IV	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
316	石核	黒曜石	R	II	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
317	石核	黒曜石	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
318	石核	黒曜石	S-19	II	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
319	石核	黒曜石	S-22	II	7094	3.9	4.1	3.9	7094	3.9	4.1	3.9	63.6	-	-	-	-	-	-
320	石核	鉄石英	R-3T	II	935	4.4	7.2	3.6	935	4.4	7.2	3.6	177.0	-	-	-	-	-	-
321	石核	鉄石英	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

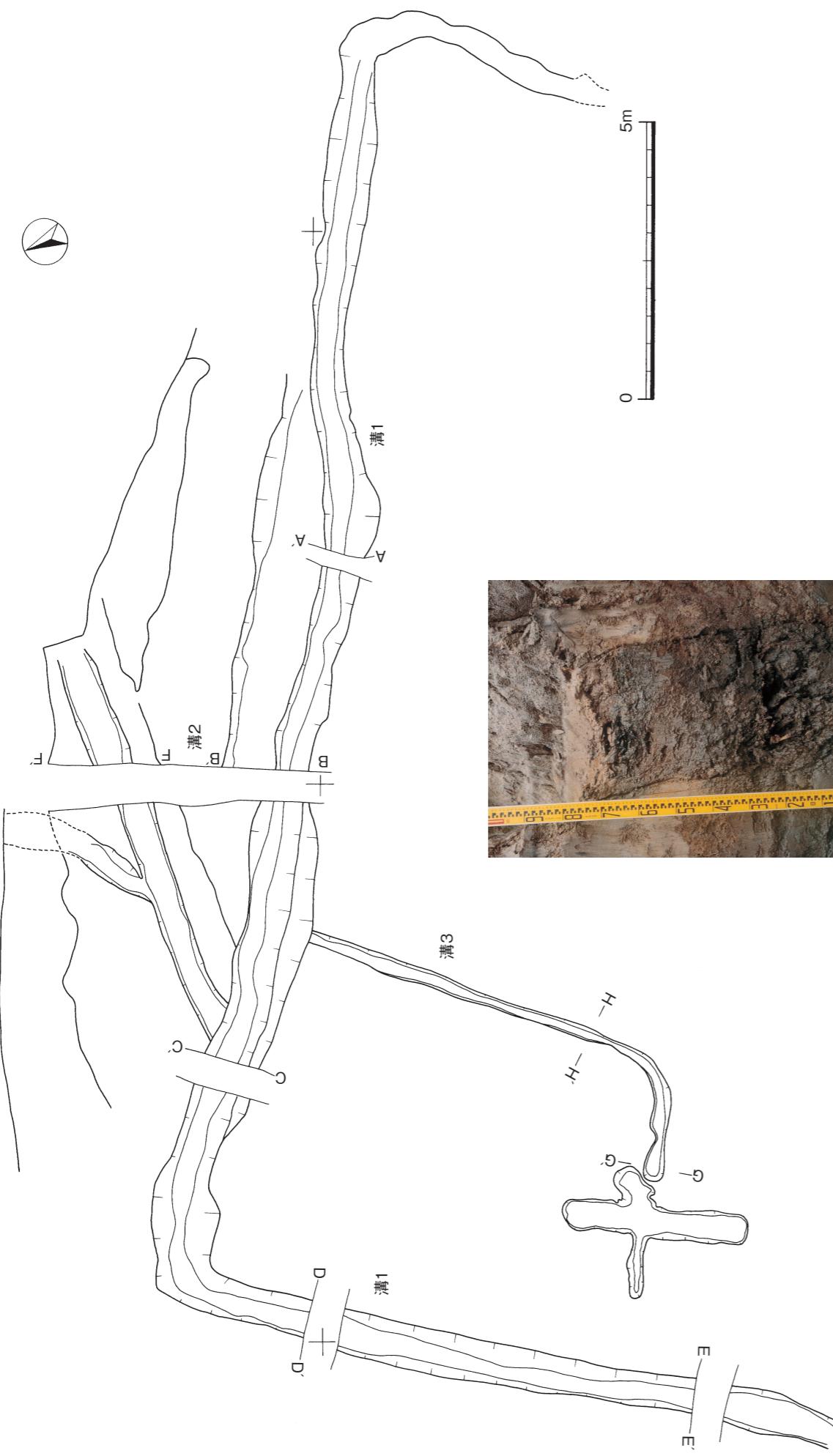
第23図 P・R・S調査区Ⅲ層上面コンタ図及び遺構配置図（古代～近世以降）



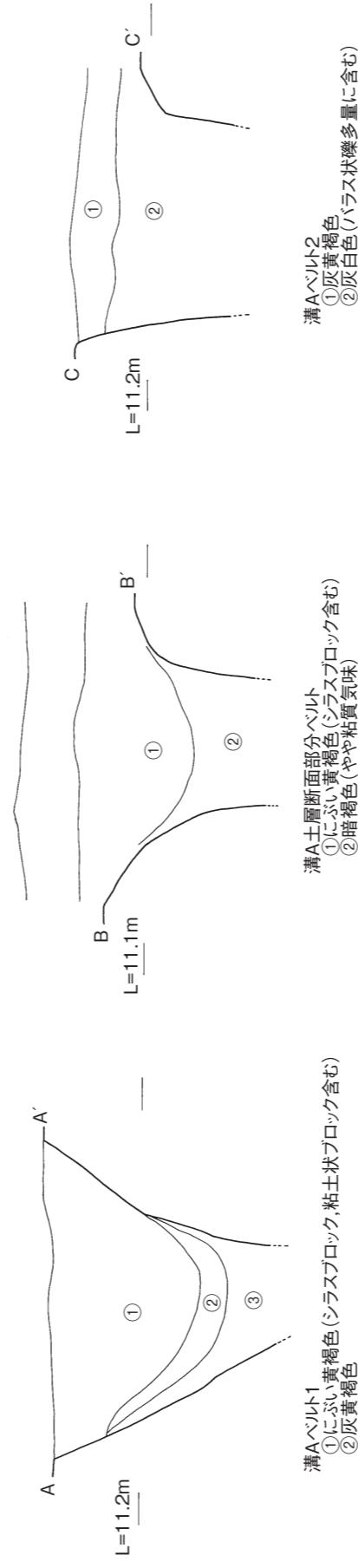


第120図 溝1～3及び出土遺物

第141図 溝1～3

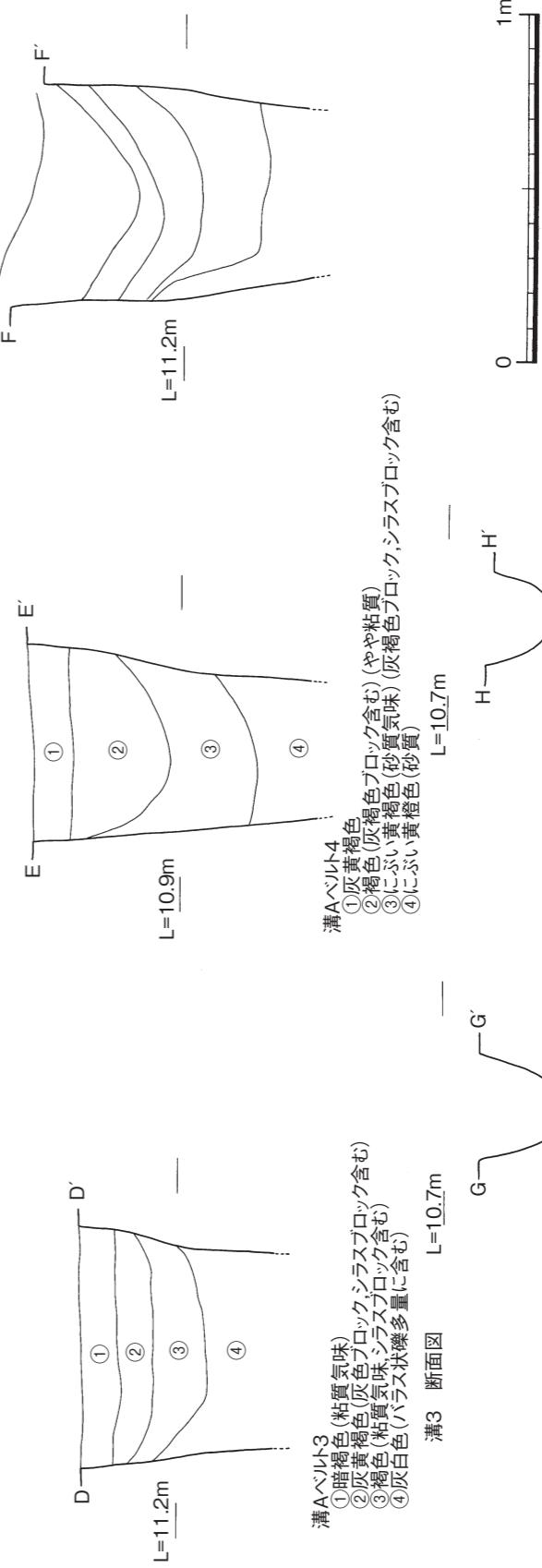


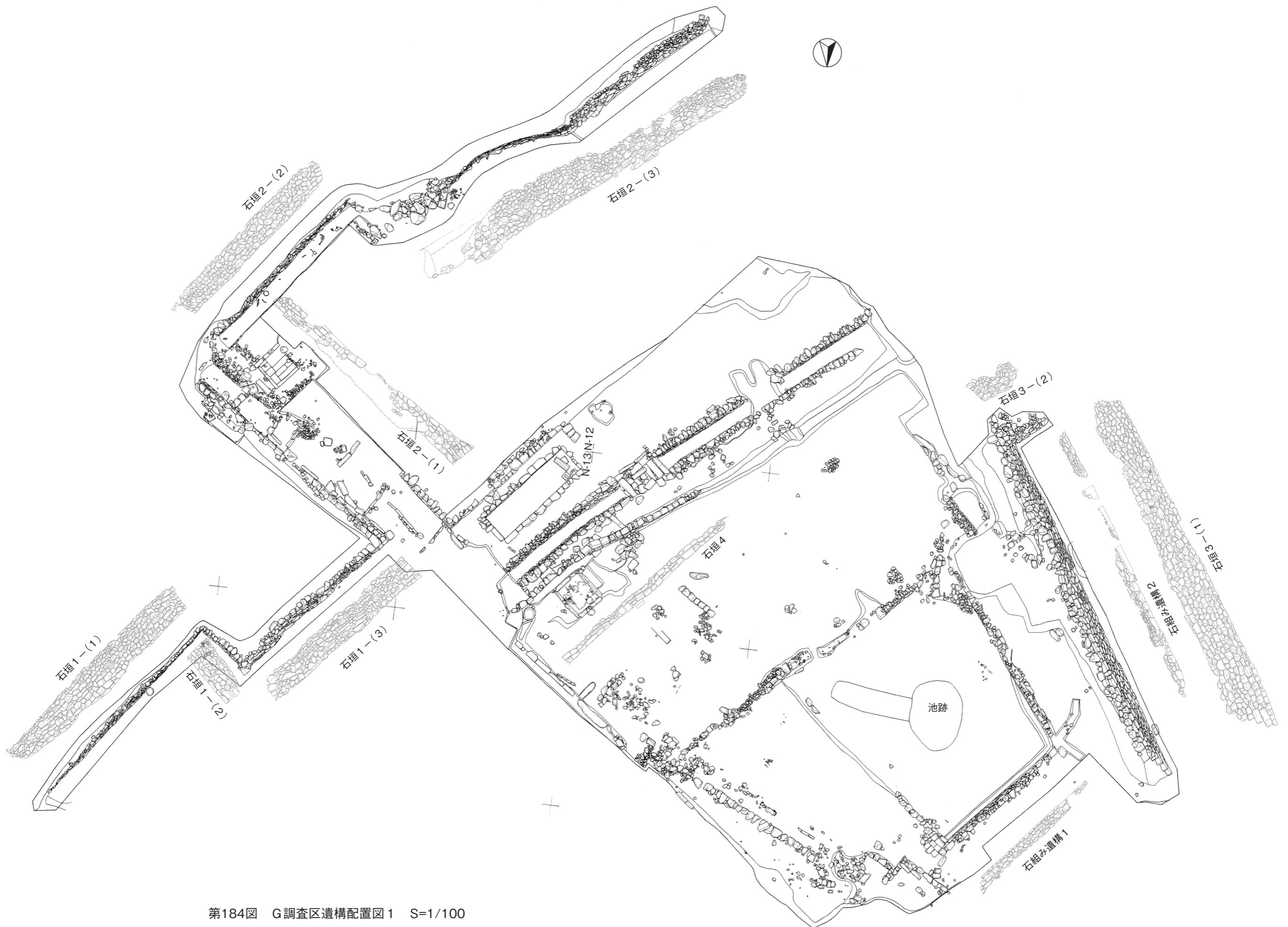
溝1・2 断面図



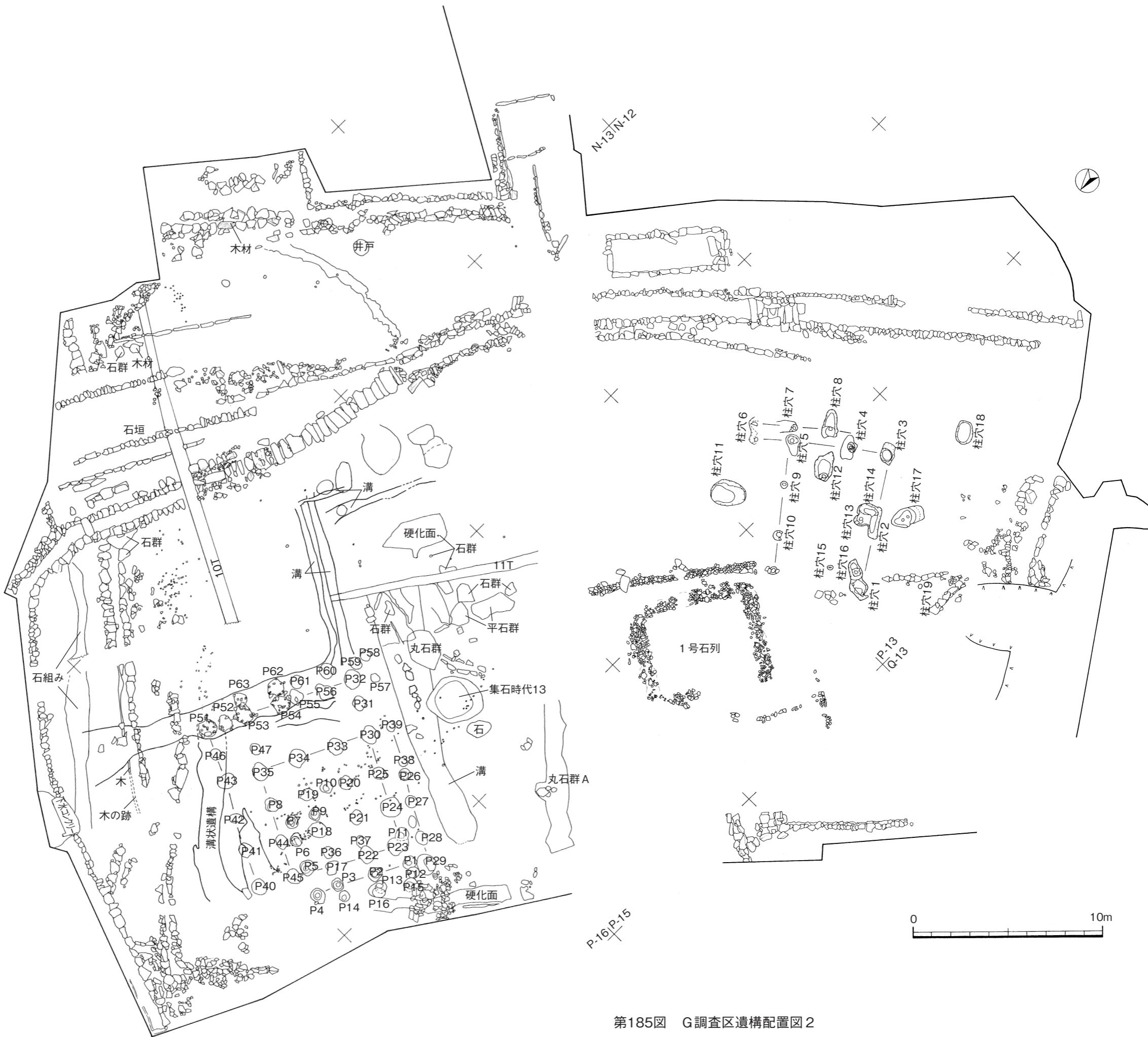
溝Aベルト3 (粘質氣味)
①暗褐色(灰色)
②灰黃褐色(灰色)
③褐色(粘質氣味、シラスロック含む)
④灰白色(バラス状礫多量に含む)

溝Aベルト4
①灰黃褐色
②褐色(灰色)
③にぶい黄褐色(砂質)
④にぶい黄橙色(砂質)

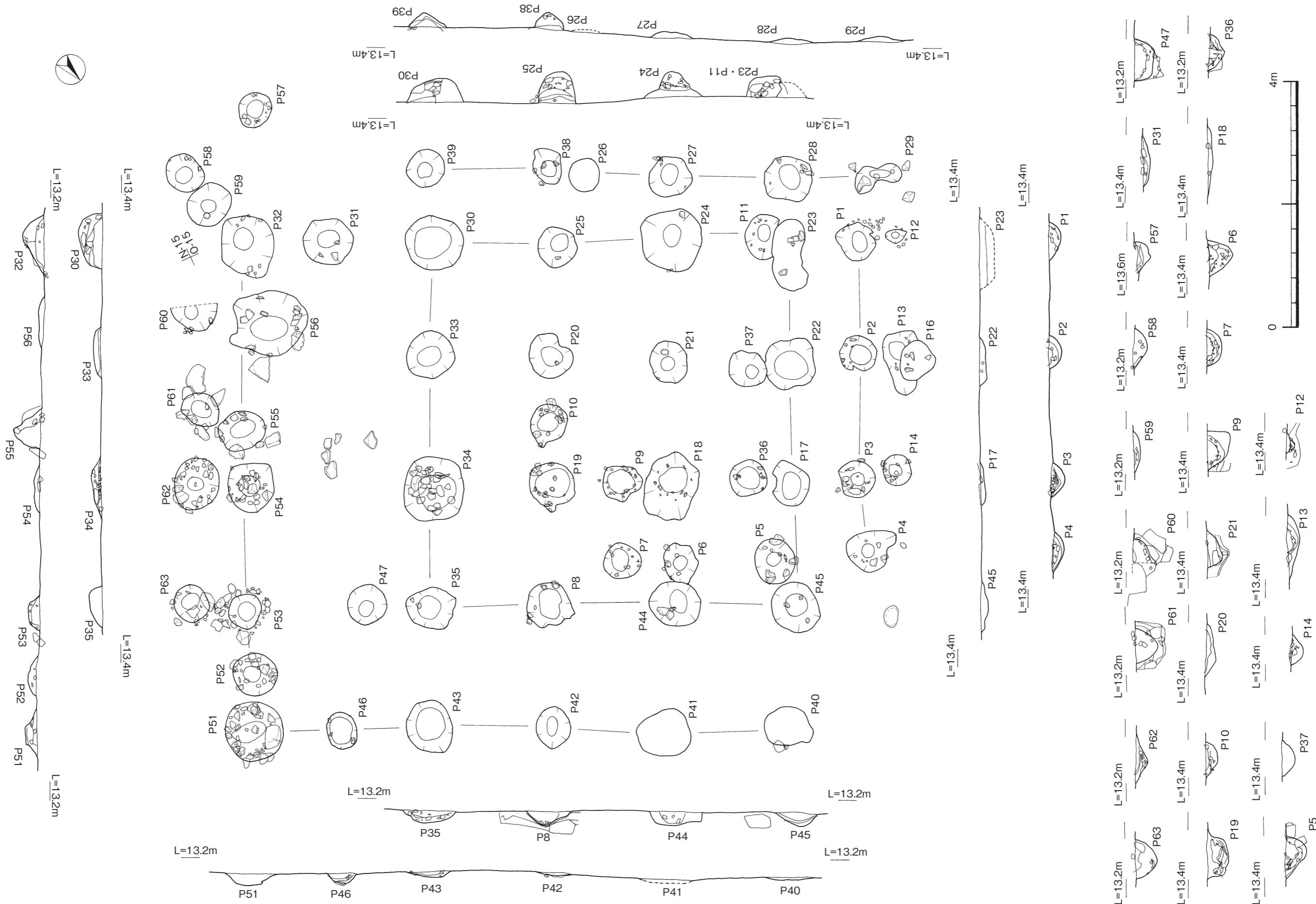




第184図 G調査区遺構配置図1 S=1/100



第185図 G調査区遺構配置図2



建物跡 1
第189図